

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第109集

一本柳遺跡群

西一本柳遺跡Ⅷ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡Ⅷ発掘調査報告書
(弥生時代中期～中世集落址、他)

2003.3

佐 久 市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第109集

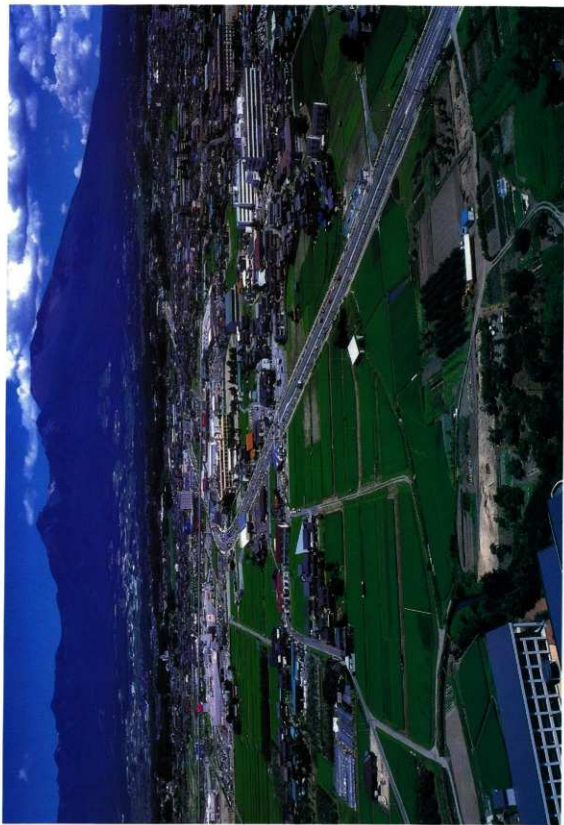
一本柳遺跡群

西一本柳遺跡Ⅷ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡Ⅷ発掘調査報告書
(弥生時代中期～中世集落址、他)

2003.3

佐 久 市
佐久市教育委員会



一本街道街景西一本町風景 (北、浅間七郎心)



西一本柳道跡環道景（北より）



西一本柳道跡環道景（西より）



西一本梯道跡夜全景（H12・H13年度合成写真・上が西）



西一本柳遺跡調査区東側合成写真



西一本柳遺跡調査区中央合成写真



西一本柳遺跡西側全景



H12年度西一本柳遺跡調査区東側全景（西より）



H13年度調査区東側全景（西より）



H13年度調査区F・Gグリッド地点(東より)



F12号掘立柱建物址・H52号住居址(北より)



H54・H74・H87号住居址(北より)



H12年度調査区



H14年度調査区（東より）



H14年度調査区（北東より）



H14年度調査区（西より）



H90号住居址全景（西より）



H90号住居址出土土器群



H67号住居址 (南より)



H67号住居址 (東より)



H17号住居址カマド (南より)



剣形模造品



例 言

1. 本報告書は、佐久市岩村田字下樋田地籍において平成12年度から平成14年度にかけて行われた市道11-1号線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は佐久市土木課の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が担当した。
3. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の地形図（1:25,000）、佐久市発行の基本図（1:2,500）を使用した。
4. 発掘調査は森泉かよ子が担当し、本書の編集・執筆は森泉が行った。
5. 航空写真・全体測量図は株式会社UR測量設計に委託し、を使用している。
6. 自然科学分析・鑑定は株式会社古環境研究所、株式会社パレオ・ラボに依頼した。
7. 本道跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に置かれている。

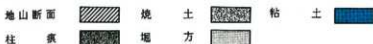
凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。

H—堅穴住居址 F—掘立柱建物址 D—土坑 P—単独ピット M—溝址

2. 挿入中の遺構の縮尺は原則として1/80、1/40である。異なる場合は明記してある。
3. 挿入中の遺物の縮尺は1/4である。異なる場合は箇中に明記してある。
4. 挿入中のスクリーン・トーンは以下のことを示す。

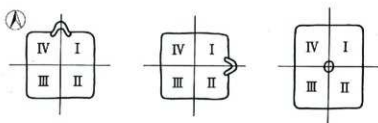
遺構



遺物



5. 遺物の出土地点は下図の遺構分割によるものである。



6. 表内の（ ）は推定、〈 〉は残を表わしている。出土遺物一覧表の法量は上から口径、底径、高さを測っている。蓋は口径、つまみ径、高さを測っている。

目 次

巻頭図版

例 言

凡 例

目 次

第 I 章 発掘調査の概要	1
第 1 節 調査の概要	1
第 2 節 調査体制	2
第 3 節 調査日誌	3
第 4 節 調査結果の概要	6
第 II 章 遺跡の環境	8
第 III 章 基本層序	11
第 IV 章 遺構と遺物	15
第 1 節 堅穴住居址	15
第 2 節 樹立柱建物址	203
第 3 節 単独ピット	219
第 4 節 土坑	225
第 5 節 溝址	236
第 6 節 グリット・表採遺物	247
第 V 章 総 括	251
第 1 節 弥生時代	251
第 2 節 古墳時代	256
第 3 節 奈良・平安時代	265
第 4 節 中世	268
第 5 節 種子遺物について	268

引用参考文献

付表 遺構一覧表

付編

西・本柳遺跡Ⅱにおける自然科学分析 株式会社古環境研究所

長野県佐久市・本柳遺跡群西一本柳Ⅱから出土した動物遺体同定 株式会社パレオ・ラボ

写真図版

插图目录

第1图	西-本柳道跡埋位置図	1	第46图	H25号住居址	72
第2图	西-本柳道跡埋遺構配置図(1:1,000)	7	第47图	H26号住居址(1)	73
第3图	西-本柳道跡埋発掘区設定図(1:5,000)	8	第48图	H26号住居址(2)	74
第4图	西-本柳道跡埋周辺遺跡分布図(1:10,000)	10	第49图	H27号住居址(1)	76
第5图	基本層序模式図	11	第50图	H27号住居址(2)	77
第6图	西-本柳道跡埋全体図(1:400)	13	第51图	H28号住居址	79
第7图	H1号住居址	15	第52图	H29号住居址	81
第8图	H2号住居址	16	第53图	H30号住居址(1)	82
第9图	H3号住居址(1)	17	第54图	H30号住居址(2)	83
第10图	H3号住居址(2)	18	第55图	H31号住居址(1)	85
第11图	H4号住居址	20	第56图	H31号住居址(2)	86
第12图	H5号住居址(1)	21	第57图	H32号住居址(1)	88
第13图	H5号住居址(2)	22	第58图	H32号住居址(2)	89
第14图	H5号住居址(3)	24	第59图	H33号住居址	90
第15图	H7号住居址	25	第60图	H34号住居址(1)	92
第16图	H8号住居址(1)	26	第61图	H34号住居址(2)	93
第17图	H8号住居址(2)	27	第62图	H35号住居址(1)	95
第18图	H8号住居址(3)	28	第63图	H35号住居址(2)	96
第19图	H8号住居址(4)	29	第64图	H36号住居址(1)	98
第20图	H9号住居址(1)	32	第65图	H36号住居址(2)	99
第21图	H9号住居址(2)	33	第66图	H37号住居址	100
第22图	H9号住居址(3)	34	第67图	H38号住居址	100
第23图	H10号住居址(1)	37	第68图	H39号住居址(1)	102
第24图	H10号住居址(2)	38	第69图	H39号住居址(2)	103
第25图	H11号住居址	40	第70图	H40号住居址	104
第26图	H12号住居址	42	第71图	H41号住居址	105-106
第27图	H13号住居址	43	第72图	H42·57·58号住居址(1)	107
第28图	H14号住居址(1)	45	第73图	H42·57·58号住居址(2)	108
第29图	H14号住居址(2)	46	第74图	H42·57·58号住居址(3)	110
第30图	H15号住居址(1)	48	第75图	H43号住居址	112
第31图	H15号住居址(2)	49	第76图	H44号住居址(1)	113
第32图	H16号住居址(1)	50	第77图	H44号住居址(2)	114
第33图	H16号住居址(2)	51	第78图	H44号住居址(3)	115
第34图	H17号住居址(1)	53	第79图	H45号住居址	117
第35图	H17号住居址(2)	54	第80图	H46号住居址(1)	119
第36图	H17号住居址(3)	55	第81图	H46号住居址(2)	120
第37图	H18号住居址	57	第82图	H47号住居址	121
第38图	H19号住居址(1)	58	第83图	H48号住居址	122
第39图	H19号住居址(2)	59	第84图	H49号住居址	124
第40图	H20号住居址	61	第85图	H50号住居址	125
第41图	H21号住居址	63	第86图	H51号住居址(1)	127
第42图	H22号住居址	65	第87图	H51号住居址(2)	128
第43图	H23号住居址	66	第88图	H52号住居址(1)	130
第44图	H24号住居址(1)	68	第89图	H52号住居址(2)	131
第45图	H24号住居址(2)	69	第90图	H52号住居址(3)	132

第91図	H53号住居址	132	第139図	H90号住居址(2)	194
第92図	H54号住居址(1)	134	第140図	H91号住居址(1)	196
第93図	H54号住居址(2)	135	第141図	H91号住居址(2)	197
第94図	H54号住居址(3)	136	第142図	H92号住居址	198
第95図	H55号住居址(1)	137	第143図	H93号住居址(1)	200
第96図	H55号住居址(2)	138	第144図	H93号住居址(2)	201
第97図	H56号住居址	140	第145図	H94号住居址	202
第98図	H59号住居址	142	第146図	F1号掘立柱建物址	203
第99図	H60号住居址	143	第147図	F1～F5号掘立柱建物址	205
第100図	H61号住居址	145	第148図	F6～F8号掘立柱建物址	206
第101図	H62号住居址	146	第149図	F9～F11号掘立柱建物址	208
第102図	H63号住居址	147	第150図	F12号掘立柱建物址	209
第103図	H64号住居址	148	第151図	F13・F15～F17号掘立柱建物址	210
第104図	H65号住居址	149	第152図	F18～F21号掘立柱建物址	212
第105図	H66号住居址	150	第153図	F22・F23号掘立柱建物址	213
第106図	H67号住居址(1)	152	第154図	F24・F25・F27号掘立柱建物址	215
第107図	H67号住居址(2)	153	第155図	F28～F30・F32号掘立柱建物址	216
第108図	H67号住居址(3)	154	第156図	F31号掘立柱建物址	217
第109図	H68号住居址	156	第157図	単独ピット(1)	219
第110図	H69号住居址(1)	158	第158図	単独ピット(2)	220
第111図	H69号住居址(2)	159	第159図	単独ピット(3)	221
第112図	H69号住居址(3)	160	第160図	単独ピット(4)	222
第113図	H70号住居址	163	第161図	単独ピット(5)	223
第114図	H71号住居址	164	第162図	単独ピット(6)	224
第115図	H72号住居址	165	第163図	D1・D3～D8・D10～D12号土坑	226
第116図	H73号住居址(1)	167	第164図	D13～D23号土坑	227
第117図	H73号住居址(2)	168	第165図	D24～D27・D29～D34号土坑	228
第118図	H74号住居址	169	第166図	D35～D48号土坑	229
第119図	H75号住居址	171	第167図	D49～D52号土坑	230
第120図	H76号住居址	172	第168図	D51号土坑	231
第121図	H78号住居址	173	第169図	D2号土坑	232
第122図	H79号住居址	175	第170図	D9号土坑	233
第123図	H80号住居址(1)	176	第171図	M1号溝址(1)	237
第124図	H80号住居址(2)	177	第172図	M1号溝址(2)	238
第125図	H81号住居址	177	第173図	M2～M4・M7～M9号溝址	240
第126図	H82号住居址	179	第174図	M11～13号溝址	242
第127図	H83号住居址	180	第175図	M6号溝址(1)	244
第128図	H84号住居址	180	第176図	M6号溝址(2)	245
第129図	H85号住居址	181	第177図	M6号溝址(3)	247
第130図	H86号住居址(1)	183	第178図	グリット・表採出土遺物(1)	248
第131図	H86号住居址(2)	184	第179図	グリット・表採出土遺物(2)	249
第132図	H87号住居址(1)	185	第180図	弥生中期新相の溝と堅穴住居址	253
第133図	H87号住居址(2)	186	第181図	弥生時代の土器編年図	255
第134図	H88号住居址(1)	188	第182図	古墳中期土器編年図	257
第135図	H88号住居址(2)	189	第183図	古墳後期土器編年図(1)	260
第136図	H89号住居址(1)	190	第184図	古墳後期土器編年図(2)	261
第137図	H89号住居址(2)	191	第185図	古墳後期土器編年図(3)	262
第138図	H90号住居址(1)	193	第186図	古墳後期土器編年図(4)	263

図版目次

巻頭図版1 一本柳遺跡群西一本柳遺跡遺景

巻頭図版2 西一本柳遺跡遺景

巻頭図版3 西一本柳遺跡遺景

巻頭図版4 西一本柳遺跡調査区合成写真

巻頭図版5 西一本柳遺跡遺景

巻頭図版6 西一本柳遺跡遺景平成12・13年度各地点調査区全景

巻頭図版7 西一本柳遺跡遺景平成14年度調査区全景

巻頭図版8 H90号住居址と土器群

巻頭図版9 H17・H67号住居址・埴形模造品

巻頭図版10 西一本柳遺跡遺出土磨製石鏃・玉類、石製模造品、青磁

図版1 H1・H2号住居址

図版2 H3号住居址

図版3 H4・H5号住居址

図版4 H5・7号住居址

図版5 H8号住居址

図版6 H9号住居址

図版7 H10号住居址

図版8 H11・H12号住居址

図版9 H13・H14号住居址

図版10 H14・H15号住居址

図版11 H15・H16号住居址

図版12 H16・H17号住居址

図版13 H17号住居址

図版14 H18・H20号住居址

図版15 H19号住居址

図版16 H21・H22号住居址

図版17 H23・H24号住居址

図版18 H24号住居址

図版19 H25・H26号住居址

図版20 H26・H27号住居址

図版21 H27・H28号住居址

図版22 H29・H30号住居址

図版23 H30・31号住居址

図版24 H32・H33号住居址

図版25 H34号住居址

図版26 H35号住居址

図版27 H36号住居址

図版28 H37・38・39号住居址

図版29 H39・40号住居址

図版30 H40・41号住居址

図版31 H42・H43・H45号住居址

図版32 H44号住居址

図版33 H46・47号住居址

図版34 H48・H49号住居址

図版35 H50・H51号住居址

図版36 H52号住居址

図版37 H52・54号住居址

図版38 H54号住居址

図版39 H55号住居址

図版40 H42・H57・H58・H59号住居址

図版41 H60・H61号住居址

図版42 H62・H63・H64号住居址

図版43 H64・H65・H66・H67号住居址

図版44 H47号住居址

図版45 H48・H49号住居址

図版46 H69号住居址

図版47 H70・H71号住居址

図版48 H72・H73号住居址

図版49 H73・H75・H76号住居址

図版50 H74・H78号住居址

図版51 H78・H79号住居址

図版52 H80・H81・H83号住居址

図版53 H82号住居址

図版54 H84・H85・H86号住居址

図版55 H87号住居址

図版56 H88・H89号住居址

図版57 H90号住居址

図版58 H90・H91号住居址

図版59 H91・H92・H93号住居址

図版60 H94号住居址

図版61 F1～F11号掘立柱建物址

図版62 F12～F18号掘立柱建物址

図版63 F19～F29号掘立柱建物址

図版64 F31・F32号掘立柱建物址・D1～D10号土坑

図版65 D11～D17号土坑

図版66 D18～D25号土坑

図版67 D26～D34号土坑
図版68 D35～D43号土坑
図版69 D44～D52号土坑
図版70 D2号土坑
図版71 D9号土坑・M1・M2号溝址
図版72 M3～M10号溝址
図版73 M11～13・M6号溝址
図版74 H1・H3号住居址出土遺物
図版75 H4・H5号住居址出土遺物
図版76 H5・H7・H8号住居址出土遺物
図版77 H8号住居址出土遺物
図版78 H8・H9号住居址出土遺物
図版79 H9号住居址出土遺物
図版80 H10号住居址出土遺物
図版81 H11・H12・H13号住居址出土遺物
図版82 H14・H15号住居址出土遺物
図版83 H16・H17号住居址出土遺物
図版84 H17・H18・H19号住居址出土遺物
図版85 H20・H21・H22号住居址出土遺物
図版86 H23・H24号住居址出土遺物
図版87 H25・H26号住居址出土遺物
図版88 H27・H28号住居址出土遺物
図版89 H29・H30・H31号住居址出土遺物
図版90 H31・H32・H33号住居址出土遺物
図版91 H34・H35号住居址出土遺物
図版92 H36・H39・H40号住居址出土遺物
図版93 H37・H38・H42号住居址出土遺物
図版94 H44号住居址出土遺物
図版95 H43・H45・H46・H47号住居址出土遺物
図版96 H48・H49・H50号住居址出土遺物
図版97 H51・H52号住居址出土遺物
図版98 H52・H54号住居址出土遺物
図版99 H54・H55・H57号住居址出土遺物
図版100 H59～H64号住居址出土遺物
図版101 H67号住居址出土遺物
図版102 H66・H68・H69号住居址出土遺物
図版103 H69号住居址出土遺物
図版104 H71・H73号住居址出土遺物
図版105 H70・H72・H74～H76号住居址出土遺物
図版106 H78～H80・H83～H85号住居址出土遺物
図版107 H82・H86号住居址出土遺物
図版108 H87号住居址出土遺物
図版109 H88～H90号住居址出土遺物
図版110 H90号住居址出土遺物
図版111 H91・H93号住居址出土遺物
図版112 H92・H93号住居址・掘立柱建物址・単独ピット出土遺物
図版113 土坑出土遺物

図版114 土坑出土遺物
図版115 土坑・溝址出土遺物
図版116 溝址出土遺物
図版117 溝址出土遺物
図版118 クリット・表採出土遺物・磁器
図版119 鉄製品
図版120 石鎌類
図版121 石鎌類他
図版122 玉類
図版123 玉類・ミガキ石・紡錘車

第Ⅰ章 発掘調査の概要

第1節 調査の経緯

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地帯に所在し、東西方向に流れる湯川右岸の台地上にある。岩村田市街地の南西1km、標高690mを測り、浅間第1軽石流が地盤をなし田切り地形が発達している地点である。一本柳遺跡群は台地上を東西の帯状に展開し、中央から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央部北部を北一本柳遺跡と呼称している。本遺跡群内では昭和43年には東一本柳遺跡が、また昭和46年度には金銅製馬具の飾り金具などを出土した東一本柳古墳が発掘されるなど多くの調査がなされ貴重な資料を得ている。国道141号線の開通により、西一本柳遺跡を南北に貫いて調査がなされ、平成4年の公共下水道事業に伴う西一本柳遺跡Ⅱ、また平成7・8年度の国道141号線の工事に伴う西一本柳遺跡Ⅲ～Ⅴが調査され、密集した古代集落が検出されている。弥生時代中期から中世に至るまで遺跡と人々の痕跡が残されている佐久市内でも有数の遺跡の一つである。

今回、佐久市土木課により市道11-1号線緊急地方道路整備事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされる事となり、佐久市土木課より委託を受け佐久市文化財課が発掘調査を実施することとなった。

遺 跡 名	一本柳遺跡群西一本柳 (にしっぱんやなぎ) 遺跡Ⅴ (略号INPⅤ)
所 在 地	佐久市大字岩村田字下樋田1773-1 他
調 査 委 託 者	佐久市土木課
開 発 事 業	市道11-1号線緊急地方道路整備事業
発掘調査期間	平成12年5月28日～9月24日 平成13年6月4日～9月15日 平成14年7月26日～8月23日、10月9日～10月29日
整理調査期間	平成12年9月26日～平成15年3月26日
調 査 面 積	3,306.6㎡



第1図 西一本柳遺跡Ⅴ位置図

第2節 調査体制

調査受託者

教育長 依田 英夫（平成12・13年度4～6月） 高柳 勉（平成13年度7月～）

事務局

教育次長 小林 宏三（平成12・13年度4・5月） 黒沢 俊彦（平成13年5月～平成14年3月）

文化財課長 草岡 秀行（平成12・13年度） 島崎 節夫（平成14年度）

文化財係長 萩原 一男（平成11・12・13年度4・5月） 森角 吉晴（平成13年度5月～平成14年3月）

文化財係 林 幸彦 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也 富沢 一明 上原 学

山本 秀典 山澤 力

調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査副主任 塚 益子

調査担当者 森泉かよ子

調査員（現場）

浅沼ノブエ 小田川 栄 柏木 貞夫 柏木 三郎 柏木 義雄 木内 節夫 菊池 喜重

菊池 康一 神津ツネヨ 小金澤たけみ 小林百合子 小林まさ子 小山 功 佐藤 愛子

佐藤 剛 篠崎 清一 田中 章雄 中島フクジ 中島 里佳 中條 悦子 花里四之助

花里三佐子 林 美智子 細堂ミスズ 細谷 秀子 水間 雅義 柳澤千賀子 山浦 豊子

（整理作業分組）

図面修正 細谷 秀子

土器実測 塚 益子（H12・13年度分） 高見沢綾 田中ひさ子 森角雅子 柳澤孝子（H14年度調査分）

土器トレース 塚 益子 小林よしみ

拓 本 佐藤愛子

石器類実測・トレース 中條悦子 柳澤千賀子

遺構図・石器トレース 林美智子

土器検合・石甕復元 小田川 栄 小金澤たけみ 小林百合子 小林まさ子 小山 功

佐藤 愛子 中島フクジ 花里四之助 花里三佐子 水間 雅義

山浦 豊子

遺構・遺物の撮影 森泉かよ子

表作製作業 秋山 勝哉 白田 真杉



H14年度 現場



整理作業棟の前で

第3節 調査日誌

平成12年度 (1999)

5. 28・29

排土捨て場の整地及び廃棄物除去のため湯川橋下に重機とダンプを入れ、排土置き場の整備をする。

5. 30

本日より西一本御遺跡に重機が入り、調査区の桑の木・草の除去を行い、大型車の進入路など整備する。西側より、耕作土の除去を開始する。

6. 1

調査員が加わり検出作業を行い発掘作業を開始。西側は塚原泥流の岩の露出があり、強粘土質であるため、検出・掘り下げが大変であった。

8. 1

西側の調査が終了し、ラジコンヘリにより1回目の空測を行う。

8. 4～8

少年考古学教室。本遺跡にて発掘調査と平行して開催。

8. 5

休日を利用して、佐久考古学会の現地講座を当遺跡で開催。

9. 25

調査区の平域、平成12年度分の道路北側の発掘調査を終了。地山が砂質土の堆積であるため、床面を除去すると蟻地獄のように崩壊する砂に仮まされた。また、遺構の重複が激しく遺構の新旧の確認が困難な上に、幅の狭い調査のために、遺構の形が把握しにくいものであった。

9. 26

ラジコンヘリにより、2回目の空測を行う。

10. 28・29

危険箇所への埋め戻し、道路の安全の確保



'00年7月 調査区西側全景



'00年6月 D2(井戸址)掘り下げ中、花里さんいつもありがとう。



'00年8月 少年考古学教室 課長挨拶



'00年8月 少年考古学教室 教室風景

ため重機とダンプ入れる。

11. 28～12. 25

室内にて土器洗い・注記作業を行う。

平成13年度 (2000)

6. 4～7

現場調査のため、重機・ダンプを入れる。
南側の現道が13年度の調査区であるため、
去年の排土を昨年の調査区に搬入し、北側に迂回路を作る。



'00年8月 佐久考古学会現地学習会行われる

6. 8～11

今年度調査区の表土剥ぎに入る。

6. 11

本日より調査員現場に入り、現場の作業再開。検出作業。昨年度調査区と接続部に埋もれた土の除去等が大変である。



晋丈を越す草の日影を求めて休憩

7. 30・31

今年度1回目の空測を行う。

8. 3～7

信州短大に通じる南北道路を調査するため迂回路を設け、現道の耕作土を除去。

8. 21

大型台風11号により、現場の作業はなし。崩壊部に土嚢を積み、大量の雨が降り、泥水が流れ込む



'00年9月 調査風景

8. 31

今年度の発掘調査が本日でほぼ終了。機材の撤収。

9. 5

空測用に現場の清掃作業をする。

9. 6

2回目の空測を行う。

9. 14・15

道路下で調査できなかったH54号住のカマドの発掘調査を行う



'01年6月 M9撮影用に清掃作業

9. 26～3. 29

本日より室内にて道物の洗浄、図面修正、

写真整理などの作業に入る。

平成14年度 (2001)

5. 27

整理作業継続。

7. 26

本調査区に隣接して、開発事業が計画され、INPIXとして発掘調査が行われる。本道跡も隣接地の未調査部分が残っていたため発掘調査を行う。例年暑いのが今年はまだ特に厳しい暑さであった。

8. 23

現場での作業終了。

9. 26

室内にて整理作業再開。

10. 9

H11号線の東調査区の発掘調査開始。141号線西側の砂の崩壊からは逃れ、P1浅間火山灰で、地山の崩れる心配はなかったが、おびただしい出水に、排水しながらの調査であった。H93号住は常に他であった。

10. 29

浅間山には初冠雪がみられ、昨日は平年より3°ほど気温低い。本日に一部残しては現場における作業を終了する。

11. 12

室内にて整理作業再開。H14年度の土器洗浄、注記、接合、石膏復元、土器実測とあわただしい作業であった。平成12・13年度とあわせて再行するため、編集作業を行った。

H15. 3. 26

報告書刊行。



'01年7月 調査風景



'02年10月 H88調査風景



'02年10月 H93調査風景 常時排水しても水溜りのまま



'02年11月 調査風景

第4節 調査結果の概要

検出遺構

竪穴住居址 92棟

弥生時代中期	9棟
弥生時代後期	7棟
古墳時代中期	6棟
古墳時代後期	42棟
奈良時代	16棟
平安時代	9棟
時期不明	3棟

掘立柱建物址 30棟

古墳時代後期	8棟
奈良時代	5棟
平安時代	1棟
中世	5棟
古墳時代後期以降	11棟

単独ピット 254個

土坑 51基

中世	24基
時期不明	27基

溝 13本

弥生時代中期	2本
奈良・平安時代	1本
中世	2本
時期不明	8本

遺物

弥生式土器 杯・高杯・鉢・壺・甕・台付甕
 土師器 杯・高杯・鉢・壺・甕・台付甕・
 紡錘車・土製丸玉
 須恵器 杯・高杯・鉢・壺・甕
 陶磁器 青磁碗・白磁碗・瀬戸碗
 鉄製品 鎌・鎌・刀子・紡軸・毛拵
 石製品 石鎌・磨製石鎌・打製石斧・
 太形蛤刃石斧・高平片刃石斧・
 紡錘車・石製模造品・白玉・
 スリ石・凹石・台石・欄物石・
 砥石

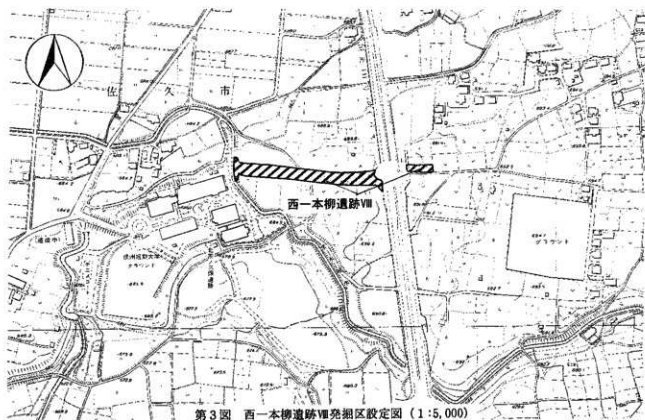
炭化物 炭化材・種子
 骨 シカ・ウマ
 井戸枠 サワラ・クリ他



第Ⅱ章 遺跡の環境

一本柳遺跡群は佐久市大字岩村田地籍に所在し、湯川の右岸、岩村田市街地南部のJ R小海線から西方に約1kmにわたって展開している。本遺跡群の周辺には、東方に岩村田遺跡群・上の城遺跡群等の古墳時代から中世にわたる集落がみられる。本遺跡との間には低地が存在しており、また信州短大のある西方の舌状に張り出す北西ノ久保遺跡まで含めて、本遺跡群全体が低地に囲まれた環濠集落状を呈する台地だったようである。南は湯川を望み、北は川が流れる低地に囲まれた自然条件に恵まれた所であった。南側の一段下がった中西の久保遺跡群にも古墳時代の集落がみられる。この地域は市街地に近いため宅地化が進んでおり、昭和43年度に宅地造成に伴い東一本柳遺跡をはじめとして発掘調査が実施され、古墳時代後期の竪穴住居址5棟が検出された。ついで東一本柳古墳、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡Ⅰ、さらに北西ノ久保遺跡の発掘調査が行われ、弥生中期～平安時代の集落や弥生～近世の墳墓等が数多く検出された。

東一本柳古墳は昭和46年に調査され、金銅製の香箸・注金具、鉄製轡をはじめとする馬具、鉄鏃、刀装具、玉類などの豊富な副葬品で知られている。北一本柳遺跡は昭和47年に、弥生時代後期の竪穴住居址7棟、平安時代の竪穴住居址10棟、土坑51基が調査された。また、平成3・4年度に発掘調査された西一本柳遺跡Ⅰ・Ⅱでは壺口縁部に弥生人の顔を造作した人面土器が出土し注目された。遺構は弥生時代中期の竪穴住居址2棟、古墳時代後期の竪穴住居址2棟、掘立柱建物址3棟が調査され、さらに試掘調査によって70棟以上の住居址が確認されている。上の城遺跡群では、昭和48年に上の城遺跡、昭和58年に西八日町遺跡の発掘調査が行われ、上の城遺跡で古墳時代後期から平安時代の住居址47棟と掘立柱建物址1棟が、西八日町遺跡で弥生時代中期から平安時代の住居址147棟などが調査されている。北西の久保遺跡第1次～4次の調査では、台地上から弥生時代中期・後期、古墳時代中期、平安時代の集落と弥生時代の方形周溝溝・木棺群、多量の埴輪が出土した古墳時代中期～後期の古墳群、近世の上横墓群が調査され、北西の久保遺跡の東斜面からは中世の五輪塔等の石塔婆群が検出されている。



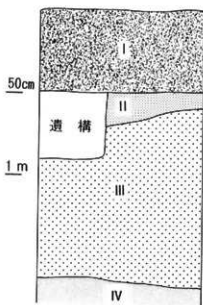
第3図 西一本柳遺跡Ⅶ発掘区設定図(1:5,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	立地	時代	発掘調査年度・備考
1	本郷遺跡群西一本櫓遺跡Ⅱ	岩村田字ノ額田外	台地	弥～中	平成12～14年 本報告
2	〃 西一本櫓遺跡Ⅰ～Ⅲ	岩村田字西一本櫓外	台地	弥～中	平成2～平成11年
3	北西の久保遺跡・古墳群	岩村田字北西の久保	丘状古地	弥～中	昭和44・45・57・60年
4	船沢遺跡群五型田遺跡	根々井字八里田	台地	縄～中	平成9年
5	中西の久保遺跡	岩村田字中西の久保	河原段丘	古～平	平成7年
6	一本櫓遺跡群北一本櫓遺跡	岩村田字北一本櫓	台地	弥・平	昭和47年
7	〃 東一本櫓遺跡	岩村田字東一本櫓	台地	弥	昭和43年
8	〃 東一本櫓古墳	〃	台地	古	昭和46年
9	〃 東大門遺跡	岩村田字東大門	台地	弥・平	平成元年
10	枇杷坂遺跡群門正坊遺跡Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	岩村田字門正坊外	台地	古～平	昭和59年・平成11～13年
11	門正坊遺跡群門正坊遺跡Ⅱ・Ⅴ	岩村田字門正坊外	台地	古～平	平成8・11年
12	〃 門正坊遺跡Ⅳ・Ⅵ	岩村田字門正坊外	台地	弥・古	平成14年
13	〃 清水田遺跡	岩村田字清水田	台地	弥・古	昭和53年
14	〃 清水田遺跡Ⅱ	岩村田字清水田	台地	弥・古	平成10年
15	〃 道路遺跡Ⅰ～Ⅲ	長十呂字道路	台地	弥・中	平成9～11年
16	〃 上直路遺跡	岩村田字上直路	台地	弥	昭和60年
17	下伯母塚遺跡	長十呂字下伯母塚	台地	弥～古	平成9年
18	長十呂遺跡群	長十呂字下壘端外	台地	弥～平	昭和63年
19	岩村田遺跡群上木戸遺跡	岩村田字上木戸	台地	縄・弥・平	平成13年
20	〃 内西浦遺跡Ⅲ	岩村田字内西浦	台地	弥・古	平成12年
21	枇杷坂遺跡群葛石遺跡	岩村田字葛石	台地	弥	昭和63年
22	岩村田遺跡群内西浦遺跡	岩村田字内西浦	台地	中	平成元年
23	〃 柳堂遺跡	岩村田字柳堂	台地	弥・平・中	平成10・12年
24	松の木遺跡Ⅰ～Ⅲ	岩村田字松の木	台地	弥・古	平成8・9年
25	中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田字中長塚	台地	中・近	平成8・10年
26	宮の西遺跡	岩村田字宮の西	台地	弥～中	昭和58年
27	上の城遺跡群西八日町遺跡	岩村田字西八日町	台地	弥・弥～平	昭和38年
28	観音堂遺跡	岩村田字観音堂	台地	平・中	平成9年
29	仲田遺跡	猿久保字仲田	台地	古～平	平成7年
30	宮の後遺跡	岩村田字宮の後	台地	弥～平	
31	中嶋沢遺跡群	岩村田字中嶋沢	河原段丘	弥～平	
32	猿久保原遺跡	猿久保字尾敷池	河原段丘	弥～平	
33	諏訪分遺跡群	根々井字諏訪分	河原段丘	弥～平	
34	上杉田遺跡	岩村田字上藤田	台地	弥～平	
35	下壘沢遺跡	長十呂字下壘沢	低地	弥～平	

第Ⅲ章 基本層序

一本柳遺跡群は、佐久市の北部中央に位置し、湯川右岸の河岸段丘上に展開している。標高は689～700mを測る。今回発掘調査を行った西一本柳遺跡群は白地の北西端にあたり、南から北に、東から西に傾斜し低くなっている。道路用地であるため調査地点は東西に長い。西から東端までは全長264mを測り、従って遺構の構築される土質も変化を見せている。西側の60mは堰原泥流の残丘が露出しており、堰原泥流の残丘である岩または明黄褐色の粘質土である。H4号住居址の一部の床面は岩盤である。しかしすぐ南のD2号土坑の井戸址の掘り込みは浅間第1軽石流である。その東から国道141号線付近までは2次堆積の黄褐色の砂質土層が厚く堆積し、大半の遺構の構築土層である。遺構の壁の崩壊の激しいところである。国道141号線の東に行くと砂層はなくなって浅間第1軽石流(P1)が遺構構築土となっている。この地点は現在湧水が激しく、住居址床面が水に埋もれてしまうほどのものであった。

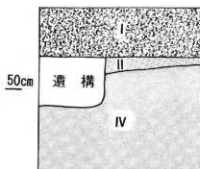


第Ⅰ層 黒褐色土層 (10YR2/2) 耕作土。

第Ⅱ層 黒褐色土層 (10YR2/3) 低地に堆積。

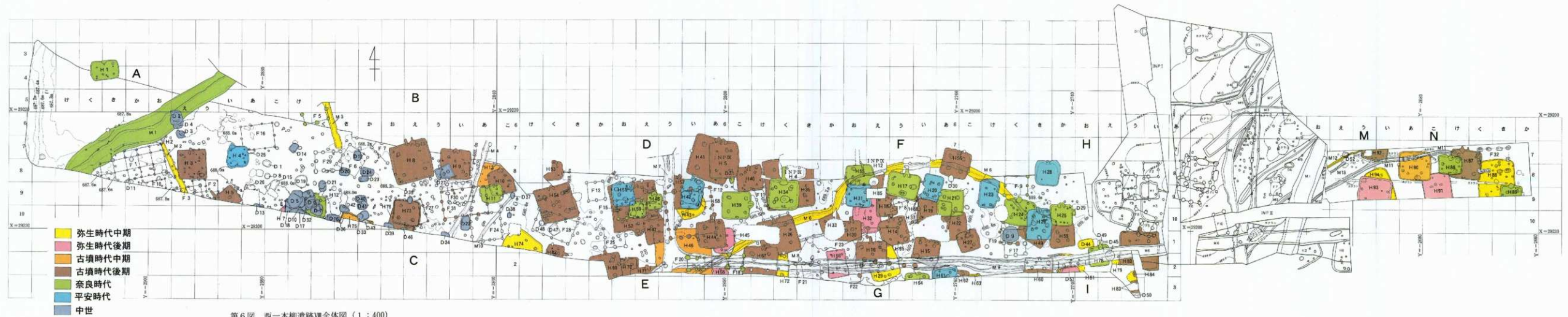
第Ⅲ層 におい黄褐色土層 (10YR6/4) 2次堆積の砂質土層

第Ⅳ層 黄褐色土層 (10YR5/6) 浅間第1軽石流 (P1)



(東端地点)

第5図 西一本柳遺跡群基本層序模式図



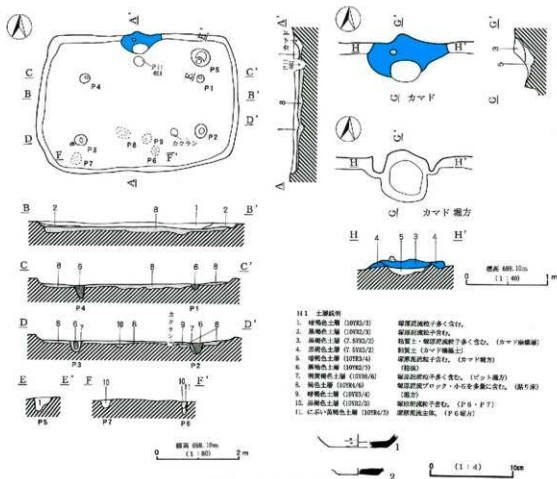
第IV章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址

1) H1号住居址 (第7図、図版1・74)

Aき3グリットにあり、INPⅢ-Dで調査された。調査区の西端で検出され、構築土層は塚原泥流粒子を含む褐色土層中である。単独ピットP461に切られる。東西460cm南北308cmを測り隅丸長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、粘質土がみられた。主軸方位はほぼ北を指す。柱穴は主柱穴がP1～P4の4本、南側中央に小ピット、北側に貯蔵穴が検出されている。床はあまり締まっていなかった。

出土遺物は土器片が13片と少なく、弥生時代後期波状文の甕片、古墳時代後期の厚手の甕片、図示した須恵器杯、土師器の内面黒色処理杯片である。いずれも時期を決定できる程の資料ではないが、図示した回転に糸切りの杯があることから奈良末～平安時代の住居址であろう。



第7図 H1号住居址

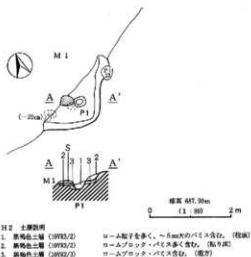
第2表 H1号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	- 底面 (1.6)	内 外 ロクロナデ ロクロナデ・底面切り離し後底面と底 部外周子持らへウケズ	底面1/4残存 内 2SY7/2 (灰黄) 外 2SY7/2 (灰黄)	細長石含む。	
2	須恵器 杯	- 底面 (0.8)	内 外 ロクロナデ ロクロナデ→底面回転糸切り	底面1/3残存 内 N6/0 (灰) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。1区 ※内外面に火だすき痕	

2) H2号住居址 (第8図、図版1)

調査区西のAお6グリットで検出された。M1号溝址と重複し、南東隅一部が残存する。塚原泥流粒子を含む明褐色土層中に構築される。残存部がわずかであるため、詳細はわからない。

出土遺物は土師器杯片1点である。



第8図 H2号住居址(1)

3) H3号住居址 (第9・10図、図版2・74)

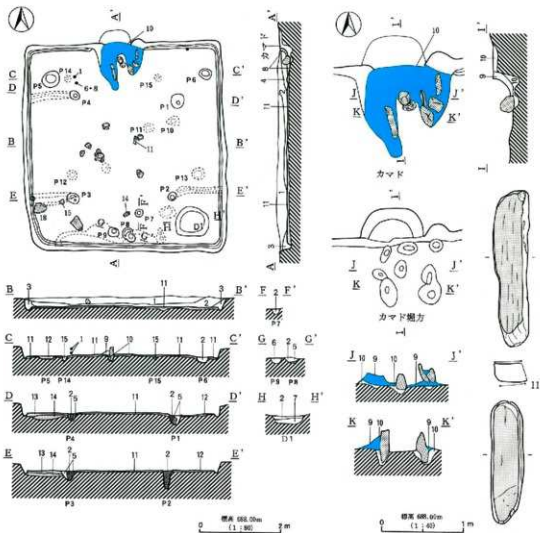
調査区西側、Aう7グリットにあり、塚原泥流粒子を含む明褐色土層中に構築される。規模は南北472cm、東西461cmを測り、方形を呈する。カマドは北壁中央にあり、支脚石、両袖を残していた。主軸方位はほぼ北を指す。南端でF2に切られる。主柱穴はP1～P4の4本柱、主柱穴から壁に間仕切り溝が北東を除いてみられる。南壁下に2個の小柱穴、南東隅に長径80cmの貯蔵穴、北の東西壁近くに2個のピットがある。床下からもピットが検出されるが伴うものかわからない。

出土遺物には土器と石製品がある。土器は土師器杯(1・2)、土師器甕(4～10)があり、1の杯は丸底で器高が深い。2の杯は全体が内湾する。4は「く」の字形口縁のミガキ甕である。6・7の甕は長胴化し始めるもののまだ胴下部が張っており、外面の調整にヘラ(征日)調整される。8・10のヘラケズリの甕と、9のミガキ甕が共存している。

これらは古墳時代後期の古相であろうか。

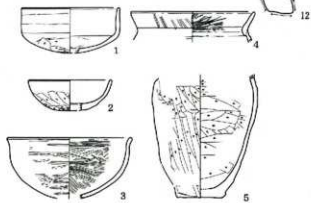
第3表 H3号住居址出土遺物一覧表

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
11	編物石	19.0	4.5	2.8	340	片岩	No.5
12	編物石	14.9	4.1	2.4	180	安山岩	
13	薬石 (7.1)	4.2	1.8	<70>		凝灰岩	Ⅲ区
14	編物石	14.4	6.3	3.3	490	安山岩	No.6
15	編物石	9.9	8.0	6.5	700	安山岩	No.7
16	スリ石	10.1	7.7	7.8	320	黒曜石	
17	スリ石	9.8	5.0	4.5	240	黒曜石	検出
18	石皿	29.2	23.0	5.4	5,040	安山岩	No.8



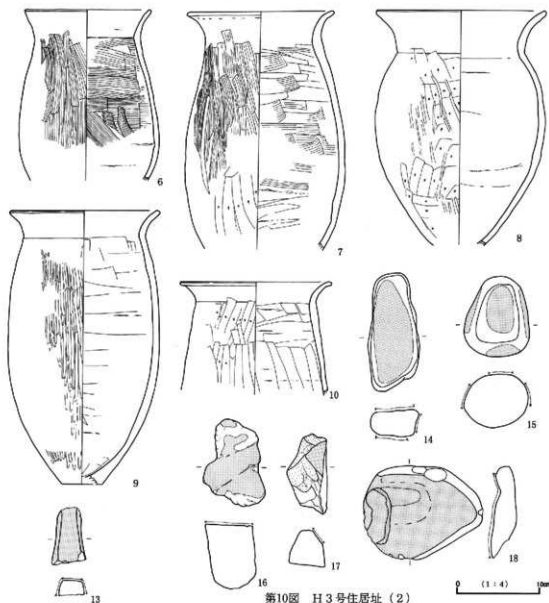
H3 土層説明

1. 黒褐色土層 (10792/2) 1m大・5cm大パリス含む。
2. 黒褐色土層 (10792/3) 厚層のロームブロック含む。
3. 黒褐色土層 (10792/3) ローム粘土含む。
4. 黒褐色土層 (10793/2) 粘土・粘質土含む。〔カマド遺構層〕
5. 褐色土層 (10794/0) ロームブロック含む。〔ビツト層〕
6. 黒褐色土層 (10792/3) ロームブロック含む。〔P9〕
7. 黒褐色土層 (10792/2) 主に5mm大パリス・ローム粘土含む。〔D1〕
8. 黒褐色土層 (7, 10793/2) 粘質土層にて、粘褐色土ブロック含む。
9. 黒褐色土層 (10792/2) 粘質土〔カマド層〕
10. 褐色土層 (10794, 7/1) ロームブロック含む。〔カマド層〕
11. 暗褐色土層 (10793/2) ロームブロック・パリス含む。〔北9坑〕
12. におい・黄褐色土層 (10795/0) ロームブロック主体。〔南9坑〕
13. 暗褐色土層 (10793/4) ローム粘土・パリス含む。〔溝法切り層〕
14. 褐色土層 (10794/0) ローム粘土または黄褐色砂土層。〔南方〕
15. 暗褐色土層 (10792/2) パリス・小石含む。わずかにローム粘土含む。〔北下ビツト〕



第9図 H3号住居址(1)

0 (1:4) 10m



第10図 H3号住居址(2)

番号	器種	法差	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(12.0) - 5.5	内 みこみ部ヘラナゲ後口縁ヨコナゲ 外 口縁ヨコナゲ・底部ヘラケズリ	口縁2/3残存 内 5YR7/6 (淡) 外 7.5YR8/4 (浅黄橙)	粒子細かい。石英・長石・赤 色粒子含む。 ※内外面共磨耗著しい。 口縁に沈線状のヘラナゲ痕 あり。	No.1 I区2層 II区
2	土師器 杯	(10.2) - 3.7	内 みこみ部ナゲ後口縁ヨコナゲ 外 口縁ヨコナゲ後脚部から底部ヘラケズ リ	口縁1/5残存 内 5YR8/4 (淡橙) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・輝石・赤色粒子 多く含む。	II区1層
3	土師器 鉢	(15.4) - (7.4)	内 ミガキ 外 ミガキ・口縁部ヨコナゲ	口縁1/6残存 内 5YR7/4・10YR8/3 (にぶい橙・浅黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石多く含む。	No.3

4	土師器 鉢?	(15.2) - (3.8)	内 外	ヨコナデ後ミガキ ヨコナデ後楷文	口縁1/8残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・輝石含む。	Ⅱ区2層
5	土師器 壺	- 6.1 (15.1)	内 外	ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 内 2.5YR7/6 (橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	石英・長石・輝石含む。	Ⅰ区1・2層 Ⅰ区サブトレ カマド
6	土師器 壺	15.5 - (20.9)	内 外	口縁ヘラナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁1/3残存 内 2.5YR5/4 (にぶい赤橙) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅰ区1・2層 Ⅳ区2層 Ⅱ4
7	土師器 壺	18.0 - (29.4)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ・ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁完形 内 7.5YR7/2 (明褐灰) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.2 Ⅱ区1・2層 Ⅲ区1層 Ⅳ区2層
8	土師器 壺	(20.8) - (28.8)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ後わず かにミガキ	口縁1/8残存 内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・輝石含む。	Ⅱ区1-3層
9	土師器 壺	(18.4) (5.0) 33.5	内 外	口縁ヨコナデ・胴部から底部ヘラナデ 口縁ヨコナデ・胴部と底部ミガキ	口縁1/8・底部1/4残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤色粒子 含む。	No.4 カマド Ⅰ区1・2層 Ⅱ区3層 Ⅳ4検出
10	土師器 壺	(18.6) - (13.8)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・ヘラナ デ	口縁1/2残存 内 7.5YR5/2・8/4 (灰褐・浅黄橙) 崩 7.5YR8/4 (浅黄橙) 外 7.5YR6/2 (灰褐)	きめ細かい。石英・長石・赤 色粒子含む。	No.2 Ⅳ区2層

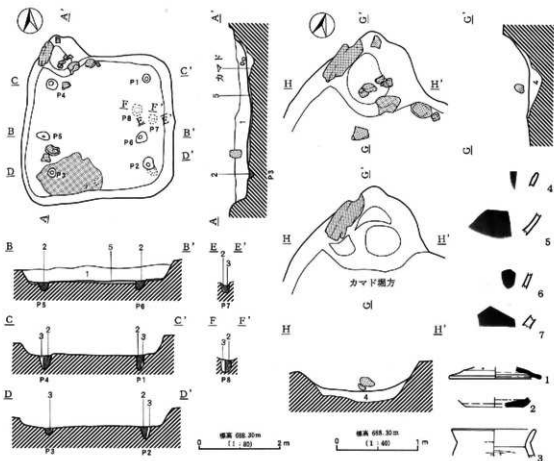
4) H4号住居址 (第11図、図版3・75)

Aあ7グリットで検出され、南側の構築面は岩盤である。南北319cm東西332cmで東西にいくらか長い方形を呈す。カマドは北西に設けられていた。主軸はほぼ北を指す。柱穴は6本柱で壁際に寄っている。P3は岩をくり抜いている。この住居址の上面は厚く塚原泥流含む黒褐色土(10YR2/3)が堆積しており、グリット遺物に示した鉄鏃(179-42)や4~7に示した青磁片が出土している。塚原泥流の残丘があることから周開から石など集めたようである。

須恵器蓋と杯、土師器小型壺、繩物石、鉄製の刀子片が出土している。図示した須恵器、土師器は小片で、本住居址の時期を決定する資料とはいえないが、カマドの位置や柱穴のあり方などから平安時代から中世の住居址と推定される。

第4表 H4号住居址出土遺物一覧表

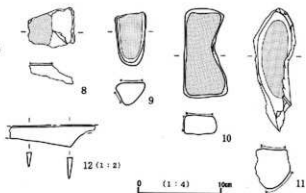
番号	器種	法量	成形・調整		残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	(11.4) - (1.4)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 N8/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・輝石含む。	Ⅰ区サブトレ
2	須恵器 杯	- (7.0) (1.2)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/4残存 内 N5/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石・輝石含む。 烽火だすき有。	Ⅰ区2層
3	土師器 小型壺	(30.4) - (3.4)	内 外	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ミガキ	口縁1/11残存 内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	Ⅰ区1層
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
8	?	5.0	5.7	1.6	50	安山岩入り面あり。	
9	繩物石	(6.6)	3.8	2.8	(100)	安山岩	
10	繩物石	10.9	5.4	2.3	210	安山岩	
11	繩物石	(15.0)	5.2	4.8	(490)	安山岩	検出
12	刀子	(1.3)	(5.3)	(0.4)	(5.5)	鉄製品	Ⅰ区サブトレ



H4 土層説明

1. 黒褐色土層 (109K/2)
2. 黒褐色土層 (109K/2)
3. 褐色土層 (109K/4)
4. 褐色土層 (7.102K/2)
5. 暗褐色土層 (109K/3)

層深部は割断が多く含む。5-10cmの礫含む。
 (石炭)
 黄褐色ロームブロック含む。(カマド基方)
 赤褐色の硬質泥炭含む。(カマド基方)
 におい・黄褐色ロームブロック・バミミ含む。(掘り跡)

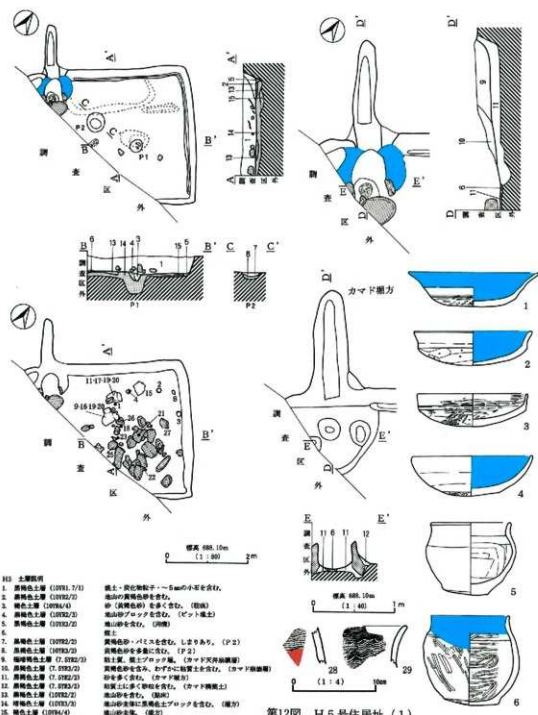


第11図 H4号住居址

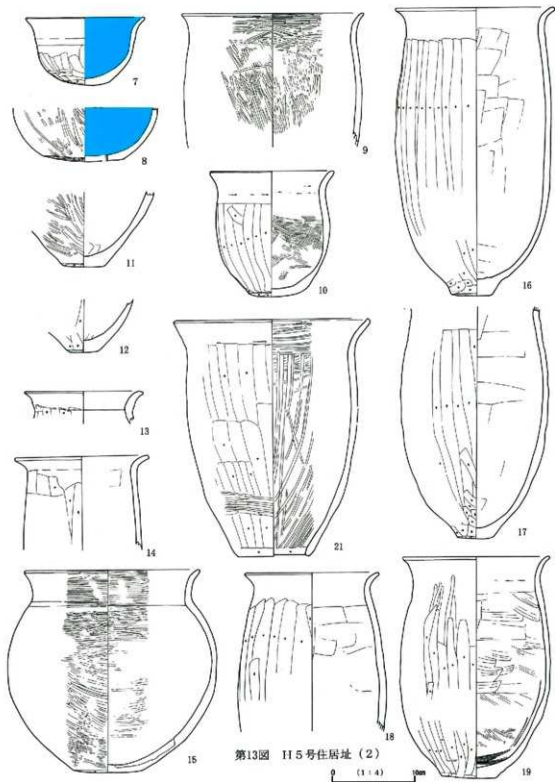
5) H5号住居址 (第12図、図版3・75・76)

Aい9グリットにあり、南西の半域は調査区外である。南北300cm、東西は調査域で354cmをはかり、長方形の住居であろう。カマドは北壁にあるが、中央と言うより、西端に近い位置であろう。主柱穴は2本柱で、片方を調査した。

P2はカマドの東脇にあり径40cm深さ16cmほどを測る。



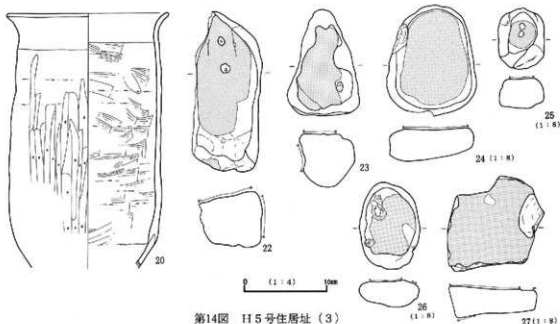
第12図 H5号住居址(1)



第13圖 II 5号住居址(2)

第5表 H5号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存品・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(15.9) (10.5) 4.1	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・底部ミガキ後門縁黒色 処理	口縁1/4残存 内 N3/0 (黒灰) 外 N4/0 (灰)	石英・長石含む。	No.10 I区 (No.9) 複合しな いが同個体
2	土師器 杯	14.6 13.4 4.3	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	ほぼ定形 内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 10YR2/1 (黒色) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	緻密。石英粒子細く、長石 粒子多い。赤色・黒色粒子含む。	No.3
3	土師器 杯	13.6 13.2 4.0	内 ミガキ 外 口縁横ナデ・底部ヘラケズリ全体にミ ガキ	口縁部一部欠損 内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 7.5YR4/4 (褐色)	石英・長石粒・赤色粒子含む。	No.2
4	土師器 杯	14.8 7.0 5.0	内 やや巾広で多方向に雑なミガキ後黒色 処理 外 口縁部横ナデ・下部ヘラナデ・底部ヘラ ケズリ後雑なミガキ	口縁一部欠損 内 5YR2/1 (黒褐色) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐色)	緻密。石英・長石細粒含む。	II区 No.5
5	土師器 鉢	(9.9) 5.5 8.8	内 口縁ヨコナデ・胴部から底部ヘラナデ 口縁ヨコナデ・胴下半ナデ・底部ヘラケ ズリ	口縁1/2残存。底部定形 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR7/4 (淡赤橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	I区・検出
6	土師器 鉢	9.6 6.7 11.0	内 口縁部ヨコナデ・全体にミガキ後口縁 のみ黒色処理 外 口縁部横ナデ・胴・底部ヘラナデ・全体 に粗なミガキ後口縁黒色処理	胴部一部欠損 内 10YR1.7/1 (黒) 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 10YR1.7/1 (黒) 7.5YR6/6 (橙)	緻密。石英・長石細粒含む。	
7	土師器 鉢	(14.6) 5.9 8.3	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ・底部ヘラ ケズリ	口縁1/4残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.1
8	土師器 鉢	- 9.8 (6.7)	内 ハケナデ後黒色処理 外 胴部ナデ後ミガキ・底部ヘラケズリ	底部定形 内 N4/0 (灰) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	II区
9	土師器 瓶	(22.4) - (15.4)	内 ミガキ 外 口縁部ヨコナデ・全体にミガキ	口縁2/3残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石) 含む。	No.8 IV区
10	土師器 小型甕	15.3 6.8 15.4	内 口縁横ナデ・胴部から底部ヘラナデ(僅 目) 外 胴部と底部ヘラケズリ・口縁ヨコナ デ	口縁定形・底部定形 内 2.5YR6/4 (明赤褐色) 外 2.5YR5/6 (明赤褐色)	石英・長石・赤色粒子含む。	I・II区
11	土師器 甕	- 5.5 (9.3)	内 ヘラナデ・ハケナデ・ナデ 外 胴部ヘラケズリ後ミガキ・底部ヘラケズ リ	底部定形 内 2.5YR5/6 (明赤褐色) 外 5YR4/6 (赤褐色)	緻密。石英・長石細粒含む。	No.9
12	土師器 甕	- 4.2 (6.5)	内 ヘラナデ・ナデ 外 ヘラケズリ	底部のみ3/4残存 内 5YR5/3 (にぶい赤褐色) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐色)	緻密。細かい石英・長石粒 含む。	I・II区
13	土師器 小甕	(14.4) - (4.0)	内 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 5YR5/6 (明赤褐色) 外 5YR2/1 (黒褐色)	緻密。石英・長石粒・赤色粒 子含む。	II区
14	土師器 甕	(16.4) - (11.5)	内 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラナデ後ナデ 外 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁・胴部1/4残存 内 7.5YR4/4 (褐色) 外 7.5YR4/4 (褐色)	緻密。~1mm大チャート・ 赤色粒子・燧石・石英粒 含む。	I区・検出
15	土師器 甕	(21.5) 8.6 24.7	内 ミガキ 外 口縁と胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	口縁一部・底部定形 内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤色粒子 含む。	No.4 I区
16	土師器 甕	19.6 51.1 35.4	内 口縁ヨコナデ・胴部から底部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ・底部ヘ ラケズリ	口縁定形・底部定形 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・輝石含む。	No.8 IV区
17	土師器 甕	4.5 (28.4)	内 胴部から底部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部と底部ヘラケズリ	底部定形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4・5YR6/4 (橙・にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒 子含む。	No.9 IV区
18	土師器 甕	(16.4) - (19.4)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/3残存 内5YR5/2 (灰褐色) 外7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	No.7・8 I区
19	土師器 甕	18.0 6.6 27.2	内 口縁ヨコナデ・胴部から底部ヘラナデ・ 一部ミガキ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリとヘラ ナデ・底部ヘラケズリ	口縁3/4残存・底部定形 内7.5YR7/4 (にぶい橙) 外5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.8・9 IV区東方
20	土師器 甕	19.8 - (31.1)	内 胴部ヘラナデ・口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリとヘラナ デ	口縁1/3残存 内 5YR5/2 (灰褐色) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.8・9 I区
21	土師器 瓶	24.0 8.8 29.0	内 ミガキ 外 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケズリ後一 部ミガキ	底部 内 7.5YR7/8 (黄橙) 外 7.5YR7/8 (黄橙)	緻密。~2mm大赤褐色粒 子・細かい石英・長石粒含む。	No.8 No.11 I・II区



第14図 H5号住居址(3)

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
22	石皿	19.7	8.8	7	1,400	軽石	No.12
23	副射石	13.0	8.8	6.5	970	軽石	No.14
24	石皿	27.0	22.1	8	6,310	花こう岩	
25	石皿	15.0	11.3	7.2	1,660	安山岩	No.15
26	石皿	21.1	14.9	6.5	1,910	軽石(黒曜石のガラス質残る)	No.16
27	石皿	23.2	23.6	7.7	5,960	安山岩(鉄平石) スリ面に磨痕あり。	No.13

本住居址からは多くの土器と石が出土している。混入した弥生時代後期の土器片の他は土師器で杯(1~4)、鉢(5~8)、甌(9・21)、甕(11~20)である。土師器杯は1が杯Bで口径に対し底径が小さいタイプ、2・3が杯Eの須恵器杯蓋模倣杯、4が全体に内湾する杯Cタイプである。鉢は壺器形の5・6、と鉢形のものとなる。9は下部がないので確定できないが甌であろう。壺類は胴部がヘラケズリ調整されるもので、長胴化するが胴下部がまだ張っている。

これらより古墳時代後期前葉の土器群であろう。

第6表 H7号住居址出土遺物一覧表

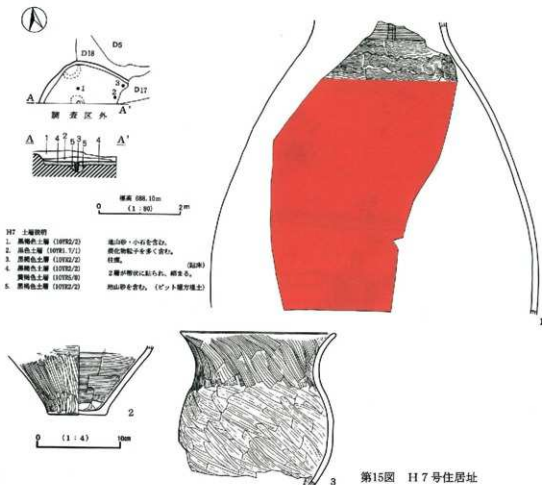
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 壺	- (35.5)	内 ハケナデ 外 胴部ミガキ・赤色塗彩 文 胴部4~9本を1組とする帯縞状文を施した後、帯縞塗彩文を施す。	破片 内 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)・ 10R5/8 (赤)	石英・長石含む。	No.3
2	弥生土器 甌	- 7.2 (8.4)	内 胴部ハケナデ・底部ナデ 外 胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	底部定形 内 10YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)	石英・鉄石・輝石・赤褐色粒子含む。	No.2
3	弥生土器 甕	19.1 - (18.8)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ・胴部帯縞状工具によるナ 文 口縁部に5~8本1組とする帯縞斜走文を施す。	口縁7/8残存 内 5YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR7/3 (にじみ橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.1

6) H7号住居址 (第15図、図版4・76)

Bけ10グリットで検出され、砂層中に構築される。住居址の北西以外は調査区外となり、一部の調査で全容はわからない。主柱穴、火所は検出されていない。

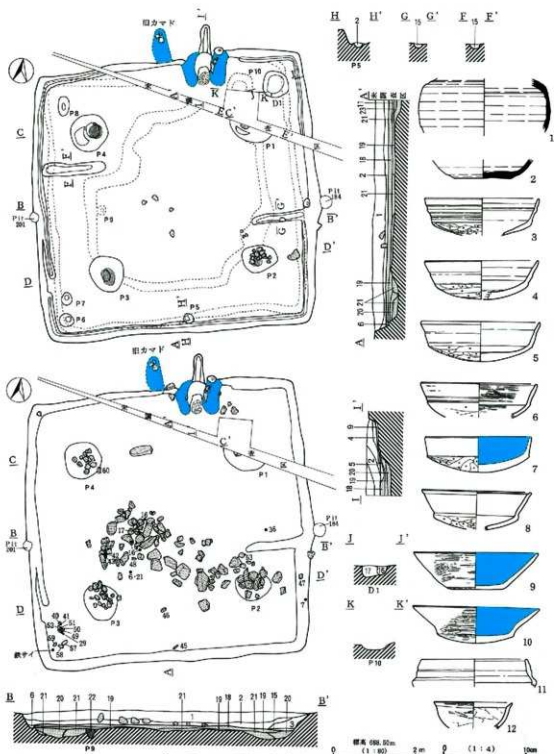
出土遺物は弥生時代後期の赤色塗彩された壺(1)、甕(2・3)がある。1の壺は頸部に櫛描簾状文、櫛描横線文を4条巡らす。3の甕はヘラナアに近い櫛描斜走文を施す。

これらより、本址は弥生時代後期ないし古墳時代初頭の住居址であろう。

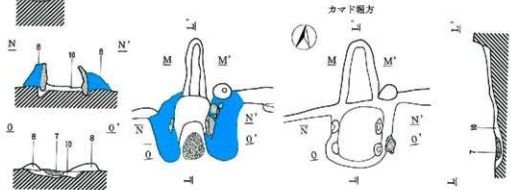
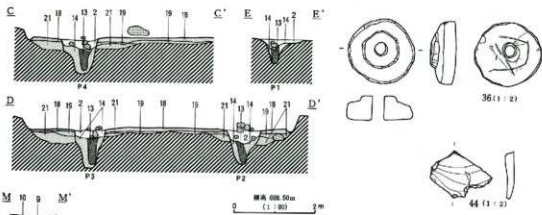


7) H8号住居址 (第16-19図、図版5・76-78)

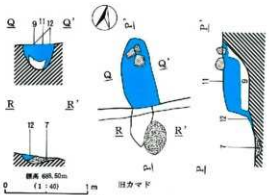
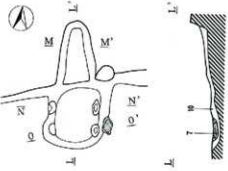
Bえ7グリットで検出され、INP区において北のカマドと北東部を調査し、合わせている。ⅡとⅢの接合部分は一部未調査部分ができしまった。南北627cm、東西642cmのやや東西に長い方形を呈す。砂層中に構築している。主軸方位はやや西に傾く。F7と重複するが新旧は不明。単独ピット161・184・201・217に切られる。カマドは北壁にあり、使用されていたカマドは東に寄り、中央部には旧カマドの跡がみられた。カマドの右袖上部には壺をおいたであろう穴がみられる。主柱穴はP1-P4の4本柱で規模が大きく、径90cm深さ96cmの堀方に径24cm深さ80cmほどの柱痕がみられた。間仕切り溝がP2の北、P4の南にみられた。南壁下中央にP5、南西と北西隅に小ピットがある。北東には径64cm、32cmの貯蔵穴があいていた。堀方は全体に深く、住居址の中央は地山を高く、周辺を深く掘り込んでいる。



第16图 H8号住居址(1)



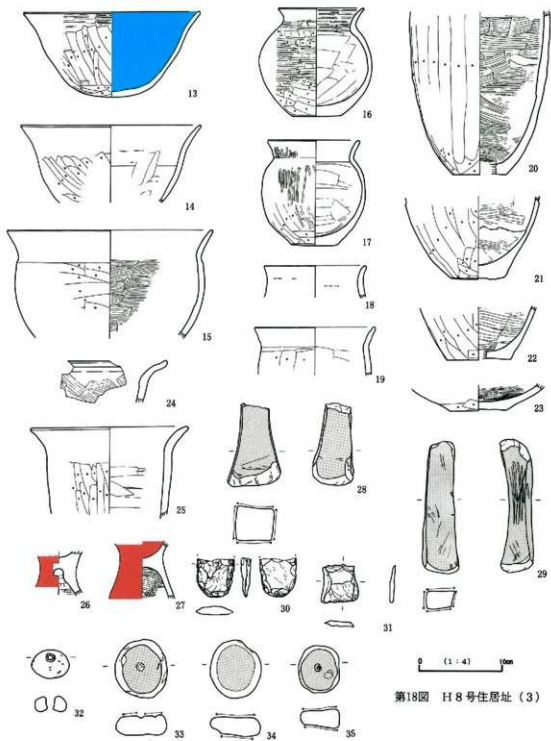
カマド廻方



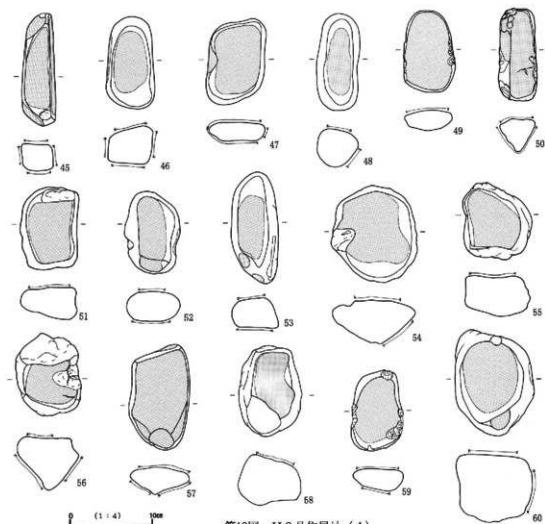
- 18 土層図例
1. 黒褐色土層 (1092/2)
 2. 黒褐色土層 (1092/2)
 3. 黒色土層 (1092/1)
 4. 黒褐色土層 (7. 592/2)
 5. 黒褐色土層 (7. 592/2)
 6. 黒褐色土層 (1092/2)
 7. 赤褐色土層 (928/2)
 8. 黒褐色土層 (7. 592/2)
 9. 黒褐色土層 (7. 592/2)
 10. 黒褐色土層 (7. 592/2)
 11. 黒褐色土層 (7. 592/2)
 12. 赤褐色土層 (1092/2)
 13. 黒褐色土層 (1092/2)
 14. 黒褐色土層 (1092/2)
 15. 黒褐色土層 (1092/2)
 16. 黒色土層 (1091. 7/1)
 17. 黒色土層 (1091. 7/1)
 18. 赤褐色土層 (1092/2)
 19. 赤褐色土層 (1092/2)
 20. 黒色土層 (1091. 7/1)
 21. 赤い黄褐色土層 (1094/3)
 22. 黒色土層 (1091. 7/1)
 23. 黒色土層 (7. 592/1)
- 地山砂・小石を多く含む。
地山砂・小石を多く含む。
地山砂・小石を多く含む。
赤質土・粘土ブロックを含む。(カマド構築)
灰層。
赤土。
赤土。
カマド構築土。
灰・粘土砂子・粘土ブロックを含む。(埋戻土)
粘土・粘土ブロック・粘質土を含む。(カマド廻方)
粘土。(カマド構築土)
粘土。(カマド構築土)
地山砂を含む。(埋戻)
- 2層の居住層。黄砂・礫を多く含む。(ピット廻方土)
- 地山砂・小石を含む。(埋戻土)
地山砂・小石を含む。(D 1)
地山砂ブロックを含む。(D 1)
地山砂・小石・パミヌを含む。よく練まる。(埋戻)
地山砂を多く含む。(床下の床土層)
おがくみに地山砂・小石を含む。(埋戻)
地山砂全体に黒褐色土 (1092/2) ブロックを含む。(廻方)
黒色土に地山砂を多く含む。(床下ピット土層)
灰化物を含む。(カマド)



第17図 H 8号住居址 (2)



第18图 H 8号住居址(3)



第19図 H8号住居址(4)

中央に多くの石が出土し、南西隅からは竊物石が9点残されていた。本住居址からは土師器、須恵器、滑石製紡錘車、竊物石、台石が出土している。須恵器は壺胴部片(1)と杯がある。2の杯は混入品である。土師器は杯(3~12)、鉢(13~15)、ミガキが施される小型の甕(16・17)、小型の胴部ヘラケズリの甕(18・19)、長胴の胴部ヘラケズリの甕(20~22・25)、甗であろうかヘラナアのものがある(24)。混入品として、弥生時代後期であろうか台付鉢、高杯がみられた。いずれも赤色塗彩される。石製品では滑石製の紡錘車が床面より、出土している。竊物石は北西にかたまっていた以外にもみられた。29の砥石は竊物石として再利用されている。土師器杯は須恵器杯と類似が多く(3~8)、有段口縁の名残りの杯E3(3~6)、口径の底径に比して大きい杯B(9・10)がある。11は須恵器杯身模倣杯、12は前代の混入品である。鉢は逆ハの字形に開くもの(13・14)、壺ないし小型甕器形のもの(16・17)がある。甕は長胴甕で、胴部ヘラケズリされる。

これらより古墳時代後期中葉の土器群であろう。

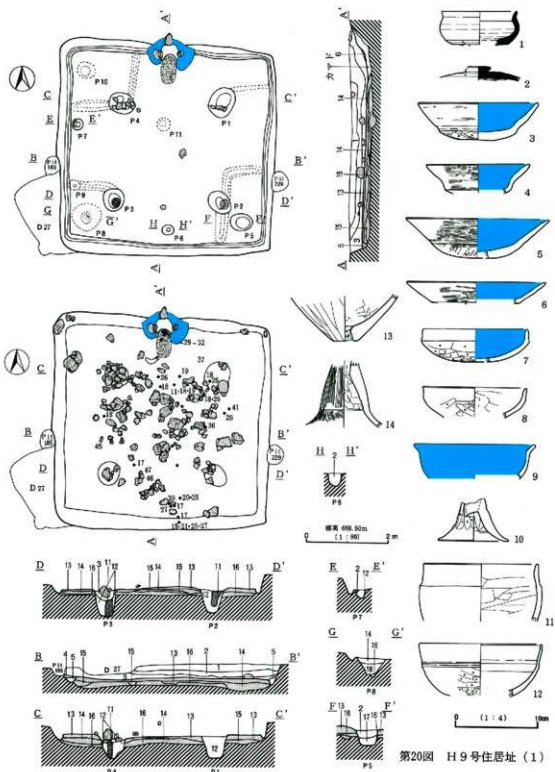
第7表 H8号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	注量	形状・調整	残存量・色割	加工・特徴	出土位置
1	須恵器 甕	- (7.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	破片 内 N5/0 (灰) 外 N4/0 (灰)	石英・長石・輝石含む。 ※外面に自然釉付着 ※外面におおずかに窯印か「レ」の劃みあり。	I区
2	須恵器 杯	(7.0) (2.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部2/3残存 内 7.5YR8/2 (灰白) 外 7.5YR8/2・2.5YR/1 (灰白)	石英・長石多く含む。 ※内外面に大だすきあり。	Ⅲ区 H9検出
3	土師器 杯	(14.2) (12.4) (4.6)	内 みこみ部ナデ→口縁ヨコナデ 外 L口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	L口縁1/4残存 内 7.5YR7/2 (明褐色) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・赤褐色粒子含む。 磁器。	I区
4	土師器 杯	(14.0) (11.2) 4.7	内 みこみ部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 底部ヘラケズリ→L口縁ヨコナデ	L口縁1/3残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	カマド
5	土師器 杯	(14.7) (12.7) 4.9	内 みこみ部ナデ・L口縁ヨコナデ 外 L口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	L口縁1/3残存 内 5YR8/4 (淡橙) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。	Ⅳ区2層
6	土師器 杯	(14.3) (12.7) (4.2)	内 ミガキ (後黒色処理?) 外 L口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	L口縁1/4残存 内 N4/0 (灰) 外 10YR7/2 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	I区 Ⅳ区1層
7	土師器 杯	13.1 12.6 4.4	内 ミガキ後黒色処理 外 L口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	完形 内 N3/0 (暗灰) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	No4
8	土師器 杯	(13.4) (10.4) (4.7)	内 ヨコナデ 外 L口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	L口縁1/3残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR8/4 (淡黄橙)	石英・長石・赤色粒子含む。 ※内側口縁部に沈着あり。	I区
9	土師器 杯	15.2 7.1 4.5	内 ミガキ後黒色処理 外 L口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	口縁1/2・底部1/2残存 内 N3/0 (暗灰) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅳ区1・2層
10	土師器 杯	(15.6) (9.4) 4.4	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	底部1/2・口縁一部残存 内 N3/0 (暗灰) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	I区 Ⅳ区1・2層 検出
11	土師器 杯	(13.0) (15.2) (3.4)	内 ヨコナデ 外 胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	L口縁1/5残存 内 2.5YR5/1 (赤灰) 外 2.5YR4/1 (赤灰)	磁器。 石英・長石含む。 ※内外面黒色処理か	Ⅱ区1層
12	土師器 杯	(9.5) - (3.2)	内 体部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 L口縁ヨコナデ・体部ナデ・ヘラナデ→全 体にミガキ	口縁1/8残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR7/4 (淡赤橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅳ区2層
13	土師器 鉢	(21.6) - 10.4	内 ヘラナデ後細ミガキ後黒色処理 外 胴部から底部ヘラケズリ・L口縁ヨコナ デ→全体にミガキ	口縁1/6残存 内 7.5YR6/1 (褐色) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	細石英・長石・赤褐色粒子 (~3mm大) 含む。	Ⅳ区1・2層
14	土師器 鉢	(22.0) - (9.5)	内 L口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 L口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 5YR8/3 (淡黄) 外 7.5YR8/3 (淡黄橙)	細石英・長石・輝石・赤色粒 子 (~3mm) 含む。	Ⅱ区1層
15	土師器 鉢	(25.2) - (13.3)	内 L口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ (板目) 外 L口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	L口縁1/12残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英 (~1mm大)・長石・ 赤色粒子含む。 ※全体に磨耗	Ⅱ区1層
16	土師器 小罌	(10.5) 6.2 13.3	内 L口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ →口縁わずかにミガキ 外 L口縁ヨコナデ→胴部と底部ヘラケズリ →胴部ミガキ	L口縁1/2残存・底部完形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤色粒子 含む。	No.2・3 ・5・19 Ⅲ区 Ⅳ区2層
17	土師器 小罌	(11.3) 5.8 12.9	内 L口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 外 L口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ→全体に ミガキ・底部ヘラケズリ	底部完形・口縁1/6残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.11 No.19 Ⅰ区・Ⅳ区
18	土師器 鉢	(12.6) - (4.0)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁1/2残存 内 10YR8/2 (灰白) 外 7.5YR8/3 (淡黄橙)	磁器。まれに~1mm大石 英・長石・輝石・赤褐色粒子 含む。	Ⅱ区1層
19	土師器 小罌	(14.8) - (6.0)	内 L口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 L口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/7残存 内 5YR7/2 (明褐色) 外 2.5YR7/4 (淡赤橙)	~2mm石英・長石・輝石・ 赤色粒子含む。	I区
20	土師器 鉢	(6.6) (20.1)	内 ヘラナデ (板目) 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/3残存 内 5YR2/6・6/6 (灰黄・橙) 外 7.5YR8/4 (淡黄橙)	石英・長石・黒色粒子・赤褐 色粒子含む。	I区 カマド カマド脇
21	土師器 罌	(6.6) (10.1)	内 ヘラナデ (板目) 外 胴部ヘラケズリ・底部ナデ	底部完形 内 2.5YR6/3 (にぶい橙) 外 7.5YR8/4 (淡黄橙)	細石英・長石・~2mm大赤 色粒子多量に含む。	No.5
22	土師器 鉢	(7.8) (6.5)	内 ヘラナデ (板目) 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラナデ	底部3/4残存 内 7.5YR8/3 (淡黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	カマド
23	土師器 罌	(6.8) (3.2)	内 ヘラナデ (板目) 後ミガキ 外 胴部ナデ→底部と底部外周ヘラケズリ	底部1/2残存 内 7.5YR8/3 (淡黄橙) 外 5YR8/4 (淡橙)	~2mm大石英・長石・赤色 粒子含む。 ※丸胴底部	Ⅱ区1層

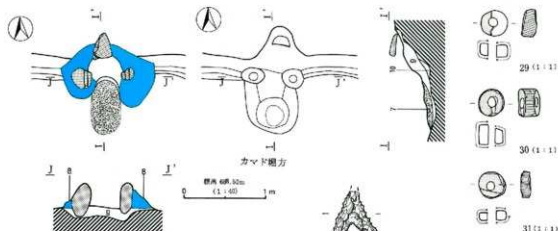
24	土師器 甕?	- - -	内 ミガキ 外 口縁コナデー-胴部ヘラナデ	口縁一部残存 内 2.5YR6/3 (にぶい橙) 外 2.5YR6/3 (にぶい橙)	緻密。1mm以下石英・長石・輝石・赤色粒子含む。	Ⅱ区2層		
25	土師器 釜	(18.2) - (11.2)	内 口縁コナデー-胴部ヘラナデ 外 口縁コナデー-胴部ヘラナデ	口縁1/8残存 内 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)	~2mm大石英・長石・輝石・赤色粒子含む。	Ⅱ区1層		
26	弥生土器 台付鉢	- - (5.4)	内 杯部ミガキ 脚部ナデ・ヘラナデ 外 ミガキ後赤色塗彩	脚部のみ残存 内 7.5YR8/2 (灰白) 外 7.5R4/6 (赤)	緻密。 石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区1層		
27	弥生土器 高杯	- - (7.2)	内 杯部ミガキ後赤色塗彩 脚部ヘラナデ (炬目) かハケメ 外 ミガキ後赤色塗彩	脚部のみ残存 内 杯部 7.5R4/6 (赤) 脚部 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 7.5R4/6 (赤)	緻密。 石英・長石含む。	Ⅱ区1層		
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置	
28	砥石	<10.2>	6.4	4.1	<385>	凝灰岩		
29	砥石	16.1	4.4	2.1	310	凝灰岩	No.7	
30	打製石斧	<4.7>	4.5	1.05	<29.1>	黒色緻密安山岩	Ⅱ区1層	
31	未製品	4.7	4.5	0.7	10	安山岩		
32	浮子	3.6	4.7	1.8	10	軽石	Ⅱ区	
33	スリ石	7.1	6.3	2.4	50	軽石 凹みあり。		
34	スリ石	7.1	6.3	2.3	40	軽石		
35	スリ石	5.7	5.0	2.4	37	軽石 凹みあり。		
36	磨鉢草	3.9	4.1	9.5	34.2	滑石	No.1	
番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
37	土師器 土製円板	4.5 0.65 0.55	内 ヘラナデ (炬目) 外 ミガキ 裏面部再加工			内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	緻密。1mm以下石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区場方
38	土師器 土製円板	5.7 - 0.7	裏面部再加工 内 ヘラナデ (炬目) 外 ヘラナデ			半分欠損 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・~1mmの長石・赤色粒子・黒色粒子含む。	Ⅰ区
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置	
39	礫物石	<7.2>	3.2	1.7	<70>	安山岩		
40	礫物石	9.1	4.6	2.8	170	輝石安山岩	No.17	
41	礫物石	<6.9>	<5.2>	3.8	<170>	安山岩	No.18	
42	スリ石	6.1	5.7	3.6	140	多孔質安山岩	No.23	
43	スリ石	4.1	3.5	2.8	50	多孔質安山岩	No.24	
44	礫片	2.85	3.7	0.6	4.7	閃輝石		
45	礫物石	13.8	4.1	3.3	340	軽質	No.8	
46	礫物石	11.3	6.0	4.7	530	安山岩	No.9	
47	礫物石	10.5	7.4	2.3	345	安山岩	No.10	
48	礫物石	11.8	5.7	4.2	395	多孔質安山岩	No.12	
49	礫物石	9.9	6.7	2.4	190	安山岩	No.13	
50	礫物石	11.2	4.7	3.9	275	粘板岩	No.14	
51	礫物石	11.0	6.9	3.9	370	安山岩	No.15	
52	礫物石	10.0	6.7	3.6	340	安山岩	No.16	
53	礫物石	13.5	5.8	3.8	430	石質?	No.21	
54	礫物石	11.7	10.6	5.3	540	軽石 (ガラス質残存。)		
55	礫物石	6.2	8.3	4.8	820	安山岩	No.25	
56	石肌	10.0	8.0	6.5	650	安山岩	No.26	
57	礫物石	12.7	7.2	3.3	430	安山岩	No.28	
58	礫物石	11.0	7.7	6.1	650	安山岩	No.29	
59	礫物石	9.8	6.4	2.7	240	輝石安山岩	No.30	
60	スリ石	12.9	9.6	8.4	1,300	風礫石	No.31	

8) H 9号住居址 (第20~22図、図版6・78・79)

BⅠ7グリットで検出され、砂層中に構築している。I N P Ⅱ区で北を調査し、合わせている。D27・単独ピット181・182・185・202・229に切られる。南北464cm、東西474cmを測る方形の住居址である。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は北を指す。カマドの火床上面からは滑石製の臼玉が4個出土している。主柱穴は4本で径42~56cmの掘方に径20cmほどの柱痕が残っていた。南壁下にP 6、南東に貯蔵穴、南西の隅の床下からも同様のピットが検出された。間仕切り溝が主柱穴まで壁から掘り込まれている。床面には多くの石が出土している。

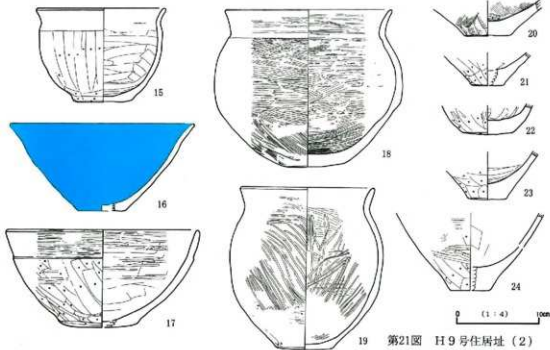


第20图 H9号住居址(1)

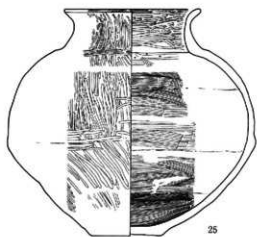


109 土層説明

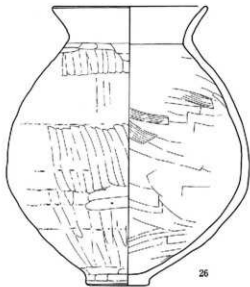
- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 埴山砂・小石を含む。 |
| 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 1層より黒色灰く、質硬塊いこらあり。 |
| 3. 赤色土層 (10R1.7/3) | 埴山砂・小石を含む。 |
| 4. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 埴山砂を多く含む。 |
| 5. 暗褐色土層 (10YR3/2) | 埴山砂・小石を多く含む。(関東) |
| 6. 暗赤褐色土層 (2.5Y5/4) | カマド遺蹟。 |
| 7. 赤褐色土層 (2.5Y4/4) | 粘土。(カマド隣接) |
| 8. 暗赤褐色土層 (5YR3/4) | (カマド壁方) |
| 9. 暗赤褐色土層 (7.5YR2/2) | 埴山砂ブロックを含む。(カマド壁方) |
| 10. 赤色土層 (10R1.7/3) | (柱溝) |
| 11. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 埴山砂・礫を多く含む。(ピット壁方) |
| 12. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 埴山砂・小石を多く含む。(堀溝) 跡あり。 |
| 13. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 13層に黒色土を含む。(堀溝) |
| 14. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 埴山砂・礫を多く含む。(堀溝) |
| 15. 灰白・黄褐色土層 (10YR4/2) | 埴山砂・黒色土を多く含む。(堀溝) |
| 16. 褐色土層 (10R4/4) | 砂土。(堀溝) |
| 17. 赤褐色土層 (10YR3/2) | 埴山砂・小石を含む。(P5) |
| 18. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 埴山砂ブロックを含む。(P8) |



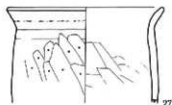
第21図 H9号住居址(2)



25



26



27



35



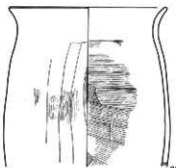
36



37



38



28



39



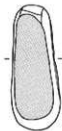
40



41



42



43



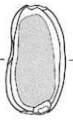
44



45



46



47

第22图 H9号住居址(3)

0 (1:4) 10mm

第8表 H9号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土状況
1	須恵器 短頸壺	(9.2) (8.8) (4.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部と底部外周部へラケズリ	口縁1/6残存 内 N6/0 (灰) 外 N7/0 (灰白)	緻密。石英・長石・輝石含む。	Ⅳ区2層
2	須恵器 蓋	- (3.1) (1.7)	内 ロクロナデ後へラナデ 外 ロクロナデ後天弁部回転へラケズリ→つまみ跡付	つまみ部ほぼ完形 内 5Y6/1 (灰) 外 5Y6/1 (灰)	石英・長石含む。 ※天弁部自然離れ付着	I区
3	土師器 杯	14.8 9.5 4.6	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ後天弁部ミガキ・底部へラケズリ	口縁1/2残存 内 N3/0 (暗灰) 外 7.5YR6/2 (灰褐色)	石英・長石含む。さめ細かい。 まれに3mm大砂粒含む。	No.7 Ⅳ区1・2層 検出
4	土師器 杯	(12.8) (8.0) (3.5)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁5/6残存 内 N2/0 (黒) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	緻密。石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅳ区3層
5	土師器 杯	(17.6) (11.2) 4.8	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ (後黒色処理?)	口縁1/8残存 内 N2/0 (黒) 外 N3/0 (暗灰)	緻密。石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅳ区2層
6	土師器 杯	(17.1) (11.0) (2.6)	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ミガキ・底部へラケズリ後ミガキ	口縁1/3残存 内 N3/0 (暗灰) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒 を含む。	Ⅳ区1層
7	土師器 鉢	(12.8) (13.2) 4.0	内 みこみ部ナデ→口縁ヨコナデ→全体に ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・底部へラケズリ	口縁1/3残存 内 N4/0 (暗灰) 外 7.5YR8/3 (淡黄橙)	~1mm大石英・長石・赤色 粒を含む。	No.1 I区
8	土師器 鉢	(12.8) (12.6) (3.7)	内 口縁ヨコナデ→全体へラナデ 外 口縁ヨコナデ→底部へラケズリ	口縁1/4残存 内 7.5YR8/3 (淡黄橙) 外 7.5YR8/3 (淡黄橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒 を含む。	Ⅳ区1層
9	土師器 杯	(15.0) (11.2) (4.2)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ後黒色処理	口縁1/5残存 内 7.5Y1.7/1 (黒) 外 5YR2/1 (黒濁)	石英・長石含む。 さめ細かい。	検出
10	土師器 高杯	(8.8) (5.2)	内 胴部ヨコナデ→胴柱部へラナデ 外 胴部ヨコナデ→胴柱部へラケズリ	胴部1/3残存 内 5YR8/3・N4/0 (淡橙・灰) 外 7.5YR8/3 (淡黄橙)	~1mm大石英・長石・輝石 を含む。	Ⅳ区1層
11	土師器 鉢	(14.0) (14.0) (7.0)	内 口縁ヨコナデ→胴部へラナデ 外 胴部ナデ→口縁ヨコナデ	口縁1/8残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	~1mm大石英・長石・赤褐 色粒子を含む。	No.8
12	土師器 鉢	(15.0) (14.4) (6.4)	内 みこみ部へラナデ→口縁ヨコナデ 外 胴部へラケズリ・口縁ヨコナデ	口縁1/4残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	緻密。石英・長石・赤色粒子 を含む。	I区・Ⅲ区
13	土師器 椀	(2.8) (5.6)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ	底部1/2残存 内 2.5YR/2 (灰白) 外 2.5YR7/4 (淡水緑)	~1mm大石英・長石含む。	I区
14	土師器 高杯	- (8.2)	内 ナデ→ヘラナデ 外 略文	胴柱部のみ 内 5YR8/3 (淡橙) 外 5YR8/3 (淡橙)	緻密。石英・長石・輝石・赤 色粒子を含む。	Ⅳ区1層
15	土師器 小形壺	(15.9) 7.1 11.5	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部へラナデ 外 胴部と底部へラケズリ→口縁ヨコナデ	口縁1/2残存・底部完形 内 10R6/6・N2/0 (赤橙・黒) 外 10R6/6 (赤橙)	~2mm大石英・長石・輝石 多く含む。	No.15 No.19 Ⅱ区1層 Ⅲ区
16	土師器 鉢	(22.6) (5.6) 10.6	内 ヨコナデ後ミガキ後黒色処理 外 胴部ナデ・底部と底部外周へラケズリ→ 口縁ヨコナデ後ミガキ後黒色処理	口縁1/6・底部1/2残存 内 N3/0 (暗灰) 外 2.5Y5/1 (黄灰)	石英・長石含む。	Ⅱ区1・2層
17	土師器 鉢	23.6 9.7 11.9	内 ヘラナデ後ミガキ (後黒色処理?) 外 口縁ヨコナデ後ミガキ・胴部へラケズリ 後ミガキ・底部へラケズリ	口縁ほぼ完形・底部3/4残存 内 7.5YR7/3・N3/0 (にぶい橙・暗灰) 外 7.5YR8/3 (淡黄橙)	~2mm大の長石粒多い。 輝石・赤褐色粒子含む。	No.14・18・21 Ⅲ区 Ⅲ区床 Ⅲ区南縁
18	土師器 壺	20.6 7.3 19.3	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁1/2残存・底部完形 内 10YR7/2 (にぶい黄橙) 外 10YR8/3 (淡黄橙)	緻密。石英・長石・赤褐色粒 を含む。	No.3・5・8・10 No.12・20 I区・I区床 Ⅳ区3層・床 検出
19	土師器 壺	(6.4) (6.8) 19.9	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部へラナデ (扉目) 後ミガキ (略文残) 外 口縁ヨコナデ・胴部へラケズリ後ミガ キ・底部へラケズリ	口縁一部残存・底部ほぼ完形 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒 子を含む。	No.8 No.9 I区・Ⅲ区 Ⅳ区2・3層
20	土師器 壺	- (5.8) (4.4)	内 ヘラナデ (扉目) 外 胴部へラナデ・底部ナデ	底部ほぼ完形 内 5YR8/3 (淡橙) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒 子を含む。	No.16 Ⅱ区2層 Ⅲ区
21	土師器 壺	- (4.0) (4.1)	内 ヘラナデ 外 胴部へラケズリ・底部へラケズリ	底部1/2残存 内 5YR5/1 (暗灰) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	~2mm大長石粒多い。 ※内面剥離	No.19
22	土師器 壺	(6.0) (3.6)	内 ヘラナデ 外 胴部へラケズリ後ミガキ・底部へラケズリ	底部1/2残存 内 5YR6/3 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	1mm以下の石英・長石、 ~3mm大赤褐色粒子含む。	Ⅳ区1層
23	土師器 壺	- 4.8 (5.9)	内 ヘラナデ 外 胴部へラケズリ・底部へラケズリ	底部完形 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR5/2 (灰赤)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒を含む。	Ⅳ区2層

24	土師器 壺	- (4.6) (9.5)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ後ミガキ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 2.5YR7/1 (淡赤橙) 外 5YR5/2 (灰褐色)	1mm以下の細石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅲ区
25	土師器 壺	(16.7) 8.4 27.8	内 外	口縁ミガキ・胴部から底部ヘラナデ(椀目) 口縁から胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	口縁1/2残存・底部完形 内 7.5YR6/2・7/3 (灰緑・にぶい橙) 外 5YR6/3・7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒子含む。 ※外器下半部剥離著しい。	No.2-6-19-20 Ⅰ区 Ⅳ区2・3層
26	土師器 壺	19.0 7.8 31.2	内 外	口縁ココナデ・胴部ヘラナデ 口縁ココナデ→胴部ヘラナデ	口縁1/2残存・底部完形 内 10YR7/2 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	細石英・長石・～2mm大の赤色粒子含む。	No.4-6-11 No.13・38 Ⅱ区2層 Ⅳ区2・3層 Ⅳ区4層
27	土師器 壺	(19.2) - (11.7)	内 外	口縁ココナデ・胴部ヘラナデ 口縁ココナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 5YR6/3 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	1mm大石英・長石・チャート粒子多く含む。	No.17・19 Ⅱ区1・2層 Ⅲ区4層 Ⅳ区3層
28	土師器 壺	(19.2) - (19.5)	内 外	口縁ココナデ・胴部ヘラナデ(椀目) 口縁ココナデ・胴部ヘラナデ(椀目)	口縁1/7残存 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	～1mm以下の石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅰ区 Ⅱ区2層
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
29	白玉	0.8	0.8	0.4	0.51	滑石	No.34
30	白玉	0.8	0.8	0.6	0.59	滑石	No.35
31	白玉	0.8	0.8	0.3	0.32	滑石	No.36
32	白玉	0.8	0.8	0.35	0.38	滑石	No.37
33	石炭	<1.5>	1.35	0.25	<0.29>	黒曜石(先層欠損)	Ⅰ区
34	石炭	<2.4>	1.15	0.4	<0.95>	黒曜石	Ⅰ区
35	スリ石	7.6	5.9	3.8	205	安山岩 前面ミガキ(トーン部分は、特にミガキがある)	
36	スリ石	7.8	5.0	2.8	65	御結凝灰岩	No.28
37	スリ石	14.7	11.5	13.2	2,100	黒曜石	No.31
38	編物石	9.2	4.7	2.0	130	安山岩	
39	編物石	13.9	5.7	4.1	470	花崗岩	No.22
40	スリ石	3.4	3.2	2.7	35.4	安山岩	Ⅳ区2層
41	スリ石	5.4	4.0	2.9	90	チャート	No.26
42	スリ石	16.6	12.6	9.8	2,240	黒曜石	No.29
43	編物石	15.4	6.0	5.3	700	チャート	検出
44	編物石	12.4	7.9	6.2	915	黒曜石	No.30
45	編物石	14.0	6.0	4.3	470	凝灰砂岩	No.24
46	編物石	<10.6>	8.9	3.8	<270>	輝石	No.33
47	敷打石・編物石	13.2	7.3	4.6	700	安山岩	No.23
48	鏝	<2.1>	<3.0>	<0.3>	<4.4>	換装品	壺方

出土遺物には須恵器、土師器、滑石製白玉、鉄製鏝、編物石、スリ石、黒曜石製石炭がある。須恵器短頸壺(1)は底部と胴下部がヘラケズリされる。土師器杯は(3～9)、小さい丸底に大きな口縁を持つ杯B(3～6)と須恵器杯身模倣の杯D(7・8)がある。9は前代の混入品であろう。土師器壺(25)は外面ミガキが施され、胴下部の器形は、屈曲気味である。壺は長胴化した(27・28)と長胴化せず、丸みを持つ壺(26)がある。これらより、本址の土器群は、古墳時代後期前葉であろう。

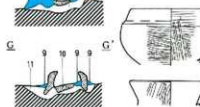
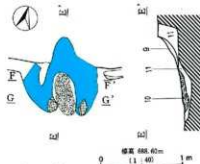
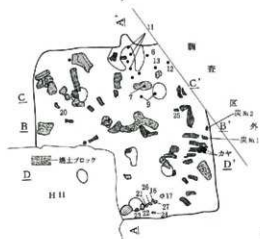
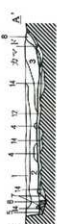
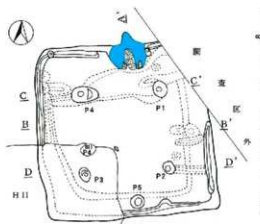
9) H10号住居址(第23・24図、図版7・80)

Dこ8グリットで検出され、砂層中に掘り込んでいる。H11に南西を切られ、H13を切る。北東は通路の確保のため未調査である。南北384cm、東西396cmを測り、方形を呈す。主軸はやや西に振れる。カマドは北壁中央にあり、P1～P4の4本主柱穴である。柱穴は堀方に柱痕が残っていた。南壁下中央にP5がある。焼失家で、炭化材が多く残り、所々に焼土ブロックがみられた。

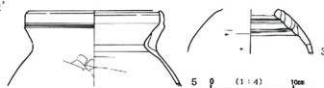
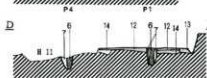
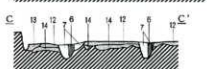
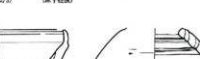
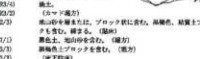
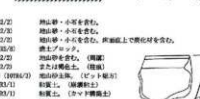
出土遺物には土師器、滑石製白玉、土製丸玉、編物石がある。土師器は重複したため、2～5の意は前代の混入品であろう。1の杯は杯身模倣の杯Dであり、壺は長胴化し、ミガキ壺の7と胴部ヘラケズリの6・9・11・12がある。13は丸胴の甕で、口径が広い。編物石は16・17・21～24・26～28の9個が南壁下で一列に並んで出土している。

これらより、本址は古墳時代後期前葉であろう。

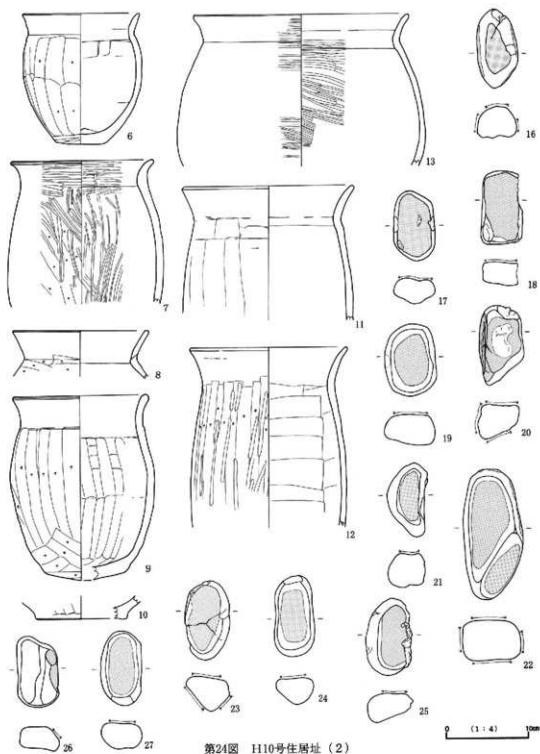
本址の炭化材は、炭No.1がキハダ属、炭No.2がカラマツとされた。



- H10 土層説明
1. 黒褐色土層 (1092/2) 赤山砂・小石を含む。
 2. 黒褐色土層 (1092/2) 赤山砂・小石を含む。
 3. 黒褐色土層 (1092/2) 赤山砂・小石を含む。前面段上で硬化材を含む。
 4. 褐色土層 (1092/4) 土ブロック。
 5. 黒褐色土層 (1092/2) 赤山砂を含む。(埋戻)
 6. 黒褐色土層 (1092/2) または褐色土。
 7. ぶい・黒褐色土層 (1092/2) 赤山砂土層。(ビッド状)
 8. 黒褐色土層 (7.593/1) 和瓦。(埋戻)
 9. 黒褐色土層 (7.593/1) 和瓦土。(カマド構築土)
 10. 赤褐色土層 (1092/4) 黄土。
 11. 黒褐色土層 (7.102/2) (カマド基)
 12. 黒褐色土層 (1092/2) 赤山砂を埋めた上、ブロック状に含む。黒褐色。粘質土ブロックも含む。(埋戻)
 13. 黒色土層 (1092.1/1) 黒色土。赤山砂を含む。(埋戻)
 14. 黒褐色土層 (1092/2) 黒褐色土ブロックを含む。(埋戻)
 15. 黒褐色土層 (1092/2) (※下段)



第23図 H10号住居址(1)



第24图 H10号住居址(2)

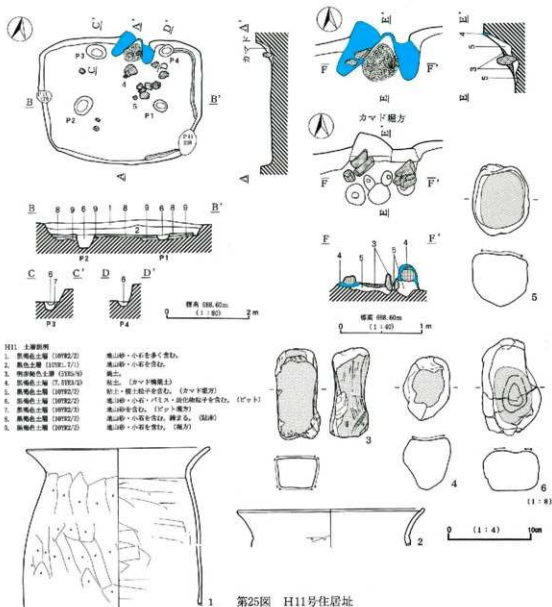
第9表 H10号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	土師器 杯	(9.8) (12.4) (7.0)	内 口縁部ヨコナデ後ミガキ (後黒色処理?) 外 口縁部ヨコナデ・底部ミガキ (後黒色処理?)	1/2残存 内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	緻密。細かい石英・長石粒を含む。 ※内面割落	IV区 IV区東方 IV区3層	
2	土師器 小型丸底	(10.0) - (3.2)	内 口縁部ヨコナデ 外 口縁部ヨコナデ後ミガキ	口縁部1/4残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/6 (橙)	緻密。石英・長石粒多く含む。 ※内面割落	検出 カマド	
3	土師器 壺	- (5.5)	内 輪縁直残存。 外 ヘラクスリ	胴上部のみ1/4残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	緻密。赤褐色粒子含む。 細かい石英・長石粒含む。 ※底面剥落しい。	1区	
4	土師器 壺	- (5.7)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁部残存 内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	緻密。石英・長石粒を含む。	検出	
5	土師器 壺	(17.1) - (9.2)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ	口縁1/12残存 内 5YR6/1・7/4 (帯灰・にぶい橙) 外 5YR7/2・8/3 (明帯灰・淡橙)	石英・長石・麻石含む。	IV区東方	
6	土師器 小型壺	14.4 6.0 16.0	内 胴部ヘラナデ・ナデ-口縁部ヨコナデ 外 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラクスリ・底部ミガキ	ほぼ完形 内 2.5YR4/3 (にぶい赤褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	粒子やや粗い。1-3mm大チャート粒多く、1mm石英・長石粒含む。	No.8	
7	土師器 壺	17.6 - 17.8	内 胴部ナデ-口縁・胴部ミガキ 外 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラクスリ-全体にミガキ	口縁-胴部3/4残存 内 2.5YR3/3 (暗赤褐) 外 2.5YR5/3 (にぶい赤褐)	緻密。1mm大石英・長石粒を含む。	No.11 検出 1区	
8	土師器 壺	(16.7) - (5.6)	内 胴部ナデ-口縁部ヨコナデ 外 胴部ヘラクスリ-口縁部ヨコナデ	口縁1/3残存 内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	緻密。石英・長石粒、まれに3mm大チャート粒を含む。	IV区東方	
9	土師器 壺	16.5 (10.0) 22.5	内 口縁ヨコナデ-ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ-ヘラクスリ	1/2残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR4/3 (にぶい赤褐)	やや粗い。石英・長石粒にまれに4mm大大小含む。	検出 1区 No.12・13 IV区2層	
10	土師器 壺	- (11.0) (2.0)	内 ナデ 外 ヘラナデ・底部ヘラクスリ	底部のみ1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	緻密。1mm大石英・長石粒を含む。	検出	
11	土師器 壺	21.0 - 16.5	内 口縁部ヨコナデ-胴部ナデ 外 口縁部ヨコナデ-胴部ヘラクスリ	口縁-胴上半2/3残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	やや粗い。1mm長石・石英粒・5mm大赤褐色粒子を含む。	No.2・6・7 IV区2・3層 1区	
12	土師器 壺	(19.2) - (22.0)	内 口縁ヨコナデ-胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ-胴部ヘラクスリ後部分的にミガキ	口縁1/6残存 内 7.5YR3/3 (にぶい橙) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	石英・長石含む。	No.9 1区	
13	土師器 壺	(26.4) - (18.7)	内 ハケナデ-ミガキ 外 ミガキ	胴部1/2残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/8 (橙)	丸胴壺。2mm大長石・チャート粒が多く含む。 ※内面口縁部・外面割落着しい。	H10・11 No.10 1区2層	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
14	白玉	0.9	0.85	0.9	1.2	薄片面ミガキ調整される。	2層
15	丸玉	0.85	0.95	0.75	0.57	土製	駄床下
16	礫物石	9.7	5.1	4	240	礫石安山岩 スリ面あり。	No.16
17	礫物石	8.6	5.1	3.1	160	安山岩 スリ面あり。	No.15
18	礫物石	9.1	<5.2>	2.8	<240>	安山岩 スリ面あり。検出	
19	礫物石	8.8	6.4	3.7	250	礫石安山岩	
20	礫物石	8.9	5.7	4.3	310	礫石安山岩 スリ面あり。	No.23
21	礫物石	8.9	5.1	4.0	220	安山岩 わずかにスリ面あり。	No.19
22	礫物石	15.8	7.4	5.0	920	スリ面あり。(石質?)	No.20
23	礫物石	9.6	<5.5>	4.2	<300>	安山岩 スリ面あり。	No.21
24	礫物石	9.9	5.0	3.2	250	硬砂岩 スリ面あり。	No.22
25	礫物石	9.3	<5.2>	3.5	<220>	安山岩 スリ面あり。	No.14
26	礫物石	8.8	4.9	3.1	170	多孔質安山岩 スリ面あり。	No.18
27	礫物石	9.1	5.0	3.3	200	礫石安山岩 スリ面あり。	No.17

10) H11号住居址 (第25図、図版8・81)

Dこ9グリットにあり、砂層中に構築している。H10・H13を切る。F31を切る。単P176・208に切られる。南北280cm、東西352cmの東西に長い胴張りの長方形を呈す。主軸はやや西に傾いている。主柱穴はP1・P2の2本である。明確な柱痕は検出できなかった。カマドは北壁のやや東寄りにつけられており、両脇にP3・P4のピットがある。

出土遺物には土師器、砥石、スリ石がある。土師器壺は口縁部形が「く」の字形の武蔵甕である。これらより、本址は奈良時代であろう。



第10表 H11号住居址出土遺物一覧表

番号	部類	法量	成 形 ・ 測 量	残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置	
1	土師器 甕	(22.5) - (15.4)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 2.5YR5/3 (にぶい・赤褐色) 外 5YR7/3 (にぶい・橙)	石英・長石・輝石含む。	カマド 1区1・2層 目10使出	
2	土師器 甕	(23.0) - (4.5)	内 ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/6残存 内 5YR6/3 (にぶい・橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい・橙)	石英・長石含む。	カマド	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
3	硃石	11.0	5.6	3.7	400	凝灰岩	
4	スリ石	7.8	5.7	6.3	280	安山岩?	
5	スリ石	8.7	6.9	6.5	500	輝石安山岩	
6	円石	23.5	14.4	9.9	2770	凝岩?円あり。	

11) H12号住居址 (第26図、図版8・81)

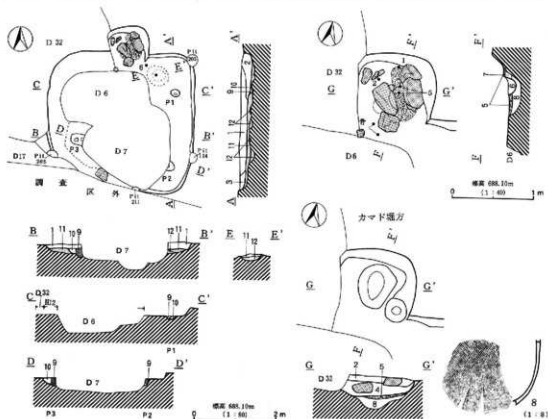
Bく9グリットにあり、南側は調査区外で一部未調査である。D6・D7・D17・D32と単独ピット114・203・205・211・338に切られる。住居址の大半は重複により壊されている。南北331cm東西344cmの方形を呈する。主軸はほぼ北を指す。カマドは北壁にあり、カマドが80cm方形に突出する。骨片が出土したが種類は不明である。

出土遺物は須恵器・土師器があり、須恵器は底部回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものである。土師器は武藏産で口縁部形が「く」の字形に近いものである。

これらより本址は、奈良時代末の住居址であろう。

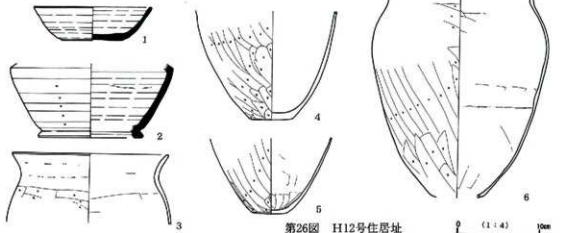
第11表 H12号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	注量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	(14.4) (7.7) 4.1	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ	口縁1/3・底部1/3残存 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	2mm大小石含む。 石英・長石・輝石含む。 扉内外面に火だすき有	No3 カマド
2	須恵器 壺	(12.8) (9.0)	内 ロクロナデ 外 胴部ロクロナデ後下部回転ヘラケズリ→高台貼付	底部1/8残存 内 N7/0 (灰白) 肩 10B6/2 (灰赤) 外 N6/0 (灰)	石英・長石含む。 扉肩部に自然輪付着 貼付高台	No4
3	土師器 壺	(19.1) - (8.5)	内 1線ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 10B6/6 (赤橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・角閃石含む。	カマド
4	土師器 壺	(5.2) - (13.3)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。 扉内面割削重しい。	I区 II区1・2層
5	土師器 壺	(4.3) - (9.3)	内 胴部から底部ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 内 5YR6/3 (にぶい橙) 外 5YR4/2 (灰橙)	石英・長石・輝石・角閃石含む。	No5 I区 カマド
6	土師器 壺	(20.0) (7.7) (27.9)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 1線ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR5/2 (灰赤)	石英・長石・輝石含む。	No2・5・7 カマド
7	土師器 鉢	(22.8) - (4.6)	内 ミガキ黄褐色焼成 外 ヨコナデ	口縁1/8残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石含む。	II区掘方 D6



H12 土層説明

1. 赤褐色土層 (10952/2) 地山砂・小石を含む。
2. 黒色土層 (10951/1) 地山砂・小石を含む。
3. 赤褐色土層 (10952/2) 地山砂・小石・炭化物粒子・骨小片を含む。
4. 赤褐色土層 (10952/2) 雑土。
5. 赤褐色土層 (7,592/2) 雑土・地山砂・小石を含む。
6. 黒色土層 (10954/0) 黄褐色土層。 (カマド遺跡)
7. 赤褐色土層 (10952/2) 地山砂・小石を含む。 (カマド東方)
8. 赤褐色土層 (10952/2) 雑土。
9. 黒色土層 (10952/1) 地山砂・小石を含む。 (ピット東方)
10. 赤褐色土層 (10952/2) 地山砂・小石を含む。 (500) 跡まるところもあり。
11. 赤褐色土層 (10952/2) 地山砂を多く含む。 (堀3)



第26図 H12号住居址

12) H13号住居址 (第27図、図版9・81)

Dこ8グリットにあり、東側は道路確保のため未調査であり、大半を重複するH10に壊され、H11・半独ピット231にも切られる。M4を切る。掘り込みも浅いことから住居址プランがつかめず、図示した住居址形態は確実ではない。南東には炭化材がみられる。北東は未調査であるが規模から推定して、カマドは設けられていないようである。主柱穴2本が西側に検出され、残存しておれば4本柱の住居であろう。

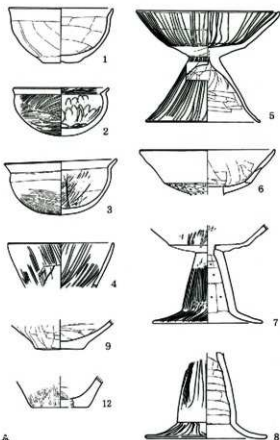
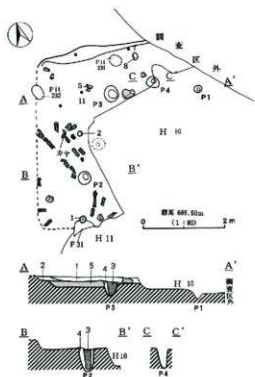
出土遺物には土師器と種類はわからないが鉄製品の破片がある。混入品の頁岩製の磨製石鏃未製品 (13) と黒曜石製の石鏃 (14) も出土する。土師器杯は深い丸底から口縁部が短く外方に折れる杯A (2・3) で、暗文が施される。鉢 (1)、小型丸底の壺 (4)、内外面に暗文を施す大型の高杯 (5・7・8)、横方向のヘラケズリが胴下部に施される甕 (11) がある。

これらより本址は古墳時代中期であろう。

本址より出土した炭化材は、コナラ属タヌギ節、タケ亜科と樹種同定された。

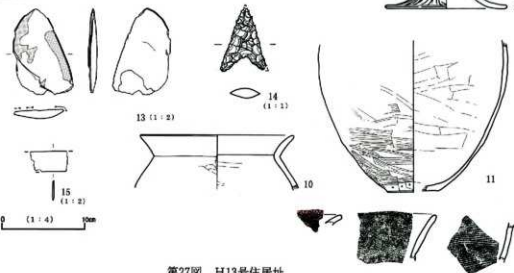
第12表 H13号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 装 壺	残存量・色調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
1	土師器 鉢・杯	12.8 4.3 6.5	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 外 胴部ヘラナデ→底部ヘラナデ→口縁ヨコ ナデ	完形 内 5YR7/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子少量含む。	
2	土師器 杯	11.8 - 5.9	内 口縁ミガキ・みこみ部暗文 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラナデ (縦目) 後 ミガキ	完形 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	
3	土師器 杯	13.7 - 6.8	内 みこみ部ナデ→口縁ヨコナデ→全体に ミガキ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラナデ (縦目)	口縁2/3残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	B区
4	土師器 小型丸底	(13.1) - (5.4)	内 ヨコナデ後放射状暗文施す。 外 ヨコナデ後放射状暗文施す。	口縁1/4残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒子 含む。 ※外面に刷書あり。	B区
5	土師器 高杯	17.5 (14.0) 13.5	内 杯部ヨコナデ後放射状暗文施す・みこ み部に輪状に沈線あり。 脚部 脚部ヨコナデ→脚柱部ヘラナデ 杯部 口縁ヨコナデ後放射状暗文施す。 脚部 脚柱部ナデ→脚部ヨコナデ後放 射状暗文施す。	口縁完形・脚部3/4残存 内 7.5YR6/4 (浅黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	No.3



H13 土器図例

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 黒褐色土層 (3192/2) | 地山砂・小石を含む。 |
| 2. 黒褐色土層 (3192/3) | 地山砂を多く含む。 |
| 3. 黒褐色土層 (3192/2) | (埋藏) |
| 4. 黒褐色土層 (3192/2) | 地山砂・小石を多く含む。(ピット層内) |
| 5. 黒褐色土層 (3192/2) | 地山砂・小石を含む。(埋藏) |



第27図 H13号住居址

6	上脚器 高杯	(16.7) - (4.5)	内 外	口縁ヨコナデ→口縁下平から底部ヘラナデ 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	口縁2/3残存 内 10YR8/2 (灰白) 外 10YR8/2 (灰白)	石英・長石・赤褐色粒子含む	Ⅱ区
7	上脚器 高杯	- 13.6 (12.0)	内 外	杯部残文 胴部 胴部ヨコナデ→脚柱部ヘラケズリ 杯部 残文 脚部 残文	脚部2/3残存 内 2.5YR7/4 (淡赤黄) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。 ※杯部内外面剥離	No.6
8	上脚器 高杯	- 14.9 (10.5)	内 外	底部ヨコナデ→輪痕直横して脚柱部ヘラナデ 口縁ヨコナデ・底部ヨコナデ・残文	脚部1/2残存 内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.5
9	土師器 甕	5.9 (3.6)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラナデ・底部ヘラナデ	底部完形 内 7.5YR5/2 (灰黄) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.3 E 2層
10	土師器 甕	(18.7) - (6.6)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁1/3残存 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR6/1 (褐灰)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅲ区・Ⅳ区 H10横出
11	土師器 甕	6.4 (18.5)	内 外	ヘラナデ 胴部ナデとヘラケズリ後脚下半部ヘラナデ (節目)・底部ヘラナデ (節目)	底部1/2残存 内 10YR8/4 (淡黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	石英・長石・輝石含む。	No.14 Ⅲ区 H10横出
12	土師器 甕	(6.8) (3.8)	内 外	ヘラナデ 胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 10YR8/3 (淡黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅳ区
番号	種類	長さ	巾	厚さ	β	備考	出土位置
13	磨製石鏡	5.2	3.6	0.55	9.7	黒色緻密安山岩	Ⅳ区
14	石鏡	1.95	1.45	0.35	0.54	黒曜石	Ⅲ区
15	刀子?	(1.2)	(2.3)	(0.1)	(1.3)	鉄製品	Ⅲ区

13) H14号住居址 (第28・29回、図版9・10・82)

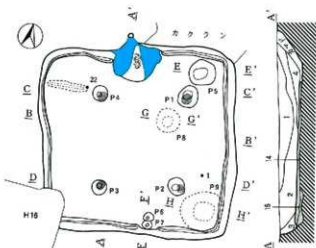
F10グリットにあり、砂層中に構築する。H16に南西隅を切られ、H29・H65・F8を切る。南北414cm、東西428cmを測る方形の住居である。カマドは北壁中央にあり、粘質土が崩壊して床面に多量に残っていた。主柱穴はP1～P4の4本柱で明確な堀方と柱痕がみられた。南壁下中央にP6・P7の小ピット、北東には径56cmを測る隅丸方形の貯蔵穴がある。北西のP4に西壁からの間仕切り溝が伸びる。

出土遺物には須恵器、土師器、滑石製臼玉(17)、磨製石鏡と未製品(20・18・19)、燧石(22・23)がある。須恵器甕(1)は胴部がナデ形で、底部ヘラケズリ、中にカキメと沈線で横線を巡らしている。2は手捏、杯は須恵器杯蓋の横紋杯Eである。6・7の杯と小型丸底は混入品であろう。甕は長胴化し、外面ヘラケズリ調整され、口径に最大径を持つ(12)。

これらより、古墳時代後期中葉であろう。

第13表 H14号住居址出土遺物一覧表

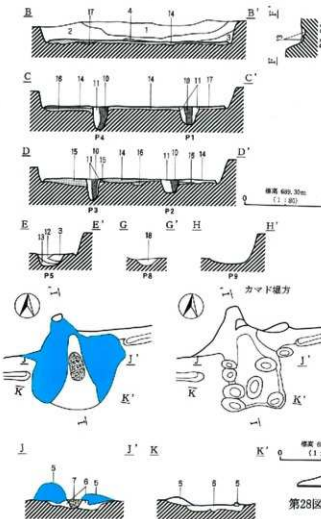
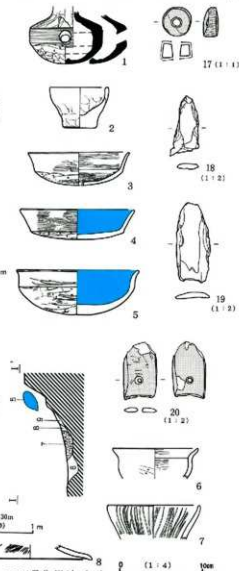
番号	器種	法号	成形・調整	残存率・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 甕	- (7.0)	内 外	口縁ナデ 胴部ヘラナデ・底部ヘラケズリ・胴部カキメ施した後2本の沈線で区切る。	底部完形 内 5Y7/1 (灰白) 外 6Y6/1 (灰)	石英・長石・赤褐色粒子含む No.1 胴部にヘラ記号あり。
2	土師器 手捏	(7.2) 4.2 5.0	内 外	指ナデ 胴部指ナデ・底部ナデ	底部完形・口縁一部残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む Ⅳ区2層
3	土師器 杯	(12.5) (10.8) 4.0	内 外	口縁ヨコナデ・みこみ部ヘラナデ→全体に相いミガキ 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ→全体に相いミガキ	口縁1/3残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。 Ⅰ区2層
4	土師器 杯	(14.1) (11.3) 3.7	内 外	ミガキ後黒色処理 口縁ミガキ・底部ヘラケズリ	口縁2/3残存 内 N3/0 (暗灰) 外 5YR4/2・3/2 (灰褐)	石英・長石・輝石・赤褐色粒子含む。 Ⅰ区2層 Ⅱ区2層
5	土師器 杯	(15.0) 14.2 5.5	内 外	みこみ部ヘラナデ・口縁ヨコナデ→全体に相いミガキ後黒色処理 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ→全体に相いミガキ	口縁3/4残存・底部完形 内 N2/0 (黒) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 みこみ部磨滅 Ⅰ区 Ⅰ区2層
6	土師器 杯	(10.4) (3.7)	内 外	ミガキ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/3残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 Ⅳ区
7	土師器 小型丸底	(11.3) - (4.2)	内 外	ヨコナデ後残文 ヨコナデ後残文	口縁1/4残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・輝石含む。 Ⅰ区



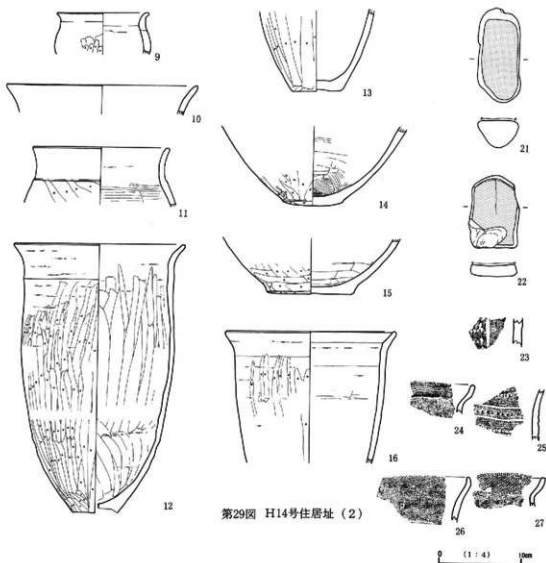
H14 土層説明

1. 黒褐色土層 (1092/2)
2. 暗褐色土層 (1093/2)
3. 黒色土層 (1093.7/1)
4. 黒褐色土層 (7.893/2)
5. 暗褐色土層 (1093/2)
6. 黒褐色土層 (1093/2)
7. 黒褐色土層 (1093/2)
8. 黒褐色土層 (1093/2)
9. 暗褐色土層 (1093/2)
10. 暗褐色土層 (1093/2)
11. 暗褐色土層 (1093/2)
12. 暗褐色土層 (1093/2)
13. 暗褐色土層 (1093/2)
14. 暗褐色土層 (1093/2)
15. 暗褐色土層 (1093/2)
16. 暗褐色土層 (1093/2)
17. 暗褐色土層 (1093/2)
18. 暗褐色土層 (1093/2)

地山砂・小石多く含む。炭化物粒子含む。
 地山砂・小石を含む。
 黒色土。地山砂・小石含む。
 粘土質。(カマド跡層)
 カマド跡層。
 炭化物を含む。(カマド跡層)
 炭化物。粘土ブロック・炭化物粒子を含む。
 炭化物を多く含む。土にしまりあまりない。
 砂粒。しまりはまったくない。(カマド跡層)
 狂土。
 地山の砂粒多く。小石を含む。(ピット遺跡)
 地山砂小石多く含む。(P5)
 地山砂小石含む。(P8)
 地山。砂粒を含む。(遺跡)
 地山砂粒・小石を含む。1093/6 コーム少量含む。
 砂粒の層。(遺跡)
 地山砂粒少し。小石を少し含む。(遺跡)
 地山砂粒・小石含む。粘土質になりあり。(P8)



第28図 H14号住居址 (1)



第29図 H14号住居址(2)

8	土師器 高杯	- (15.1) (1.8)	内 ヨコナテ 外 ヨコナテ後附文	胸腹部1/6残存 内 7.5YR8/4 (浅黄褐色) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤色粒子 含む。	Ⅱ区
9	土師器 小型壺	(11.3) - (5.1)	内 ヨコナテ 外 口縁ヨコナテ→胴部ヘラケズリとナテ	口縁1/8残存 内 7.5YR5/1・6/3 (黄灰・にぶい橙) 外 5YR5/2 (灰褐色)	石英・長石含む。	Ⅲ区
10	土師器 壺	(23.4) - (3.5)	内 ヨコナテ 外 ヨコナテ	口縁1/8残存 内 10YR8/3 (淡橙) 外 10YR6/3 (淡橙)	石英・長石・輝石含む。	Ⅰ区 Ⅱ区2層
11	土師器 瓶?	(16.8) - (7.3)	内 口縁ヨコナテ→胴部ハケナテ(瓶口) 外 口縁ヨコナテ→胴部ヘラナテ	口縁1/2残存 内 5YR8/4 (淡橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	胎土緻密。 石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区Ⅰ・2層 Ⅱ区・Ⅲ区2層 Ⅱ16層方
12	土師器 壺	(21.0) - (32.9)	内 口縁ヨコナテ→胴部ヘラナテ 外 口縁ヨコナテ・胴部ヘラケズリ	口縁1/3残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 10YR6/2 (灰褐色)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅰ区・Ⅱ区 Ⅲ区2層 P4・出土

13	土師器 壺	- (7.8) (10.0)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラナデ	底部はほぼ完形 内 5YR8/4 (淡橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。 ※内面磨耗	Ⅱ区1層 Ⅳ区
14	土師器 壺	3.4 (9.7)	内 外	ハケナデ(既口)後ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅱ区1・2層 Ⅳ区
15	土師器 壺	10.7 (6.8)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤色粒子 含む。	Ⅱ区2層 Ⅳ区
16	土師器 飯椀	021.0 (20.1)	内 外	胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	L線1/10残存 内 2.5YR7/4 (淡赤橙) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒 子含む。	カマド・Ⅰ区 Ⅱ区1層 Ⅳ区・P4
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
18	剥片未製品	(3.65)	(1.8)	0.35	(2.2)		検出
19	剥片	(4.9)	(2.1)	0.3	(3.7)	片岩	Ⅱ区
22	礫物石	8.9	6.1	1.5	130	安山岩わずかにスリ面あり。	Ⅱ区2層
21	礫物石	11.5	5.2	3.5	290	石質?スリ面あり。	Ⅱ区2層
20	磨製石鏃	(3.5)	2.0	0.3	(2.8)	片石先端欠損	Ⅱ区1層
17	白玉	0.9	0.85	0.45	0.55	滑石	No.2

14) H15号住居址 (第30・31図、図版11・12・82)

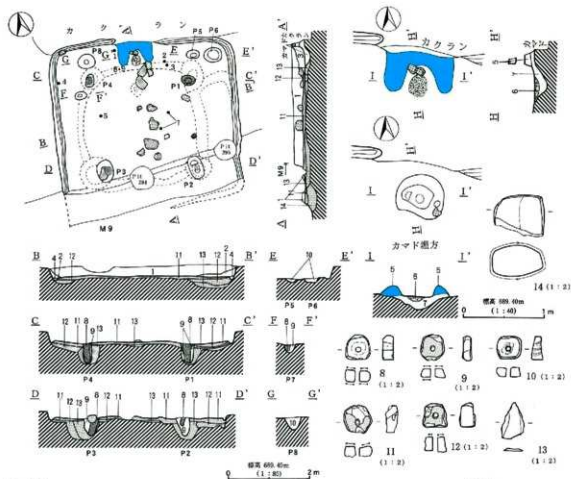
Gあ1グリットにあり、砂層中に構築される。F22を切り、M9に南を切られ、南壁は壊されている。北は掘乱にカマドの北側が壊されている。単P294・295に切られる。南北推定で376cm、東西415cmの南北に長い方形の住居址である。主軸はやや東にふれている。主柱穴はP1～P4の4本柱で、カマドの両側にビツトがある。

出土遺物には土師器、頁岩製白玉(8～12)、砂岩製砥石(14)、鉄製鎌・刀子(15・16)、片岩の剥片(13)がある。土師器杯は丸底の底部が浅くなった杯B、内面にミガキを施す杯E(3・4)がある。白玉は頁岩製の隅丸方形の径1.5cmを測る大きいものである。

これらより、本址は古墳時代後期前期であろう。

第14表 H15号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整		残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	15.0 9.7 4.5	内 外	ミガキ後黒色処理 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ後ミガキ	完形 内 32/0 (黒) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.7 Ⅳ区
2	土師器 杯	(13.9) (12.3) 4.0	内 外	口縁ヨコナデ・みこみ部ナデ全体にミガキ後黒色処理 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ後ミガキ	口縁1/2残存・底部完形 内 33/0 (暗灰) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.1
3	土師器 杯	14.0 13.7 5.2	内 外	口縁ヨコナデ・みこみ部ナデ後放射線測定を施した後黒色処理 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	ほぼ完形 内 7.5YR7/3・34/0 (にぶい橙・灰) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.2 Ⅰ区
4	土師器 杯	13.1 11.9 5.0	内 外	口縁ヨコナデ・みこみ部ナデ後放射線測定を施す。 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	完形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 含む。	No.6
5	土師器 小型壺	13.3 7.4 14.4	内 外	口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	ほぼ完形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・輝石・赤褐色粒 子含む。 ※外面磨耗甚しい。	No.5
6	土師器 鉢	(12.5) -	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ後脚文 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁3/4残存 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅳ区 G7 1検出
7	土師器 飯	(25.8) -	内 外	胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ・胴下平ヘラケズリ後口縁に黒いミガキ施す。 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ後口縁に黒いミガキ施す。	口縁1/2残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.3 No.4
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
8	白玉	1.5	1.5	0.7	2.44	頁岩	No.8
9	片岩	1.6	1.5	0.5	1.83	頁岩	No.8
10	白玉	1.4	1.5	0.7	1.98	頁岩	Ⅳ区検出
11	白玉	1.7	1.7	0.65	2.4	頁岩	カマド
12	白玉	1.5	1.5	0.9	3.07	頁岩	カマド
13	剥片	2.2	1.4	0.15	0.6	滑石	Ⅱ区
14	砥石	(2.5)	3.0	1.65	(20)	砂岩	Ⅳ区
15	刀子	(1.1)	(4.8)	(0.4)	(5.8)	鉄製品	Ⅰ区
16	鉄鏃	(9.9)	(1.3)	(0.6)	(14.2)	鉄製品	カクラン



115 土層説明

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1. 基層色土層 (1092/2) | 地山砂・小石多く含む。 |
| 2. 厚層色土層 (1092/2) | 地山砂・小石多く含む。 |
| 3. 厚層色土層 (1092/2) | 灰層上・黄土ブロックを含む。(カマド跡部) |
| 4. 厚層色土層 (1092/4) | 地山砂多く含む。(内庭) |
| 5. 厚層色土層 (1092/2) | 灰層上。壁けて内庭の特色を示す。(カマド跡部上) |
| 6. 厚層色土層 (1092/4) | 黄土。 |
| 7. 厚層色土層 (1092/2) | 地山砂含む。(カマド溝が埋土) |
| 8. 厚層色土層 (1092/2) | (埋土) |
| 9. 厚層色土層 (1092/4) | 地山砂多く含む。(ピット裏方) |
| 10. 厚層色土層 (1092/2) | 地山砂含む。(P5・P6) |
| 11. 厚層色土層 (1092/2) | 地山砂少量を含む。砂質土でやや硬さ9に欠ける。(30cm) |
| 12. 厚層色土層 (1092/2) | 地山砂主体層。下部に厚層色土(1092/2)を含む。(溝方) |
| 13. 厚層色土層 (1092/4) | |
| 14. 厚層色土層 (1092/2) | 地山砂主体層。(溝方) |

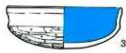
0 (1:4) 50cm



1



2



3



4

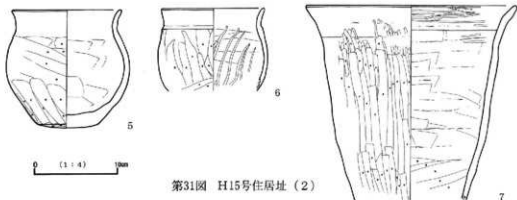


15 (1:2)



16 (1:2)

第30図 H15号住居址(1)



第31図 H15号住居址(2)

15) H16号住居址 (第32-33図、図版11・12・83)

Gえ1グリットで検出され、砂層中に構築する。M9に切られ、H14・H29・H65・F22を切る。南北462cm、東西499cm、東西にやや長い方形を呈する。主軸は北を指す。カマドは北壁中央に設けられていた。主柱穴はP1～P4の4本で径48～56cmの欄方の中に柱痕がみられた。南壁下に小ピットのP7、カマドの東に長さ60cm深さ40cmの貯蔵穴がある。

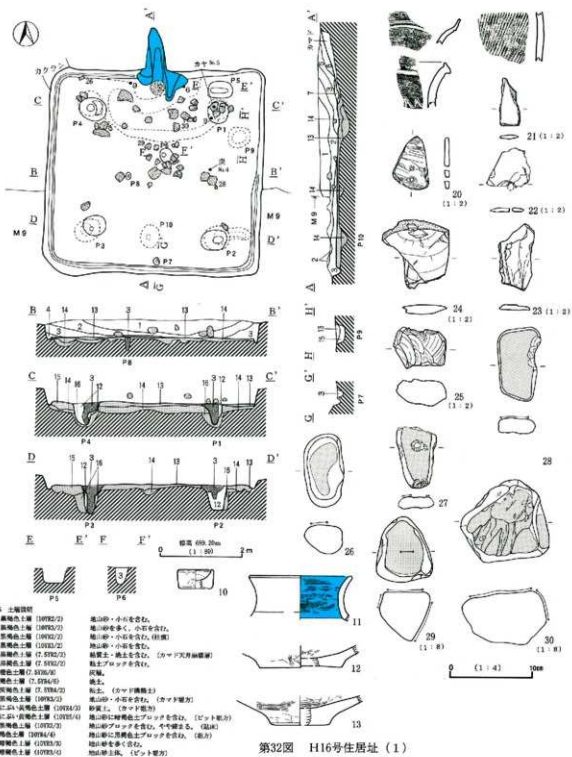
本住居址からは土師器、須恵器、石製模造品(20)、未製品(21-23)、黒色緻密安山岩の剥片石器(24)、チャート製石核(25)、燧石(26-28)、スリ石(29)、台砥石(30)が出土する。また図示した弥生時代中期の破片もみられた。土師器杯は1・2の須恵器杯産模倣の杯Eであるが、口縁と底部との境が不明瞭になってきている。4の杯は平底になっている。16-17は混入品である。壺は長頸壺でヘラケズリされる。

これらより、本住居址は古墳時代後期後葉であろう。

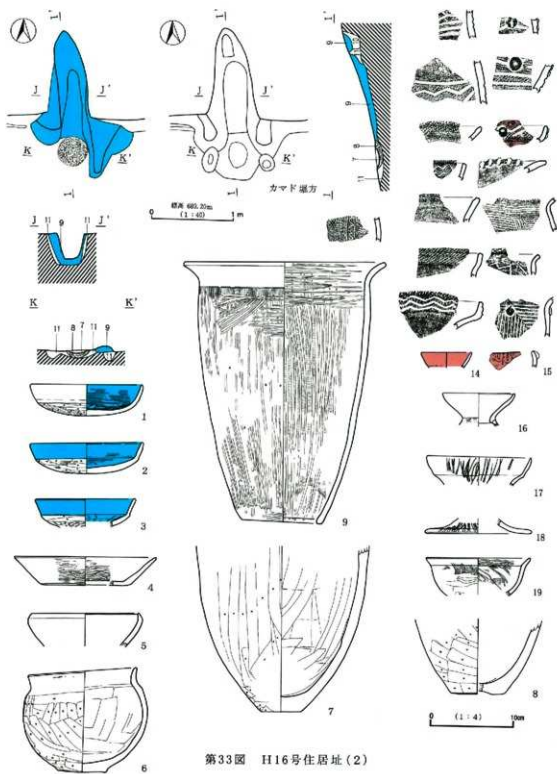
炭化材No.4はアワビキ属、カヤ状炭化物はカバノキ属と樹種同定された。

第15表 H16号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 装 飾	残存量・色調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
1	土師器杯	13.8 12.4 3.8	内 口縁ロコナデ・みこみ部ナデ後全体にミガキ後黒色処理 外 底部ヘラケズリ→口縁ロコナデ後ミガキ(後黒色処理?)	ほぼ完整 内 5YR7/3・N3/0(にぶい壺・帯灰) 外 7.5YR7/3・N2/0(にぶい壺・黒)	石英・長石・赤色粒子含む。	I区
2	土師器杯	13.7 12.0 3.9	内 口縁ロコナデ・みこみ部ナデ後ミガキ後黒色処理 外 底部ヘラケズリ→口縁ロコナデ後口縁部黒色処理	口縁1/2残存 内 5YR5/3・N3/0(にぶい赤壺・帯灰) 外 5YR7/4(にぶい壺)	石英・長石・黒色粒子・赤色粒子含む。	I区 カマド カマド床
3	土師器杯	(12.2) (10.6) (3.4)	内 みこみ部ナデ→口縁ロコナデ後放射線文施した後黒色処理 外 底部ヘラケズリ後放射線文→口縁ロコナデ後黒色処理	口縁1/4残存 内 7.5YR7/2・7.5YR5/1(明帯灰・帯灰) 外 7.5YR6/2(灰帯)	石英・長石・黒色粒子・赤色粒子含む。	II区1層 III区 カマド床
4	土師器杯	(17.4) (11.0) 3.5	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁一部残存 内 5YR7/4(にぶい壺) 外 2.5YR7/6(壺)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子含む。	II区礎方
5	土師器杯	(13.0) -	内 ロコナデ 外 腰部ナデ→口縁ロコナデ	口縁1/8残存 内 10B6/6(赤帯) 外 2.5YR7/6(壺)	石英・長石・赤色粒子含む。	II区1・2層
6	土師器小型壺	13.3 5.8 7.9	内 口縁ロコナデ→胴部から底部ヘラケズリ 外 口縁ロコナデ・胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	ほぼ完整 内 2.5YR7/6・7.5YR7/3(壺・にぶい壺) 外 2.5YR6/6・5YR7/4(壺・にぶい壺)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子含む。	No.1 I区 II区2層 IV区3層
7	土師器壺	- 4.7 (30.3)	内 ヘラケズリ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完整 内 2.5YR7/4(洗赤壺) 外 2.5YR5/6(洗赤壺)	石英・長石・黒色粒子・~4mm大赤色粒子含む。	I区 NK3層 カマド
8	土師器壺	- 6.5 (9.1)	内 ヘラケズリ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完整 内 5YR8/3(洗壺) 外 7.5YR7/4(にぶい壺)	石英・黒色粒子・赤色粒子含む。 壺底部に木痕あり。	IV区2・3層 IV区礎方 カマド床



第32図 H16号住居址(1)



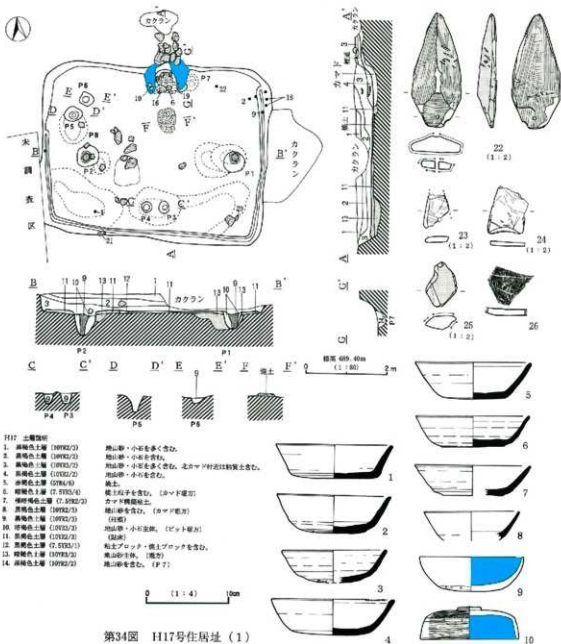
9	土師器 瓶	(24.8) 9.6 32.0	内 外	ヘラナデ (炬目) 後ミガキ 胴部ヘラナデ (炬目) 後ヘラケズリ後ミ ガキ・口縁ヨコナデ	I口縁1/2残存・武蔵兜形 内 2.5YR6/3 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子を含む。	No.2 No.3 I区・床
10	土師器 平椀	(4.4) (4.2) 4.3	内 外	ナデ 口縁から胴部ナデ・底部ナデ	底部1/2残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子を含む。	I区
11	土師器 盃	(12.6) - (5.4)	内 外	口縁ミガキ・胴部ヘラナデ後黒色乾澁 増減著しく判別できない。	I口縁1/4残存 内 7.5YR6/1・N4/0 (黒灰・灰) 外 10YR7/3・5/1 (にぶい黄橙・黒灰)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子を含む。 ※外面全面黄化する。 ※外面黒色処理か?	IV区1層
12	土師器 壺	- (3.0) (2.7)	内 外	ミガキ 胴部ヘラナデ (後ミガキ?)・底部ヘ ラケズリ後ミガキ	底部1/6残存 内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石を含む。 ※外面割離	I区
13	土師器 壺	- (7.5) (3.7)	内 外	ヘラナデ後部分的にミガキ 胴部ヘラナデ後ミガキ・底部ヘラナデ	底部1/3残存 内 7.5YR8/3 (黄黄橙) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・赤褐色粒子を含む。	I区
14	赤生土器 小杯	(6.2) - (1.9)	内 外	ヨコナデ後赤色塗部 ヘラナデ (炬目) 後赤色塗部	口縁1/6残存 内 10R5/6 (赤) 外 10R5/6 (赤)	石英・長石を含む。	I区
15	赤生土器 杯	- - -	内 外	ミガキ・赤色塗部 (澁) ミガキ・赤色塗部 (澁)	I口縁の一部残存 内 10R4/6 (赤) 外 10R5/6 (赤)	石英・長石を含む。 ※口縁に2つ突起あり。	IV区3層
16	土師器 小片丸底	(8.8) - (6.0)	内 外	ヨコナデ ヨコナデ・胴部ヘラナデ (炬目)	I口縁1/14残存 内 5YR6/2 (灰褐) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石を含む。	II区1層
17	土師器 小蓋丸底	(12.8) - (3.5)	内 外	ヨコナデ後方射線文 ヨコナデ後方射線文	口縁1/3残存 内 10R6/4 (にぶい赤褐) 外 10R6/4 (にぶい赤褐)	石英・長石を含む。	II区1層 IV区3層 E
18	土師器 高杯	- (13.0) (1.8)	内 外	ヨコナデ ヨコナデ後射線文	胴部1/8残存 内 10R6/6 (赤橙) 外 10R6/6 (赤橙)	石英・黒色粒子・赤色粒子を含む。	I区
19	土師器 杯	(12.8) - (4.6)	内 外	ヘラナデ (炬目) 後放射線文 I口縁ヨコナデ後ヘラナデ (炬目)・胴部 ヘラナデとヘラケズリ	口縁1/6残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子を含む。	I区
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
20	石製模造品	3.25	2.3	0.3	3.3	滑石 痕痕あり。2穴	I区
21	剥片	2.9	1.2	0.36	0.8	片岩	II区1層
22	未製品 (磨製石鏃)	(2.8)	(2.4)	(0.2)	(2)	片岩	II区
23	未製品 (磨製石鏃)	(4.05)	(2.15)	(0.3)	(2.4)	片岩	II区
24	剥片石砦	(4.2)	(4.1)	0.75	(12.7)	黒色燧岩安山岩 刃部あり。	検出
25	石砦	2.5	3.2	1.6	16.5	チャート	I区
26	燧石	9.0	5.0	3.5	230	安山岩 スリ面あり。	No.9
27	燧石	(7.4)	4.9	1.5	(70)	砂岩・燧打石の転用か? スリ面凹みあり。	
28	燧石	9.0	5.3	1.8	120	安山岩 スリ面あり。	No.8
29	スリ石	15.9	13.8	12.0	3,050	黒曜石	No.7
30	台礎石	20.3	21.8	13.0	5,760	黒曜石	No.6

16) H17号住居址 (第34-37図、図版12・13・83・84)

F18グリットにあり、砂層中に構築される。北のカマド側はINPKXにおいて調査し、図面上で合わせている。II18・H38・F8、INPKXのH3を切る。東上面を投乱に壊され、南西壁上端は通路確保のため未調査である。南北386cm、東西521cmの隅丸の長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸は10°東に振れる。カマドは良好な状態で残っており、軸に石を入れ、粘土で覆い、焚き口の框は16・19の武蔵甕を重ねて置いている。煙道は石を2列平行に並べて上に石で蓋をするように置いて、空間を作っている。主柱穴はP1・P2の2本で、径50cm程の堀方に柱痕がみられた。南壁下中央には2個の小ピットが東西に並ぶ。カマドに接して、床下からP7が検出された (INPKXの調査でINPKH3の主柱穴と判明)。

出土遺物には須恵器、土師器、剣形石製模造品 (22・23)、模造品の未製品 (25)、磨製石鏃未製品 (24)、スリ石 (20)、がある。須恵器杯 (1-8) は、平底になり、回転ヘラ切り後、ヘラナデないし手持ヘラケズリされる。土師器蓋 (10) は、丁寧にミガキ調整される。寛はずれも武蔵甕で口縁部形が「く」の字形である。11の杯は混入品である。剣形の石製模造品は頁岩製で、長さ7.0cm、幅3.0cmの大きいものである。覆土中位で出土したため、本址に伴うかどうか確実でない。

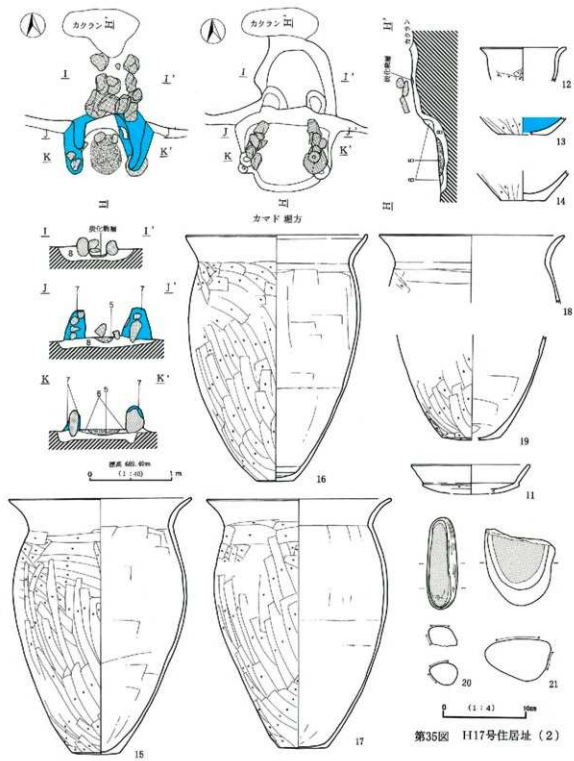
これより本址は奈良時代であろう。



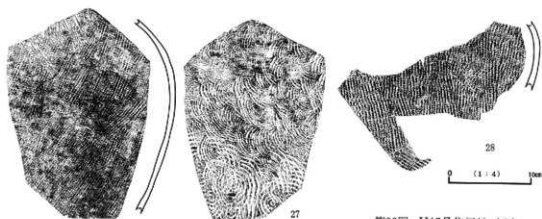
第34図 H17号住居址(1)

第16表 H17号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存部・色調	胎土・碎塵	出土位置
1	須恵器 杯	14.3	内 ロクロナデ	完整	燧石夾砂、~3mm大赤色粒子含む。	No.7
		10.3	外 口縁部ロクロナデ→底部手持ちヘラケ	内 2.5Y7/1 (灰白)		
		4.1	ズリ	外 2.5Y7/1 (灰白)		
2	須恵器 杯	14.0	内 ロクロナデ	底部完整・口縁1/3残存	燧石夾・炭石粒子、~3mm 大赤褐色粒子含む。	No.6 I区2層
		10.1	外 口縁部ロクロナデ→底部手持ちヘラケ	内 2.5Y7/2 (灰黄)・ 10YR4/1 (赭灰)		
		4.6	ズリ	外 2.5Y7/2 (灰黄)・ 10YR4/1 (赭灰)		



第35図 H17号住居址(2)



第36図 H17号住居址(3)

3	須恵器 杯	(12.9) (9.0) 4.0	内 ロクロナデ 外 口縁部ロクロナデ・底部手持ちヘラケズリ	1/4残存 内 2.5ZY5/1 (オリーブ灰) 外 NS/0 (黒)	細石英・長石・輝石粒子を含む。 ～1mm大赤褐色粒子含む。	Ⅱ区 サブトレ
4	須恵器 杯	15.1 9.7 4.3	内 ロクロナデ 外 口縁部ロクロナデ・底部手持ちヘラケズリ	ほぼ完成 内 10YR8/4 (浅黄褐色) 外 10YR8/4 (浅黄褐色)	～1mm大石英・長石・赤褐色粒子を含む。 ※口縁に3.2mm巾で欠け、スエ付書	Ⅱ区 Ⅱ区
5	須恵器 杯	(14.1) 7.0 4.2	内 ロクロナデ 外 口縁部ロクロナデ・底部ヘラナデ	口縁1/8・底部3/4残存 内 2.5Y7/1 (灰白) 外 10YR6/1 (黄灰)	細石英・長石・輝石粒子含む。 まれに1mm大砂粒を含む。	Ⅰ区2層 Ⅰ区1層
6	須恵器 杯	13.9 7.7 3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部ヘラケズリ後ナデ	口縁1/4残存・底部完成 内 5Y7/1 (灰白) 外 5Y7/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子(～1mm)を含む。 ※内外大だすき者。	No.12
7	須恵器 杯	(14.2) (8.4) 3.7	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部手持ちヘラケズリ	1/3残存 内 5Y6/1 (黒) 外 2.5Y5/1 (黄灰)	～2mm大長石粒多く、まれに～2mm大黒色粒子を含む。	Ⅰ区検出
8	須恵器 杯	(11.7) 12.8 8.6 4.3	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	1/8残存 内 5Y8/1 (灰白) 外 5Y8/2 (灰白)	細石英・長石粒子・～4mm大黒色粒子を含む。	Ⅰ区2層
9	土師器 杯	12.8 8.6 4.3	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁部ヨコナデ・底部手持ちヘラケズリ	完成 内 5YR1.7/1 (黒) 外 5YR4/4 (にぶい赤褐色)	細石英粒・～1mm大長石粒を含む。	No.4
10	土師器 蓋	12.1 2.9 3.0	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	完成 内 2.5YR1.7/1 (黒) 外 2.5YR5/6 (明赤褐色)	石英・～1mm赤褐色粒子・黒色粒子を含む。	No.16
11	土師器 杯	(14.6) (11.7) 3.6	内 ナデ 外 口縁部ヨコナデ・底部ヘラケズリ	1/8残存 内 5YR5/6 (明赤褐色) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐色)	磁器。輝石英粒子・～1mm大赤褐色粒子を含む。	Ⅱ区1層 H38:燧石カ
12	土師器 鉢	(10.6) 10.0 (4.1)	内 ヨコナデ(後黒色処理?) 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 口縁ヨコナデ(にぶい) 外 5YR5/2 (灰褐色) 外 5YR5/2 (灰褐色)	石英・長石・～1mm赤褐色粒子を含む。	エントウ
13	土師器 鉢	- (6.2) (2.3)	内 ヘラナデ後黒色処理 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	1/4残存 内 10YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・長石粒子・～1mm大赤褐色粒子を含む。	Ⅰ区2層 Ⅱ区3層 H38:燧石カ
14	土師器 壺	(5.5) (3.3)	内 ナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 2.5Y2/4 (無暗赤褐色) 外 2.5Y4/3 (にぶい赤褐色)	細石英・長石粒子を含む。	Ⅱ区3層
15	土師器 壺	22.4 5.8 31.8	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	口縁2/3・底部5/6残存 内 2.5YR5/4 (にぶい橙) 外 2.5YR5/4 (にぶい橙)	石英・～1mm大長石・黒色粒子を含む。	No.14 No.15 カマド
16	土師器 壺	22.4 (4.6) 30.0	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	ほぼ完成 内 2.5YR5/6 (橙) 外 2.5YR5/4 (にぶい橙)	石英・長石・～1mm大の赤褐色粒子・黒色粒子を含む。	No.13 No.14 Ⅰ区 カマド
17	土師器 壺	22.9 5.7 30.4	内 胴部から底部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	口縁完成・底部完成 内 2.5YR5/6 (明赤褐色) 外 2.5YR5/4 (にぶい橙)	石英・長石・～1mm赤褐色粒子・黒色粒子少量を含む。	No.11 No.14 No.15 カマド
18	土師器 壺	22.6 - (8.3)	内 口縁部ヨコナデ・胴部ナデ 外 胴部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	口縁部ほぼ完成 内 2.5Y6/6 (橙) 外 2.5Y6/6 (橙)	細石英・長石・赤褐色粒子を含む。	Ⅰ区2層 No.2 No.3 No.5

番号	器種	注記	成形・調整				残存量・色調		胎土・特徴	出土位置
19	土師器 壺	7.1 (12.9)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ				底部完形 内 5YR3/3 (暗赤褐) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	No.14 No.15 カマド
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g		備考		出土位置	
20	スリ石	11.1	3.5	2.4	140		千枚岩		No.10	
21	台石	(18.7)	17.3	10.2	(3,900)		黒曜石 (軽石较多含む)。スリ面あり。		No.9	
22	石灰焼込品 (創形)	7.0	3.0	1.0	24.7		頁岩		No.11	
23	石製模造品	(2.1)	(1.55)	0.35	1.9		滑石		Ⅱ区3層	
24	木製品 (麻製石蓋)	1.95	2.2	0.25	2.8		片着			
25	ミガキ石	2.7	1.9	0.9	4.9		黒曜石 (軽石の粒混じる)。		Ⅰ区掘方	

17) H18号住居址 (第37回、図版14・84)

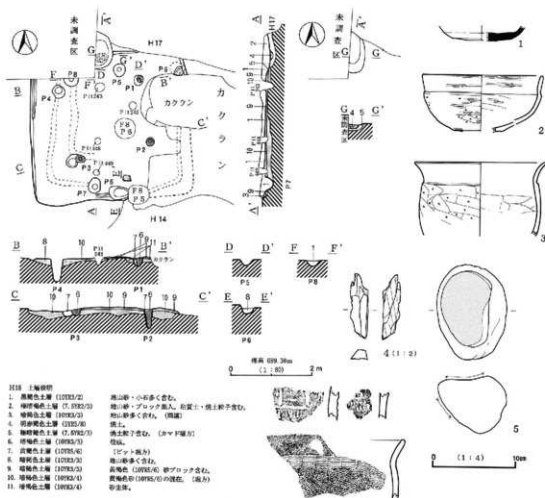
フウグリットにあり、砂層中に構築する。北西は通路確保のため未調査であり、平成12・13年度に分けて調査し、13年はまた2回に分けて調査している。図面上で合わせている。H14・H17・F8、単独ピット242・243・448・449に切れ、H32を切る。西は掘削に大半を壊される。掘り込みが浅いものと、重複のため明確な平面プランとはいえない。南北356cm、東西360cm、の方形で、カマドは北壁中央に持つ。主軸方位はほぼ北を指す。主柱穴は4本で、南壁下に2個のピット、カマド兩脇に穴が検出された。

出土遺物には須恵器杯、土師器杯・小型壺、片着製削片、スリ石がある。混入品として、縄文土器片、弥生後期壺の破片がみられた。1は底部回転ヘラ切りの須恵器杯、2は杯ないし鉢でミガキ調整される。3の小型壺は胴上部が横方向にヘラケズリされる武蔵壺である。

これらより奈良時代の遺物がみられるが資料が少ないので詳細わからない。重複関係からは古墳時代後期であろう。

第17表 H18号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	注記	成形・調整				残存量・色調		胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	- (7.0) (1.8)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラ切り				底部1/2残存 内 5S/0 (灰) 外 7.5YR7/2 (明焼灰)	石英・長石・褐色粒を含む。	横出
2	土師器 杯	(14.8) (7.1) (7.1)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ→全体にミガキ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ→全体にミガキ				口縁1/2残存 内 2.5YR4/6 (赤褐) 外 10R6/6 (赤橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	N 横出
3	土師器 小型壺	(16.0) - (9.0)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ				口縁1/3残存 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色粒子を含む。	N
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g		備考		出土位置	
4	削片	3.95	1.1	0.6	2.5		緑泥片着		Ⅱ区	
5	擦石	11.5	8.4	7.0	620		漆結凝灰岩			



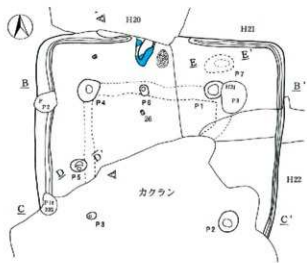
第37図 H18号住居址

18) H19号住居址 (第38・39回、図版15・84)

Fあ9グリットにあり、砂層中に構築する。H20・H21・H22・F8に切られ、H37・H38を切る。また南の大きな攪乱に壊される。南北残長452cm、東西532cmの方形を呈するようである。主軸は8°東に振れる。カマドは北壁中央にあるがH20・H21に壊されて、西の軸と焼土範囲が確認できた。主柱穴は4本でカマドの東には貯蔵穴がある。壁下には周溝が巡る。N区の住居址床面からは焼土・炭化物とともに14個の白玉がまとまって出土している。

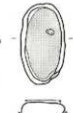
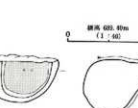
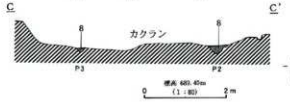
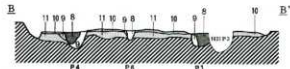
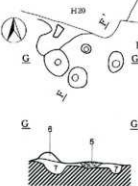
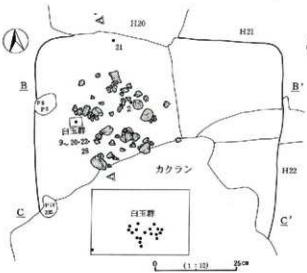
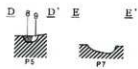
出土遺物に土師器、滑石製白玉、瀬石がある。また重複するH37が弥生中期の住居址であるため、本址からも土器、磨製石鈿が出土する。土師器杯は丸底で、外縁を持って外傾する須恵器杯蓋模倣の杯Eである。2の鉢は内外ミガキ調整される。

土器が少ないのでわからないが古墳時代後期中葉であろうか。



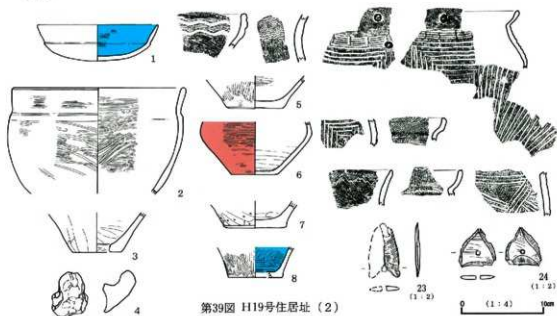
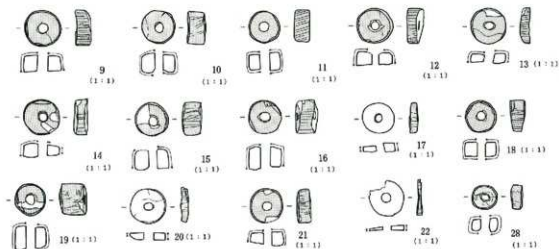
- H19 土層説明
1. 黒褐色土層 (10792/3)
 2. 黒褐色土層 (10793/2)
 3. 黒褐色土層 (10792/2)
 4. 赤褐色土層 (10795/3)
 5. 黒褐色土層 (10793/2)
 6. 黒褐色土層 (10793/2)
 7. 黒褐色土層 (10792/2)
 8. 黒褐色土層 (10792/1)
 9. 黒褐色土層 (10792/2)
 10. 黒褐色土層 (10793/2)
 11. 黒褐色土層 (10792/2)

地山砂を多く含む。
地山砂を多く含む。
地山砂・小石・炭化物を含む。
コーム砂子を含む。(炭焼)
粘土。
粘土。(コーム砂層と)
コーム砂子を含む。
(コーム層)
(自然)
地山砂・地山砂ノコブ
・小石を含む。(ピット層)
地山砂・小石を含む。(築地)
地山砂・小石・15cm大の礫
を含む。(築地)



第38図 H19号住居址 (1)

0 (1:4) 10cm



第39図 H19号住居址 (2)

第18表 H19号住居址出土遺物一覽表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(14.7) (12.9) 4.4	内 ミガキ後黒色処理 外 磨耗若しく割割できない。	口縁1/4残存 内 10YR4/1 (褐灰) 外 10YR7/3 (にぶい黄緑)	石英・長石・赤色粒子含む。 磨光面。	I区 カマド
2	土師器 鉢	(21.3) - (13.0)	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁1/2残存 内 7.5YR6/6-7/3 (黄・にぶい黄) 外 7.5YR6/3 (にぶい黄)	石英・黒色粒子・赤色粒子含む。 きめ細かい。	No.1 I区・IV区2層 H20 P 3
3	土師器 瓶	(5.8) (4.9)	内 ヘラナデ 外 彫削ヘラナデ・皮削ヘラケズリ	底部1/5残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/6 (橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅲ区
4	土師器 肥手	- -	外 ナデ	肥手のみ残存 外 10YR6/1-7/2 (褐灰・にぶい黄緑)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色 色粒子含む。	Ⅲ区

5	弥生土器 壺	- (7.0) (4.0)	内 外	胴部ヘウナデ(柱目)・底部ナデ後全体 にミガキ 胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 10YR5/1・N4/0 (黄灰・灰) 外 7.5YR8/3 (洗黄橙)	石英・長石含む。 炭粉混	Ⅱ区1層
6	弥生土器 壺	5.8 (6.4)	内 外	ヘウナデ ミガキ後赤色塗彩	底部残存 内 7.5YR8/2 (灰) 外 7.5R4/6 (赤)	石英・長石含む。	Ⅱ区2層 検出
7	弥生土器 壺	- (7.8) (3.3)	内 外	ナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部残存 内 10YR7/3 (にぶい橙) 外 10YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区4層
8	弥生土器 壺	(6.7) (3.8)	内 外	ミガキ後黒色施彩 胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	底部1/3残存 内 N2/0 (黒) 外 5YR5/2 (灰緑)	石英・長石含む。	Ⅲ区
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
9	白土	1.1	1.1	0.55	0.96	滑石	No.3
10	白土	1.0	1.0	0.6	0.98	滑石	No.5
11	白土	1.0	0.95	0.55	0.9	滑石	No.6
12	白土	1.05	1.1	0.4	0.82	滑石	No.8
13	白土	1.1	1.1	0.3	0.5	滑石	No.10
14	白土	1.1	1.1	0.4	0.73	滑石	No.12
15	白土	1.0	1.0	0.6	1.13	滑石	No.13
16	白土	1.0	1.0	0.7	1.2	滑石	No.14
17	白土	0.9	1.0	0.3	0.95	滑石	No.15
18	白土	1.0	0.9	0.45	0.7	滑石	No.16
19	白土	0.95	0.95	0.85	1.3	滑石	No.17
20	白土	1.05	1.0	0.2	0.4	滑石	No.19
21	白土	1.0	1.0	0.4	0.83	滑石	No.20
22	白土	1.1	1.1	0.2	<0.2>	滑石 部欠損	No.7
23	磨製石鏃	<3.3>	<9.5>	0.3	<1.1>	片岩 片削欠損 1穴	I区
24	磨製石鏃	<2.4>	<2.2>	0.25	<1.5>	片岩 1穴	東南側方
25	礫物石	11.6	6.0	5.3	550	安山石 スリ面あり。	P 3
26	礫物石	5.8	8.6	6.7	380	安山岩	No.1
27	礫物石	9.8	5.4	3.4	270	安山石 スリ面あり。	Ⅱ区
28	白土	0.75	0.75	0.35	0.37	滑石	No.23

19) H20号住居址 (第40図、図版14・85)

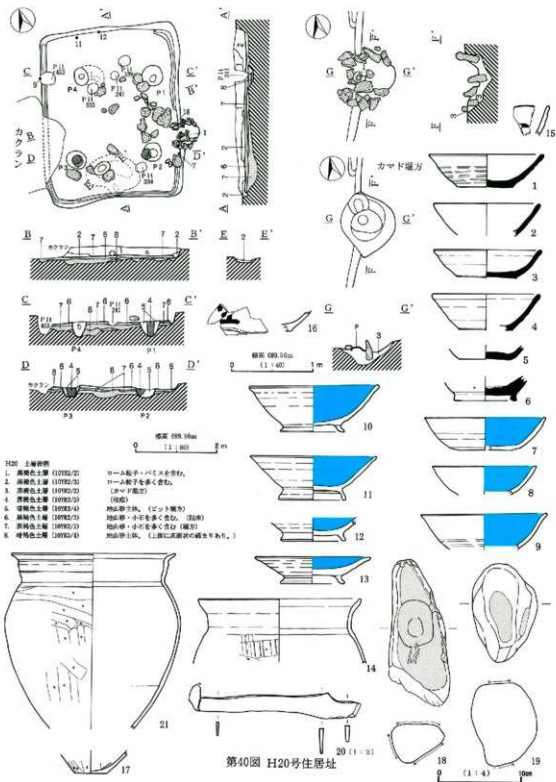
Fあ10グリットあり、H19・H21・H38を切り、単P241・333・334・339・453に切られる。砂層中に構築され、西壁の一部に攪乱が入る。南北400cm、東西315cm長方形を呈し、カマドは西壁の中央より南に設けられている。主軸は16°東に振れている。主柱穴は4本柱である。カマドは石を多用しており、カマド前の床にみられた石も、カマドの構築材であろう。

住居址からは須恵器、土師器、鉄製刀子(20)、礫物石(18・19)がある。須恵器杯(1～5)は底部回転糸切りのままで、長頸壺(6)に高台が付く。土師器杯(7)は底部回転糸切り後手持ちヘラケズリされる。土師器碗・皿(10～13)は底部回転糸切り後高台をつけている。土師器杯に判読不明の黒書土器片(16・17)がある。土師器壺は(14・17・21)は武蔵甕で、L線部形態「コ」の字形を呈する。

これらより、平安時代前葉の住居址であろう。

第19表 H20号住居址出土遺物一覽表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯	14.0 7.2 4.1	内 ロクロナデ 外 口縁ロクロナデ-底部回転糸切り	完形 内 2.5Y6/4 (にぶい黄) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙) 5Y1/1 (灰)	細長石粒子多い。～2mm大赤褐色粒子まれに含む。ロクロナ粘着者	No.2 カマド
2	須恵器杯	(13.5) - (4.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	L線1/4残存 内 2.5Y6/2 (灰黄) 外 2.5Y6/2 (灰黄)	細石英・長石粒。～1mm大黒色・赤褐色粒子含む。火だすきあり。	N区 N区側方
3	須恵器杯	(13.2) 7.3 3.4	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ-底部回転糸切り	1/3残存 内 2.5Y8/1 (灰色) 外 2.5Y8/1 (灰色)	細石英・長石粒子含む。	カマド Ⅱ区側方
4	須恵器杯	(13.2) (6.5) 4.4	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ-底部回転糸切り	1/4残存 内 2.5Y7/2 (灰黄) 外 2.5Y7/1 (灰白)	細石英・長石粒子含む。まれに～1mm大砂粒含む。	検出 Fあ9
5	須恵器杯	- (1.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ-底部回転糸切り	底部完形 内 2.5Y5/1 (黄灰) 外 2.5Y3/1 (黄灰)	細石英・長石粒。まれに～2mm大赤褐色粒子含む。	Ⅲ区



6	須恵器 長頸壺	- 7.6 3.0	内 外	ロクロナデ 胴下部回転ヘラケズリ→底部回転 切り→高台貼付	底部1/2 内 N6/0 (黒) 外 N5/0 (黒)	~1mm大石英・長石・輝石 含む。	I区堀方
7	土師器 杯	(14.8) (6.4) 4.0	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転 ヘラケズリ	1/2残存 内 3YR2/1 (黒) 外 5YR6/3 (にぶい濁)	細石英・長石粒子含む まれに1mm大長石・赤褐色 粒子含む。	No.1
8	土師器 杯	(12.8) - 3.5	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ	1/4残存 内 7.5YR2/1 (黒) 外 7.5YR5/3 (にぶい濁)	細石英・長石粒了・~2mm 大赤褐色粒了含む。	IV区
9	土師器 杯	(15.6) - <4.4>	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ	1/4残存 内 7.5YR2/1 (黒) 外 7.5YR5/3 (にぶい濁)	細石英・長石粒子含む。 まれに1mm大赤褐色粒了 含む。	No.5
10	土師器 碗	(15.8) 7.8 5.7	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転 切り→高台貼付	3/4残存 内 5YR3/2 (暗赤濁) 外 5YR5/8 (明赤濁)	細石英・長石粒子・まれに ~2mm大赤褐色粒了含む。	I区堀方 IV区2層
11	土師器 碗	(15.3) 7.8 5.4	内 外	暗文後黒色処理 ロクロナデ→底部回転 切り→高台貼付	IJ線1/3残存・底部欠形 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい濁)	石英・長石・赤褐色粒了 含む。	No.102 IV区1層
12	土師器 碗	- 8.0 (2.9)	内 外	暗文後黒色処理 ロクロナデ→底部回転 切り→高台貼付	底部3/4残存 内 N15/0 (黒) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・褐色粒了・赤 褐色粒了少量含む。	No.101
13	土師器 壺	(14.2) 7.8 3.3	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転 切り→高台貼付	3/4残存 内 5YR2/1 (黒) 外 2.5YR5/6 (明赤濁)	細石英・長石・赤褐色粒 了含む。	No.3
14	土師器 壺	(20.0) - (7.8)	内 外	IJ線部ロクロナデ・胴部 ヘラナデ・ナデ 胴部ヘラケズリ・IJ線部 ロクロナデ	1/2残存 内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細石英・長石粒・赤褐色 粒子含む。	II区1層 Fあ9
15	土師器 杯	- -	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ	破片 内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい濁)	細石英・長石粒子・赤褐色 粒了含む。質成不明壺あり。	III区
16	土師器 杯	- -	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転 切り	1/4残存 内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい濁)	細石英・長石粒子・まれに ~1mm大赤褐色粒了含む。 料成不明壺あり。	I区 III区
17	土師器 壺	- 3.8 (2.8)	内 外	ヘラナデ・ナデ 胴部・底部ヘラケズリ	1/2残存 内 7.5YR5/4 (にぶい濁) 外 5YR4/3 (にぶい赤濁)	細石英・長石粒子・赤褐色 粒了含む。	IV区1層 IV区2層
21	土師器 壺	20.0 (21.5)	内 外	胴部ヘラナデ・ナデ・IJ 線部横ナデ 胴部ヘラケズリ→IJ線部 横ナデ	1/2残存 内 7.5YR 6 / 3 (にぶい濁) 外 5YR 5 / 3 (にぶい赤濁)	細石英・長石粒子含む。	カマド 検出
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
18	編物石	17.9	7.6	4.8	960	安山岩 別線 スリ面西みあり。	No.7
19	編物石	12.0	8.0	10.1	1,200	黒輝石	堀方
20	刀子	<10.5>	<1.5>	<0.4>	<13.3>	鉄製品 柄・先端の一部欠損 先端折れ曲がる。	I区堀方

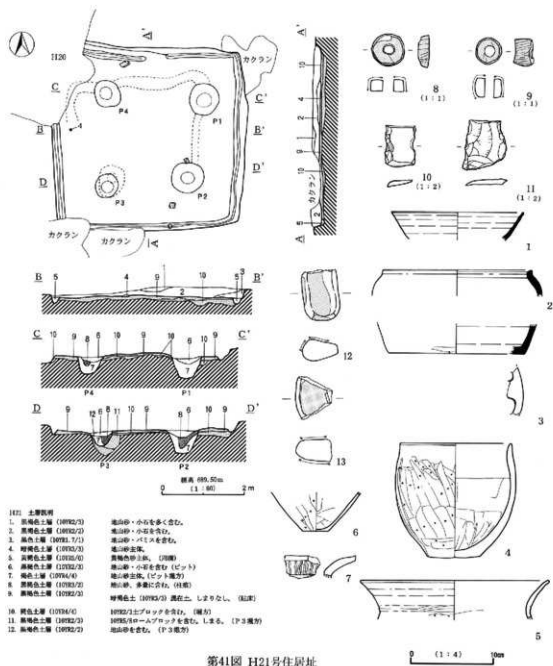
20) H21号住居址 (第41図、図版16・85)

Hこ9グリットにあり、H20に切られ、H19・H22を切る。北東、南東は一部掘削により壊される。砂礫中に構築される。南北400cm、東西425cmの方形を呈する。主軸方位は北を指す。火所は検出されていない。床面上面に地山砂がみられ、締まりのない床面であるため、生活面がわかりづらかった。主柱穴は4本で、径60cm~70cm、深さ50cmほどの大きなピット堀方である。壁下には層滑が巡る。

出土遺物には須恵器、土師器、滑石製白玉、砥石・スリ石(編物石?)がある。須恵器は杯・短頸壺・瓶がある。いずれも小破片である。土師器は小型寛ない鉢(4)、武蔵窯IJ線部がある(5)。

土器が少ないので、わからないが奈良時代であろうか。

本址からは炭化種子が出土し、ヤマモモ核片と同定された。



第20表 H21号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須臾器	(17.2)	内 ロクロナデ	口縁1/8残存	石英・長石・チャート・赤色 砂子を含む。	目区
	杯	- (3.4)	外 ロクロナデ	内 10YR8/3 (浅黄橙) 外 10YR5/1 (黄灰)		
2	須臾器	(18.2)	内 ロクロナデ	口縁1/14残存	石英・長石含む。 ※内面底部に自然粘付着	P2
	短頸壺	- (3.2)	外 ロクロナデ	内 N4/0 (灰) 外 N4/0 (灰)		

3	須恵器 甕	(16.6) (3.7)	内外	ロクロナデ ロクロナデ→底部と底部外周ナデ	底部1/9残存 内 N8/0 (灰) 外 N8/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 窯地或前に穿孔。多孔の甕	検出
4	土師器 小壺	(13.7) 6.4 14.0	内外	胴部から底部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	口縁3/4残存・底部完形 内 7.5YR7/3 (にぶい壺) 外 2.5YR7/4 (淡赤壺)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.1 I・II区 III区 IV区・検出
5	土師器 壺	(23.2) - (4.8)	内外	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 5YR7/4 (にぶい壺) 外 5YR7/4 (にぶい壺)	石英・長石・黒色粒子含む。	II区
6	土師器 壺	3.1 (4.8)	内外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部3/4残存 内 2.5YR6/4 (にぶい壺) 外 2.5YR6/4 (にぶい壺)	石英・長石含む。	II区検出 F79
7	土師器 壺	- - -	内外	ヨコナデ後ミガキ ヨコナデ後埋文	破片 内 5YR6/4 (にぶい壺) 外 5YR6/4 (にぶい壺)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	R	備考	出土位置
8	円土	1.1	1.1	0.35	0.57	滑石	IV区東方
9	円土	0.8	0.8	0.6	0.61	滑石	
10	割片	2.55	1.9	0.4	2.1	黒色磁帯安山岩	II区
11	割片	3.05	2.7	0.4	1	黒色磁帯安山岩	IV区
12	砥石	(6.2)	4.7	2.6	<100>	砂岩	IV区
13	スリ石	(5.4)	(4.6)	2.7	(80)	安山岩 スリ面あり。	IV区

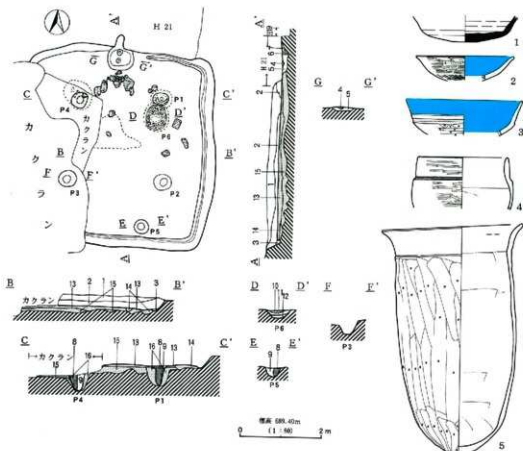
21) H22号住居址 (第42回、図版16・85)

H10グリットで検出され、H21に切られる。H19・H27を切る。攪乱に西南を壊される。南北445cm、東西の残長389cmを測り、ほぼ方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、上面をH21に切られ、わずかの焼土と粘土が残っていた。主柱穴は4本柱で、堀方と柱痕がみられた。P1の南に長径56cm深さ20cm楕円形に灰・焼土・粘土を含む落ち込みがあった。壁下には周溝が巡る。

出土遺物には須恵器、土師器、輝緑凝灰岩製太形給刃石斧(9)、扁物石(10・11)がある。須恵器杯は(1)、底部回転ヘラ切りされる。2～3の土師器杯・鉢は丸底で、ミガキ調整される。壺は長胴で、胴部ヘラケズリされ、口縁に最大径を持つもの(5・8)と、混入の可能性のある武蔵壺の口縁部形窠「く」の字形のものがある。9は石斧の先端で混入品である。重複する住居址のために、土器が古墳時代後期と、奈良時代の両者がみられ、プラン検出時の土器はH21・H27の奈良時代の土器も混入することから、古墳時代後期後葉があてられようか。

第21表 H22号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	流量	成形・調整	残存量・色澤	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 杯	- (11.0) (3.3)	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	底部1/3残存 内 N6/0 (灰) 外 N4/0 (灰)	石英・長石・チャート含む。 ※底部にヘラ記号あり。	I区	
2	土師器 杯	(12.2) - (3.0)	内外 ミガキ後黒色処理 ミガキ	口縁1/4残存 内 N3/0 (暗灰) 外 5YR8/4・7.5YR8/4 (淡赤・浅黄橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	検出	
3	土師器 杯	(14.2) (12.4) (4.3)	内外 ミガキ後黒色処理 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ後口縁 黒色処理	口縁1/1残存 内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 10YR4/1 (褐灰)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色 粒子含む。	検出	
4	土師器 鉢	(11.2) - (6.3)	内外 胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ ヘラケズリ後粗いミガキ	口縁1/4残存 内 5YR6/3 (にぶい壺) 外 7.5YR7/3 (にぶい壺)	石英・赤色粒子含む。きめ細 かい。	検出	
5	土師器 壺	17.3 3.0 27.9	内外 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ・底部ヘ ラケズリ	口縁9/10残存・底部完形 内 5YR8/4 (淡赤) 外 5YR6/3 (にぶい壺)	石英・長石・黒色粒子含む。	I区掘方 III区 III区掘方	
6	土師器 壺	(20.2) - (5.1)	内外 ヨコナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 5YR7/4 (にぶい壺) 外 5YR8/4 (淡赤)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	I区	
7	土師器 壺	- (5.8) (7.4)	内外 ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/4残存 内 2.5YR7/4 (淡赤) 外 7.5YR6/2 (灰褐)	石英・長石・角閃石・赤色粒 子含む。	II区1層 検出	
8	土師器 壺	4.9 (19.3)	内外 ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ナデ	底部完形 内 5YR7/6 (褐) 外 5YR6/3 (にぶい壺)	～1mmの石英・黒色粒子・ ～5mmのチャート・ウンモ 赤褐色粒子。～1cmの長石 を含む。	III区掘方 検出	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	R	備考	出土位置
9	太形給刃石斧	(4.2)	7.5	2.3	<110>	輝緑	
10	扁物石	(8.3)	5.3	2.9	<210>	安山岩 スリ面あり。	
11	扁物石	11.8	6.3	3.3	385	安山岩 スリ面あり。	掘方



H22 土層説明

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1. 黒褐色土層 (10792/2) | 焼山砂・小石を含む。 |
| 2. 黒褐色土層 (10392/2) | 1層より灰みを含む。 |
| 3. 黒褐色土層 (10792/2) | 焼山砂を含む。(陶器) |
| 4. 黒褐色土層 (10792/4) | 黒土ブロック・灰化物を含む。(カマド) |
| 5. 黒褐色土層 (10792/3) | 砂質を多く含む。焼土層裏に含む。(カマド裏面) |
| 6. 黒褐色土層 (10392/3) | 砂質を含む。(カマド裏面) |
| 7. 黒褐色土層 (10392/4) | 砂質。(カマド裏面) |
| 8. 黒褐色土層 (10392/3) | (圧成) |
| 9. 黒褐色土層 (10792/2) | 焼山砂多量に含む。(ピット底) |
| 10. 黒褐色土層 (10792/2) | 焼山砂を少し含む。灰化物を含む。黒土ブロックを多く含む。 |
| 11. 黒色土層 (10792/4) | 灰・焼土・焼山砂。 |
| 12. 黒褐色土層 (10792/3) | 焼山砂を含む。 |
| 13. 黒褐色土層 (10792/2) | 焼山砂が層状に含む。硬まる。(陶器) |
| 14. 黒褐色土層 (10792/2) | 焼山砂を含む。(陶器) |
| 15. 黒褐色土層 (10792/3) | 黒褐色土 (10795/4) ブロックとの境界土層。 |
| 16. 黒褐色土層 (10792/4) | 焼山砂土層。(ピット底) |



第42図 H22号住居址

Hけ8グリットにあり、砂層中に構築する。M6を切り、単P266を切る。南北464cm、東西268cmを測り隅丸長方形を呈す。主軸は95°北より東に振れる。ただし北壁はM6との重複で明確ではない。カマドは東壁にあり、やや南に寄って設けられている。柱は4本柱であるが、掘り込みは深くない。周溝が北と西壁下に巡る。

出土遺物には灰釉陶器、須恵器、土師器、編物石がある。M6と重複するため、弥生時代中期の土器片が多く出土する。灰釉陶器(1)は壺口縁部の小片である。柱(2)、杯(3・4)がある。須恵器杯底部は回転糸切りのままである。土師器碗・杯(5・6)は底部回転糸切りで、内面黒色処理される。7の土師器杯は前代の混入品であろう。土師器甕はいずれも武蔵甕(8~12)で、口縁部「コ」の字形である。

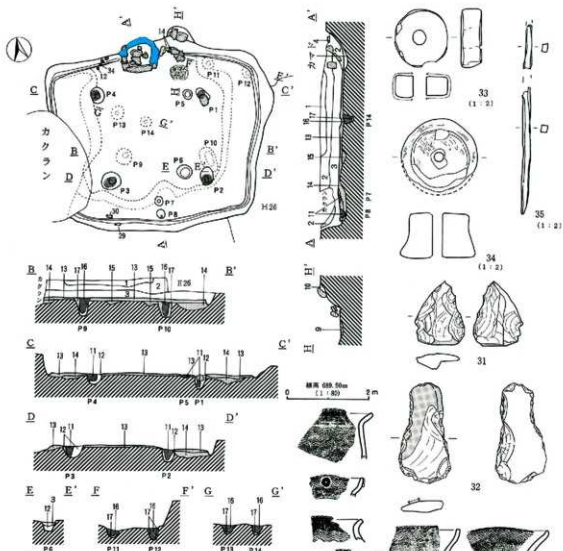
これらより、本址は平安時代前葉であろう。

第22表 H23号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	灰釉 蓋	(11.6) <(1.0)>	内 ロクロナデー指輪 外 ロクロナデー指輪	1/8残存 内 N8/0 (灰白) 外 N8/0 (灰白)	緻密。細石英・長石含む。	I区	
2	須恵器 皿	(9.0) -	内 ロクロナデー 外 ロクロナデー	1/3残存 内 7.5Y5/1 (灰) 外 7.5Y4/1 (灰)	細石英・長石粒・まれに2mm大砂粒を含む。	I区東方	
3	須恵器 杯	12.8 3.7 (3.6)	内 ロクロナデー 外 ロクロナデー底部回転糸切り	1/2残存 内 N6/0 (灰) 外 7.5Y5/1 (灰)	細石英・長石粒・1~2mm大黒色粒子まれに含む。	Ⅱ区サブトレ	
4	須恵器 杯	- 5.6 (2.0)	内 ロクロナデー 外 ロクロナデー底部回転糸切り	1/3残存 内 7.5Y7/1 (灰白) 外 7.5Y7/1 (灰白)	細石英・長石粒子ごくまれに1mm大赤褐色粒子を含む。	Ⅱ区	
5	土師器 杯	(16.0) -	内 ミガキ後黒色処理 外 ロクロナデー	1/2残存 内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 5YR5/3 (にぶい壺)	細石英・長石粒子含む。	Ⅱ区東方	
6	土師器 杯	- 7.2 (3.9)	内 ミガキ後黒色処理 外 ロクロナデー底部回転糸切り	1/3残存 内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 5YR5/4 (にぶい壺)	細石英・長石粒を含む。	Ⅱ区サブトレ	
7	土師器 杯	(12.6) (11.2) 4.5	内 ミガキ 外 ミガキ	1/3残存 内 5YR6/6 (橙) 外 5YR5/8 (明赤褐)	緻密。細石英・長石・赤褐色粒子を含む。	I区東方 I区	
8	土師器 葉	- 4.3 (4.2)	内 ヘラナデー 外 ヘラケズリ	一部欠損 内 2.5YR3/6 (暗赤褐) 外 5YR3/3 (暗赤褐)	細石英・長石含む。	I区	
9	土師器 葉	- 4.2 (8.8)	内 ヘラナデー 外 ヘラケズリ	下部残存 内 5YR3/6 (暗赤褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	細石英・長石粒子含む。 10と同一個体か。	カマド	
10	土師器 葉	20.2 -	内 胴部ナデー口縁部ヨコナデー 外 胴部ヘラケズリ口縁部ヨコナデー	胴上平残存 内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/6 (橙)	細石英・長石粒子含む。 9と同一個体か。	カマド東方 カマド 検出	
11	土師器 葉	20.4 -	内 口縁部ヨコナデー胴部ナデー 外 口縁部ヨコナデー胴部ヘラケズリ	口縁部~胴部欠損 内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YK5/4 (にぶい赤褐)	細石英・長石粒を含む。	カマド No.13 検出	
12	土師器 葉	12.2 -	内 胴部ナデー口縁部ヨコナデー 外 胴部ヘラケズリ口縁部ヨコナデー	3/4残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	細石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅱ区2層 カマド カマド東方	
13	弥生土師器 甕	- 8.4 (3.6)	内 ミガキ 外 ミガキ	底部残存 内 7.5YR5/3 (にぶい壺) 外 7.5YR5/3 (にぶい壺)	細石英・石炭粒子・~4mm大赤褐色粒子を含む。	No.2	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考	出土位置
15	紙行	<10.4>	4.0	4.1	<235>	砂書	I区
16	礎石	8.8	3.8	2.4	100	砂笠 スリ面あり。	Ⅱ区

23) H24号住居址 (第44・45図、図版17・18・86)

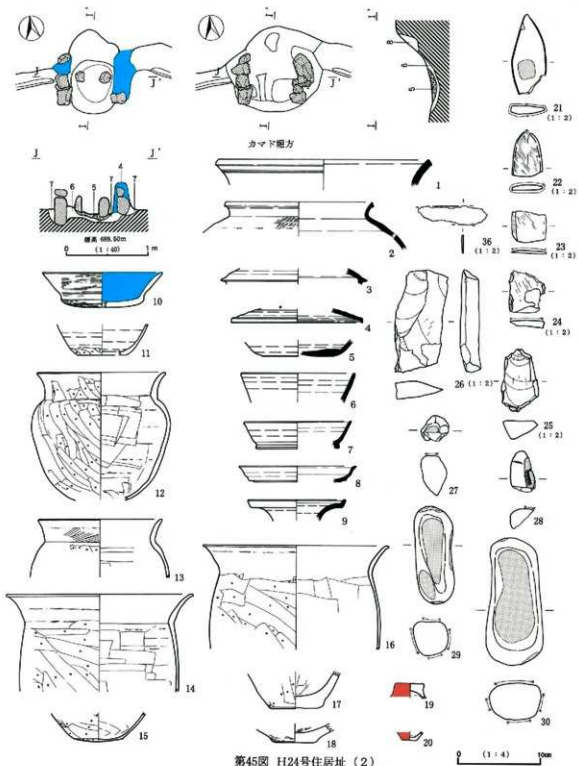
Hき9グリットにあり、H26に切られ、H49・M6を切る。西壁は擾乱により、一部壊される。砂層中に構築される。南北404cm、東西490cmを測り東西に長い長方形を呈す。カマドは北壁にあり、主軸は北より8°東に振れる。カマドは石と粘土で袖をつくり、支脚石が2個残されていた。カマドの東にはIIカマドがあり、焼土面と焼けた礫が残っていた。主柱穴はP1~P4の4本で、南壁下に小ピットがある。また床下にP9~13のピットが掘方から検出され、住居址の規模拡大が行われたためのIIピットではないかと推測される。



H24 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 2. 黒色土層 (10YR1, 7/1)
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 4. 黒褐色土層 (7, 5YR2/2)
 5. 赤褐色土層 (5YR4/6)
 6. 暗褐色土層 (7, 5YR2/2)
 7. 黒褐色土層 (7, 5YR2/2)
 8. 暗褐色土層 (7, 5YR2/4)
 9. 赤褐色土層 (5YR4/5)
 10. 暗褐色土層 (7, 5YR2/2)
 11. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 12. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 13. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 14. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 15. 黄褐色土層 (7, 5YR4/5)
 16. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 17. 暗褐色土層 (10YR2/2)
- ローム磁子・パミスを含む。
 ローム磁子・パミスを含む。
 ローム磁子・パミスを含む。
 粘土。(カマド層粘土)
 粘土。
 砂土塊、埋ける。(Dマド層方)
 赤土を含む。(Dマド層方)
 粘土磁子を含む含む。(カマド層方)
 粘土。(Dカマド)
 中々埋ける。(Dカマド層方)
 (柱痕)
 砂土塊。(ピット層方)
 10YR4/6赤褐色土はプロク状に含む、硬まる。(黒土)
 黒土を含む。(埋方)
 砂土塊。(埋方)
 砂土塊。(埋方ピット層方)
 砂土塊。(埋方ピット層方)

第44図 H24号住居址 (1)



出土物には須恵器、土師器、石製模造品の木製品 (21)、磨製石鏃または未製品 (22~24)、凝灰岩製紡錘車 (33)、土製紡錘車 (34)、鉄製輪 (35)、刀子 (36)、打製石斧 (31・32)、スリ石 (27・28)、剥片 (25・26)、編物石 (29・30) がある。M6 と重複するため弥生中期の上層片もある。須恵器は壺・甕などがみられ、高台の付く杯 (7)、底部回転ヘラ切りの杯がある。壺は口縁部形骸「く」の字形の武藏甕 (12~16) がある。10の丸底杯Bは混入品であろう。これらより本址は奈良時代であろう。

第23表 H24号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 壺	(25.0) - (3.3)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ後口縁部に2条の浅溝施す。	口縁1/20残存 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅱ区1層
2	須恵器 短頸壺	(18.0) - (4.2)	内 ロクロナデ 外 一部タキキ後ロクロナデ	口縁一部残存 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	検出 H26
3	須恵器 壺	(1.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	破片 内 N8/0 (灰白) 外 N8/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	
4	須恵器 壺	(16.2) (1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー大井部回転ヘラケズリ	口縁1/12残存 内 N6/0 (赤) 外 N6/0 (赤)	石英・長石含む。	Ⅱ区1層
5	須恵器 杯	(3.0) (2.0) (3.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部回転ヘラ切り	底部1/4残存 内 7.5YR7/2 (明褐色) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 壺底部にヘラ記号(?)あり。	検出
6	須恵器 杯	(14.0) (2.0) (3.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/10残存 内 N8/0 (灰白) 外 N8/0 (灰白)	石英・長石含む。	Ⅱ区1層
7	須恵器 高台付杯	(13.2) (10.4) 3.3	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部切り隠し一高台附存	口縁・底部1/8残存 内 N8/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石少量含む。 壺外面に自然釉付着。内外面磨耗	Ⅲ区2層
8	須恵器 瓶	(14.2) (3.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁一部 残存 内 N7/0 (灰白) 外 N6/0 (赤)	石英・長石・黒色粒子少量含む。 壺外面に自然釉付着	P6
9	須恵器 長頸壺	(12.0) (2.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/6残存 内 5R5/1 (紫灰) 外 5R4/1・5YR6/1 (暗紫灰・青灰)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子含む。	Ⅲ区1層
10	土師器 杯	(14.6) (10.1) 4.3	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/4残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区2層
11	土師器 壺	(6.0) (3.8)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部と底部外面手もちヘラケズリ	底部1/2残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	検出 H26Ⅰ区
12	土師器 小型壺	(15.7) - (17.7)	内 口縁ロコナデ後胴部ヘラナデ 外 口縁ロコナデ後胴部から胴部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 5YR6/3 (にぶい赤褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	No.1
13	土師器 小型壺	(15.0) (7.2)	内 口縁ロコナデー胴部ヘラナデ 外 口縁ロコナデ後ヘラナデ(紐口)一胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。 壺外面磨耗	Ⅰ区2層
14	土師器 壺	(22.8) (12.0)	内 口縁ロコナデー胴部ヘラナデ 外 口縁ロコナデー・胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4・5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.2 No.5
15	土師器 壺	(6.0) (3.7)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 5YR8/4 (淡橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石含む。	Ⅰ区2層 Ⅱ区
16	土師器 壺	22.6 - (12.9)	内 口縁ロコナデー胴部ヘラナデ 外 口縁ロコナデー・胴部ヘラケズリ	口縁は1/2定形 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅰ区・Ⅰ区2層 Ⅳ区1層 トレ
17	土師器 壺	(6.7) (4.5)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部3/4残存 内 5YR8/4 (淡橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 壺底部に木炭屑残る。	Ⅱ区2層 検出
18	土師器 壺	- 5.4 (2.3)	内 ミガキ 外 ミガキ	底部1/2残存 内 10YR8/2 (灰白) 外 2.5YR5/6 (明褐色)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅰ区
19	赤生土器 壺?	- 3.5 (1.7)	内 ナデ 外 天井部ナデ・体部ミガキ後赤色塗彩	天井部定形 内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR7/2・7.5YR4/6 (にぶい黄橙・赤)	石英・長石含む。	トレンチ
20	赤生土器 壺	- 1.8 (1.1)	内 ヘラナデ 外 ミガキ後赤色塗彩	底部定形 内 10YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR4/6 (赤)	石英・長石含む。	

番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考	出土位置
21	石製模造品 (削削)	(4.4)	2.6	0.5	(5.9)	黒色緻密安山岩、周サイドが特に良く磨かれている。	カクラン
22	石製模造品 (削削)	(2.7)	1.85	0.3	(2.2)	滑石 先端部欠損 磨製石皿?二次加工品か?基部断面も研磨される。	IV区1層
23	未製品 (磨製石皿)	(1.4)	2.1	0.2	(1.3)	片岩 片面・基部磨かれる。	III区1層
24	未製品 (磨製石皿)	(2.55)	(2.15)	0.4	(3.3)	片岩 片面磨かれている。	床上
25	刃形石器	3.8	2.3	1.1	10.7	黒色緻密安山岩	III区1層
26	削片	6.2	2.9	1.0	28.1	黒色緻密安山岩 刀があり。	IV区2層
27	スリ石	(3.2)	3.4	4.9	(30)	黒曜石	
28	砥石	(5.0)	(3.0)	2.5	(40)	凝灰岩 擦痕・割目あり。	
29	礪物石	11.9	4.8	4.2	400	硬砂岩 スリ面6 打痕2	No4
30	スリ石	15.4	7.0	4.5	750	砂岩? スリ面6	No3
31	打製石斧	7.9	6.15	2.0	78.4	黒色緻密安山岩 先端部磨耗	横出
32	打製石斧	12.2	6.5	1.4	120	安山岩	カクラン
33	紡錘車	3.25	3.5	1.35	22.8	凝灰岩	I区1層
34	土製紡錘車	(4.4)	4.7	2.8	(53.4)	土製品	No6
35	(紡錘車?)軸	小(3.2) 大(7.8)	(0.5) (0.5)	(0.5) (0.4)	(1.8) (5.4)	鉄製品	II区2層
36	刀子	(4.2)	(1.1)	(0.2)	(1.8)	鉄製品	IV区1層

24) H25号住居址 (第46図、図版19・87)

Hか9グリットにあり、H26に切られ、H49・H59・D29を切る。砂層中に構築される。南北300cm、東西328cmを測り、ほぼ方形を呈す。主軸はほぼ北を指す。カマドは北壁中央にあり、支脚石とカマド袖石が残っていた。主柱穴は4本であるが、掘り込みが浅く、不明瞭である。南壁下に2個小ピットが東西にあり、北東隅にも検出された。

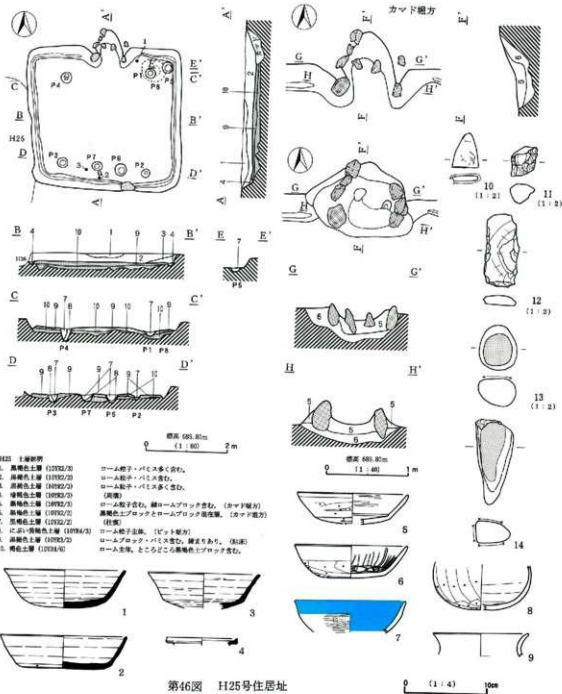
出土遺物には須恵器、土師器、磨製石皿または未製品(10・12)、楔形石器(11)、スリ石(13)、礪物石(14)がある。須恵器杯(1～3)は底部回転ヘラ切り難し後、ナデまたはヘラケズリされる。土師器杯(5・6)はやや丸みのある平底で、内面にミガキないし、畿内系略文が施される。

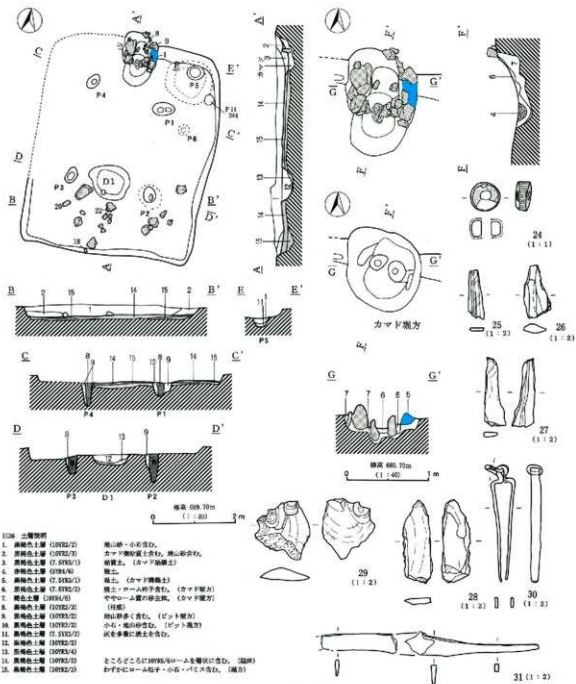
これらより本址は奈良時代であろう。

第24表 H25号住居址出土遺物一覧表

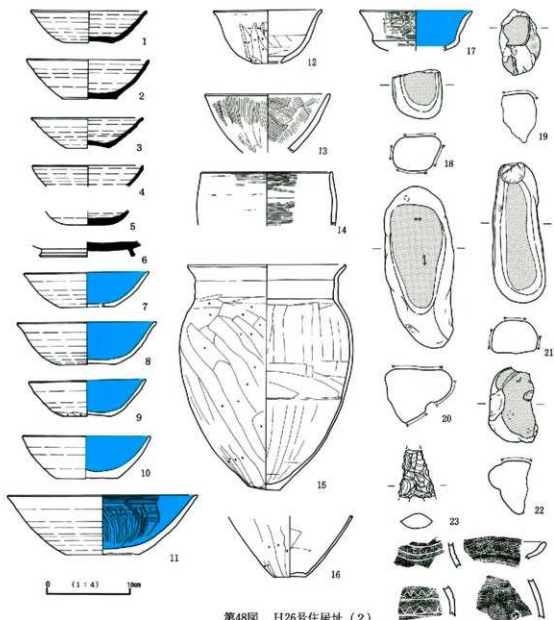
番号	器種	注号	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	14.8 10.2 4.7	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ+底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	ほぼ完形 内 5Y8/1 (灰白) 外 7.5Y8/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.1・No.2 III区
2	須恵器 杯	15.4 11.6 4.1	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ+底部切り難し後回転ヘラケズリ	口縁2/3残存・底部完形 内 7.5Y8/1 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※火だすきあり。	No.3 横出
3	須恵器 杯	(13.6) (9.8) (4.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ+底部回転ヘラ切り	口縁1/6残存 内 10GY7/1 (明緑灰) 外 5Y5/1 (灰)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	II区
4	須恵器 壺	(8.8) - (0.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/8残存 内 N5/0 (灰) 外 N4/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※内外に自然輪付着	IV区
5	土師器 杯	(13.6) (9.2) (3.7)	内 ヨコナデ後ミガキ 外 口縁ヨコナデ+口縁から底部ヘラケズリ後一部ミガキ	口縁1/6残存 内 5Y7/4 (にぶい燈) 外 5Y7/4 (にぶい燈)	石英・赤色粒子・チャート含む。 きめ細かい。	横出 H<9
6	土師器 杯	(13.8) 8.1 4.0	内 口縁ヨコナデ+みこみ部ナデ後畿内系略文施す。 外 腰部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ+口縁ヨコナデ	底部定形 内 5Y7/4 (にぶい燈) 外 5Y7/4 (にぶい燈)	石英・長石・チャート・赤褐色粒子含む。 ※磨滅著しい。	カマド
7	土師器 杯	(13.6) - (3.9)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ後口縁部黒色処理	口縁1/10残存 内 N1.5/0 (黒) 外 N1.5/0・7.5YR8/4 (黒・浅黄)	石英・長石・褐色粒子含む。	横出
8	土師器 小型丸底	- - (5.7)	内 ヘラナデ+ナデ 外 ヘラケズリ	底部2/3残存 内 7.5Y7/3 (にぶい燈) 外 7.5YR6/2 (灰褐)	石英・長石含む。	I区トレ カマド
9	土師器 小型壺	(11.6) - (2.8)	内 口縁ヨコナデ後胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ	口縁1/8残存 内 7.5Y7/2 (明緑灰) 外 7.5Y7/2 (明緑灰)	石英・長石・赤色粒子含む。	IV区 横出

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
10	磨製石器	2.1	1.6	0.3	1.5	片岩	Ⅱ区
11	灰形石器	1.56	1.8	1.1	3.3	黒曜石	Ⅱ区
12	本製品 (石製模造品)	4.4	2.1	0.65	8.8	黒色凝岩安山岩	検出
13	スリ石	2.75	2.3	1.7	15.4	チャート スリ面あり。	サブトレ
14	燧石	<10.3>	4.6	2.6	<160>	河原石	Ⅱ区





第47図 H26号住居址 (1)



第48図 H26号住居址（2）

Hき10グリットにあり、平成12・13年度の2回にわたり南と北半で調査し、図面上で合わせている。H24・H25・H49・H59・F17・M6・単P126・244を切る。南北480cm、東西374cmの南北に長い長方形を呈する。重複関係がつかめずに、北西のH24と重なる部分の検出ができなかった。カマドは北壁中央にあり、軸には石を多用し、掘土範囲より30cmほど奥に2個の支脚石が残っていた。主柱穴は4本で短径24~30cm、深さ30~40cmの堀方に柱痕がみられた。また南列の主柱穴間に長さ88cm、深さ24cmを測る長方形の土坑がある。北東隅には灰を底に多く含む長径40cm、深さ24cmの落ち込みがある。

出土遺物には須恵器、土師器、編物石 (18~22)、黒曜石製石鏃 (23)、滑石製白玉 (24)、磨製石鏃未製品または剥片 (25~28)、鉄製の毛抜 (ピンセット状) (30)、鉄製刀子 (31)、剥片石器 (29)、弥生時代中期の土器片がある。須恵器杯 (1~4) は底部回転糸切りのままである。土師器杯 (7~11) は外面にロコロ痕を残し、内面ミガキないし暗文を施している。底部は回転糸切り後そのままのものと、底部周辺部手持ちヘラケズリのものがある。土師器鏃は武蔵鏃 (15・16) で口縁部形態「コ」の字形を呈する。

これらより、本址は平安時代前期の住居址である。

本址Ⅳ区より、炭化種子が出土し、オニグルミ核片と同定された。

第25表 H26号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存・色調	胎上・特徴	出土位置
1	須恵器杯	(14.2) 5.9 3.9	内 ロコロナデ 外 ロコロナデ+底部回転糸切り	口縁1/2残存・底部定形 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 2.5YR7/3 (浅黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む 有酸化還元不足	No.3 Ⅰ区2層 カマド・横出
2	須恵器杯	14.9 6.8 4.8	内 ロコロナデ 外 ロコロナデ+底部回転糸切り	口縁1/4・底部1/2残存 内 3Y7/0 (灰白) 外 3Y7/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※火たすき有。	Ⅲ区1層 H24Ⅰ区
3	須恵器杯	(13.8) - 3.7	内 ロコロナデ 外 ロコロナデ+底部回転糸切り	口縁1/4・底部1/2残存 内 3Y7/0 (灰白) 外 3S5/0 (灰)	石英・長石含む。 ※赤みあり。	カマド
4	須恵器杯	(13.5) - (2.6)	内 ロコロナデ 外 ロコロナデ	口縁1/4残存 内 3Y7/0 (灰白) 外 3Y7/0 (灰白)	石英・長石含む。 きめ細かい。	床 H24Ⅰ142層
5	須恵器杯	(6.0) (1.8)	内 ロコロナデ 外 ロコロナデ+底部切り離し後ヘラナデ	底部1/2残存 内 3Y7/0 (灰白) 外 3Y6/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	横出
6	須恵器鏃	(11.7) (1.8)	内 ロコロナデ 外 ロコロナデ+底部切り離し後回転ヘラケズリ+両台貼付	底部1/3残存 内 3Y7/0 (灰白) 外 3Y5/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※外面に自然釉付着。底部磨耗。転用説あり。	Ⅱ区
7	土師器杯	(13.2) 6.6 4.2	内 ロコロナデ後ミガキ後黒色処理 外 ロコロナデ+底部切り離し後手もちヘラケズリ	口縁2/3・底部1/4残存 内 N2/0 (黒) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石含む。	Ⅳ区 横出
8	土師器杯	(17.0) (6.8) 5.2	内 ロコロナデ後ミガキ・暗文後黒色処理 外 ロコロナデ+底部回転糸切り後ヘラナデ	口縁1/2・底部1/4残存 内 2.5YR7/6・N1.5/0 (黄・黒) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.1
9	土師器杯	(14.2) 5.7 4.4	内 ロコロナデ後ミガキ (暗文様) 後黒色処理 外 ロコロナデ+底部切り離し後底部と底部外周手もちヘラケズリ	口縁1/2残存・底部定形 内 7.5YR7/2・N2/0 (明暗灰・黒) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子含む。	No.2
10	土師器杯	(15.4) 7.3 5.2	内 ロコロナデ後暗文後黒色処理 外 ロコロナデ+底部回転糸切り	口縁1/4・底部1/10残存 内 5YR7/4・10YR1.7/1 (にぶい橙・黒) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区3層 Ⅲ区 横出
11	土師器鏃	(23.2) (9.0) 7.2	内 ロコロナデ後ミガキ後ミガキ (暗文様) (後黒色処理) 外 ロコロナデ+底部切り離し後手もちヘラケズリ	口縁1/4残存 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。 ※外面底部磨耗	カマド 床
12	土師器瓶 (孔)	(13.4) 3.3 6.5	内 胴部ヘラナデ+口縁ココナデ 外 口縁ココナデ+胴部ヘラケズリ	口縁1/4・底部1/5残存 内 7.5YR7/3 (浅黄橙) 外 7.5YR7/3 (浅黄橙)	石英・長石・黒色粒子含む。 きめ細かい。	横出
13	土師器瓶	(15.4) (7.2)	内 口縁ココナデ+胴部ヘラナデ (窪目) 外 口縁ココナデ+胴部ヘラナデ (窪目)	口縁1/4残存 内 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。	Ⅲ区
14	土師器鉢	(16.2) - (6.5)	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁1/8残存 内 10YR8/3 (浅黄橙) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 きめ細かい。 ※外面施釉著しい。	Ⅱ区
15	土師器鏃	(19.5) 4.0 27.6	内 口縁ココナデ+胴部から底部ヘラナデ 外 口縁ココナデ+胴部ヘラケズリ+底部ヘラケズリ	口縁1/4残存・底部定形 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	Ⅳ区 カマド 床
16	土師器鏃	- 4.0 (7.5)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ+底部ナデ	底部13/16定形 内 5YR5/2 (浅黄橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石含む。 きめ細かい。	Ⅰ区2層・ カマド・Ⅳ区 H24
17	土師器杯	(13.8) (10.7) (4.9)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/4・底部1/4残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	石英・長石含む。	Ⅱ区・Ⅲ区 Ⅲ区1層

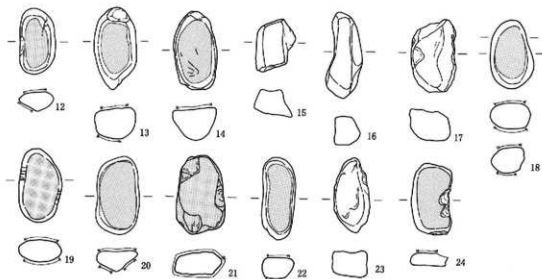
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
18	礫物石	<6.0>	6.1	4.3	<270>	安山岩 熟うける。スリ面5 (局部にもスリ面あり。)	No.5
19	礫物石	8.1	5.1	6.1	240	輝石安山岩 スリ面1	
20	礫物石	19.7	8.6	6.6	960	多孔質安山岩 スリ面2	No.6
21	礫物石	17.0	6.5	4	640	硬砂岩 スリ面3	IV区
22	礫物石	9.2	<5.8>	8.6	<130>	軽石 凹みあり。	No.4
23	石鏝	1.5	1.1	0.45	0.6	黒燐石 先端・基部欠損	I区サブトレ
24	臼玉	0.9	0.9	0.5	0.5	滑石	IV区
25	削片	3.0	1.0	0.2	0.9	片岩	II区
26	削片	3.2	1.7	0.5	3.1	片岩	II区
27	削片	4.2	1.4	0.3	1.7	片岩	II区
28	未製品 (磨製石鏝)	5.05	1.7	0.4	4.8	片岩	III区
29	削片石器	3.6	3.3	0.8	6.7	黒色輝石安山岩	III区
30	毛抜	7.2	1.6	0.7	6.5	鉄製品	
31	刀子	刃(4.6) 柄(8.2)	<1.1> <1.4>	<0.3> <0.4>	<6.0> <5.6>	鉄製品 先端部・刀部の一部欠損	

25) H27号住居址 (第49・50図、図版20・21・88)

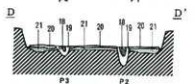
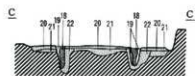
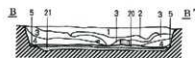
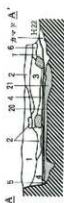
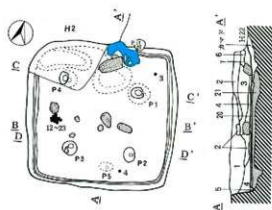
H27号グリットにあり、平成12・13年度の2回にわたり半域ずつ調査され、図面で合成している。H22に切られる。南北324cm、東西320cmの方形を呈する。カマドは北壁にあり、主軸は18°北より西に振れる。カマドの西軸はH22に横される。主柱穴は4本柱で、北列の柱穴は、大きく掘った柱穴の中にさらに細方と柱痕がみられた。南壁下にはP5がある。西側中央には礫物石が12個まとまって積まれていた。

出土遺物には須恵器、土師器、石製根造品列形(10)、磨製石鏝未製品(11)、礫物石(12~24)がある。須恵器は高台付き杯でH22のものであろうか。土師器杯は丸底から外稜を持って口縁が反する杯Eの有段口縁杯である。土師器鉢は外面ヘラケズリされる。高杯(9)の杯部は内外に暗文が施され、混入品であろう。

時期を特定する資料を欠くが古墳時代後期中葉頃であろうか。



第49図 H27号住居址(1)

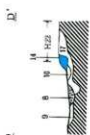
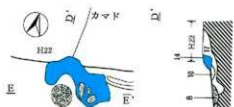


標高 69.50m
(1:80) 2m

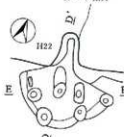
H27 土層説明

1. 黒褐色土層 (10932/3)
2. 黒褐色土層 (10933/2)
3. 黒褐色土層 (10932/2)
4. 黒褐色土層 (10932/1)
- 5.
6. 黒褐色土層 (10932/2)
7. 黒褐色土層 (7. 5193/2)
8. 黒色土層 (7. 5192/1)
9. 黒褐色土層 (10932/3)
10. 黒褐色土層 (10933/3)
11. 黒褐色土層 (10933/2)
12. 黒褐色土層 (10933/4)
13. 黒褐色土層 (10933/3)
14. 黒褐色土層 (10932/3)
15. 黒褐色土層 (10932/2)
16. 黒褐色土層 (10932/2)
17. 黒褐色土層 (10932/2)
18. 黒褐色土層 (10932/3)
19. 黒褐色土層 (10934/4)
20. 黒褐色土層 (10932/2)
21. 黒色土層 (10934/4)
22. 黒色土層 (10934/4)

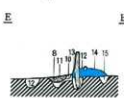
地山砂・小石を含む。
 地山砂・小石を含む。カマド跡は粘土を含む。
 地山砂・小石を含む。白色粘土ブロックを含む。
 地山砂・小石を多く含む。
 河床。
 粘土・粘土砂子を含む。
 粘土・粘土砂子に粘土を含む。カマド跡遺構。
 7.5194/4の粘土ブロックを多量に含む。(火鉢跡)
 粘土ブロックを含む。地山砂・小石を含む。(カマド跡方)
 粘土・炭化物ブロックを少し含む。地山砂を含む。(カマド跡方)
 粘土を少し含む。粘土ブロックを多く含む。(カマド)
 地山砂を含む。(カマド跡方)
 粘土多量を含む。(カマド跡方)
 粘土多量を含む。小石を少し含む。(カマド跡方)
 ローム混入する。(カマド跡方)
 粘土ブロック少量含む。地山砂を含む。(カマド跡方)
 (柱礎)
 地山砂主体。(ピット跡方)
 地山砂ブロックを含む。砂まら。(堀跡)
 地山砂主体。(竪穴)
 地山砂主体。(ピット跡方)



カマド
 カマド跡方

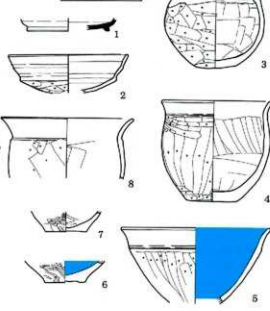


10
(1:2)



11
(1:2)

標高 69.50m
(1:80) 1m



第50図 H27号住居址 (2)

0 (1:4) 10cm

第26表 H27号住居址出土遺物一覽表

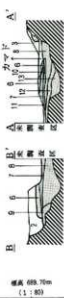
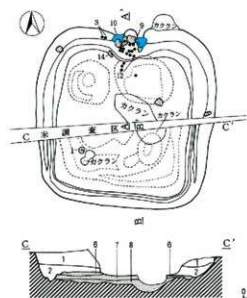
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 高台付杯	- (10.2) (1.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り離し後回転ヘラケズリ→高台貼付	底部1/8残存 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅲ区Ⅱ層方	
2	土師器 杯	(14.6) (11.8) (4.7)	内 みこみ部ナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ(後内・外黒色処理?)	口縁1/6残存 内 7.5YR8/3・7.5YR2/1 (黄褐色・黒) 外 7.5YR8/3・7.5YR1.7/1 (黄褐色・黒)	石英・長石・赤色粒子含む。 きめ細かい。	カマド	
3	土師器 鉢	9.3 5.3 9.9	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 後ナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	完形 内 10YR7/3 (にぶい黄褐色) 外 10YR7/2・8/2 (にぶい黄褐色・灰白)	石英・長石・チャート・赤色 粒子・黒色粒子含む。 きめ細かい。	No.1	
4	土師器 小型壺	(13.5) 6.1 12.3	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	口縁一部残存・底部完形 内 N3/0 (褐色) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐色)	石英・長石・角閃石・赤色粒 子含む。 きめ細かい。	No.2 Ⅱ区4層	
5	土師器 鉢	(14.4) - (9.3)	内 胴部ヘラナデ・口縁ヨコナデ後黒色処 理 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	口縁1/3残存 内 N2/0 (黒) 外 2.5YR7/4 (淡赤褐色)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	Ⅱ区2・4層 H22検出	
6	土師器 鉢	- (5.0) (2.6)	内 ミガキ後黒色処理 外 胴部ナデ後ミガキ・底部ナデ後ミガキ	底部1/4残存 内 N3/0 (褐色) 外 7.5YR7/2 (暗褐色)	石英・長石・赤色粒子多く含 む。	1区	
7	土師器 小型壺	- (5.0) (2.5)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラナデ(縦目)・底部ヘラケズリ	底部1/4残存 内 5YR5/1 (褐色) 外 7.5YR7/3 (にぶい黄)	石英・長石・角閃石含む。	Ⅱ区4層	
8	土師器 壺	(16.2) - (7.1)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 7.5YR6/3 (にぶい黄) 外 5YR7/4 (にぶい黄)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	Ⅲ区 Ⅱ区2層	
9	土師器 高杯	(18.0) - (5.7)	内 ヨコナデ後方刺破文 外 ヨコナデ後方刺破文	口縁1/4残存 内 10R6/6 (赤褐色) 外 10R6/6 (赤褐色)	石英・長石・赤色粒子含む。 きめ細かい。	Ⅱ区1層 Ⅱ区4層 検出	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
10	石製模造品 (筒形)	<2.8>	1.2	0.35	<1.9>	滑石 先端欠損	
11	木製品 (傘形石版)	<3.5>	1.9	0.25	<2.5>	片岩 擦痕あり。先端欠損	
12	礫物石	8.0	4.3	2.3	120	安山岩 スリ面2	No.13
13	礫物石	10.0	5.1	3.8	260	安山岩 スリ面2	No.14
14	礫物石	9.6	5.3	4	260	安山岩	No.3
15	礫物石	6.5	4.8	3.1	140	石英?	No.4
16	礫物石	10.5	4.5	3.5	220	安山岩	No.6
17	礫物石	8.9	5.2	3.8	210	安山岩	No.7
18	礫物石	8.4	5.3	3.2	200	安山岩 スリ面2 両先端にわずかに打痕あり。	No.5
19	礫物石	9.1	5.3	2.8	280	安山岩 スリ面2 割目2	No.8
20	礫物石	9.6	5.3	2.5	180	安山岩 スリ面3	No.9
21	礫物石	9.7	5.9	2.9	230	安山岩 全面磨耗	No.10
22	礫物石	10.1	4.2	2.6	180	硬砂岩 スリ面2	No.12
23	礫物石	9.2	4.5	3.2	170	石質?	No.11
24	礫物石	8.7	5.0	1.6	110	黒色顔面安山岩	検出

38) 第H28号住居址 (第51図、図版21・88)

Hからグリットにあり、構築土層は浅間第1軽石流である。南半はINPⅢ、北半はINPⅣで調査した。図上で合わせている。接合地点に、未調査地点ができてしまった。中央に擾乱が入る。南北320cm、東西329cm、の隅丸方形を呈する。主軸方位は北を指す。主柱穴は検出されず、カマドは北壁中央にある。覆土が粘性を帯びていたためか床向が判定しにくく、ロームブロックを含む6・7層とも締まっており床面としたが、その下面が床であるかもしれない。カマド付近からは武蔵燧が出土している。

出土遺物には須恵器、土師器、礫物石(14)、弥生時代の高杯が出土する。須恵器杯(1~3)は底部回転糸切りされ、1は外面に「司」の墨書が残る。司は役所・官庁などの意味を持っている。土師器杯(5・6)も底部回転糸切りのものである。土師器壺はいずれも武蔵燧で(7・9~12)、口縁部は「コ」の字形を呈する。

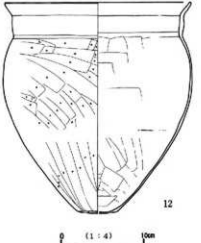
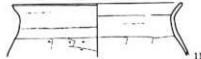
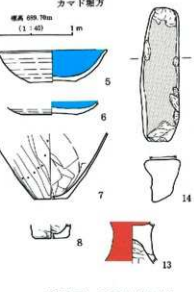
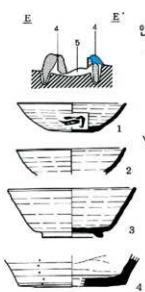
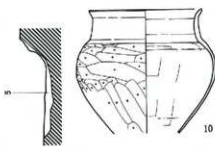
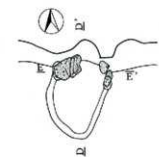
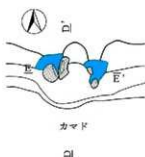
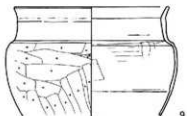
これらより、本址は平安時代前葉の住居址であろう。



H28 土層説明

1. 黄褐色土層 (10792/3)
2. 黄褐色土層 (10792/2)
3. 黄褐色土層 (10792/2)
4. 黄褐色土層 (10792/2)
5. 黄褐色土層 (10792/2)
6. 黄褐色土層 (10792/2)
7. 黄褐色土層 (10792/2)
8. 黄褐色土層 (10792/2)
9. 黄褐色土層 (10792/3)
10. 黄褐色土層 (10792/2)
11. 黄褐色土層 (10792/4)
12. 赤い黄褐色土層 (10792/2)
13. 黄褐色土層 (10792/4)

- 地山砂・小石を含む。
ローム粒子・繊維(ス)を含む。
(ローム堆積土)
灰質土・焼土層を含む。(カマド焼土)
地山砂を含む。(ノド壁方)
黄褐色土 (10792/3) 砂質・ロームの混在層。跡まる。(堀溝)
ローム粒子・バリスを含む。(堀溝)
跡まる。地山あり。
黄褐色土 (10792/3) ロームブロック混在層。(堀方)
ロームブロック多く含む。(堀方)
同化物を含む。(堀方)
黄ロームブロックを含む。(堀方)
赤ロームブロックを含む。(堀方)
ロームブロックを含む。(堀方)



第51図 H28号住居址

第27表 H28号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 測 量			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
1	須恵器 杯	13.3 5.0 6.6	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り		口縁3/4残存・底部完形 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 まめ肌かい。 ※帯黒土器「可」	No.1
2	須恵器 杯	(13.4) - (3.2)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		口縁1/3残存 内 7.5Y6/1 (灰) 外 7.5Y6/1 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	S
3	須恵器 高台付杯	(15.6) 5.3 6.0	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付		口縁1/4残存・底部完形 内 7.5Y7/2 (明褐色) 外 2.5Y7/1 (灰白)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.102
4	須恵器 壺	(13.0) (3.9)	内 外	ヘラナデ 底部外周回転ヘラケズリ・底部ナデ		底部1/4残存 内 N6/0 (灰) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※内面に自然輪付着	
5	土師器 杯	(13.5) 5.7 3.8	内 外	暗灰色黒色処理 ロクロナデ→底部回転糸切り		口縁1/3・底部1/2残存 内 N1.5/0 (黒) 外 2.5YR6/5・5/6 (豊・明赤橙)	石英・長石・灰色粒子含む。	N
6	土師器 杯	- 6.0 (1.7)	内 外	灰色処理 ロクロナデ→底部回転糸切り		底部完形 内 2.5YR3/1 (暗赤灰) 外 2.5YR6/6 (橙)	石英・長石・チャート含む。	N 横出
7	土師器 壺	- (4.0) (8.0)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ		底部1/2残存 内 2.5YR5/6 (明赤橙) 外 7.5YR3/2 (正褐)	石英・長石・黒色粒子含む。	IV区編方
8	土師器 手捏	- (4.4) (1.7)	内 外	ナデ ナデ		底部1/2残存 内 10YR7/3 (にぶい橙) 外 10YR7/3 (にぶい橙)	石英含む。	N
9	土師器 壺	(19.0) - (13.5)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ		口縁5/6残存 内 2.5YR4/3 (にぶい赤橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・1mmの黒色 粒子含む。	No.117 No.118 I区・IV区・N IV区編方
10	土師器 壺	(13.8) - (15.1)	内 外	胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ		口縁1/4残存 内 2.5YR5/4 (にぶい赤橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.107・112・ 116・119・121 S
11	土師器 壺	(20.8) - (6.5)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ		口縁1/3残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	床 IV区編方
12	土師器 壺	(22.8) (4.8) 25.8	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ		口縁3/4・底部1/2残存 内 5YR5/6 (明赤橙) 外 2.5YR5/6 (明赤橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.103・106・ 108・110・117 N・S・横出
13	弥生土器 高杯	- - (5.2)	内 外	杯部 ミガキ後赤色塗彩 脚部 ヘラナデ ミガキ後赤色塗彩		脚柱部のみ残存 内 7.5YR4/6・7.5YR6/3 (赤・にぶい橙) 外 7.5R4/6 (赤)	石英・長石・黒色粒子含む。	N
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		出土位置
14	編物石	16.4	4.8	5.2	490	安山岩 スリ面あり。		No.2

28) 第29号住居址 (第52図、図版21・89)

Gう1グリットにあり、砂層中に構築される。H14・H16・F22・M9・単独ピット317・323・328にきられる。H16に北西の大半を壊される。如は検出されていない。南北残長548cm、東西475cmの隅丸長方形を呈する。長軸方向は北より18°西に振れている。主柱穴は長軸方向に3本並ぶ6本柱だろう。また南壁下に2個のP4・P5が並ぶ。

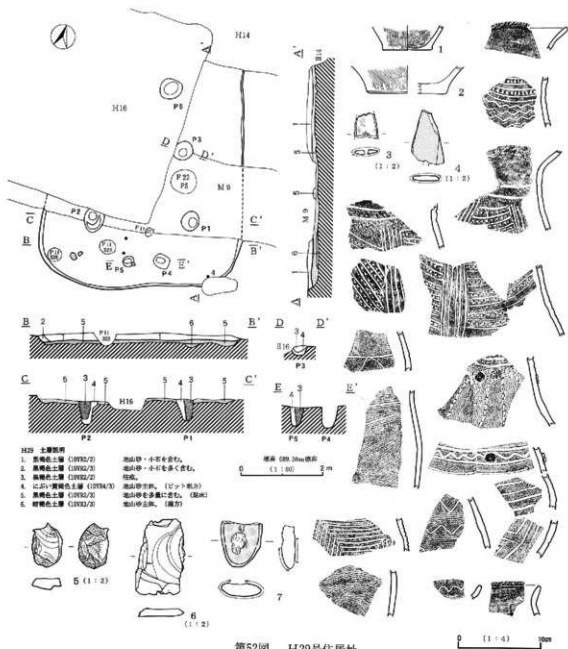
出土遺物には弥生時代中期の土器、磨製石鏃または未製品(3・4)、黒曜石・頁岩の薄片、砂岩製砥石がある。拓本に示したヘラ描き沈線を施文する蓋破片が多くみられる。

これらより本址は弥生時代中期であろう。

第28表 H29号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 測 量			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
1	弥生土器 壺	- 6.2 (3.0)	内 外	ミガキ ミガキ		底部完形 内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 7.5YR6/2 (灰褐)	石英・長石・角閃石含む。	IV区

番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考	出土位置
2	弥生土器 甕	(9.8)	(3.4)				
3	磨製石鏃	(1.6)	1.5	0.3	(0.7)	片岩	Ⅱ区
4	未製品 (磨製石鏃)	(3.1)	2.2	0.3	(2.6)	片岩 全面スリ面あり。基部欠損	No.3
5	剥片	2.7	1.8	0.7	3.8	基層石	Ⅱ区
6	剥片	4.6	3.0	0.5	7.6	褐色緻密安山岩	Ⅱ区
7	剥片	(5.5)	5.0	1.5	(50)	砂岩 スリ面2 打痕3	Ⅱ区



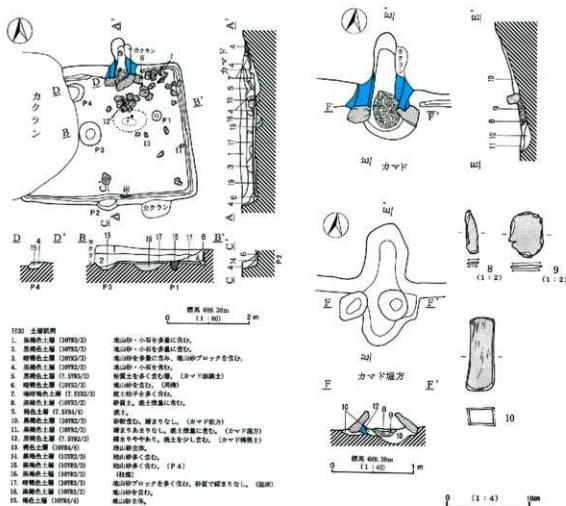
29) H30号住居址 (第53・54図、図版22・23・89)

F お10グリットにあり、砂層中に構築される。H32を切る。西壁は擾乱により壊される。南北301cm、東西残長392cmを測る長方形の住居址である。カマドは北壁東寄りに設けられ、主軸は北を指す。主柱穴はP1に柱痕のみられたが他にない。カマド袖が残っており、カマド焚き口の軋石が袖石から落下した状態で出土する。壁下には周溝が巡る。北西には多くの石がみられたがカマドに使用されたものであろう。

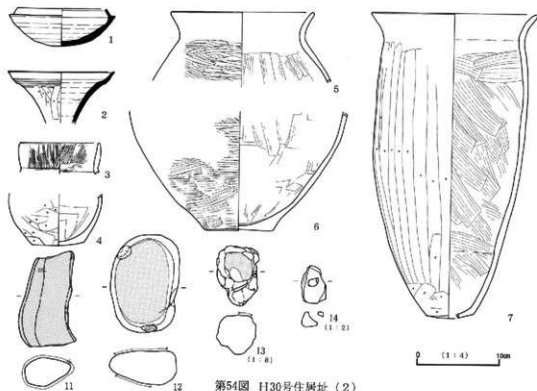
出土遺物には須恵器、土師器、磨製石器の剥片と未製品(8・9)、凝灰岩製砥石(10)、礮物石、スリ石がある。14は石製?で種類不明品で穴があき熱を受けている。遺物かどうかわからない。須恵器杯(1)は杯身で、丸底を呈し短い受け部がのび、立ち上がりは内傾する。須恵器皿(2)は口縁が細い頸部から大きく広がり、内湾して立ち上がるものである。6C中葉頃のTK10号竈に同器形のものが見られる。ミガキの施される丸胴甕(5・6)、胴部が縦方向にヘラケズリされ、最大径を口縁部に持つ長胴化した甕(7)がある。

これらより本址は古墳時代後期中葉であろう。

本址の炭化材は、コナラ属タヌギ節と樹種同定された。



第53図 H30号住居址 (1)



第54図 H30号住居址(2)

第29表 H30号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・装束	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 杯身	10.8 - 4.6	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ後底部回転ヘラケズリ	口縁完形 内 N6/0 (灰) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石含む。	No.1 No.2	
2	須恵器 浅鉢	(13.0) - (6.3)	内 ロクロナデ (口唇部に一条の沈線痕) 外 口縁部ロクロナデ後一条の沈線痕。 底部をキメ直した後ヘラケズリ施す。	口縁1/8残存 内 2.5Y7/1 (灰白) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	B区1層	
3	土師器 小型丸底	(9.6) - (4.8)	内 ココナデ焼ミガキ 外 ココナデ焼ミガキ	口縁1/6残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子含む。 きめ細かい。	I区	
4	土師器 小型甕	- 6.3 (6.3)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	B区1・2層	
5	土師器 甕	(17.4) - (8.7)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ (縦目) 外 口縁ヨコナデ・胴部ミガキ	口縁1/2残存 内 7.5YR8/4 (浅黄橙) 外 7.5YR8/4 (浅黄橙)	石英・長石・赤色粒子含む。 きめ細かい。 ※6と同型体	II区1・2層 B区1層	
6	土師器 甕	- 8.6 (14.6)	内 ヘラナデ (縦目) 外 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部完形 内 7.5YR8/2 (灰白) 外 5YR8/4-6/5 (淡橙・橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。 ※磨耗 (外面) ※5と同型体	No.4 I区 B区2層	
7	土師器 甕	(20.4) (5.8) 37.3	内 口縁ヨコナデ・胴部から底部ヘラナデ (縦目) 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	口縁1/3完形・底部1/2残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・角閃石・褐色粒子含む。	No.5 II区1・2層 I区3層 サブトレ	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考	出土位置
8	銅片	(2.6)	(0.85)	0.1	(0.3)	片岩	
9	未製品 (磨製石鏃)	2.8	2.15	0.2	1.4	片岩	
10	砥石	8.9	3.5	1.8	90	凝灰岩	II区
11	礫物石	(17.0)	7.2	3.5	(380)	安山岩 両端のワレを除き、全体に滑らか。	No.6
12	礫物石	12.0	8.5	4.2	520	安山岩 スリ面2 打痕2	No.8
13	台石	14.6	10.4	9.7	1,090	滑結凝灰岩 スリ面1	No.7
14	?	2.3	1.5	0.9	1.7	石製品。穴があく(人工か自然か?)。	I区サブトレ

30) H31号住居址 (第55・56図、図版23・89・90)

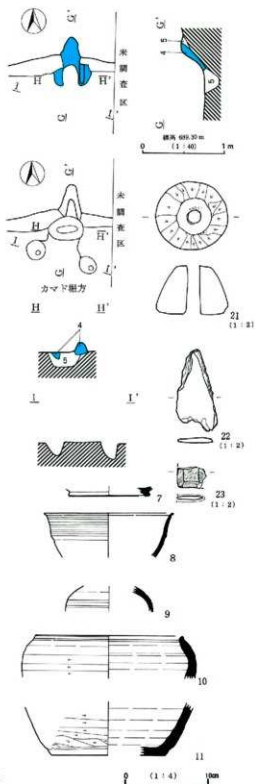
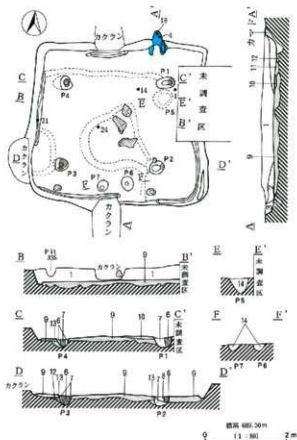
Fえ9グリットにあり、東側は通路であったため、同時にできず2回に分けて調査した。それでも、通路であったため一部未調査区ができてしまった。また、溝状の攪乱が中央に南北に入っている。単P335に切られ、H32・H55を切る。砂層中に構築される。南北343cm東西376cmの東西にやや長い方形を呈す。主軸はほぼ北を指す。主柱穴は4本で、他に南壁下に2個のピットがある。カマドは北壁中央から東に寄っており、粘質土がみられた。周溝は重複のため検出できなかった所を除いてはほぼ巡っている。

出土遺物には須恵器、土師器、土製紡錘車(21)、磨製石鏃米製品・磨製石鏃(22・23)、ミガキ石(25)、稲物石(26・27)、鉄製刀子(24)がある。須恵器杯(1～5)は底部回転糸切りである。6は奈良時代の杯であろう。8は中位に外稜を持つ椀である。土師器杯(14・15)は内面暗文施文後黒色処理され、底部は回転糸切り後、手持ちヘラケズリされている。土師器甕は武藏甕で、口縁部形態「コ」の字形である。

これらより、本址は平安時代前期であろう。

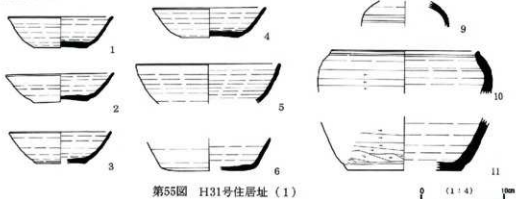
第30表 H31号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	注記	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯	12.8 6.4 3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部回転糸切り	口縁1/2残存・底部完形 内 7.5YR5/2 (灰緑) 外 N6/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 非火だすき者。	No.1・床 Ⅲ区2層 カマド
2	須恵器杯	(12.1) 6.6 3.5	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部回転糸切り	口縁1/4・底部2/3残存 内 7.5Y6/1 (灰) 外 5Y7/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 非内面に火だすき者。	I区 Ⅲ区
3	須恵器杯	(12.4) 6.2 3.9	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部回転糸切り	口縁1/3残存・底部1/3残存 内 7.5Y6/1 (灰) 外 7.5Y6/1 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 非内外面火だすき者。	Ⅲ区
4	須恵器杯	(13.8) 7.0 3.6	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部回転糸切り	口縁1/3残存・底部完形 内 10Y7/1 (灰白) 外 10Y7/1・7.5YR7/2 (灰白・明細灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 非内外面火だすき者。	No.3
5	須恵器杯	(17.6) - (4.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/6残存 内 7.5Y7/1 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石含む。	Ⅳ区
6	須恵器杯	- (11.5) (4.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部切り離し(ただし磨滅して判別できない。)	底部1/4残存 内 5Y2/1 (灰白) 外 5Y2/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 非内外磨滅。	検出
7	須恵器高台付杯	(10.0) (1.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部切り離し→高台貼付	底部1/8残存 内 N5/0 (灰) 外 N5/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅳ区
8	須恵器椀	(15.8) - (5.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー後口縁カキメ	口縁1/8残存 内 N6/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石・褐色粒子含む。	検出
9	須恵器蓋	- (3.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー後肩部に2本の沈線施す。	破片 内 5Y6/1 (灰) 外 5Y5/1 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 非外面に自然釉付着。	Ⅲ区
10	須恵器短壺	(18.0) - (5.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー後胴下半回転ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 N5/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石含む。	Ⅳ区
11	須恵器甕	- (13.8) (6.6)	内 底部ナデー胴部ロクロナデ 外 胴部回転ヘラケズリ後底部外周手持ちヘラケズリ・底部回転ヘラケズリ→高台貼付(高台欠損)	底部1/4残存 内 10Y6/1 (灰) 外 5Y6/1 (灰)	石英・長石含む。	検出
12	須恵器壺	(36.2) - (1.4)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁1/8残存 内 N6/0 (灰) 外 N4/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	検出
13	須恵器甕	- (20.2) (4.8)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデー後タタキメ	底部1/16残存 内 7.5Y6/1 (灰) 外 7.5Y6/1 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 非焼成前穿孔。多孔なのが一孔なのかわからない。	カマド
14	土師器杯	14.9 8.0 4.9	内 暗文後黒色処理 外 ロクロナデー底部切り離し後手持ちヘラケズリ	口縁3/4・底部完形 内 N2/0 (黒) 外 2.5YR7/4・7.5YR8/3 (淡赤帯・浅黄帯)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.2 Ⅳ区 Ⅳ区サブトレ 床
15	土師器杯	- (10.0) (2.7)	内 暗文後黒色処理 外 ロクロナデー底部切り離し後手持ちヘラケズリ	底部1/8残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR8/3 (浅黄帯)	石英・長石・褐色粒子含む。 非外面底部に黒帯あり。	Ⅲ区

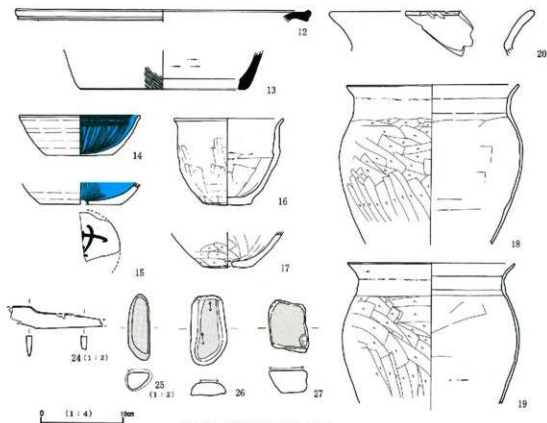


H31 土層説明

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 黄褐色土層 (10YR2/2) | 地山砂・小石を含む。 |
| 2. 黄褐色土層 (10YR2/2) | 地山砂・小石を含む。 |
| 3. 黄褐色土層 (10YR2/2) | 地山砂を多く含む。 |
| 4. 暗褐色土層 (7.5YR3/2) | 粘質土。(カマド) |
| 5. 黄褐色土層 (7.5YR3/2) | 粘質土多く含む。(カマド基方) |
| 6. 黄褐色土層 (10YR2/2) | (柱础) |
| 7. 暗褐色土層 (10YR2/2) | 地山砂多く含む。(ピット基方) |
| 8. 黄褐色土層 (7.5YR3/2) | 地山砂を多く含む。(ピット基方) |
| 9. 黄褐色土層 (10YR3/4) | 地山の砂礫層に含む。小石散在に含む。(柱基) |
| 10. 灰色・褐色土層 (7.5YR5/0) | 粘土を少量含む。しまりがある。(柱基) |
| 11. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) | 灰化物・焼土ブロックを多く含む。(基方) |
| 12. 暗褐色土層 (10YR3/2) | 小礫・少量を含む。(基方) |
| 13. 灰色・黄褐色土層 (10YR4/2) | (柱穴基方) |
| 14. 黄褐色土層 (10YR2/2) | 地山砂を多く含む。(P3) |



第55図 H31号住居址(1)



第56図 H31号住居址(2)

16	土加器 鉢	(11.5) 6.0 10.7	内外	胴部ヘラナデ→口縁ヨコナア 口縁ヨコナア→胴部ヘラナア・底部ヘラ ナア	口縁一部残存・底部完形 内 7.5YR7/2 (明褐色) 外 2.5YR6/4 (にぶい藍)	石英・長石含む。		
17	土加器 碗	- (6.0) <4.5>	内外	ヘラナア 胴部ナデ後底部外周ヘラケズリ・底部ヘ ラケズリ	底部1/3残存 内 5YR7/4 (にぶい藍) 外 7.5YR7/4 (にぶい藍)	石英・長石・赤褐色粒子含む。Ⅱ区		
18	土加器 要	21.1 - (19.6)	内外	口縁ヨコナア→胴部ヘラナア 口縁ヨコナア→胴部ヘラケズリ	口縁完形 内 5YR5/3 (にぶい赤藍) 外 5YR7/4 (にぶい藍)	石英・長石・黒色粒子含む。No.4 カマド 検出		
19	土加器 要	(20.4) - (17.2)	内外	胴部ヘラナデ→口縁ヨコナア 胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナア	口縁1/2残存 内 7.5YR5/2 (灰藍) 外 7.5YR6/2 (灰藍)	石英・長石・黒色粒子含む。	検出	
20	土加器 壺	(25.2) - (3.5)	内外	ヨコナア ヨコナア	口縁1/12残存 内 7.5YR6/4 (にぶい藍) 外 5YR6/4 (にぶい藍)	石英・長石含む。地質 ※口縁部に押圧痕あり。	Ⅱ区	
番号	種類	長さ	巾	高さ	g	備考		出土位置
21	楊漆車	径 上 下	2.7×2.1 4.2×4.4	3.0	54.9	土製品		No.5
22	未製品 (磨製石鏝)	<4.9>	2.55	0.3	<4.4>	片岩		検出
23	磨製石鏝	<1.3>	1.8	0.2	<0.6>	片岩 基部残存		検出
24	刀子	<5.8> <1.2>	<1.2>	<0.5>	<4.8>	鉄製品		No.6
25	ミガキ石	4.0	1.3	1	10.2	黒色磨岩安山岩 全面スリ面		
26	磨物石	8.5	4.5	1.6	70	砂岩 スリ面1		南方
27	磨物石	6.5	4.9	2.8	150	安山岩 スリ面あり。		

31) H32号住居址 (第57・58図、図版24・90)

Fえ9グリットにあり、北東は通路であったため未調査区がある。H14・H18・H30・H31・H65・F23に切られ

る。砂層中に構築する。平成12・13年度にわたり、さらに13年度は東側を南北2回に分けて調査している。床下のP8は西半では確認したが東側では未確認という状況である。南北残長594cm、東西326cmの隅丸長方形を呈す。長軸はほぼ北を指す。主柱穴は4本で、径50cm、深さ84cmの大きなビット堀方に柱痕がみられた。北壁隅中央に椀持ち柱がある(P7)。南壁と主柱穴P1の南にはP5・P6の径60cm深さ40cmほどの貯蔵穴がある。炉は北側主柱穴の間にあり、焼土がみられた。炉の北半分はH31に壊される。径40cm深さ8cmほどの落ち込みの南側に炉緑石を置いている。

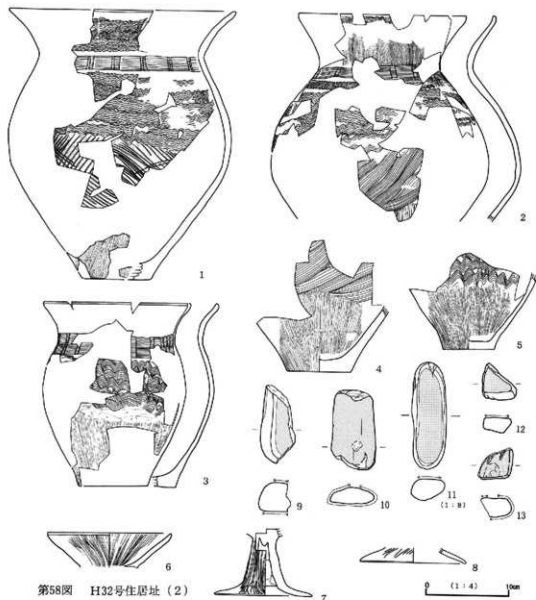
出土遺物には弥生式土器、磨製石鏃・磨製石鏃未製品、剥片がある。弥生式土器(1~5)は輪描文を施す壺形土器である。1・2とも欠損部分が多いが、甕の胴中位下にト半とは異なる施文をしており、装飾性が高い土器である。また検出では土師器の高杯(6~8)が出土し、上面に古墳時代中期の住居址が重複していた可能性もあるが未確認である。磨製石鏃・または未製品、その剥片が多数出土している。石材は31・32が緑泥片岩であるが他はやや材質が異なる片岩である。

これらより本址は弥生時代後期であろう。

Ⅳ区より出土している炭化種子はモモの核片と同定された。

第31表 H32号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	質量	成形・調整	残存・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	弥生土器 壺	(27.7) (8.6) 33.0	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ・胴下半から底部ミガキ 文 口縁部と胴部上半7~10本1組とする輪描波状文 胴部9本1組とする輪描波状文(3連止め) 胴部中央へラ横斜走文?	底部1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい壺) 外 7.5YR7/3 (にぶい壺)	石英・長石含む。	Ⅱ~Ⅳ区	
2	弥生土器 壺	(20.6) — (24.2)	内 ミガキ 外 口縁から胴部中央へラナデ(杯目)・胴部下半ミガキ 文 口縁部 輪描波状文 胴部10本1組とする輪描波状文(2連止め) 胴部上半8本1組とする輪描波状文 胴部中央へラミガキとする輪描波状文	口縁1/2残存 内 7.5YR6/6 (壺) 外 7.5YR7/3 (にぶい壺)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅰ~Ⅳ区	
3	弥生土器 壺	(18.0) (8.4) 22.5	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ・胴部上半ヘラナデ(杯目)・ト半ヘラタズリ後ミガキ・底部ミガキ 文 胴部8本1組とする輪描波状文(2連止め)を2条 胴部上半5~6本を1組とする輪描波状文施す。	口縁2/3・底部1/8残存 内 5YR6/4 (にぶい壺) 外 10YR7/4 (にぶい壺)	石英・長石・褐色粒子含む。	Ⅰ区~Ⅳ区 Ⅲ区溝方 H31Ⅱ区 Ⅱ区溝方	
4	弥生土器 壺	— 8.0 (16.1)	内 ミガキ 外 胴部下半ミガキ・底部ミガキ 文 胴部中央 輪描斜走文(単位不明)	底部定形 内 5YR6/4 (にぶい壺) 外 5YR6/4 (にぶい壺)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅱ~Ⅳ区 検出	
5	弥生土器 壺	— 6.3 (11.8)	内 ミガキ 外 胴部ヘラナデ(杯目)後胴部下半ミガキ・底部ヘラタズリ 文 輪描波状文(単位不明)	底部定形 内 7.5YR6/2 (灰壺) 外 7.5YR7/3 (にぶい壺)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.2	
6	土師器 高杯	(15.2) — (4.2)	内 ヨコナデ後暗文 外 ヨコナデ後暗文	口縁1/6残存 内 7.5YR5/4 (にぶい壺) 外 7.5YR5/4 (にぶい壺)	石英・長石・赤色粒子含む。	検出	
7	土師器 高杯	— (12.0) (8.2)	内 杯部ミガキ・胴部ヨコナデ・脚部ヘラナデ 外 杯部ヨコナデ・脚部暗文	裾部1/11残存 内 5YR6/4 (にぶい壺) 外 2.5YR6/4 (にぶい壺)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅲ区 検出	
8	土師器 高杯	— (13.0) (1.8)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ後暗文	脚部部1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい壺) 外 5YR7/4 (にぶい壺)	石英・赤色粒子含む。	Ⅳ区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
9	スリ石	(9.5)	(4.2)	3.6	(190)	礫心安山岩	Ⅲ区
10	礫石	(9.7)	5.3	2.1	(150)	砂岩	Ⅲ区
11	炉緑石	26.3	8.3	5.4	1,640	安山岩 磨耗面1	No.1
12	スリ石	4.4	4.2	1.9	40	黒曜石 スリ面1	Ⅱ区
13	礫石	(3.9)	(4.3)	2.3	(50)	砂岩 全面スリ	Ⅲ区
14	磨製石鏃	(1.7)	(1.2)	0.15	0.4	黒色縞密安山岩 先端部残存	Ⅰ区
15	磨製石鏃	2.5	2.2	0.25	1.2	片岩	Ⅱ区
16	磨製石鏃	1.85	0.75	0.15	0.3	片岩	Ⅱ区
17	未製品 (磨製石鏃)	3.4	1.5	0.3	1.7	片岩	検出
18	剥片	2.8	0.7	0.15	0.5	片岩	Ⅳ区



第58图 H32号住居址(2)

19	未製品 (磨製石器)	3.2	1.5	0.2	<1.3>	片岩 先端・基部欠損	
20	未製品 (磨製石器)	1.3	0.7	0.2	0.3	片岩 刃部片離残存	
21	剥片	2.1	0.6	0.15	0.2	片岩	Ⅱ区
22	剥片	1.35	0.2		0.6	片岩	I区
23	剥片	2.1	1.4	0.15	0.5	片岩	
24	剥片	1.75	1.1	0.15	0.3	片岩	
25	未製品 (磨製石器)	2.3	1.8	0.3	<2.3>	片岩 先端・片離刃部欠損	Ⅱ区
26	未製品 (磨製石器)	<2.3>	1.9	0.25	<1.4>	片岩 先端・基部欠損	I区
27	未製品 (磨製石器)	2	1.8	0.2	<1.4>	片岩 先端・基部欠損	I区

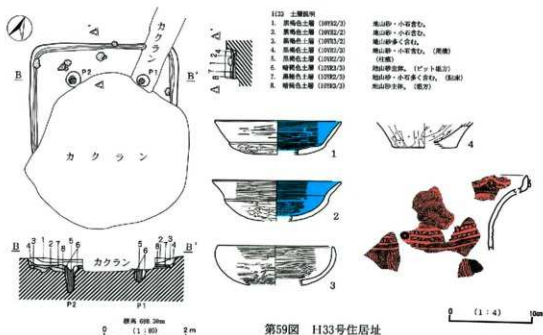
28	割片	2.45	1.6	0.25	0.7	片岩	
29	割片	2.15	1.15	0.2	0.6	片岩	
30	未製品 (磨製石鏝)	4.2	3.2	0.25	4.3	片岩	B区
31	割片	1.5	3.7	0.5	4.3	緑泥片岩 両端にカット面あり。	III区
32	割片	2.5	3.1	0.6	4.0	緑泥片岩 両端にカット面あり。	
33	未製品 (磨製石鏝)	<3.0>	3.0	0.35	<4.4>	片岩 周縁に割離あり。先端部欠損	III区
34	割片	4.3	4.1	0.8	15.0	黒色緻密安山岩	P2
35	割片	3.05	5.45	0.5	0.7	黒色緻密安山岩	
36	契形石器	2.4	2.6	0.7	5.0	黒曜石	I区
37	スリ石	2.3	2.8	0.9	8.4	黒曜石 スリ痕あり。	検出

32) H33号住居址 (第59図、図版24・90)

Fから10グリットにあり、攪乱に大半を壊される。M6を切る。南北残長200cm東西326cmを測る。主軸は25°北より西に傾く。柱穴はP1・P2の2本検出され、攪乱により壊されなければ4本主柱穴であろう。カマドは検出されていない。周溝が壁下を巡る。

出土遺物には土師器と弥生式土器がある。土師器杯は杯Bの口縁が大きく外傾ないし反外するもの(1・2)と、全体に内湾する杯C(3)がある。土師器壺は底部で、外面ヘラケズリされる。拓本に示した弥生式土器は重複するM6のものであろう。

これらより、本住居址は古墳時代後期前葉であろうか。



第59図 H33号住居址

第32表 H33号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(15.6) (11.8) (4.1)	内 ミガキ地黒色処理 外 口縁ヨコナデー底部ヘラケズリとヘ ラケその後継いミガキ施す。	口縁1/6残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR7/6・10YR8/3・ 10YR6/2 (靑・淡黄緑・灰黄緑)	石英・長石含む。	B区1・2層

2	土師器 杯	(15.9) (12.8) (4.9)	内 ミガキ後黒色地埋 外 ロクロナデ後ミガキ・底部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR6/4・10YR7/3 (にぶい橙・にぶい黄橙)	石英・長石・チャート含む。	Ⅱ区
3	土師器 杯	(14.4) - (4.8)	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁3/8残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (浅黄橙)	石英・長石含む。	I区1層
4	土師器 甕	(7.8) - (3.1)	内 ヘラケズリ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/4残存 内 7.5YR6/3 (にぶい橙) 外 10YR7/2 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色砂子・小石含む。	Ⅱ区東方

33) H34号住居址 (第60・61図、図版24・91)

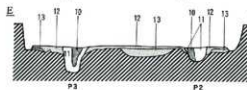
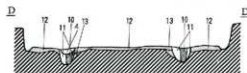
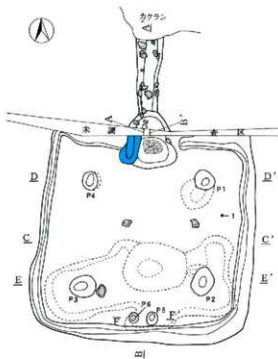
フキ8グリットにあり、H35・F11を切る。I N P IXでカマド煙道を調査したが未調査部分ができしまった。砂層中に構築する。南北434cm東西468cmを測り、やや東西には長いが方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、煙道は北側に長く伸び、攪乱に壊されても残長186cmを測る。煙道は両脇に石を並べている。主柱穴は4本で堀方と柱痕が良好に検出された。他に南壁下には小柱穴が2個東西に並ぶ。堀方では、南列主柱穴P2・P3の間に長径168cm短径128cm、深さ20cmの隅丸長方形の落ち込みがある。

出土遺物には、須恵器、土師器、磨製石鏃と未製品 (15-16)、編物石 (17~19)、スリ石 (20)、鉄製鎌? (21) がある。須恵器杯 (1・2) は底部回転切り難しのままのである。土師器杯 (9) は内面に畿内系暗文を施している。土師器甕 (12・14) は武蔵系で口縁部形態「く」の字形を呈する。

これらより、本址は奈良時代であろう。

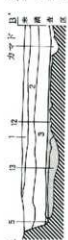
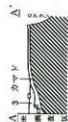
第33表 H34号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法尺	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	15.0 8.8 5.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部回転ヘラ切り	口縁2/3残存・底部完形 内 2.5YR2/2 (灰白) 外 2.5YR3/3 (浅黄)	石英・長石・褐色砂子含む。	No.1
2	須恵器 杯	(14.7) 6.6 3.6	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部回転ヘラ切り	口縁1/2残存・底部完形 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・黒色砂子含む。	Ⅱ区 Ⅱ区2層
3	須恵器 杯	(15.2) (9.8) (4.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/3残存 内 SY7/1 (灰白) 外 SY7/1 (灰白)	石英・長石・褐色砂子・黒色砂子含む。	I区2層 H30Ⅱ区
4	須恵器 高台付杯	(11.2) (1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部切り難し→高台貼付	高台1/8残存 内 N6/0 (灰) 外 N5/0 (灰)	石英・長石含む。	Ⅱ区
5	須恵器 短頸甕	(8.8) 8.8 (5.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・肩部和胴部の境に3条の沈線あり。	口縁1/12残存 内 N6/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石含む。 ※自然釉付着	I区1層 H39Ⅲ区・ Ⅱ区
6	須恵器 短頸甕	(16.2) - (3.2)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁1/8残存 内 N5/0 (灰) 外 N3/0 (暗灰)	石英・長石・黒色砂子含む。 ※自然釉付着	
7	須恵器 甕	(8.0) (6.1)	内 ロクロナデ (→一部ヘラナデ) 外 胴部カキメ後ヨコナデ・胴部下平ヘラケズリ・底部ナデ	底部1/4残存 内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR5/1 (赤灰)	石英・長石含む。	I区トレ Ⅱ区2層
8	須恵器 甕	(20.2) (9.1)	内 当て具によるおさえの後ヘラによるナデ・胴部下平から底部ヨコナデ 外 胴部タケキメ	底部1/11残存 内 2.5R6/1 (黄灰) 外 7.5YR5/1 (暗灰)	石英・長石・褐色砂子含む。 ※外面底部と底部外面黄褐色	I区トレ Ⅱ区東方 H39
9	土師器 杯	(12.4) - (4.0)	内 みこみ部ナデ・口縁ヨコナデ後畿内系断文施す。 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 SY7/1 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・チャート・~1mmの黒色砂子含む。 きめ細かい。	I区トレ
10	土師器 鉢	(13.4) - (6.3)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 SYR5/2 (灰褐) 外 SYR5/2 (灰褐)	石英・長石・ウソモ含む。	I区トレ Ⅱ区3層
11	土師器 甕	(6.5) - (3.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部と底部外面ヘラケズリ	底部1/2残存 内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・~1mmの黒色砂子含む。	Ⅱ区1・3層 Ⅲ区
12	土師器 甕	(15.6) - (4.5)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/5残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 SYR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・~1mmの赤褐色砂子少量含む。	Ⅱ区1・2層

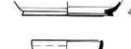
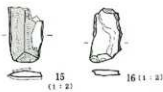


H34 土層説明

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 黒褐色土層 (1070/2) | 粘質土・砂・小石含む。 |
| 2. 黒褐色土層 (1070/2) | 焼山砂・小石多く含む。 |
| 3. 黒褐色土層 (1070/2) | 粘質土・小石含む。 |
| 4. 黒褐色土層 (1070/2) | 1070/2層に近い。3層より焼山砂を多く含む。 |
| 5. 暗褐色土層 (1070/2) | (同前) |
| 6. 暗褐色土層 (7, 1070/4) | 粘土。 |
| 7. 暗褐色土層 (1070/4) | 灰土プロック少量含む。粘土含む。(カマド跡) |
| 8. 暗褐色土層 (1070/4) | (カマド跡) |
| 9. 黒褐色土層 (1070/2) | 粘質土。(カマド跡方) |
| 10. 黒褐色土層 (1070/2) | 焼山砂・小石を含む。(付着) |
| 11. 黒褐色土層 (1070/2) | 焼山砂・小石、10層より多く混入。 |
| 12. 黒褐色土層 (1070/2) | 焼山砂が少量のみ。小石多く含む。(同前) |
| 13. 暗褐色土層 (1070/4) | 焼山砂が、小石を多量に含む。(同前) |

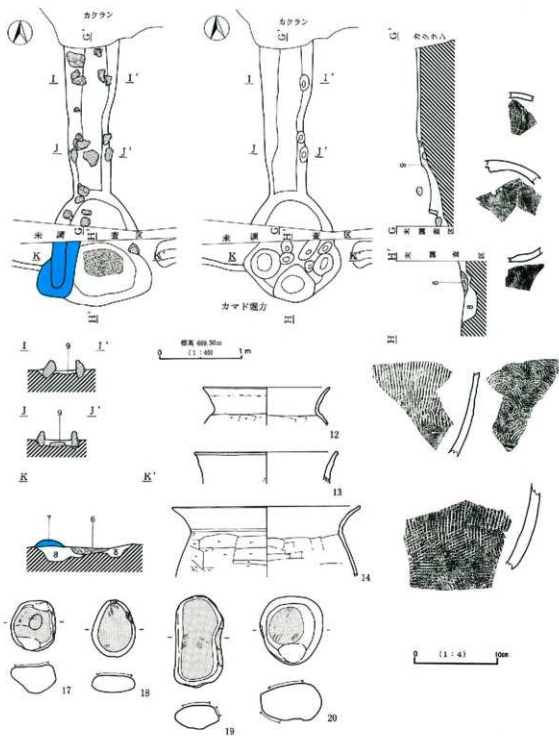


0 標高 680.30m (1:100) 5m



0 (1:4) 10cm

第60図 H34号住居址(1)



第61図 H34号住居址(2)

13	土師器 瓿?	(17.6) -	内 外	ヨコナデ ヨコナデ後ハケナデ	口縁1/6残存 内 7.5YR5/1 (褐灰) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・~1mmの黒色 粒子・赤色粒子含む。	Ⅱ区2層 H35Ⅱ区
14	土師器 葉	02.0 -	内 外	1.緑ヨコナデ・胴部ヘラナデ 1.緑ヨコナデ・胴部ヘラナズリ	口縁1/3残存 内 2.5YR5/2 (灰赤) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・~1mmの黒色 粒子・赤色粒子含む。	Ⅰ区2・3層 Ⅳ区3層 H35Ⅳ区
番号	種類	長さ	山	高さ	g	備考	出土位置
15	木製品 (磨製石鏝)	3.4	2.05	0.35	(4.0)	片著 部欠損	Ⅰ区1層
16	洲片	3.35	2.0	0.3	2.9	片著	カマド
17	礫物石	6.2	5.5	3.5	150	安山岩 スリ面1	Ⅳ区2層
18	礫物石	6.9	5.3	2.1	90	石質? スリ面1	検出
19	礫物石	11.4	5.9	2.9	200	安山岩 スリ面1	検出
20	スリ石	8.4	7.7	4.5	130	珪石 スリ面2	Ⅳ区2層
21	鏝	(1.8)	(3.2)	(0.4)	(8.4)	鉄製品	
☆	未実測					チャート・小石1点・黒色緻密安山岩・石核1点・滑石 片1点あり。	

34) H35号住居址 (第62・63図、国版26・91)

Fき8グリットにあり、砂層中に構築する。本調査と、INPXの調査と2回にわたって調査され、図面上で合わせている。接合部に、未調査部分が出てしまった。H34・INPX H4に切られ、北東はカマドを含め、攪乱により壊される。南東・北東区の床が残る。南北796cm、東西800cmを測る大型の住居址である。主軸方位は6°北より西に振れる。主柱穴は4本柱であったが北東の攪乱に壊され、P1~P3が残り、径40cm、深さ70cmのビット掘方を持つ。P4・P6は主柱穴の南北間にあり、補助的な柱穴であろうか。P7は径78cm、深さ50cmを測る円形の落ち込みで、右側は攪乱に壊されているが、カマド脇にあたるビットであろう。また、南壁に、長径80cm深さ4cmの楕円形範囲に焼土・炭化物・灰がみられた。P1・P2に向かって、間仕切り溝がある。

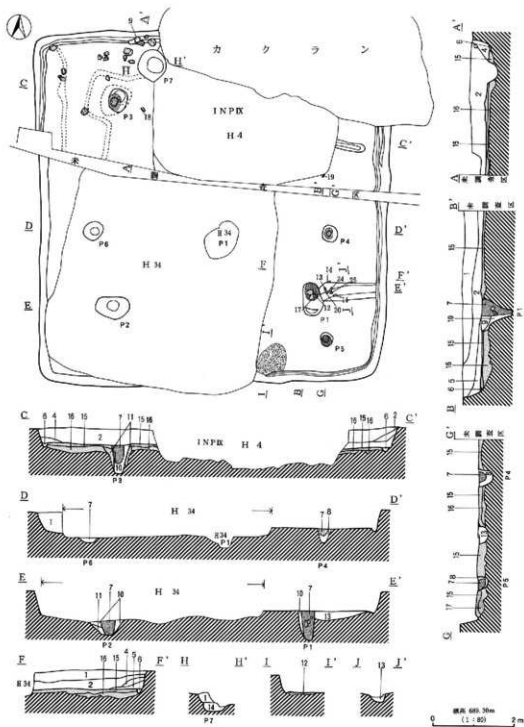
出土遺物には須恵器、土師器、弥生式土器、縄文式土器、礫物石がある。須恵器杯(1)は丸底で受け部が水平に短く伸び、立ち上がりは外反気味に内傾する。土師器杯(3・4)は小さい丸底から口縁が大きく外傾ないし外反する杯Bである。土師器甕(9)は底部が偏ってついでおり、カマドの脇で使用するための器形であろうか。

これらより古墳時代後期前葉の住居址であろう。

本址より出土した炭化種子はモモの核片と同定された。

第34表 H35号住居址出土遺物一覧表

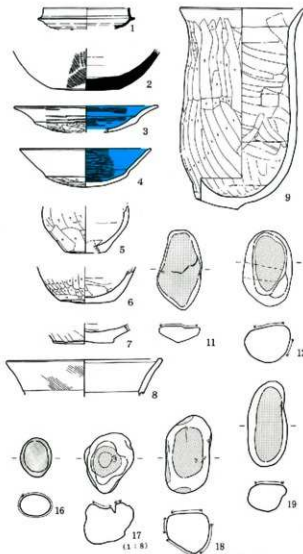
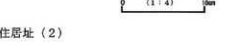
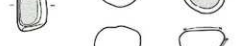
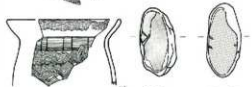
番号	器種	注釈	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯身	(10.6) -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ+大井部回転ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR4/1 (褐灰)	石英・長石含む。 Ⅱ区1層
2	須恵器 甕	(8.4) (5.1)	内 外	ヨコナデ タタキメ	底部1/2残存 内 N6/0 (灰) 外 N5/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 検出
3	土師器 杯	(17.6) (12.8) (3.2)	内 外	ミガキ後黒色処理 口縁ヨコナデ・底部ヘラナデ部分的に ミガキ	口縁1/4残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR6/3・4/1 (にぶい黄橙・褐灰)	石英・長石・赤褐色粒子・ チャートを含む。 Ⅳ区
4	土師器 杯	(16.0) (9.8) 4.7	内 外	ミガキ後黒色処理 口縁ヨコナデ+底部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR8/4 (黄黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 Ⅳ区1~3層
5	土師器 鉢	(5.0) (5.8)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ(後ミガキ?)・底部ヘ ラケズリ	底部1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒 色粒子含む。 漆喰減 Ⅰ区 Ⅳ区2層
6	土師器 鉢	(6.0) (4.5)	内 外	ヘラナデ(後黒色処理?) 胴部ヘラナデ・底部ヘラナデ	底部完形 内 7.5YR4/1(褐灰) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色 粒子含む。 Ⅱ区2層 Ⅳ区 Ⅳ区1層
7	土師器 鉢	(7.3) (2.4)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラナデ・底部ヘラナデ	底部完形 内 10YR6/1-N4/0(褐灰・灰) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒 色粒子含む。 漆喰減 検出
8	土師器 甕	(19.2) -	内 外	ヨコナデ ヘラナデ(飯目)後ヨコナデ	口縁1/5残存 内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	石英・赤褐色粒子含む。 Ⅳ区



第62図 H35号住居址(1)

H35 土器説明

1. 褐色色土層 (10YR2/3) 地山砂粒を多く含む。小礫を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂粒を多く含む。小礫を含む。灰味に数箇の焼土ブロックを含む。
3. 褐色色土層 (10YR2/3) 地山砂粒を含む。焼土ブロックを数箇に含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂粒を含む。焼土ブロック・炭化物を多数に含む。層上面に黒色土(10YR2/2)のうすい境界が見られる。
5. 黒褐色土層 (10YR2/2) (厚層)
6. 褐色色土層 (10YR2/3) 地山砂粒・小礫を含む。(柱状)
7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂粒を多く含む。小礫を含む。(ピット埋め)
8. 褐色色土層 (7.5YR3/2) 層上に焼土ブロックを含む。(P1)
9. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂粒を多く含む。礫を含む。(P1)
10. 褐色土層 (10YR1/6) 地山砂粒・小礫を含む。(ピット埋め)
11. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 焼土・炭化物・灰層。
12. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小礫を含む。黒色土層ブロックらしきもの。(間七切埋)
13. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小礫を含む。(P7)
14. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小礫を含む。礫よりあり。(地山)
15. 褐色色土層 (10Y1/4) 地山砂・小礫を多数に含む。焼土ブロック・ロームブロックが混入する。(埋め)
16. 褐色色土層 (10YR2/2) 地山砂・小礫多数を含む。(埋め)



0 (1:4) 10cm

第63図 H35号住居址(2)

9	土師器 罌	15.2 5.3 24.7	内 外	1 口縁ヨコナデ-胴部から底部ヘラナデ 1 口縁ヨコナデ-胴部ヘラケズリ-底部ヘ ラケズリ	完形 内 7.5YR7/6 (粉) 外 7.5YR6/4 (にぶい粉)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。	No.1
10	弥生土器 罌	(14.0) (8.1)	内 外 文	ミガキ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ (折目) 口縁 5~6本1組とする磨擦波状文 胴部 10本1組とする磨擦波状文(1通止) 胴部 9本1組とする磨擦波状文	口縁1/4残存 内 5YR4/2 (灰褐色) 外 7.5YR5/3 (にぶい粉)	石英・長石・褐色粒子含む。	P 1
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
11	編物石	6.7	5.4	2	120	安山岩 全体に滑らか。	No.5
12	編物石	9.3	6.1	4.5	280	多孔質 安山岩 スリ面2	No.7
13	編物石	8.8	4.9	2.9	170	安山岩 スリ面2	No.12
14	編物石	9.7	7.6	3.6	330	安山岩 スリ面1 挟中央2あり。	No.11
15	編物石	<11.2>	3.4	2.5	<180>	安山岩 スリ面2	Ⅱ区3層
16	ミガキ石	4.8	3.8	2.7	70	安山岩 スリ面2	Ⅰ区3層
17	凹石	14.9	12.1	9.9	1,110	滑結凝灰岩	No.8
18	編物石	9.5	5.4	5	405	安山岩	No.2
19	編物石	10.5	4.8	3.5	220	安山岩	No.13
20	編物石	7.9	4.4	3.5	80	溶結凝灰岩 スリ面1	No.6
21	スリ石	5.6	3.6	2.4	80	?	掘方
22	編物石	9.4	5.8	4.6	340	多孔質安山岩 打痕あり。	掘方
23	編物石	10.1	5.6	3.5	310	安山岩	掘方
24	編物石	8.4	4.5	3.8	200	チャート スリ面2	No.3
25	編物石	9.0	4.2	1.7	80	安山岩 スリ面2	No.4

35) H36号住居址 (第64・65図、図版27・92)

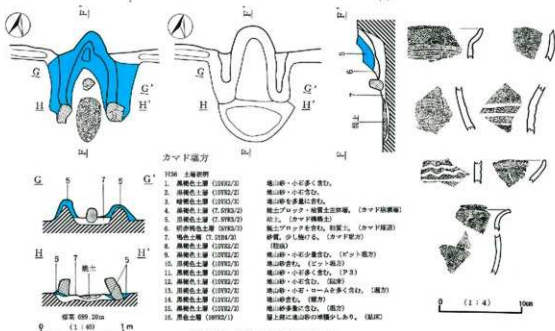
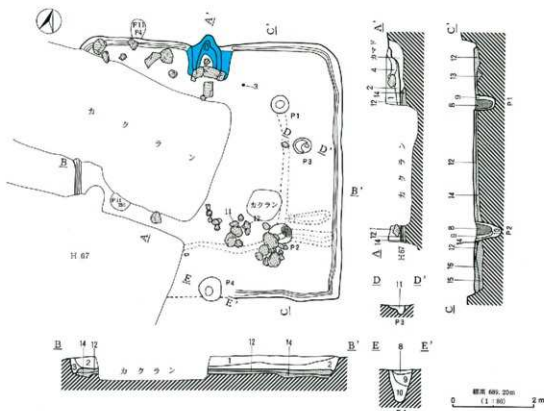
F<10グリットにあり、H67に切られ、H72・F11・M6を切る。攪乱に北西を切られる。砂層中に構築される。南北592cm、東西620cmを測る方形の住居址である。カマドは北壁にあり、主軸方位は15°西に振れる。カマドは支脚石が残り、焼土が厚くみられた。主柱穴は東側の2本が検出でき、西側は攪乱、H67に壊されている。壁下には刳溝が廻り、P2に向かって東壁から2本の間仕切り溝がみられた。また南壁下中央に径60cm、深さ80cmの円形の穴があった。

出土遺物には須恵器(1)、土師器、弥生式土器(7)、磨製石鏃(8)、スリ石(10)、編物石(9)、凹石(11・12)がある。土師器杯は浅い丸底から口縁が外反気味に外傾する杯B(2)、全体に口縁が内湾する杯C(3)、須恵器杯蓋模倣の杯E(4)がある。6の瓶は人型型でミガキが施される。

これらより、古墳時代後期前葉の住居址であろう。

第35表 H36号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 罌	(27.6) -	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁1/2残存 内 N5/0 (灰) 外 N4/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅰ区
2	土師器 杯	(14.8) (9.8) (3.9)	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ後全体に 粗いミガキ	口縁3/8残存 内 10YR6/3・N2/0 (にぶい黄褐色・黒) 外 10YR7/3 (にぶい黄褐色)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅰ区 Ⅱ区 Ⅱ区2層
3	土師器 杯	(14.4) -	内 暗文後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/2残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR8/3 (浅黄褐色)	石英・長石・赤褐色粒子・赤褐色 色粒子含む。	No.1
4	土師器 杯	(17.8) (12.6) (5.9)	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ後全体に 粗いミガキ	口縁3/8残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR8/4 (浅黄褐色)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色 粒子含む。	Ⅰ区 Ⅱ区
5	土師器 罌	(17.2) -	内 口縁ヨコナデ-胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ-胴部ヘラケズリ	口縁1/5残存 内 10YR5/2・7/4 (灰黄褐色・にぶい黄褐色) 外 10YR7/3 (にぶい黄褐色)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅱ区

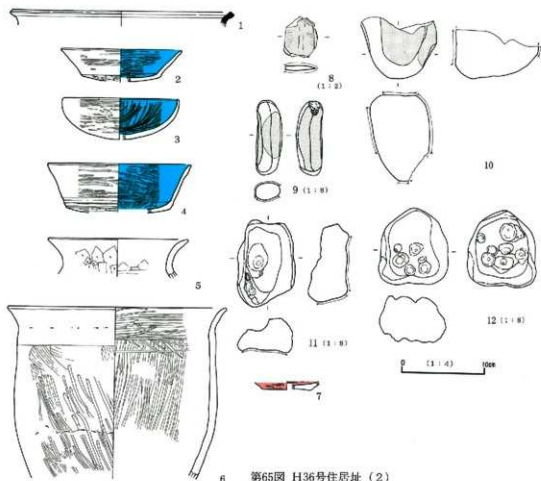


カマド通方

H36 土層説明

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 黒褐色土層 (0192/2) | 地山砂・小石多含む。 |
| 2. 赤褐色土層 (0192/2) | 地山砂・小石含む。 |
| 3. 暗褐色土層 (0193/2) | 地山砂を多量に含む。 |
| 4. 黒褐色土層 (7. 0193/2) | 粘土ブロック・地質土砂層。(カマド構築部) |
| 5. 黒褐色土層 (7. 0193/2) | 同上。(カマド構築部) |
| 6. 暗赤褐色土層 (0193/2) | 粘土ブロックを含む。粗灰土。(カマド構築部) |
| 7. 褐色土層 (7. 0194/2) | 砂質。少しゆるむ。(カマド壁方) |
| 8. 黒褐色土層 (0192/2) | (埋戻) |
| 9. 黒褐色土層 (0192/2) | 地山砂・小石少量含む。(ドット層方) |
| 10. 黒褐色土層 (0192/2) | 地山砂含む。(ピット埋戻) |
| 11. 黒褐色土層 (0192/2) | 地山砂・小石多含む。(P3) |
| 12. 黒褐色土層 (0192/2) | 地山砂・小石含む。(埋戻) |
| 13. 黒褐色土層 (0192/2) | 地山砂・小石・ローンを多含む。(溝方) |
| 14. 黒褐色土層 (0192/2) | 地山砂含む。(埋戻) |
| 15. 黒褐色土層 (0192/2) | 地山砂少量を含む。(溝方) |
| 16. 褐色土層 (0192/1) | 層上層に地山砂の堆積少しあり。(埋戻) |

第64図 H36号住居址(1)



第65図 H36号住居址(2)

6	土師器 甕	(26.8) - (21.0)	内 ミガキ 外 胴部ヘラナダ(経目)後根いミガキ+口 縁ヨコナダ	口縁1/2残存 内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	1区 カマド	
7	弥生土器 杯	- 5.0 (1.1)	内 ミガキ後赤色塗彩 外 胴型と底部ミガキ後赤色塗彩	底部1/4残存 内 10R5/6 (赤) 外 10R5/4 (赤場)	石英・長石含む。さめ細かい。	1区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考	出土位置
8	磨製石鏃	2.5	2.0	0.3	2.1	片岩 別録欠損	1区東方
9	燧石	18.1	6.2	4.2	770	スリ面2	1区
10	スリ石 (7.5)	9.5	10.4		(640)	黒曜石 スリ面3	1区
11	燧石	21.3	14.3	8.3	2450	黒曜石 スリ面4	No.3
12	燧石	18.9	16.9	11.1	3290	黒曜石(軽石質多い)多孔	No.2

36) H37号住居址(第66図、図版28・93)

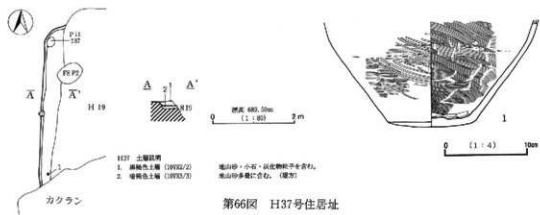
Fい9グリットにあり、H19に切られ、攪乱に南を切られ、南北残長368cm、東西残長40cmを測る。住居址西壁が残るのみである。主軸は北を指す。

出土遺物は弥生時代の壺形土器がある。外面ミガキ調整で無彩である。

重複するH19に弥生時代の壺、赤色塗彩の壺、磨製石鏃等が出土し、それらは本住居址に関連するものであろう。これらより、弥生時代中期の住居址であろう。

第36表 H37号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	- (10.8) (12.9)	内 胴部ヘラナデ(新目)→直部ヘラナデ 外 胴部ミガキ。底面磨耗のため判別できない。	底堅3/4残存 内 7.5YR6/3 (比較的) 外 7.5YR7/4 (比較的)	石英・長石・チャート含む。 ※外面磨耗	No.1 Fあり検出



37) H38号住居址 (第67図、図版28・93)

Fい9グリットにあり、H17・H20、擾乱に切られる。南東隅のみ残り、南北残長132cm、東西残長35cmである。砂層中に構築する。H17と同位置であるためプラン・規模とも詳細はわからない。

出土遺物には弥生式土器がある。台付甕の脚部である。破片では壺、甕などがある。図示できないが古墳時代後期の土師器杯・丸胴甕片もあるが、浅い住居での混入も考えられ、重複するH17が奈良時代であることからそれより旧く弥生時代の住居であるかもしれない。



第37表 H38号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 台付甕	- (7.2) (3.9)	内 ミガキ 外 ミガキ	台部1/3残存 内 7.5YR7/4 (比較的) 外 10YR7/4 (比較的)	石英・長石・黒色粒子含む。	検出

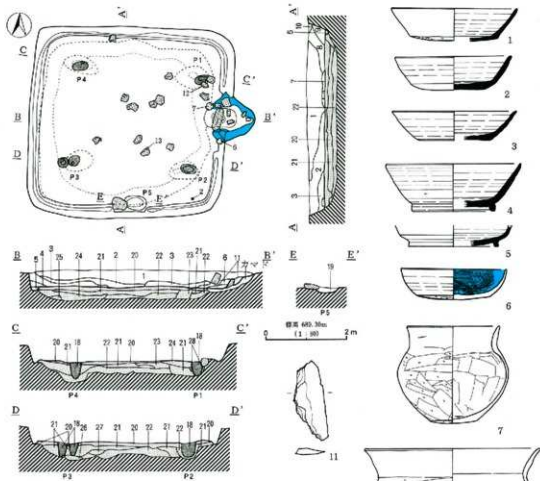
38) H39号住居址 (第68・69図、図版28・29・92)

F30グリットにあり、砂層中に構築される。H40を切る。南北430cm、東西435cmを測る方形の住居址である。壁残高は33~47cmと良好な状況で残っていた。カマドは東壁中央にあり、主軸方位は北より89°東に振れる。カマドは袖窓に石を置き、粘土を貼っている。支脚石が2個残されていた。主柱穴は4本であるが、南西のP3では2個柱痕が確認された。南壁下には長さ26cm深さ6cmの浅い楕円形の落ち込みとその西隣に平らな土台が置かれていた。掘方が深く、床面より30cmほど掘り込まれていた。

出土遺物には須恵器、土師器、凹石(12)、浮子?(13)、弥生式土器がある。須恵器杯(1~3)は底部回転ヘラ切り難し後ナドない手持ちヘラケズリがされる。高台付杯(4・5)は回転ヘラケズリ後高台が貼付される。土師器杯(6)は底部がヘラ切り難し後ケズリ調整される。甕(7~9)は武藏甕で8は口縁部形態「く」の字形足す。これらより本址は奈良時代であろう。

第38表 H39号住居址出土遺物一覧表

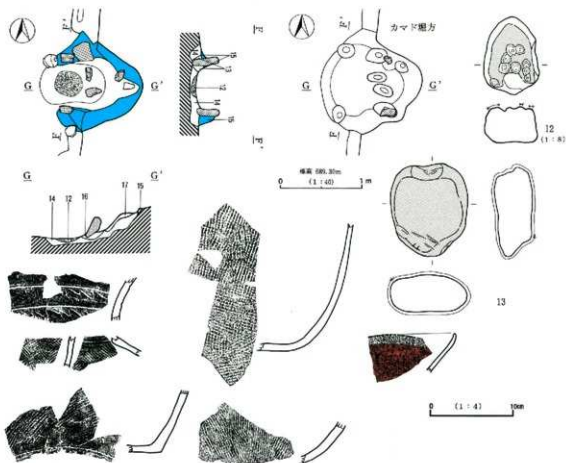
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色割	胎土・容融	出土位置	
1	須恵器杯	(15.6) (11.0) 4.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り難し後手持ちヘラケズリ	口縁部・底部1/2残存 内 7.5Y7/1 (灰白) 外 7.5Y7/1 (灰白)	石英・長石含む。	I・Ⅲ区	
2	須恵器杯	(14.4) 10.6 4.1	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後ナド	口縁1/6残存・底部成形 内 2.5Y8/3 (淡黄) 外 2.5Y8/3 (淡黄)	石英・長石・褐色粒子含む。	No.3	
3	須恵器杯	(15.4) 9.2 3.6	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリ	口縁一部・底部1/2残存 内 7.5Y8/2 (灰褐) 外 7.5Y8/2 (灰褐)	石英・長石・黒褐色粒子含む。	Ⅳ区・検出 T34 I区1層 H42 I区	
4	須恵器高台付杯	(16.7) (10.4) 5.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り難し後杯下部と底部回転ヘラケズリ→高台貼付	口縁1/6・底部1/3残存 内 N6/0 (灰) 外 N5/0 (灰)	石英・長石・褐色粒子含む。 ※内外面に火だすき有。	Ⅲ区	
5	須恵器高台付杯	(11.2) (2.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り難し後回転ヘラケズリ・高台貼付	底部1/6残存 内 5Y8/3 (にぶい赤褐) 外 5Y8/2 (灰褐)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅲ区掘方 Ⅳ区	
6	土師器杯	13.1 9.1 3.7	内 ミガキ焼黒色処理 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後ヘラケズリ	口縁3/4残存・底部成形 内 N1.5/0 (黒) 外 7.5Y8/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.1	
7	土師器小片甕	(11.5) 5.7 11.9	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナド 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	口縁1/3残存・底部成形 内 5Y8/4 (にぶい橙) 外 5Y8/4 (にぶい橙)	石英・長石・角閃石・黒色粒子含む。	No.2	
8	土師器甕	(21.8) -	内 胴部ヘラナド→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 5Y8/4・N3/0 (にぶい橙・暗灰) 外 5Y8/4・5Y8/2 (にぶい橙・灰褐)	石英・長石・黒色粒子含む。	I・Ⅲ区 カマド	
9	土師器甕	(5.0) (2.7)	内 ヘラナド 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/3残存 内 7.5Y8/3 (にぶい橙) 外 7.5Y8/2 (灰褐)	石英・長石含む。	Ⅳ区	
10	土師器甕	(23.9) -	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナド (柘目) 外 胴部ヘラナド (柘目)→口縁ヨコナデ	口縁1/8残存 内 5Y8/4 (にぶい橙) 外 5Y8/4 (にぶい橙)	石英・赤色粒子・黒色粒子含む。	横出	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
11	未製品 (磨製石鏝)	4.8	<1.9>	0.4	<4.0>	片岩	
12	凹石	19.0	13.7	9.4	2,760	安山岩 裏面に6むすか凹み、スリ面あり。	No.4
13	浮子?	11.4	9.5	4.6	200	軽石 両面あり・スリ面2	No.5



- H39 土層断面
1. 暗褐色土層 (IYR2/2)
 2. 黒褐色土層 (IYR2/2)
 3. 黒褐色土層 (IYR2/2)
 4. 黒褐色土層 (IYR2/2)
 5. 暗褐色土層 (IYR2/2)
 6. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 7. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 8. 暗褐色土層 (IYR2/2)
 9. 黒褐色土層 (IYR2/2)
 10. 黒褐色土層 (IYR2/2)
 11. 赤褐色土層 (7. IYR2/2)
 12. 暗褐色土層 (7. IYR2/2)
 13. 暗褐色土層 (IYR2/2)
 14. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 15. 江戸川河床土層 (IYR4/2)
 16. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 17. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 18. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 19. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 20. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 21. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 22. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 23. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 24. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 25. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 26. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 27. 赤褐色土層 (IYR2/2)
 28. 赤褐色土層 (IYR2/2)

層・小礫・パキスを含む。地山砂粒少し含む。
 層上面に砂粒のうすい地層が見られる。小礫・砂・パキスを含む。地山砂粒を少し含む。
 小礫・地山砂粒を含む。
 地山砂粒を含む。
 (河床)
 壁土キツ量含む。小礫・地山砂粒少し含む。
 跡残り割れが深い。
 小礫を含む。地山砂粒を多く含む。
 地山砂粒を少し含む。
 砂粒少量含む。
 割れ。しりり瓦。壁土ブロックを多く含む。(キマツの敷居出)よく残っており。地山砂粒を含む。(地土)
 よく残っており。地山砂粒を含む。(キマツ壁方)
 地山砂・小礫・ロームブロックが混入。しりり瓦。(壁方)
 地山砂・小礫を多量に含む。(キマツ壁方)
 粘土で割れの粗面。壁土を含む。
 粘土ブロックを多く含む。(瓦割りの入った面)
 粘土を多く含む。地味を受けている。(キマツを構築する土)
 小礫・地山砂を少量含む。(埋戻)
 小礫・地山砂粒を含む。(P5)
 地山砂・小礫・ロームブロックが混入。しりり瓦。(埋戻)
 地山砂・ロームブロック・小礫を多く混入する。(埋戻)
 地山砂・ロームブロック・小礫を多く混入する。(埋戻)
 地山砂・小礫を含む。(埋戻)
 地山砂・小礫・ロームブロックを少し混入する。(埋戻)
 地山砂・小礫を多量に含む。(埋戻)
 小礫を含む。地山砂を多く含む。(埋戻)
 ロームブロックを少量含む。しりり瓦。(埋戻)
 地山砂・小礫少し含む。(キマツ埋戻)

第68図 H39号住居址(1)



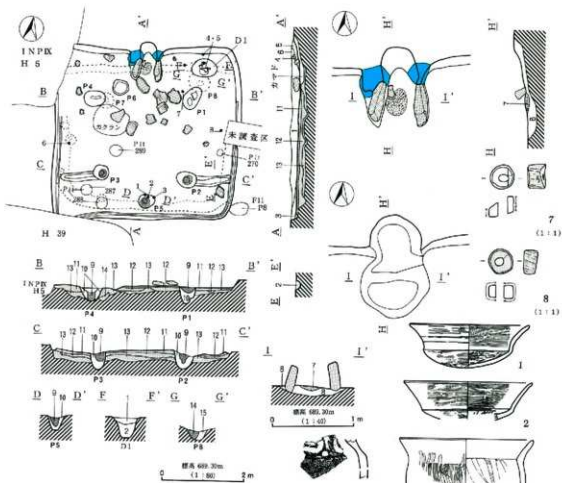
第69図 H39号住居址(2)

39) H40号住居址 (第70図、図版29・30・92)

F け 8 グリットにあり、北側半壁は I N P 区で調査し、図面であわせている。砂層中に構築する。H39・I N P 区 H 5・F 11・半 P 287・288・289・290に切られる。捜査により一部壊される。また東壁の一部に未調査区が残ってしまった。南北395cm 東西424cmの方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は7°北より西に振れる。カマドの袖は長さ48cm 幅17cm 厚さ12cmを測る大きな石(安山岩)を袖石にしている。支脚石が1つ残っていた。主柱穴は4本で堀方と柱痕が残る。堀方で北東の P 1 の北に柱穴が検出された。また南壁下中央に P 5 の柱穴、北東隅には長径64cm、深さ50cmのピットから4・5の壺形土器が中から出土している。カマドの手前西に10cmほどの浅いくぼみがある。間仕切り溝が南の P 2・P 4 へ壁から伸びている。周溝は南側で壁下を巡る。

出土遺物には土師器、弥生式土器、縄文、白玉(7・8)がある。土師器杯(1・2)は口縁が大きく外縁が外反する杯Bである。壺(4)は、やや長胴化するが胴張りする器形である。

これらより本址は古墳時代後期前葉の古墳であろう。



1140 土層説明

1. 黒褐色土層 (1192/20)
2. 黒褐色土層 (1192/21)
3. 暗褐色土層 (1192/3)
4. 赤褐色土層 (7.1192/2)
5. 赤褐色土層 (1192/7)
6. 赤褐色土層 (7.1192/2)
7. 赤褐色土層 (1192/1)
8. 赤褐色土層 (7.1192/2)
9. 赤褐色土層 (1192/2)
10. 赤褐色土層 (1192/2)
11. 赤褐色土層 (1192/1)
12. 赤褐色土層 (1192/2)
13. 赤褐色土層 (1192/6)
14. 赤褐色土層 (1192/2)
15. 赤褐色土層 (1192/2)

地山砂・小石含む。

地山砂わずかに含む。

(黄砂)

赤土アロップを多く含む。(コブド編織層)

赤土灰平多量に含む。(コブド編織層)

赤土。

赤土灰平を含む。(コブド編織)

(紅土)

赤土灰。(ピット底方)

赤土層と地山砂と1192/コブド編織層。(編織)が混在する。

赤土層アロップを多く含む。(編織)

地山砂を含む。(編織)

地山砂を含む。(赤下ピット底面)

地山砂多量に含む。(赤下ピット底面)



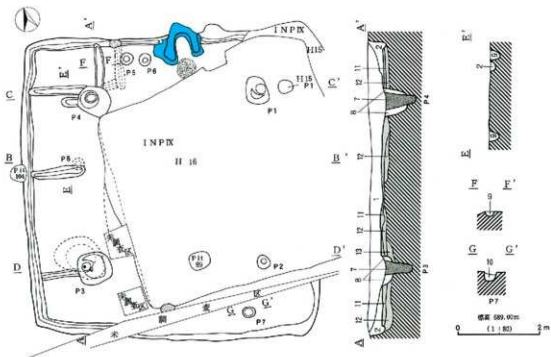
第70図 H40号住居址

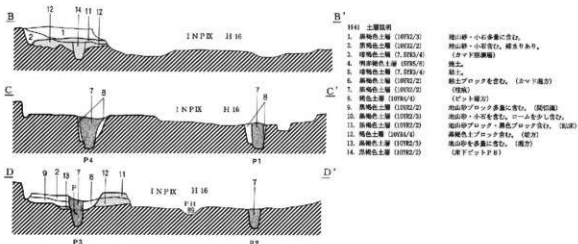
第39表 H40号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	形状・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	土師器 杯	14.7 10.9 5.3	内 ミガキ 外 ミガキ	ほぼ完形 内 2.5YR6/6 (藍) 外 7.5YR6/6 (藍)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。	No.3	
2	土師器 杯	(13.8) (11.2) (4.6)	内 口縁ミガキ・みこみ部彫文(後黒色処理?) 外 ミガキ(後黒色処理?)	L1線1/6残存 内 10YR2/1・8/3 (黒・浅黄緑) 外 10YR1.7/1・8/3 (黒・浅黄緑)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.2	
3	土師器 杯	(16.4) - (6.9)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ(縦目)後 ハケナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ(縦目)後 ミガキ	口縁1/6残存 内 5YR7/4・5/3 (にぶい黄)にぶい赤黒) 外 2.5YR6/6 (藍)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。	No.4	
4	土師器 釜	18.2 7.4 31.2	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ・底部ヘ ラナデ	口縁完形・底部完形 内 3YR5/1 (黄赤) 外 5YR6/6 (藍)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.7・No.8 I区・検出 カマド	
5	土師器 釜	(18.0) - (12.4)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデとヘラ ナデ→口縁ミガキ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ後ミガキ	口縁1/4残存 内 10YR7/2 (にぶい黄橙) 外 5YR7/4 (にぶい黄)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.7・No.8 I区 D1	
6	弥生土器 壺	- 7.2 (3.4)	内 明確ではないが判別できない。 外 胴部ミガキ・底部ナデ	底部完形 内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.1	
番号	機軸	長さ	巾	厚さ	重	備考	出土位置
7	白土	0.75	0.7	0.6	0.4	滑石	No.6
8	白土	0.75	0.75	0.4	0.45	滑石	No.5

40) H41号住居址 (第71圖)

Dあ7グリットにあり、大半をINPXで調査し、竪の調査では南東の一部であるため、INPXH6で報告する。古墳時代後期の住居址である。





第71図 H41号住居址

41) H42号住居址 (第72図・73図・93)

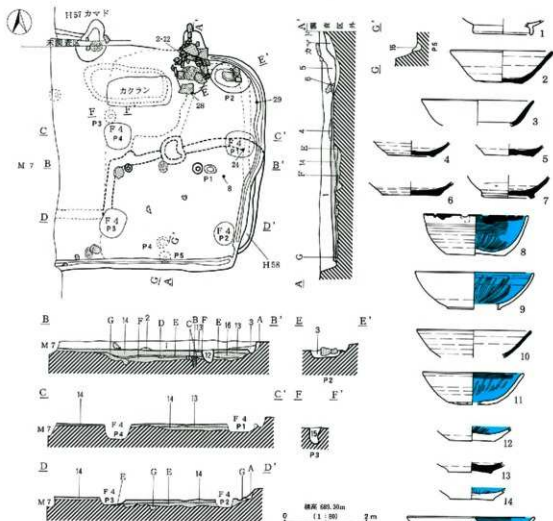
Dい8グリットにあり、砂層中に構築する。F4・M7に切られる。H43・H57・H58・F12・単P336・337を切る。南北488cm東西368cmを測り、南北に長い隅丸長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸はほぼ北を指す。カマドは石を多用しており、天井石が覆っている状況が残っていた。主柱穴は検出されなかった。カマドの東、北東隅に長径96cm、深さ16cmの楕円形の穴があり、襖が落ち込んでいた。南壁下に床下にP4・P5がある。

出土遺物には灰釉陶器、須恵器、土師器、磨製石鏃(34)、黒曜石製石鏃(35)、銅物石(32・33)がある。灰釉陶器(1)は、三日月形を呈する軸の高台部である。須恵器杯(2～6・10・13)は底部回転糸切りのままである。これらの杯は内外面油漚によるような黒色を呈する。土師器杯(8・9・11・12・14)は底部回転糸切りで、内面ミガキなし暗文が施される。8は口縁部が所々欠け煤が付着する。土師器壺(20～23)はロクロ壺(20～22・26～28)と口縁部形態「コ」の字形甕蓋(23)、口縁部形態「く」の字形ケズリ壺(29・30)がある。

これらより本址は平安時代中葉の住居址であろう。

第40表 H42号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	灰釉陶器杯	— (7.0) (1.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り継し→高台貼付	高台1/6残存 内 38/0 (灰白) 外 38/0 (灰白)	きめ細かい。 ※内面に煤付着。	検出
2	須恵器杯	(12.6) 8.0 4.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁1/4残存・底部完形 内 2.5/8/2 (灰白) 外 10/12/3 (にぶい黄緑)	石英・長石・褐色粒子・チャート含む。	No.4
3	須恵器杯	(13.6) (3.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/6残存 内 10/18/3 (浅黄緑) 外 2.5/8/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅴ区 壁方
4	須恵器杯	— (5.6) (1.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/2残存 内 10/18/3 (にぶい黄緑) 外 10/12/2 (灰黄)	石英・長石・褐色粒子含む。	検出
5	須恵器杯	— 5.9 1.4	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/2残存 内 7.5/4/1 (灰) 外 3/7/1 (灰白)	石英・長石・褐色粒子含む。	検出
6	須恵器杯	— (7.0) (1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/2残存 内 5/7/1 (灰白) 外 5/7/1 (灰白)	石英・長石・褐色粒子含む。	検出
7	須恵器壺	— (6.6) (2.8)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り後割部下 平ヘラケズリ→高台貼付	底部1/2残存 内 5/8/2 (灰白) 外 2/7/0 (灰白)	※内外面に火だすき者。	I区 検出



H42 土層説明

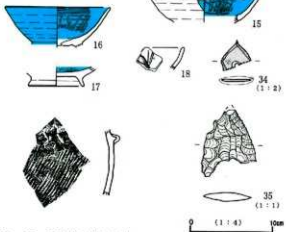
1. 黒褐色土層 (10932/2)
2. 暗褐色土層 (10933/3)
3. 灰褐色土層 (10932/3)
4. 黒褐色土層 (10932/3)
5. 黒褐色土層 (10932/3)
6. 黒褐色土層 (10932/2)
7. 暗褐色土層 (10933/4)
8. 黒褐色土層 (10932/3)
9. 暗褐色土層 (7.3932/4)
10. 暗褐色土層 (10932/2)
11. 黒褐色土層 (10932/3)
12. 黒褐色土層 (10932/3)
13. 暗褐色土層 (10933/2)
14. 黒褐色土層 (10932/3)
15. 暗褐色土層 (10933/3)
16. 暗褐色土層 (10933/3)
16. 黄褐色土層 (10933/6)

H58 土層説明

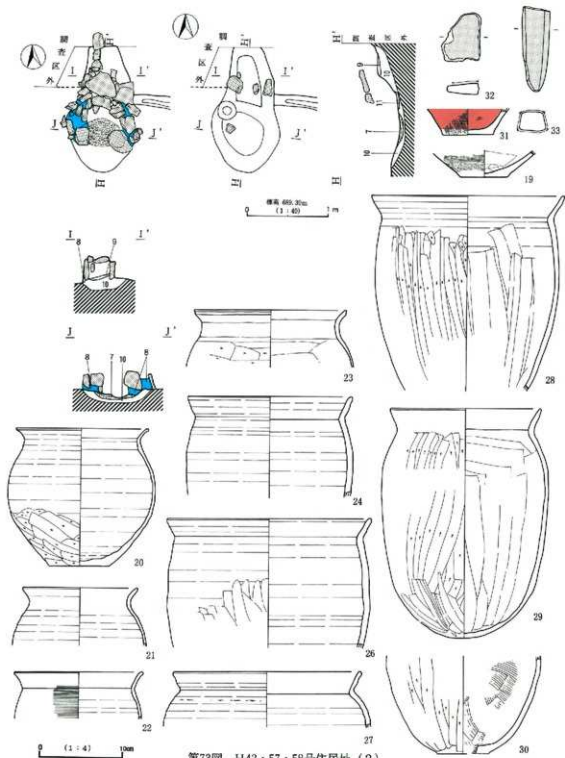
- A. 黒褐色土層 (10932/3)
- B. 暗褐色土層 (10932/3)
- C. 褐色土層 (3378A/6)
- D. 暗褐色土層 (3378A/6)
- E. 黒褐色土層 (10932/2)
- F. 暗褐色土層 (7.3932/2)
- G. 暗褐色土層 (10932/3)

小堀を少量含む。黒山砂礫層に混入する。黒山砂礫層を含む。埋まり強く地味あり。黒山砂礫を多く、土層と北してしまりが無い。小堀・堀に研削を伴う含む。小堀層中に含まれ、埋土少量含む。(埋土) 灰土含む。網入り。粘土混じり。(カマド跡) 焼土ブロック多量を含む。(カマド跡) 埋まり有り。粘性強い。(カマド跡) 灰土。(埋土に隠れる土) 焼土研削層。小堀少量含む。(カマド跡) 焼土研削層。焼土ブロック多量を含む。(カマド跡) (P1) 焼土層・小石含む。埋まり有り。(埋土) 灰土砂・小石含む。埋まり有り。(埋土) (P3, H37の主柱穴穴) 黒山砂礫層。(P3)

小堀を少量含む。焼土研削含む。焼土研削多量を含む。灰土砂土層。灰土。焼土砂・小石を多量に含む。研削に研まる。(埋土) 黒山砂を含む。(埋土) 黒山砂を多量に含む。(埋土)



第72図 H42・57・58号住居址 (1)



第73图 H42·57·58号住居址(2)

8	土師器 杯	12.8 7.2 4.9	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転糸切り・体部にキメ筋す	口縁2/3残存・底部定形 内 N1.5/0 (黒) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・角閃石・赤色粒子含む。 ※口唇部にスス付着。一部欠損部あり。灯明車に転用か?	No.3
9	土師器 杯	(14.6) (8.4) 3.5	内 外	ロクロナデ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁1/6・底部一部残存 内 N3/0 (暗灰) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子・黒色粒了を含む。	カマド
10	須恵器 杯	14.1 (3.4)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁2/3残存 内 7.5YR6/3・N3/0 (にぶい橙・暗灰) 外 7.5YR6/4・N3/0 (にぶい橙・暗灰)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 ※内外両黒色塗すところあり。	I区 Ⅱ区東方 Ⅲ区 カマド
11	土師器 杯	(12.4) (6.0) 3.9	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転糸切り後手持ち ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 10YR7/3・N2/0 (にぶい黄橙・黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	カマド
12	土師器 杯?	- 5.5 (1.9)	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部定形 内 7.5YR5/1・N2/0・7.5YR5/4 (暗灰・黒・にぶい橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	カマド
13	須恵器 杯	- 4.9 (1.3)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	底部3/4残存 内 N3/0 (暗灰) 外 N4/0 (灰)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。 ※内外両黒色塗す。	I・Ⅲ区
14	土師器 杯	- (5.4) (1.5)	内 外	暗文後黒色処理 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部2/3残存 内 N3/0 (暗灰) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒了を含む。	検出
15	土師器 碗	(15.8) -	内 外	暗文・ミガキ後黒色処理 ロクロナデ(→高台貼付)	口縁1/6残存 内 N1.5/0 (黒) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。 ※外面に黒色あり。	I区 カマド トレンチ
16	土師器 碗	(13.0) -	内 外	暗文後黒色処理 ロクロナデ→底部切り離し→高台貼付 後黒色処理	口縁1/4残存 内 N3/0 (暗灰) 外 5YR5/1 (暗灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	カマド 検出
17	土師器 碗	- 6.8 (2.4)	内 外	暗文後黒色処理 ロクロナデ→底部切り離し後高台貼付 (後黒色処理?)	底部定形 内 N3/0 (暗灰) 外 7.5YR6/2 (灰相)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	カマド
18	土師器 杯	- -	内 外	(ロクノ底形) ミガキ・暗文 ロクロナデ	破片 内 10YR6/3 (にぶい黄橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※内面に黒色あり。(字または紋様)	I区
19	土師器 盃	(5.6) (3.2)	内 外	ヘラナデ 胴筋ミガキ・底部ヘラケズリ後ミガキ	底部1/2残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石含む。	Ⅲ区
20	土師器 小皿	(16.2) 7.2 16.8	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り後割部手 持ちヘラケズリ	口縁一部残存・底部定形 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/6・5YR7/4 (橙・にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒了・黒褐色粒子含む。	Ⅱ・Ⅳ区 カマド トレンチ
21	土師器 小皿	(14.0) -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/6残存 内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	検出
22	土師器 壺	(15.8) -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ・胴筋カキメ	口縁1/8残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.4 カマド
23	土師器 壺	(18.6) -	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	口縁1/7残存 内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 きめ細かい。	I区 検出
24	土師器 壺	(20.0) -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/6残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.2
26	土師器 壺	(25.0) -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→胴下半ヘラナデ	口縁1/6残存 内 5YR6/3 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	カマド I区・Ⅲ区東方 検出・D1
27	土師器 壺	(23.0) -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/6残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅲ区
28	土師器 壺	(23.8) -	内 外	ロクロナデ→胴部ヘラナデ ロクロナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 5YR5/1 (暗灰) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.5 I区 カマド
29	土師器 壺	(18.6) -	内 外	口縁ヨコナデ→胴部傾位ヘラナデ後胴 部から底部傾位ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部 ヘラナデ	口縁1/3残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.1 I区 検出 カマド
30	土師器 壺	- (6.2) (12.0)	内 外	ヘラナデ(経目) ヘラケズリ	底部1/4残存 内 2.5YR5/3 (にぶい赤相) 外 2.5YR6/3 (にぶい赤相)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	検出

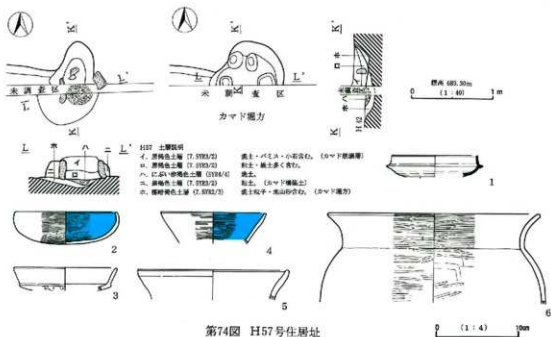
31	弥生土器 鉢	- 6.0 (3.2)	内 外	ミガキ後赤色塗彩 胴部ヘラナダ(縦目)後ミガキ後赤色塗彩 底部ヘラナダ後ミガキ	底面1/4残存 内 10RS/6(赤) 外 10RS/6・7JYR7/4(赤・ にぶい板)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。	Ⅱ区堀方 検出
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
32	礫物石	6.0	4.8	1.4	90	黒曜石	Ⅱ区
33	礫物石	<10.4	3.3	2.4	<140	安山岩	カマド
34	磨製石器	<1.65	1.8	0.15	<0.7	片岩 基部欠損	Ⅲ区サブト
35	石炭	<2.05	1.65	0.25	<0.7	黒曜石 先端部・基部の一部破損	Ⅱ区

42) H57号住居址(第72・74図、国版40・99)

Dう8グリットにあり、カマドの北半分はINPⅡにおいて調査され、図面であわせている。H42・H58・M7に切られる。西壁はM7に切れ、東はH42がちょうど重なる様に重複し、住居址の形態は定かではない。主軸は北より東に振れる。カマドは北壁にあり、焼土が残り、袖石に粘土を貼っている。

出土遺物は須恵器杯(1)、土師器杯(2~3)、土師器甕(5・6)がある。須恵器杯(1)はH39で図示したものと同個体である。ミガキの施される丸胴のミガキ調整甕(6)がカマドより出土している。

これらより、本址は古墳時代後期前葉頃であろうか。



第53表 H57号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯身	(10.6) - (2.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→天井部同転ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR1/1 (褐灰) 断 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。 ※H35C①と同一体。	Ⅱ区 H39検出 Dお9検出
2	土師器 杯	12.3 4.0	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁2/3残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区 Ⅲ区船方 検出
3	土師器 杯	(12.6) (11.2) (2.8)	内 ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 5YR7/4 (にぶい黄) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	
4	土師器 杯	(13.0) - (3.8)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/3残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区
5	土師器 壺	(18.6) - (3.7)	内 (ロクロ成形?) ヨコナデ 外 (ロクロ成形?) ヨコナデ	口縁1/6残存 内 10YR7/2 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	第二カマド
6	土師器 壺	(26.0) - (11.0)	内 口縁ミガキ・胴部ヘラケズリ後黒いミガキ 外 ミガキ	口縁1/8残存 内 10YR8/3 (浅黄橙) 外 10YR8/3・5YR6/6 (浅黄橙・黄)	石英・長石・褐色粒子含む。	Ⅱ区 カマド

43) H43号住居址 (第75図、図版31・95)

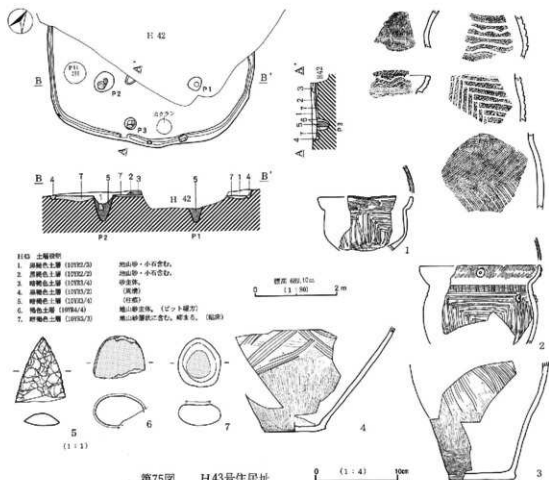
Dい9グリットにあり、砂層中に構築する。II42・H57・H58・単P286に切られる。南側だけ残存する。南北残長193cm東西461cmを測り、隅丸長方形を呈するであろうか。主柱穴は南側の2個が残り、60cm以上掘り込まれている。炬は壊されたであろうかない。南壁下中央に出入り口の小ピットがみられる。壁下には周溝が巡る。

出土遺物には弥生式土器、黒曜石製石鏃(5)、蟻塚凝灰岩製太形給刃石斧(6)、スリ石(7)がある。図示した土器はいずれも粟形土器で、「コ」の字重ね文、櫛描斜走文が施文される。

これらより本址は弥生時代中期の住居であろう。

第41表 H43号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	弥生土器 (台付) 壺	(11.8) - (6.7)	内 ミガキ 外 胴部下平ヘラナデ(縦目)とミガキ 文 口唇部 縄文 口縁部 3本1組とする櫛描或伏文 胴部ヘラ指「コ」の字文	口縁1/6残存 内 5YR5/2 (灰褐) 外 10YR6/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・黒色粒子多く含む。	P2	
2	弥生土器 壺	(15.0) - (9.6)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ・胴部下平ミガキ 文 口唇部 縄文 口縁部 縄文・円形の貼付文施す。 胴部 4本1組とする櫛描或伏文(1連止め)施す。 胴部 縄文を地文とし、ヘラ指「コ」の字文施す。胴上部に円形の貼付文施す。	口縁1/3残存 内 7.5YR6/3 (にぶい黄) 外 7.5YR5/1 (褐灰)	石英・長石含む。	Ⅱ区1層 Ⅱ区	
3	弥生土器 壺	8.2 (14.5)	内 ミガキ 外 ミガキ 文 (5本1組とする?) 櫛描斜走文	底部2/3残存 内 7.5YR6/3 (にぶい黄) 外 5YR6/4 (にぶい黄)	石英・長石含む。	P2	
4	弥生土器 壺	7.4 (12.6)	内 ミガキ 外 胴部ヘラナデ(縦目)後網下平ミガキ・ 底部ヘラケズリ後ミガキ 文 胴部 4本1組とする櫛描斜走文	底部完形 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子含む。	Ⅱ区 II42Ⅱ区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
5	石鏃	2.0	1.85	0.4	0.9	黒曜石 基部破損	Ⅱ区
6	大型給刃石斧	<5.1>	6.3	3.6	<150>	基部、基部上縁に打痕あり。	Ⅱ区1層
7	スリ石	5.9	5.1	2.6	20		



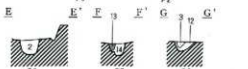
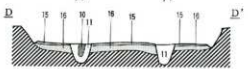
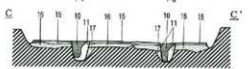
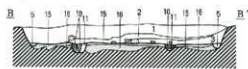
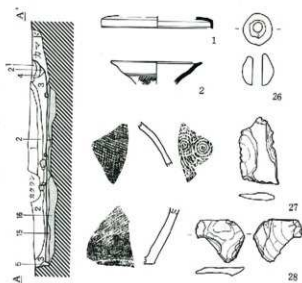
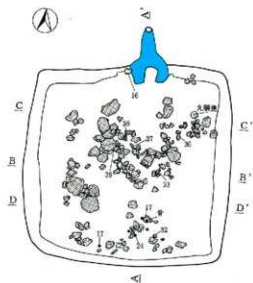
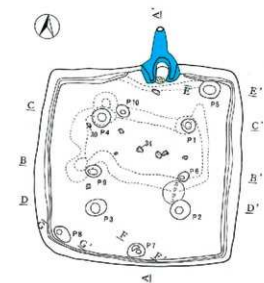
第75図 H43号住居址

44) H44号住居址 (第76~78図、図版32・94)

Dあ10グリットにあり、砂層中に構築される。H45・H46・F12を切る。平成12・13年度の2回に分けて調査し、図面であわせている。南北長150cm、東西432cmを測り方形を呈す。カマドは北壁にあり、主軸方位は5°西に振れる。カマドは袖先端に石を置き粘土を出っている。煙道が良好な状態で残っていた。住居址内には多数の石が入っていた。主柱穴は4本で径50~70cm、深さ50cmの幅方に、柱痕が残っていた。南壁下中央、南西隅に柱穴がある。北東に長径52cm、深さ40cmの貯蔵穴があく。

出土遺物には須恵器、土師器、土製丸瓦(26)、磨製石鎌未製品(27)、打製石斧(28)、編物石・スリ石・凹石(29~39)がある。土師器杯(3~12)は、丸底杯で底部ヘラケズリされる。3の全体に内湾する杯Cはヘラケズリがこる。口縁が大きく底部径の小さい杯B(8・10)は底部が浅くなっている。高杯(15)は、杯部内面はミガキ黒色処理され、脚は柱状で外面ヘラケズリされる。長胴壺(17・21)は長胴化し、胴部がヘラケズリされ、口径と胴最大径がほぼ同じである。

これらより本址は古墳時代後期中葉であろう。

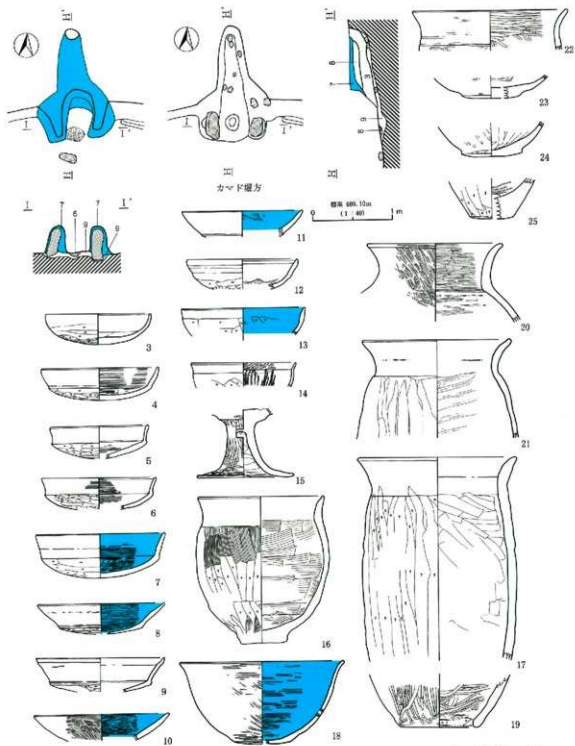


- 1111 土層別
1. 赤褐色土層 (10792/3)
 2. 赤褐色土層 (10792/2)
 3. 赤褐色土層 (10792/2)
 4. 褐色土層 (7, 8794/3)
 5. 赤褐色土層 (10793/2)
 6. 赤褐色土層 (10793/2)
 7. 灰黄褐色土層 (10794/2)
 8. 赤褐色土層 (7, 5005/2)
 9. 赤褐色土層 (10792/2)
 10. 赤褐色土層 (10792/2)
 11. 赤褐色土層 (10794/1)
 12. 赤褐色土層 (10792/2)
 13. 赤褐色土層 (10792/2)
 14. 赤褐色土層 (10792/2)
 15. 赤褐色土層 (10792/2)
 16. 赤褐色土層 (10792/2)
 17. 赤褐色土層 (10792/2)

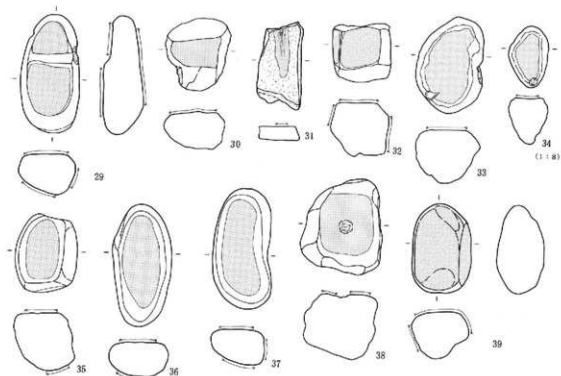
18. 赤褐色土層 (10792/2)
 赤褐色土層、小石含む。
 地に砂多く含む。
 褐色土層、小石、砂多く含む。
 粘土。(コマド灰土層)
 (内層)
 粘土。
 粘土。(コマド灰土層)
 粘土砂子・粘土ブロック含む。(コマド灰土層)
 粘土砂子・粘土含む。地中に砂多く含む。(コマド灰土層)
 (内層)
 地中に土塊。(ピット埋方)
 粘土砂ブロック・赤褐色土ブロック含む。(P 8)
 地中に砂を含む。(P 7)
 10794/砂多量に含む。(P 7)
 粘土砂ブロック含む。(P 8)
 10792/赤褐色土ブロック・地中に砂多く含む。(P 8)
 粘土砂多量に含む。(埋方)



第76図 H44号住居址(1)



第77図 H44号住居址(2)



第78図 H144号住居址(3)

0 (1:4) 10cm

第42表 H44号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・装飾	出土位置
1	陶器鉢 蓋	(13.7) - (1.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/12残存 内 10Y7/1 (灰白) 外 7.5Y6/1 (灰)	石英・長石・黑色粒子含む。	Ⅱ区1層
2	陶器鉢 残?	(11.2) - (2.8)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→口縁部に2本の沈線施し、下に重要な工具による刻痕文を並列し施す。	口縁1/8残存 内 N6.0 (灰) 外 N6.0 (灰)	石英・長石含む。 ※内面に自然堆積層する。	Ⅱ区2層
3	土師器 杯	(13.1) - 3.8	内 みこみ部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	口縁1/12残存 内 5YR7/4 (にぶい藍) 外 7.5YR7/3 (にぶい藍)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅳ区1層
4	土師器 杯	14.6 12.7 4.1	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	ほぼ完全 内 7.5YR7/3 (にぶい藍) 外 7.5YR7/4 (にぶい藍)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅰ区 Ⅱ区2層 Ⅲ区2層
5	土師器 杯	(12.3) (11.8) (4.1)	内 口縁ヨコナデ・みこみ部ミガキ 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	口縁1/6残存 内 7.5YR7/4 (にぶい藍) 外 5YR7/4 (にぶい藍)	石英・赤色粒子含む。 ※口縁内外面、磨耗しておりミガキが施されているかどうかは判別できない。	Ⅳ区1層
6	土師器 杯	(14.2) (13.4) (3.9)	内 ミガキ(焼黒色処理?) 外 口縁ミガキ・底部ヘラケズリ	口縁1/12残存 内 2.5YR4/2・5/3 (灰赤・にぶい赤帯) 外 2.5YR3/1・5/3 (暗赤灰・にぶい赤帯)	石英・長石含む。	Ⅳ区1・2層 カマド
7	土師器 杯	(16.2) 14.6 5.5	内 ミガキ焼黒色処理 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 N1.5/0 (黒) 外 2.5YR6/4 (にぶい藍)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 ※外面と内面口縁部磨耗	Ⅲ区2・3層
8	土師器 杯	(15.8) (10.2) (3.8)	内 ミガキ焼黒色処理 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 2.5YR5/6 (明赤帯) 外 2.5YR6/6 (暗)	石英・赤色粒子含む。	Ⅳ区1層
9	土師器 杯	(16.0) (12.4) (4.2)	内 みこみ部ナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 5YR5/2 (灰黄) 外 5YR5/1・5/2 (焼灰・灰帯)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅳ区1層

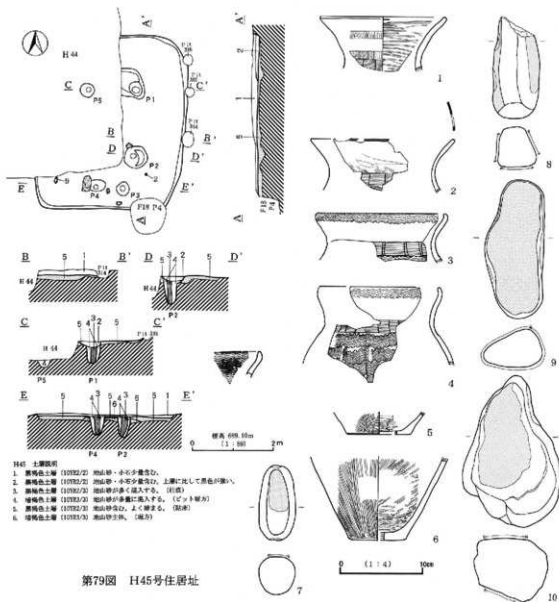
番号	名称	法注	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
10	土師器 杯	(16.8) - (3.3)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/2残存 内 N1.5/0 (黒) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・角閃石含む。	Ⅱ区2層 カマド 床	
11	土師器 杯	(15.0) (10.1) (3.2)	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ(単位つ かぬない)	口縁1/4残存 内 7.5YR5/3 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。 ※外面磨耗著しい。	Ⅱ区 床	
12	土師器 杯	(13.8) (11.8) (3.7)	内 口縁ヨコナデ・みこみ部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/2 (灰褐)	石英・赤色粒子・黒色粒子含む。	Ⅳ区1・2層	
13	土師器 杯	(15.4) - (3.4)	内 口縁ヨコナデ・みこみ部ヘラケズリ後 黒色処理 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ後口縁 黒色処理	口縁1/6残存 内 N3/0 (納灰) 外 10YR6/2 (灰黄褐)	石英・長石・赤褐色粒子含む	Ⅳ区1層	
14	土師器 杯	(13.0) - (3.1)	内 口縁ミガキ・底部ヘラナデ後縮文 ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	口縁1/8残存 内 2.5YR5/8 (明赤褐) 外 2.5YR6/6 (橙)	石英・黒色粒子含む。	Ⅱ区2層	
15	土師器 高杯	(12.0) (8.5)	内 杯部ミガキ後黒色処理 脚部ヘラナデ 外 杯部ミガキ 脚部ミガキ	底部1/2残存 内 N3/0・2.5YR6/6 (赤灰・橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	石英・長石・角閃石・黒色粒 子含む。	Ⅲ区 カマド 床 検出	
16	土師器 小型壺	15.7 5.5 18.3	内 口縁ヨコナデ・胴部から底部ヘラナデ (紐目) 外 胴部ヘラナデ(紐目)とヘラケズリ→口 縁ヨコナデ・底部本磨減あり。	ほぼ整形 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子含む。	No.1	
17	土師器 壺	19.7 - (25.3)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁ほぼ整形 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.7 No.104 Ⅱ区2層 Ⅲ区・床 Ⅳ区1層	
18	土師器 鉢	(20.5) (7.0) 10.3	内 ミガキ後黒色処理 外 胴部ミガキ・底部ミガキ(・黒色処理?)	口縁1/8・底部1/4残存 内 N1.5/0 (黒) 外 N1.5/0・7.5YR4/2 (黒・灰褐)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※外面磨減	Ⅰ区 1区トレ	
19	土師器 瓶	- (9.8) (6.6)	内 ミガキ 外 ミガキ	底部1/3残存 内 7.5YR6/3 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅰ区 カマド 床	
20	土師器 壺	16.9 - (9.8)	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁3/4残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	石英・長石・角閃石・黒色粒 子含む。	Ⅱ区 床	
21	土師器 壺	(18.4) - (14.2)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ(紐目) 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ後ヘラナ デ	口縁1/2残存 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。	Ⅲ区 Ⅱ区2層 床	
22	土師器 鉢	(18.4) - (5.1)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ(紐目) 全体にミガキ	口縁1/4残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 10YR7/3・N4/0 (にぶい黄橙・灰)	石英・赤色粒子・黒色粒子含む。	Ⅰ区 カマド	
23	土師器 壺	- (7.2) (2.8)	内 ヘラナデ(紐目) 外 胴部ミガキ・底部磨減のため判別できな い	底部1/2残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・赤褐色粒子含む。 ※外面磨減	Ⅳ区1・2層	
24	土師器 鉢	(7.4) (4.2)	内 ヘラナデ 外 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部1/2残存 内 10YR7/4 (にぶい橙) 外 10YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	No.103	
25	土師器 鉢	- (7.4) (5.0)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 10YR7/2 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む 黒色粒子も多く含む。	Ⅰ区四方 床	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
26	土製丸瓦	0.95	0.9	0.9	0.7	土製	
27	未製品 (磨製石皿)	4.0	2.4	0.45	5.2	片岩	
28	打製石斧	5.2	5.85	1	27.6	黑色燧石安山岩 基部一部残存	Ⅱ区サブトレ
29	燧物石	14.9	7.2	5	690	チャート 両端に打痕あり。スリ面3	Ⅱ区1層
30	燧物石	8.9	7.9	4.5	310	黒曜石 スリ面4	No.13
31	燧物石	<10.8>	5.5	1.7	<170>	緑帘安山岩	Ⅱ区1層
32	燧物石	7.7	7.7	6.6	560	安山岩 スリ面3	No.19
33	燧物石	11.8	8.1	6.5	520	多孔質安山岩	No.10
34	スリ石	15.1	9.9	11.2	1,280	黒曜石 スリ面2	No.14
35	燧物石	9.5	7.6	7.1	680	黒曜石 スリ面3	Ⅱ区
36	燧物石	15.0	7.2	4.2	710	安山岩 スリ面2	No.8
37	燧物石	14.7	7.2	4.3	750	安山岩 スリ面3	No.11
38	閃石	11.7	10.0	8	920	多孔質安山岩	No.2
39	燧物石	10.8	7.3	5.7	640	安山岩 全体に磨耗	No.3

45) H45号住居址 (第79図、図版31・95)

F 20グリットにあり、砂層中に構築する。H44・F18・半P314・315・316に切られる。H44には北西部を半城以上壊され、今はない。南北416cm、東西332cmの隅丸長方形を呈す。長軸方位は北を指す。主柱穴は南北P1・P2の2本が径30cm以上深さ60cmに掘られ柱痕が残っていた。南西の柱穴はH44に壊された様である。4本主柱穴の住居であったろう。また、南壁近くにも出入口ピットであろうか深い柱痕と堀方を持つ柱穴がある。

出土遺物には弥生式土器、敲石(7)、礮物石(7)、白石(10)がある。弥生式土器は壺(1)、甕形土器(2~6)がある。甕形土器(3・6)は口縁部外面に一糸の櫛歯状文を施すものである。

これらより本址は弥生時代後期前葉であろう。



第79図 H45号住居址

第43表 H45号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整	残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置	
1	弥生土器 壺	(15.6) - (6.7)	内外 文 ヘラナダ後直いミガキ ヘラナダ(柘目)後ヨコナダ 頸部に磨縮痕状文(1連止)施す。	口縁1/8残存 内 7.5YR5/2・7.5YR7/3 (灰褐・にぶい橙) 外 7.5YR5/2・7.5YR7/3 (灰褐・にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	P 2	
2	弥生土器 甕	(17.6) - (6.3)	内外 文 ミガキ ヨコナダ後ヘラナダ(柘目) 頸部9本1組とする磨縮痕状文 胴部磨縮痕状文。口唇部編文	口縁1/8残存 内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR4/1 (褐灰)	石英・長石含む。	No.1 Ⅱ区	
3	弥生土器 甕	(16.3) - (5.8)	内外 文 ミガキ 口縁ヨコナダ・胴部ヘラナダ(柘目) 口縁 磨縮痕状文 頸部9本1組とする磨縮痕状文(2連止め) 胴部 磨縮痕状文	口縁1/4残存 内 7.5YR8/4 (浅黄橙) 外 10YR8/4 (浅黄橙)	石英・長石含む。	Ⅱ区 H68検出 M 6	
4	弥生土器 甕	(14.1) - (11.7)	内外 文 ミガキ 口縁ヨコナダ・胴部ヘラナダ 口縁部一条の磨縮痕状文 頸部9本1組とする磨縮痕状文(1連止め) 胴部9本1組とする磨縮痕状文	口縁1/4残存 内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR5/1 (褐灰)	石英・長石含む。	H44検出	
5	弥生土器 甕	(7.8) (2.8)	内外 文 ヘラナダ(柘目) 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部1/4残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	石英・長石・黒褐色粒子含む。		
6	弥生土器 甕	(7.0) (10.3)	内外 文 ミガキ 胴部ヘラナダ(柘目)後ミガキ・底部磨縮のため判別できない。	底部1/2残存 内 5YR3/1 (黒褐) 外 2.5YR4/2 (灰赤)	石英・長石・黄褐色粒子含む。 磨縮痕	P 1	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
7	磁石	9.2	4.5	4.7	300	安山岩 打痕2 スリ面2	
8	編物石	(12.5)	5.8	5.7	(630)	安山岩 スリ面3	Ⅰ区
9	編物石	16.9	7.3	4.7	770	硬砂岩 スリ面全体	No.2
10	台石	18.5	12.1	1.910	1,910	黒曜石 スリ面2	P 2
☆	鉄滓				23.8	実測不可	Ⅱ区

46) H46号住居址 (第80図・81図、図版33・95)

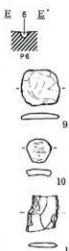
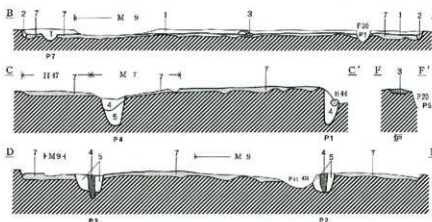
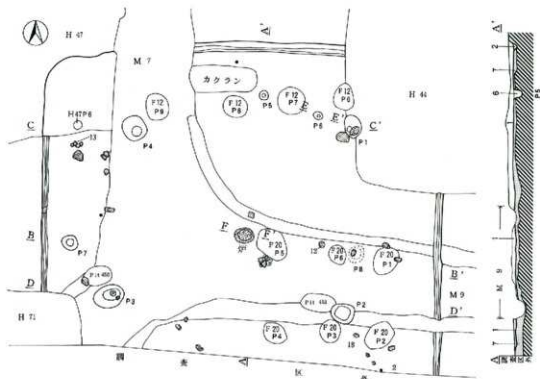
Eあ1グリットにあり、砂層中に構築する。H68を切り、H44・H47・H71・F12・F20・M6・M7・M9・半P450・451に切られる。南は調査区域外で、南北残長748cm、東西948cmを測る。住居址中央に焼土範囲がみられたが他に火所は検出されなかった。主軸方位はほぼ北を指す。主柱穴はP1～P4の4本で径60cm、深さ70～96cmの大きなピット窟方である。

出土遺物は土師器、弥生式土器、土製円板(9・10)、磨製石織木製品(11)、凹石・スリ石・編物石(12～18)がある。土師器はいずれも小破片である。4は弥生式土器の甕で頸部にヘラ描き文様を施す弥生時代中期のものである。M6との重複からの混入であろう。

時代を決定する資料に欠けるのがわからないがF12に切れ、カマダがないことなどから、古墳時代中期頃に該期が求められようか。

第44表 H46号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整	残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
1	土師器 甕	(18.4) - (3.1)	内 外 文 ヨコナダ	口縁1/8残存 内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR6/2 (灰黄褐)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子含む。	Ⅱ区
2	弥生土器 高杯	(24.2) - (2.2)	内外 文 ミガキ後直い赤色塗彩 ミガキ後直い赤色塗彩	口縁1/15残存 内 7.5R4/6 (赤) 外 7.5R3/1・4/6 (暗赤灰・赤)	石英・長石含む。	No.2
3	弥生土器 甕	(13.2) - (4.1)	内外 文 ミガキ ヘラナダ(柘目) 口唇部 編文	口縁1/2残存 内 7.5YR2/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅱ区 Ⅱ区掘方 7144検出

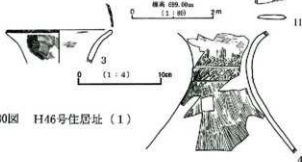


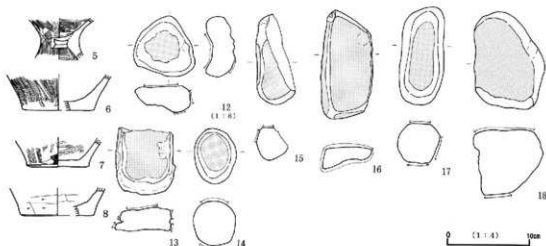
H46 土層説明

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 黒褐色土層 (1000/2) | 地山砂・小石含む。 |
| 2. 黒褐色土層 (1000/2) | 地山砂含む。(黒鉄) |
| 3. | 焼土。 |
| 4. 黒褐色土層 (1000/2) | 地山砂ブロック・小石を含む。(ピット) |
| 5. 黒褐色土層 (1000/2) | 地山砂多量を含む。(ピット層?) |
| 6. 黒褐色土層 (1000/3) | 地山砂・小石含む。(P5・P6) |
| 7. 黒褐色土層 (1000/3) | 地山砂ブロック、褐色ブロック層。(黒鉄) |



第80図 H46号住居址 (1)





第81図 H46号住居址(2)

4	弥生土器 壺	- (15.0)	内 ヘラナダ・口縁部ミガキ 外 ヘラナダ(縦目)後ミガキ 文 胴部 縦文を地文とし2条のヘラ歯横立 平行縦文で区切り、中にヘラ縞連続山 形文飾す。	破片 内 10YR7/4 (にぶい黄褐色) 外 10YR7/4 (にぶい黄褐色)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区 H68 M3 E72	
5	弥生土器 白村壺	- (5.2)	内 ヘラナダ(縦目) 外 胴部ヘラナダ(縦目) 台部ヘラナダ(縦目)	基部のみ残存 内 5YR7/4・5/1 (にぶい黄・褐色) 外 5YR7/3 (にぶい黄)	石英・長石・褐色粒子含む。	Ⅱ区	
6	弥生土器 壺	08.0 (4.4)	内 磨滅して判別できない。 外 胴部ミガキ・底部ナダ	底部1/2残存 内 10YR7/4・4/1 (にぶい黄褐色・褐色) 外 7.5YR7/4 (にぶい黄)	石英・長石・黒色粒子含む。 きめ細かい。 中内面磨滅	Ⅱ区	
7	弥生土器 壺	07.7 (3.6)	内 粗いミガキ 外 胴部ミガキ・底部ナダ	底部2/3残存 内 10YR5/1 (褐色) 外 7.5YR7/3 (にぶい黄)	石英・長石・黒色粒子含む。 きめ細かい。	Ⅱ区	
8	土師器 壺	09.0 (3.4)	内 ヘラナダ 外 胴部ヘラナダ・底部ヘラナダ	底部1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい黄) 外 7.5YR7/4 (にぶい黄)	石英・長石・赤色粒子含む。		
9	土師器 土製円板	4.7 4.4 8.0	弥生土器部再利用 内 ミガキ 外 ヘラナダ	定形 内 7.5YR4/2 (灰褐色) 外 7.5YR5/3 (にぶい黄)	輝石英・~1mmの長石・黒色 粒子を含む。	検出	
10	土師器 土製円板	2.1 2.9 8.0	弥生土器部再利用 内 ヘラナダ 外 ヘラナダ後ミガキ	定形 内 7.5YR4/1 (褐色) 外 7.5YR4/1 (褐色)	輝石英・~1mmの長石・黒色 粒子を含む。	検出	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
11	未製品 (粉製石鏝)	2.3	1.95	0.3	1.9	片岩 両端欠損	検出
12	凹石	14.6	14.8	6.5	1,200	溶結凝灰石	No.4
13	凹石	(16.5)	14.6	5.6	(1,650)	黒曜石・軽石	No.5
14	スリ石	6.7	5.1	5.5	240	安山岩 スリ面2	Ⅱ区
15	磨物石	11.0	4.6	3.9	250	チャート スリ面3	Ⅱ区
16	磨物石	13.1	6.2	2.7	300	安山岩 スリ面5	Ⅱ区
17	磨物石	12.0	5.4	4.9	350	多孔質安山岩 スリ面3	検出
18	スリ石	11.8	8.7	8.0	900	黒曜石 スリ面2	No.3
☆	鉄滓				9.3	実測不可	
☆	鉄滓				77.2	*	

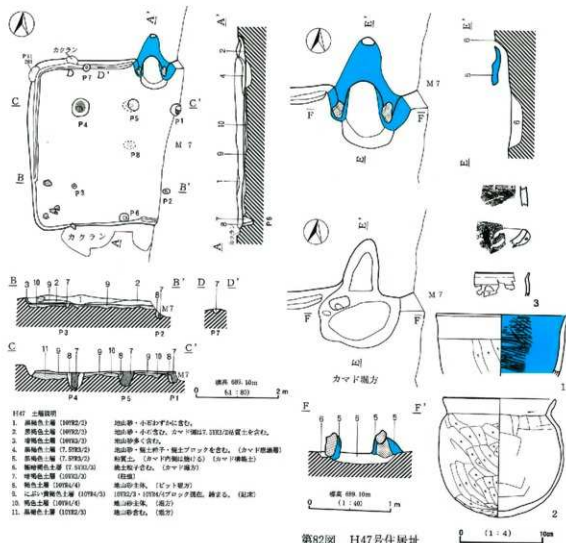
47) H47号住居址(第82図、図版33・35)

Dう10グリットにあり、砂層中に構築する。平成12・13年度の2回に分けて調査し図上で接合している。M7・単P281に切られ、H46・H52を切る。M7により、東壁は壊される。南北375cm、東西残長330cmを測る。コマドは北壁

にあり、袖先に石を置き、粘土で構築し、煙道が良好に残っていた。主柱穴は北列で東西方向に3本検出され、南はM7に壊されたP2の下部が残存した。南西区には明確なものはない。南壁下中央にP6の小ピットがある。周溝は北西、南東壁下に巡る。

出土遺物には土師器、弥生式土器がある。土師器は鉢(1)は、内面ミガキ黒色処理され、外面はヘラケズリされる。鉢ないし小型甕(2)は丸い底で、外面ヘラナダに近いヘラケズリがされる。内面は黒色を呈す。

これらより、本址は古墳時代後期であろう。



第45表 H47号住居址出土遺物一覧表

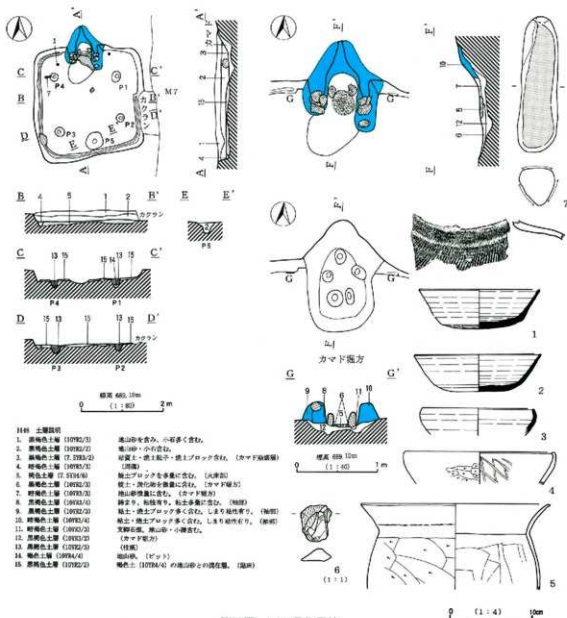
番号	器種	法量	底形・胴壁	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 鉢	(16.2) -(7.5)	内 ミガキ黒色処理 外 割形ヘラケズリ→口縁ヨコナダ	1. 10P1/6残存 内 10YR3/1 (黒褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	石英・長石・赤褐色粒子含む。カマド	
2	土師器 鉢?	13.0 -(2.9)	内 1口縁ヨコナダ→胴部から底部ヘラナダ (→黒色残照?) 外 口縁ヨコナダ→胴部から底部ヘラケズリ	1. 口縁定形・底部定形 内 NS/0 (暗灰) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。H46W	
3	土師器 杯	- (2.9)	内 1ガキ 外 1口縁ヨコナダ・体部ヘラケズリ	1. 鉢一部残存 内 2.5YR6/6・5YR8/1 (橙・暗灰) 外 2.5YR6/6 (橙)	石英・長石含む。	

48) H48号住居址 (第83図、図版34・96)

Dよりグリットにあり、H52の覆土中に大半が構築される。東壁に攪乱が入る。H52・半P330を切る。南北243cm、東西227cmを測り、方形を呈す小型の住居址である。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はほぼ北を指す。主柱穴は4本検出され、径20~24cm、深さ24cmの小規模なものである。また南壁下にP5がある。カマドは袖先に石を置き、粘土を貼るもので支脚石が2本残っていた。

出土遺物には須恵器、土師器、楔形石器 (5)、礮石 (7) がある。須恵器杯 (1・2) は、底部回転ヘラ切り産した後ヘラナデするものである。土師器壺 (5) は、武藏甕で、口縁部形態「く」の字形である。

これらより本址は奈良時代の住居であろう。



第83図 H48号住居址

第46表 H48号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整		残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	(14.9) 7.6 4.8	内 外	ロクロナデ ロクロナデ・底部ヘラ切り後ヘラナデ	1線一部残存・底部ほぼ完形 内 7.5YR/1 (黒) 外 7.5YR/1 (灰)	石灰・長石・黒色粒子含む。	No.2
2	須恵器 杯	(15.6) 7.1 3.6	内 外	ロクロナデ ロクロナデ・底部両側ヘラ切り後わずかにヘラナデ	1線1/6・底部3/4残存 内 10Y7/1 (灰白) 外 10Y7/1 (灰白)	石灰・長石・黒色粒子含む。	I区
3	須恵器 杯(焼)	(13.6) -< (3.3)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/4残存 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石灰・長石・黒色粒子含む。	横出 Dお10検出
4	土師器 鉢	(18.7) -< (4.0)	内 外	みこみ部ナデ・1線ヨコナデ→端文(後黒色処理?) 口縁ヨコナデ→体縁ヘラケズリ	1線1/12残存 内 5YR5/4・5/1 (にぶい橙・褐灰) 外 5YR5/6 (橙)	石灰・黒色粒子含む。	カマド
5	土師器 壺	23.2 -< (10.7)	内 外	1線ヨコナデ・胴部ヘラナデ 1線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	1線1/2残存 内 2.5YR5/4 (にぶい橙) 外 5YR5/4 (にぶい橙)	石灰・長石・赤褐色粒子含む。	I区 II区2層
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
6	短形石器	2.25	1.9	0.85	2.7	黒曜石	カマド
7	編物石	16.6	5.0	4.5	420	? 前後に打痕あり。スリ面4	No.3

49) H49号住居址 (第84図、図版34・96)

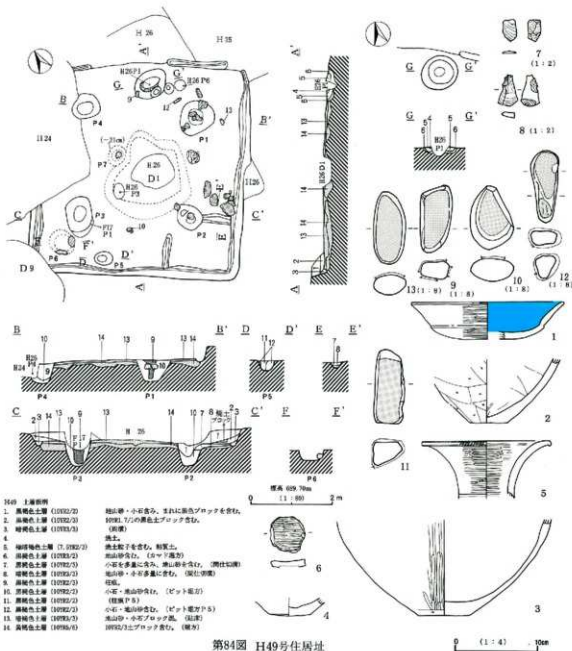
Hから10グリットにあり、砂層中に構築する。上面にH26が重なるように重複していた。H24・H25・H26・F17・D9に切られ、H59・M6・単P126を切る。南北502cm東西464cmを測り、やや南北に長い方形を呈す。カマドは北壁中央にあったがH26により壊され、カマド火床部の焼土が残るのみであった。主軸方位は北より32°東に振れる。主柱穴は4本で径56～80cm、深さ56cmを測る大きな畑方に柱痕がみられた。間仕切り溝がP2に向かって東と南の壁から伸びる。壁下には溝溝が巡る。

出土遺物には土師器、弥生式土器(5)、土製円板(6)、黒曜石割片(7・8)、編物石(9～12)がある。土師器杯(1)は九底で口縁部が大きく外反する杯B、土師器壺(2)は厚手のヘラケズリされる甕である。

これらより本社は古墳時代後期の住居址であろう。

第47表 H49号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整		残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(18.8) (14.0) (4.6)	内 外	ミガキ後黒色処理 ミガキ	1/4残存 内 7.5YR1.7/1 (黒) 外 5YR3/4 (新赤褐)	細石英・長石粒を含む。	Ⅱ区
2	土師器 壺	- 4.7 (7.7)	内 外	ヘラナデ ヘラケズリ	底部残存 内 5YR5/2 (灰褐) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	細石英・～2mm大長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区
3	土師器 壺	- (6.4) (11.6)	内 外	ヘラナデ ヘラケズリ後ミガキ	底部残存 内 7.5YR/4 (にぶい橙) 外 5YR4/4 (にぶい赤褐)	細石英・長石粒含む。	P3・Ⅱ区
4	土師器 壺	- 5.0 (2.3)	内 外	ヘラナデ ヘラナデ	1/2残存 内 7.5YR5/4 (にぶい橙) 外 10YR4/2 (灰黄褐)	細石英・～2mmの長石・赤色粒を含む。	Ⅱ区2層
5	弥生土器 壺	(15.8) -< (7.1)	内 外	口縁部ミガキ 口縁部ミガキ 文 胴部の亀裂横光線文・口唇部 縄文	口縁1/4残存 内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR5/6 (橙)	細石英・長石粒含む。 混人品	I区畑方
6	土師器 土製円板	4.4 4.4 0.9	内 外	土師丸胴壺を再利用 ミガキ ミガキ	ほぼ完形 内 10YR6/2 (灰黄褐) 外 7.5YR3/1 (黒褐)	細石英・～1mmの長石・黒色粒子を含む。	ケン
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
7	割片	1.3	0.83	0.15	0.2	黒曜石	
8	割片	1.95	0.7	0.4	0.8	黒曜石	P2
9	編物石	16.5	7.8	4.4	900	安山岩 スリ面4	No.2
10	編物石	15.2	10.5	5.5	1,100	砂岩 (割れ面もわずかに磨耗する。)	No.4
11	編物石	9.0	3.7	2.9	150	チャート スリ面3	P3
12	編物石	17.6	7.0	5.5	730	安山岩 スリ面4	No.1
13	編物石	17.7	8.0	4.7	1,100	安山岩	No.3

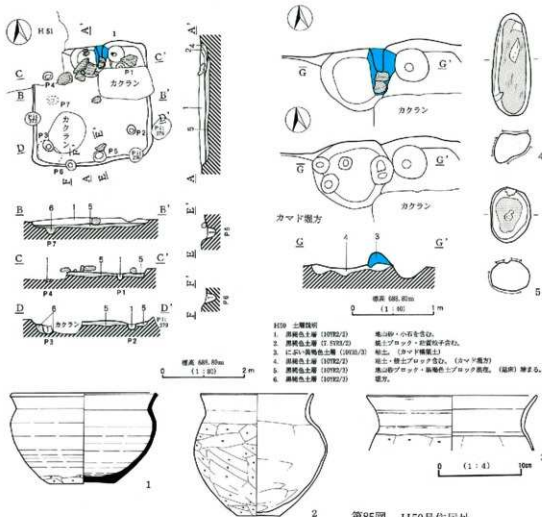


第84図 H49号住居址

50) H50号住居址 (第85図、図版35・96)

Dと9グリットにあり、H52の覆土中に構築される。H51・単P272・279・280に切られ、H52・F15を切る。掘乱が2カ所がある。南北276cm、東西270cmを測る方形の住居址である。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はほぼ北を指す。カマドは石で構築されており、石組が押しつぶされていた。P1〜P4が主柱穴であろうが小規模である。南壁に2個の小柱穴、カマドの東脇には径40cm、深さ16cmの円形の落ち込みがあいている。

出土物には須恵器鉢、土師器小型壺(2)、甕(3)がある。須恵器鉢(1)は、底部回転車切り後、底部外周が手持ちヘラケズリされる。土師器壺は武蔵甕で口縁部形態「く」の字形ではあるがわずかに「コ」の字形も呈する。これらより、本址は奈良時代末葉の住居址であろう。



第85図 H50号住居址

第48表 H50号住居址出土遺物一覽表

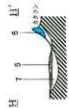
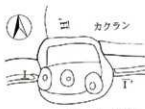
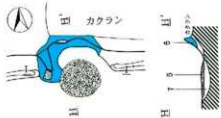
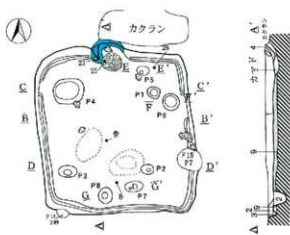
番号	器種	注量	成形・装飾	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 鉢	18.1	内 ロケロナデ	口縁1/2残存・底部定形	石英・長石・黒色粒子含む。 非外面火だすき有。	No.1	
		8.0	外 ロケロナデ→底面回転糸切り後底部外 縁手持ちヘラケズリ	内 10Y5/1・6/1 (灰)			
		11.2		外 5Y5/1・10Y25/1 (灰・黒炭)			
2	土師器 小型甕	13.8	内 口縁ヨコナデ→基部から底部ヘラナデ	口縁1/2・底面1/7残存	石英・長石含む。	カマド	
		5.2	外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ・底部ヘ ラケズリ	内 2.5Y5/6/4 (灰・におい度)			
3	土師器 甕	21.0	内 胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ	口縁1/4残存	石英・長石含む。	Ⅱ区	
		(6.8)	外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	内 5Y5/3/1 (黒炭)			
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
4	煎物石	12.5	4.9	3.6	300	火熱うける。スリ面3	Ⅳ区
	スリ石	6.7	5.0	3.7	60	軽石	カマド

51) H51号住居址 (第86図、図版35・97)

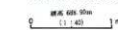
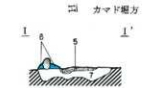
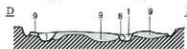
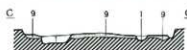
Dお9グリットにあり、H52上面に構築する。F15・半P299に切られる。H51・H52を切る。南北359cm、東西342cmを測る方形の住居址である。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は北より6°西に振れる。焼土が残り、カマドは粘土で構築していた。主柱穴は4本であろうが明確には確認できなかった。南壁中央に2個東西に並ぶ柱穴、カマドの右脇に落ち込みがあった。住居址中央の床面よりシカの上顎歯が出土している。壁下には周溝が巡っている。出土遺物には須恵器、土師器、滑石製白玉(13)、織物石(14-15)、スリ石(17-19)、鉄製刀子(26)がある。本住居址に伴う遺物は須恵器杯蓋(1)、杯身(2)、土師器武蔵甕(22-25)、鉄製刀子(26)である。他は重複する遺構からの混入品であろう。武蔵甕は口縁部形態が「コ」の字形を呈している。これらより本址は平安時代前期であろう。

第49表 H51号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 蓋	(16.8)	内 ロクロナデ	口縁1/8残存	石英・長石含む。 ※火だきすぎ。	P4	
		- (2.0)	外 ロクロナデ	内 N4/0 (灰) 外 10YR5/1 (褐色)			
2	須恵器 杯	(14.6)	内 ロクロナデ	口縁1/8残存	石英・長石・黒色粒子含む。		
		- (2.2)	外 ロクロナデ	内 7.5Y6/1 (灰) 外 7.5Y6/1 (灰)			
3	須恵器 杯	(7.0)	内 ロクロナデ	底部1/2残存	石英・長石含む。 ※内外火だきすぎ。	IV区	
		- (1.7)	外 ロクロナデ→底部回転糸切り	内 5Y6/2 (灰グリーン) 外 5Y6/1 (灰)			
4	須恵器 杯身	(15.2)	内 ロクロナデ	口縁1/22残存	石英・長石含む。	I区 Dお9検出 Dお10検出	
		- (3.2)	外 ロクロナデ→大井部回転ヘラケズリ	内 2.5Y5/1 (黄灰) 外 10Y5/1 (灰)			
5	須恵器 蓋	(14.8)	内 ロクロナデ	口縁1/12残存	石英・長石含む。	H51 Dか10検出	
		- (2.2)	外 ロクロナデ	内 10YR5/1 (褐色) 外 2.5Y5/1 (黄灰)			
6	須恵器 杯身	-	内 ロクロナデ	大井部のみ残存	石英・長石含む。	III区トレ IV区裏方	
		- (2.8)	外 ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	内 2.5Y5/1 (黄灰) 外 2.5Y5/1 (黄灰)			
7	須恵器 高台付杯	(14.6)	内 ロクロナデ	口縁1/4残存・底部成形	石英・長石・黒色粒子含む。	IV区 Dお10検出	
		9.0 6.0	外 ロクロナデ→底部切り離し後回転ヘラケズリ・高台貼付	内 5Y5/1 (灰) 外 2Y3/1 (赤)			
8	須恵器 蓋	-	内 ヘラナデ (炬目も使用)	底部1/2残存	石英・褐色粒子含む。 ※磨減	No4 IV区 Dお9検出	
		17.2 (8.9)	外 胴部コナデ→一部タタキメ・底部ナデ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR5/2 (灰黄褐)			
9	土師器 杯	(12.3)	内 ミガキ	口縁1/8残存	石英・長石・赤褐色粒子含む。		
		(12.2) (3.1)	外 口縁コナデ・底部ヘラケズリ・全体に粗いミガキ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)			
10	土師器 杯	17.4 12.6 (3.1)	内 ミガキ	口縁1/2・底部1/2残存	石英・長石・黒色粒子含む。	II-IV区・P4 II区裏方 H52 I区	
		5.9	外 口縁ミガキ・底部ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)			
11	土師器 杯	(17.2) (10.2) (4.6)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/8残存	石英・長石含む。	II区裏方	
		4.3 4.6 1.1	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 N2/0 (黒) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)			
12	土師器 土製内取	4.3 4.6 1.1	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	完形	石英・赤褐色粒子含む。 蓋の次利用。	III区	
				内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)			
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
13	白玉	0.8	0.9	0.25	0.3	滑石	IV区
14	織物石	11.0	4.5	2.8	210	安山岩	II区裏方
15	織物石	10.9	4.4	2.3	170	黒色織雲安山岩	III区裏方
16	スリ石	3.5	3.9	3.3	70	チャート	P4
17	スリ石	4.8	4.6	3	110	安山岩 全面にミガキあり。	III区裏方
18	スリ石	3.8	3.4	2.9	50	安山岩	I区裏方
19	スリ石	11.0	7.1	6.8	520	黒曜石	II区裏方
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
20	土師器 鉢	(17.5)	内 口縁コナデ・胴部ヘラナデ(炬目)→	口縁1/16残存	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子含む。	III区	
		- (3.6)	全体にミガキ 外 口縁コナデ・胴部ヘラケズリ後一部ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)			
21	土師器 小型甕	(11.0)	内 口縁コナデ→胴部ヘラナデ(炬目)	口縁部・胴部1/5残存	石英・長石・赤褐色粒子含む。		
		(3.2)	外 口縁コナデ・胴部ヘラナデ(炬目)→全体に粗いミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)			



13
①、②



14

15

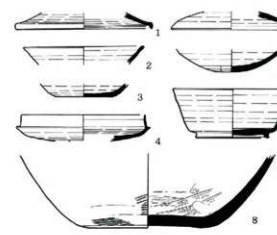
16

17

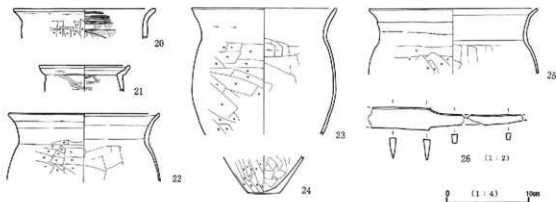
18

19

- 181 上層部分
1. 黒褐色土層 (C1932/2) 堀川-小石をわずかに含む、褐色土多く含む。(P1)
 2. 黒褐色土層 (C1932/2) (P1)
 3. 黒褐色土層 (C1932/2) 粘質土・黄土ブロック含む。(カマド基礎層)
 4. 黒褐色土層 (C1932/2) 粘土。
 5. 赤褐色土層 (C1932/2) 粘土。(カマド構築上)
 6. 赤褐色土層 (C1932/2) 砂質。(カマド壁?)
 7. 赤褐色土層 (C1932/2) 褐色土多く含む。(P2)
 8. 赤褐色土層 (C1932/2) 褐色土 (C1934/E) 上の硬底層。(堀川)



第86図 H51号住居址(1)



第87図 H51号住居址(2)

番号	器種	数量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
22	土師器 甕	(21.6) - (8.3)	内外 口縁コナナテ→胴部ヘラナテ 口縁コナナテ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 5YR6/4 (にぶい型) 外 5YR7/4 (にぶい型)	石英・長石含む。	IV区 トレンチ	
23	土師器 甕	(17.8) - (15.5)	内外 口縁コナナテ→胴部ヘラナテ 口縁コナナテ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 7.5YR5/3 (にぶい型) 外 7.5YR7/3 (にぶい型)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.2 I区掘方 IV区・P4 カマド	
24	土師器 甕	(4.0) (4.7)	内外 ヘラナテ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底面1/2残存 内 5YR5/4 (にぶい赤黄) 外 5YR6/4 (にぶい型)	石英・長石含む。	カマド	
25	土師器 甕	(20.8) - (8.0)	内外 口縁コナナテ→胴部ヘラナテ 口縁コナナテ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 2.5YR6/4 (にぶい型) 外 5YR6/4 (にぶい型)	石英・赤褐色粒子・黒色粒子 含む。	No.3 D区4出土	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
26	刀子	刀(1.3) 柄(0.6)	(6.0) (3.4)	(0.4) (0.4)	10.8	鉄製品	No.1

52) H52号住居址 (第88~90図、図版36・37・97・98)

Dえ8グリットにあり、砂層中に構築する。H47・H48・H50・H51・F14・F15に切られる。単P281・282・283・284・324・325・332に切られる。南北776cm、東西769cmを測り、方形を呈す。住居址南壁中央で幅100×100cmほど張り出し、径82cm、深さ70cmの内形ピットがある。カマドは北壁中央にあり、西袖はH51に大半壊されるが東袖は糠を4個並べて袖芯にし、粘土を貼っている。支柱穴はP1~P4で、径60~72cm深さ76cmの掘方に柱痕がみられた。南北柱間P9・P10のピットは、円形で径40~50cm、深さ40cmほどあり、補助的柱穴であろう。張り出しピットの北に径30cm、深さ29cmの円形ピットがあった。カマドの東に長径48cm短径24cm、深さ24cm、の隅丸長方形のピットある。間仕切り溝8本が壁から柱穴に伸びている。壁下には周溝が巡る。

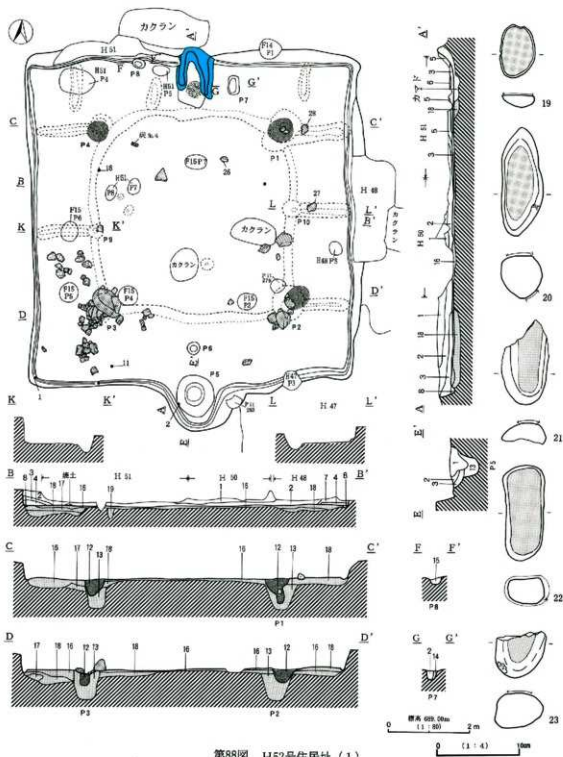
出土遺物は須恵器、土師器、土製円板(17)、滑石製白玉(18)、石錘? (19)、編物石(20・22)、スリ石(21・23~25)、台石(26~28)がある。須恵器短頸甕(1)は外面下部がヘラケズリされる。H51で出土した86-4・5・6の須恵器杯も本址に該当する遺物であろう。86-4の須恵器杯は扁平な底部、短い受け部、立ち上がりは直立する。また86-5・6は底部が半球形を呈す。5・6はTK209号壺様式にみられ(7C)ものである。土師器杯は杯身横截の杯D(2)、全体に内湾する杯に高台状の底部を持つ杯(3)、口縁が大きく外傾する杯B(4)がある。甕(12)は底部が1穴で、外面ヘラケズリされる。

これらより本址は古墳時代後期の住居址であろう。

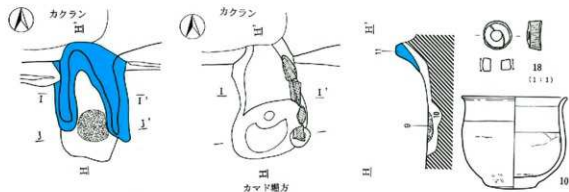
本址の炭化材はカバノキ属と榊樹同定された。

第50表 H52号住居址出土遺物一覧表

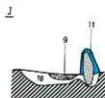
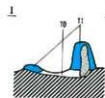
番号	器種	分量	成形・調査	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 短頸瓶	9.8 3.3 9.5	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→胴下半部から底部回転ヘ ラケズリ	口縁1/4残存・底部完形 内 N6/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※底部にヘラ記号あり【×】 内外に自然剥片。胴部に 別個体の破片が付着する。	No.7 Ⅱ区	
2	土師器 杯	9.8 9.9 3.8	内 ミガキ 外 ミガキ	完形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色 粒子含む。	No.10	
3	土師器 杯	(12.4) 5.8 5.2	内 みこみ部ヘラナデ→口縁ヨコナデ・黒 色処理 外 口縁ヨコナデ・底部静止かけ引き糸切り	口縁部残存・底部完形 内 N15/0 (黒) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	Dお10検出	
4	土師器 杯	16.4 10.5 4.5	内 ヘラナデ (柱目) 後ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ後粗いミ ガキ	口縁1/2・底部2/3残存 内 N15/0 (黒) 外 10YR6/4 (浅黄橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	I区	
5	土師器 杯	(14.8) (12.9) (3.6)	内 ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ後ミガキ	口縁1/8残存 内 5YR6/3 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・赤色粒子含む。	Ⅱ区2・3層	
6	土師器 杯	(16.0) (13.9) (3.9)	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁1/8残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅱ区2層	
7	土師器 杯	(14.4) (2.4)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ	底部1/6残存 内 7.5YR4/1 (黄灰) 外 7.5YR3/1 (黒褐)	石英・赤褐色粒子含む。 ※軟質	I区 カマド	
8	土師器 小型丸底	(9.2) - (3.7)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁1/8残存 内 5YR5/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	P 5	
9	土師器 小型壺	(15.4) - (13.5)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/3残存 内 5YR2/1・6/3 (黒褐・にぶい橙) 外 5YR4/1・5/2 (黄灰・灰褐)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅱ区3層	
10	土師器 小型壺	13.1 6.0 11.4	内 胴部から底部ヘラナデ・底部ミガキ→口 縁ヨコナデ (→黒色処理?) 外 胴部ナデ後一部ミガキ・底部ヘラケズリ →口縁ヨコナデ	口縁3/4残存・底部完形 内 7.5YR2/1・2.5YR5/3 (黒・にぶい赤褐) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅱ区2・3層 Ⅱ区掘方 P 6	
11	土師器 小型壺	(15.4) - (12.8)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ後ヘラ ナデ	口縁1/3残存 内 10YR6/3 (にぶい黄橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・角閃石・黒褐色 粒子含む。	No.9	
12	土師器 瓶 (一孔)	(14.8) - 12.5	内 胴部ヘラナデ・口縁ヨコナデ (→黒色処 理?) 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ→底部ミ ガキ	口縁1/3残存・底部ほぼ完形 内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※焼成前に穿孔	Ⅱ区2・3層 Ⅱ区・Ⅱ区2層 Ⅱ区掘方・ Dか9	
13	土師器 瓶	(23.4) - (19.3)	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・胴部ナデ後ミガキ	口縁1/6残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR5/1 (黄灰)	石英・長石含む。	Ⅱ区3層	
14	土師器 壺	- 5.8 (2.9)	内 ヘラナデ (柱目) 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	I区	
15	土師器 壺	8.3 (19.3)	内 ヘラナデ 外 胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	底部完形 内 5YR6/6 (橙) 外 10R6/8・5YR7/4 (赤橙・にぶい橙)	石英・長石含む。 ※外側全面剥離	カマド	
16	弥生土器 壺	(14.2) - (3.4)	内 ヨコナデ後ミガキ 外 ヨコナデ後ミガキ 文 口縁 縄文を地文としヘラ福山形連続文 施す。	口縁1/6残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	石英・長石含む。	検出	
17	土師器 土製円板	4.0 4.0 0.8	内 ミガキ 外 ミガキ	完形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 10YR7/2 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒 色粒子含む。	I区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
18	F1c	0.9	0.9	0.4	0.4	滑石	No.5
19	石鏃	6.6	4.3	1.4	50	石質?	
20	礫物石	13.3	5.2	5.2	460	安山岩	
21	スリ石 (10.4)	5.7	2.7	(150)		多孔質安山岩	Ⅱ区
22	礫物石	11.7	5.1	3.1	270	黒色緻密安山岩	Ⅱ区
23	スリ石 (5.8)	6.2	4.7	(210)		安山岩	Ⅱ区1層
24	スリ石	7.6	7.4	2.5	90	軽石	Ⅱ区3層
25	スリ石	7.3	6.3	5.5	250	黒曜石	Ⅱ区
26	台石	17.3	12.5	9.6	2,210	黒曜石	No.3
27	台石	24.3	18.1	7.5	4,660	安山岩	No.1
28	台石	22.5	13.4	15.5	4,960	黒曜石	No.6



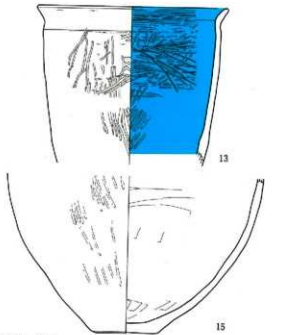
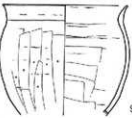
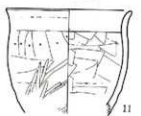
第88図 H52号住居址 (1)



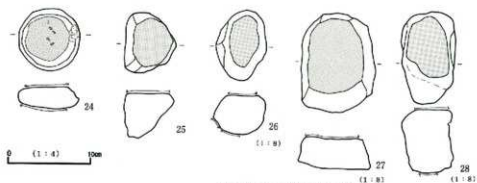
カマド廻方



- H52 土層説明
1. 黒褐色土層 (1092/3) 火山砂・小石多く含む。
 2. 黒褐色土層 (1093/3) 火山砂・小石多く含む。
 3. 黒色土層 (1091/3) 火山砂を多く、炭化物・焼土類も多く含む。
 4. 黒褐色土層 (1092/3) 焼土を含む。
 5. 黒褐色土層 (1093/3) 焼土。〔カマド遺構層〕
 6. 黒褐色土層 (1092/3) 焼土・粘土ブロックを含む。
 7. 黒色土層 (1093/4) 砂。
 8. 黒褐色土層 (1092/3) 焼土。
 9. 黒褐色土層 (1095/3) 焼土。(北向き)
 10. 黒褐色土層 (1092/3) 焼土。
 11. 黒褐色土層 (1092/3) 粘土。(カマド遺構層)
 12. 黒褐色土層 (1092/3) 粘土ブロック・焼色ブロック・こぶし状の礫を含む。(北向き)
 13. 黒褐色土層 (1093/4) 砂を含む。(北向き)
 14. 濃い黄褐色土層 (1094/3) 焼土砂土層。(P2層方)
 15. 黒褐色土層 (1092/2) (P3)
 16. 黒褐色土層 (1092/3) 火山砂を含む。礫まじりややや。〔図1〕表層に焼土・炭化物がはりつらぬ層を含む。
 17. 黒褐色土層 (1092/2) 火山砂ブロックを含む。(南方)
 18. 黒褐色土層 (1092/3) 火山砂土層。小石を含む。(南方)
 19. 黒褐色土層 (1092/4) 焼土砂土層。(P3)



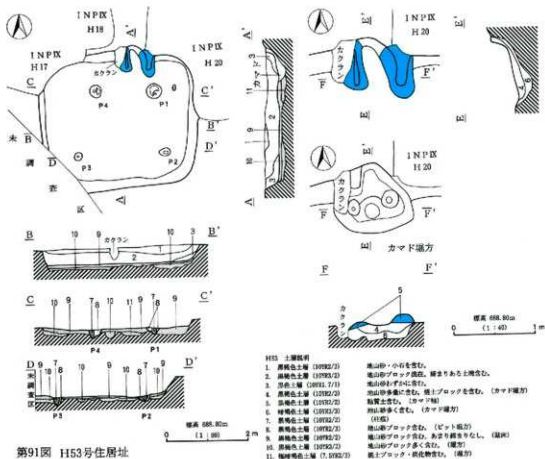
第89図 H52号住居址 (2)



第90図 H52号住居址 (3)

53) H53号住居址 (第91図)

D×8グリッドにあり、本調査では南列の柱穴P2・P3まで調査した。大半はINPXで調査されたため、INPⅨH9で報告する。



54) H54号住居址 (第92~94図、図版37・38・98・99)

DK 9グリットにあり、通路確保のため、3回に分けて調査し、図上で復元している。F28・D48・単P428・429・454・455・456・457に切られる。南北572cm、東西567cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は北より、18°西に振れる。主柱穴はP1~P4の4本で、径50~80cm、深さ64cmのビット堀方に柱痕がみられる。南東と南西隅に穴があり、P7・P8も西壁下にある。間仕切り溝が主柱穴に向けて壁から東西に伸びる。

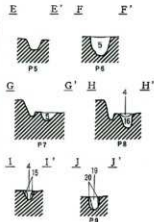
出土遺物には土師器、須恵器、滑石製白玉(20~23)、滑石製有孔円板(24・26)、頁岩製剣形模造品の未製品(26)、ミガキ石・繩物石・台石・凹石などがある。土師器杯は九底で浅い底部から口縁が大きく外傾する杯B(1~3)、やや扁平になり、全体に内湾する杯C(4・5)がある。土師器壺は胴部外面が縦方向にヘラケズリ調整され、最大径を口縁に持つ(18)。また滑石製白玉、滑石製石製模造品が7点みられ、北東の主柱穴P1の南縁床面に集中している。本住居址は多くの礎が床面より浮いた状態で出土している。

本址はこれより古墳時代後期前葉であろうか。

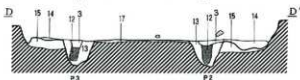
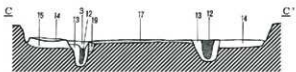
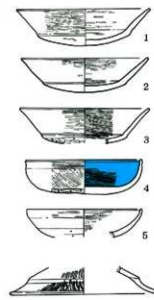
本址の炭化材No.19はコナラ属コナラ節と樹種同定された。

第51表 H54号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(16.4) 11.3 4.5	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁2/3残存・底部完形 内 5YR8/4 (淡橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子含む。 ※内外磨耗	カマド
2	土師器杯	(10.6) (15.2) 4.2	内 ミガキ 外 口縁ミガキ・底部ヘラケズリ(後ミガキ?)	口縁1/4・底部2/3残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 ※内外磨耗	
3	土師器杯	(16.0) (10.6) (4.3)	内 ミガキ 外 口縁ミガキ・底部ヘラケズリ	口縁2/3・底部1/2残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒を含む。	Ⅱ・Ⅳ区 Dから10検出
4	土師器杯	14.4 - 4.3	内 ミガキ後黒色処理 外 体部から底部ヘラケズリ→口縁ヨコナデー→口縁から体部ミガキ	口縁1/2残存 内 N2/0 (黒) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子含む。	No.101
5	土師器杯	(14.2) (3.5)	内 ミガキ 外 体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデー→ミガキ	口縁1/6残存 内 5YR6/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 きめ細かい。 ※外面磨耗	Ⅲ区3層
6	土師器高杯	(18.2) (13.5) (3.3)	内 ヨコナデー 外 陶文	口縁1/8残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子少量含む。きめ細かい。	Ⅲ区南方
7	土師器鉢	(11.8) (4.6)	内 口縁ヨコナデー→胴部ヘラケズリ 外 口縁ヨコナデー→胴部ヘラケズリ	口縁1/6残存 内 7.5YR6/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・内凹石含む。	Ⅲ区2層
8	土師器鉢?	(5.6) (3.3)	内 ヘラケズリ 外 胴部ヘラケズリ・底部木葉痕あり。	底部1/3残存 内 5YR7/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子含む。非常にきめ細かい。	検出
9	土師器壺	(7.0) (6.7)	内 ヘラケズリ 外 胴部ヘラケズリ・底部ミガキ	底部1/4残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒を含む。	検出
10	土師器台付壺	(11.9) (4.6)	内 ヨコナデー→胴部基部ヨコナデー 外 ヨコナデー→胴部基部ヘラケズリ	底部1/4残存 内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・角閃石・チャート含む。	Ⅰ区
11	土師器壺	6.0 (3.8)	内 ヘラケズリ(藍目) 外 胴部ヘラケズリ。底部木葉痕あり。	底部1/2残存 内 10YR7/2 (にぶい黄褐) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	検出
12	土師器壺	- 8.0 (5.6)	内 ヘラケズリ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 10YR7/3 (にぶい黄褐) 外 10YR6/3 (にぶい黄褐)	石英・長石・5mmの赤褐色粒子・黒色粒子多量を含む。	検出
13	土師器鉢	- (8.0) (1.7)	内 ヘラケズリ後黒色処理 外 胴部ヘラケズリ・底部ミガキ	底部1/4残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石含む。	Ⅲ区3層
14	土師器鉢	15.6 6.2 12.4	内 口縁ヨコナデー→胴部から底部ヘラケズリ→口縁ミガキ 外 胴部ナデー→底部と底部外周ヘラケズリ→胴部上ミガキ	口縁2/3残存・底部完形 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒を含む。	No.117 No.118 Ⅲ区床 Ⅳ区3層・床
15	土師器鉢	(19.8) (11.2) (13.3)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/10残存 内 N2/0 (黒) 外 5YR6/6 (橙)	石英・長石含む。	Ⅳ区 Ⅳ区3層
16	土師器鉢?	(28.1) - (8.1)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデー→胴部ヘラケズリ・わずかにミガキ	口縁1/8残存 内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅲ区南方

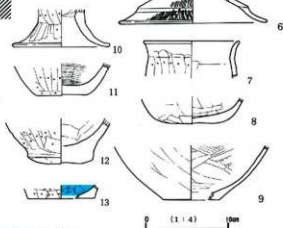


縮尺 0.5m (1:80)



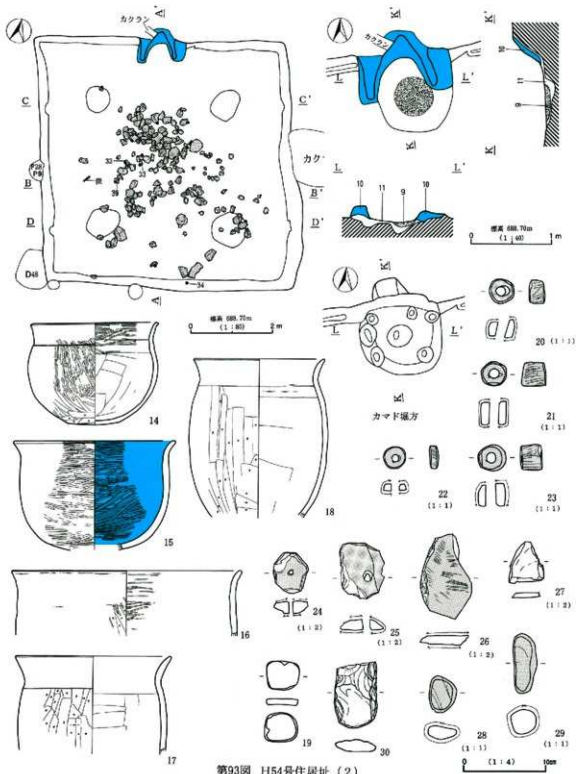
154 土層説明

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. 黒褐色土層 (1092/2) | 地山砂・小石含む。 |
| 2. 黒褐色土層 (1092/2) | 地山砂多く含む。 |
| 3. 黒褐色土層 (1092/2) | 地山砂・小石含む。 |
| 4. 黒褐色土層 (1093/2) | 地山砂・小石多く含む。 |
| 5. 黒褐色土層 (1092/2) | 地山砂・小石含む。 |
| 6. 黒褐色土層 (1092/2) | 地山砂多く含む。(実質) |
| 7. 赤褐色土層 (7.503/2) | 粘土、下部は極めて粘土ブロックになっている。(カマド燻焼層) |
| 8. 暗赤褐色土層 (1092/2) | 灰層に粘土含む。 |
| 9. 赤褐色土層 (1094/3) | 粘土。 |
| 10. 赤褐色土層 (7.503/2) | 粘土。(カマド燻焼) |
| 11. 黒色土層 (1091.7/1) | (カマド燻焼) |
| 12. 暗褐色土層 (1092/2) | 地山砂主体。(ピット底方) |
| 13. 暗褐色土層 (1092/2) | 地山砂少量含む。(同じ地層) |
| 14. 暗褐色土層 (1092/2) | 地山砂に赤褐色土と小石含む。(同じ地層) |
| 15. 暗褐色土層 (1094/3) | 粘土。 |
| 16. 黒色土層 (1094/4) | 地山砂主体。(P8) |
| 17. 暗褐色土層 (1092/4) | 地山砂に黒褐色土含む。跡あり。(粘土) |
| 18. 黒色土層 (1094/4) | 地山砂主体。(燻方) |
| 19. 黒褐色土層 (1092/2) | (燻下ピット) |
| 20. 土色・黄褐色土層 (1094/3) | (燻下ピット) |

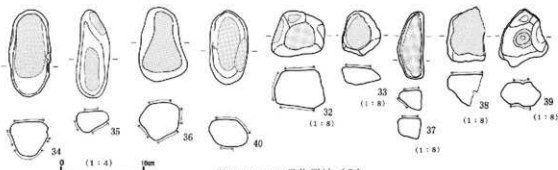


0 (1:4) 0m

第92図 H54号住居址(1)



第93図 H54号住居址(2)



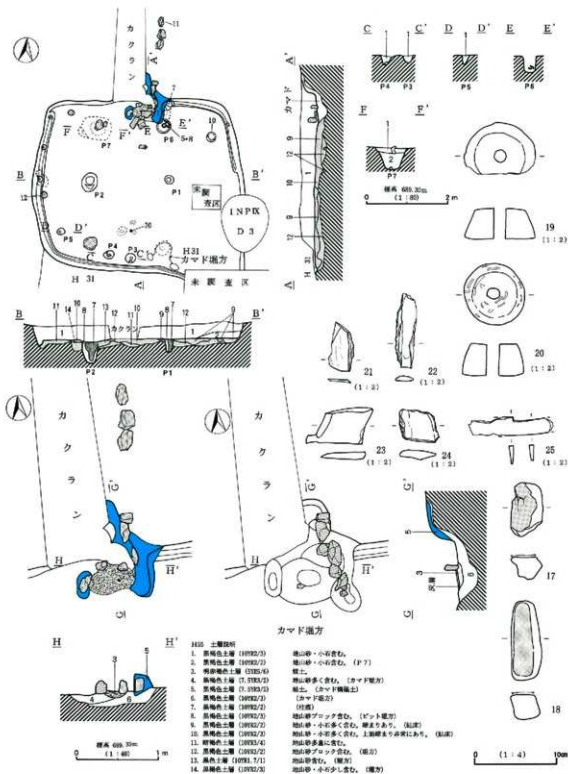
第94図 H154号住居址 (3)

17	土器類	19.0 - (12.1)	内外	割部ヘラケズリ→11線ヨコナデ 割部ヘラケズリ→10線ヨコナデ	11線1/3残存 内 SYR6/4 (にぶい楕) 外 SYR7/3 (にぶい楕)	石英・長石・赤色砂子・黒色 粘土を含む。	No.5 I区 カマド
18	土器類	16.0 - (19.4)	内外	割部ヘラケズリ→11線ヨコナデ 割部ヘラケズリ→11線ヨコナデ	11線2/3残存 内 7.5YR7/3 (にぶい楕) 外 5YR7/3 (にぶい楕)	石英・長石・黒色砂子・赤褐色 粘土・チャートを含む。	I区 III区 IV区3層
19	土器類 土製門板	4.0 3.5 0.8	内外	ミガキ後黒色処理 ミガキ	ほぼ完成 内 10Y2/1 (黒) 外 2.5YR6/6 (楕)	断面はスリ面 土器二次 利用	IV区
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
20	白土	0.7	0.75	0.55	0.4	滑石	No.3
21	白土	0.7	0.75	0.7	0.7	滑石	No.1
22	白土	0.7	0.7	0.2	0.2	滑石	開仕切P
23	白土	0.8	0.8	0.7	0.7	滑石	P 1
24	石製焼造品	2.6	2.1	0.7	5.7	滑石 有孔門板	No.2
25	石製焼造品	3.4	2.8	0.7	10.1	滑石 有孔門板	
26	未製品 (石製焼造品)	3.1	5.2	0.55	11.3	頁岩 銅形	III区
27	未製品 (磨製石)	2.5	2.15	0.35	2.1	片岩	IV区1層
28	ミガキ石	1.1	0.8	0.3	0.5	チャート	IV区5層
29	ミガキ石	1.85	0.8	0.75	1.4	頁岩	III区
30	打製石斧	8.2	5.3	1.5	70	安山岩	IV区3層
31	矢筈						
32	台石	11.2	13.1	9.3	1,840		No.13
33	礫物石	10.9	9.4	4.3	390	黒曜石	No.7
34	礫物石	10.6	5.2	4.3	320	安山岩 スリ面はほぼ全面	No.16
35	礫物石	10.8	4.1	2.6	130	花崗岩? スリ面4	IV区
36	礫物石	9.1	6.0	4.7	320	チャート スリ面5	No.22
37	礫物石	16.5	6.2	5	750	安山岩 スリ面2	
38	石皿	13.6	9.7	7.8	610	溶結凝灰岩 欠損あり。	No.23
39	凹石	14.2	12.0	6.1	630	軽石	No.14
40	礫物石	8.9	4.8	3.4	180	安山岩 火焼うける。	検出

55) H55号住居址 (第95・96回、図版39・99)

F 58グリットにあり、H31・INPKD 3に切られ、H85・M 6・INPK H12を切る。他に北側は未調査の住居址を切っている。南北406cm、東西480cmの東西長い長方形を呈す。中央に溝状の掘乱が南北に貫き、カマドの西半分が壊されている。カマドは北壁中央にあり、補土に石を並べ、粘土で貼っている。焼土と灰、2個の支脚石が残されていた。煙道東列は20~25cmの石を一列に並べ、180cmの長さが確認された。西列は掘乱に壊されてない。主柱穴は中央に東西2本が検出された。南壁下に2個の出入り口の柱穴がある。カマド西脇には長径80cm、短径56cm、深さ56cmの隅丸方形のピットがある。カマドの東袖に接して、径36cmの寸胴の穴があり、5・6の小型臺が出土する。壁下には周溝が走る。

出土遺物には須恵器、土器類、滑石製紡錘車(19)、土製紡錘車(20)、鉄製刀子(25)、剥片、礫物石、台石、スリ石

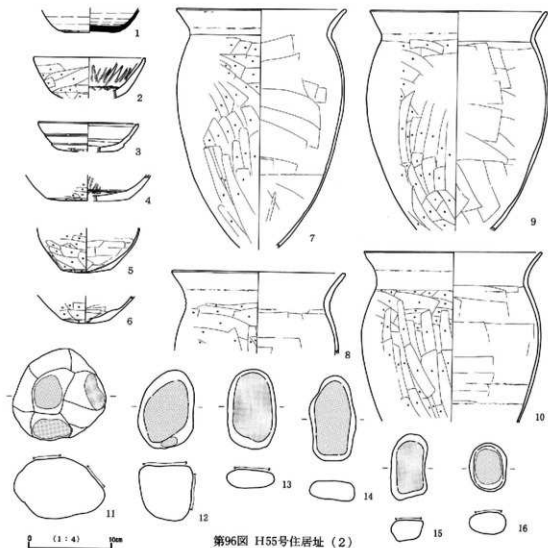


第95図 H55号住居址 (1)

がある。須恵器杯（1）は底部回転糸切り後外面が手持ちヘラケズリされる。土師器杯（2・4）は厚手で、内面縦内系暗文が施され、外面ヘラケズリされる。有段口縁杯の段が沈線化した杯（3）がある。土師器壺（5～10）は、武蔵壺で、口縁部形態は「く」の字形を呈す。

これらより本址は奈良時代であろう。

本址のカマドの灰・焼土からは、バツ属が樹種同定された。



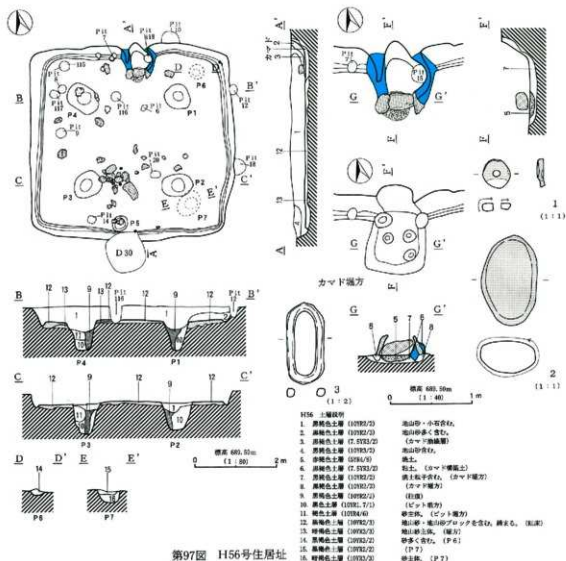
第96図 H55号住居址（2）

第52表 H55号住居址出土遺物・瓦表

番号	器種	法量	形状・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 杯	- 5.6 (3.0)	内 ロコロナデ 外 ロコロナデ→底部停止糸切り後外周手 持ちヘラケズリ	底部3/4残存 内 5Y5/1 (灰) 外 5Y6/1 (灰)	石英・長石・褐色粒子含む。 赤火だすき有。	I区 検出	
2	土師器 杯	(13.6) (9.0) (5.0)	内 ヨコナデ後後内系暗文 外 口縁ヨコナデ後ヘラケズリ	口縁1/3残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	I区 S	
3	土師器 杯	(12.2) (8.8) (3.6)	内 みこみ部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ	口縁1/10残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 5YR7/6 (橙)	石英・赤色粒子・黒色粒子少量 含む。	I区掘方	
4	土師器 杯	- (10.0) (3.2)	内 ヨコナデ→後内系暗文 外 体部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/4残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・赤色粒子・黒色粒子含 む。	トレ	
5	土師器 甕	- 6.0 (5.5)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ	底部完形 内 2.5YR6/6 (橙) 外 5YR4/3 (にぶい赤褐)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。	P6 No.11	
6	土師器 甕	(5.8) (3.4)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/3残存 内 5YR4/1 (褐灰) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・～1mm大の赤色粒子 含む。	I区	
7	土師器 甕	(20.8) -	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 10R5/6 (赤) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	石英・長石含む。	No.3 B区	
8	土師器 甕	(21.4) -	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 2.5YR4/3 (にぶい赤褐) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・～2mm大の赤色 粒子含む。	No.11・P6 B区	
9	土師器 甕	(21.7) -	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR6/6 (橙)	石英・長石・～1mm大の黒 色粒子・赤色粒子含む。	No.2 B区・トレチ カマド カクラン	
10	土師器 甕	(21.8) -	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	口縁3/4残存 内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR6/4・6/6 (にぶい橙・橙)	石英・長石・赤色粒子・褐色 粒子含む。	No.2 B区・トレチ カマド・検出 カクラン	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
11	台石	22.5	22.7	14.8	7,940	黒曜石 スリ面3	No.10
12	スリ石	9.6	6.9	6.8	610	安山岩	No.8
13	礫物石	9.8	6.0	2.3	220	安山岩	
14	礫物石	10.4	5.7	2.5	240	安山岩	P4
15	礫物石	8.1	4.6	2.6	170	安山岩	掘方
16	スリ石	5.9	4.5	2.7	110	安山岩	検出
17	スリ石	6.7	3.9	2.8	80	黒曜石	
18	礫物石	9.7	3.5	3.1	190	硬砂岩	
19	石製紡錘車	径 上 フ 3.1×(2.5) 4.3×(3.1)	1.9		41.0	滑石 約3/4残存	IV区
20	土製紡錘車	径 上 フ 2.8×2.7 3.75×3.7	1.95		32.7	完形 調整ヘラケズリ・ミガキ	No.1
21	剥片	3.0	1.5	0.2	1.3	片岩	南側
22	剥片	4.55	1.3	0.35	2.4	片岩	S掘方
23	剥片	2.25	4.1	0.5	6.8	片岩	IV区
24	剥片	2.1	2.45	0.6	3.3	緑泥片岩 下端はカットされている。	I区
25	刀子	(5.2)	<1.1>	<0.3>	<5.8>	鉄製品	I区

56) H56号住居址 (第97図)

Hこ7グリットにあり、D30に切られる。本調査では南東の一部の調査であるため、INPIX H 2で本報告する。



57) H58号住居址 (第72図、図版40)

Dい9グリットにあり、H42にと重複し上面を壊される。南北244cm東西346cmの東西に長い長方形を呈する。カマドの痕跡であろうか焼土範囲が北壁に残る。床面が所々残るが明確な状態ではない。

明確に伴う遺物はなく時期は不明である。

58) H59号住居址 (第98図、図版40・100)

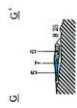
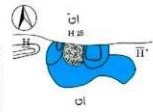
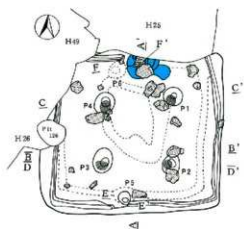
Hか10グリットにあり、H25・H26・H49・甲P126に切られる。南北356cm東西386cmの方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、火床部が残り、北側はH25に壊される。主軸方位はほぼ北を指す。カマドの焼き口床面には灰色の粘土が貼られていた。主柱穴は4本で、径50cm、深さ80cmほどのビット堀方に径20~24cmの柱板がみられた。南壁中央には小ビット、東脇に石が置かれ上向はスリ面があった。またP1・P2・P4の柱痕に接して長さ36~48cm大の石が床面にあった。柱の固定に利用したのではなかろうか。カマドの西脇には、深さ20cmほどの円形の落ち込みがある。壁下には刷溝が走る。

出土遺物には土師器、弥生式土器がある。土師器杯(1)は丸底で外縁を持って口縁が外傾する。鉢(2)は、外面がヘラナダされる。3は壺形土器の口縁で口縁内面がミガキ調整される。4は壺の口縁であろうか。5の内面はミガキ調整され、底であろう。6の杯形の手捏がある。また弥生式土器が多数みられ、中期の様相を持つことから、周囲に弥生中期の遺構の存在があったであろう。

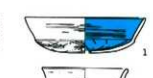
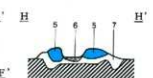
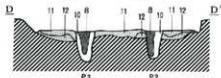
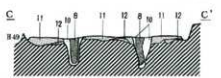
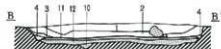
これらより本址は古墳時代後期であろう。

第54表 H59号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	粘土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(14.8) (12.2) (4.3)	内 端文後黒色地埋 外 底部ヘラナダ→口縁ヨコナデ・全体 に粗いミガキ	口縁1/4残存 内 N2/0 (黒) 外 7.5YR5/2 (灰黒)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅱ区 Ⅳ区2層
2	土師器 鉢	(10.6) - (6.7)	内 口縁ヨコナデ・腰部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・腰部ヘラナデ	口縁1/8残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	検出
3	土師器 壺	(15.2) - (4.5)	内 口縁ミガキ・胴部ヘラナダ (→黒色地 埋?) 外 口縁ヨコナデ後ヘラナデ	口縁1/4残存 内 7.5YR5/2・2.5Y4/1 (灰黒・黄灰) 外 5YR6/6 (橙)	石英・長石含む。	Ⅱ区2層 検出
4	土師器 壺	(22.4) - (2.3)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁1/8残存 内 5YR3/1 (黒黒) 外 5YR2/1 (黒黒)	石英・長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区2層
5	土師器 碗?	(20.4) - (5.5)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ後ヘラナデ	口縁1/6残存 内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/2 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色粒を含む。 きめ細かい。	Ⅳ区1層 検出
6	土師器 手捏	(5.8) (5.6) 3.0	内 ナデ (指頭) 外 ナデ (指頭)	口縁1/4・底部1/3残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・赤色粒子・黒色粒を含む。	Ⅱ区
7	弥生土器 杯	(9.5) (3.7) 5.1	内 口縁ヨコナデ後腰部ヘラナデ (柱目) 外 口縁ヨコナデ後腰部ヘラナデ (柱目)	口縁1/6・底部一部残存 内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR8/3 (洗黄橙)	石英・長石含む。 ※内外面に赤色顔料付着	Ⅰ区
8	弥生土器 杯	(8.0) - (4.6)	内 ヘラナデ (柱目) 後赤色塗彩 外 口縁ヨコナデ→ミガキ突起貼付	口縁1/4残存 内 7.5R4/6 (赤) 外 10YR8/3 (洗黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 ※外面に赤色顔料付着	Ⅱ区
9	弥生土器 壺	(3.8) (4.3)	内 ヘラナデ 外 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部3/4残存 内 10YK7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅰ区
10	弥生土器 壺	(10.2) - (4.2)	内 ミガキ 外 ヨコナデ 文 口唇部 縄文 頸部 縄文を地文としてヘラ横線平行線文 施す。	口縁1/4残存 内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	検出
11	弥生土器 壺	(10.2) - (4.3)	内 ミガキ 外 ミガキ 文 口唇部 縄文施す。	口縁1/8残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒少量 含む。きめ細かい。 ※外面に赤色顔料付着	Ⅰ区堀方
12	弥生土器 壺	(14.4) - (3.4)	内 ヨコナデ後ミガキ 外 ヨコナデ後部分的にミガキ 文 口唇部 縄文施す。	口縁1/8残存 内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 2.5Y8/3 (洗黄)	石英・長石・赤褐色粒少量 含む。きめ細かい。	Ⅰ区
13	弥生土器 壺	(9.2) (2.0)	内 ヘラナデ (一部柱目) 外 胴部ヘラナデ (一部柱目)・底部ナデ	底部1/6残存 内 10YR5/1 (褐灰) 外 10YR5/1 (褐灰)	石英・長石含む。きめ細かい。	検出
14	弥生土器 壺	(8.9) (5.2)	内 ヘラナデ (柱目) 外 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部2/3残存 内 10YR8/2 (灰白) 外 10YR6/1 (褐灰)	石英・長石含む。	Ⅳ区1層 検出

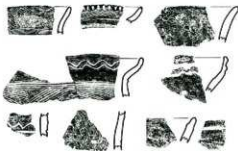


標高 608.50m
(1:40) m

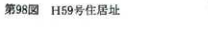


0 (1:4) 10cm

- 119 土層説明
1. 黒褐色土層 (10792/1) 地山砂を多く含む、小石を含む。
 2. 黒褐色土層 (10792/2) 地山砂、小石含む。
 3. 暗褐色土層 (10792/3) 地山砂を多量に含む。
 4. におい・黄褐色土層 (10794/1) 地山砂主体。(黄褐色)
 5. 灰褐色土層 (10794/2) 粘土。
 6. 赤褐色土層 (10794/3) 地山砂主体。(カマド下方)
 7. 褐色土層 (10794/4) 粘土。
 8. 黒褐色土層 (10792/2) 地山砂を多量に含む。(ピット下方)
 9. 暗褐色土層 (10792/3) 地山砂主体。(ピット下方)
 10. におい・黄褐色土層 (10794/3) 赤褐色土ブロックに10795/9地山砂ブロック含む。
 11. 黒褐色土層 (10792/2) 赤褐色土ブロック含む。(壁方)
 12. 褐色土層 (10794/3)



標高 605.50m
(1:50) 2m



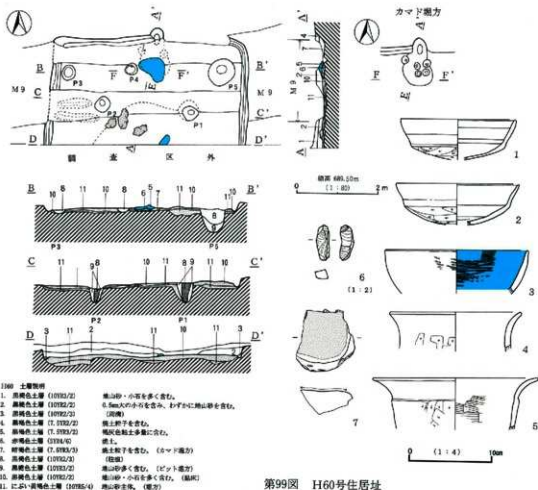
第98図 H59号住居址

59) H60号住居址 (第99図、図版41・100)

1き2グリットにあり、砂層中に構築される。M9に切れ、南は調査区域外である。M9が東西方向に入り、住居址の床面の一部まで壊している。南北は250cm調査し、東西は462cmを測る。カマドは北壁にわずかに痕跡が残るが大半はM9に壊されている。主軸方位はほぼ北を指す。主柱穴は北列のP1・P2の2本が検出された。また北西の東壁下に、浅い落ち込みがあり、北東隅には径64cm、深さ58cmのピットがある。壁下には周溝が巡っていたようである。

出土遺物には土師器、羽片(6)、スリ石(7)がある。土師器杯は九底から外縁を持って口縁外縁がするもので、わずかに有段口縁の名残がある。土師器甕(4・5)は口縁に最大径を持ち、胴部ヘラケズりされる。

これらより本址は古墳時代後期であろうか。



第99図 H60号住居址

第55表 H60号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	形状・調整	残存量・色面	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(14.2) (11.6) (5.0)	内 ヨコナア 外 口縁ヨコナア・底部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 7.5YR6/3 (にぶい艶) 外 5YR6/3 (にぶい艶)	石英・赤色粒子含む。	I区
2	土師器杯	(15.0) (12.8) (5.0)	内 みこみ部ヘラケズリ→口縁ヨコナア 外 口縁ヨコナア・底部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 5YR7/4 (にぶい艶) 外 5YR7/4 (にぶい艶)	石英・長石・赤色粒子含む。	カマド
3	土師器鉢	(17.6) — (5.4)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/8残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR7/3 (にぶい艶)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 ※外面磨滅	Ⅲ区壁方

4	土師器 罌	(16.2) - (4.8)	内 外	ココナデ 口縁ココナデー胴部ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 7.5YR6/3 (にぶい靑) 外 7.5YR7/4 (にぶい靑)	石英・赤色粒子含む。	I区
5	土師器 鉢	(20.4) - (6.4)	内 外	口縁ココナデー胴部ヘラナデ (採目) 口縁ココナデー胴部ヘラケズリ	口縁一部残存 内 7.5YR6/3 (にぶい靑) 外 7.5YR7/4 (にぶい靑)	石英・長石・赤色粒を含む。	I区
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
6	銅片	2.15	0.8	0.6	1.3	黒曜石	I区
7	スリ石	(7.6)	(7.2)	3	<190	頁岩	IV区

60) H61号住居址 (第100図、図版41・100)

Gあ2グリットにあり、H62覆7中に構築される。M9に切られ、H62を切る。南は調査区外である。南北260cmを調査し、東西417cmを測る。北壁はM9に壊されていない。カマドは東壁にあり、主軸方位は北より90°東に振れる。カマドは南側の袖だけ調査でき粘質土と、焼上が残っていた。柱穴は北側の2本が見つかった。北東には径40cm深さ24cmの円形ピットがある。

出土遺物には須恵器、土師器、土製円板(5)、編物石(6)がある。須恵器は杯と高台付杯がある。須恵器杯(1)は底部回転糸切りのままである。高台付杯(2)は底部回転ヘラケズリ後高台が付く。3の杯は混入品であろう。土師器杯(4)は内面ミガキ黒色処理、底部回転糸切り後手持ちヘラケズリされる。

これらより、本址は平安時代前葉の住居址であろう。

61) H62号住居址 (第101図、図版42・100)

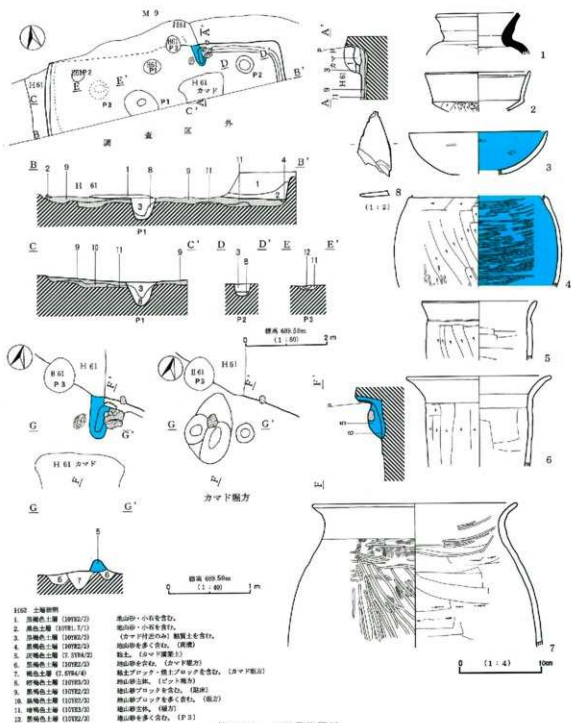
Iこ2グリットにあり、砂層中に構築される。H61・M9に切られる。H63を切る。南は調査区外である。南北は260cm調査し、東西は556cmを測る。北壁とカマドの西はH61とM9に壊されていない。カマドは北壁ほぼ中央にあり、主軸方位は北より10°東に振れる。主柱穴は北東の1本だけを検出し、径70cmを測る。壁下に厨溝が巡る。

出土遺物には須恵器、土師器、磨製石織未製品(8)がある。須恵器短頸壺(1)は厚手で口縁が直線的に外傾する。土師器杯(2)は丸底で外縁から屈曲して外傾する。全体に内湾する杯C(3)もある。土師器長胴罌(5・6)は胴部縦方向のヘラケズリがなされる。丸胴罌は口径の大きいもので外面胴部、内面口縁部にミガキが施される。

これらより、本址は古墳時代後期であろう。

第56表 H61号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	形状・調整		残存率・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	(13.6) (7.2) 4.0	内 外	ロクロナデ ロクロナデー底部回転糸切り	口縁1/6・底部1/2残存 内 5Y6/1 (灰) 外 5Y6/1 (灰)	石英・長石・黒褐色粒子を含む。	I区
2	須恵器 高台付杯	(9.2) - (1.4)	内 外	ロクロナデ ロクロナデー底部切り離し後回転ヘラケズリ・高台付	底部1/3残存 内 2.5Y6/2 (灰黄) 外 2.5Y6/2 (灰黄)	石英・長石含む。	I区
3	須恵器 杯身	- - (1.5)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	破片 内 N5/0 (灰) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石含む。 泉天井部に自然無付着。	
4	土師器 杯	(8.0) - (1.9)	内 外	ミガキ黒色処理 ロクロナデー・底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ	底部1/3残存 内 N3/0 (暗灰) 外 10YR7/3 (にぶい黄緑)	石英・長石含む。	I区
5	土師器 土製円板	4.0 3.5 1.2	内 外	土師器罌二次利用 ミガキ ミガキ	ほぼ完形 内 2.5YR6/4 (にぶい靑) 外 2.5YR5/4 (にぶい赤靑)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子を含む。	II区
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
6	編物石	14.4	6.8	5	810	安山岩 スリ面6	No.1



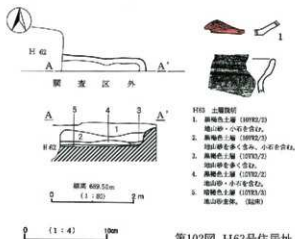
第101図 H162号住居址

7	土師器 罌	26.1 (17.6)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ→1縁ミ ガキ 外 胴部ヘラナデ(柱目)→口縁ヨコナデ→ 胴部ミガキ	口縁1/12残存 内 7.5YR6/3 (1.6以内) 外 7.5YR5/2 (5.5以内)	石英・長石含む。	カマド
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考
8	赤銅品 (磨製石鏝)	4	2.05	0.35	2.7	片岩 カマド

62) H63号住居址 (第102図、図版42・100)

Iこ2グリットにあり、砂層中に構築される。H62に切られ、単P329・331を切る。南は調査区域外であり、住居址北東域のみ調査した。

詳細は不明であるが弥生式土器片が出土している。



第102図 H63号住居址

第58表 H63号住居址出土遺物一覧表

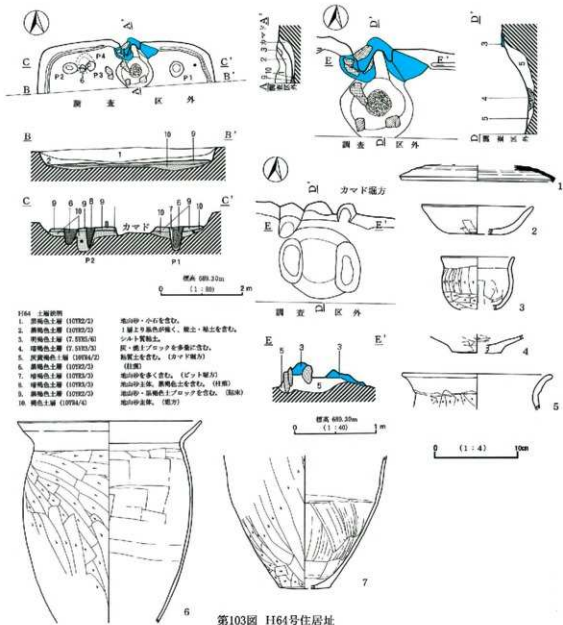
番号	器種	数量	成形・調整	残存量・色調	胎土・粒度	出土位置
1	弥生土器 罌	- (1.9)	内 ミガキ後赤色成形 外 ミガキ後赤色成形・底型ミガキ	破片 内 10RS/4 (赤褐色) 外 10RS/6 (赤)	石英・長石・赤色砂子含む。	検出

63) H64号住居址 (第103図、図版42・43・100)

Gい2グリットにあり、砂層中に構築される。F22を切る。南は調査区域外で、南北92cmを調査した。住居址の東西は388cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はほぼ北を指す。カマドは煙道部に粘土が残るものの、楯は楯先の石だけで粘土は崩壊していた。焼土が残る。主柱穴は北東と北西の隣近くに検出されている。北西は柱穴が東西に2本あり、掘方からはほぼ完形の堿が割れて出土している。壁下には周溝が巡る。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器は杯蓋(1)で端部三角形を呈す。土師器杯(2)は底部ヘラナデされる厚手のものである。土師器甕(6・7)の武蔵甕があり、口縁部形「く」の字形を呈す。

これらより、本址は奈良時代であろう。

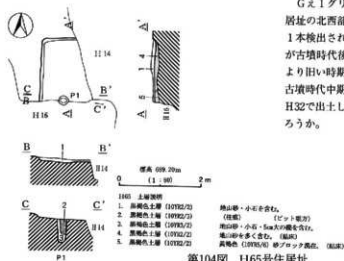


第59表 H64号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法線	成形・調整	残存量・色調	胎土・粉塵	出土位置
1	須恵器 蓋	(18.0) - (1.8)	内 ロタロナデ 外 ロタロナデ→大井部回転ヘラナズリ	口縁1/2残存 内 10Y5/1 (9X) 外 10Y5/1 (9X)	石英・長石・黒色粒子含む。	1区
2	土師器 杯	(13.6) - (3.5)	内 ココナデ 外 口縁ロコナデ→底部ヘラナデ	口縁1/16残存 内 10YR7/3 (にぶい黄褐色) 外 10YR5/2 (灰黄褐色)	※外面天井部に自然釉付着 石英・長石・黒色粒子含む。	1区

3	土師器 鉢	(9.0) - (6.5)	内 口縁ヨコナア→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナア→胴部ヘラケズリ	口縁3/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・赤褐色粒子含む。	I区 カマド
4	土師器 甕	- (5.0) (2.3)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ	底部1/4残存 内 10YR6/2 (灰黄褐) 外 10YR5/2 (灰黄褐)	石英・長石含む。	カマド
5	土師器 甕	(18.4) - (4.4)	内 口縁ヨコナア→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナア→胴部ヘラケズリ	口縁1/6残存 内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子含む。	IV区1層
6	土師器 甕	22.5 - (24.6)	内 口縁ヨコナア→胴部ヘラナデ後腹部下 半ヨコナデ 外 口縁ヨコナア→胴部ヘラケズリ	口縁完形 内 2.5YR6/4・3/2 (にぶい橙・暗赤橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	No.1 カマド 検出
7	土師器 甕	- (6.2) (16.2)	内 ヘラナデ(底目) 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 10YR5/2 (灰黄褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤橙)	石英・長石・褐色粒子含む。 ※外面にスス付着	No.2

64) H65号住居址 (第104図、図版43)



第104図 H65号住居址

Gえ1グリットにあり、H14・H16に切られ、住居址の北西部のみが残存している。北西の主柱穴が1本検出された。実測遺物はないが切っているH14が古墳時代後期であることから古墳時代後期それより古い時期の住居址である。弥生時代の土器片と古墳時代中期の暗文を施す高杯片が出土している。H32で出土した古墳中期の土器などが該当するであろうか。

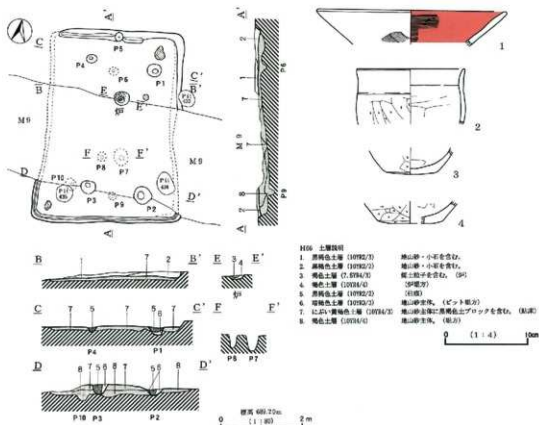
65) H66号住居址 (105図、図版43・102)

Gえ1グリットにあり、M9・単P433・434・435に切られる。南北433cm東西342cmを測る長方形を呈す。長軸方位は北より9°西に振れる。炉と思われる焼土範囲が中央より北にある。径40cm深さ8cmの円形範囲の中にわずかに焼土がみられた。柱穴は南北の壁寄りに4本検出された。弥生時代にしては明瞭なピットではない。床下から5個のピットが見つかった。

出土遺物には弥生式土器、土師器がある。弥生式土器は赤色塗彩された鉢(1)である。破片では無彩の壺胴部片、波状文の甕片もある。土師器は鉢(2)、甕底部(3・4)である。土師器は重複する、M9が掘り足りていなかったことからの混入であろう。しかし、中央をM9が横切っているため、確実なプランとはいえない。

本址の帰属する時代は弥生後期であろうか明らかではない。

本址より出土した炭化種子は、モモ核片と同定された。



第105図 H66号住居址

第60表 H66号住居址出土遺物一覧表

番号	器物	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 鉢	(23.4) - (4.3)	内 ミガキ後赤褐色形 外 口縁コナデア・胴部ヘラナダ (復目)	口縁1/8残存 内 10R4/8 (赤) 外 7.5YR6/4 (にぶい層)	石英・長石含む。	I区
2	土師器 鉢	(13.4) - (6.8)	内 口縁コナデア・胴部ヘラナダ 外 口縁コナデア・胴部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 10YR7/3 (にぶい黄褐色) 外 10YR6/3・7.5YR4/2 (にぶい黄褐色・灰褐色)	石英・赤褐色粒子含む。	II区
3	土師器 壺	(6.0) (3.2)	内 ヘラナダ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 10YR7/2 (にぶい黄褐色) 外 10YR7/3 (にぶい黄褐色)	石英・赤褐色粒子含む。 外面磨耗	II区
4	土師器 壺	(8.0) (2.8)	内 ヘラナダ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/3残存 内 5YR6/4 (にぶい黄褐色) 外 2.5YR4/1・6/4 (赤灰・ にぶい層)	石英・長石・チャート・赤色 粒子・黒色粒子含む。	灰出

66) H67号住居址 (第106~108図、図版43・44・101)

G<1グリットにあり、砂礫中に構築される。F18・M9に切られ、H36・H72を切る。南は調査区域外となり、南壁がわずかに未調査である。南北465cmを調査し、東西は566cmを測る。推定で南北500cm程であろうから東西に長い長方形を呈すようである。カマドは北壁にあり、わずかに東寄りである。主軸方位は北より5°東に振れる。カマドは袖に粘土が残り、火床部には灰・焼土があった。主柱穴が4本検出され、径48~64cm、深さ40cmのピット層方に柱痕がみられた。北東にP5が、南壁下中央に出入り口のピットであろうが深さ22cmのピットがある。床下からは焼

上・粘質土を含むD1、貼り床されたD2が検出されている。間仕切り溝が4本、壺から支柱穴まで伸びている。壺下には周溝が巡る。またカマドの竈、東壁下に18の壺が揃え置かれていた。

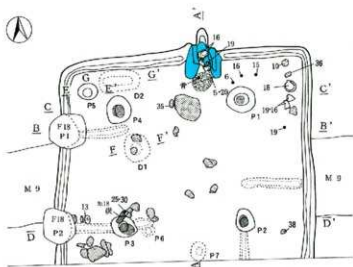
出土遺物には須恵器、土師器、石製模造品、土製丸玉(26)、剥片(27~30)、黒曜石製石鎌(31)、スリ石(32)、編物石(33・36~38)、砥石(34)(転用して編物石として使用か)、台石(35)がある。須恵器杯蓋(1・2)は外縁があいまいになるものである。TK10号窯模式(6C後半)以降にみられる器形である。土師器杯は杯蓋模倣の有段口縁杯に似る4・5、小さな底部から口縁が外反外傾する杯B(7)がある。高杯(13)の杯部は杯Cの内湾する器形に柱状の高台が付く。土師器壺は胴部ヘラズリとミガキの両者がある(14・16と15)。甗は多孔のものである。壺(17)は口縁だけであるが暗文用のミガキがある。丸胴壺はヘラズリされる18とミガキ調整の19とがある。弥生式土器片が混入する。また滑石製剣形石製模造品が3個体みられる。23は白色で、24・25は暗緑色で色調がことなり形態も異なる。また土製の丸玉もみられ屋内祭事が行われたようである。

これより本址は古墳時代後期6C後半であろう。

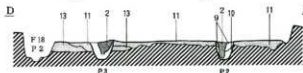
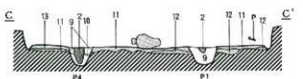
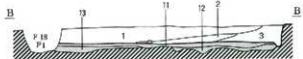
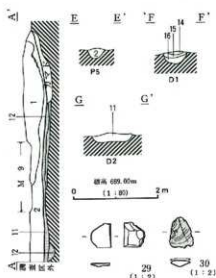
本址の炭化材No.18は、コナラ属コナラ節と樹種同定された。また、モモ核片も出土している。

第61表 H67号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	底形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 壺	(10.9) -	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/3残存 内 N5/0(灰) 外 N7/0(灰白)	石英・長石・黒色粒を含む。 ※外面自然釉付着	I区南方
2	須恵器 壺	(13.6) -	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/20残存 内 N5/0(灰) 外 N7/0(灰白)	石英・長石・黒色粒を含む。 ※内面に自然釉付着	I・II区
3	須恵器 短頸壺	(12.5) -	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/7残存 内 N6/0(灰) 外 N6/0(灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※外面磨耗	II区 Gサ2
4	土師器 杯	(12.2) (10.4) 4.1	内 みこみ部ナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラズリ	口縁1/4残存 内 5YR7/4(にぶい壺) 外 2.5YR6/6(橙)	石英・赤色粒を含む。 磨面	III区 I区南方
5	土師器 杯	(12.5) 11.5 4.7	内 みこみ部ナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラズリ	ほぼ完形 内 7.5YR7/4(にぶい壺) 外 7.5YR7/4(にぶい壺)	石英・赤褐色粒を含む。 ※磨面	No.5
6	土師器 杯	(13.6) (12.3) 4.5	内 口縁ヨコナデ・みこみ部暗文後黒色処理 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラズリ後ミガキ (→黒色処理?)	口縁1/6残存 内 5YR1.7/1(黒) 外 2.5YR4/1(赤灰)	石英・長石・赤褐色粒を含む。 No.11	II区
7	土師器 杯	(13.7) (9.8) 3.5	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ後 部ミガキ・底部ヘラズリ	口縁1/5残存 内 7.5YR5/3(にぶい壺) 外 7.5YR6/2(灰褐色)	石英・長石含む。	IV区 IV区南方
8	土師器 杯	(13.0) -	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラズリ→全体に 粗いミガキ	口縁1/2残存 内 N2/0(黒) 外 10YR7/2(にぶい壺)	石英・長石・赤褐色粒を含む。 きめ細かい。	I区
9	土師器 杯	13.2 9.9 3.9	内 口縁ミガキ・みこみ部暗文後黒色処理 外 口縁ヨコナデ→底部ヘラズリ(→黒色処理?)	変形 内 N2/0・2.5YR6/6(黒・橙) 外 N2/0・2.5YR6/6(黒・橙)	石英・長石・赤褐色粒を含む。	IV区
10	土師器 鉢	11.5 7.5 6.8	内 暗文(→黒色処理?) 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラズリ	口縁3/4残存 内 5YR4/1(赭灰) 外 2.5YR6/4(にぶい壺)	石英・長石・赤褐色粒を含む。	No.8
11	土師器 甗	(5.8) (2.7)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ	底部1/8残存 内 7.5YR6/6(橙) 外 7.5YR7/3(にぶい壺)	石英・長石・赤褐色粒を含む。 ※底部前に単孔・多孔 外面磨耗	I区
12	土師器 小型丸底	(9.6) (2.9)	内 ヘラナデ(柱目) 外 ヨコナデ後部分的にヘラナデ	底部1/8残存 内 10YR6/2(灰黄褐) 外 10YR8/3(淡黄褐)	石英・長石含む。粒子が細かい。	I区
13	土師器 高杯	(11.6) 13.8	内 杯部 ミガキ後黒色処理 脚部 脚部ヨコナデ→胴柱部ヘラズリ 外 杯部 胴部ヘラズリ→口縁ヨコナデ後 ミガキ 脚部 脚部ヨコナデ→胴柱部ヘラズリ 後ミガキ	口縁3/4・胴部1/8残存 内 杯部 N2/0(黒) 脚部 N4/0・7.5YR6/4 (灰・にぶい壺) 外 5YR7/4(にぶい壺)	石英・長石・赤褐色粒を含む。 ※外面磨耗	No.15 I区 カマド
14	土師器 壺	15.6 (5.2) (19.6)	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラズリ (柱目) 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラズリ・底部ヘ ラズリ	口縁はほぼ完形 内 7.5YR6/2(灰褐色) 外 2.5YR7/4(淡赤褐色)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※外面滑潤著しい。	III区 No.17
15	土師器 壺	(16.7) -	内 胴部ヘラズリ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラズリ・ミガキ	口縁1/8残存 内 5YR7/3(にぶい壺) 外 2.5YR7/4(淡赤褐色)	石英・長石・赤褐色粒・黒色 粒を含む。	No.9 I・II・IV区 カマド



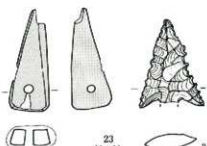
調査区外



167 土層説明

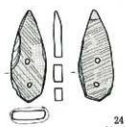
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)
- 4.
5. 灰褐色土層 (7.5YR5/2)
6. 褐色土層 (7.5YR4/2)
7. 暗褐色土層 (7.5YR3/2)
8. 赤色土層 (2.5YR1, 2/2)
9. 赤色土層 (2.5YR1, 1/2)
10. 黒褐色土層 (7.5YR3/1)
11. 黒褐色土層 (10YR2/2)
12. 暗褐色土層 (10YR3/4)
13. 暗褐色土層 (10YR3/2)
14. 暗褐色土層 (7.5YR3/2)
15. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
16. 赤い黄褐色土層 (10YR4/2)

- 堆山砂・小石を含む。
- 1層より黒色層、(柱状)
- 堆山砂・小石を多く含む。
- 灰・黄土層
- 粘土層、(カマド構築土)
- 砂層、(カマド礎石)
- 粘土ブロック・粘土層、(カマド組立)
- (カマド礎石)
- 堆山砂ブロックを含む、(ピット構築)
- 堆山砂を含む、(ピット構築)
- 黒褐色土ブロックに堆山砂を含む、(坑溝)
- 堆山砂主体に黒褐色土ブロックを含む、(堀方)
- 堆山砂を多く含む、(堀方)
- 砂・粘土ブロックを含む、(D1)
- 粘質土、少し透ける、(D1)
- 砂、(D1)

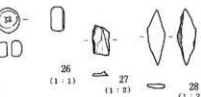


23 (1:1)

31



24 (1:1)



26 (1:1)

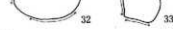
27 (1:2)

28 (1:2)



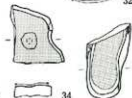
29

30



32

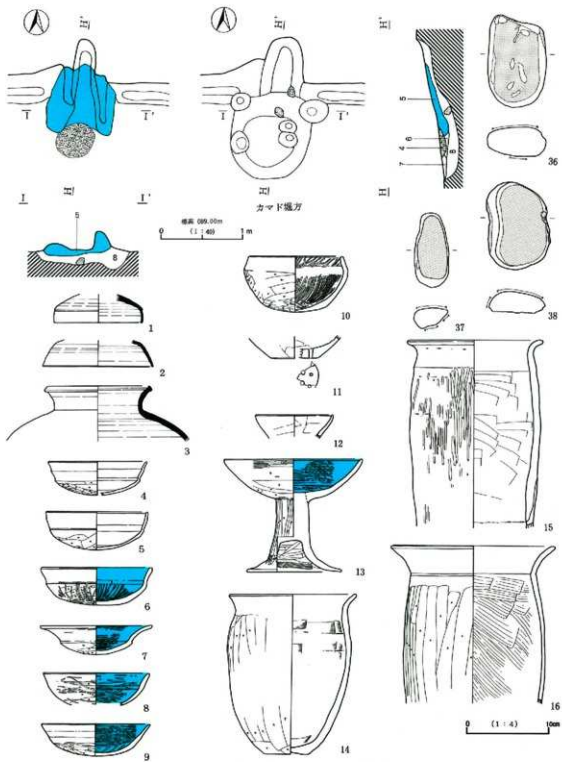
33



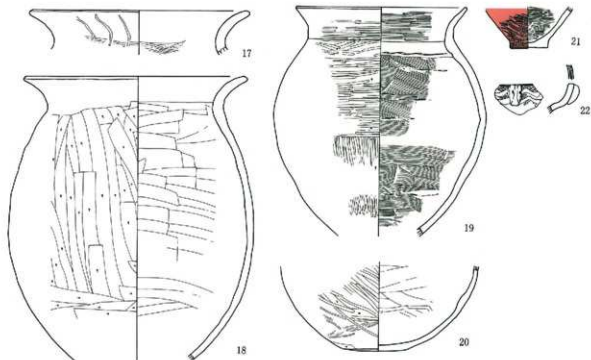
34

35 (1:8)

第106図 H67号住居址 (1)



第107図 H67号住居址(2)



第108図 H167号住居址(3)

0 (1:4) 10cm

16	土師器 壺	(20.2 - (19.2))	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ(縦目) 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む	No.1-4 No.7 No.10 No.12 Ⅰ・Ⅱ区	
17	土師器 壺	(25.5 - (5.1))	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ(縦目) 外 胴部ヘラナデ(縦目)→口縁ヨコナデ後 横文	口縁1/8残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 5YR7/6 (橙)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色 色粒子含む。	Ⅱ区	
18	土師器 壺	(25.8 - (32.7))	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/3残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4・5YR5/1 (にぶい橙・黒灰)	石英・長石・褐色粒子含む。	No.7	
19	土師器 壺	(19.8 - (26.5))	内 口縁ヨコナデ後ミガキ・胴部ハケナデ (縦目) 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ後ミガキ	口縁1/8残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・チャート・赤褐色 色粒子・黒色粒子含む。	No.6 No.12 No.13 Ⅱ区	
20	土師器 壺	- 7.4 (10.3)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ後ミガキ・底部ヘラケズリ	底部完整 内 7.5YR6/2 (灰濁) 外 2.5YR7/4 (淡赤橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む	No.5 Ⅱ区	
21	弥生土師 鉢	- (4.5 (4.7))	内 ミガキ 外 ミガキ後赤色塗彩	底部1/2残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	Ⅲ区	
22	弥生土師 壺	- - -	内 ミガキ 外 ヘラナデ(縦目) 文 口唇部 縦文 口唇部 横文を施文とし二条のへう横文 状文飾す。さらに胎付文あり。	破片 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	Ⅲ区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
23	石製模造品 (銅形)	3	1.2	0.5	3.0	滑石	I区
24	石製模造品 (銅形)	2.7	1	0.25	1.3	滑石	I区南方
25	石製模造品 (銅形)	3.9	1.7	0.4	4.6	滑石	No.16
26	丸玉	0.7	0.75	0.35	0.3	土製	

27	洞片	1.75	1	0.25	0.5	片岩?	Ⅲ区2層
28	洞片	3.3	1.1	0.25	0.8	片岩?	Ⅲ区2層
29	洞片	1.5	1.2	0.2	0.5	片岩	Ⅲ区2層
30	洞片	1.8	1.4	0.4	0.9	黒曜石	No.16
31	石鏡	2.6	1.85	0.45	1.3	黒曜石	検出面
32	スリ石	7.5	7.8	5.2	420	安山岩	Ⅲ区掘方
33	礫物石	10.5	5.4	4.0	310	チャート スリ面3	Ⅳ区
34	砥石	<7.0>	<6.1>	1.3	(80)	砂岩	
35	台石	<17.6>	11.0	10.0	<2,640>	安山岩 スリ面4	No.20
36	礫物石	11.3	7.2	3.6	430	安山岩	No.19
37	礫物石	9.2	4.2	2.6	150	安山岩 スリ面3	Ⅳ区
38	礫物石	10.8	7.9	2.7	270	安山岩	No.21

67) H68号住居址 (第109岡、図版45・102)

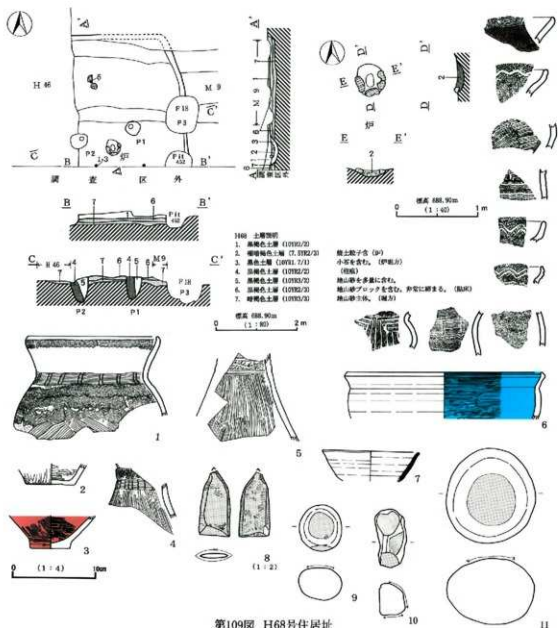
Eあ2グリットにあり、砂層中に構築する。H46・M9・F18・単P452に切られ、M6を切る。南側は調査区域外である。南北310cmを調査し、西はH46に切られ、東西249cmが残っていた。築残高が最大でも9cmと浅く重複が多いため、北壁はプランが明確ではない。軸方位は北を指す。北列の主柱穴とその間より、少し南にかが検出された。柱穴は堀方、柱痕とも明確良好であった。今は東西36cm南北40cm深さ8cmの円形に窪められ、コの字に河床礫を並べている。堀内には焼土粒子がみられた。

出土遺物には弥生式土器と混入したであろう土師器鉢(6)・須恵器杯(7)がある。磨製石鏡(8)、スリ石(9~11)もある。弥生式土器(1)は唇縁横線で、口縁部上端に一条の波状文、頸部に簾状文、胴上部に波状文、胴中位に斜交文を施す。5・6の壺形土器は無形で、頸部にヘラ掃流線と施して施文するもので、1の壺より前代の弥生中期のものであろう。

本址は弥生時代後期前期の住居址であろう。

第62表 H68号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	弥生土器 壺	16.5 - <12.6>	内外 ミガキ 1線ヨコナテ・胴部ヘラナテ(板目) 1線部 唇縁波状文 頸部 9本1組とする唇縁波状文(2連止め) 胴上部 9本1組とする唇縁波状文 胴中央部 9本1組とする唇縁斜交文	口縁完形 内 5YR6/3 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子含む。	No.1	
2	弥生土器 壺	6.0 - <2.5>	内外 ミガキ 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部2/3残存 内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/3・5YR5/1 (にぶい橙・褐灰)	石英・長石・赤褐色粒子含む。		
3	弥生土器 鉢	4.9 - <4.0>	内外 ミガキ後赤色塗彩 外部部ミガキ後赤色塗彩・底部ヘラナテ	底部完形 内 10R5/6 (赤) 外 10R5/6 (赤)	石英・長石・褐色粒を含む。	No.1	
4	弥生土器 蓋	- - -	内外 ヨコナテ ミガキ 文 頸部 縄文を地文とし7本1組とする唇縁波状文を施す。	破片 内 2.5Y8/2 (灰白) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	検出	
5	弥生土器 壺	- -	内外 磨耗のため判別できない。 ミガキ 文 頸部 縄文を地文としヘラ掃流線を施し2条のヘラ掃流線平行線文で区切る。	破片 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR6/2 (灰褐)	石英・長石・褐色粒を含む。 きめ細かい。 赤内面磨耗	No.3 M6検出 M9 Eあ2	
6	土師器 鉢	<21.8> - <5.7>	内外 ミガキ後黒色処理 ロクロナテ	口縁1/8残存 内 N2/0 (黒) 外 10YR6/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・褐色粒子含む。	検出	
7	須恵器 杯	<12.0> - <3.7>	内外 ロクロナテ ロクロナテ	1線1/4残存 内 2.5Y5/2 (黄灰黄) 外 10YR5/4・5Y5/1 (にぶい橙・灰)	石英・長石・褐色粒子含む。	検出 未選入品	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
8	磨製石鏡	4	1.85	0.3	3.1	片岩	P 1
9	スリ石	5.6	3.2	4	150	安山岩	
10	スリ石	7.1	3.9	3.9	120.0	黒曜石	Ⅲ区
11	スリ石	11.5	10.9	8.1	1,420	安山岩	Ⅲ区



第109図 H68号住居址

68) H69号住居址 (第110~112図、図版45・46・102・103)

Eお1グリットにあり、砂層中に構築する。通路に当たり北西と東の2回に分けて調査している。図上であわせている。H70を切る。また南、西は調査区域外である。南北476cm、東西485cmの方形を呈する。焼失家屋で炭化材が壁から中央に向かって低く落ち込んでいた。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は11°北より西に振れる。カマドは粘土で袖を構築し、袖先には壘形土器を立っている。またカマドの狭き口の框にも土器を重ねている。カマドが崩壊していたので土器が散乱状態であった。主柱穴は東側の2本を検出し、西側は調査区外である。P1・P2は径48・64

cm深さ44・72cmの円形ピット掘方が検出された。柱痕は見つかっていない。北東に径64cm深さ60cmのピットがある。壁下には周溝が巡っている。

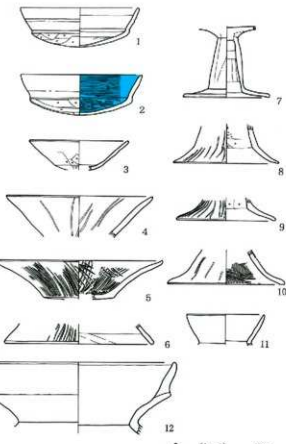
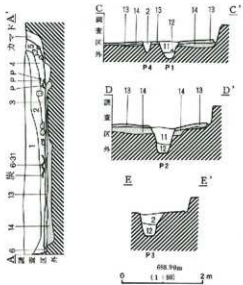
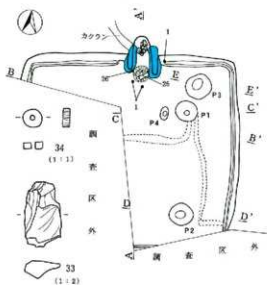
出土遺物には土師器、滑石剥片(33)、口玉(34)、スリ石(36)、台石(36)、半銭(37)がある。土師器杯(1・2)は、比較的浅い丸底部から外縁を持って屈曲し、口縁が外傾する。高杯4～10(7をのぞく)は外面に簡略な暗文を施している。5・7・9・10はカマドの袖材として使用される。土師器長胴甕は袖先に26と27、カマドの框として重ねられて利用された13・29がある。長胴甕は胴部外面が縦方向のヘラケズリ、内面に胚目残したヘラナデ調整である。I径と胴部最大径がほぼ同じである。16の鉢、17の甕も同じ調整がなされ、同一に作られたであろう。28の長胴甕は口縁部径が最大で、内面も縦方向のヘラナデがなされる。31の丸胴甕は内外ミガキ調整される。

これらより本址は古墳時代後期6c後半であろう。

本址の炭化材は、コナラ属コナラ節と樹種同定された。屋根材がコナラ節によって造られていたようだ。

第63表 H69号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	14.5 11.9 4.8	内 みこみ部ヘラナデ・I径ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	完形 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子含む。微塵。	No.19 No.20 No.22・No.24
2	土師器杯	14.8 6.5 4.9	内 ミガキ後黒色処理 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	I径1/4残存・底部I径完形 内 10YR4/1 (暗灰) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・3mmの黒色粒子含む。	No.12
3	土師器高杯	(12.2) -	内 ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・底部から口縁ヘラケズリ	口縁1/8残存 内 5YR7/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・角閃石・黒色粒子・赤色粒子含む。	IV区
4	土師器高杯	(18.0) -	内 ミガキ後暗文 外 ミガキ後暗文	口縁1/7残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	I区堀方検出
5	土師器高杯	(20.6) -	内 ヨコナデ後暗文 外 ヨコナデ後暗文	口縁1/4残存 内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒褐色粒子含む。	No.7 I・IV区 カマド
6	土師器高杯	(18.2) (2.4)	内 胴部ヘラナデ後ヨコナデ 外 ヨコナデ	底部1/8残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒褐色粒子・赤褐色粒子含む。	No.13 IV区
7	土師器高杯	(10.6) (8.7)	内 ヘラナデ・ヨコナデ 外 脚柱部ヘラナデ・胴部ヨコナデ	底部1/4残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.7 I・IV区 カマド
8	土師器高杯	(13.0) (4.8)	内 脚柱部ヨコナデ・脚柱部ヘラケズリ 外 ヨコナデ後暗文	底部1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。	I区
9	土師器高杯	(12.2) (2.8)	内 脚柱部ヘラケズリ・胴部ヨコナデ 外 ヨコナデ後暗文	底部1/2残存 内 10YR7/4 (にぶい橙) 外 10YR6/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.7 カマド
10	土師器高杯	(14.4) (4.2)	内 ヘラナデ(胚目) 外 ヨコナデ後暗文	底部1/8残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.7
11	土師器小型丸底	(9.6) -	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 ヨコナデ	口縁1/2残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	I・IV区
12	土師器有段口縁蓋	(24.0) -	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	破片 内 10YR7/4 (にぶい橙) 外 10YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子含む。	I・IV区
13	土師器甕	18.1 6.1 27.8	内 口縁ヨコナデ・胴部から底部ヘラナデ(胚目) 外 胴部ヘラケズリ・底部ナデ・口縁ヨコナデ	完形 内 5YR6/2 (灰黒) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・チャート含む。 底底面木炭痕あり。	No.1 No.4 カマド
14	土師器甕	11.1 (11.3)	内 ヘラナデ(胚目) 外 胴部ヘラナデ・底部ヘラナデ	底部完形 内 10YR8/2・7/3 (灰白・にぶい黄橙) 外 10R6/4 (にぶい赤橙)	石英・長石・黒褐色粒子・赤褐色粒子含む。 ※外面地肌	No.27 I区 I区2層 IV区
15	土師器甕	(9.6) (11.2)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部2/3残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子含む。	No.28

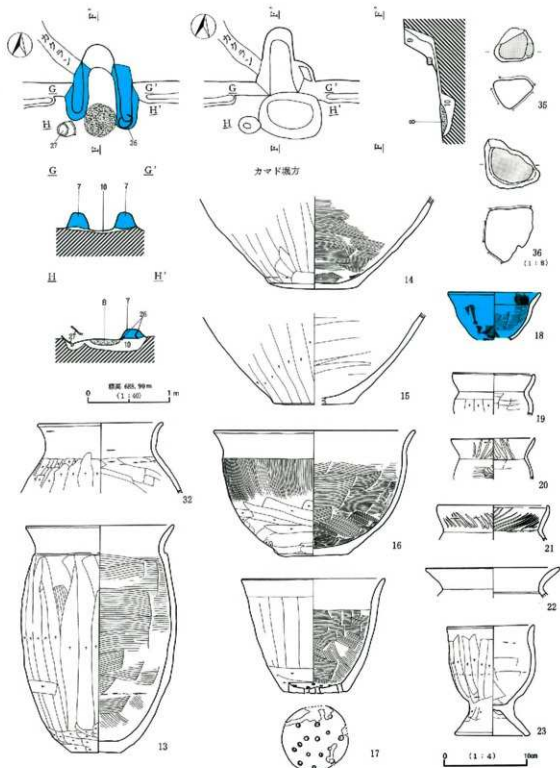


H69 土層説明

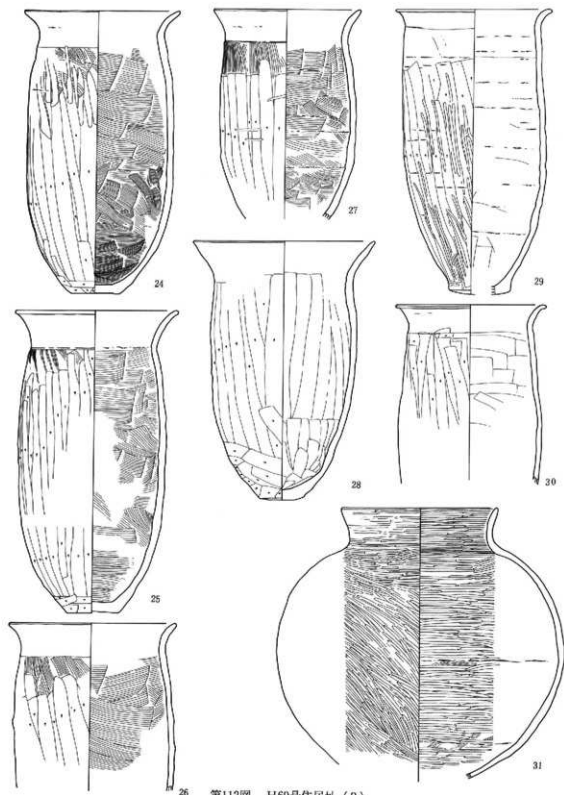
1. 黒褐色土層 (H102/2)
2. 黒褐色土層 (H102/2)
3. 黒褐色土層 (H102/2)
4. 黒褐色土層 (C. 5102/2)
5. 暗赤褐色土層 (S103/2)
6. 黒褐色土層 (H102/2)
7. 暗赤褐色土層 (S103/2)
8. 暗赤褐色土層 (S103/2)
9. 黒褐色土層 (S103/2)
10. 黒褐色土層 (H102/2)
11. 黒褐色土層 (H102/2)
12. 黒褐色土層 (H102/2)
13. 黒褐色土層 (H102/2)
14. 暗赤褐色土層 (H103/2)

- 地山砂・小石を含む、砂質。
 地山砂・小石を含む。
 地山砂を多く含む。
 粘土・粘土粒子を多く含む。(カマド跡層)
 粘土ブロックを多量に含む。(カマド跡層)
 (埋土)
 粘土。(カマド跡層)
 粘土。
 粘土粒子を多く含む。(カマド跡層)
 粘土粒子を多く含む。(カマド跡層)
 地山砂・小石を含む。(ピット層土)
 地山砂・バミスを多く含む。(ピット層土)
 地山砂ブロックを含む。硬まわりあり。(埋土)
 地山砂を多量に黒褐色土ブロックを含む。(埋土)

第110図 H69号住居址(1)



第111図 H69号住居址 (2)



第112图 H69号住居址(3)

69) H70号住居址 (第113図、図版47・105)

E 2グリットにあり、砂層中に構築する。H69・H71に切られる。南は調査区域外である。南北は288cm調査でき、東西残長は266cmである。カマドと北列の支柱穴を検出できた。主軸方位は北より4°西に振れる。カマドは袖の芯に石材を入れ、粘土を貼っている。北西の支柱穴はH69に切られるが掘方で残存し、床より深さは80cmほどを測る。両切り溝が壁よりP1まで伸びる。壁下には周溝が巡っている。

出土遺物には土師器、土製円板(6)、弥生式土器、編物石(7・9・11)、スリ石(7・10)がある。土師器は鉢と甕があり、鉢は内面ミガキ調整、外面ヘラズリである。3は丸胴を呈する甕または壺で、外面ミガキ調整される。これらより、本址は古墳時代後期、H69に切られることから、6C前半の住居であろうか。

第64表 H70号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	土師器 鉢	(14.8) - (6.9)	内 胴部ナデ・口縁ヨコナデ→ミガキ 外 胴部ナデとヘラズリ・口縁ヨコナデ・ミガキ	口縁1/11残存 内 7.5YR7/4 (にぶい壺) 外 7.5YR6/4 (にぶい壺)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子含む。	I区	
2	土師器 鉢	7.9 (10.3)	内 ヘラナデ(鉢付) 後ミガキ後黒色処理 外 胴部ヘラズリ・底部ヘラズリ	底部ほぼ成形 内 N4/0 (灰) 外 5YR7/2 (明燧灰)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.3 II区1層	
3	土師器 壺	- (19.5)	内 口縁ヨコナデ後ミガキ・胴部ヘラナデ 外 胴部ヘラズリ→口縁ヨコナデ→ミガキ	破片 内 7.5YR5/1・7/3 (燧灰・にぶい壺) 外 7.5YR7/4 (にぶい壺)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子・チャート含む。	No.2 I区 IV区1層	
4	土師器 壺	- (5.0) (3.6)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラナデ・底部と底部外側ヘラズリ	底部1/4残存 内 7.5YR6/4 (にぶい壺) 外 7.5YR5/2 (灰燧)	石英・長石・黒色粒子含む。	II区1層	
5	弥生土器 壺	- (6.6) (2.7)	内 ミガキ 外 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部1/4残存 内 10YR7/3 (にぶい甕) 外 10YR7/3 (にぶい甕)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	検出	
6	土師器 土製円板	4.5 4.4 1.0	内 ミガキ後黒色処理 外 ヘラズリ後ミガキ	完形 内 10YR6/2・3/1 (灰黄褐色・黒燧) 外 7.5YR6/3 (にぶい壺)	石英・長石・チャート含む。 二次利用	検出	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
7	スリ石	11.5	7.0	3.8	130	軽石 全体にスリ面あり。	III区
8	編物石	10.5	4.7	2.5	140	安山岩 全体にスリ面あり。	No.1
9	編物石	9.7	5.0	4.5	140	滑結凝灰岩 全体にスリ面あり。	カマド
10	スリ石	(6.0)	4.6	4.7	<100>	珪礫石	III区
11	編物石	8.0	6.0	3.7	290	安山岩 スリ面4	カマド

70) H71号住居址 (第113図、図版47・104)

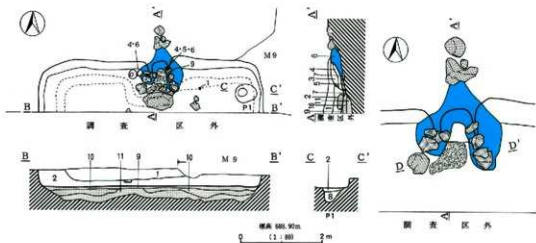
E 2グリットにあり、砂層中に構築する。M9に切られ、H46・H70を切る。南は調査区域外である。南北の調査域は108cm、住居址の東西は534cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は北より7°西に振れる。カマドは袖芯に石を入れ、粘土を貼っている。煙道の先に礎が残る。北東隅に径52cm深さ32cmを測る円形ピットがある。

出土遺物には土師器杯(1~3)、土師器小型壺(4~6)、土師器甕(7・8)、編物石(9)がある。1の杯は丸底から屈曲して口縁が立ち上がる。2の杯はわずかな屈曲で口縁が外傾する。3は浅い底部から段を持って口縁が長く伸びている。小型壺は胴部がヘラズリされている。

これらより、本址は古墳時代後期6C後半であろう。

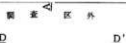
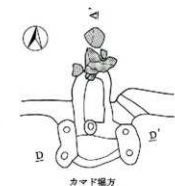
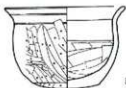
第65表 H71号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(14.0) 12.6 5.1	内 みこみ部ナデ・口縁ヨコナデ→ミガキ 後黒色処理 外 底部ヘラズリ→口縁ヨコナデ	口縁1/2残存 内 7.5YR3/1・7/3 (黒燧・にぶい壺) 外 7.5YR7/4 (にぶい壺)	石英・長石・赤褐色粒子を含む。 きめ細かい。	No.2 I区 I区掘方
2	土師器 杯	(12.8) (11.0) 4.5	内 みこみ部ナデ・口縁ヨコナデ→ミガキ 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラズリ後ミガキ	1/2残存 内 2.5YR7/6 (燧) 外 5YR6/6 (燧)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子・チャート含む。	P1



H71 土層説明

- | | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| 1. 黒褐色土層 (10732/3) | 粘質土・地山砂・小石を含む。 |
| 2. 黒褐色土層 (10732/2) | 地山砂・小石を含む。 |
| 3. 灰褐色土層 (10734/2) | 粘土多量に含む。(カマド跡層) |
| 4. 灰褐色土層 (7.1032/0) | 粘土粘平を含む。 |
| 5. 灰褐色土層 (10734/0) | 粘土。 |
| 6. 灰褐色土層 (10734/2) | 粘質土。(カマド痕跡土) |
| 7. 暗褐色土層 (10733/3) | (カマド痕跡) |
| 8. 江戸・寛政色土層 (10735/0) | 黒褐色土層 (10732/2) ブロック高化。(P1) |
| 9. 黒褐色土層 (10732/2) | 黒褐色 (10735/0) 地山砂混在土層。非常によく締まる。(粘質) |
| 10. 黒褐色土層 (10732/2) | 地山砂ブロックを含む。(粘質) |
| 11. 粘土土層 (10734/5) | 地山砂ブロックに10732/2土ブロックを含む。(粘力) |



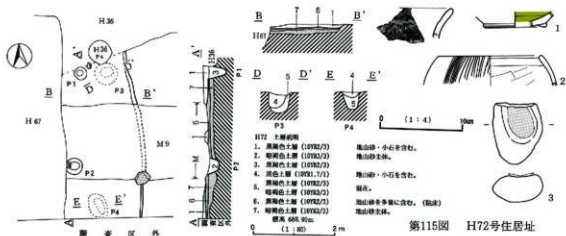
第114図 H71号住居址

3	土師器 杯	(14.6) 11.2 4.9	内 口縁ヨコナデ・みこみ型ミガキ 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	口縁3/4残存 内 7.5YR7/2 (明褐色) 外 7.5YR5/2 (灰褐)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 ホムド 粒子きめ細かい。		
4	土師器 小型壺	(13.2) — (10.3)	内 胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR4/1-6/6(赤灰・橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.1 No.4 ホムド	
5	土師器 小型壺	(14.8) 8.2 9.9	内 胴部から底部ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	口縁2/3残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 2.5YR7/4・5/2 (淡赤橙・灰赤)	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子含む。	No.4 I区 IV区2層	
6	土師器 小型壺	(14.7) 6.3 7.5	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナデ 後一部ミガキ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリとヘラナデ・底部ナデ	口縁1/3残存・底部完形 内 5YR7/3・5/2 (にぶい橙・灰褐) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.1 No.4	
7	土師器 壺	(17.0) — (3.1)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁1/8残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。	IV区1層	
8	土師器 壺	(20.2) — (5.1)	内 口縁ヨコナデ 外 胴部ヘラナデ(径目)→口縁ヨコナデ	口縁1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子含む。 粒子きめ細かい。	I区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
9	編物石	9.5	5.3	2.9	240	砂岩 スリ面3	No.3

71) H72号住居址 (第115図、図版48・105)

Gく2グリットにあり、H36・H67・M9に切られる。南は調査区外である。北はH36に切れ、南北404cm残存し、西をH67に切られ東西185cm残存する。中央をM9に切られる。壁高は0-11cmと浅い。P1とP2を検出し、堀方でP3・P4を検出した。火所は見つかっていない。重複が激しく浅いことなどから住居址プランは明確につかていない。

出土遺物には灰軸陶器壺底部(1)、土師器無頸壺ないし瓶(2)、編物石(3)、拓本に示した弥生式土器片がある。本址は古墳時代後期のH67に切られることから1の灰軸陶器は混入品であろう。暗文を施す2は古墳時代の中期のものであり、この期以前弥生後期までが該期であるが詳細はわからない。



第66表 H72号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	灰軸陶器 壺	— (7.0) (1.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り離し→高合配付			底部1/8残存 内 5YR/1 (灰白) 外 2.5YR/2 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	II区
2	土師器 鉢	(12.6) — (3.7)	内 ヘラナデ 外 暗文			底部1/8残存 内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	P3
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置	
3	編物石	(7.5)	6.1	3.2	(200)	安山岩		

72) H73号住居址 (第116・117回、図版48・49・104)

Bえ9グリットにあり、D35・単P351に切れ、H76を切る。南北400cm、東西447cmを測り、東西にいくらか長い長方形を呈す。カマドは北壁の東寄りにあり、主軸方位は北より3°東に振れる。カマドの西袖はD35に續されてない。袖先に石を置いて、粘土で構築している。主柱穴は4本あり、径50～70cmのピット掘方でP2は96cmも掘り込んでいる。南壁中央にP6出入り口ピットがあり、北東の隅P5の脇に丸胴甕を器台に再利用した丸胴甕(10)が置かれている。丸胴甕8・10は床に据え置かれ台として使用され口縁内側がすり減っていた。墩下には周溝が巡る。

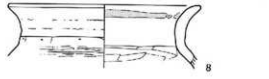
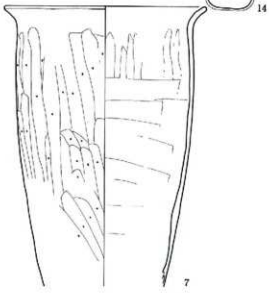
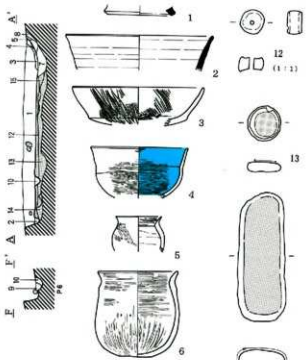
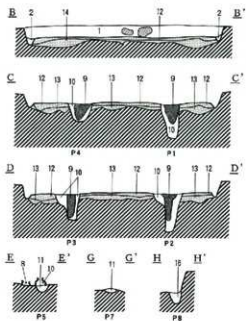
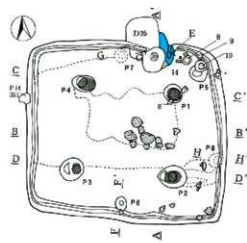
出土遺物には須恵器、土師器、土製丸玉(12)、石鐘?(13)、礫物石(14)がある。須恵器は小片で混入品であろう。土師器高杯(3)は須恵器杯蓋模倣杯の杯で暗文をもつ。4は鉢形の小型丸底であろうかミガキ調整が丁寧になされる。甕または瓶(7)は長胴で、外面縦のヘラケズリがなされる。9の台付甕は把手付きで外面はヘラナアされる。丸胴甕(8)は胴部外面だけがミガキ調整される。丸胴甕(10)は胴部外面が縦方向、内面が口縁胴部ともに横方向のミガキが施される。

これらより、本址は古墳時代後期6C後半であろうか。

10の丸胴甕内より出土した炭化材は、広葉樹であることが同定された。

第67表 H73号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	図録	成形・調整	残存量・色調	胎土・器量	出土位置	
1	須恵器 高台付杯	- (8.8) (1.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	高台1/5残存 内 5B4/1 (暗赤灰) 外 5B5/1 (青灰)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 きめ細かい。	カマド	
2	須恵器 盤	(18.2) - (4.3)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/12残存 内 5E5/1 (赤灰) 外 5F4/1 (暗赤灰)	石英・長石含む。	IV区	
3	土師器 高杯	(5.2) (12.0) (4.6)	内 暗文 外 暗文	口縁1/8残存 内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	IV区 カマド	
4	土師器 鉢形小型丸底	(12.0) (10.6) (6.2)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁一部残存 内 N2/0 (黒) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子含む。	IV区	
5	土師器 甕 (ヒココナデ)	(5.6) - (4.3)	内 口縁ミガキ・胴部ヘラナア 外 口縁ヨコナデ・胴部ナデ→ミガキ	口縁1/8残存 内 2.5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	III区 カマド	
6	土師器 鉢	(9.6) - 10.5	内 ミガキ 外 ミガキ	ほぼ定形 内 7.5YR7/4・4/1 (にぶい橙、薄灰) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	No.5	
7	土師器 甕	(24.6) - (34.3)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナア 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/2残存 内 5YR5/3 (にぶい赤紫) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。 きめ細かい。	I・IV区	
8	土師器 甕	(23.6) - (7.7)	内 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナア 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ後ミガキ	口縁3/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 ※器台として再利用し、口縁 内縁輪状にすり減る。	No.3	
9	土師器 台付甕 (把手付)	13.1 9.7 17.0	内 口縁ヨコナデ→胴部から底部ヘラナア、 台部ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・台部ヨコナデ→胴部ヘラ ケズリ・把手ヘラナア	口縁定形・底部定形 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 きめ細かい。	No.2 I区	
10	土師器 甕	(10.7) - (25.9)	内 口縁ヨコナデ後ミガキ→胴部ヘラナア 後ミガキ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ後ミガキ	口縁一部残存 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。 ※口縁部に再利用のための割 れをすっている。	No.1 検出	
11	土師器 甕	(18.6) - (1.6)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	口縁1/12残存 内 2.5YR6/6 (黒) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	I区	
番号	器種	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
12	土製丸玉	0.7	0.75	0.5	0.3		
13	石製鐘?	4.5	4.2	1.2	20.0	安山岩	
14	礫物石	15.7	6.0	3.2	520.0	行坂河路あり。全体スリ面	No.6

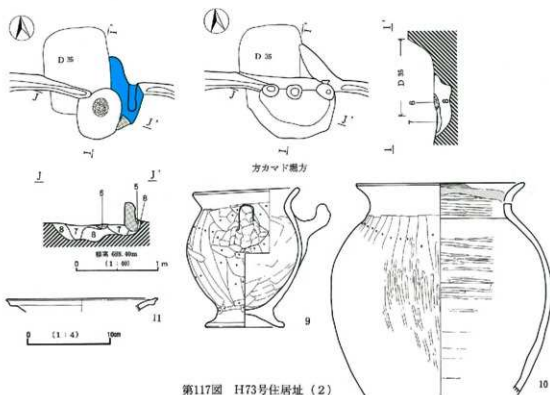


- H73 土層説明
1. 黒褐色土層 (10932/2)
 2. 黒褐色土層 (10932/2)
 3. 黒褐色土層 (7.5932/2)
 4. 濃い赤褐色土層 (1094/4)
 5. 暗赤褐色土層 (10932/2)
 6. 暗褐色土層 (7.5932/4)
 7. 暗褐色土層 (10932/2)
 8. 黒褐色土層 (10932/2)
 9. 黒褐色土層 (10932/2)
 10. 黒褐色土層 (10932/2)
 11. 黒褐色土層 (10932/2)
 12. 赤褐色土層 (10932/2)
 13. 赤褐色土層 (10932/2)
 14. 赤褐色土層 (10932/2)
 15. 赤褐色土層 (10932.7/1)
 16. 暗褐色土層 (10932/2)

- 小石・パリス多量含む。焼山砂を含む。
 焼山砂を含む。(黒澤)
 焼土・粘土・灰を多量に含む。
 焼土ブロック・灰を含む。
 粘土。(コマド焼土)
 焼土・灰層。
 (コマド焼土)
 焼山砂を多く含む。(コマド焼土)
 (灰層)
 焼山砂ブロックを含む。(ジツノ焼土)
 焼山砂を含む。(アヒ・P7)
 パリス・焼山砂を含む。焼山砂あり。(黒澤)
 焼褐色土ブロック・焼山砂ブロック含む。(黒澤)
 (灰層)
 焼山砂を多量に含む。(P8)

第116図 H73号住居址 (1)





第117図 H73号住居址 (2)

73) H74号住居址 (第118図、図版49・105)

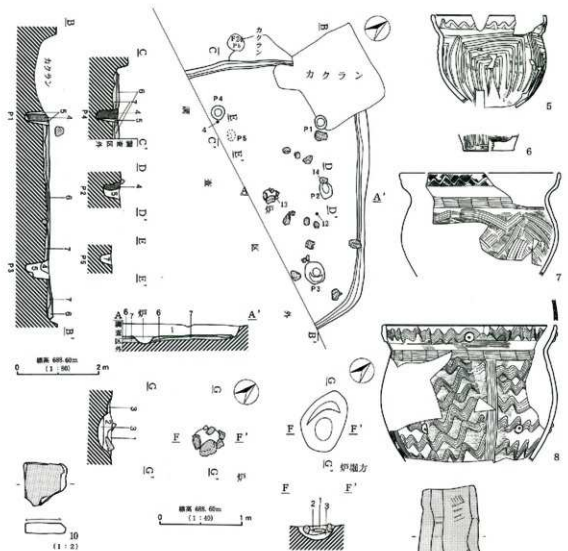
Eけ1グリットにあり、砂層中に構築する。南側が調査区外で、住居址北側を調査できた。攪乱が北東に入り一部壊している。南北340cmを調査し、東西規模は648cmを測る。軸方位は北より34°東に振れる。主柱穴は3本を検出し、棟持ち柱P4が北の中央にある。炉は中央にあり、小石で長径50cmを楕円に囲み、4cmほどの深みにわずかな焼け込みがみられた。壁下は周溝が囲む。

出土遺物には弥生式土器、砥石(9)、礮物石(12)、スリ石(13)、門石(14)等がある。弥生式土器は赤色塗彩の杯(1)、無彩の壺(2)、亮彩土器(5~8)は、「コ」字重ね文、櫛歯の縦羽状文、櫛歯波状文を施している。

これらより本址は弥生時代中期であろう。

第68表 H74号住居址出土遺物一覧表

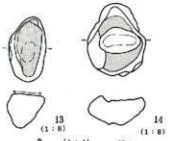
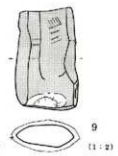
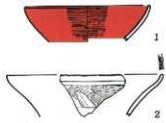
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 杯	(15.0) - (4.3)	内 ミガキ後赤色塗彩 外 ミガキ後赤色塗彩	口縁2/8残存 内 10R5/6 (赤) 外 10R5/6 (赤)	石英含む。きめ細かい。 ※外周磨耗している。	I区1層
2	弥生土器 壺	(19.0) - (5.1)	内 ミガキ 外 ヘラナデ後口辺部と頸部ヨコナデ 文 口唇部 縦文	口縁1/8残存 内 7.5YR7/3・4/1 (浅黄褐色・雜灰) 外 7.5YR7/3・6/2 (浅黄褐色・灰褐色)	石英・長石含む。 ※赤色塗料がわずかに認められる。口唇部磨滅	I区1層
3	弥生土器 台付甕	- - (3.8)	内 杯部 ミガキ後黒色処理 胴部 ヘラナデ (産目) 外 ミガキ	破片 内 10YR5/1・5YR7/4 (靑灰・にぶい腔) 外 10YR7/3 (にぶい黄腔)	石英・長石・黒色粒子含む。	検出
4	土師器 台付甕	- R2 (4.8)	内 杯部 ミガキ 台部 ヘラナデ 外 ミガキ	底縁1/2残存 内 5YR6/4 (にぶい腔) 外 5YR7/4 (にぶい腔)	石英・長石・褐色粒子含む。 きめ細かい。	No.1



H74 土器説明

1. 赤褐色土層 (S9K2/2)
2. 赤褐色土層 (S. 5YR2/2)
3. 赤褐色土層 (S7R5/4)
4. 赤褐色土層 (S2Y3/2)
5. 赤褐色土層 (S2Y3/2)
6. 赤褐色土層 (S2Y2/2)
7. 褐色土層 (S8Y4/4)

地山印・小石を散ら、
 いくらか平張れる。
 (地山層付込部)
 (地山)
 地山砂主体、(ピット層方)
 赤褐色土ブロック・S8Y5/地山印強化、よく平張る。(地山)
 地山砂主体、(地山方)



第118図 H74号住居址

0 (1:4) 10m

5	赤生土器 壺	14.2 - (11.3)	内 外	ミガキ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ後一部ミガキ 文 口縁ヘラ描山形文 胴部ヘラ描「コ」の字文	口縁1/2残存 内 7.5YR6/3 (にぶい輪) 外 5YR6/3 (にぶい輪)	石英・長石・黒色粒子含む。 きめ細かい。	IV区
6	赤生土器 壺	- (6.2) (2.0)	内 外	ミガキ 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部1/3残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR5/3 (にぶい赤褐)	石英・長石・黒色粒子含む。	I区1層
7	赤生土器 壺	(19.8) - (12.6)	内 外	ミガキ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ(紅口) 文 口縁編文を地文としヘラ横山形文施す。 胴部 5本1組とする帯橋脚状文(一途止め) 胴部 3～4本1組とする帯橋脚状文(羽状)	口縁1/8残存 内 5YR4/1 (橙灰) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。 きめ細かい。	I区1層 Ⅲ・IV区 W
8	赤生土器 壺	(21.5) - 16.7	内 外	ミガキ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ(紅口) 文 口唇部 6本1組とする帯橋脚状文 胴部 6本1組とする帯橋脚状文 胴部 3～6本1組とする帯橋脚状文を 施した後6本1組の帯橋脚状文施す。	口縁1/3残存 内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR5/3 (にぶい赤褐)	石英・長石含む。きめ細かい。 赤口唇部・胴部にボタン状の 貼付文施す。	IV区 IV区床
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
9	磁石	6.3	3.9	0.8	37.1	砂岩	P 1
10	ミガキ石	2.7	2.6	0.7	8.1	黒曜石(軽石の粒含む。擦痕あり。)	I区1層
11	割片	2.35	1.1	0.5	1.3	黒曜石	内区
12	編物石	9.0	3.7	3.2	160	安山岩 スリ面2	No.6
13	スリ石	16.0	9.2	8.5	1,310	黒曜石	No.5
14	凹石	17.8	14.3	7.3	1,150	滑結凝灰岩	No.4

74) H75号住居址(第119図、図版49・105)

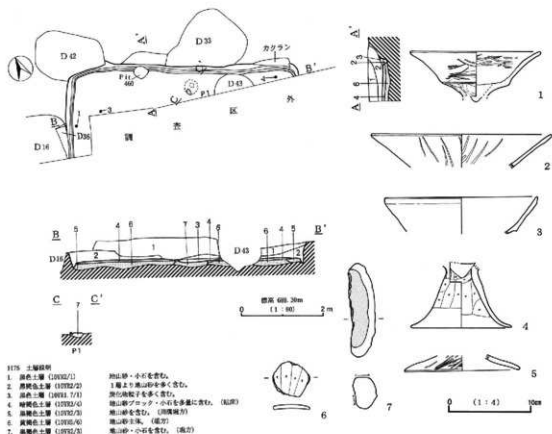
Bが10グリットにあり、砂層中に構築する。D16・D33・D36・D42・D43・単P460に切られる。南側が調査区外であり、最大南北206cmを調査し、東西534cmを測る。北壁にカマドは検出されていない。柱穴も検出されない。壁下には周溝が巡る。

出土遺物には土師器、土製円板(6)、編物石(7)がある。土師器はいずれも高杯(1～5)である。1・2・5は暗文を施す。

これらより詳細はわからないが古墳時代中期であろうか。

第69表 H75号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	土師器 高杯	(16.1) - (6.2)	内 外	ヨコナデ後ミガキ 口縁ヨコナデ・体部ヘラナデ・ミガキ	口縁1/4残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。 ※内面割離	
2	土師器 高杯	(22.2) - (4.1)	内 外	ヨコナデ後方射暗文 ヨコナデ後方射暗文	口縁1/4残存 内 10R6/6 (赤橙) 外 10R6/6 (赤橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	
3	土師器 高杯	(18.8) - (4.5)	内 外	ヨコナデ ヨコナデ	口縁1/6残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 5YR8/4 (淡橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	
4	土師器 高杯	- 12.4 (8.0)	内 外	杯蓋ヘラナデ 胴部ヨコナデ・脚柱部ヘラケズリ 脚柱部ヘラケズリ・脚柱部ヨコナデ	脚柱部1/2残存 内 5YR8/4 (淡橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	
5	土師器 高杯	- (14.2) (1.9)	内 外	ヨコナデ ヨコナデ暗文	底部1/8残存 内 10R6/6 (赤橙) 外 10R6/6 (赤橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色 粒子含む。	
6	土師器 土製円板	4.3 4.5 0.7	内 外	ヘラナデ ヘラケズリ	完形 内 5YR5/2 (灰褐) 外 5YR4/1 (褐灰)	石英・長石含む。 煮糞の・次利用	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
7	編物石	11.5	3.2	3.8	200	石質? スリ面2	IV区



第119図 H75号住居址

75) H76号住居址 (第120図、図版49・105)

Bえ10グリットにあり、砂層中に構築する。H73・F27・D39・D46・単P390・458・459に切られる。南は調査区域外であり、南北調査域288cm、東西430cmを測る。規模形態はわからない。主柱穴は重複するH73の掘方で見つかったピットを想定してみたがプランと一致していないので明確ではない。火所は検出されていない。

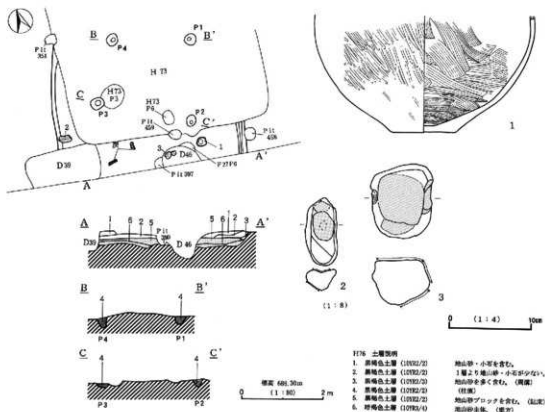
出土遺物には土師器壺(1)と燻物石(2・3)がある。土師器壺は八刷罫で、外面ミガキ、内面砥目のヘラナデ調整である。

これらより本址は古墳時代後期で、重複するH73が古墳時代後期6C後半とすればそれ以前といえよう。

本址の炭化物は、コナラ属コナラ節と樹種同定された。

第70表 H76号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整				残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器壺	- 7.6 (14.3)	内 ヘラナデ(砥目) 外 刷部ミガキ・砥部ミガキ				底部定形 内 10YR7/1(灰白) 外 10YR7/3(にぶい黄褐色)	石英・長石・赤色粘土含む。 ※外面刷罫	No.1
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		出土位置	
2	台石	32.8	16.0	16.0	6,510	安山岩 スリ面2		No.2	
3	燻物石	9.1	7.6	5.5	510	安山岩 スリ面3		No.5	



第120図 H76号住居址

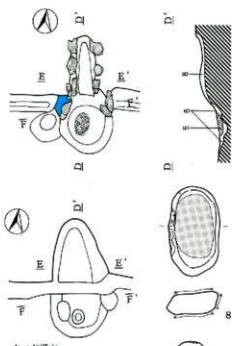
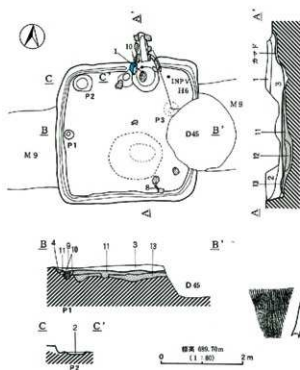
76) H78号住居址 (INPVII 6と同一住居) (第121図、図版50・106)

I え1グリットにあり、砂層中に構築する。D45・M9に切られる。北東隅はINPVでH6として調査されている。南北295cm東西299cmの方形を呈する。カマドは北壁のやや東寄りにあり、主軸方位は北より6°西に振れる。カマド袖先は壊れていないが、煙道が良好に残っていた。石を2列に並べ、内幅40cm長さ144cmを測る。主柱穴は、西壁中央にP1があり、西はD45に切られるため壊されたのであろう。北西に浅い落ち込みがある。壁方で南に径132cm、深さ24cmの円形の掘込みがみられる。

出土物には須恵器、土師器、磨製石鏃(7)、編物石(8・9)、砥石(10)がある。須恵器杯(1)は底部回転ヘラ切りである。土師器杯(2)は厚手で内面に暗文を持つ。土師器甕(4)は口縁部までヘラケズリが施される。これらより、本址は奈良時代であろう。

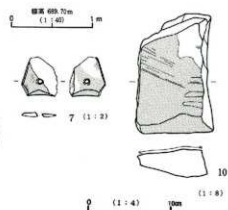
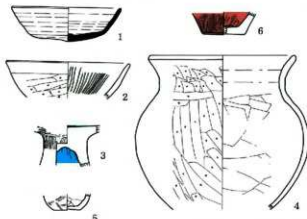
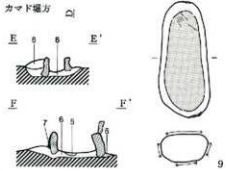
第71表 H78号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯	(13.5) 9.3 4.2	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→東部回転ヘラ切り	口縁1/2残存 内 10YR7/2 (にぶい黄緑) 外 10YR7/2 (にぶい黄緑)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。	カマド No.1
2	土師器杯	(15.2) -	内 ココナデ後方暗文 外 体部ヘラケズリ→口縁ココナデ	口縁1/5残存 内 5YR8/4 (淡橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。 きめ細かい。	Ⅱ区2層



3178 土層説明

1. 暗褐色土層 (7, 3192/3) 粘質土を含む。
2. 灰褐色土層 (3192/3) 薄山礫・小石を含む。
3. 灰褐色土層 (3193/2) 薄山礫・小石を含む。
4. 灰褐色土層 (3193/2) 礫層。
5. 暗褐色土層 (3193/2) 灰化層の中を含む。
6. 灰褐色土層 (7, 3193/2) (カマド層)
7. 灰褐色土層 (7, 3193/2) 粘土。(カマド構築土)
8. 暗褐色土層 (3193/2) 薄山礫を多く含む。(カマド層)
9. 灰褐色土層 (3193/2) (柱)
10. 褐色土層 (3194/4) 地山砂土質。(ピット層)
11. 灰褐色土層 (3193/2) 薄山礫・高砂土ブロックを含む。中・中細礫層 (地山)
12. 暗褐色土層 (3193/2) 薄山礫・小石を含む。(壁)
13. 褐色土層 (3194/4) 地山土塊。(壁)



第121図 H78号住居址

3	土師器 高杯	- (5.0)	内 杯部ミガキ後黒色処理 胴部ヘラナダ後黒色処理 外 ミガキ	破片 内 N3/0・5/0 (燻灰・灰) 外 7.5YR8/3 (浅黄橙)	石英・黒色粒を含む。きめ細かい。	Ⅱ区	
4	土師器 壺	(18.0) - (18.8)	内 口縁ココナデ→胴部ヘラナダ 外 口縁ココナデ→11線から胴部ヘラナダ	口縁1/2残存 内 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色粒子含む。	I区 カマド	
5	弥生土器 壺 (ニニチュア?)	3.1 (1.9)	内 ヘラナダ 外 ミガキ	底部欠形 内 10YR8/2 (灰白) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※外面に赤色顔料付着	Ⅱ区	
6	弥生土器 鉢	- (5.4) (2.7)	内 ミガキ後赤色塗彩 外 胴部ミガキ後赤色塗彩・底部ミガキ	底部1/2残存 内 10R5/6 (赤) 外 10R5/6・7.5YR7/3 (赤・にぶい橙)	石英・長石含む。	Ⅱ区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
7	磨製石鏡	(2.4)	(2.15)	0.3	(1.3)	片岩	カマド付近
8	編物石	11.0	6.4	2.8	310	安山岩 スリ面3	No.3
9	編物石	14.2	6.3	3.5	520	安山岩 スリ面4	Ⅱ区2層
10	砥石	14.7	9.7	3.5	600	砂岩	No.5

77) H79号住居址 (第122図、図版51・106)

Iう2グリットにあり、砂層中に構築される。攪乱とM9・H80に切られ規模形態はわからない。南北480cm、東西344cm残存する。P1・P2が主柱穴であろう。火所は検出されていない。

出土遺物には弥生式土器と土師器がある。土師器杯は混入品であろう。弥生式土器は赤色塗彩の杯(1)、無彩の壺(2)、甕(3)がある。拓本に示した破片は壺の頸部にヘラ描沈線、甕に「コ」の字重ね文がみられる。

これより本址は弥生時代中期であろう。

本址の炭化物は、マツ属と樹種同定された。

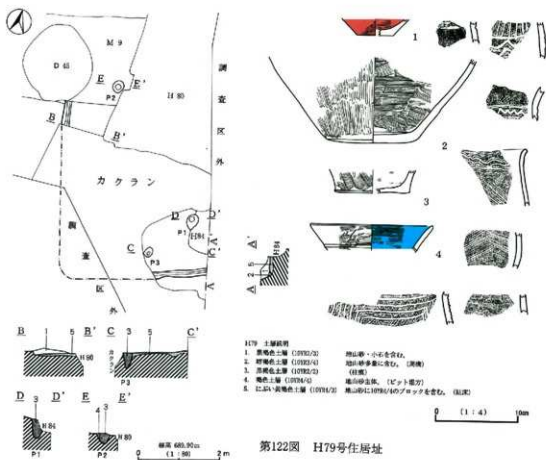
第72表 H79号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存率・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 杯	- (4.4) (2.0)	内 ミガキ後赤色塗彩(濃) 外 胴部ミガキ・赤色塗彩(濃)	底部1/3残存 内 7.5R4/6 (赤) 外 7.5R4/6 (赤)	石英・長石・黒色粒子少量含む。きめ細かい。	検出
2	弥生土器 壺	11.0 (10.5)	内 ヘラナダ(極目) 外 胴部ミガキ・底部磨減して判別できない。	底部2/3残存 内 5YR8/3 (浅橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒を含む。	検出
3	弥生土器 壺	- (9.2) (2.8)	内 ミガキ 外 胴部ヘラナダ後ミガキ・底部ミガキ	底部1/4残存 内 5YR5/1 (燻灰) 外 5YR5/1 (燻灰)	石英・長石含む。	検出
4	土師器 杯	(15.1) (11.5) (3.2)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ	口縁1/8残存 内 N3/0 (燻灰) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	石英・長石含む。	

78) H80号住居址 (INPVH7と同一住居址) (第123図、図版52・106)

Iう1グリットにあり、砂層中に構築する。本調査では南西の一部を調査したのみです。INPVH7として調査され報告している。南北・東西640cmを測る。南西からは炭化材と炭化カヤが多くみられ、粘土に覆われた下から焼土と炭化物範囲がみられた。これらの炭化物の中からコナラ属の果実片、稲、ササゲ、オニグルミ、モモの炭化種子が出土した。また周囲の炭化材はコナラ属とムラサキシキブ属、ニレ属であった。西壁下からは3~18の編物石が使用状態で出土している。編物石は南東と、P4の主柱穴付近でも使用状態で出土している。18の扁平片刃石斧も編物石に転用したのであろう。

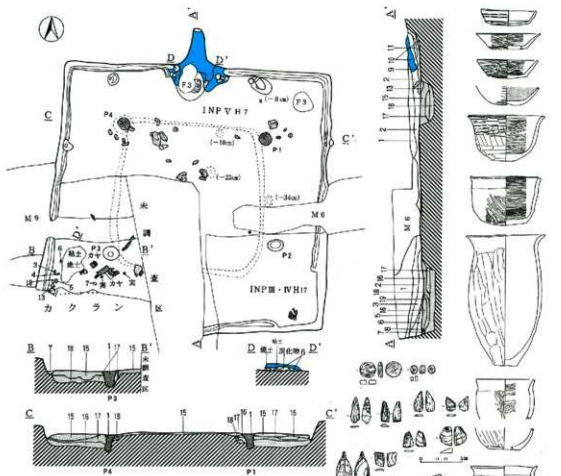
出土遺物はINPVH7で報告された遺物に土師器杯・鉢・甕、白玉などが出土しており、古墳時代後期6C後半の住居址であろう。



第122図 H79号住居址

第73表 H80号住居址出土土物一覽表

番号	器種	法量 — (11.0) (4.2)	成 形 ・ 調 整				残 存 量 ・ 色 調		胎 土 ・ 特 徴	出土位置
			内 外	ミガキ 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部1/6残存 内 2.5Y8/4 (にぶい帯) 外 5Y8/3 (にぶい帯)	備考				
2	割片	1.7	1.2	0.15		0.4	片岩		Ⅲ区	
3	礫物石	11.0	5.7	1.8		200	安山岩		No.12	
4	礫物石	9.0	4.8	3.4		180	安山岩		No.13	
5	スリ石	8.1	5.9	4.4		150	安山岩		No.15	
6	礫物石	11.0	5.5	2.8		320	安山岩	全体に磨耗する。指示は底に磨耗する。	No.17	
7	礫物石	10.9	5.3	2.6		240	安山岩	全体に磨耗 底部に打痕あり。	No.18	
8	礫物石	8.9	4.8	2.1		180	安山岩	全体に磨耗	Ⅲ区	
9	礫物石	9.1	4.0	2.3		125	凝密安山岩	全体に磨耗		
10	礫物石	10.1	4.4	3.1		210	チャート		Ⅲ区	
11	礫物石	10.4	5.2	3.2		220	安山岩		Ⅲ区粘土下	
12	礫物石	11.2	5.5	4.5		340	安山岩	全体に磨耗		
13	礫物石	12.4	5.4	3.6		320	硬砂岩		No.16	
14	礫物石	11.0	5.2	3.8		300	チャート			
15	礫物石	<6.2>	5.4	3.4	<110>		安山岩	全体に磨耗 割れる。		
16	殻石・スリ石	7.7	5.9	2.9		170	安山岩	両面に打痕あり。	Ⅲ区粘土下	
17	礫物石	<6.1>	6.2	2.2	<100>		黒色凝密安山岩		Ⅲ区粘土下	
18	扁平片方石等	9.9	5.6	1.3		130	凝密安山岩		No.14	



縮尺 600.70m
(1 : 600)
0 2m

- H80 土層説明**
- 1. 黒褐色土層 (10YR5/2)
 - 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 - 3. 暗褐色土層 (10YR3/2)
 - 4. 暗褐色土層 (10YR3/4)
 - 5. 暗褐色土層 (7.5YR5/3)
 - 6. 暗褐色土層 (10YR2/2)
 - 7. 暗褐色土層 (10YR2/2)
 - 8. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 - 9. 暗褐色土層 (10YR3/2)
 - 10. 暗褐色土層 (7.5YR3/3)
 - 11. 暗褐色土層 (7.5YR5/3)
 - 12. 褐色土層 (7.5YR4/4)
 - 13. 赤褐色土層 (10YR4/6)
 - 14. 暗褐色土層 (10YR2/4)
 - 15. 暗褐色土層 (10YR2/3)
 - 16. 褐色土層 (10YR4/6)
 - 17. 暗褐色土層 (10YR2/2)
 - 18. 褐色土層 (10YR4/6)
 - 19. 暗褐色土層 (10YR2/2)
 - 20. 暗褐色土層 (10YR2/2)

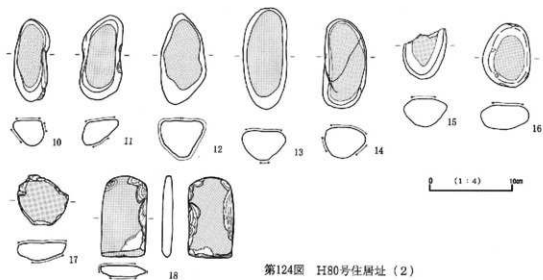
- 瓦土**
- ローム瓦子多く含む。
 - 黄褐色 (10YR 6/3) 土の混入。よく壊れる。(灰泥)
 - ローム土体。(地方)
 - ローム瓦子・バリス含む。(地方)
 - ローム土体。(地方)
 - ローム瓦子・バリス含む。(灰泥)
 - ローム瓦子多く含む。

- ローム瓦子・バリス含む。
- ローム瓦子含む。
- ローム瓦子多く含む。
- 瓦土粒子多量に含む。
- 瓦土。内面は磨ける。(灰ナド練瓦土)
- 瓦土粒子・灰土体。
- ローム土体。磨ける。



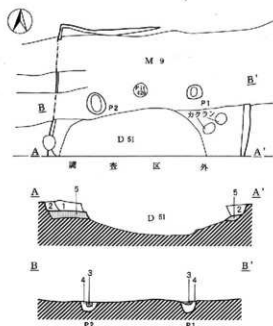
5 第123図 H80号住居址 (1)

0 (1 : 4) 10cm



第124図 H80号住居址(2)

79) H81号住居址 (第125図、図版52)



H81 土層説明

1. 赤褐色土層 (19YR5/2)
2. 赤褐色土層 (19YR5/2)
3. 赤褐色土層 (19YR5/2)
4. 暗褐色土層 (10YR3/3)
5. 褐色土層 (10YR4/6)

(柱礎)
 地山礫を多数に含む
 地山礫土状。 (堀方)

第125図 H81号住居址

1つ2グリットにあり、砂層中に構築される。D51・M9・P425・P426に切られる。南は調査区域外である。大半を重複遺構に壊される。主柱穴P1・P2がM9の下面より検出される。壁残高が3cmと少ないためか遺物等はない。南北314cmを調査し、東西は463cmを測る。軸方位はほぼ北を指す。

遺物がないので時期はわからない。重複するD51は弥生時代後期の土器を出土するので、それ以前といえる。

80) H82号住居址 (第126図、図版53・107)

Eく1グリットにあり、砂層中に構築する。南は調査区域外である。単P421に切られる。南北は175cm調査でき、東西は259cmを測る小型の住居址である。カマドは西壁にあり、掘乱により大半壊されている。わずかに北側の袖の芯材の石が残る。住居址中央には多くの礫が集中していた。主柱穴と思われるP1・P2が検出されている。北東隅から遺物出ている。

出土遺物には土師器、スリ石(11)がある。土師器杯(1~4)は丸底から外縁を持って口縁が外反気味に外傾する。甕(10)は長胴化し胴部がヘラケズリされ、口径と胴最大径が等しい。台付鉢(7)は縦方向のヘラナダがなされる。

これらより本址は古墳時代後期6C後半であろう。

本址1層より出土した炭化材はコナラ属コナラ節と樹種同定された。

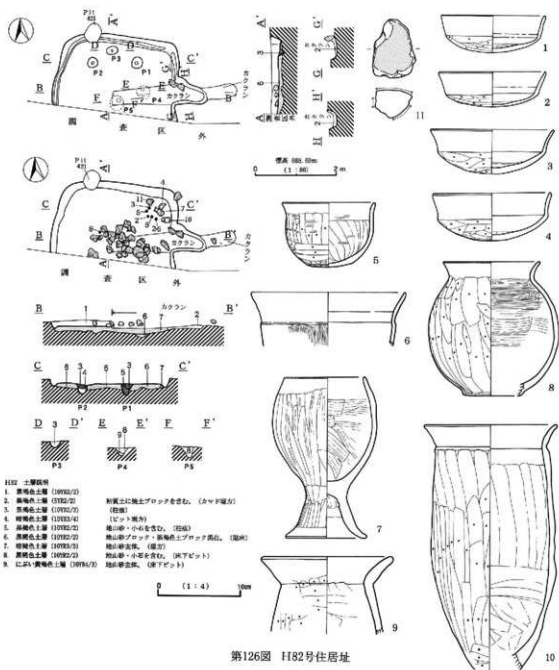
第74表 H82号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	数量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	土師器杯	12.8	内 みこみ部ヘラナダ→口縁ヨコナダ	口縁3/4残存 内 2.5YR6/6 (橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。	I区 検出	
		11.6 4.5	外 底部ヘラケズリ→口縁ヨコナダ				
2	土師器杯	13.3	内 みこみ部ヘラナダ→口縁ヨコナダ	ほぼ完形 内 2.5YR7/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子多く含む。	No.4 No.6 検出	
		11.3 4.3	外 底部ヘラケズリ→口縁ヨコナダ				
3	土師器杯	15.2	内 口縁ヨコナダ→みこみ部ヘラナダ	ほぼ完形 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR8/4 (淡黄橙)	石英・長石・黒色小粒子・赤色小粒子含む。きめ細かい。	No.8 検出	
		13.3 5.4	外 口縁ヨコナダ→底部ヘラケズリ				
4	土師器杯	(14.6)	内 みこみ部ヘラナダ→口縁ヨコナダ	口縁2/3残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/6 (橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。きめ細かい。	No.3 I区 検出	
		13.6 5.8	外 底部ヘラケズリ→口縁ヨコナダ				
5	土師器鉢	11.6	内 胴部から底部ヘラナダ→口縁ヨコナダ	ほぼ完形 内 5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・赤色粒子含む。 ※肌滑著しい。	No.4・No.5 No.7 I区1層	
		5.4 7.9	外 口縁ヨコナダ→胴部ヘラケズリ後ミガキ・底部ヘラケズリ				
6	土師器鉢	(19.0)	内 ヨコナダ	I口縁1/10残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 N4/0・7.5YR7/3 (灰・にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	I区1層	
		- (6.6)	外 口縁ヨコナダ→胴部ヘラナダ (柱目)				
7	土師器台付鉢	10.0	内 鉢部口縁ヨコナダ→胴部から底部ヘラナダ (柱目)	ほぼ完形 内 5YR5/3・7/3 (にぶい赤褐・にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.2	
		(10.0) 19.7	外 台部ヘラナダ後ヨコナダ 口縁ヨコナダ→鉢胴部から台付ヘラナダ後・基ミガキ→台部口縁ヨコナダ				
8	土師器甕	11.8	内 口縁ヨコナダ→胴部から底部ヘラナダ (柱目)	口縁完形 内 5YR6/4・2/1 (にぶい橙・黒褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子少量含む。きめ細かい。	No.9 I区 III区 IV区	
		7.8 (16.4)	外 口縁ヨコナダ→胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ				
9	土師器甕	(16.2)	内 口縁ヨコナダ→胴部ヘラナダ	口縁1/6残存 内 7.5YR8/3 (淡黄橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。きめ細かい。	検出	
		- (9.5)	外 口縁ヨコナダ→胴部ヘラケズリ				
10	土師器甕	16.4	内 口縁ヨコナダ→胴部ヘラナダ	口縁3/4残存 内 5YR8/4 (淡橙) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・チャードを含む。	No.1 I区 掘方・検出	
		- (30.1)	外 口縁ヨコナダ→胴部ヘラナダ後ヘラケズリ				
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
11	スリ石	14.6	10.8	?	1,250	熱うける。スリ面あり。	No.11

81) H83号住居址 (I N P III・IV H29と同一住居址) (127図、図版52・106)

Iう3グリットにあり、D50に南を切られる。カマド煙道先端、住居址床面の一部のみ残存する。大半は掘乱により壊されている。南北304cmを測る。

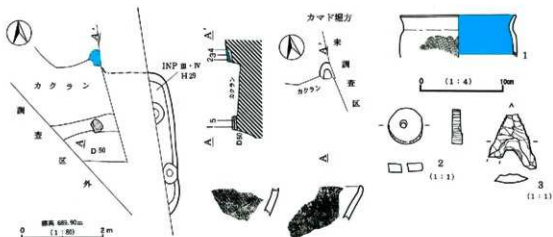
出土遺物は土師器鉢、滑石製白玉(2)チャート製石鏃(3)がある。土師器鉢は外面柱目のヘラナダ調整され、内面は黒色処理される。しかし詳細はわからない。



第126図 H82号住居址

第75表 H83号住居址出土遺物一覧表

番号	品類	法量	成形・調整				残存量・色調	胎土・粒数	出土位置
1	土師器鉢	(14.2)	内 胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ後黒色焼 理 (5.2) 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ(紐目)				口縁1/8残存 内 34/0 (灰) 外 7.5YR5/3 (にぶい藍)	石灰・長石・赤色粒子含む。	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	κ	備考			出土位置
2	白玉	1.1	1.05	0.25	0.5	滑石			
3	石炭	(1.7)	(1.45)	0.25	<0.4>	チャート			



H83 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子わずかに含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼土・炭化層を含む。
3. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 焼土フロック・灰土フロックを含む。
4. 褐色土層 (10YR4/4) 焼山砂を多量に含む。(カマド掘方)
5. 暗褐色土層 (10YR2/2) 10YR2/3ブロック・10YR5/6焼山砂ブロック混在。(30cm)

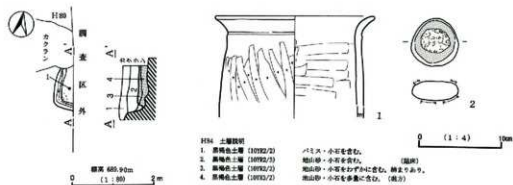
第127図 H83号住居址

82) H84号住居址 (第128図、図版54・106)

Iう2グリットにあり、H79を切る。東は調査区外である。北は攪乱とH80に切られ、南西隅のみ調査した。東西34cm、南北134cmが残存する。

出土物には土師器鉢(1)とスリ石(2)がある。土師器鉢は口縁が強く外反し、胴部は縦のヘラケズリがなされるものである。

これらより古墳時代後期であろう。



H84 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ベリス・小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石をわずかに含む。跡立であり。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石を多量に含む。(掘方)

第128図 H84号住居址

第76表 H84号住居址出土遺物一覧表

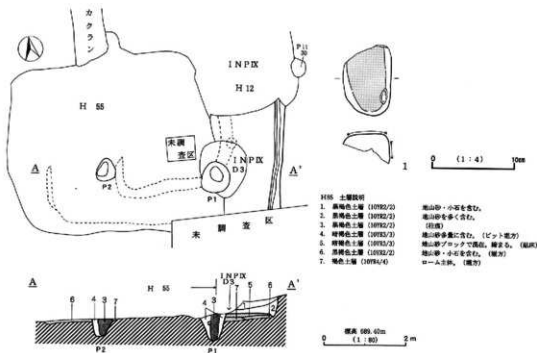
番号	品名	数量	成 形 ・ 調 整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 壺	(10.5) - (12.4)	内 外	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ		口縁1/2残存 内 5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR6/3 (いぶい)	石灰・長石含む。赤褐色粒子 多数を含む。	No.1
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置	
2	スリ石	5.8	5.8	2.3	90	安山岩 打痕あり。		

83) H85号住居址 (第129図、図版54・106)

Fえ8グリッドにあり、H31・H55・I N PⅡH12・D3に切られる。M6を切る。南に未調査区が一部ある。重複する住居に上面を壊され、規模・形態は不明だが堀方で南列支柱穴と思われるP1・P2を検出した。また堀方の形態がピットと一致することなどから、東西544cmを測る住居址であろうか。南北は258cm残る。

遺物は礫物石(1)がある。土器は弥生式土器と古墳時代後期の土器片が出土するが実測資料はない。

これらより本址は古墳時代後期であろう。



第129図 H85号住居址

第77表 H85号住居址出土遺物一覧表

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
1	礫物石	(8.6)	5.8	3.7	(190)	安山岩	検出

84) H86号住居址 (第130・131図、図版54・107)

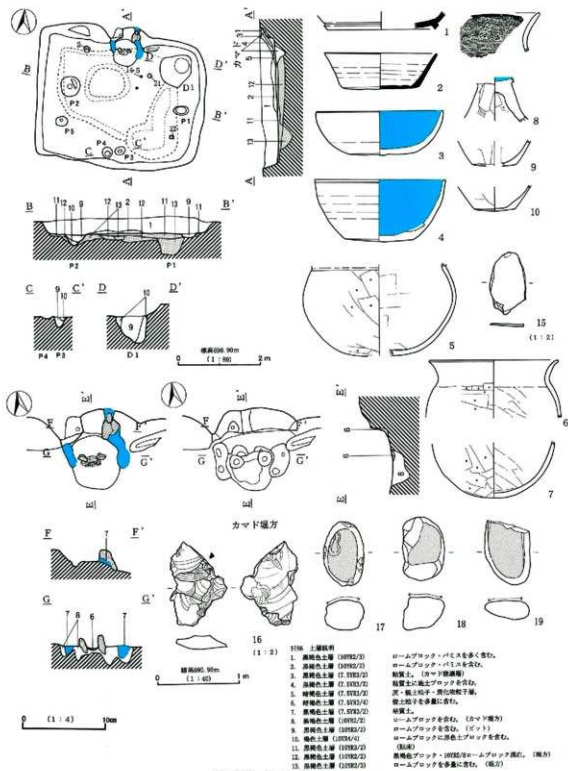
Nけ7グリットにあり、ローム層中に構築される。H87・H91を切る。南北285cm、東西378cmを測り、長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は北を指す。カマド両袖は崩壊し、煙道近くに構築材の石が残っていた。粘質土を貼って構築し、火床部にはわずかに焼上が残り、支脚石が2個立っていた。主柱穴は東西壁中央に2本検出された。また南壁下中央に出入り口のビットP3・P4があった。貯蔵穴であろうビットが北東にあり、ほぼ円形で径70cm深さ65cmを測る。堀方東側で堀方面からさらに30cm程溝状に深く掘っている。H89も同時期であるが床下に同様の深い掘り込みが見られた。

出土遺物には須恵器、土師器、黒曜石剥片(16)、編物石(17~22)がある。須恵器杯(2)は回転ヘラ切り後ナデ調整される。土師器杯(3・4)は底部回転ヘラケズリされ、内面ミガキ黒色処理される。土師器壺は(11~13)は口縁部形態「く」の字形を呈す。

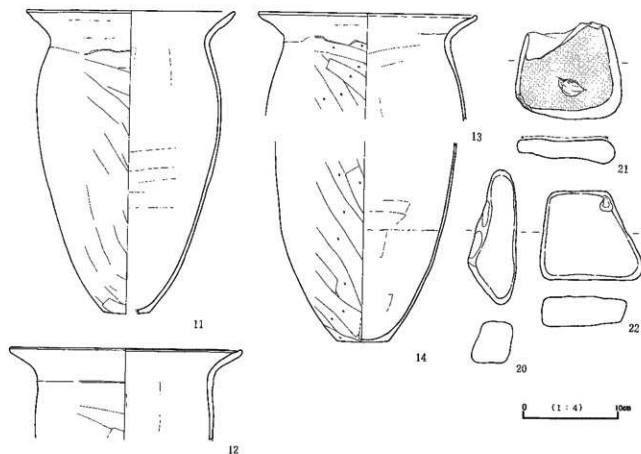
これらより本址は奈良時代であろう。

第78表 H86号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法注	成形・調整	残存品・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 高台付杯	- (13.1) (1.8)	内 ロクロナデ 外 底部回転ヘラケズリ-高台貼付	底部1/6残存 内 7.5Y6/1 (灰) 外 7.5Y6/1 (灰)	0.1mm以下の長石稀少量含む。	検出	
2	須恵器 杯	13.8 9.4 4.4	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部回転ヘラ切り後ナデ	ほぼ完全 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	0.5mm以下の長石含む。	No.1	
3	土師器 杯	(15.6) 8.1 5.4	内 ミガキ後黒色処理 外 ロクロナデ-底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	口縁1/4残存 内 NL5/0 (黒) 外 7.5YR7/6 (橙)	1mm以下の赤色粒子・長石含む。	I区掘方	
4	土師器 杯	(16.1) 8.4 7.6	内 ミガキ後黒色処理 外 ロクロナデ-底部ヘラケズリ	底部完全 内 NL5/0・2.5YR5/4 (黒・にぶい赤褐) 外 7.5YR8/2 (灰白)	0.5mm以下の長石含む。	カマド	
5	土師器 小煎壺	- (11.2)	内 ヘラナデ及びナデ 外 ヘラケズリ・口縁ヨコナデ	底部3/4残存 内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	0.5mmの長石含む。2~3mmの小石少量含む。	No.2 I区2層 I区掘方 IV区掘方	
6	土師器 壺	(15.8) - (7.1)	内 ヘラナデ及びナデ 外 ヘラケズリ・口縁ヨコナデ	口縁1/3残存 内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	0.5mm以下の長石含む。	I区1層 I区2層 I区掘方	
7	土師器 小煎壺	- (6.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	底部完全 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/4 (にぶい橙)	1mm赤色粒子含む。	I区2層 IV区 IV区掘方	
8	土師器 脚付鉢	- (5.5)	内 鉢部ミガキ後黒色処理 脚部内面ナデ(柱目)・ヘラナデ 外 ナデ(柱目)→ヘラケズリ	脚部残存 内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	0.5mm以下の長石含む。	I区掘方	
9	土師器 壺	(5.4) (3.1)	内 ヘラケズリ・ナデ 外 ヘラケズリ	底部1/8残存 内 5YR3/2 (暗赤褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)	0.5mm以下の長石含む。	検出 カマド I区1層	
10	土師器 壺	(5.0) (3.0)	内 ナデ 外 ヘラケズリ	底部1/3残存 内 5YR3/3 (暗赤褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)	0.5mm以下の長石含む。	I区2層	
11	土師器 壺	22.1 (4.9) 32.0	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ・口縁ヨコナデ	口縁3/4残存 内 2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR6/8 (橙)	0.5mmの長石・1mmの黒色粒子含む。	カマド 検出・IV区 掘方2層 IV区掘方	
12	土師器 壺	(24.7) (9.7)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ・ナデ 外 口縁ヨコナデ-胴部ヘラケズリ	口縁1/12残存 内 7.5YR5/4 (にぶい橙) 外 5YR5/6 (橙)	0.5mm以下の長石・1mm以下の赤色粒子含む。	カマド IV区	
13	土師器 壺	(23.2) (11.2)	内 ヘラナデ及びナデ 外 ヘラケズリ・口縁ヨコナデ	口縁1/3残存 内 5YR6/6 (橙) 外 2.5YR6/6 (橙)	1mm以下の長石・赤色粒子含む。	IV区 カマド カマド地	
14	土師器 壺	- 5.5 (21.2)	内 ヘラナデ及びナデ 外 ヘラケズリ	底部完全 内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR6/6 (橙)	0.5mmの長石・黒色粒子含む。	No.2 I区2層 IV区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
15	剥片	3.85	2.2	0.15	1.5	片岩	I区1層
16	剥片	5.1	3.5	0.8	12.7	黒曜石	I区1層
17	編物石	7.9	4.9	3.7	190	安山岩 スリ面1	III区1層
18	編物石	7.8	5.1	4.0	240	チャート スリ面2	III区掘方
19	編物石	8.0	5.6	2.3	130	安山岩 スリ面2	III区1層
20	編物石	14.2	5.2	4.4	450	安山岩	III区掘方
21	編物石	10.4	11.3	2.6	380	安山岩 下の割れ面も磨耗	No.4
22	編物石	9.5	10.9	3.3	610	安山岩 全体に磨耗	No.5



第130図 H86号住居址(1)



第131図 H86号住居址（2）

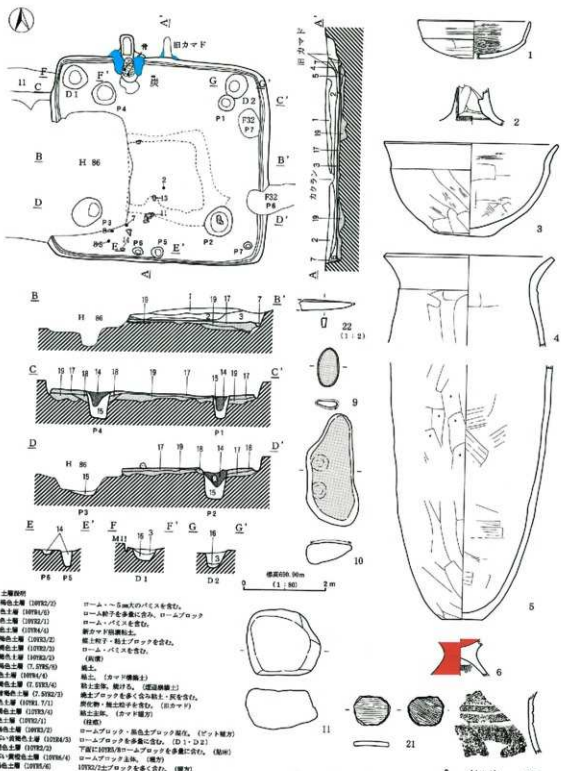
85) H87号住居址（第132・133図、図版55・108）

Nく7グリットにあり、ローム層中に構築される。H86・F32・M11に切られる。H91を切る。南北472cm、東西493cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁にあり、主軸方位は北より4°東に振れる。カマドは北壁中央より西に寄っており、中央には旧カマドが残っていた。新カマドは袖を粘土で構築しており、カマドの突き口床面にも同じ粘土が貼床されていた。煙道は56cmほど住居址より出ている。火床に焼土範囲が残っていた。旧カマドは煙道が良く焼けており、火床には焼土が残り、貼り床の下から検出された。支柱穴はP1～P4で径40～68cm、深さ56～76cmを測る掘方ピットに柱痕が見られた。P2内には柱の固定のためか石が2個入っていた。北東と南東隅には径60・54cm、深さ30cmほどの貯蔵穴であろうかピットがあく。また南壁下には出入り口ピットP5・P6の2個がある。カマド付近から出土した炭はクヌギ属コナラ節である。またカマドから出土した小骨片は分析不可能であった。土器・編物石は南東区床面より出土している。

出土遺物には土師器、編物石（10～20）、土製円板（21）、鉄製刀子（22）がある。土師器杯（1）は丸底でわずかに屈曲して、口縁が直立する。内面はミガキ調整である。土師器甕は（4・5）長胴化し、縦にヘラケズリされる。丸胴甕（7・8）は内面柱目のヘラナデ、外面はヘラケズリ後ミガキ調整するものとしもないものがある。

これらより本址は古墳時代後期6C後半であろう。

本址から出土した炭化材は、コナラ属クヌギ節と榊種同定された。

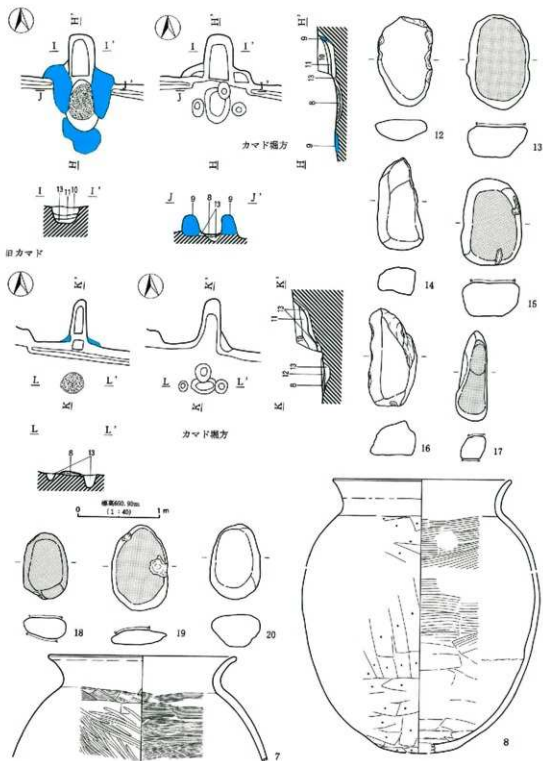


H87 土層説明

1. 黒褐色土層 (10912/2)
2. 褐色土層 (10914/3)
3. 黒色土層 (10912/1)
4. 黒色土層 (10914/4)
5. 黒褐色土層 (10912/2)
6. 黒褐色土層 (10912/3)
7. 黒褐色土層 (10912/4)
8. 黒褐色土層 (10912/5)
9. 褐色土層 (10914/1)
10. 黒褐色土層 (10912/4)
11. 黒褐色土層 (7, 5192/2)
12. 黒色土層 (10914, 7/1)
13. 黒褐色土層 (10912/3)
14. 黒色土層 (10912/1)
15. 黒褐色土層 (10912/2)
16. 赤い黄褐色土層 (10914/3)
17. 赤褐色土層 (10912/2)
18. 赤い黄褐色土層 (10914/4)
19. 黄褐色土層 (10914/2)

ローム・パリスを含む。
 ローム粒子を多数に含み、ロームブロック
 ローム・パリスを含む。
 新カド質凝結土。
 粘土粒子・粘土ブロックを含む。
 ローム・パリスを含む。
 (灰産)
 粘土。
 粘土。(カド質凝結土)
 粘土主要。鉄ける。(凝結凝結土)
 粘土ブロックを多く含む粘土・灰を含む。
 灰産物・粘土粒子を含む。(田カマド)
 粘土主要。(カド質凝結)
 (灰産)
 ロームブロック・黒色土ブロック層行。(ピット層)
 ロームブロックを多数に含む。(D1・D2)
 下面に10915/3ロームブロックを多数に含む。(堀)
 ロームブロック主体。(堀)
 10912/2土ブロックを多く含む。(堀)

第132図 H87号住居址(1)



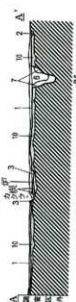
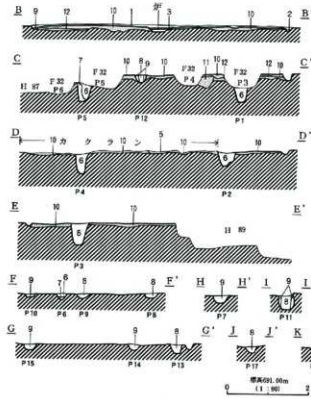
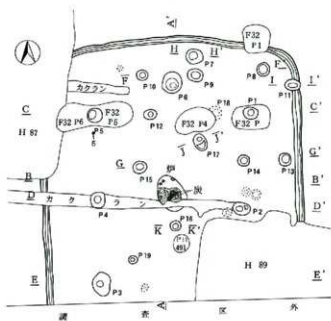
第133圖 H87号住居址(2)

第79表 H87号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法番	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	土師器 鉢	(13.8) (12.7) (4.6)	内 ミガキ(割部) 外 口縁ヨコナデ・底部手持ちヘラケズリ・ミガキ	口縁1/4残存 内 10YR7/4 (にぶい黄褐色) 外 10YR8/4 (にぶい黄褐色)	0.5mm以下の長石・赤色粒子含む。 地外面磨耗	Ⅱ区 2層	
2	土師器 高杯	- - (4.6)	内 ナデ 外 ミガキ	脚柱部完形 内 10YR6/6 (冴黄褐色) 外 7.5YR6/6 (橙)	0.5mm以下の長石・赤色粒子含む。	No.4	
3	土師器 鉢	21.4 7.7 11.4	内 口縁ヨコナデ→ヘラナデ→ミガキ 外 口縁ヨコナデ→底部手持ちヘラケズリ・ミガキ	口縁1/3残存・底部完形 内 7.5YR8/3 (浅黄褐色) 外 7.5YR7/6 (橙)	0.5mm以下の長石含む。	Ⅱ区 3層 Ⅱ区 Ⅱ区	
4	土師器 甕	(21.0) - (10.9)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	口縁1/6残存 内 7.5YR3/3 (暗褐色) 外 7.5YR2/2 (黒褐色)	0.5mm以下の長石・2mm以下の赤色粒子含む。	検出 Ⅰ区 1層	
5	土師器 甕	- 5.0 (31.2)	内 ヘラナデ(柾目) 外 胴→底部ヘラケズリ	底部1/2残存 内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR4/4 (暗)	0.5mm以下の長石・赤色粒子含む。 ※4と同一か?	P.3 No.3 Ⅱ区・Ⅲ区 H86 Ⅱ区・検出 Ⅲ区堀方 Ⅲ区 2層	
6	赤生土器 高杯	- - (4.6)	内 ミガキ後赤色塗彩 脚部ヘラナデ(柾目) 外 ミガキ後赤色塗彩	接合部完形 内 7.5R4/8 (赤) 外 7.5R4/8 (赤)	0.5mm以下の長石含む。	P.6	
7	土師器 甕	(23.0) - (12.9)	内 ヘラナデ(柾目) 外 ヘラナデ(柾目)・ヘラナデ・ミガキ・口縁ヨコナデ	口縁1/2残存 内 10YR7/6 (冴黄褐色) 外 10YR8/3 (浅黄褐色)	1～2mmの茶色粒・1mm以下の黒色粒を含む。	No.1 検出・Ⅲ区 Ⅲ区堀方 Ⅲ区 3層 H86検出 Ⅰ区堀方 Ⅲ区 1層 Ⅲ区	
8	土師器 甕	(22.0) (8.6) (33.5)	内 ヘラナデ(柾目)及びナデ 外 ヘラナデ・口縁ヨコナデ	口縁一部・底部3/4残存 内 7.5YR5/6 (冴黄褐色) 外 7.5YR5/8 (冴黄褐色)	3mm程の茶色粒・0.5mm以下の長石含む。	No.2 Ⅲ区・P.3 堀方 J186 No.3 Ⅰ区 2層 Ⅰ区堀方 Ⅲ区・検出 Ⅲ区堀方 Ⅲ区 1層 D.1	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
9	ミガキ石	4.7	2.6	0.7	20	石質?	
10	礫物石	13.8	6.6	2.7	300	安山岩 全体に磨耗	Ⅰ区
11	礫物石	8.0	9.1	5.0	570	安山岩	No.8
12	礫物石	11.0	6.7	2.6	250	安山岩	Ⅱ区 3層
13	礫物石	11.6	7.8	3.8	330	多孔質安山岩 スリ面2	No.7
14	礫物石	11.4	5.7	3.2	230	安山岩 全体に磨耗	No.9
15	礫物石	10.6	7.5	4.2	290	褐色多孔質安山岩	Ⅰ区
16	礫物石	11.9	5.9	4.3	330	安山岩 割石。全体に磨耗	Ⅲ区
17	礫物石	11.1	3.9	2.8	160	石質? 全体に磨耗	Ⅱ区
18	礫物石	8.1	5.4	2.6	170	稜砂岩 全体に磨耗	Ⅰ区
19	礫物石	10.5	6.8	1.8	200	多孔質安山岩	Ⅰ区
20	礫物石	9.8	6.2	4.0	270	褐色多孔質安山岩	Ⅲ区堀方
番号	器種	法番	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
21	土師器 土製刀根	3.6 4.4 0.6	内 ミガキ 外 ヘラナデ(柾目)	破片 内 10YR3/4 (暗褐色) 外 10YR2/3 (黒褐色)	0.5mm以下の長石含む。	Ⅱ区	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
22	刀子	(0.6)	(3.3)	(0.4)	(1.6)	鉄製品 柄の一部残存。	Ⅱ区

86) H88号住居址 (第134・135回、図版56・109)

Nけ7グリットにあり、ローム層中に構築する。H87・H89・F32・単P491に切られる。南は調査区域外である。南北調査域632cm、東西606cmを測り隅丸長方形を呈す。壁残高は1～6cmと非常に浅い。長軸方位は北より3°西に



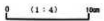
- H88 土層統制
1. 黒褐色土層 (1092/2)
 2. 暗褐色土層 (1092/2)
 3. 黒褐色土層 (1092/2)
 4. 明褐色土層 (1578/2)
 5. 褐色土層 (1074/4)
 6. 暗褐色土層 (1092/2)
 7. 灰色-黄褐色土層 (1078/0)
 8. 黒褐色土層 (1092/2)
 9. 暗褐色土層 (1092/2)
 10. 暗褐色土層 (1092/2)
 11. 褐色土層 (1074/4)
 12. 灰色-黄褐色土層 (1078/0)

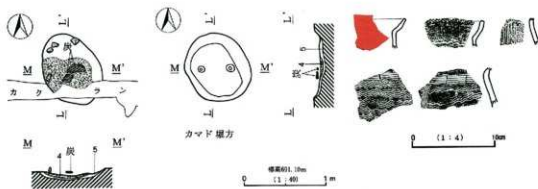


- ローム磁子・パリス・新石器時代の石、
(須賀)
- 黒土磁子・パリスを含む。
炭化物を多量に含む。(P7)
- 須賀
- (伊藤氏)
- ローム磁子・パリスを多量に含む。(柱状)
- ロームプロット・パリス土層。(ピット埋り)
- ローム磁子・パリスを含む。(P9-P13)
- ローム磁子・パリスを多く含む。(P10-P14-P18)
- ロームプロット・パリス。
- 新石器土ブロック層 (須賀)
- ローム磁子・パリスを多く含む。(埋り)
- ローム土層。(埋り)



第134図 H88号住居址 (1)





第135図 H88号住居址(2)

第80表 H88号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	弥生土器 壺	(8.0) (6.0)	内 ミガキ後黒色処理 外 ミガキ・底部ヘラケズリ及びブナデ	底部1/4残存 内 10YR3/1 (黒梅) 外 10YR7/4 (にぶい黄緑)	1mm以下の長石含む。	検出	
2	弥生土器 高杯	(11.6) (3.0)	内 ヘラナデ(柱目)及びブナデ 外 ミガキ後赤色塗彩(器面剥落)	底部1/8残存 内 10YR8/3 (浅黄緑) 外 10R4/8 (赤)	0.5mmの白色粒子・黒色粒子含む。	I区 表探	
3	弥生土器 壺	(11.6) - (2.4)	内 ミガキ 外 ヨコナデ 文 口唇部 縄文 強彫 器蓋波状文	口縁1/6残存 内 7.5R6/6 (橙) 外 7.5YR4/4 (黄)	0.5mm長石含む。	検出	
4	弥生土器 壺	(14.4) - (4.8)	内 ミガキ 外 ヘラナデ(柱目) 文 口唇部 縄文 口縁部 縄文→ヘラ輪波状文(2本)	口縁1/4残存 内 7.5YR7/6 (橙) 外 5YR7/6 (橙)	0.5mm長石含む。	I区 表探	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
5	土製品	1.45	1.95	0.6	1.9	円形 模成面に滑順成形	No.1
6	磨製石鏃	3.5	2.35	0.3	1.9	黒色顔面安山岩 完形	P 2
7	磨製石鏃	(2.5)	1.6	0.2	(1.0)	片岩 先端部欠損	P 3
8	砥石	7.3	4.8	1.4	60	砂岩	
9	剥片	5.6	7.7	1.7	80	頁岩	

振れる。炉が住居址中央に設けられ、焼土・炭化物が残っていた。炉内に煙乱が東西に入る。長径92cm短径68cmの楕円形を呈し8cmほど窪む。内側に囲むかのような長さ8cmほどの小腰が4個残る。主柱穴はP1～P5の5本があり、南東はH89により壊され、本来は6本柱であろう。北壁側中央のP6が棟持柱である。他の柱穴・ビットについては本址に伴うかは明確でない。壁下には黒溝が巡る。

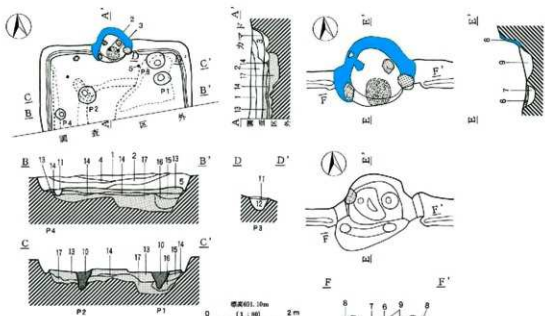
出土遺物には弥生式土器、土製円板(5)、磨製石鏃(6・7)、砥石(8)、剥片(9)がある。弥生式土器壺形土器(4)は無彩で口縁部外面に縄文施文後ヘラで波状文を巡らしている。壺(3)は、口唇端部に縄文を転がしている。拓本に示したのもヘラ描文が多用されている。

これらより本址は弥生時代中期であろう。

本址炉より出土した炭化材は、コナラ属コナラ節と樹種同定された。

87) H89号住居址(第136・137図、図版・109)

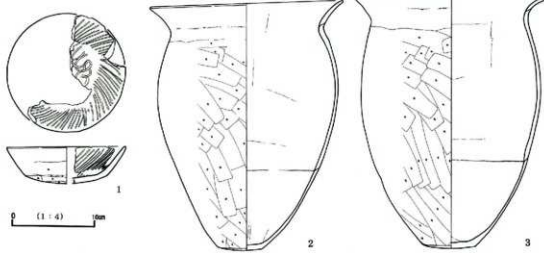
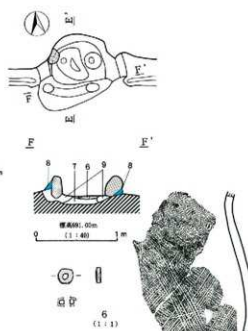
Nか8グリットにあり、ローム層中に構築される。H88を切る。南は調査区域外である。南北調査域179cm、東西324cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は北より4°東に振れる。カマドは住居址から半円に突出し、カマド焚き口の袖先石が住居址下場と一致する。支脚石が2個カマド奥壁に接する所に立っていた。カマド内には2・3の壺が潰れて出土した。主柱穴はP1・P2で径40cm深さ80cmを測る。西壁下にP4がある。北東の北壁に接してP3があり、径40cm深さ36cmの円形ビットである。掘方は深く、床より30cm、東の深い所では60cmほど床より低い。H



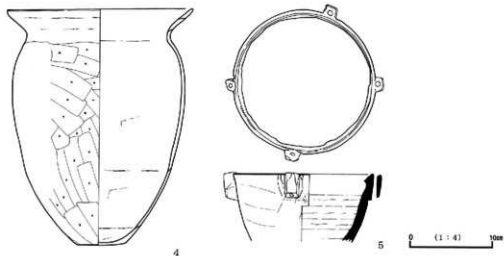
H89 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
2. 暗褐色土層 (7.5YR3/2)
3. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
4. 黒色土層 (10YR1, 2/1)
5. 黒褐色土層 (10YR2/2)
6. 褐色土層 (10YR4/0)
7. 黒褐色土層 (10YR2/2)
8. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
9. 暗褐色土層 (7.5YR3/2)
10. 黒褐色土層 (10YR2/2)
11. 黒色土層 (10YR1/1)
12. 暗褐色土層 (10YR2/2)
13. 黒褐色土層 (10YR2/2)
14. 黒色土層 (10YR1/1)
15. 褐色土層 (10YR4/0)
16. 暗褐色土層 (10YR2/2)
17. 褐色土層 (10YR4/0)

- ローム陶子・～1cmのバリスを含む。
 ローム陶子・バリスを多量に含む。
 ローム陶子・バリスを多量に含む。
 黒色が強い。
 ローム陶子・バリスを多く含む。
 赤土
 粘質土を含む。(カマド痕跡)
 粘質土。(カマド痕跡土)
 粘土陶子・粘質土を含む。(磁器)
 わずかにローム陶子を含む。(磁)
 ロームブロッケ・バリスを多量に含む。(磁)
 ～2cmのバリス・ロームブロッケを含む。跡もあり。(磁)
 わずかにローム陶子を含む。(磁)
 ロームブロッケ・バリスを多く含む。
 ロームブロッケを多く含む。
 ロームブロッケ土質。並列に黒褐色土ブロッケを含む。



第136図 H89号住居址 (1)



第137図 H89号住居址(2)

86で見られたように東の床下が深いことが共通している。

出土遺物には須恵器・土師器・弥生式土器片、滑石製白玉(6)がある。須恵器は四耳壺の胴部、耳は柱状で、焼成前に穿孔されている。土師器杯(1)はやや丸底で、ヘラケズリされる。内面に畿内系暗文が施される。土師器壺(2・3)は口縁部形「く」の字形の武蔵甕である。

これらより本址は奈良時代であろう。

第81表 H89号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	土師器 杯	(14.6) (10.0) 4.5	内 口縁ヨコナデ→焼文・底部ナデ→畿内系 暗文 外 口縁ヨコナデ→ヘラケズリ・底部ヘラケ ズリ	口縁部完形・底部3/5残存 内 7.5YR6/4 (にぶい腹) 外 7.5YR6/4 (にぶい腹)	1mm以下の茶色粒子少量・ 0.5mm以下の長石少量含む。	D区 カマド	
2	土師器 壺	23.7 5.4 30.1	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘ ラケズリ	底部3/6残存 内 5YR6/6 (腹) 外 7.5YR6/4 (にぶい腹)	0.5mm以下の長石・黒色粒子 少量含む。 顕著。	床 B区 カマド	
3	土師器 壺	23.7 6.4 30.9	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ・底部ヘ ラケズリ	底部3/5残存・底部完形 内 2.5YR5/6 (明赤腹) 外 5YR5/3 (にぶい腹)	0.5mm以下の長石少量含む。 顕著。	B区 カマド	
4	土師器 壺	22.6 5.9 28.9	内 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ・底部ヘ ラケズリ	口縁ほぼ完形・底部完形 内 5YR4/3 (にぶい赤腹) 外 5YR5/3 (にぶい赤腹)	0.5mm以下の長石少量含む。	B区 カマド	
5	須恵器 四耳壺	- (R4)	内 ロタロナデ 外 ヘラナデ→四耳鉢付→ヘラナデ	胴部完形 内 5Y4/1 (灰) 外 2.5Y5/1 (黄灰)	1mm以下の長石少量含む。 顕著。 ※自然釉付着	No.1	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
6	白玉	0.45	0.45	0.15	0.06	滑石	I区
☆						黒曜石の割片1点あり。	

88) H90号住居址 (第138・139図、図版57・58・109・110)

Nこ7グリットにあり、ローム層中に構築される。M11に切られ、H91を切る。北東に擾乱が上面に一部入る。南北463cm、東西523cmを測り、わずかに東西が長い長方形を呈す。炉は北の主柱穴間にあり、主軸方位は北を指す。炉は南北100cm東西80cm深さ8cmのほぼ楕円形範囲に炭化物層が見られ、北側に23の甕口縁部が置かれていた。主柱穴

はP1～P4で径50cm～64cm深さ56～70cmの円形堀方に柱痕が見られた。柱痕下部は湧水のため確認できなかった。南壁下にはP8・P9の出入り口ピットがあり、また出入り口付近は南北168cm東西184cm範囲に床より6～8cmほどロームが貼られ高くなっていた。その中央に長径100cm短径84cm深さ32cmの土坑があく。周辺には土器が分布し、南壁下に粘土が残る。他に東西の壁際にP5～P14の浅い小ピットが見られた。

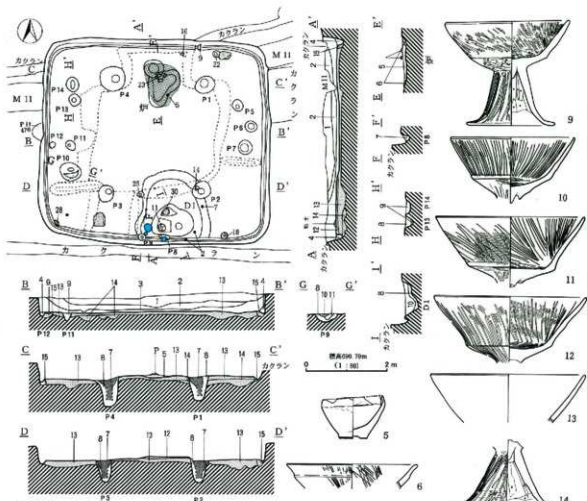
出土遺物には土師器、弥生式土器、土製円板(32)、台石(28・30)、スリ石(29)、ミガキ石(31)がある。土師器杯(1～4)は深い丸底の底部から口縁が短く外方に折れる杯Aである。外面ヘラケズリ後ナデ調整される。2は外面ミガキ、内面に放射状の暗文を施す。5はナデ調整のままである。高杯は杯部内外に暗文、脚外面にも暗文を施す。小型丸底は小指でナデ調整される。有段口縁蓋は褐色を呈し、横ナデされる。甕(23)は口縁内外に暗文を施している。

住居址南壁下に粘土が出出し、本址から出土した土器、2・3の杯、7の高杯、23の甕を胎土分析をした。23の甕と胎土が一致し、他は異なることが判明している。弥生式土器は後期の土器で、赤色染彩の高杯、甕形土器(26・27)の口縁端部に一条の櫛掻波状文を施すものがある。

これらより本址は古墳時代中期であろう。

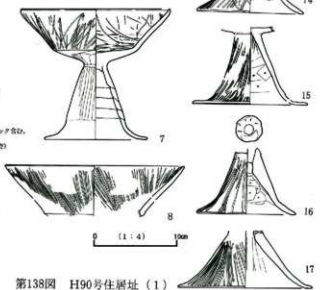
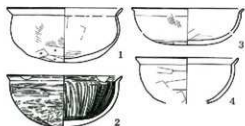
第82表 H90号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	量量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	14.1 - 6.7	内 ヘラナデ及びビナデ・口縁ヨコナデ 外 ヘラナデ(紅目)→ナデ・底部付近ヘラケズリ	口縁3/4残存 内 2.5YR6/8(橙) 外 2.5YR6/8(橙)	1mm以下の長石・茶色粒子含む。	Ⅱ区2層 Ⅲ区3層
2	土師器 杯	14.1 - 6.4	内 ナデ→暗文 外 ナデ・ミガキ	底面完形・口縁3/4残存 内 2.5YR6/6(橙) 外 2.5YR6/6(橙)	1mm以下の石英粒少量含む。 緻密。	No.9 No.10
3	土師器 杯	(13.7) (8.6) (4.5)	内 ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ・底部ヘラケズリ	胴部1/4・底部1/3残存 内 2.5YR5/8(明赤褐) 外 5YR6/6(橙)	0.5mm以下の長石・茶色粒子含む。	Ⅱ区1層 Ⅲ区1層 Ⅳ区
4	土師器 杯	12.6 - (5.7)	内 口縁ヨコナデ・胴部ナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ→ナデ	口縁1/3残存 内 5YR3/3(暗赤褐) 外 5YR3/3(暗赤褐)	0.5mm以下の長石含む。	Ⅰ区3層 Ⅳ区
5	土師器 手捏	7.4 3.5 5.0	内 ナデ 外 ナデ	口縁3/4残存・底部完形 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の長石・茶色粒子少量含む。 緻密。	No.5
6	土師器 杯	(16.0) - (3.0)	内 ナデ→暗文 外 ナデ→暗文	口縁1/6残存 内 5YR5/4(にぶい赤褐) 外 5YR3/2(明赤褐)	0.5mmの長石含む。 ※内外黒色処理か。	Ⅱ区
7	土師器 高杯	18.3 12.6 16.0	内 杯部 ナデ→暗文 脚部 ナデ 外 杯部 ナデ→暗文 杯部底部 ヘラナデ 脚部 ヘラナデ・底部付近ヨコナデ	口縁7/8・底部3/5残存 内 杯 7.5YR6/6(橙) 脚 5YR6/6(橙) 外 5YR6/6(橙)	0.5mm以下の長石・茶色粒子少量含む。 緻密。	No.11 Ⅱ区
8	土師器 高杯	(22.0) - (6.3)	内 ナデ→暗文 外 ナデ→暗文	口縁1/4残存 内 2.5YR5/4(にぶい赤褐) 外 2.5YR5/4(にぶい赤褐)	0.5mmの長石含む。	D 1
9	土師器 高杯	15.4 10.9 12.8	内 杯部 ナデ→暗文 脚部 底部付近ナデ・ヘラケズリ 外 杯部 ナデ→暗文・底部ヘラケズリ 脚部 ナデ→暗文	口縁完形・底部3/4残存 内 2.5YR5/6(明赤褐) 外 2.5YR5/6(明赤褐)	0.5mm以下の長石・茶色粒子少量含む。 緻密。	No.2
10	土師器 高杯	15.2 - (8.1)	内 ナデ→暗文 外 ナデ→暗文・杯底部ヘラナデ・ミガキ	杯部4/5残存 内 2.5YR5/8(明赤褐) 外 5YR6/6(橙)	0.5mmの長石含む。	No.6 Ⅲ区3層
11	土師器 高杯	18.3 - (8.7)	内 ナデ→暗文 外 口縁ヨコナデ・ヘラナデ(紅目)→暗文	杯部完形 内 2.5YR5/6(明赤褐) 外 2.5YR5/6(明赤褐)	0.5mmの長石・赤色粒子含む。	No.8
12	土師器 高杯	18.8 - 8.1	内 ヘラナデ(紅目)→暗文 外 ヘラナデ(紅目)→暗文	口縁1/2残存・底部完形 内 2.5YR5/6(明赤褐) 外 2.5YR5/6(明赤褐)	0.5mmの長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区3層 Ⅲ区1層 Ⅳ区
13	土師器 高杯	(19.0) - (5.9)	内 ナデ 外 ナデ	口縁1/4残存 内 5YR5/4(にぶい赤褐) 外 5YR5/6(明赤褐)	0.5mmの長石・赤色粒子含む。	Ⅲ区3層
14	土師器 高杯	- 13.2 (8.9)	内 杯部 暗文(?) (極わずか残存) 底部付近ヨコナデ・脚部ヘラケズリ 外 ナデ→暗文	底部7/8残存 内 2.5YR4/4(にぶい赤褐) 外 2.5YR5/6(明赤褐)	1mm以下の長石・石英少量含む。 緻密。	No.12
15	土師器 高杯	- (14.2) (9.5)	内 杯部 ナデ→暗文 脚部 載り込み→ヘラケズリ及びナデ 外 脚部 ナデ→暗文	底部1/3残存 内 2.5YR4/6(赤褐) 外 2.5YR5/6(明赤褐)	1mm以下の長石・茶色粒子含む。	Ⅱ区 検出

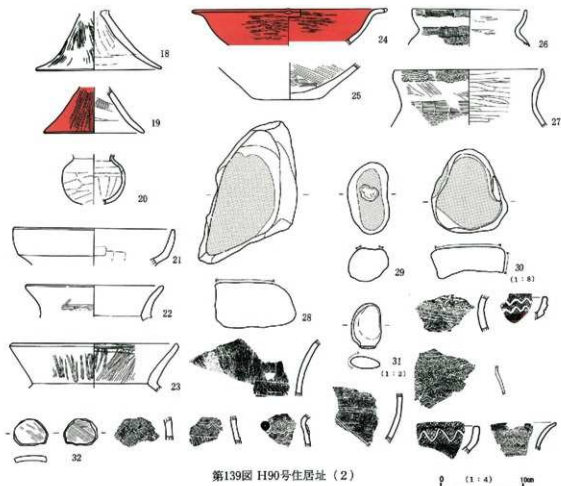


H90 土層図説

1. 黄褐色土層 (H902/2) ~1cm欠パリス多量に含む、ローム粒子含む。
2. 黒色土層 (H902/1) パリス多量に含む。
3. 黒褐色土層 (H902/3) パリス・ローム粒子多量に含む。
4. 黒褐色土層 (H903/4) パリス・ローム粒子多量に含む。(局所)
5. 黒色土層 (H901, 7/1) 炭化物層。(P9)
6. にぶい黄褐色土層 (H905/4) (P9壁方)
7. 黒褐色土層 (H902/2) (壁面)
8. にぶい黄褐色土層 (H905/4) ローム主体。(ピット壁方)
9. 赤色土層 (H902/1) パリス・ローム粒子わずかに含む。(P11・P12)
10. 暗褐色土層 (H902/3) ロームブロック・パリス・黒褐色土ブロック含む。(壁面) (P9)
11. 黒褐色土層 (H902/2) ローム・パリス含む。(P9)
12. 暗褐色土層 (H902/2) ロームに上る粘土。
13. 暗褐色土層 (H905/4) ロームブロック・パリス多く含む、黒褐色土ブロック含む。(局所)
14. 赤褐色土層 (H904/4) ローム主体、まれに黒褐色土ブロック含む。(局所)
15. 黄褐色土層 (H905/4) 黒褐色土ブロック含む。(内蔵壁方)



第138図 H90号住居址(1)



第139図 H90号住居址(2)

16	土器器 高杯	- 12.1 (8.0)	内 底部付近ヨコナア→胴部ヘラケズリ 外 ナア→短文	底部完形 内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR8/4 (にぶい橙)	1mm以下の長石・石炭少量 含む。緻密。 ※杯部接合のためきざみ残 る。	No.3
17	土器器 高杯	- (16.5) (7.0)	内 ナア・胴部ヨコナア 外 ナア・底部ヨコナア→短文	脚部1/3残存 内 2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR3/2 (暗赤褐)	0.5mmの長石・赤色粒子含む。	II区 D 1
18	土器器 高杯	- 15.4 (7.3)	内 ナア・胴部ヨコナア 外 ナア→胴部ヨコナア→短文	脚部1/4完形 内 2.5YR3/2 (暗赤褐) 外 2.5YR4/3 (にぶい赤褐)	0.5mm以下の長石含む。	No.13
19	赤土器 高杯	- (12.3) (5.5)	内 ヘラナア・胴部ヨコナア 外 ミガキ後赤色塗彩	脚部1/4残存 内 10YR6/6 (明黄褐) 外 10R5/6 (赤)	~1mmの長石含む。	II区
20	土器器 小皿丸底	- (6.1)	内 ヘラナア 外 胴部→胴部上半ナア・脚部下半ヘラケズ リ→ナア	胴部~底部1/2残存 内 5YR5/3 (にぶい赤褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	5mmの長石・石炭含む。	D 1
21	土器器 壺	(19.8) - (4.6)	内 口縁ヨコナア→ヘラナア 外 ヨコナア	口縁1/4残存 内 5YR6/6 (橙) 外 2.5YR8/8 (橙)	0.5mmの長石・赤色粒子含む。	D 1
22	土器器 壺	17.0 - (3.9)	内 口縁ヨコナア・胴部ナア 外 口縁ヨコナア・胴部ヘラナア (様目) → ミガキ	口縁完形 内 10YR7/4 (にぶい黄褐) 外 10YR7/3 (にぶい黄褐)	0.5mm以下の長石少量含む。 緻密。	No.1
23	土器器 壺	(20.7) - (5.4)	内 口縁ヨコナア→短文 (→黒色処理?) 外 口縁ヨコナア→短文	口縁ほぼ完形 内 7.5YR6/6・7.5YR2/1 (橙・黒) 外 5YR6/6 (橙)	~0.5mm以下の長石・黒色粒 子含む。	No.4

24	弥生土器 高杯	(23.6) - (4.4)	内 外	ミガキ・赤色塗彩 ミガキ・赤色塗彩	口縁1/4残存 内 10R3/4 (暗赤) 外 10R3/4 (暗赤)	0.5mm~1mmの長石含む。	Ⅱ区	
25	土師器 壺	8.7 4.5	内 外	ヘラナデ (柘目) ミガキ?	底部完形 内 7.5YR7/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	0.5mm~1mmの長石・黒色 粒子・赤色粒子多く含む。	No.7	
26	弥生土器 壺	(14.0) - (4.5)	内 外	口縁ヨコナデ→ミガキ 口縁ヨコナデ 文 口縁・胴部8~9本1組の櫛描波状文	口縁1/4残存 内 10YR5/4 (にぶい黄銅) 外 7.5YR5/3 (にぶい橙)	1mm以下の長石含む。	Ⅰ区1層	
27	弥生土器 壺	(18.2) - (6.9)	内 外	ミガキ 口縁ヨコナデ・ヘラナデ (柘目) 文 口縁8~9本1組の櫛描波状文 胴部8~9本1組の櫛描波状文 頸部9本1組の櫛描波状文 (-逆止)	口縁1/4残存 内 2.5Y7/3 (浅黄) 外 10YR7/4 (にぶい黄銅)	0.5mm以下の長石含む。	Ⅱ区 Ⅱ区1層	
番号	種類	長さ	巾	高さ	g	備考	出土位置	
28	台石	17.4	12.1	5.5	1,580	安山岩	No.14	
29	スリ石	8.8	5.1	4.1	220	安山岩 中央に打痕あり。	Ⅳ区	
30	台石	20.4	18.5	7.8	3,540	安山岩 スリ面3	No.15	
31	ミガキ石	2.75	1.35	0.75	5.4	砂石 焼成される。	Ⅲ区3層	
☆						滑石の薄片1点あり。		
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
32	土師器 土製円板	3.2 4.1 0.6	内 外	ヘラナデ (柘目) ミガキ		一部欠損 内 10YR8/4 (浅黄橙) 外 5YR7/6 (橙)	~0.5mmの長石含む。	Ⅰ区

89) H91号住居址 (第140・141図、図版58・111)

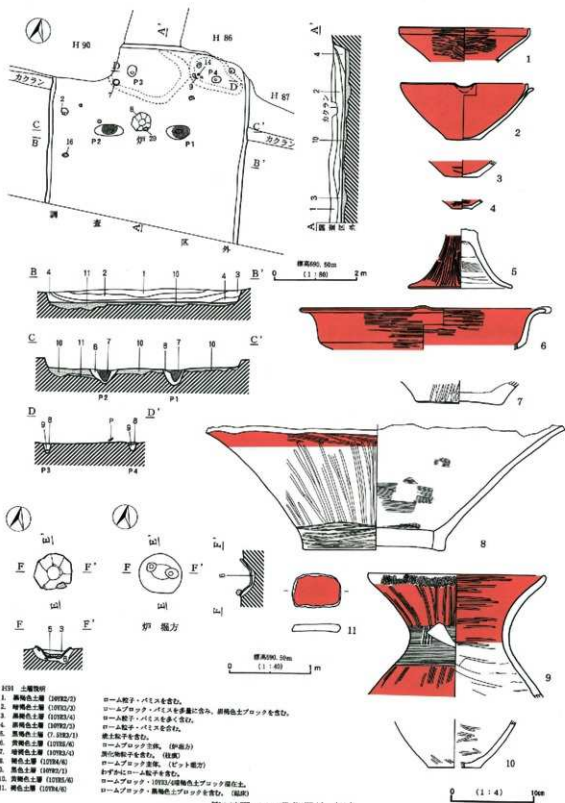
Nに8グリットにあり、ローム層中に構築される。H86・H87・H90に切られる。南は調査区域外である。南北432cmを調査し、東西469cmを測り、隅丸長方形を呈す。長軸方位は北より10°西へ振れる。炉が北列の柱柱穴間にあり、8の壺形土器胴下部が炉底に使用されていた。円形で径44cm、深さ13cmを測る。壺と炉の隙間間に、8の壺上部である赤色塗彩された蓋胴部片が嵌め込まれていた。炉底には焼土が見られた。柱柱穴はP1とP2で、長径66~70cm、短径28~32cmの楕円形を呈する。北壁から40cmほど内側にP3があり、椀持ち柱であろうか。北東に小ピットが見られた。

出土遺物には弥生式土器、土製円板 (11)、スリ石 (16)、砥石 (17)、掘り物石 (19)、礫石 (19) がある。弥生式土器杯 (1~3) はいずれも赤色塗彩される。高杯はやはり赤色塗彩され、6は口縁が外反するものである。炉に使用された大型の赤色塗彩の壺 (8) は胴下部が外反して外傾する。9の壺はやはり赤色塗彩され、口縁部に櫛描波状文、頸部に櫛描波状文・櫛描線文が巡る。

これらより本址は弥生時代後期後葉の住居址であろう。

第83表 H91号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
1	弥生土器 杯	(16.2) - (4.2)	内 外	ミガキ・赤色塗彩 ミガキ・赤色塗彩		口縁1/6残存 内 10R1/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	0.5mmの長石・茶色粒子含む。	Ⅲ区2層
2	弥生土器 鉢 (片口)	15.7 4.2 6.9	内 外	ミガキ (単位不明)・赤色塗彩 底部ミガキ・赤色塗彩 ミガキ (単位不明)・赤色塗彩 底部ミガキ・赤色塗彩		3/4残存 内 10R5/8 (赤) 外 10R5/6 (赤)	0.5mmの長石・黒色粒子・石 質含む。	No.1 Ⅳ区
3	弥生土器 杯	(4.2) - (2.1)	内 外	ミガキ・赤色塗彩・底部ミガキ ミガキ・赤色塗彩・底部ミガキ		底部1/3残存 内 10R5/8 (赤) 外 10R5/8 (赤)	1mmの長石含む。	Ⅱ区
4	弥生土器 杯	- (2.4) (1.2)	内 外	ミガキ・赤色塗彩 ミガキ・赤色塗彩・底部ナデ・赤色塗彩		底部1/2残存 内 10R4/6 (赤) 外 10R4/6 (赤)	~0.5mmの長石含む。	カクラン
5	弥生土器 高杯	(12.8) - (7.2)	内 外	ヘラナデ (柘目)・裾部ヨコナデ・杯部 ミガキ・赤色塗彩 外 ミガキ・赤色塗彩		胴部1/3残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 10R4/6 (赤)	0.5mmの長石・石英含む。	検出
6	弥生土器 高杯	(30.2) - (5.3)	内 外	ミガキ・赤色塗彩 ミガキ・赤色塗彩		口縁1/4残存 内 10R5/6 (赤) 外 10R5/6 (赤)	~0.5mmの長石含む。	Ⅲ区3層

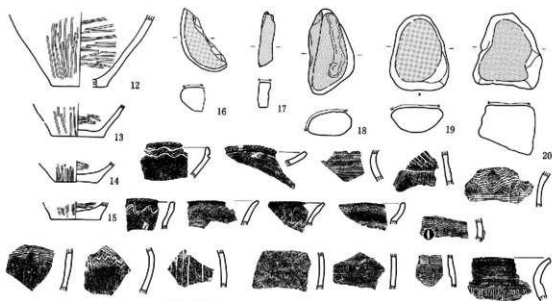


101 土層説明

1. 黒褐色土層 (10102/2)
2. 暗褐色土層 (10103/2)
3. 黒褐色土層 (10103/4)
4. 黒褐色土層 (10102/3)
5. 黒褐色土層 (7.10103/1)
6. 黒褐色土層 (10103/4)
7. 暗褐色土層 (10103/4)
8. 黒色土層 (10104/4)
9. 黒色土層 (10103/3)
10. 黒褐色土層 (10103/4)
11. 褐色土層 (10104/4)

ローム靴子・パミスを含む。
 ロームブロック・パミスが多量に含む。黒褐色土ブロックを含む。
 ローム靴子・パミスを含む。
 ローム靴子・パミスを含む。
 靴土靴子を含む。
 ロームブロックを含む。(伊直山)
 炭化物靴子を含む。(伊直山)
 ロームブロックを含む。(ビット敷方)
 わずかにローム靴子を含む。
 ロームブロック・10103/4暗褐色土ブロック層に上。
 ロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。(黒山)

第140図 H91号住居址 (1)



第141図 H91号住居址 (2)

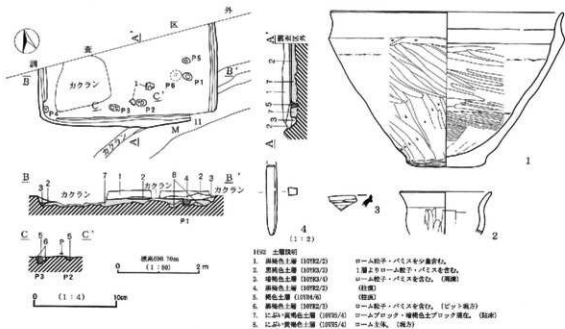
7	弥生土器 壺	- 10.7 (2.5)	内 剥落 外 ミガキ・底部ミガキ	底部完形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	0.5mmの長石・石英含む。	No.2	
8	弥生土器 壺	17.4 (15.4)	内 ヘラナダ (椀目) 彫面が剥落している。 外 ミガキ→赤色塗彩・底部ミガキ	内 7.5YR5/4 (にぶい黄) 外 7.5YR7/4・7.5R4/8 (にぶい橙・赤)	1~2mmの長石多く含む。 継欠損した状態ですべて使用か。	伊No.5 No.5 Ⅱ区	
9	弥生土器 壺	21.8 (15.0)	内 口縁→胴部ミガキ→赤色塗彩 胴部→胴部ヘラナダ 外 ミガキ→赤色塗彩(口縁→口縁・胴部除く) 文 口縁 磨蝕波状文(単位不明) 胴部 磨蝕波状文(因連止) 16本1組 磨蝕線文16本1組	口縁1/2残存 内 7.5YR7/6・7.5R4/8 (黄・赤) 外 7.5YR7/6・7.5R4/8 (黄・赤)	0.5mmの長石・黒色靑子含む。	No.3 Ⅰ区2層 H8 Ⅱ区堀方 Ⅱ区堀方	
10	弥生土器 壺	66.4 (5.9)	内 底部ミガキ 外 底部ミガキ	底部1/3残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	0.5mmの長石・石英含む。	Ⅰ区3層	
11	弥生土器 土製内蓋	4.2 5.9 0.8	内 摩耗のため判別できず 外 摩耗のため判別できず 赤色塗彩	完形 内 7.5YR8/4・2.5YR5/6 (洗黄橙・明赤黄) 外 7.5YR8/4・2.5YR5/6 (洗黄橙・明赤黄)	0.5mmの長石・赤色靑子含む。	Ⅰ区2層	
12	弥生土器 甕	66.8 (9.0)	内 底部ミガキ 外 底部ミガキ	底部1/4残存 内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	1mmの長石含む。	Ⅰ区3層 Ⅱ区	
13	弥生土器 甕	- 6.4 4.1	内 底部ミガキ 外 底部ミガキ	底部完形 内 2.5YR8/6 (にぶい橙) 外 2.5YR5/6 (にぶい橙)	0.5mmの長石・1mmの黒色 靑子含む。	Ⅱ区3層	
14	弥生土器 甕	(5.2) (2.6)	内 ミガキ・底部無調整 外 ミガキ・底部無調整	底部4/5残存 内 5YR5/6 (橙) 外 5YR5/4 (にぶい橙)	0.5mmの長石・石英含む。	No.4	
15	弥生土器 甕	- 6.1 (2.2)	内 底部ミガキ 外 底部ミガキ	底部完形 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR5/3 (にぶい黄)	0.5mmの長石・石英含む。	Ⅱ区3層	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	μ	備考	出土位置
16	スリ石	(7.5)	(5.8)	3	(110)	安山岩 全体に磨耗	No.6
17	磁石	6.7	1.9	3.2	50	磁砂岩	横出
18	磁物石	10.5	5.6	3	250	石質?	Ⅱ区
19	磁石	9.2	7.2	3.1	320	安山岩 磨打面△印部にあり。スリ面1	
20	伊緑石	9.2	8.5	6.1	600	安山岩 スリ面1	No.7
☆						滑石の剥片2点・黒色磁器安山岩1点あり。	

90) H92号住居址 (第142図、図版50・112)

M11グリットにあり、ルーム層中に構築される。M11にきられ、P472を切る。また擾乱が西に入る。北側は調査区域外で住居址の南半城の調査である。南北調査域200cm、東西長404cmを測る。カマドはなく、軸方位は北より11°東に振れる。主柱穴はP1で、浅いビットである。南壁下中央に2個の出入り口のビットがある。壁下には周溝が巡る。

出土遺物には須恵器壺口縁部片(3)、土師器鉢(1)、土師器壺(2)、鉄製軸(4)がある。土師器鉢はヘラケズリ後粗いミガキ調整される。2の土師器小型壺ないし鉢は内面黒色処理、外面ヘラナデされる。

これらより本址は古墳時代後期であろう。



第142図 H92号住居址

第84表 H92号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調査	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	灰土器 鉢	(28.5) (9.7) 18.9	内 ヘラナデ(径目)→ナデ及び粗いミガキ 外 ヘラケズリ及び粗いミガキ・口縁コナ デ	口縁一部・底部1/2残存 内 SYR6/6 (橙) 外 SYR7/6 (橙)	1mm以下の長石・黒色粒子 含む。小石含む。	No.1・2 Ⅲ・Ⅳ区	
2	土師器 壺	(11.3) - (5.2)	内 ヘラナデ→黒色処理 外 口縁コナデ・胴部ナデ後ミガキ	口縁一部残存 内 SYR1.7/1 (黒) 外 SYR5/6 (明赤陶)	0.5mmの長石含む。1mm程度の 茶色粒子含む。	Ⅲ区	
3	須恵器 壺	- -	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	破片 内 N3/0 (緑灰) 外 N3/0 (緑灰)	0.5mmの長石含む。	Ⅲ区	
番号	器種	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
4	鉄軸	<4.2>	<0.6>	<0.5>	<5.5>	鉄製品	Ⅲ区

91) H93号住居址 (第143・144図、図版59・111・112)

Mい8グリットにあり、ローム層中に構築される。湧水が激しく、常にポンプで水をあげながらの調査であった。湧水のため床面の検出は容易ではなく、また柱穴は土層断面をとどころか、歩いてると足が落ち込むことでもわかる状況であった。南側は調査区域外である。H94を切る。南北調査域360cm、東西504cmを測る。方形を呈するであろうか。軸方位は北より6°東に振れる。主柱穴は東西壁下のP1・P2で2本柱の住居である。炉は東壁主柱穴の西70cmほどにあり、中央より東に寄っている。5の壺形土器を炉底に置いている。円形で径21cm、深さ14cmを測る。北西隅には径90cm、深さ40cmの円形土坑がある。P3は床より10cmほど下がる。

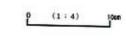
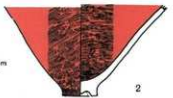
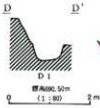
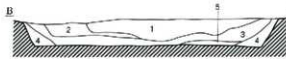
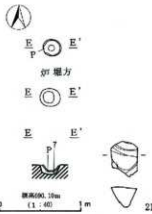
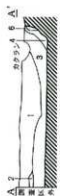
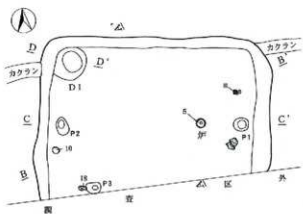
出土遺物には弥生式土器、磁石(18)、編物石(19)、スリ石(20)がある。検出で土師器高杯脚部(17)が出土し混入品である。弥生式土器の高杯は赤色塗彩され、1の杯底部は緩やかな外縁を持って直立し、口縁部は強く外反して外方に伸びる。2の高杯は脚部の割れ目が擦られており、脚部欠損後も使用したようである。壺(4)は無彩でミガキ調整される。壺(5)は炉底に使用され、外面は胴下部も赤色塗彩される。壺(10)は脚指波状文が口縁部に一条、頸部に一条、胴上部に5条施される。壺(11)は小型品で内外ミガキ調整で施文されていない。

これらより本址は弥生時代後期後葉であろう。

本址より出土した炭化材は、クリと樹種同定された。

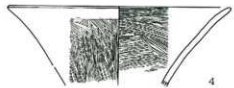
第85表 H93号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	20.5 - (10.3)	内 ミガキ・赤色塗彩 外 ミガキ・赤色塗彩	杯部ほぼ完形 内 7.5R4/8 (赤) 外 7.5R4/8 (赤)	0.5mmの長石含む。	Ⅱ区
2	弥生土器 高杯	(4.3) (11.3)	内 杯部ミガキ・濃い赤色塗彩 底部ヘラナダ 外 杯部ミガキ・濃い赤色塗彩 底部ヘラナダ	杯部完形 内 10R/6 (赤) 外 10R/2 (暗赤)	1mm以下の長石多量に含む。 縦溝。 ※脚部欠損後再加工	Ⅱ区 Ⅳ区 P1 検出
3	弥生土器 高杯	12.2 (7.1)	内 杯部ミガキ・赤色塗彩 脚部ヘラナダ(柘目)・網部ヨコナダ 外 ミガキ・赤色塗彩	底部完形 内 7.5YR6/3 (にぶい黄) 外 2.5YR4/8 (赤褐)	0.5mm以下の長石含む。	Ⅳ区
4	弥生土器 壺	(27.2) (9.9)	内 ヘラナダ(柘目)→口縁ヨコナダ・ミガキ 外 ヘラナダ(柘目)→口縁ヨコナダ・ミガキ	口縁1/2残存 内 7.5YR7/3 (にぶい黄) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	0.5mm以下の長石含む。	Ⅱ区
5	弥生土器 壺	7.8 (13.7)	内 ヘラナダ 外 ミガキ・赤色塗彩	底部完形 内 7.5R4/8 (赤) 外 7.5YR4/6 (黄)	0.5mmの長石含む。	炉No.2 Ⅱ区味
6	弥生土器 壺	(6.8) (1.6)	内 ヘラナダ 外 胴・底部ミガキ・胴部赤色塗彩	底部1/2残存 内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 2.5Y2/1 (黒)	~0.5mm以下の長石含む。	Ⅰ区3層
7	弥生土器 壺	(8.4) (3.3)	内 ヘラナダ 外 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部1/4残存 内 2.5Y3/1 (黒褐) 外 10YR7/6 (明黄橙)	~0.5mm以下の長石含む。	Ⅱ区
8	弥生土器 壺	(5.8) (1.5)	内 ヘラナダ 外 胴部ミガキ・底部ヘラナダ(柘目)	底部完形 内 7.5YR8/4 (浅黄橙) 外 5YR2/1 (黒褐)	~0.5mm以下の長石含む。	Ⅱ区
9	弥生土器 壺	(6.0) (4.0)	内 ヘラナダ(柘目) 外 ヘラナダ	底部1/4残存 内 10YR5/4 (にぶい黄褐) 外 7.5YR6/6 (橙)	~0.2mmの長石含む。	検出
10	弥生土器 壺	14.8 - (14.3)	内 ミガキ 外 ヘラナダ(柘目) 文 口縁~胴部中央5本1組の脚指波状文 胴部下ミガキ	口縁完形 内 5YR6/6 (黄) 外 7.5YR6/6 (黄)	~1mmの長石含む。	Ⅳ区 No.1
11	土師器 壺	10.3 5.0 13.3	内 ミガキ 外 ミガキ	底部完形 内 7.5YR4/6 (黄) 外 5YR3/3 (暗赤褐)	~1mmの長石・赤色粒子含む。	Ⅱ区
12	弥生土器 壺	(14.3) - (2.3)	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁1/8残存 内 5YR4/3 (にぶい赤褐) 外 5YR3/2 (暗赤褐)	~0.2mmの長石含む。	Ⅰ区3層
13	弥生土器 壺	7.2 (2.7)	内 ミガキ(磨耗) 外 ミガキ・底部ナダ	底部完形 内 7.5YR6/6 (黄) 外 7.5YR4/4 (黄)	~0.5mmの長石含む。~1mmの赤色粒子含む。	Ⅰ区3層
14	弥生土器 壺	(6.6) (5.7)	内 ミガキ 外 ミガキ・底部ミガキ	底部1/2残存 内 2.5YR3/2 (暗赤褐) 外 5YR4/2 (灰褐)	~0.5mmの長石含む。	検出

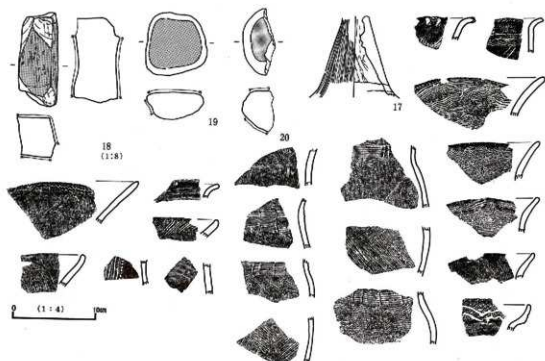


0 (1:4) 10cm

- 193 土層説明
1. 黒褐色土層 (19792/2) ~1cm厚のバリス・ローム粒子を含む。
 2. 褐色土層 (18982/1) バリス・ローム粒子を少し含む。
 3. 暗褐色土層 (12792/3) ロームゴック・ローム粒子・バリスを多量に含む。
 4. 褐色土層 (18982/1) バリス・ローム粒子をわずかに含む。
 5. 黒褐色土層 (19792/2) バリス・ローム粒子を含む。
 6. 黄褐色土層 (18795/3) (砂状土)
 7. 黄褐色土層 (18795/3) ローム土塊。(砂状土)



第143図 H193号住居址(1)



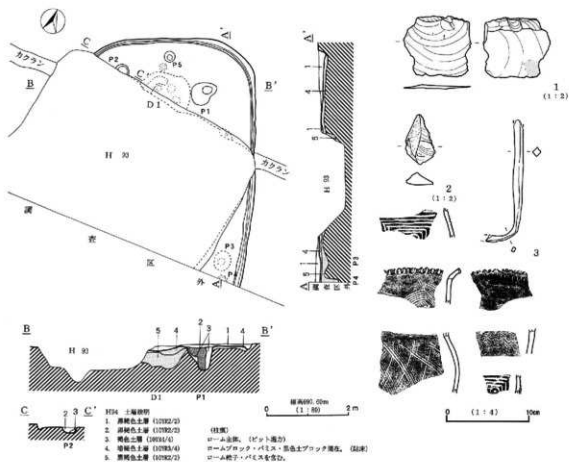
第144図 H93号住居址(2)

15	弥生土器 甕	- (仮) (2.7)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ	底部1/2残存 内 10YR6/4 (にぶい黄褐色) 外 10YR6/3 (にぶい黄褐色)	~0.5mmの長石含む。	I区3層	
16	弥生土器 台付壺	- (仮) (3.3)	内 ヘラナデ(縦目) 外 ミガネ	底部1/4残存 内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	~0.5mmの長石含む。	Ⅲ区3層	
17	土師器 高杯	- (10.0)	内 ナデ 外 ナデ+繪文	胴部3/4残存 内 2.5YR5/8 (明赤褐色) 外 2.5YR5/8 (明赤褐色)	~1mmの長石・茶色粒子少量含む。	検出	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
18	流石	23.1	9.6	9.6	3,280	石質? スリ面3	No.4
19	埴物石	7.7	7.4	3.3	240	多孔質安山岩	
20	スリ石	8.2	<4.0>	5.0	<180>	安山岩 難削に打痕あり。	Ⅲ区1層
21	割片	4.3	3.4	2.5	30		I区3層
☆						滑石の割片1点・黒色緻密安山岩1点あり。	

92) H94号住居址 (第145図、図版60)

Mい8グリットで、ローム層中に構築される。南は調査区外である。H93に大半を切られ壊される。南北の調査域556cm東西残長312cmを測り、隅丸長方形を呈す。長軸方位は22°北より西に振れる。主柱穴は北東にあるP1が検出された。長径80cm、深さ56cmの堀方に柱痕が残っていた。北壁側中央にP3があり深さ30cmを測り、棟持ち柱であろう。床下にD1がある。H93に切られ、半分壊されるが径128cm深さ52cmを測る。南東床下ではピットが見つかり、深さ30cmを測る(P4)。堀下には周溝が巡る。

出土遺物には弥生式土器、黒色緻密安山岩の割片(1・2)、鉄製軸(3)がある。鉄製品は住居址の壁高が浅いことから埋入であろう。弥生式土器は拓本に示したものは壘形土器であるが口唇部に刻みをもち、縦羽状の櫛捺斜走文などがある。



第145図 H94号住居址

第86表 H94号住居址出土遺物一覧表

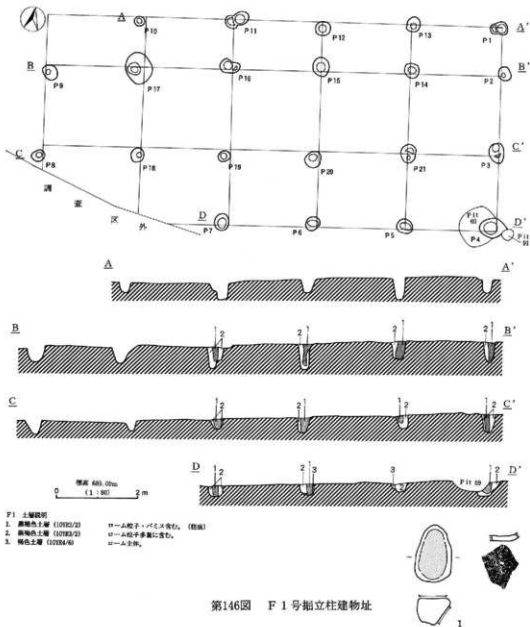
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
1	割片	3.7	4.15	0.25	4.9	黒色緻密安山岩	D1
2	割片	3.1	1.86	0.75	3.0	黒曜石	床下土塊
3	(砂鏝車?)輪	<7.5>	<0.6>	<0.5>	<7.7>	鉄製品	I区
☆						黒色緻密安山岩の割片2点あり。	

第2節 掘立柱建物址

1) F1号掘立柱建物址 (第146図、図版61・112)

Aお7グリットにあり、塚原泥流2次堆積層中に構築する。M1を切る。桁行き11.2m梁行き5.04mを測り、5間×2間の総柱式の掘立柱建物址である。北に庇がつく。主軸方位はN-10°-Wを指す。桁行柱間2.24m、梁間柱間1.92m北縁は1.2mを測る。柱穴の規模は短径28~48cm、深さ20~64cmを測る。P12からスリ石。土器片は須恵器、土師器片が出土している。

本址はM1を切ることから中世が該期であろうか。



2) F 2号掘立柱建物址 (第147図、図版61)

Aう9グリットにあり、塚原泥流2次堆積層中に構築する。南は調査区域外である。H3を切る。桁行き4.32m梁行き調査域で1.96mを測り、2間×〈1〉間の総柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-2°-Wを指す。桁行柱間2.16m、梁間柱間1.96mを測る。柱穴の規模は短径24~36cm深さ20~24cmを測る。遺物は須恵器杯片が出土している。

本址はビット規模・柱間などがF1と似ており、中世であろうか。

3) F 3号掘立柱建物址 (第147図、図版61)

Aう9グリットにあり、塚原泥流2次堆積層中に構築する。南は調査区域外で北東のみ調査した。桁行き4.16m梁間調査域で2.0mを測り、〈2〉間×〈1〉間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-10°-Wを指す。桁行柱間2.08m、梁間柱間2.0mを測る。柱穴の規模は短径36~56cm深さ28~44cmを測る。遺物はない。

本址はビット規模・柱間などがF1・F2と似ており、中世であろうか。

4) F 4号掘立柱建物址 (第147図、図版61)

Dい9グリットにあり、H42号住居址覆土中に構築する。桁行き2.28m梁間2.32mを測り、1間×1間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-0°を指す。柱穴の規模は短径48~68cm、深さ12~32cmを測る。遺物は須恵器・土師器片を出土する。

本址は平安時代の住居址を切っていることから平安時代または以降である。

5) F 5号掘立柱建物址 (INPK F7と同一の掘立柱建物址) (第147図、図版61)

Bく6グリットにあり、塚原泥流2次堆積層中に構築する。北は調査区域外 (INPK) で南西のみ調査した。INPK F7と同一の掘立柱建物址である。桁行き4.24m梁間調査域で〈1.76〉mを測り、2間×〈2〉間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-15°-Wを指す。桁行柱間2.16m、梁間柱間1.76mを測る。柱穴の規模は短径56~72cm深さ40~48cmを測る。遺物はない。M3からは古墳時代後期上層片が出土する。それ以降の遺構である。

6) F 6号掘立柱建物址 (第148図、図版61)

Bか7グリットにあり、砂層中に構築する。桁行き4.08m梁行き3.84mを測り、2間×1間の側柱式の掘立柱建物址である。東西間は重複するD12・D20に壊されているかも知れない。主軸方位はN-58°-Wを指す。桁行柱間2.04m、梁間柱間1.92mを測る。柱穴の規模は短径40~48cm深さ24~40cmを測る。遺物はない。

7) F 7号掘立柱建物址 (第148図、図版61)

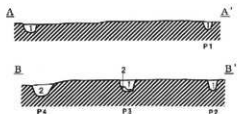
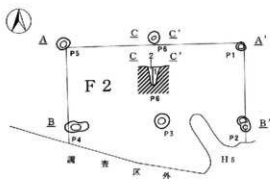
Bか7グリットにあり、砂層中に構築する。北は調査区域外で南西のみ調査した。H8と重複し新旧は不明である。桁行き3.84m、2間×〈-〉間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-47°-Wを指す。桁行柱間1.92mを測る。柱穴の規模は短径48cm深さ40~56cmを測る。土師器丸胴壺、杯片がある。

8) F 8号掘立柱建物址 (第148図、図版61・112)

Fい9グリットにあり、砂層中に構築する。H14・17に切られ、H18・H19を切る。南は掘乱が入る。桁行き4.08m梁間〈1.68〉mを測り、3間×〈2〉間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-14°-Wを指す。桁行柱間1.60m、梁間柱間1.68mを測る。柱穴の規模は短径36~56cm深さ30~44cmを測る。

遺物は須恵器短頸壺、弥生式土器がある。

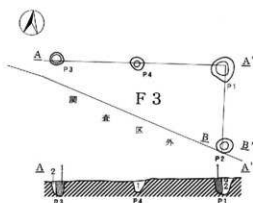
奈良時代のH17、古墳時代後期のH14に切られ、古墳時代のH19を切ることから古墳時代後期の掘立柱建物址である。



標高 698.00m
(1:80) 2m

F2 土層説明
1. 黒褐色土層 (10192/2)
2. 暗褐色土層 (10193/2)

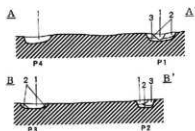
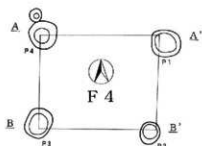
地山砂含む。
地山砂多く含む。



F3 土層説明
1. 黒褐色土層 (10192/2)
2. 暗褐色土層 (10193/2)

地山砂多く含む。(埋藏)
地山砂含む。

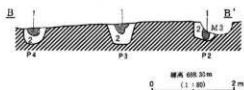
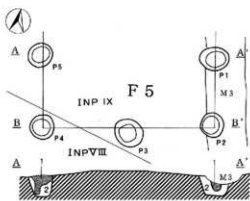
標高 698.00m
(1:80) 2m



標高 689.10m
(1:80) 2m

F4 土層説明
1. 黒褐色土層 (10192/2)
2. 黒褐色土層 (10192/2)
3. 暗褐色土層 (10193/2)

小礫・地山砂少量含む。
小礫・地山砂含む。
地山砂多く含む。

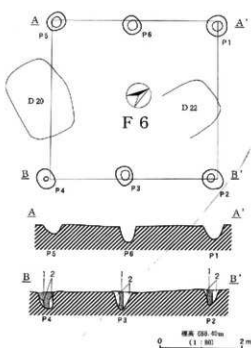


F5 土層説明
1. 黒褐色土層 (10192/2)
2. 黒褐色土層 (10192/2)

ローソク・パミス・小形骨含む。
黄褐色砂ブロック多く含む。

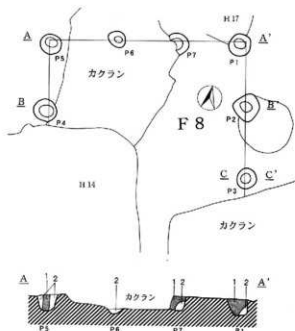
標高 698.55m
(1:80) 2m

第147図 F2～F5号据立柱建物址



F6 土層説明

1. 黒色土層 (10YR1.5/1) 地山砂・小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多く含む。



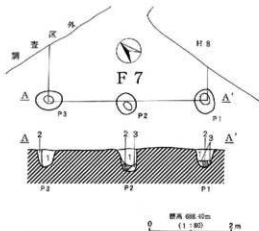
F8 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・ローム砂子・小石含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石含む。

(縮尺)

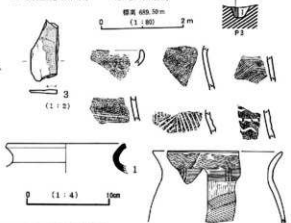
標高 688.50m

0 (1:80) 2m



F7 土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1) 地山砂・小石含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多く含む。



第148図 F6～F8号掘立柱建物址

9) F9号掘立柱建物址 (第149図、図版61・112)

H<8グリットにあり、砂層中に構築する。北は調査区域外である。M6を切る。桁行き4.00m梁間3.2mを測り、2間×2間の備柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-0°を指す。桁行柱間2.00m、梁間柱間1.60mを測る。

柱穴の規模は短径44～48cm深さ20～48cmを測る。遺物はP1から底部回転ヘラ切り離し須恵器杯、P6から内面黒色処理の土師器杯、滑石製石製模造品の有孔円板がある。

これらより本址は奈良時代であろうか。

10) F10号掘立柱建物址 (第149図、図版61)

Aお8グリットにあり、塚原泥流2次堆積層中に構築する。南は調査区域外である。桁行き4.56m梁間1.44mを測り、3間×1間の側柱式?の掘立柱建物址である。主軸方位はN-0°を指す。桁行柱間1.52m、梁間柱間1.44mを測る。柱穴の規模は短径24～32cm深さ24～30cmを測る。遺物はない。

規模形態がF1・F2などと似ており、中世であろうか。

11) F11号掘立柱建物址 (第149図、図版61)

Fく9グリットにあり、砂層中に構築する。H40を切り、H34に切られる。H35との新旧は不明。桁行き5.52m梁間4.44mを測り、3間×3間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-17°-Wを指す。桁行柱間1.84m、梁間柱間1.48mを測る。柱穴の規模は短径28～40cm深さ10～24cmを測る。遺物はない。

これらより本址は奈良時代のH34に切られ、古墳時代後期のH40を切っているため奈良から古墳時代後期であろうか。

12) F12号掘立柱建物址 (第150図、図版62・112)

Dあ9グリットにあり、砂層中に構築する。H46を切る。M7・H42・H44に切られる。桁行き8.0m梁間8.0mを測り、5間×5間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-7°-Wを指す。桁行柱間2.00m、梁間柱間2.0mを測る。柱穴の規模は短径52～76cm深さ16～60cmを測る。遺物は、土師器飯、土師器丸胴甕、須恵器土製円板、P2から弥生式土器壺がある。

これらより本址は古墳時代中期のH46を切り、古墳時代後期のH44に切られることから古墳時代後期であろうか。

13) F13号掘立柱建物址 (第151図、図版62)

Dか8グリットにあり、砂層中に構築する。桁行き3.12m梁間2.96mを測り、1間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-5°-Wを指す。桁行柱間3.12m、梁間柱間1.48mを測る。柱穴の規模は短径46～54cm深さ44～56cmを測る。遺物はP2から丸胴甕片、P3から長胴甕片が出土する。

これらより本址は古墳時代以降であろうか。

14) F15号掘立柱建物址 (第151図、図版62)

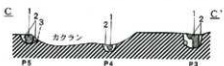
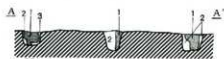
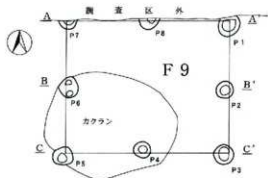
Dえ9グリットにあり、住居址覆土中に構築する。H50・H52を切り、H51に切られる。桁行き4.56m梁間3.52mを測り、3間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-0°を指す。桁行柱間1.52m、梁間柱間1.76mを測る。柱穴の規模は短径56～60cm深さ40～44cmを測る。遺物は土師器甕片が出土する。

これらより本址はH51の平安時代より以前で、H50の奈良時代以降といえる。

15) F16号掘立柱建物址 (第151図、図版62)

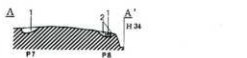
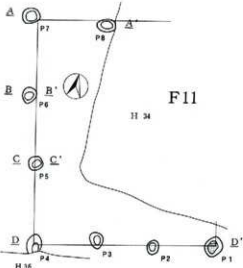
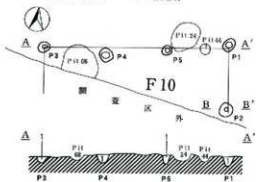
Bこ7グリットにあり、塚原泥流2次堆積層中に構築する。H4と重複新旧不明。桁行き5.40m梁間4.16mを測り、3間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-0°を指す。桁行柱間1.80m、梁間柱間2.08mを測る。柱穴の規模は短径28～36cm深さ14～24cmを測る。遺物はない。

本址は重複遺構との新旧が不明であるため時期はわからないが、柱穴規模などからは中世の可能性はある。

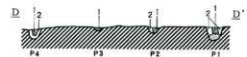


標高 485.70m
0 (1:80) 2m

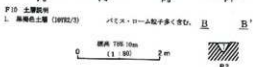
- F9 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱脚)
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パテ多を含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多。



標高 499.30m
0 (1:80) 2m

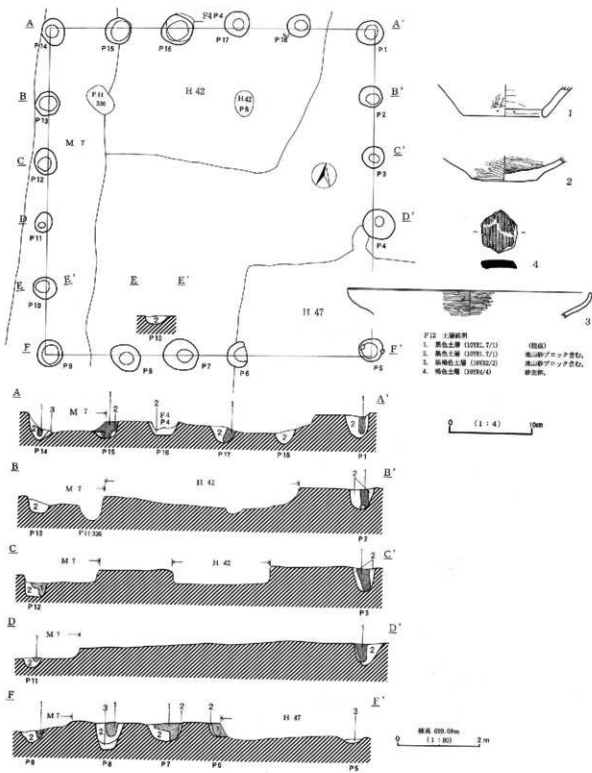


- F11 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱脚)
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 池山中多く含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子・小石多量を含む。

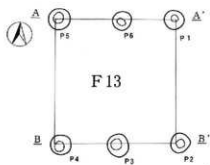


0 (1:4) 10m

第149図 F9～F11号掘立柱建物址



第150図 F12号掘立柱建物址

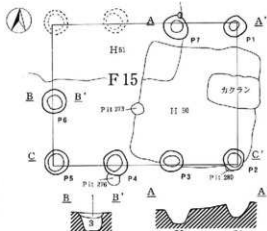


F13



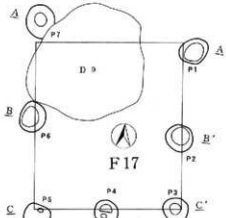
- F13 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10792/2) (H層)
 2. 赤褐色土層 (10792/2) 流石のブロック状。
 3. 赤褐色土層 (10792/2) 流石の多量に含む。

標高 684.90m (1:80) 2m

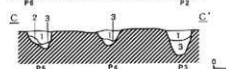


- F15 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10792/2) 地石・小石を含む。(H層)
 2. 赤褐色土層 (10792/2) 地石・小石含む。
 3. 赤褐色土層 (10792/2) 2層より赤褐色、小石多く含む。
 附P1121層裏面・P7は2層3階の礎土。
 附北側は流石の丸の礎土でできた。

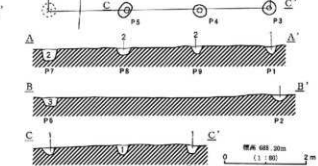
標高 688.90m (1:80) 2m



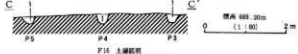
F17



- F17 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10792/2) 小石・地石を含む。
 2. 赤褐色土層 (10792/2) 小石・地石多く含む。
 3. 2層より赤褐色土層 (10792/2) 流石多量含む。



F16



- F16 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10792/2)
 2. 赤褐色土層 (10792/2)
 3. 黒褐色土層 (10792/2)

①→A筋手・P12木含む。
 礎石・地石を含む。
 礎石・地石多く含む。

標高 689.30m (1:80) 2m

第151図 F13・F15～F17号掘立柱建物址

16) F17号掘立柱建物址 (第151図、図版62)

Hく10グリットにあり、砂層中に構築する。D9・H24に切られ、H49を切る。桁行き4.08m梁間3.60mを測り、2間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-7°-Wを指す。桁行柱間2.08・2.40m、梁間柱間1.8mを測る。柱穴の規模は短径60~68cm深さ22~60cmを測る。遺物は弥生式土器壺・壺片、古墳時代土師器甕・杯片を出土する。

これらより本址は古墳時代以降D9の中世以前である。

17) F18号掘立柱建物址 (第152図、図版62・112)

Gこ2グリットにあり、砂層中に構築する。M9に切られH67・M6を切る。桁行き2.64m梁間2.4mを測り、1間×1間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-7°-Eを指す。柱穴の形態は隅丸方形を呈し、規模は短径78~86cm深さ56~64cmを測る。遺物は、P1から須恵器杯、P3から須恵器高台付杯が出土する。須恵器杯は底部回転糸切りのままである。

これらより本址は奈良時代末~平安時代前葉であろうか。

18) F19号掘立柱建物址 (第152図、図版63)

Hく10グリットにあり、砂層中に構築する。D9・H24に切られる。桁行き3.60m梁間3.04mを測り、2間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-5°-Eを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径40~62cm深さ14~64cmを測る。遺物は、弥生式土器、古墳時代土師器長胴甕、内面黒色処理杯片が出土する。

これらより本址はH24奈良時代より以前である。

19) F20号掘立柱建物址 (第152図、図版63・112)

Dい2グリットにあり、砂層中に構築する。M9に切られH46・M6を切る。桁行き2.88m梁間2.0mを測り、2間×1間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-0°を指す。柱穴の形態は楕円形を呈し、規模は短径46~60cm深さ26~60cmを測る。遺物は、P3から須恵器杯、P4から土師器甕が出土する。須恵器杯は口クロ横ナデ調整である。

これらより本址は奈良時代末~平安時代前葉であろうか。

20) F21号掘立柱建物址 (第152図、図版63・112)

Gき2グリットにあり、砂層中に構築する。M9に切られる。南西は調査区域外である。桁行き4.08m梁間3.28mを測り、3間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-7°-Wを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径34~56cm深さ16~28cmを測る。遺物は、P1から弥生式土器中期壺I緑片、P5から土師器長胴甕片が出土する。

これらより本址は古墳時代以降中世のM9遺址以前である。

21) F22号掘立柱建物址 (第153図、図版63・112)

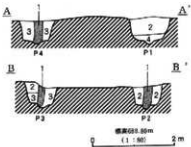
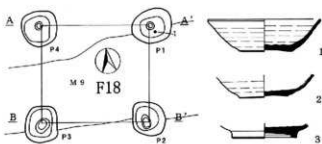
Gい2グリットにあり、砂層中に構築する。H16・H64・M9に切られH29を切る。南は調査区域外である。桁行き9.04m梁間(3.04)mを測り、4間×1間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-9°-Eを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径56~68cm深さ16~43cmを測る。遺物は、P5から土師器小鉢、P5・6から折本に示した弥生中期の壺片が出土する。

これらより本址はH16の古墳時代後期より旧く、H29の弥生時代中期より新しい。

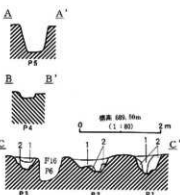
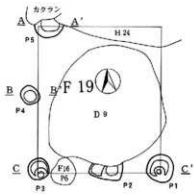
22) F23号掘立柱建物址 (第153図、図版63・112)

Fう10グリットにあり、砂層中に構築する。H14・H16・H65に切られる。桁行き5.28m梁間(1.44)mを測り、3間×1間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-0°を指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径30~60cm深さ12~68cmを測る。遺物はP1から土師器高杯・と甕、P2から土師器鉢、P3から土師器甕が出土する。

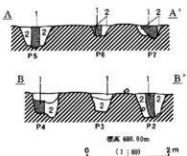
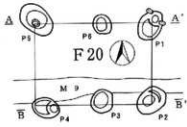
これらより本址は古墳時代後期のH14に切られており、古墳時代後期の土器片から古墳時代後期である。



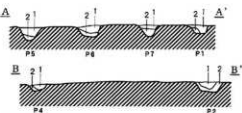
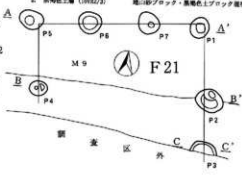
F18 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱痕) 小石・地山砂含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多量に含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多量に含む。
 4. 黒褐色土層 (10YR1.7/1) 小石多く、地山砂少々含む。



F19 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱痕) 地山砂・小石多量に含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多量に含む。

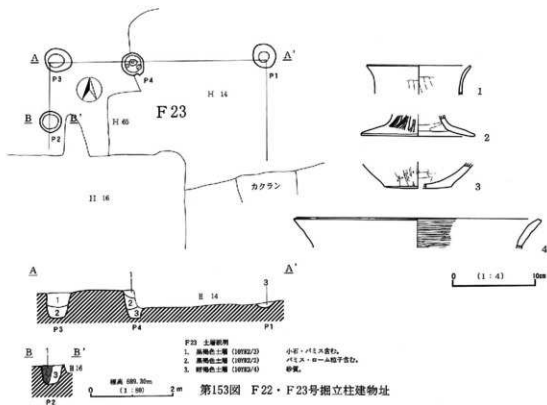
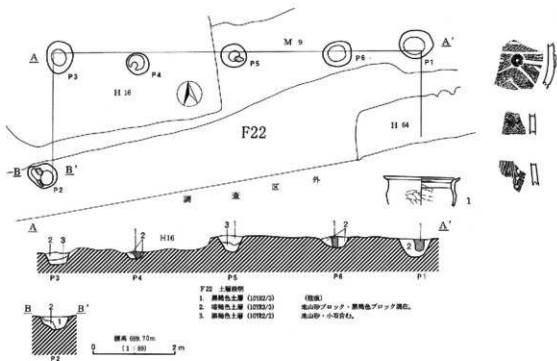


F20 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱痕) 地山砂・小石多量に含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多量に含む。



F21 土層説明
 1. 黒色土層 (10YR1.7/1) 地山砂・小石含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂少々。

第152図 F18～F21号掘立柱建物址



23) F 24号掘立柱建物址 (第154図、図版63・112)

D10グリットにあり、砂層中に構築する。M10を切る。桁行き5.12m梁間4.64mを測り、4間×4間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-6°-Wを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径36~52cm深さ16~48cmを測る。遺物は、P13から古墳時代の土師器杯が出土する。

これらより本址は古墳時代か古墳時代以降であろう。

24) F 25号掘立柱建物址 (第154図、図版63)

Eお1グリットにあり、砂層中に構築する。H52と重複し新旧は不明。桁行き3.52m梁間3.36mを測り、2間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-5°-Wを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径46~58cm深さ16~30cmを測る。遺物は、古墳時代の土師器丸胴甕片、高杯片、弥生式土器甕片がある。

これらより本址は古墳時代後期以降であろうか。

25) F 27号掘立柱建物址 (第154図、図版63)

Bえ9グリットにあり、砂層中に構築する。H73に切られ、H75を切る。桁行き4.0m梁間4.08mを測り、3間×3間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-20°-Wを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径32~39cm深さ14~43cmを測る。遺物は、P2から土師器杯が出土する。

これらより本址は古墳時代後期のH73に切られ、H75を切ることから古墳時代後期であろう。

26) F 28号掘立柱建物址 (第155図、図版63・112)

Dき10グリットにあり、砂層中に構築する。H54を切る。桁行き6.48m梁間4.0mを測り、3間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。南列は柱穴が1本多い。主軸方位はN-18°-Eを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径36~54cm深さ16~34cmを測る。遺物は、P1から拓本に示した弥生式土器甕片、P11から古墳時代後期の土師器小型甕が出土する。

これらより本址はH54の古墳時代後期以降であろう。

27) F 29号掘立柱建物址 (第155図、図版63)

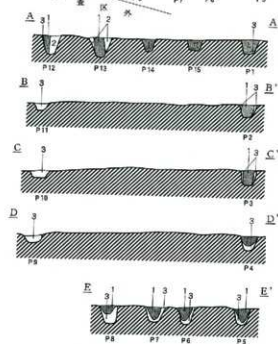
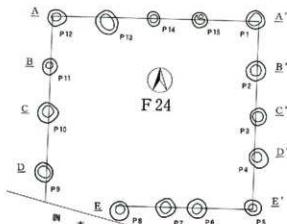
Bき7グリットにあり、砂層中に構築する。D20に南東ピットを切られる。桁行き4.20m梁間3.28mを測り、3間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-3°-Wを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径46~60cm深さ16~54cmを測る。遺物は、土師器長胴甕片、杯片、須恵器甕片がある。

これらより本址は古墳時代か古墳時代以降であろう。

28) F 30号掘立柱建物址 (第155図、図版64・112)

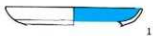
Bい9グリットにあり、砂層中に構築する。M4を切る。桁行き4.08m梁間3.44mを測り、3間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-10°-Wを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径40~56cm深さ12~44cmを測る。遺物は、土師器長胴甕・有段口縁の杯片、須恵器杯片がある。いずれも古墳時代後期の破片である。

これらより本址は古墳時代後期以降であろう。



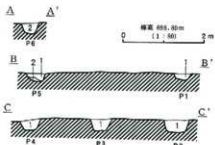
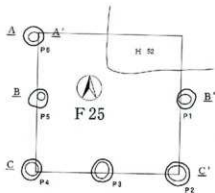
F24 土壤剖切

1. 黄褐色土層 (10YR2/2) 粘成。
2. 暗褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/2) 地山砂主成。



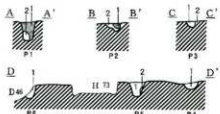
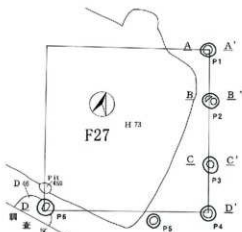
F27 土層剖切

1. 黄褐色土層 (10YR2/2) (粘成)
2. 暗褐色土層 (10YR3/2) 地山砂主成。



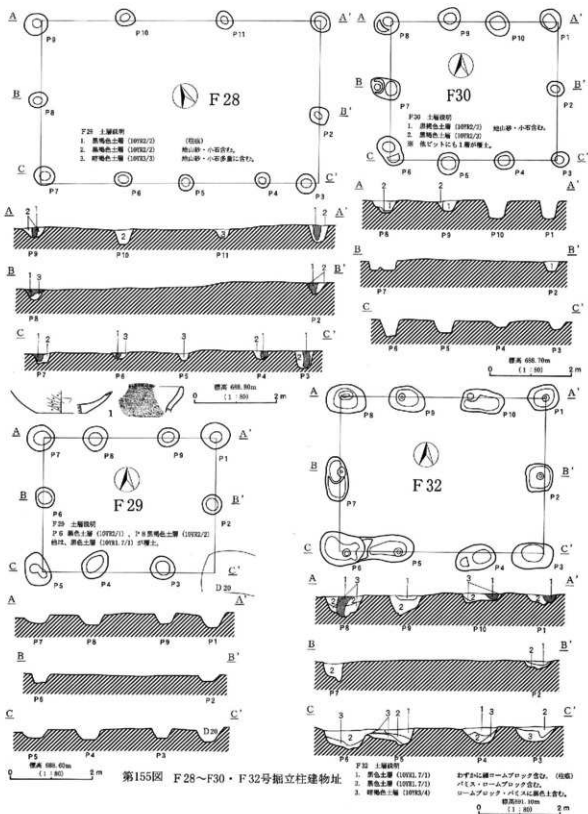
F25 土層剖切

1. 黄褐色土層 (10YR2/2) 小石少量含む。大礫含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/2) 地山砂・小石含む。

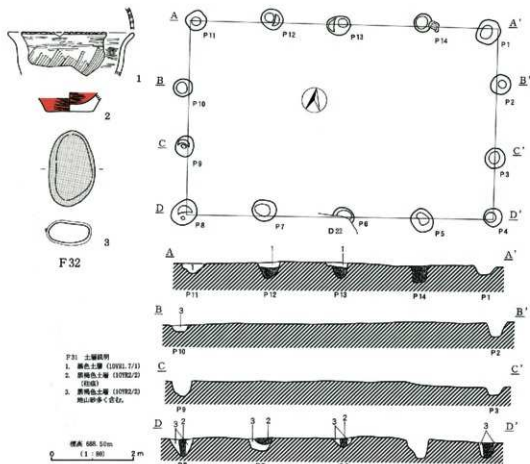


第154圖 F24・F25・F27号掘立柱建物址

標高 498.20m
(1:50) 2m



第155図 F28~F30・F32号掘立柱建物址



第156図 F31号掘立柱建物址

29) F31号掘立柱建物址 (第156図、図版64)

Bい9グリットにあり、砂層中に構築する。H11に切れられ、M4を切る。桁行き5.88m梁間4.80mを測り、4間×3間の榑柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-10°-Wを指す。柱穴の形態は円形を呈し、規模は短径42-60cm深さ16-50cmを測る。遺物は、土師器長胴・丸胴壺・杯片を出土する。

これらより本址は奈良時代のH11に切られることからそれより旧く、古墳時代後期の破片を含むことから古墳時代後期であろうか。

30) F32号掘立柱建物址 (第153・154図、図版64・112)

Nき7グリットにあり、ローム層中に構築する。H87・H88を切る。桁行き5.04m梁間3.78mを測り、3間×2間の榑柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-87°-Eを指す。柱穴の形態は楕円形を呈し、P5とP6は溝持ちビットである。規模は長径68-112cm、短径56-82cm深さ21-54cmを測る。遺物は、重複するH88の弥生時代中期の壺・鉢がある。P8からは須恵器タケギの壺、土師器杯・壺片を多数出土している。

これらより本址は古墳時代後期のH87を切っているものでそれ以降であろう。

第87表 掘立柱建物址出土遺物一覧表

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置	
F1 1	スリ石	7.0	4.9	3.3	120	黒曜石	P12	
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
F8 1	須恵器 壺	(14.8) - (3.6)	内 外	ヨコナデ ヨコナデ		口縁1/8残存 内 N7/0 (灰白) 外 N6/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	P 4
F8 2	弥生土器 壺	(15.8) - (8.7)	内 外 文	ミガキ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ 口縁11本1組とする飾指波状文 胴部11本1組とする飾指波状文(3連 止の)指す。 胴部7~12本1組とする飾指羽状文指す。		口縁1/5残存 内 7.5YR6/2 (灰褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	石英・長石含む。	P 1
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置	
F8 3	未製品 (磨製石皿)	3.8	1.7	0.2	2.1	片岩	P 3	
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
F9 1	土師器 杯	(17.2) (10.1) (3.5)	内 外	ミガキ後黒色処理 ミガキ		口縁1/8残存 内 N1.5/0 (黒) 外 7.5YR8/4 (浅黄橙)	石英・長石・赤色粒子少量含む。	P 6
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置	
F9 2	石製模造品	2.7	2.6	0.6	6.4	滑石	P 6	
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
F12 1	土師器 瓶	- (10.2) (3.8)	内 外	ヘラナデとヘラケズリ ヘラケズリ後ミガキ		底部1/8残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・赤褐色粒子含む。	
F12 2	土師器 壺	- (8.0) (3.1)	内 外	ミガキ ミガキ		底部1/2残存 内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	石英・長石・赤色粒子含む。	
F12 3	弥生土器 壺	(30.0) - (3.1)	内 外	ミガキ ミガキ		口縁1/16残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・褐色粒子含む。	P 2
F12 4	須恵器 土製円板	5.3 4.5 1.1	内 外	ヨコナデ タタキメ		完形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR8/4 (浅黄橙)	石英・長石・黒色粒子を含む。 須恵器器種の二次利用	P 1
F18 1	須恵器 杯	13.9 6.5 4.0	内 外	ロクロナデ ロクロナデ・底部回転赤切り		口縁2/3残存・底部完形 内 N8/0 (灰白) 外 N8/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	No.1
F18 2	須恵器 杯	- 6.0 (2.7)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ・底部回転赤切り		底部完形 内 7.5YR7/2 (灰白) 外 10Y8/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※内外面に火だすき有。	P 1
F18 3	須恵器 高台付杯	- (8.0) (1.8)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ・底部回転赤切り→高台貼 付		底部1/3残存 内 5B/G6/1 (青灰) 外 5B/G6/1 (青灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	P 3
F20 1	土師器 壺	- (6.0) (3.0)	内 外	ヘラナデ後ミガキ(後黒色処理?) 胴縁ヘラナデ後ミガキ・底部ヘラケズリ		底部1/4残存 内 N3/0 (暗灰) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤褐色粒子含む。	P 4
F20 2	須恵器 杯	(14.3) - (3.4)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		口縁1/6残存 内 10Y7/1 (灰白) 外 10Y7/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※内外面に火だすき有。	P 5
F22 1	土師器 鉢	(9.4) - (3.4)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ		口縁1/6残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	P 5
F23 1	土師器 鉢	(12.8) - (3.6)	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ		破片 内 7.5YR6/3・4/1 (にぶい橙・褐灰) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	P 2
F23 2	土師器 高杯	- (14.0) (2.6)	内	胴部ヨコナデ後ヘラナデ ヨコナデ後暗文		胴部1/16残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・赤色粒子・黒色小粒を 少量含む。	P 1
F23 3	土師器 壺	(8.2) - (3.2)	内 外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ後ミガキ・底部ミガキ		底部1/6残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	P 1
F23 4	土師器 瓶?	(30.4) - (3.6)	内 外	ミガキ ヨコナデ		口縁1/20残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 2.5YR7/6 (橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	P 3
F24 1	土師器 杯	(15.2) - (3.2)	内 外	ミガキ ミガキ		口縁1/8残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR6/3 (にぶい橙)	石英・長石含む。	P13
F27 1	土師器 杯	(16.8) - (3.2)	内 外	ヨコナデ後黒色処理 ナデ後口縁ヨコナデ		口縁1/4残存 内 N2/0 (黒) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	P 2

F28 1	土師器 小皿型	- (8.0) (2.7)	内外 ヘラナデ 胴部ヘラケズリ・底部ミガキ	底部1/7残存 内 5YR7/3 (にぶい型) 外 5YR7/3 (にぶい型)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。	P11	
F32 1	弥生土器 盃	(15.4) (5.3)	内外 文 ヘラナデ(縦目)後ミガキ ミガキ 口唇部ヘウによるキザミメ 外面 動物斜走文(5本)	口縁1/3残存 内 5YR4/4 (にぶい赤褐色) 外 5YR5/6 (明赤褐色)	0.5mmの長石含む。	P4	
F32 2	弥生土器 鉢	- (5.8) (2.3)	内外 ミガキ後赤色塗彩 ミガキ後赤色塗彩・底部ヘラケズリ及び ナデ	底部1/4残存 内 7.5B4/8 (赤) 外 7.5YR7/4 (にぶい型)	0.5mmの長石・黒色粒子含む。	P9	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考	出土位置
F32 3	スリ石?	9.2	5.6	2.4	190	安山岩 全体に磨耗	P4

第3節 単独ピット (第157~161図、図版112)

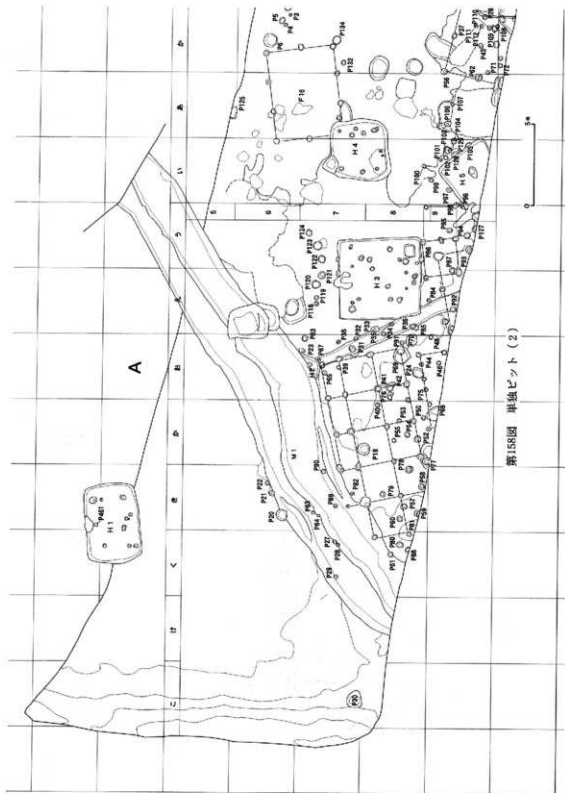
本遺跡は道路建設に伴う調査であるため、幅が狭い。また作物や、現道であることなどから同時に調査できずに2~4回に分けて調査するなど遺構プランがつかみにくい調査であった。そして遺構の重複が激しく、掘立柱建物址は単独ピットとしてしか把握できなかったものも多い。結果400以上の単独ピットがある。調査区西端Aあ9あたりから西に小規模なピット群が見られる。これなどは掘立柱建物址に組めたF1・F2・F10など同様の中世のピット群であろうか。また、Bグリット付近でもピットが密集している。住居址と重複しなければ掘立柱建物址が組めたであろう。



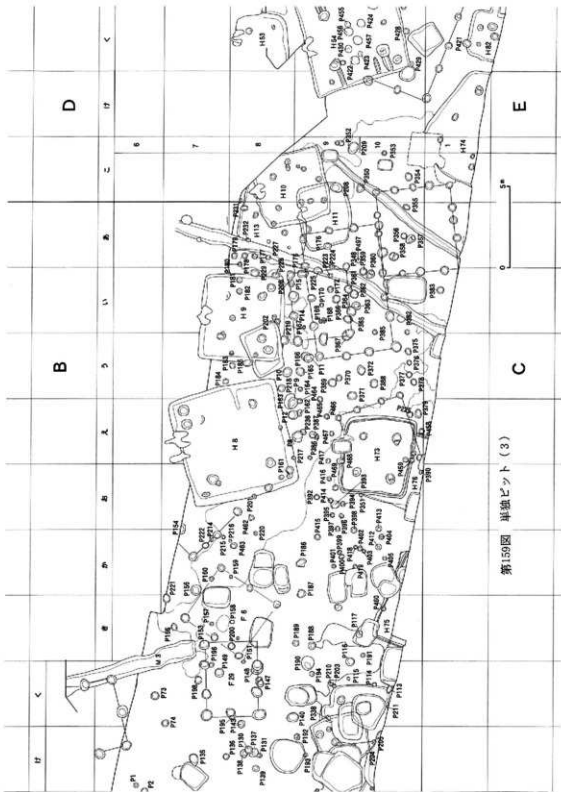
第157図 単独ピット(1)

第88表 単独ピット出土物一覧表

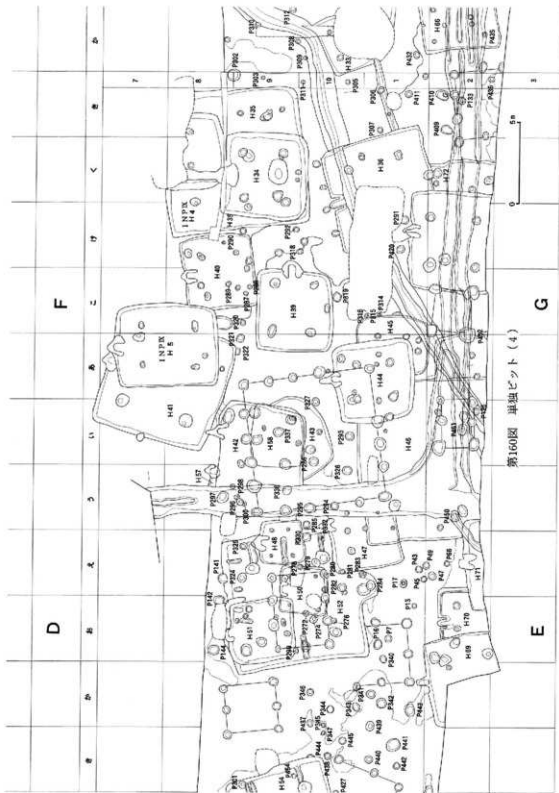
番号	器物	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	土師器 鉢	- (8.0) (5.6)	内外 ヘラナデ ヘラナデ	底部1/4残存 内 10YR4/1 (灰褐色) 外 10YR8/3 (浅黄褐色)	石英・長石含む。 ※内外面残存	P107	
2	土師器 杯	(15.2) (10.3) 4.7	内外 ミガキ後黒色処理 ヨコナデ後底部手持ちヘラケズリ	口縁1/3残存・底部定形 内 10YR3/1 (黒褐色) 外 7.5YR7/6 (橙)	0.5mmの長石・茶色粒子含む。	P490	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考	出土位置
3	打製石斧	(7.1)	5.5	1.6	(80)	緑帘安山岩	P140
4	磨石不明	(15.7)	(12.4)	(1.9)	(790)	円形と方形の突起は製造か修整によるものか不明。	P24



第158図 車独ピット (2)



第159図 車線ピット (3)



第160図 単独ビット (4)

第4節 土坑 (第163~170図、図版113~115)

本遺跡からの土坑は51基を数える。詳細は一覧表を参照されたい。
ここでは形態別に見てみたい。

1) 方形ないし長方形のプランに張り出し(テラス)の付く土坑 10基

	規 模		長軸長
	張り出し (長径×短径×深さ)	本体 (長径×短径×深さ)	
D 5	192×90×40	246×240×64	336
D 6	〈80〉×64×48	168×140×68	228
D13	〈50〉×72×52	〈50〉×112×80	184
D14	124×100×38	124×72×48	172
D16	〈100〉×52×32	192×〈100〉×56	236
D21	72×41×9.6	151×115×32	192
D23	80×32×25	144×96×40	176
D24	136×124×68	144×136×76	236
D33	152×88×28	144×136×40	232
D41	96×56×16	168×100×40	224

これらの覆土は地山砂を多量に含み、ベタつく黒褐色土層(10YR2/2)である。テラス、底面は平坦であるが貼床はない。規模は大・小あり、長軸で172cm~236cm、深さ40cmと68~80cmを測る。テラスとの差は20cm前後である。遺物は古墳・奈良~平安時代の周間の竪穴住居址と同時期の土器片を含んでいる。竪穴住居址を切っていることから住居址より新しいのであろうが、該当する遺物はない。

2) 隅丸長方形を呈し深さをもつ土坑 14基

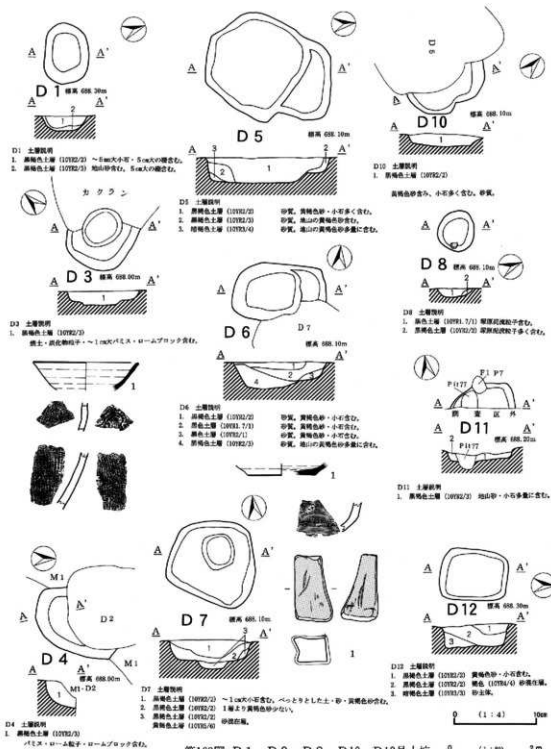
D 4	220×152×68
D12	168×124×56
D17	〈364〉×〈60〉×100
D22	238×165×80
D20	188×134×40
D34	154×〈64〉×57
D35	116×80×32
D37	96×74×39
D38	90×64×25
D39	182×〈74〉×37
D40	182×126×25
D42	178×118×40

規模は大規模なD17を除いて、小規模クラスは長軸長90~108cm、短軸長64~80cmを測るD29・D35~D37の4基。その他は長軸長154cm~238cm短軸長で118~165cmに大別される。深さ40cm前後と深い。1)のテラスを持つ土坑と同様の覆土で、やはり底面の貼床はなく遺物も周囲の竪穴住居址の遺物を含んでいる。D37からは中世青磁蓮弁文碗の小片が出土する。

3) 竪穴状遺構として居住可能性がある土坑 3基

D18	〈300〉×〈200〉×8
D27	296×244×28
D32	304×304×16

底面が広く、いくらか床面を持ち、D32からは磁器片が出土している。

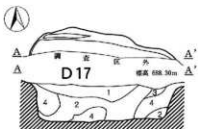


第163図 D1・D3~D8・D10~D12号土坑



D13 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多く含む、小石多く含む、地山砂少ない
2. 黒色土層 (10YR2/1)



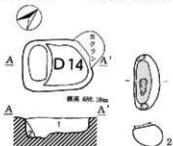
D17 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) (人馬糞土) 地山砂・小石を含む
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多く含む
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多量に含む、(2層より砂多い)



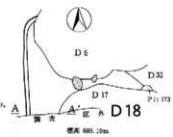
D20 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ベタッとした土に地山砂・小石を含む
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より黒色強い
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多量に含む



D14 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) パミス・小石含む、黒褐色砂わアタに含む
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色砂を含む



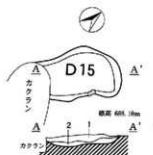
D18 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より地山砂含む



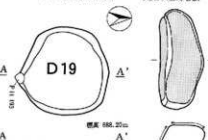
D21 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多く含む
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多く含む
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多く含む



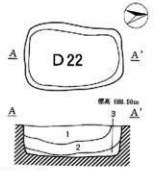
D15 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・炭化物を含む
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多く含む



D19 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR1.7/3) 小石含む、地山砂少ない含む



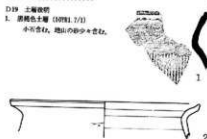
D22 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石多量に含む
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層に黒褐色土ブロック含む
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多量に含む



D16 土層説明

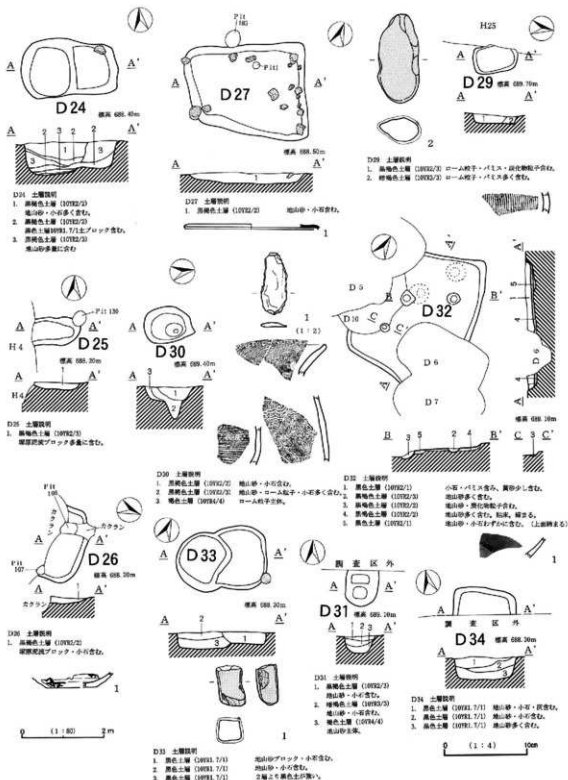
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石を含む
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多く含む
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より地山砂少ない



D23 土層説明

1. 黒色土層 (10YR1.7/3) 地山砂・小石・炭化物和子を含む
2. 黒色土層 (10YR1.7/3) 小石をわずかに含む
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多量に含む、(人馬糞土)

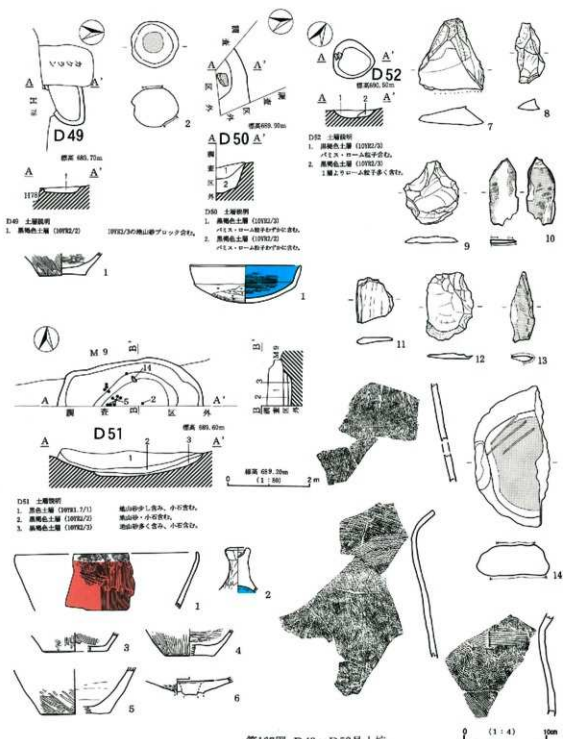
第164図 D13~D23号土坑

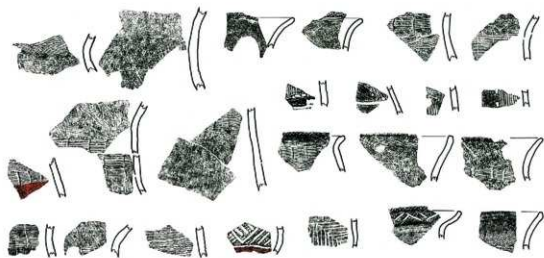


第165図 D24～D27・D29～D34号土坑



第166图 D35~D48号土坑





第168図 D51号土坑

0 (1-4) 10cm

4) 井戸址 (第169・170図、図版113~115) 2基

1) 第2号土坑 (第169図、図版70)

Aえ6グリットにあり、ローム層に構築する。M1・D4を切る。南側中位にテラスを持つので隅丸長方形を呈し、長軸252cm、短軸204cm、深さ256cmを測る。検出面から140cm下がった所で木製の井戸枠が見られ、高さ108cm残っていた。井戸枠は方形が偏った状態で出土した。84cmの方形である。深さ70cmあたりでは図示した1~9の副物石の他に、大小の礫があり、また井戸枠内の下部には14~20の木材があった。(図示した以外にもある。) 樹種同定の結果、枠木の10板材・21横木はサワラ、11立杭はアカマツ、12・13の枕はクリであった。また枠内に見られた板や木材は14の角材がカラマツ、15~18板状の薄いものはサワラであった。枠内よりカヤツリグサ科果実、アカザ属種子、ナアシコ科種子、オニクルミ核、小片ではあるが青磁蓮弁文碗片が枠内より出土している。

2) 第9号土坑 (第170図・図版71)

I<1グリットにあり、砂層からローム層に構築する。H49・F7を切る。径288cmの円形を呈し、深さ280cmを測る。枠木は検出面から200cm下にあり、高さ85cm、内側で76×72cmの方形に組まれていた。14が枠木で15・16はその裏込めにあった板材である。樹種同定の結果サワラを使用していた。また17の立ち杭はクリである。この杭は内側で板を押さえる横木が入れ込まれる。枠内より白磁碗、青磁蓮弁文碗片が出土する。枠上部付近に礫が見られ、底には長さ44cmの大きな石があった。

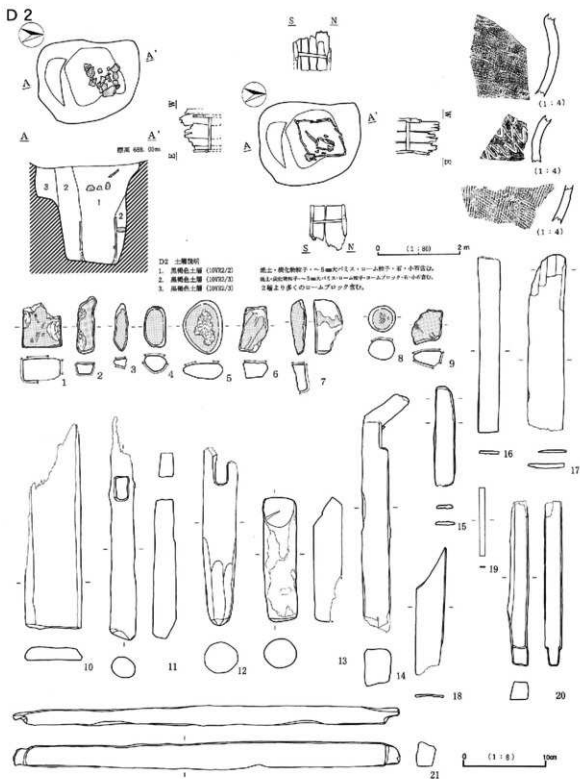
D2・D9号土坑は構造が類似しており、同期であり、出土した龍泉窯系の蓮弁文碗などから中世であろう。

5) D51号土坑 (第167・168図、図版113)

Iか2グリットにあり、砂層中に構築される。M9に切られ、H81を切る。東西352cmを測り、南北調査域120cmを測る。南は調査区外でわからないが形態は隅丸長方形を呈するのであろうか。床面はなく断面が窪み鉢状になり、弥生時代後期の土器片、磨製石器未製品、剥片石器などを多く出土している。しかし完形品はなく破片ばかりである。土器などの廃棄のためのものであろうか。

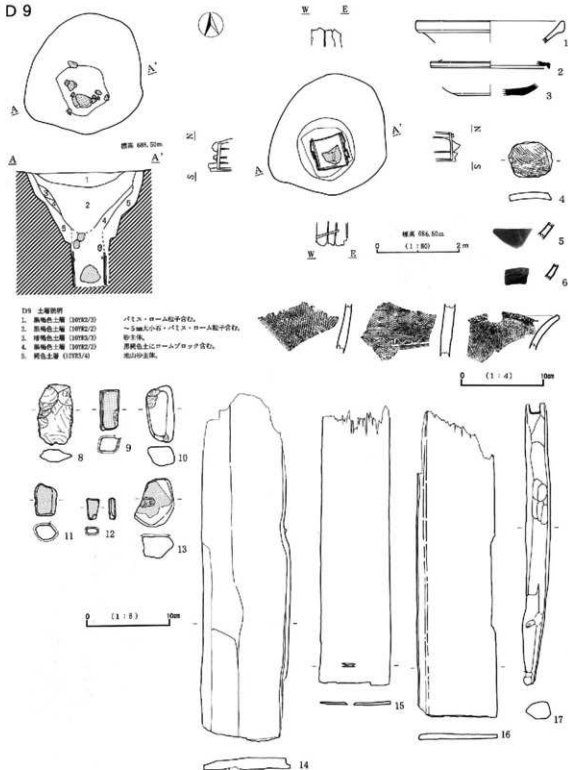
6) その他の土坑

他にD3・D7は底面中央が円形にさらに低くなる。覆土は1)~4)の土坑群と同じであり、同時期であろう。D45号土坑はIえ1グリットで奈良時代のH78を切る。径190cmの円形土坑であるが、深さ100cmと深い。Iお1グリットのD44は長軸266cm、短軸146cm深さ18cmの隅丸長方形で、礫があり、弥生の土器片が出土している。



第169図 D2号土坑

D 9



第170図 D9号土坑

第89表 土坑出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
D3 1	須臾器 杯	(13.0) - (3.5)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		口縁1/5残存 内 N8/0 (灰白) 外 N8/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	
D6 1	須臾器 杯	8.4 (1.2)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り		底部1/4残存 内 N6/0・10R4/1 (灰・暗赤灰) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石含む。	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		出土位置
D7 1	砥石	8.1	3.9	3.1	190.0	礫灰岩		
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
D14 1	須臾器 高台付杯	- (12.1) (1.2)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部切り離し・高台貼付		底部1/4残存 内 2.5Y6/1 (黄灰) 外 2.5Y6/1 (黄灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		出土位置
D14 2	スリ石	6.2	3.1	2.7	60	安山岩		
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
D17 1	土師器 壺	- -	内 外	ヘラナデ ヘラナデ		底部のみ 内 5YR8/4 (淡黄) 外 5YR8/3 (淡黄)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。 ※割膠着しい。	
D19 1	須臾器 壺	- -	内 外	ヨコナデ 口縁ヨコナデ→胴部タタキメ		破片 内 10YR7/1 (灰白) 外 10YR6/1 (褐灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	
D19 2	土師器 壺?	(23.3) - (4.4)	内 外	胴部ヘラナデ→L段ヨコナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ		口縁1/8残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		出土位置
D19 3	礫物石	12.2	5.5	3.5	300	安山岩		
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
D26 1	土師器 杯	- (6.0) (1.8)	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナデ→底部回転糸切り		底部1/4残存 内 7.5YR3/1 (黒褐) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子含む。 ※墨書あり。字体不明。	
D27 1	須臾器 壺	(16.3) - (0.6)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		破片 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石含む。	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		出土位置
D27 2	礫物石	10.9	5.1	2.9	180	黒色緻密安山岩 全体に磨耗		
D30 1	割片	3.75	1.6	0.3	2.0	片岩		
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
D32 1	陶磁器 鏡	- -	内 外	扁軸 扁軸		破片 内 5Y7/3 (淡黄) 外 5Y7/3 (淡黄)	石英・黒色粒子を含む。	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		出土位置
D33 1	礫物石	<5.0>	3.5	2.6	<70>	安山岩		
D39 1	礫物石	15.4	4.3	3.1	300	安山岩		
D41 1	礫物石	10.3	7.6	5.0	430	黒曜石・全体スリ面		
D44 1	スリ石	5.0	3.9	2.5	50	黒曜石		
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
D49 1	土師器 壺	- 5.6 (2.7)	内 外	ミガキ ミガキ		底部完形 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子・チャー ト含む。	No.1
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		出土位置
D49 2	スリ石	5.6	5.9	4.8	150	安山岩		
番号	器種	法量	成 形 ・ 調 整			残 存 量 ・ 色 調	胎 土 ・ 特 徴	出土位置
D50 1	土師器 杯	(13.6) (12.3) 4.6	内 外	ミガキ後黒色処理 底部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ		口縁1/2残存 内 N4/0 (灰) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・チャート含む。	

第90表 D2号土坑出土遺物一覧表

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
1	台紙石	<11.0>	9.6	5.5	<1,060>	安山岩 スリ面4	N
2	礫物石	14.0	4.5	2.6	260	黒色微善安山岩	
3	礫物石	11.7	3.3	2.0	100	微善安山岩	N
4	礫物石	10.1	5.1	4.0	320	安山岩 端部に打痕あり。	枠内
5	スリ石	13.2	9.6	3.8	580	安山岩	
6	紙石	11.3	7.2	4.9	480	安山岩	
7	白紙石	13.3	<6.8>	6.7	<290>	凝灰岩 片面割れて欠損か?	
8	スリ石	6.5	6.3	4.9	260	安山岩 全体に磨耗	
9	台石	17.0	14.0	7.2	2,360	スリ面3	枠下
10	枠木・側木	48.2	14.1	3.3			
11	枠木・杭	53.9	6.6	5.8			
12	枠木・杭	43.5	9.0	7.5			
13	枠木・杭	30.4	8.5	7.0			
14	角材	58.1	7.2	9.0			
15	板材	24.3	5.1	0.9			
16	板材	43.0	5.2	0.7			
17	板材	4.3	9.0	1.1			
18	板材	31.3	6.9	0.6			
19	板材	15.8	1.4	0.1			
20	枠木・側木	40.3	4.8	4.2			
21	枠木・側木	94.5	6.9	4.2			

第91表 D9号土坑出土遺物一覧表

番号	器種	法注	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	白磁碗	(18.3) - (2.7)	内 ロクロナデ後施軸 外 ロクロナデ後施軸	口縁1/12残存 内 7.5Y8/1 (灰白) 外 7.5Y7/1 (灰白)	石英含む。	2層
2	須恵器蓋	(14.6) - (0.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	破片 内 7.5YR5/2・NS/0 (灰黒・灰) 外 NS/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子少量含む。 焔火だすき有。	検出
3	須恵器杯	(8.2) - (1.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデー底部へラ切り後手持ちヘラケズリ	底部1/7残存 内 NG/0 (灰) 外 10YR8/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子少量含む。	
4	土師器土製円板	4.4 5.5 1.2	内 ミガキ 外 ミガキ	完形 内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	石英・長石を含む。 赤丸網彫部二次利用	
5	青磁碗	- - -	内 ナデ後施軸 外 遼弁文後施軸	破片 内 5YR8/1 (明緑灰) 外 5YR6/1 (明緑灰)	石英含む。 遼弁文有り。 貫入有。	S
6	青磁碗	- - -	内 ナデ後施軸 外 ケズリ後施軸	破片 内 7.5YR4/2 (灰オリーブ) 外 7.5YR4/2 (灰オリーブ)	石英・黒色粒子含む。	

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
8	未製品	14.7	8.5	3.1	400	安山岩	
9	礫物石	<9.8>	4.7	3.0	<260>	安山岩 全体に磨耗	2層
10	礫物石	13.8	6.7	4.8	670	片岩	下層
11	礫物石	8.1	5.3	3.6	210	安山岩	
12	スリ石	11.7	9.6	5.3	360	安山岩	
13	紙石	<5.1>	3.1	1.4	<30>	砂岩	
14	枠木・側板	85.0	22.3	2.9			
15	枠木・側板	68.2	17.5	0.6			
16	枠木・側板	74.9	19.6	1.4			
17	枠木・杭	68.9	7.0	4.1			

第92表 D51号土坑出土遺物一覧表

番号	器種	法注	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器鉢	(22.2) - (6.9)	内 ミガキ後赤色塗部 外 ミガキ後赤色塗部 文 口辺部に網線波状文施す。	口縁1/11残存 内 7.5R4/6 (赤) 外 7.5R4/6・7.5YR8/4 (赤・浅黄橙)	石英・長石少量含む。 きめ細かい。	
2	弥生土器蓋	- 3.1 (5.5)	内 つまみヘラナデ・本体ヘラナデ後黒色施理 外 ヘラナデ	つまみ完形 内 つまみ 10YR7/3(にぶい橙) 本体 10YR4/1 (褐灰) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石含む。	No.4

3	弥生土器 壺	- (8.0) (2.3)	内 外	ヘラナデ 胴部ミガキ・底部磨滅のため判別できない。	底部1/3残存 内 10YR7/2 (にぶい貫検) 外 7.5YR4/2 (灰燻)	石英・長石・赤色粒子含む。	
4	弥生土器 壺	- (6.2) (3.3)	内 外	ヘラナデ (底部) 後ミガキ ミガキ	底部1/2残存 内 10YR7/3 (にぶい貫検) 外 10YR7/3 (にぶい貫検)	石英・長石・赤褐色粒子・黒色粒子を含む。	検出
5	弥生土器 壺	- (8.4) (5.5)	内 外	ヘラナデ 胴部ミガキ・底部ミガキ	底部1/2残存 内 10YR7/3 (にぶい貫検) 外 10YR7/3 (にぶい貫検)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子含む。	No.3
6	土師器 高杯	- -	内 外	割壊著しく判別できない。 ヘラケズリ	破片 内 2.5YR7/6 (橙) 外 5YR7/4 (にぶい橙)	石英・長石・チャート含む。	R
番号	種類	長さ	巾	高さ	R	備考	出土位置
7	割片	4.4	4.0	1.15	20.7	黒色緻密安山岩	I区
8	割片	3.6	1.75	0.65	3.7	黒色緻密安山岩	I区
9	割片	3.9	3.4	0.4	4.9	黒色緻密安山岩	I区
10	未製品 (磨製石鏡)	(4.1)	1.75	0.25	(2.2)	片岩	
11	割片	2.8	2.3	0.4	2.9	片岩	
12	割片	4.15	2.85	0.35	4.3	黒色緻密安山岩	東
13	未製品 (磨製石鏡)	4.3	1.5	0.35	2.6	片石	東
14	台石	17.2	9.2	3.8	530	軽石 スリ面2	No.5

第5節 溝址

1) M1号溝址 (第171図・図版71・115)

調査区西端、Aい4～Aけ8グリットで検出された。北はINPXに続いている。H2を切り、F1・D2・D4
単P20・21・22・27・28・29・63・64に切られる。幅48cm深さ57cmを測る。北方向にやや低くなっている。

出土遺物は須恵器、土師器、磁器、打製石斧(24)、編物石(25～27・29～30)、スリ石(28)がある。磁器類は検出・1層で混入品であろう。須恵器蓋(1)は扁平なつまみで、端部が折れて下方に下がる。須恵器杯(2～5)は底部回転糸切りである。須恵器高台付杯(6～8)、長頸壺(910)、壺(11・12・23)がある。土師器杯(16)は底部回転糸切り後手持ちヘラケズリされ、内面はミガキ黒色処理されるものである。

これらより、本址は奈良時代から平安時代であろう。

2) M2号溝址 (第173図・全測図・図版72)

Aお7～Aえ9グリットにあり、H2・H3・F1・M1・単P31・32・33・34・35・36・67に切られる。南北方向の溝で南は調査区外に伸び、北はM1に切られている。幅89cm深さ20cmの小溝である。南に低くなっている。

出土遺物は土師器壺片が2点あり、古墳時代後期のものである。古墳時代後期のH3に切られることからそれ以前の溝である。

3) M3号溝址 (第173図・全測図・図版72)

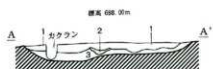
Bき6～Bき7グリットにあり、南北方向にあり、北はINPXに続く。F5に切られる。幅118cm深さ17cmを測る。北に低い。

出土遺物には土師器長胴壺、須恵器壺片があることから古墳時代後期であろうか。

4) M4号溝址 (第173図・全測図・図版72)

Bあ7～Cい1グリットにあり、南北方向に伸び南は調査区域外、北はINPXに続いている。H13・F30・F31
D22・D34・単P223・224・227・232・382・391に切られる。幅90cm、深さ30cmを測る。南に低い。

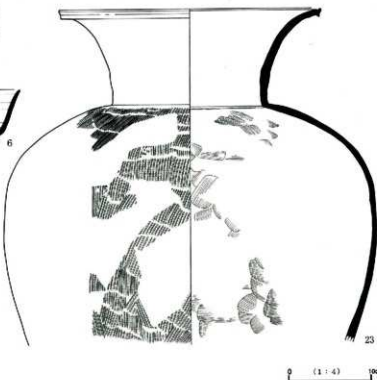
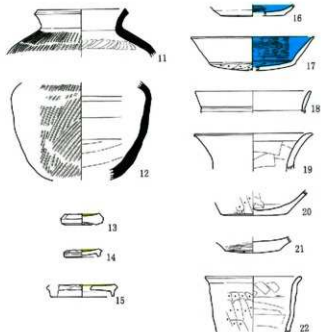
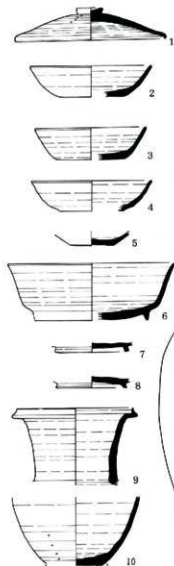
出土遺物には弥生式土器壺・壺片があり、弥生時代後期の節指波状文の壺が3点ほどあることなどから、弥生時代後期であろうか。



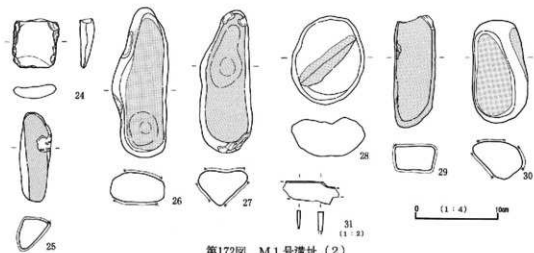
M1 土層剖面

1. 赤褐色土層 (10185/2) ~5mm大小の小石含む。
2. 灰~黄褐色土層 (10186/3) シルト質土。
3. 暗褐色土層 (10183/3) 砂礫層。

0 1 2m



第171図 M1号溝址(1)



第172図 M1号溝址(2)

第93表 M1号溝址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調査	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 壺	18.4	内 ロクロナデ	口縁1/2残存	石英・長石・黒色粒子含む。	2層 トレンチ
		3.2 4.0	外 ロクロナデ→天弁部回転ヘラケズリー つまみ貼付	内 5Y4/1 (灰) 外 10YR4/1 (黄灰)		
2	須恵器 杯	(14.8) (7.7) 3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁1/6残存 内 10Y7/1 (灰白) 外 10Y6/1 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	2層
		(13.6) (8.3) 3.9	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り離し後ナデ	底部1/3残存 内 N6/0 (灰) 外 N6/0 (灰)		
4	須恵器 杯	(14.6) (7.6) 3.7	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁1/10・底部1/5残存 内 5Y7/1 (灰白) 外 2.5Y8/2・5Y7/1 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※内外に穴だすき有。	2層
		- 5.4 1.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部完全 内 7.5Y7/1 (灰白) 外 7.5Y7/1 (灰白)		
6	須恵器 高台付杯	(20.4) (13.8) 7.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り離し・高台貼付	口縁1/12残存 内 N6/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。	1層 2層 トレンチ
		- (9.0) (1.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	底部ほぼ完全 内 SPB4/1 (暗黄灰) 外 5D6/1 (黄灰)		
8	須恵器 高台付杯	- (8.7) (1.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	高台1/2残存 内 N5/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石・赤色粒子含む。	2層
		(15.3) - (9.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/2完全 内 2.5Y5/2 (暗黄灰) 外 2.5Y5/1 (黄灰)		
10	須恵器 壺	- - (8.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ後胴部下半部回転ヘラケズリー→底部停止糸切り→高台貼付(高台欠損)	底部1/4残存 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0・7.5Y3/1 (灰白・オリーブ黒)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※内面底部と外面に自然釉付着	2層
		(11.6) - (5.4)	内 口縁ヨコナデ・胴部ヨコナデ・首部に当て具あり。 外 口縁ヨコナデ・胴部クタクキ	口縁1/3残存 内 N5/0 (灰) 外 N6/0 (灰)		
12	須恵器 短頸壺	- - (12.0)	内 ヘラナデ 外 クタクキ	胴部のみ 内 N4/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石・黒色粒子含む。 ※自然釉付着	2層 トレンチ
		- 5.0 (1.4)	内 ロクロナデ後鉄輪挿入 外 ロクロナデ→高台を削り出す。	高台完全 内 10YR2/2 (黒濁) 外 10YR7/2 (にぶい黄濁)		

14	陶器(瀬戸) 甕	- 4.6 <9.0>	内 外	ロクロナダ後抽輪 ロクロナダ→底部切り離し後回転ヘラケズリ→高台貼付	高台定形 内 7.5Y7/2 (灰白) 外 2.5Y7/1 (灰白)	石英含む。 後装入が入る。割って底部のみ二次利用している。	検出
15	白磁皿	- (7.8) <1.5>	内 外	ロクロナダ後抽輪 ロクロナダ→高台貼付	高台1/8残存 内 10Y8/1 (灰白) 外 5Y8/1 (灰白)	石英含む。 ※ 次利用?	1層
16	土師器 杯	- (7.8) <1.4>	内 外	ミガキ後黒色処理 ロクロナダ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ	底部定形 内 N2/0 (黒) 外 7.5Y7/4 (にぶい橙)	石英・長石・～1mmの黒色粒子含む。緻密。	1層 2層
17	土師器 杯	(15.1) (10.5) <2.7>	内	ミガキ後黒色処理 口縁ロクロナダ→底部ヘラケズリ	口縁1/4残存 内 N3/0 (暗灰) 外 10Y7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・～1mmの黒色粒子含む。 ※付着物あり(内面)。	トレンチ
18	土師器 杯	(14.2) (12.8) <2.7>	内 外	ヨコナダ ヨコナダ	口縁1/6残存 内 10Y7/3 (にぶい黄橙) 外 7.5Y7/3 (にぶい橙)	石英・～1mm大の長石・黒色粒子含む。緻密。	1層
19	土師器 壺	(14.5) - <4.7>	内	口縁ヘラナダ後ヨコナダ 口縁ヨコナダ	口縁1/5残存 内 5Y7/4 (にぶい橙) 外 5Y7/4 (にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	2層
20	土師器 壺	- 8.2 <3.0>	内 外	ヘラナダ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部定形 内 7.5Y7/4 (にぶい橙) 外 7.5Y7/4 (にぶい橙)	石英・～1mm大長石・黒色粒子・赤色粒子含む。	2層
21	土師器 壺	- 6.8 <2.0>	内 外	ヘラナダ 胴部ミガキ・底部ヘラケズリ	底部定形 内 7.5Y7/4 (にぶい橙) 外 5Y7/4 (にぶい橙)	石英・～0.5mm大の長石・～2mm大の赤色粒子・黒色粒子含む。	2層
22	土師器 鉢	(11.8) - <6.9>	内 外	口縁ヨコナダ→胴部ヘラナダ 口縁ヨコナダ→胴部ケズリ	口縁1/4残存 内 10Y8/2 (灰黄緑) 外 7.5Y8/3 (にぶい黄)	石英・～2mm大の長石・～1mm大の黒色粒子含む。	2層
23	須恵器 壺	(32.2) - <41.2>	内 外	口縁ヨコナダ・胴部出て具底あり 口縁ヨコナダ・胴部タタキマ	口縁1/4残存 内 N5/0 (灰) 外 N4/0 (灰) 断 5Y8/2 (灰濁)	石英・～1mm大の長石少量含む。緻密。 ※外面に自然物付着	1層 2層 トレンチ
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
24	打製石斧	(6.0)	5.7	1.6	<70>	安山岩	
25	礫物石	10.9	3.8	3.7	230	チャート 全体に磨耗	2層
26	礫物石	18.3	6.8	3.7	550	安山岩 スリ面2	2層
27	礫物石	17.4	6.5	4.2	680	安山岩	2層
28	スリ石?	10.8	9.1	4.8	170	軽石 カット面あり。	
29	礫物石	(13.6)	5.0	3.0	(380)	黒色緻密安山岩 全体に磨耗するが、顕著なスリ面ない。	2層
30	礫物石	12.6	6.9	4.6	500	チャート スリ面3	
31	刀子	(1.2)	(3.2)	(0.4)	(4.5)	鉄製品	
☆						黒曜石の剥片2点、滑石の剥片1点あり。	

5) M7号溝址 (第173・全測図、図版72)

D9～E9 1グリットにあり、南北方向で、北はINPXに続く。M9と連結する溝である。H42・H46・H47・F12・単P296・297・298・300を切る。幅214cm深さ41cmを測る。溝は西側が深く、東が浅い断面形を示し、道路址であろう。ほぼ平らである。

出土遺物には土師器杯、須恵器蓋、礫物石がある。これらは重複する遺物の遺物で、本址はM9と連結しM9から青磁片などが見られることから中世であろうか。

6) M8号溝址 (第173・全測図、図版72)

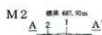
Gカ1～Gキ1グリットにあり、東西方向にのび、H33・H36に切られる。幅46cm深さ34cmを測る。西に低い。

出土遺物には土師器杯、須恵器壺・杯があり、古墳時代後期のH33・H36に切られることから古墳時代後期であろう。

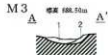
7) M9号溝址 (第173・全測図、図版72)

Eエ2～Eウ1グリットにあり、東西方向に延び、西はINPVM6に続く。本調査区域の南にあり、800m以上にわたり、堅穴住居址16、掘立柱建物址4、土坑2、溝1、単独ピット11を切っている。調査上とても厄介な溝であった。幅245cm深さ32cmを測る。断面形が北が高く、南が低くなる。道路址であろう。西に標高を下げる。

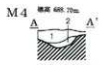
出土遺物には須恵器、土師器、弥生式土器、磨製石鎌、打製石斧、石製模造品がある。本址の時期は、Eウ2で政和通寶(初铸年1111)、Eカ2で、青磁蓮弁文碗が出土していることや重複関係から中世であろうか。現在使用している東西の道路とはほぼ一致しており、中世の道がそのまま使用され続けたようである。



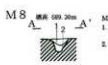
- M2 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物・硬土粒子含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物・硬土粒子含む。



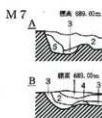
- M3 土層説明
1. 黒色土層 (10YR1/7) 焼山砂・小石を多く含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石を多く含む。



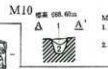
- M4 土層説明
1. 黒色土層 (10YR1/7) 焼山砂・小石を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石を含む。



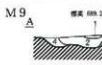
- M8 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石を多く含む。
 2. 黒褐色土層 (10Y1/3) 焼山砂を多く含む。



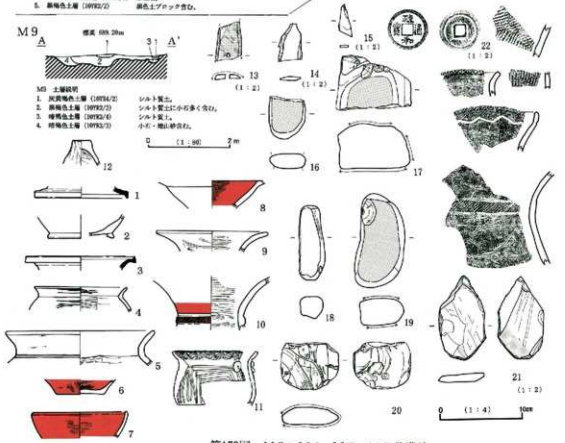
- M7 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石を含む。シルト質土粒子。
 2. 暗褐色土層 (7.5YR2/2) 焼山砂・小石を含む。
 3. 暗褐色土層 (10YR2/4) 砂礫多量を含む。
 4. におい・黄褐色土層 (8YR4/2) 砂礫。
 5. 暗褐色土層 (10YR2/2) 黒色土ブロックを含む。



- M10 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石を含む。焼山をおりて埋まりなし。
 2. 暗褐色土層 (10YR2/2) 焼山砂・小石を含む。



- M9 土層説明
1. 灰黄色土層 (10YR4/2) シルト質土。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) シルト質土に小石を多く含む。
 3. 暗褐色土層 (10YR2/4) シルト質土。
 4. 暗褐色土層 (10YR2/2) 小石・焼山・砂礫を含む。



第173図 M2~M4・M7~M9号溝址

第94表 溝址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
M7 1	須恵器 蓋	(2.6) (2.0)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ後天井部回転ヘラケズリ・ つまみ貼付		つまみ完形 内 N6/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・～1mm大の長石・黒色 粒子含む。	
M7 2	土師器 杯	(13.8) (13.3) (3.7)	内 外	ヨコナデ後ミガキ 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ後ミガキ		口縁1/6残存 内 2.5YR5/6 (橙) 外 2.5YR5/6 (橙)	緻密。石英・～1mm大の長 石・黒色粒子・赤色粒を含む。	
M7 3	土師器 杯	(10.0) (5.1) 5.0	内 外	ヨコナデ後方射筋文 口縁ヨコナデ→底部ヘラナデ		口縁1/4残存 内 3YR7/4 (にぶい橙) 外 3YR7/4 (にぶい橙)	緻密。石英・～1mm大の長 石・黒色粒子・赤色粒を含む。	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考		出土位置
M7 4	礫物石?	<4.0>	5.9	3.9	<130>	火山岩		検出
M7 5	白土	0.75	0.8	0.4	0.3	滑石		
M11 1	須恵器 杯	(13.2) (9.0) 3.2	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ		1/4残存 内 7.5Y7/1 (灰白) 外 7.5Y7/1 (灰白)	0.5mmの長石含む。	Mう8
M11 2	須恵器 蓋	- -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		口縁破片 内 N6/0 (灰) 外 N4/0 (灰)	～0.5mmの長石含む。	
M11 3	赤生土器 蓋	4.3 (2.2)	内 外	ヘラナデ ミガキ・底部ヘラナデ		底部完形 内 5YR5/6 (橙) 外 5YR5/6 (橙)	0.5mmの長石含む。	Mう8
番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	備考		出土位置
M11 4	測片	2.4	2.3	0.2	1.1	片岩		Mう8
番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
M12 1	赤生土器 蓋	22.8 <4.9>	内 外 文	ミガキ 口縁ヨコナデ 口唇部縄文 口唇部 細縄波状文 (6本) 頸部 細縄波状文		口縁1/6残存 内 7.5YR5/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/3 (にぶい橙)	0.5mmの長石含む。	

第95表 M9出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	(11.4) -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		口縁1/8残存 内 2.5Y5/1 (黄灰) 外 5Y4/1 (灰)	石英・～1mm大の長石・黒 色粒子含む。 ※外面に自然釉付着	Gえ2 検出
2	灰釉陶器 壺	<1.4> (8.2) (2.9)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ・底部回転糸切り・高台附 付		底部1/4残存 内 5Y7/1 (灰白) 外 5Y7/1 (灰白)	緻密。石英・～1mm大の長 石・黒色粒子少量含む。 ※内外自然釉付着	Gえ2
3	須恵器 長頸壺	(13.4) -	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		破片 内 N5/0 (灰) 断 10R6/2 (灰赤) 外 N4/0 (灰)	石英・～1mm大の長石含む。	Iき2
4	土師器 鉢	(11.3) -	内 外	口縁ヨコナデ後ミガキ・胴部ヘラナデ (紐口) 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ→全体に ミガキ		口縁1/6残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	緻密。石英・～1mmの長 石・黒色粒子少量含む。	Gえ2
5	土師器 壺	(20.1) -	内 外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヨコナデ		口縁1/5残存 内 7.5YR7/3・4/1 (にぶい橙・濁灰) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・～1mmの長石・黒色 粒子・赤色粒子含む。	Gえ2
6	赤生土器 鉢	(6.0) (1.8)	内 外	ミガキ後赤色塗彩 胴部ミガキ後赤色塗彩・底部ヘラケズリ		底部2/3残存 内 10R5/6 (赤) 外 10R5/6 (赤)	石英・～1mmの長石含む。	Eあ2
7	赤生土器 鉢	(11.8) -	内 外	ミガキ後赤色塗彩 ミガキ後赤色塗彩		口縁1/16残存 内 7.5R4/6 (赤) 外 7.5R4/8 (赤)	石英・～1mmの長石・赤色 粒を含む。	Eあ2
8	赤生土器 鉢	- -	内 外	ミガキ後赤色塗彩 ヨコナデ		破片 内 10R5/6 (赤) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・～1mmの長石・黒色 粒を含む。 ※磨耗	Eう2
9	赤生土器 壺	(13.4) -	内 外	ミガキ ヨコナデ後ヘラナデ 口唇部に縄文施す。		口縁1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	緻密。石英・～1mmの長 石・黒色粒子少量含む。	Iき2 検出
10	赤生土器 壺	- -	内 外 文	胴部ヘラケナデ・口縁ミガキ 口縁ヨコナデ 胴部 縄文後へラ 描線定平行線文で区切 る・淡い赤色塗彩施す (視面わからない)		破片 内 10YR7/4・7.5YR4/2 (にぶい橙・濁灰) 外 10YR8/3・7.5YR4/6 (黄灰・赤)	緻密。～1mmの長石・黒色 粒を含む。 ※内口縁部に赤い顔料付 着する。	Eう2 検出 Eお2

11	弥生土器 壺	(10.5) — (6.6)	内 外 文	ミダナ I線ヨコナダ I形部 残文 胴部 ヘラ指「コ」の字文・単位の切れ 目にボタン型の貼付文施す。	口縁1/4残存 内 7.5YR5/4 (にぶい) 内 外 7.5YR4/2 (灰黒)	石英・～1mmの長石含む。	Gえ2検出	
12	弥生土器 壺	— 2.2 (3.1)	内 外	ヘラナダ 底部 (?) ヘラナダ・刃部部 (?) ヘラ ケズリ	つまみ (?) 完形 内 7.5YR7/4 (にぶい) 内 外 7.5YR6/3 (にぶい) 外	石英・～1mmの長石含む。	Iき2検出	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置	
13	石製佛造品 (彫形)	(2.4)	1.6	0.35	(2.1)	滑石 先端・基部欠損	No.1	
14	剥片	2.35	1.45	0.25	1.0	片巻	Iう2	
15	剥片	2.0	1.4	0.15	0.3	片巻	Iき9	
16	スリ石	5.3	4.5	1.8	60	安山岩		
17	スリ石	6.6	9.2	5.5	450	安山岩	No.3	
18	磨物石?	9.1	3.2	2.7	100	安山岩	Iえ2	
19	磨物石	11.4	6.0	3.3	350	チャート	Gえ2	
20	砥石	5.8	7.1	2.2	110	砂岩	Gい2	
21	未製品 (石製佛造品)	4.6	3.3	0.56	11.6	頁岩	Gえ2検出	
22	古銭	2.45	2.5	0.15	3.1	総持通宝(神護年1111)	No.2	
番号	器種	法量	成形・調整			残存率・色調	胎土・特徴	出土位置
23	古銭 漢字文銭	—	内 外	胎 文	胎 文	破片 内・外5GY6/1 (オリブ灰)	磁質 造文あり。	Eか2

8) M10号溝址 (第173・全測図、図版72)

Cあ1～Dこ9グリットにあり、南北方向で、D37・F24・単P350に切られる。D37に切られて北から始まり、南は調査区域外に伸びる。幅61cm深さ42cmを測る。南に低い。

出土遺物には土師器杯(古墳)、弥生式土器壺片が各1点があるのみである。古墳時代以降であろうか。

9) M11号溝址 (第174・全測図、図版73)

Nけ7～Mえ9グリットにあり、東西方向にのび、西ではI N P V M12に続く。H87・H90・H92を切る。幅72cm深さ25cmを測る。

出土遺物には須恵器、土師器、弥生時代の土器片がある。須恵器杯(1)は底部ヘラケズリされる。本址は奈良時代以降であろう。

10) M12号溝址 (第174・全測図、図版73)

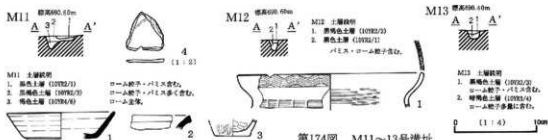
Mう7～Mお8グリットにあり、東西方向にのび、西ではI N P V M13に続く。D52に切られる。幅40cm深さ26cmを測る。

出土遺物には弥生時代の土器片がある。口縁部が受け口の臺で、外面口縁に一条の菊描波状文、頸部に縹状文が施される。これらより本址は弥生時代中期であろう。

11) M13号溝址 (第174・全測図、図版73)

Nえ7～Mえ8グリットにあり、東西方向にあり、攪乱により、西はわからない。幅30cm深さ19cmを測る。

出土遺物はない。



12) M6号溝址 (第175~177、図版73・117)

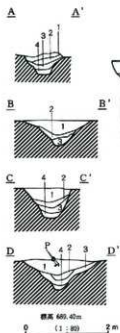
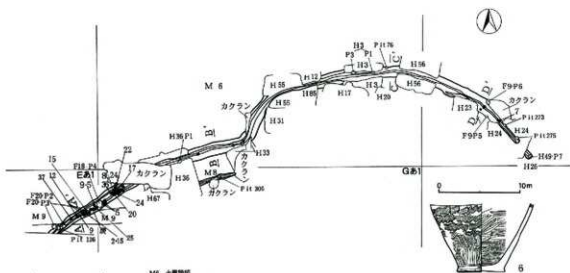
E12~H13グリットにあり、東西方向に延び、北はINP区に続く。本調査域内ではつながらないがIX地点で同一の溝になったため、東側はM5で扱っていたが欠番にした。本遺跡では古い遺構であるため、重複する遺構にすべてに切られる。全長66.8m調査し幅182cm深さ76cmを測る。溝は直線部分と南を囲むような弧を描く所がある。Eあ1・Fか9、Hけ・こ8グリット地点で多くの土器が出ている。

出土遺物は、弥生式土器、割片(34)、スクレイパー(35)、砥石(36)、台石(37)がある。鉄製品は混入品であろう。弥生式土器は杯ない鉢、脚付杯が赤色塗彩される。壺は口縁部が受け口状の(3・4)と外反する(5・7・8)がある。口唇部に縄文を転がし、帯溝・波状文、波状文、斜走文を施す。壺形土器は口縁部が受け口状(10・11・12・16)、外反するもの(13・14・15)がある。口唇部に縄文、頸部にヘラ描横線を施している。15の壺に赤色塗彩がわずかに見られる。これらは、弥生時代中期の上層群であろう。

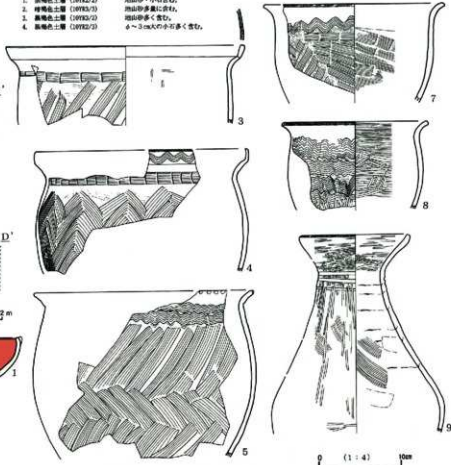
INPVM5でも弥生中期の土器が多量に出土しており、时期的にも同時期である。途中切れながらもINPVM5まで連続するとすると北にも弥生時代中期の住居址はあるが環濠的な溝であろうか。

第96表 M6号溝址出土遺物一覧表

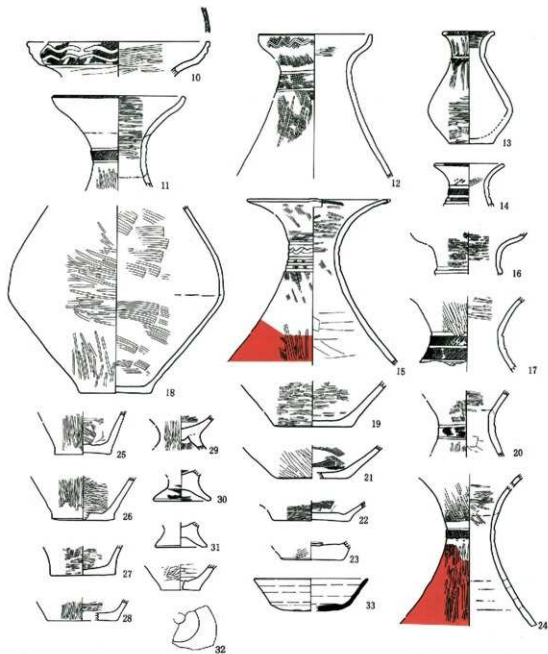
番号	器種	法量	成形・調整	残存品・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生十部 鉢	(14.4) - (4.9)	内 ミガキ後濃い赤色塗彩 外 ミガキ後濃い赤色塗彩	口縁1/8残存 内 10R4/8 (赤) 外 10R4/8 (赤)	1mm以下の長石・1mm以下の赤色粒・黒色粒少量含む。緻密。口唇部に突起あり。	1層西
2	弥生土器 脚付杯	- 4.9 (4.4)	内 杯部ミガキ・脚ナデ 外 ミガキ後濃い赤色塗彩	脚部完形 内 7.5YR4/4 (褐) 外 2.5YR4/3 (赤褐)	緻密。~0.5mmの長石・石灰含む。卑野の埴地帯は欠損した後、すって再利用。	No.6
3	弥生土器 壺	(29.2) - (9.6)	内 ミガキ(刺磨きしい) 外 口縁部コナデ・胴部ヘラナデ 文 口唇部縄文 頸部5本1組帯溝波状文(1連止) 胴部5本1組帯溝斜走文	口縁1/2残存 内 10YR7/4 (にぶい黄褐色) 外 7.5YR5/4 (にぶい褐)	~0.5mmの長石含む。	検出 H33検出 H36カマド
4	弥生土器 壺	(26.1) - (15.1)	内 ナデ(椀目)・ミガキ 外 口縁部コナデ 文 口唇部縄文 口縁4本1組帯溝波状文 胴部8本1組帯溝波状文(連止め) 胴部7~8本1組帯溝斜走文	胴部1/3残存 内 7.5YR4/3 (褐) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	~0.5mmの長石・赤色粒子含む。	1層
5	弥生土器 壺	(26.8) - (20.5)	内 ミガキ 外 口縁部コナデ・胴部ナデ 文 口唇部キザミ 胴部6本1組とする帯溝波状文2段 胴部6本1組とする帯溝斜走文	胴部1/3残存 内 7.5YR7/3 (にぶい橙) 外 7.5YR3/2 (黒褐)	0.5mm黒色粒子含む。	No.12 No.14 No.15
6	弥生土器 壺	- 5.8 (8.3)	内 ヘラナデ(椀目) 外 胴部下半ミガキ・底部ナデ 文 3~4本1組とする帯溝波状文	底部完形 内 7.5YR7/6 (橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	0.5mm以下の長石含む。	P21
7	弥生十部 壺	(22.2) - (12.2)	内 ヘラナデ(椀目)→口縁部コナデ 外 口縁部コナデ・胴部ヘラナデ(椀目) 文 口唇部縄文L R 胴部5本1組とする帯溝波状文 胴部5本1組とする帯溝斜走文(羽状)	口縁1/6残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	緻密。0.5mm以下の長石少量含む。	M5 No.2
8	弥生土器 壺	(18.1) - (10.8)	内 口縁部コナデ・ヘラナデ(椀目)後ミガキ 外 1口縁部コナデ・胴部ヘラナデ(椀目)・ 胴下半部ミガキ 文 口唇部縄文・胴部8~9本を1組とする帯溝波状文	口縁5/12残存 内 7.5YR4/4 (褐) 外 7.5YR3/3 (暗褐)	~0.5mmの長石少量含む。 ~0.5mmの赤色粒子少量含む。	No.20 No.21 Gc2
9	弥生土器 壺	(13.6) - (24.2)	内 口縁部ヘラナデ(椀目)後ミガキ 外 胴部ヘラナデ(椀目)及びナデ ヘラナデ(椀目)後ミガキ 文 口唇部に縄文・頸部ヘラナデ(3本)	口縁1/2残存・胴部完形 内 10YR5/3 (浅黄橙) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	0.5mm長石・黒色粒を含む。	No.2 No.12 H68検出
10	弥生土器 壺	(22.3) - (4.4)	内 ミガキ 外 ナデ・ヘラナデ 文 口唇部 縄文 口縁部 縄文を地文としヘラ波状文施す(2条)	口縁1/4残存 内 10YR8/4 (浅黄橙) 外 2.5YR8/4 (浅黄)	0.5mm長石・黒色粒子含む。	1層
11	弥生土器 壺	16.4 - (12.6)	内 ナデ・口縁部ミガキ 外 口縁部コナデ・胴部ナデ・胴部ミガキ 文 口唇部 縄文L R 胴部 縄文L R →ヘラ描横走半行縄文(2条)	口縁3/4残存・胴部完形 内 5YR7/6 (橙) 外 7.5YR5/6 (浅黄橙)	緻密。1mm以下の長石少量含む。	



- M6 土層説明
- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 黒褐色土層 (0F92/2) | 池田砂・小石含む、 |
| 2. 暗褐色土層 (0F93/3) | 池田砂多量に含む、 |
| 3. 黒褐色土層 (0F92/2) | 池田砂多く含む、 |
| 4. 黒褐色土層 (0F92/2) | φ〜3cm大の小石多く含む、 |



第175図 M6号溝址(1)

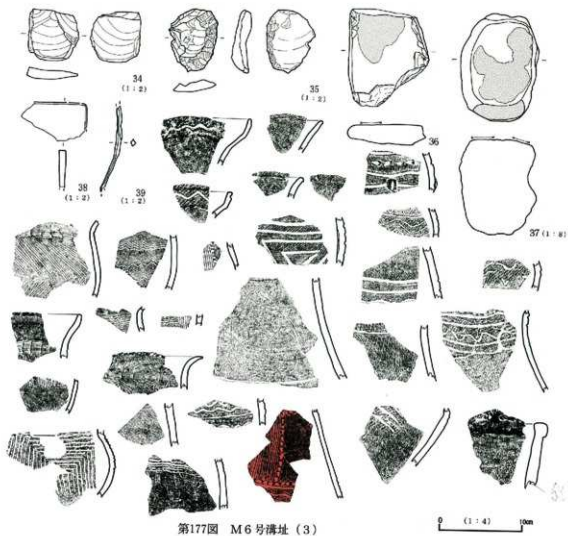


第176図 M6号溝址(2)

0 (1:4) 10mm

12	発土器 壺	(13.8) - (17.6)	内 器面の変れにより不明(口縁の一部にミ ガキ残る) 外 ヘラナデ(板目)→口縁ココナデ・胴部 ミガキ 文 口縁 縄文後櫛形波状文 胴部 縄文後ヘラ板花線(2本) 口唇部にも縄文が残るが磨耗している。	口縁~胴部定形 内 7.5YR6/4 (洗黄橙) 外 7.5YR6/4 (洗黄橙)	~1mm以下の長石含む。	No.3-4 No.36 Eあ1・Eあ 2
----	----------	-----------------------	--	---	--------------	--------------------------------

13	弥生土器 壺	(6.0) 5.3 13.8	内 外 文	口縁ミガキ・頸部から下はナデか? ヘラナデ(紅目)後ミガキ 口部部 縄文 頸部 縄文→ヘラ沈線(1本)	頸部~底部完形 内 10YR8/3(浅黄橙) 外 10YR8/3(浅黄橙)	緻密。~0.5mmの長石含む。	No.3
14	弥生土器 甕	(8.6) -	内 外 文	内 口縁ヨコナデ・頸部ヘラナデ(紅目)・ ナデ 口縁ヨコナデ 口部部 縄文LR 頸部 縄文LR→ヘラ横線走平行縄文 (3条)	口縁1/4・頸部1/2残存 内 10YR8/3(浅黄橙) 外 10YR8/3(浅黄橙)	緻密。~1mmの長石・黒色 粒子少量含む。	1層東
15	弥生土器 甕	(17.2) -	内 外 文	内 口縁ヘラナデ(紅目)後ミガキ ヘラナデ(紅目)後ミガキ・口縁ヨコナ デ・頸部一部に淡い赤色塗彩 文 頸部ヘラ横線走平行縄文(4条)・ヘラ 指痕状文	口縁2/3残存・頸部完形 内 10YR5/2(灰黄緑) 外 10YR8/6(黄橙)	0.5mm長石・石英含む。	No.6・7
16	弥生土器 壺	(5.2)	内 外 文	ナデ・口縁付近ミガキ ヘラナデ(紅目)後ミガキ 頸部 1本のヘラ横線走平行縄文の間は ヘラナデ(紅目) 文 頸部ヘラ横線走平行縄文(2条)	頸部完形 内 7.5YR6/3(にぶい橙) 外 7.5YR5/3(にぶい橙)	緻密。~0.5mmの長石極少 量含む。	
17	弥生土器 壺	- (9.3)	内 外 文	内 ナデ・口縁ミガキ 口縁ミガキ 文 頸部 縄文LR・ヘラ横線走平行縄文 (3条)	頸部1/3残存 内 7.5YR8/6(浅黄橙) 外 7.5YR8/6(浅黄橙)	緻密。~1mmの長石・石英 少量含む。	No.22
18	弥生土器 壺	- (8.8) (23.0)	内 外 文	内 ヘラナデ(紅目) 外 ヘラミガキ	底部1/2残存 内 7.5YR8/6(浅黄橙) 外 7.5YR8/4(浅黄橙)	0.5mm黒色粒子含む。	1層
19	弥生土器 壺	- 9.7 (5.6)	内 外 文	内 ミガキ 外 ミガキ・底部磨耗	底部完形 内 10YR8/3(浅黄橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	緻密。~0.5mmの長石少量 含む。	Hく9 1層E
20	弥生土器 壺	- (8.1)	内 外 文	内 口縁ヘラナデ(紅目)後ミガキ・頸部か ら下はヘラナデ 外 ヘラナデ(紅目)→頸部から下はミガキ 文 頸部 縄文→ヘラ横線走平行縄文(2本)	頸部完形 内 7.5YR7/6(橙) 外 7.5YR7/6(橙)	0.5mm長石含む。	No.18
21	弥生土器 壺	- (8.8) (4.1)	内 外 文	内 ヘラナデ(紅目)・ナデ 外 ヘラナデ(紅目)後ミガキ	底部1/4残存 内 10YR8/4(浅黄橙) 外 7.5YR6/4(にぶい橙)	緻密。1mm黒色粒子含む。	横出
22	弥生土器 壺	- 9.4 (2.4)	内 外 文	内 ヘラナデ(紅目)・ナデ 外 ミガキ・底部ヘラナデ	底部完形 内 10YR8/3(浅黄橙) 外 10YR8/3(浅黄橙)	緻密。0.5mm長石含む。	No.23
23	弥生土器 壺	- 7.7 (2.3)	内 外 文	内 ナデ 外 ミガキ	底部完形 内 10YR8/3(浅黄橙) 外 10YR8/2(灰白)	緻密。~1mmの長石・赤色 粒子含む。	1層
24	弥生土器 壺	- (18.6)	内 外 文	内 ナデ・口縁ヘラナデ後ミガキ 外 口縁ヘラナデ(紅目)後ミガキ→腹部ナ デ・赤色塗彩 文 頸部 縄文LR・ヘラ横線走平行縄文(2 条)	頸部完形 内 7.5YR8/4(浅黄橙) 外 7.5YR8/6(浅黄橙)	緻密。~0.5mmの長石極少 量含む。	No.19 No.21 No.24 Gこ1
25	弥生土器 甕	- 7.0 (5.3)	内 外 文	内 ヘラナデ・ミガキ 外 ミガキ	底部完形 内 7.5YR5/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/6(橙)	~0.5mmの長石・黒色粒子少 量含む。	No.11
26	弥生土器 甕	- (7.6) (5.3)	内 外 文	内 ミガキ 外 ミガキ	底部1/2残存 内 10YR7/4(にぶい黄橙) 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	~0.5mmの長石含む。	1層
27	弥生土器 甕	- (7.9) (3.6)	内 外 文	内 ミガキ 外 ミガキ・底部ミガキ	底部1/3残存 内 7.5YR4/2(灰黄) 外 7.5YR5/4(にぶい橙)	緻密。~0.5mmの長石少量・ 黒色粒子極少量含む。	
28	弥生土器 甕	- (8.6) (2.4)	内 外 文	内 ミガキ 外 ミガキ	底部1/4残存 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	緻密。~0.5mmの長石少量 含む。	横出
29	弥生土器 白付壺	- (4.2)	内 外 文	内 胴部ミガキ・胸部ヘラナデ(紅目)・ナ デ 外 ミガキ	接合部完形 内 5YR6/6(橙) 外 5YR7/6(橙)	緻密。~0.5mmの長石含む。	1層
30	弥生土器 白付壺	- 7.1 (3.8)	内 外 文	内 胴部ミガキ・胸部ヘラナデ・ナデ 外 ミガキ・ナデ	台部完形 内 7.5YR7/6(橙) 外 7.5YR7/6(橙)	緻密。0.5mmの長石含む。	
31	弥生土器 白付壺	- 6.3 (3.0)	内 外 文	内 ナデ 外 ナデ	台部完形 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	0.5mm長石・石英含む。	Fう8
32	弥生土器 甕	- (4.7) (3.0)	内 外 文	内 ミガキ 外 ヘラナデ後ミガキ	底部1/2残存 内 7.5YR8/3(浅黄橙) 外 7.5YR8/3(浅黄橙)	~1mmの長石・黒色粒子・ 赤色粒子含む。	1層
33	須恵器 杯	(14.0) (6.8) 4.0	内 外 文	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部ヘラケズリ・底部付近 ナデ	口縁1/6残存 内 5Y5/1(灰) 外 7.5Y5/1(灰)	緻密。~0.5mmの長石少量 含む。	2層



第177図 M6号溝址(3)

0 (1:4) 10cm

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
34	破片	3.05	3.15	0.8	8.5	黒色鍍密安山岩	検出
35	スクレイパー	3.8	3.0	0.7	9.2	黒曜石	S、1層
36	台底石	<11.9>	9.8	2.6	<410>	鍍密安山岩 スリ面1	No.20
37	台石	26.5	19.1	23.2	13,620	黒曜石	No.31
38	鏃	<2.2>	<4.0>	<0.4>	<11.0>	鉄製品	
39	釘?	<5.3>	<0.3>	<0.4>	<1.1>	鉄製品	

第6節 グリット・表採遺物

Fい9グリットの須恵器杯はH20、Hく・け9グリットの弥生式土器はM6に関連するものであろう。



第179図 グリット・表採出土遺物(2)

第97表 グリット・表採出土遺物一覧表

番号	器種	法量	形状・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	- (6.7) (1.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部回転軸切り	底部1/4残存 内 NS/0 (灰) 外 NS/0 (灰)	石英・長石含む。	Aエ6 カタラン
2	須恵器 杯	- 6.2 (2.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部回転軸切り	底部完形 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・褐色粒子含む。	F119検出
3	須恵器 高台付杯	(11.6) (1.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部切り無し後回転軸ヘラ ケズリ→高台輪付	底部1/4残存 内 N7/0 (灰白) 外 N7/0 (灰白)	石英・長石・黒色粒子含む。	F919検出
4	須恵器 壺	(12.6) (4.1)	内 巻きこまれている。 外 胴部ヘラナデ・底部切り無し(方法不明) →高台輪付	底部1/8残存 内 N6/0 (灰) 外 N6/0 (灰)	石英・長石含む。	カタラン
5	土師器 杯	(11.6) 9.0 (3.5)	内 ヨコナデ後腹内系暗文 外 口縁ヨコナデ後口縁下半から底部ヘラ ケズリ	口縁1/7残存 内 2.5YR7/6 (橙) 外 5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石・黒色粒子少量含 む。	Eク1
6	土師器 壺	- (7.7)	内 ミガキ 外 ミガキ	破片 内 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	F1110検出
7	土師器 高台付鉢	(8.0) (5.4)	内 鉢部 ミガキ後黒色施彩 高台ヘラナデ(縦目) 後裾部ヨコナデ ヘラナデ(横目) 後胴部ヨコナデ	台部1/2残存 内 10YR2/1・10YR7/3 (黒・ にぶい黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石含む。	G11 カタラン
8	弥生土器 壺	(6.2) (2.3)	内 ミガキ 外 胴部ヘラナデ・底部ヘラナデ	底部1/2残存 内 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	石英・長石含む。	H179検出
9	土師器 壺	- 8.0 (2.6)	内 ヘラナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラナデ	底部完形 内 10YR8/3 (浅黄橙) 外 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英・長石・黒色粒子含む。	H1710検出
10	土師器 杯	(18.4) (18.8) (1.8)	内 ミガキ後黒色施彩 外 口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	口縁一部残存 内 10YR1.7/1 (黒) 外 10YR6/2 (灰黄橙)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒子少量含む。きの細かい。	H1810検出
11	弥生土器 高杯	- 66.5 (6.1)	内 杯部 ミガキ後赤色施彩 脚部ヘラナデ 外 杯部 ミガキ後赤色施彩 脚部ヘラナデ	脚部1/2残存 内 7.5R4/6・7.5YR7/4 (赤・にぶい橙) 外 7.5R6/4・7.5YR7/4 (赤・にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子含む。	H179検出 H179検出
12	弥生土器 壺	- 6.0 (6.8)	内 ヘラナデ(縦目) 外 胴部ミガキ後赤色施彩・底部ミガキ後赤 色施彩 文 胴部状にヘラ指込溝で区画し中にヘラ 指針走文飾す。	底部完形 内 7.5YR8/3 (浅黄橙) 外 10R4/6・7.5YR7/3 (赤・にぶい橙)	石英・長石・赤色粒子・褐色 粒子少量含む。	H179検出

13	弥生土器 甕	(17.2) - (13.6)	内 外	ミガキ 口縁ココナデ・胴部ヘラナデ(炬目) 頸部 10本1組とする櫛歯状文(1道 止め) 腹部 9本1組とする櫛歯状文	口縁1/8残存 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 5YR4/1 (赭灰)	石英・長石・赤色粒を含む。	II<9検出
14	弥生土器 胸付鉢	- (6.4) (4.0)	内 外	ヘラナデ ミガキ後赤色塗彩	台部1/4残存 内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5R4/6 (赤)	石英・長石・褐色粒を含む。	II<9
15	弥生土器 盆	- (8.2)	内 外	口縁ミガキ ヘラナデ・ナデ 頸部 櫛歯状文 (10本) - 櫛歯状文 (10本)	頸部1/4残存 内 10YR8/3 (浅黄橙) 外 10YR8/3 (浅黄橙)	1mmの長石・赤色粒を含む。	Mあり
16	弥生土器 鉢	- (5.2) (2.6)	内 外	ミガキ後赤色塗彩 胴部 ミガキ後赤色塗彩 底部 ミガキ	底部1/4残存 内 7.5R4/6 (赤) 外 7.5R4/6・7.5YR8/3 (赤・浅黄橙)	石英・長石・黒色粒子少量含む。	III<9検出
17	弥生土器 鉢	- 4.0 (2.1)	内 外	ミガキ後赤色塗彩 胴部 ミガキ後赤色塗彩・底部ヘラナデ	底部完形 内 7.5R7/6 (赤) 外 7.5R7/6・7.5YR5/1 (赤・褐灰)	石英・長石・赤色粒子・黒色 粒を含む。	III<9検出
18	弥生土器 甕	(20.6) - (6.8)	内 外	ミガキ 口縁ココナデ・胴部ヘラナデ 頸部 6本1組とする櫛歯状文 腹部 6本1組とする櫛歯状文	口縁1/8残存 内 7.5YR4/1 (褐灰) 外 7.5YR4/1・6/3 (褐灰・ にぶい褐色)	石英・長石多量に含む。	III<9検出
19	土師器 甕	(11.0) - (3.4)	内 外	口縁ココナデ・胴部ヘラナデ 胴部ヘラナデスリ・口縁ココナデ	口縁1/8残存 内 5YR7/4 (にぶい橙) 外 3YR5/4 (にぶい赤褐)	石英・長石含む。	III<9検出
20	弥生土器 甕	- (9.2) (4.0)	内 外	ミガキ 胴部ヘラナデ(炬目)後ミガキ・底部ミ ガキ	底部1/2残存 内 N3/0 (脚灰) 外 5YR5/4 (にぶい橙)	石英・長石含む。	Fい10検出
21	弥生土器 土製刀版	3.2 4.9 0.8	内 外	ミガキ ミガキ・櫛歯状文	変形 内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR7/3 (にぶい橙)	~0.5mm長石・黒色粒を含む。	Mえ8検出
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
表採 22	白玉	0.8	0.75	0.1	0.4	滑石	
表採 23	片玉	0.9	0.9	0.4	0.5	滑石	
24	石版	(2.4)	1.5	0.4	(1.1)	黒曜石	Aき7
25	石版	(1.1)	(0.9)	0.3	(0.3)	黒曜石 先端部・基部の一部欠損	Bあり検出
検出 26	石版	(1.05)	(1.35)	0.2	(0.29)	黒曜石 先端部・基部の一部欠損	
27	湖片	2.7	1.2	0.3	1.3	黒曜石	Dこ10 カクラン
28	湖片	3.3	1.7	0.35	1.9	片岩	Eう2
29	未製品 (石製石版)	2.6	1.8	0.35	1.9	滑石 先端部残存	Eう2
30	ミガキ石	3.6	2.4	1.0	10.3	黒曜石 (短石の粒多く混じる。)	Eう2
31	未製品 (磨製石版)	(2.85)	(1.35)	0.3	(1.6)	片岩	Fあり検出
32	砥石	(5.7)	4.8	1.8	(5.0)	硬砂岩	Aえ6
33	ミガキ石	4.8	4.1	2.6	7.0	チャート 全体に磨耗	Aあ6
34	黒物石	14.5	4.5	2.7	25.0	安山岩	B<9
35	黒物石	12.0	6.2	4.3	48.0	安山岩 全体に磨耗	Fい9検出
36	砥石	(7.5)	5.8	2.5	(14.0)	硬砂岩	Gい1カクラン
37	黒物石	12.3	6.1	4.3	40.0	安山岩	Gい1カクラン
38	黒物石	(5.3)	5.7	3.8	(13.0)	硬砂岩 全体すり面。	Iこ1検出
39	スリ石	11.6	6.1	3.0	47.0	安山岩	H<9
表採 40	ミガキ石	3.8	(2.4)	0.6	(0.6)	石質?	Nけ8
41	黒物石	(13.3)	5.5	5.0	(69.0)	チャート スリ面5	H<9
42	鉄器	(12.4)	(4.6)	(1.0)	(21.5)	鉄製品	Aい7
43	?	(2.8)	(0.4)	(0.3)	(1.5)	鉄製品	Fい9検出
44	鉄	(4.9)	(1.9)	(0.2)	(4.9)	鉄製品	Gあり検出
45	?	(8.4)	(2.5)	(0.4)	重さ(40.6) 孔径 0.9	鉄製品 穴	Aい6 カクラン

第V章 総 括

西一本柳遺跡は一本柳遺跡群の北西にあたり、台地が北西に傾斜する縁辺にある。東西254m、幅16m（東は幅8m）にわたる調査区域である。本調査の検出遺構は竪穴住居址92棟、掘立柱建物址30棟、単独ピット464個、土坑51基、溝13本である。時代は弥生時代中期・弥生時代後期・古墳時代中・後期・奈良・平安時代・中世である。

ここで時代別に本遺跡について見ることにする。

第1節 弥生時代

1. 弥生時代中期（第180・181図）

弥生時代中期の遺構は竪穴住居9棟と溝址1本がある。

1) 竪穴住居址 H29・H37・H43・H63・H74・H79・H81・H88・H94

本遺跡では最も古い遺構であるため新しい遺構に壊されたり、調査区域外であったりと、全体を調査した住居址はない。また検出面から浅いため、規模・形態の完全に明らかでないものはない。形態は残存部から隅丸長方形を呈するものと思われる。遺物も重複遺構に壊され、耕作の際に除去されているため実測遺物は少ない。

弥生時代中期の土器形態分類

杯A 杯部全体が内湾気味に外傾し開く。

壺A1 口縁部が短く、外反する。

壺A2 口縁部が長くなり、外反する。

壺B1 口縁部が短く、外傾外反するが上部で内湾し受け口状になる。

壺B2 口縁部が長くなり、外傾外反する口縁部上端部が内湾し、受け口になる。

壺C1 口縁部が短く、外傾外反する口縁部上端部に明確な稜を持って、口縁が直立し受け口状になる。（L字状）

甕A1 口縁部が短く強く外反する。

甕A2 口縁部が短く内稜を持って外傾外反する。

甕B1 受け口状口縁で口縁が外反し外稜を持って直立する。（L字状口縁）

甕B2 受け口状口縁で外稜を持たず全体に内湾し直立する。

☆H74土器様相

杯A 赤色塗彩され、内湾している。（H74-1）

壺B2 口縁部内外面無彩である（H74-2）

壺B1 口縁外面縄文とヘラ描波状文、頸部櫛描蓋状文、胴部は縦に羽状の櫛描斜交文。（H74-7）

壺B2 口縁外面にヘラ描波状文、胴部にヘラによる「コ」字重ね文。（H74-5）

口縁部外面櫛描波状文と円形貼付文、頸部櫛描波状文、胴部櫛描波状文多段に縦の櫛描直線文（H74-8）。

壺B2の口縁部が内湾する受け口口縁、頸部に篋状文施文し、頸部を意識していることなどから、小山1990「佐久地方の弥生土器」（注2）の中期後半Ⅲ期、小林1999「西一本柳Ⅲ・Ⅳ」（注1）の弥生時代中期後半新相を持つものである。他の住居址の土器もほぼ同期と考えられる。

☆住居址の規模・形態

（H37・H63・H79・H81は部分的な検出で住居址の規模・形態の検討は不可能）

A. H94

南北2本の計4本主柱穴。北に棟持ち柱。出入口2個のピット。

規模は長軸504cm、短軸400～440cmを測る。

（INPⅢ・ⅣのH4・64、INPV・MH2～H5と同規模）

B. H29・H43・H74

南北に3本主柱穴、計6本主柱穴。北に棟持ち柱、出入り口に2個ピット。

規模は長軸640cm、短軸530(推定)cmを測る。

(I N P III・IV H14と規模が同一)

C. H88

大規模な住居。南北に3本柱、計6本主柱穴。北に棟持ち柱を持つ。

規模は東西(短軸)616cmを測る。

(I N P III・IVのH6(長軸800cm、短軸600cm)・H44と同規模)

弥生中期新相の住居址は隅丸長方形、規模はA～Cの3段階に別れ、A. 長軸500cm、B. 長軸640cm、C. 長軸800cm規模である。規模別の住居址の数ではA・B群の住居址が多く、C群は小数である。同時期の弥生の集落がみられた。南西に続く北西の久保遺跡(注5. 1984『北西の久保(1次)』・1987『北西の久保(2次)』(以後IKN(一次)・IKN(2次)と略す。))ではA群が15棟、Bが6棟、Cが4棟という数値を示す。

炉は住居址中央に設けられ、土器を使用しない地床炉であり、炉縁石として小礫が囲むように置かれる。

貯蔵穴は西一本櫛遺跡・北西の久保遺跡でも見つかっていない。

2) 溝 M6・M12

M6は本遺跡の中段E1～H10グリットの東西方向にあり、60mを直線あるいは弧状に巡っている。最も幅の広い所で182cm深さ76cmを測り、断面形は底面に平坦面を持つV字形である。これはI N P III・IVのM8、V・VI(注3)のM5と類似している。また、多量の弥生中期の土器を出土する。出土土器は甕B2、壺A2・壺B2がみられ、弥生時代中期新相の土器群である。東にあるI N P VのM5とは途中で切れるが、その間には同期の住居址がある。また、溝は調査区の中で南に延び、その北側にも同期の住居址がある。溝からはずれる住居址もあるが、深く急で、人工的な掘り方からは環濠的性格が考えられる溝である。

2. 弥生時代後期(第180・181図)

弥生時代後期の遺構は竪穴住居址7棟である。H7・H32・H45・H66・H68・H91・H93

弥生時代後期土器分類(注4. 青木一男1999『長野県の弥生土器』を参照している)

高杯

高杯A 赤色塗彩され、本遺跡では実測されないが杯部が全体に内湾するもの。

高杯B 赤色塗彩され、上部部が外反する。杯部に外縁は持たない。

高杯C 赤色塗彩され、中に外縁を持って、直立し、上部が大きく外反する。

壺 弥生後期の壺は口縁の短い細頸の器形はなく、時代が下がるにつれ赤色塗彩が増える。

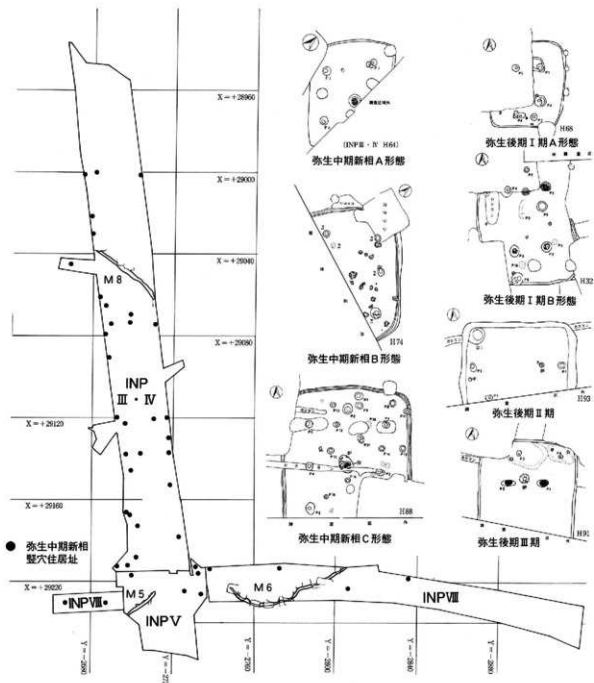
壺A 口縁部が全体に大きく外反する。弥生中期壺A2の延長線上にあるもの。

壺B 口縁部が外傾外反し、上部部が内湾する。内湾する端部外面に脚摺文が施される。

壺C 口縁部が外傾外反し上部部で、外縁を持って直立する。

甕A 口縁部が長くなり頸部から大きく外反する。

甕B 口縁部が長くなり直立気味でわずかに外傾し、上部部内湾する。



第180図 弥生中期新相の溝と竪穴住居址 (1:1600)

1) 弥生後期Ⅰ期 H32・H68・H45

☆土器様相

壺・杯は良好な資料がない。

堿A 施文は櫛掻で、口縁部横方向に波状文3条、頸部縷状文、胴上部横方向に波状文5条、胴中位に斜走文風に細いヘラ縷文を施す。(H32-1)

- 要B 1 口縁の上端部に波状文1条、頸部簾状文、胴上部波状文5条、胴中に斜走文を施す。(H32-2・H68-1・H90-26・27)
口縁部外傾外反し端部は内湾気味になる。口縁部には施文されず、頸部に簾状文2条、胴上部に波状文を施す。(H32-3)

☆住居址規模・形態

- A. 長軸504cm、短軸400～440cm 4本主柱穴、東西柱間168cmを測り、住居址規模は弥生中期A群と同規模・同形態である。
炉は主柱穴間より南にあり、コの字に石で囲んでいる。IKN(1次)Y46・Y50では南出入り口ピット東脇に貯蔵穴が見られる。(H68・IKN(1次)Y46・Y47・Y50・Y53)
- B. 長軸800cm短軸580cmを測り、6本主柱穴。主柱穴の東西間が後出の住居址より、狭く220cm前後を測る。(後出の住居址は260cm前後となる。)220cm前後の東西柱間距離は弥生中期B群と同である。しかしながら住居址面積は弥生中期C群とした規模になっている。住居址の規模は弥生中期より拡大している。
炉の位置は北の主柱穴間中程より、やや南にある。炉の位置・柱穴間距離が弥生中期的である。
(H32・INPⅢ・NH41, KN(1次)Y56)

この期の住居址が少ないのは後期に移行した時代変遷のためであるかもしれない。しかし、弥生後期Ⅱの土器を出土するIKN(2次)Y104では同一住居で規模の拡大がなされ、内側の主柱穴がこの期の弥生後期Ⅰ期ピットと同一である。本期は比較的時間の幅がなく、次の時期に移行したのであろう。

2) 弥生後期₁ H93

☆土器様相

- 高杯C 高杯杯部は、全体に内湾気味で深い器形である。外面中に緩やかな外縁を持ち、口縁は内縁を持って水平に外に折れ罫となる。(H93-1)
- 高杯B 杯部が直線的に外傾する。(H93-2)
- 甕A 壺口縁のみであるが、無彩で、外面はヘラナデ、口縁内面のみがミガキ調整される。大型品である(H93-4)。
- 深鉢 壺胴下部で、炉底として使用される。器形は壺形で、胴下部に屈曲はなく、胴下部も赤色塗彩され、底部は丁寧ミガキ調整される。内面はヘラナデである。(H93-5)
- 甕A 口縁部が頸部で変換して外傾外反し、胴部形はやや張る。口縁外面に櫛描波状文が2条、間をあけて施文。頸部に文様はなく、胴上部に櫛描波状文を5条連続している。(H93-10)
小型の壺器形であるが、内外ミガキ調整のみで施文していないものがある。(H93-11)

☆住居址規模・形態

- 東西長504cmの方形を呈す住居であり、主柱穴は東西壁下中央にあり、2本主柱穴の住居址である。
H93と同様に方形を呈する住居址で2本主柱穴の住居はIKN(1次)Y49があるのみである。
(INPⅢ・NH7が長軸380cm短軸305cmの隅丸長方形呈し南北2本主柱穴である。土器は弥生後期初頭である)。

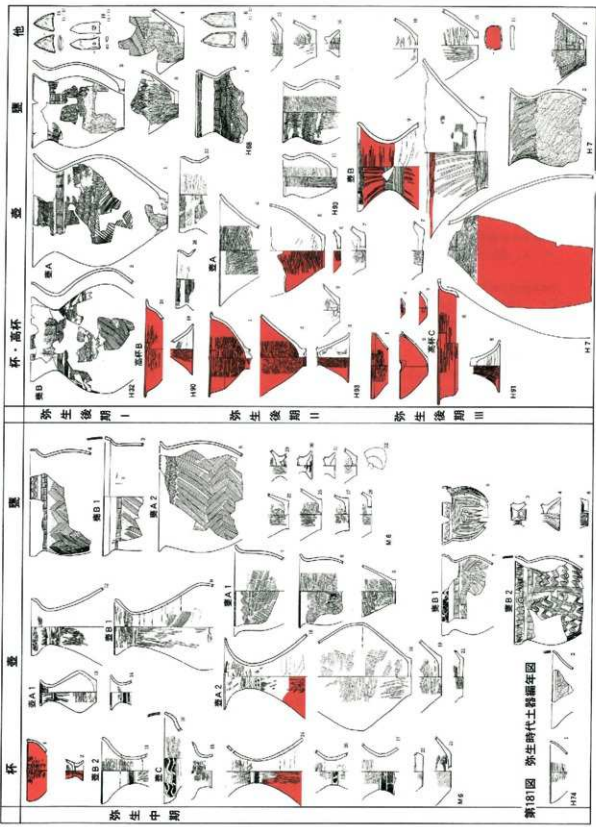
3) 弥生後期₁ H91

☆土器様相

- 高杯C 内外面赤色塗彩され、突起が付く。(H91-6)
- 甕B 口縁外面上端部に1条の櫛描波状文、頸部に櫛描簾状文・櫛描横線2条の計3条の櫛がめぐる。口縁部内外面、胴上部は、文様以外はミガキ赤色塗彩される。(H91-9)

☆住居址形態

- A. 隅丸長方形を呈し、H91は短軸416cmを測る。



第18圖 新石器時代土器圖年

炉には大型の煮割下部から底部を入れ炉底としている。その位置は主柱穴間よりやや北にある。赤色塗彩品が多く、高杯の外縁、大型甕の存在などから後期Ⅱより後出する。

- H 7 は北東のみ検出され住居址形態は不明である。土器についてみると、
壺 壺の頸部から胴部で、大型品である。頸部には櫛描の縞状文、3段の櫛描波状文が施文され、胴上部は赤色塗彩される。(H 7-1)
甕 甕器形であるが内外面胚目を残すヘラナデに近い斜状文が施文される。(H 7-3)
施文されない甕等は後出の要素かと思われるが明確ではない。

第2節 古墳時代

1. 古墳時代中期 (第182図) 6棟

本遺跡から古墳時代中期の遺構は竪穴住居址である。H13・H46・H65・H72・H75・H90
このうち、遺物が出土し、プランがわかるものはH13・H75・H90である。

古墳中期の土器分類 (注6. 1999富沢一明「長野県東信地域の古墳中期の土器」)

- 杯A1 杯底部は平底である。底部へ1.6cm幅にわずかに粘土を貼り、ヘラナデしている。中央は1mm窪み、低い。口縁が内縁を持って外傾する。内外全体にナデられ、口縁は内外横ナデされる。(H13-1)
杯A2 丸底から口縁部が内縁を持って短く外傾する。外面はヘラナデの胚目を残し内外面暗文様のミガキを施す。厚手。(H13-2)
杯A3 杯は丸底で口縁が内縁を持って外傾する。外面はヘラナデの胚目を残してナデ調整され、口縁は内外横ナデ、内面内湾する部分に暗文様にわずかにミガキ調整される。(H90は内面のミガキなし)(H13-3、H90-1・4の杯が浅いものH90-3、H90-1)。
杯A4 杯A3の杯に内面に暗文、外面ミガキを施している。(H90-2)
高杯A1 杯部形は、杯底部から外縁を持って、口縁部が外反気味に外傾する。脚部が柱状で、裾部は屈曲して、低く開く。
脚外面に暗文が施文されるが瞭らである。(H32-7、H69-7、H13-7、H90-9・15)
高杯A2 杯部形は同様で、高杯脚部が柱状部でふくらみを持ち、外縁を持って裾部は外反して、低く開く。脚外面に暗文が施文。(H13-8、H90-7)
高杯B 高杯は杯底部が広く口縁が外縁を持って直立し、端部がやや内湾気味、脚は全体に開き、裾部は外反して平たくなる。杯内外面、脚外面に暗文が施される。(H13-5、H90-14・16・17)
小型丸底 小壇で小型丸底の体部は球形を呈し、ナデ調整される。(H90-20)
有段口縁壺A1 口縁部が外反し外縁を持ってさらに外反する。(H90-21)
ミガキ甕 口縁部はく字形、口縁端部は面取りされ、口縁内外面に暗文を施す。(H90-23)
ナデ甕 口縁く字形で、胴部はナデ調整のもの。(H90-22)
ケズリ甕 外面胴下部には胚目のヘラナデ、底部近くがヘラケズリされ、上部はヘラナデされる。(H13-11)

1) 古墳中期Ⅰ期 H75

☆土器様相

本遺跡では遺構と伴う土器はH75のみである。(H75以外は混入したものを抽出している。)

北西の久保遺跡(1次)で、同期の住居址が19棟検出され、新旧関係があり、2時期に細分できる。中期の中の時間差と捉える。高杯はA1形態であり、脚が円錐形に開く高杯Bが存在していない。高杯A2は柱状部が膨らみ始める程度である。有段口縁の壺、多くの小型丸底、ケズリ甕、ミガキ甕、ナデ甕がある。

☆住居址形態規模 (本遺跡には該期が1棟であるため北西の久保(1次)の住居址で分類)

カマドはなく、4本主柱穴、貯蔵穴等のピットが設けられる。規模3つに分けられ、H90はB形態である。

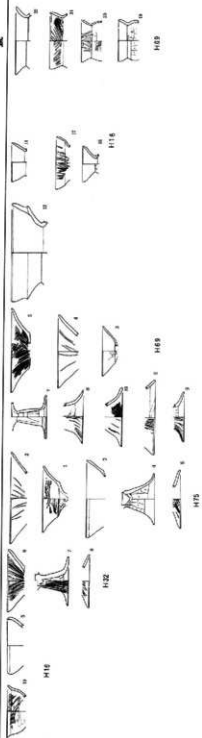
- A. 短軸200~312cmの(東西に長い)方形の住居 6棟
B. 短軸403~488cmの(東西に長い)方形の住居 5棟

杯

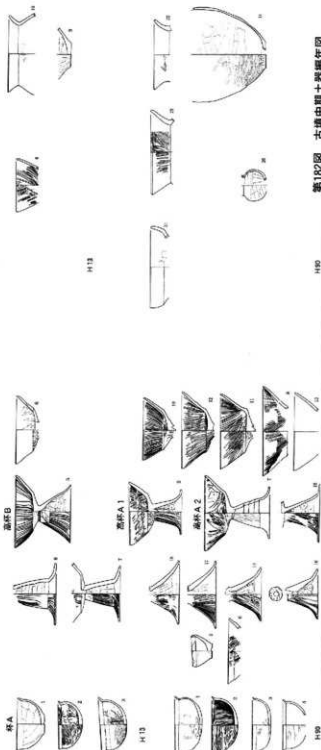
高杯

盤

豆



古 墳 中 期 Ⅰ



古 墳 中 期 Ⅱ

第182圖 古墳中期土器圖

H90

2) 古墳中期₁

☆土器様相

杯Aの数量が増え、深いものが多い。高杯はA 1・A 2・Bが揃う。高杯脚の短脚化がみられる。杯・高杯に暗文が前代より密に施される。有段口縁帯は段が緩やかになる。ケズリ甕は古墳中期Iのような球胴形ではなく長胴化してくる。小型丸底は数量を減らす。

H90の土器の胎土分析をしたところ、H90-23のミガキ甕が住居址南壁下ビット脇から出土した粘土と胎土が一致する結果が得られた。23の甕は炉の中に置かれていたものである。H90-1・6・12の土師器杯破片も同時に胎土分析したが一致していない。本遺跡の低地を越え北の台地にある円正坊遺跡IV(注7, 2002『円正坊遺跡IV』)に(古墳中期のH90より後出する)H12がある。円正坊遺跡IV H12からも粘土が出土し、H12の出土土器の胎土分析をした。土師器高杯・小型甕との胎土の一致が確認された。同時に出土する杯Aと胎土が一致しないとされ、本遺跡と同様、杯A類との胎土は一致しなかった。出土する土師器杯と全部一致しないようである。しかし、これらも数量が多く、胎土組成からは在地近傍の可能性が高いと報告されている。

☆住居址形態

2棟のみで規模がわかるのはH90のみである。

H90は南北463cm、東西523cmを測り、東西に長い方形を呈す。古墳中期IでB群の規模であり、形態的には東西が長い方形を呈しており、I期と同様である。しかし、住居址が同規模のI KN(一次)H5・H6主柱穴の東西間は、H5は296cm、H6は256cm(古墳中期Iの中で後出する土器を持つ)、H90は252cmと東西柱間距離が、明らかに狭くなっている。H90の東西柱間の数値は後出する本遺跡では検出されていないが円正坊遺跡IV、下聖蹟遺跡(注8, 1992『国道141号線関連遺跡』)の古墳中期Ⅲの数値に近い。

炉は北の主柱穴東西間に設けられ、弥生時代のように定形ではなく、長楕円の傾向はあるが不整である。H90では北に23の甕口縁が置かれていた。

3) 古墳中期₂

この後住居址にカマドが設置され、暗文の多用された高杯・杯、須恵器杯蓋模倣杯に伴うI NPⅢ・IV H5・H13・H124、仲田遺跡H6・H16(注9, 1999『仲田遺跡』)、円正坊遺跡IV H8・H30の古墳中期のⅢが入るのであろう。

この期は大井城跡(注10, 1986『大井城跡(黒岩城)』)、下聖蹟遺跡など新しく集落が形成される。

隣接の北西の久保遺跡(古墳中期I)から西の一本柳遺跡(古墳中期I～Ⅱ)へと広がり、さらに北の1～2km圏内にある円正坊遺跡、岩村田内西浦Ⅱ、大井城跡、下聖蹟遺跡と新たに古墳中期Ⅲの集落を形成している。北西の久保遺跡(I KN)2次で検出された円形周溝低墳丘墓群は、北西の久保遺跡の南先端にあり、古墳中期を通しての墓域であったと推察される。



杯A



杯B1



杯B2



杯B3

2. 古墳後期(第183～186図)

後期の土器の分類基準として形態変化の追える土師器杯について見ておきたい。(小林『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』・鳥羽『更埴埴理遺跡・屋代遺跡群—総論編—])

杯A類 古墳中期の末まで残り、後期では姿を消してしまう。

杯B類 底径に比して口径が大きい器形。内外面ミガキ調整され、内面は黒色処理される。

杯B1 丸底で外縁が中位にあり、外反外傾する。縁は明瞭で、全体が端



杯C



杯C類 丸底で全体が内湾する。本遺跡では資料が少ない。



杯E 1

杯E類 須恵器杯蓋を模倣する杯



杯E 2

杯E 1 丸底で外縁を持ち、屈曲して、口縁が直立ないし外傾する。
底部はヘラケズリ後ミガキ。

杯E 2 杯E 1の外縁が曖昧になったもの。



杯E 3

杯E 3 有段口縁杯。丸底から外縁を持って屈曲し、口縁が段をなして外傾する。
黒色処理されるものもあるがミガキ調整はない。暗文を施すものもある。

杯D類 須恵器杯身を模倣する杯。本遺跡では良好な資料がない。

正である。

杯B 2 杯B 1の外縁の位置が下がり、底部に近くなる。縁は不明瞭になり端正ではなくなる。

杯B 3 底部は外面は平底に近くなる。内面底部は丸みを持ち、内縁を持って内傾する。

☆土器様相

1) 古墳後期₁期 古相 H40、(I N P III・IV古墳I期、H194) (円正坊IV二期)

杯A類はなく、杯B 1・杯B 2がある。杯Cは数多くない。壺は口縁部が「く」字形で長胴化のみられるヘラケズリ壺と胴部が球胴形のミガキ調整の壺がある。滑石製白玉がある。

2) 古墳後期₁期 新相 H 3・H 5・H 15・H 18・H 33・H 36・H 59・H 70・H 76 (I N P III古墳II期H167)

杯B 1がなくなり、杯B 2のみとなる。杯蓋模倣杯E 1がある。鉢器形が数量を増してくる。壺は長胴化するが胴下部が膨らみ、最大径は胴部を持っている。縦方向のヘラケズリがなされ、粧目(従来ハケ目と通称しているもの)を残すものと残さないものがある。壺器形を伴う。瓶は一孔である。杯E 3がでてこない段階。

3) 古墳後期₁期 古相 H 9・H 14・H 27・H 30・H 35・H 49・H 52・H 60・H 69・H 71 (I N P III・IV古墳II期、H22・31) (円正坊III期)

杯B 3があらわれ、丸底の名残を残すが外面は明確な外縁を持たない。杯E 3の有段口縁杯を伴う。壺はスリムになり、下部の膨らみはなくなる。縦方向のヘラケズリのもの、その後ミガキ調整を加えるものとなる。

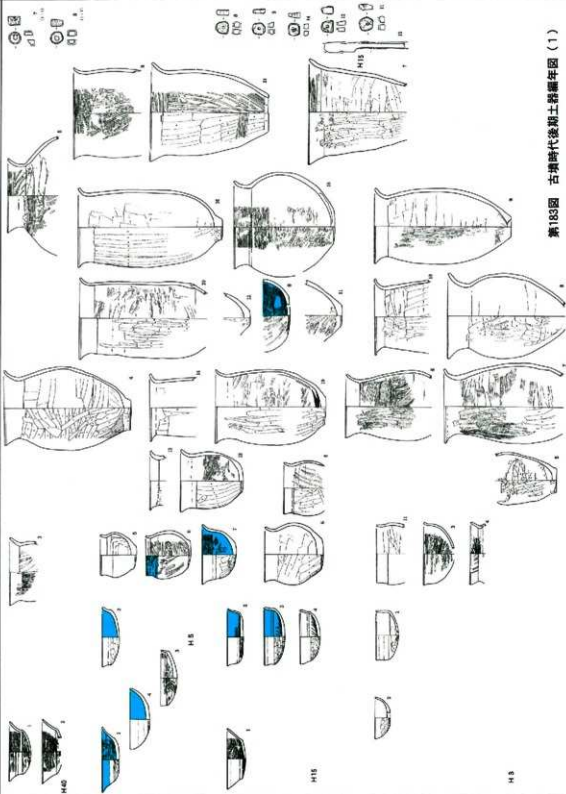
4) 古墳後期₁期 新相 H 8・H 19・H 54・H 62・H 67・H 73・H 80・H 82・H 87 (I N P III・IV H31・H55)

杯B 3が残り、杯E 3と共に伴う。長胴壺はより長胴化し、下部は細くなる。

5) 古墳後期₁期 H10・H16・H22・H44 (I N P III・IV古墳III期H80)

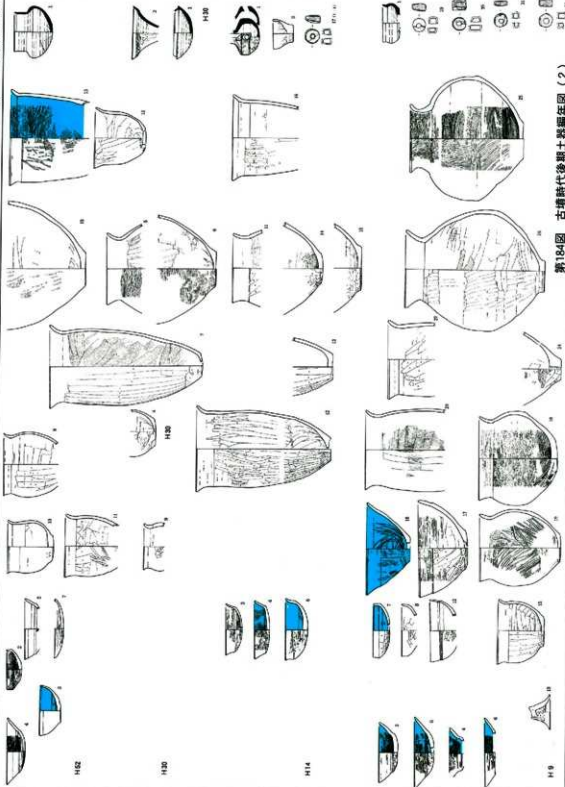
杯B類は姿を消し、杯E類が中心となる。杯E 1は外面の縁が曖昧になり、E 2となる。長胴壺はヘラケズリされるが非常に分厚いものである。

古墳後期IV段階は良好な資料がない。



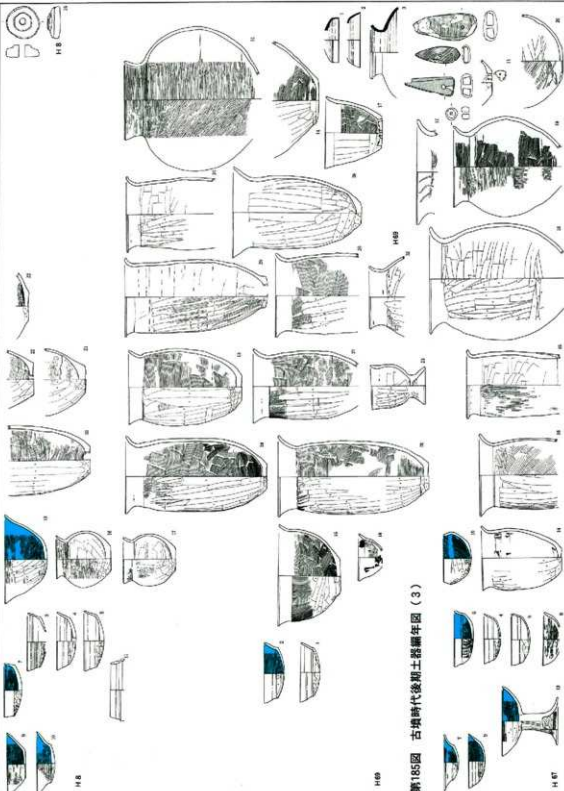
古墳後期 I

第183圖 古墳時代後期土器圖(1)



古墳後期 II

第184圖 古墳時代後期土器類年圖(2)



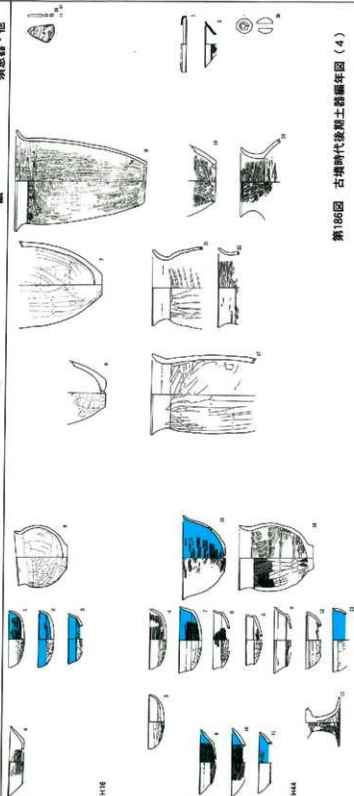
第185圖 古墳時代後期土器編年圖(3)

杯

鉢

甕

須臾器・他



石埧後期 III

第186圖 古墳時代後期土器圖年(4)

☆住居形態

古墳後期Ⅰ期では一般的には方形でカマドが北壁に設けられ、4本主柱穴である。

- A. ことに東西方向に長い長方形で、短軸300cm（2本主柱穴）
 B. （東西に長い）方形を呈し、短軸300cm
 C. 、短軸400cm前後
 D. 、短軸600cm前後

の4つの規模・形態に分けられる。

古墳後期Ⅱ期においても継続され、6本主柱穴（中央ピットは補助的である。）の大型住居が登場し、短軸で776・796cmを測り、出入り口中央に張り出しを持ち、ピットが設けられる。

古墳Ⅲ期には中規模住居が短軸452～472cm、大規模が572～640cm程度で北東隅に隅丸方形のピットが設けられ例が多い。

実年代については伴出する須恵器の年代（注11）からほぼ同期かそれ以後ということでみてゆくと、本遺跡出土の須恵器はH9-1短頸壺がTK43（6C後半）、H30-1の杯身がTK10（6C中頃）、H52-1の短頸壺などはTK23の217（7前半）以後の様相はなく、古墳後期Ⅱは6C後半があてられる。また円正坊遺跡Ⅳの古墳中期Ⅲ期からTK23の須恵器杯身が、土師器杯Ⅷ類を伴って出土する。5C末～6C初頭の年代が与えられる。これより、古墳後期Ⅰ期は6C代前半があてられるであろうか。

6) 石製模造品について

本遺跡の古墳時代後期の住居址より、白玉・土製丸玉・石製模造品が出土している。

住居址	白玉（径）	土製丸玉	石製模造品形態	有孔門板	備考
H40	2（8cm）				I区床面。滑石製
H15	5（1.6mm）				カマド火床部。頁岩製。
H14	1（9mm）				IV区床。滑石製。
H52	1（9mm）				IV区床。滑石製。
H9	4（8mm）				カマド火床部
H27			1（28mm）1孔		覆土。滑石製。
H69	1（5mm）				IV区上層。滑石製。
H73		1（8mm）			覆土。
H19	15（10mm）				IV区床。滑石製。
H54	4（7mm・8mm）		1（52mm）未製品	2（2.6・3.4mm）1孔	P1周辺床。滑石。未製品はⅢ区
H67		1（7mm）	3（30・27・39mm） 1・2・1孔		I区床・I区掘方。滑石製
H80	2（10・5mm）				滑石製。
H16			1（33mm）2孔		滑石製。2層・1区掘方
H10	1（9mm）	1（9mm）			I区。滑石製
H44	1（10mm）				
F9				1（27mm）1孔	P6。滑石製
H17			2（70mm・21mm）		I区上層。重積建構の混入品か

上記の出土状況である。石製模造品石質については白色と緑黒色があり、軟質の加工し易いものであり、滑石はその総称として使用している。

H40～H69までは古墳後期Ⅰ、H73～H80が古墳後期Ⅱ、H16～H44が古墳後期Ⅲである。剣形の石製模造品が古墳後期Ⅱの時期に増えていることがわかる。

杉山1972（注12）によれば集落における、滑石模造品は和泉式期からみられ、和泉Ⅱ式において、一般化する。鬼高Ⅰ式で最高になり、鬼高Ⅱ式で著しく減少するとしている。白石1985（注13）において、集落では、5C中葉から6C後半まで、石製模造品がみられ、その中心は5C後半から6C前半であるとしている。集落から出土する石製模造品は全期を通じて剣・有孔門板・勾玉・白玉が中心であるとしている。

また石製模造品の形態変化については、篠原1997（注14）において剣形模造品についての福年試案が述べられており、A～Dに形態変化しているもの。

- A. 菱形を呈するもの。所謂両面に鋸を表現しているもの。

（4C後葉～5C前葉）

- B. 三角形を呈するもの。片面に鑄を表現しているもの。
(5C前葉～5C中葉)
- C. 台形を呈するもの。鑄の表現が形骸化し、稜となるもの。
(5C中葉～5C末葉)
- D. 長方形を呈するもの。所謂板状のもの。
(5C末葉～6C前葉)

本遺跡の剣形模造品についてみると、H17～22の剣形模造品はBタイプで5C代に位置づけられる。H17は奈良時代の住居址であるから、混入品と考えられる。H67～23・24・25はDに分類できるものである。H67の石製模造品はH67に伴うものであろうことから土器の年代と石製模造品の年代は6C前葉ではほぼ一致する。

第3節 奈良・平安時代

1. 奈良時代 (第187回)

☆土器様相 (注15, 2000『下壟端IV』)

1) 奈良Ⅰ期 H11・H21・H25・H37・H48・H55・H64・H89

須恵器杯は底部回転ヘラ切り離しである。ナデ調整がなされる程度で丸底気味である。

土師器杯は底部が手持ちヘラケズリされ、口縁は横ナデされる。底部は丸底である。内面は畿内系暗文が施文されるものが多い。

土師器甕は武蔵甕で口縁部の外傾度が強く、口縁部形態「く」の字形を呈す。胴部も後代の甕より膨らみを持つ。

2) 奈良Ⅰ期 H34・H39

須恵器杯は底部回転ヘラ切り離しである。手持ちヘラケズリされ、ナデられ丸底気味である。切り離し後回転ヘラケズリされ平底を呈すものもある。口径が奈良Ⅰ期より小さくなる。

土師器杯は底部が手持ちヘラケズリされ、口縁は横ナデされる。底部は丸底である。内面は畿内系暗文が施文されるが奈良Ⅰ期より文様が疎らで、暗文を施さないものもある。

3) 奈良Ⅰ期 H17・H86

須恵器杯はヘラ切り離しと回転糸切り離しがある。回転ヘラケズリされ、平底を呈する。口径はさらに小さくなる。

土師器杯はロクロ成形で、底部が回転糸切り後、手持ちヘラケズリされ、平底を呈す。内面ミガキ黒色処理される。

4) 奈良Ⅰ期 H1・H12・H24・H31・H50・H51

須恵器杯は回転糸切りされ、そのまま未調整である。

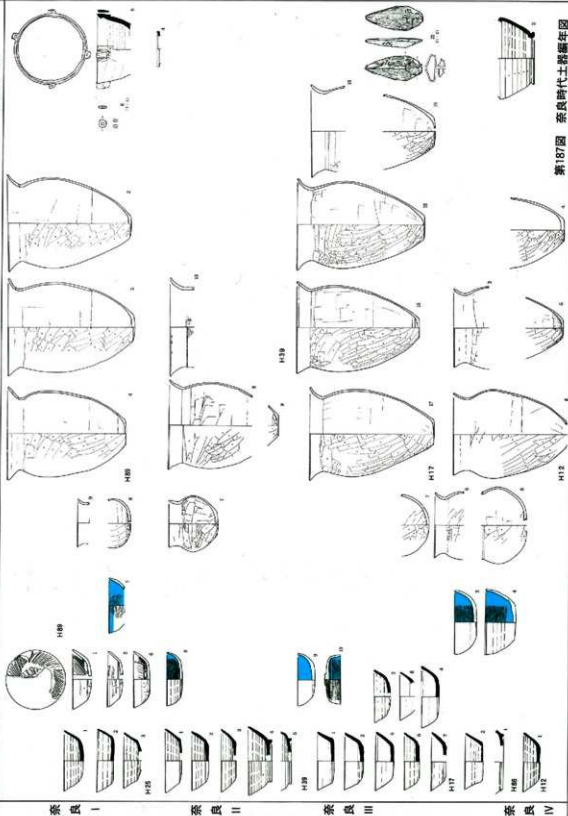
土師器杯はロクロ成形で底部手持ちヘラケズリされ平底を呈す。内面ミガキ黒色処理される。

土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態に「コ」の字形が加わる。口縁部形態「く」の字形も外反が緩やかになり、明瞭でなくなる。

☆住居址規模・形態

奈良時代の住居址は古墳時代後期にもみられたが2本主柱穴と4本主柱穴とがある。2本主柱穴の住居でも規模の大きい住居址の存在が注目される。また煙道をほぼ水平に160cm以上(擾乱により最後まで確認できていない。)石を両側に並べ置いて延長している。2本主柱穴は長方形、4本柱穴は方形を呈す。規模は奈良時代を通して大きな変化はない。Ⅳ期は平安時代と共通するもので、柱穴が小さく浅くなる。

時期	主柱穴	棟数	短軸	長軸	数	短軸	長軸
Ⅰ期	2本主柱穴	2	280・295cm	290・352cm	1	406cm	480cm
	4本主柱穴	2	227～300cm	243～328	2	400cm	388・425cm
Ⅱ・Ⅲ期	2本主柱穴(Ⅱ期)	1	296cm	378cm	1	386cm	521cm
	4本主柱穴(Ⅲ期)				2	434・430cm	468・435cm
Ⅳ期	4本主柱穴	5	270～359cm	276～376	1	404cm	490cm



奈良 I

奈良 II

奈良 III

奈良 IV

新187図 奈良時代土器編年図

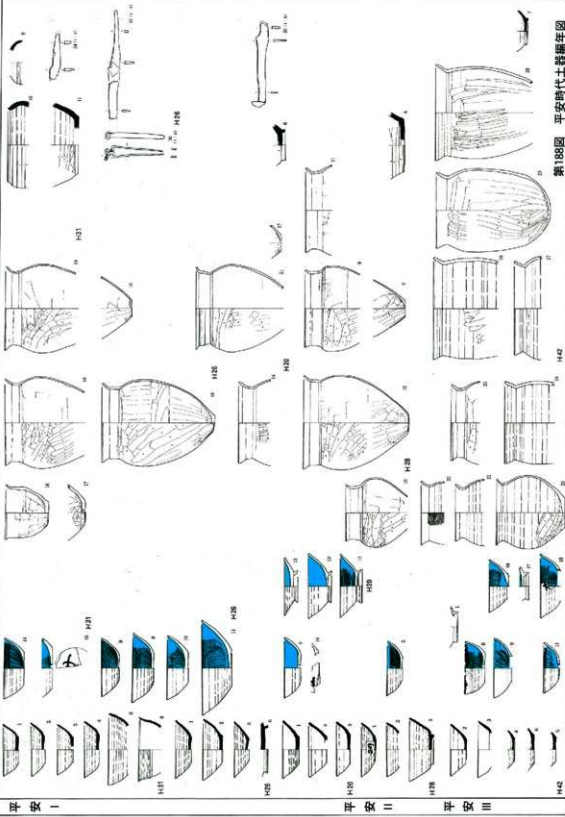
須惠器杯

杯

鉢

甕

須惠器・他



平安 I

平安 II

平安 III

第188図 平安時代土器編年図

2. 平安時代 (第188図)

☆土器様相

1) 平安時代Ⅰ H31・H26

須恵器杯は回転糸切り雕し、未調整である。

土師器杯はロクロ成形され底部は手持ちヘラケズリされ平底である。内面ミガキ黒色処理される。

土師器甕は武蔵甕で口縁部形「コ」の字形になり、胴部のヘラケズリ横位方向が胴上半を占める。

2) 平安時代Ⅱ H20・H23・H28

須恵器杯は軟質で回転糸切り、未調整である。

土師器杯はロクロ成形され小型化し、底部は回転糸切り未調整もあり、外周手持ちヘラケズリされるものもある。内面ミガキ黒色処理。

土師器碗が出現する。

土師器甕は武蔵甕で口縁部形「コ」の字形が強くなり、胴上部が最大径を持つ。ロクロ甕を伴う。

3) 平安時代Ⅲ H42

灰釉陶器を伴う。灰釉陶器は東濃系人原2号窯に類似する。

須恵器杯は小型化し、量を減らす。

土師器杯は底部回転糸切りのままであり、小型化する。

土師器碗は小型化する。

土師器甕はロクロ甕が主体となる。

☆住居址の形態規模 (単位cm)

時期	形態	南北	東西	南北	東西
I	長方形	343	376	480	374
II	方形・長方形	320	329	400・464	315・268
III	長方形			512	384

奈良時代Ⅳ期にみられた、東西に長い方形から、南北に長い長方形を呈するものが増えてくる。カマドは北壁に設けられるが、平安Ⅱ期では西壁にカマドを持つ住居址が検出されている。古墳時代は方形でも東西に長い住居が一般的であるが、平安時代になって、南北方向に長軸を持つ住居に変換している。

第4節 中世

本調査ではF1の総柱掘立柱建物址をはじめ、4棟の掘立柱建物址と2基の井戸、土坑を調査した。また平安時代としたがH4は柱穴が壁に沿って3本あることなど中世の竪穴状遺構と類似している。カマドの位置も北西と変わったところがある。中世の遺構はD9(井戸址)が東の他は調査区西端に偏っている。隣接する北西の久保遺跡でも北側からは平安末～中世の竪穴状遺構が検出され、本遺跡との関連が窺える。中世の遺物として、龍泉窯系とみられる青磁碗片が数片出土している。小片であるため明確ではないが鑄の蓮弁文がみられることから、14・15Cの年代があたり得る(注16)。

井戸2基には井戸枠が残され、枠材がサワラで、それを支える杭にはクリが使用され、D2の底から出土した種子はオニグルミと同定された。

第5節 種子遺物について

H80のⅢ区を調査したが(他の部分はI・N・PⅢ～Ⅳで調査済み)、カヤとともに多くの炭化種子が分析された。出土状態は粘土に覆われていたため、混入がなく良好であった。ことにモモの核は破片を含め36個あり、同じ炭化物範囲からイネ・ササゲ属・オニグルミ・コナラ属・スモモの炭化種子が出土している。6種はいずれも食用となるもので

ある。コナラ属を除いていずれも栽培植物であり、古墳時代後期の食生活が窺われる。ところで現在も樹園地でモモが栽培されているため、他の住居址において出土したモモ核の中に現在の栽培するモモの混入がないとも限らないので、現在栽培種との差異を問い合わせた所

「炭化したモモは近代以降に上海より入ってきた現在の白桃（水蜜桃）系の核とは明らかに異なり、金原（1996、古代モモの形態と品質 月刊考古学ジャーナルNo.409、ニューサイエンス社、P15-19）のモモ核の分類によるA類ないしD類に類似する。よって西一本柳遺跡出土のモモ核は中世以前のモモ核と考えられる」

との解答を古環境研究所から頂いた。

表5 西一本柳遺跡埋没住居址時代別表

時 期	住 居 址	不 明
弥生中期	H29 H37 H43 H63 H74 H79 H81 H88 H94	
弥生後期Ⅰ期	H32 H45 H68	H66
	H93	
	H7 H91	
古墳中期Ⅰ期	H75	H46 H65 H72
	H13 H90	
古墳後期Ⅰ期	H40 H3 H5 H15 H18 H33 H36 H59 H70 H76	H47
	古墳後期Ⅱ期	
	H8 H19 H54 H62 H67 H73 H80 H82 H87	
古墳後期Ⅲ期	H10 H16 H22 H44	
	H11 H21 H25 H37 H48 H55 H64 H89	
糸 貝	H34 H39	
	H17 H86	
	H1 H12 H24 H31 H50 H51	
平 安	H31 H26	
	H20 H23 H28	
	H42	

注・引用参考文献

- 注1. 1999 佐久市教育委員会 小林真寿「西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ」
 注2. 1990 小山岳夫「佐久地方の弥生土器」長野県考古学会弥生部会編「長野県の弥生土器」
 注3. 2001 佐久市教育委員会「西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ」
 注4. 1999 青木一男「長野盆地南部の後期土器編年」長野県考古学会弥生部会編「長野県の弥生土器」
 注5. 1984 佐久市教育委員会「北西の久保遺跡（1次）・1987 佐久埋蔵文化財センター「北西の久保遺跡（2次）」
 注6. 1999 富沢一明「長野県における古墳時代中期の土器様相（東信）」東国土器研究会「東国土器研究」第5号
 注7. 2002 佐久市教育委員会「円正坊遺跡Ⅳ」
 注8. 1992 佐久市教育委員会「F壘端遺跡Ⅱ」「国道141号線関連遺跡」
 注9. 1999 佐久市教育委員会「神田遺跡」
 注10. 1986 佐久市教育委員会「大井城跡（黒岩城）」
 注11. 1981 田辺昭三「須恵器大成」
 注12. 1972 杉山林健「祭と葬の分化」『國學院大學日本文化研究所紀要』29
 注13. 1985 白石大一郎「神まつりと古墳の祭祀」『国立歴史民俗博物館研究報告』7号
 注14. 1997 藤原祐一「石製模造品剣形の研究」『祭祀考古学』創刊号
 注15. 2000 佐久市教育委員会「下壘端遺跡Ⅳ」の編年基準表に基づく
 注16. 1982 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2
 注17. 1999 鳥羽英雄「更埴系土器遺跡・層代遺跡群一総論編一」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書28』

終わりに

西一本柳遺跡埋没報告書を刊行するにあたり、携わった方々に御礼申しあげます。ありがとうございます。

報告書は遺跡の破壊がやむなき場合の記録保存であることを前提にしています。その調査成果を余すことなく報告できるよう、全員で努力いたしました。しかし、十分な検討がなされていない面も多々あり、今後の課題としておきます。多くの人、多くの物の集約である本報告書が、資料として活用できるものであることを確信しています。

西一本柳遺跡 竪穴住居址・窠穴

(残) (推定)

遺跡名	検出位置	時代	形跡	規模 (cm・cm ²)				主軸方位	方向	柱 穴	備 考
				南北長	東西長	壁高	面積 (約)				
H1	A-3-3	平安	隅丸長方形	308	460	8~18	141,680	N-6°-W	北	主柱4、他1 土坑4	単P461に切られる。 北側I N P I Xで調査。
H2	A-3-6	?	-	<118>	<110>	15~26	-	N-17°-E	-	主柱1 土坑1 床下2	M1・単P231に切られる。
H3	A-3-7	古 後	方形	472	461	17~30	217,592	N-2°-W	北	主柱4、他1 床下9	F2に切られる。 単P86に切られる。
H4	A-3-7	平	方形	319	332	9~47	105,908	N-2°-E	北西	主柱6 床下2	F16に切られる。 D25を切る。
H5	A-3-9	古 後	-	300	<354>	27~41	-	N-39°-W	北	主柱1、他1	南西側調査区外 単P96・97・105・128を切る。
H6		欠									
H7	B-1-10	古 後	-	<102>	<152>	11~23	-	N-33°-E	-	床下2	南側調査区外 D17・D18に切られる。
H8	B-2-7	古 後	方形	627	642	11~42	402,534	N-14°-W	北	主柱4、他4 床下2、土坑 217に切られる。	北側はI N P I Xで調査。 D7と重複。単P161・184・201・ 217に切られる。
H9	B-3-7	古 後	方形	464	472	9~41	219,008	N-1°-E	北	主柱4、他3 床下4	北側はI N P I Xで調査。 D27・単P185・181・182・202・ 219・228・229に切られる。
H10	D-2-8	古 後	方形	384	396	0~41	152,064	N-13°-W	北	主柱2 他2	北東調査区外 H11に切られる。H13を切る。 F31を切る。H10・H13を切る。 単P176・208に切られる。
H11	D-2-9	奈	長方形	280	352	9~41	98,560	N-12°-W	北	主柱2 他2	南側調査区外 D6・D7・D 17・D32・単P113・114・203・ 205・211・338に切られる。
H12	B-3-9	奈・平	方形	331	344	0~18	113,864	N-2°-W	北	主柱3、他1	
H13	D-2-8	古 中	-	<143>	<342>	6~15	-	N-5°-E	-	主柱3、他1 床下1	東側調査区外 H10・H11・F 31・単P231に切られる。M4を 切る。
H14	F-3-10	古 後	方形	414	428	0~60	177,192	N-15°-W	北	主柱4、他3 床下2	H16に切られる。H29・H65・ F8・単P152を切る。
H15	G-3-1	古 後	方形	<376>	415	0~34	-	N-10°-E	北	主柱4、他4	F22を切る。M9に切られる。 単P294・P295を切る。
H16	G-3-1	古 後	方形	462	499	4~45	230,538	N-1°-E	北	主柱4、他4 床下2	M9に切られる。H14・H29・ H65・F22を切る。
H17	F-3-8	奈	長方形	386	521	15~50	201,106	N-10°-E	北	主柱2、他4	H18・H38・F8を切る。単P 240・カクランに切られる。
H18	F-3-9	古	方形	336	<360>	0~10	-	N-2°-W	北	主柱4、他4 床下1	北西側未調査区 H14・H17・ F8・単P242・243・448・449 に切られる。H32を切る。
H19	F-3-9	古 後	-	<452>	532	0~28	-	N-7°-E	北	主柱4、他2 土坑1	H20・H21・H22・F8・単P 234・カクランに切られる。H 37・H38を切る。
H20	F-3-8	平	長方形	400	315	0~23	126,000	N-106°- E	東	主柱4、他1	H19・H21・H28を切る。単P241・ 333・334・339・453に切られる。
H21	H-2-9	奈	方形	400	425	0~24	170,000	N-0°	-	主柱4	H20・カクランに切られる。H 19・H22を切る。
H22	H-2-10	古 後	-	445	<389>	0~31	-	N-2°-W	北	主柱4、他1 土坑1	H21・カクランに切られる。H 19・H27を切る。
H23	H-1-8	平	隅丸長方形	464	268	14~27	124,352	N-95°-E	東	主柱4、他2 床下1	M6・単P266を切る。
H24	H-3-9	奈	長方形	404	490	19~36	197,960	N-8°-E	北	主柱4、他3 床下6	H26・カクランに切られる。H 49・M6を切る。 H26に切られる。
H25	H-3-9	奈	方形	300	328	0~25	98,400	N-4°-W	北	主柱4、他3	D29を切る。H49・H59を切る。
H26	H-3-10	平	長方形	480	374	14~21	179,520	N-6°-W	北	主柱4、他1 床下1	H24・H25・H49・H59・F17・ M6・単P125・P244を切る。
H27	H-2-10	古 後	方形	324	320	28~51	103,680	N-18°-W	北	主柱4、他1 床下4	H22・単P271に切られる。
H28	H-3-8	平	隅丸方形	320	329	15~40	105,280	N-3°-E	北	主柱0、他1	未調査区あり。I N P I Xで北 側調査。カクランに切られる。
H29	G-3-1	郭 中	隅丸長方形	<548>	475	0~15	-	N-18°-W	-	主柱4、他2	H14・H16・F22・M9・単P 317・P323・P328に切られる。
H30	F-3-10	奈	長方形	301	<392>	2~38	-	N-1°-W	北	主柱1、他3	カクランに切られる。H32を切る。
H31	F-3-9	平	方形	343	376	0~31	128,968	N-5°-E	北	主柱4、他3 床下1	主柱4・棟持 1。 単P335に切られる。H32・H55 を切る。
H32	F-3-9	古 後	隅丸長方形	<574>	452	0~14	-	N-1°-W	郭	主柱4・棟持 2、床下3	北東側未調査区 H14・H18・ H30・H31・H65・F23に切ら れる。
H33	F-3-10	古 後	-	<300>	326	0~18	-	N-25°-W	-	主柱2	カクランに切られる。M6を切る。
H34	F-3-8	奈	方形	434	468	36~61	203,112	N-3°-E	北	主柱4、他2	未調査区あり。I N P I Xで北 側調査。H35・F11を切る。 カクランに切られる。
H35	F-3-8	古 後	方形	796	800	24~53	636,800	N-6°-W	-	主柱3、他3 土坑1	未調査区あり。F11は新旧不 明。H34・I N P I X H4・カ クランに切られる。
H36	F-3-10	古 後	方形	592	620	0~41	367,040	N-15°-W	北	主柱2、他1	カクラン・H67・単P291に切ら れる。H72・F11・M6を切る。 H19・単P237・カクランに切ら れる。
H37	F-3-9	郭 中	-	<388>	<40>	2~8	-	N-0°	-	なし	

遺構名	検出位置	時代	形態	規模 (cm・㎡)				主軸方位	方向	柱 穴	備 考
				南北長	東西長	高さ	面積				
H38	F-11-9	-	-	(132)	(35)	11~19	-	N-18°-E	-	床下1	H17・H20・カランに切られる。発見 (H17) より古い。
H39	F-10-9	奈	方形	430	435	33~47	187,050	N-89°-E	東	主柱5、他1	H40を切る。
H40	F-11-8	古後	方形	395	424	0~23	167,480	N-7°-W	北	主柱4、他2 土坑1、床下2	本調査区あり。北平城INPⅡで調査。H103・H15・F11・床P287・288・289・290・カランに切られる。
H41	D-10-7	古後	方形	668	658	17~43	439,514	N-17°-E	北	主柱4 他3、床下1	本調査区あり。INPⅡは本報告 I N PⅡ H 5・H 6・H 119・床 P 104 に切られる。床 P 322 を切る。
H42	D-11-8	平	-	488	(368)	18~36	-	N-0°	北	主柱7、他1 土坑1、床下1	北側調査区外 F4・M7に切られる。H43・H57・H58・F12・床P336・337を切る。
H43	D-11-9	弥中	-	(193)	461	0~17	-	N-29°-W	-	主柱2、他2	H42・H57・H58・床P286に切られる。
H44	D-10-10	古後	方形	450	432	26~49	194,400	N-5°-W	北	主柱6、他2 土坑2、床下2	H43・H46・F12を切る。
H45	F-10-10	弥中	隅丸長方形	416	332	0~14	138,112	N-0°	-	主柱3、他2	H44・F18・床P314・315・316に切られる。
H46	E-10-1	占中	-	(748)	948	0~16	-	N-3°-W	伊(中央)	主柱4、他3 床下1	南側調査区外 H66を切る。H44・H47・H71・F12・F20・M6・M7・M9・床P450・451に切られる。
H47	D-11-10	古後	-	375	(330)	0~21	-	N-11°-W	北	主柱4、他3 床下1	M7・床P281・カランに切られる。H46・H52を切る。
H48	D-11-9	奈	方形	243	227	1~25	55,161	N-4°-W	北	主柱4、他1	カランに切られる。H52・床P330を切る。
H49	H-10-10	古後	方形	502	464	1~40	232,928	N-32°-E	北	主柱4、他1 床下2	H24・H25・H26・F17・D9に切られる。H59・M6・床P126を切る。
H50	D-11-9	奈~平	方形	276	270	0~16	74,520	N-3°-E	北	主柱4、他2 土坑1、床下1	H51・床P272・279・280・カランに切られる。H52・F15を切る。
H51	D-10-9	平	方形	359	342	13~24	122,778	N-6°-W	北	主柱4、他4	H50・F15・床P299・カランに切られる。H50・H52・草128を切る。
H52	D-11-8	古後	方形	776 875	769	1~51	596,744	N-8°-W	北	主柱4、他2 土坑2、床下4	H47・H48・H50・H51・F14・F15・床P281・282・283・284・324・325・330・272・274・278・279・280・299・332に切られる。
H53	D-11-8	古後	長方形	288	349	0~39	110,512	N-0°	北	主柱4	北西側調査区あり INPⅡ H 9 本報告 I N PⅡ H 17・I N PⅡ H 20 に切られる。
H54	D-11-9	古後	方形	572	567	3~55	324,324	N-18°-W	北	主柱4、他5 床下10	F25・D48・床P301・430・428・429・454・455・456・457・カランに切られる。床P444を切る。
H55	F-11-8	奈	長方形	406	480	0~42	194,880	N-8°-W	北	土柱2、他4 土坑1、床下3	本調査区あり H31・INPⅡ D3・カランに切られる。H85・M6・INPⅡ H12を切る。
H56	H-10-7	古後	方形	424	444	17~38	188,256	N-16°-E	北	主柱4、他1 床下2	INPⅡ H2で本報告 D30・INPⅡ H 単 P 6・7・8・9・10・11・12・13・15・17・18・19・20・115・116・117に切られる。
H57	D-11-8	古後	-	-	-	-	-	-	北	-	INPⅡ で調査 H42・H58・M7に切られる。
H58	D-11-9	-	-	(244)	(346)	21~27	-	N-6°-E	北	主柱2	遺物なし H42に切られる。
H59	H-10-10	古後	方形	356	386	1~33	137,416	N-2°-W	北	主柱4、他1 床下1	H25・H26・H49・床P126に切られる。
H60	I-11-2	古後	-	(230)	462	0~22	-	N-3°-E	北	主柱2、他2 土坑1	南側調査区外 M9に切られる。
H61	G-10-2	平	-	(208)	417	0~32	-	N-90°-E	東	主柱2、他1	南側調査区外 M9に切られる。H62を切る。
H62	I-10-2	古後	-	(260)	556	0~48	-	N-10°-E	北	主柱1、他1 床下1	南側調査区外 H61・M9に切られる。H63を切る。
H63	I-10-2	弥中	-	(27)	(188)	18~22	-	N-0°	-	-	南側調査区外 H62に切られる。床P329・P331を切る。
H64	G-11-2	奈	-	(92)	388	13~35	-	N-1°-W	北	主柱2、他1	南側調査区外 F22を切る。
H65	G-11-1	古中	-	(124)	(124)	0~10	-	N-2°-W	-	主柱1	H14・H16に切られる。
H66	G-10-1	弥中	長方形	433	342	0~19	148,086	N-9°-W	伊	主柱4、他1 床下5	M9・床P433・434・435に切られる。
H67	G-10-1	古後	-	(465)	556	20~45	-	N-5°-E	北	主柱4、他1 土坑2、床下2	南側調査区外 F18・M9に切られる。H36・H72を切る。
H68	E-10-2	弥中	-	(310)	(249)	0~9	-	N-1°-W	伊	主柱2	南側調査区外 H46・M5・F18・床P452に切られる。M6を切る。
H69	E-10-1	古後	方形	476	485	29~49	203,860	N-11°-W	北	主柱2、他1 土坑1	南側調査区外 H70を切る。
H70	E-11-2	古後	-	(288)	(266)	21~31	-	N-4°-W	北	主柱2 床下1	東・南側調査区外 H69・H71に切られる。
H71	E-11-2	古後	-	(108)	534	20~31	-	N-7°-W	北	土坑1	南側調査区外 M9に切られる。H46・H70を切る。
H72	G-11-2	古中	-	(404)	(185)	0~11	-	N-0°	-	主柱2 床下2	南側調査区外 H36・H67・M9に切られる。

遺構名	検出位置	時代	形態	屋 根 (cm・cm ²)				主軸方位	方向	柱 穴	備 考
				南北長	東西長	壁高	面積 [坪]・[m ²]				
H73	B-エ-9	古 後	長方形	400	447	2~29	178,800	N-3°-E	北	土柱4、他1 土坑1、床 2	D35・単P351に切られる。 H76・単P459を切る。
H74	E-け-1	弥 中	-	(340)	(648)	0~25	-	N-34°-E	伊	土柱3、棟持1 床下1	南側調査区外 カクランに切られる。
H75	B-カ-10	古 中	-	(206)	534	0~43	-	N-23°-E	-	床下1	南側調査区外 D16・D33・D36・D42・D43・ 単P460に切られる。
H76	B-エ-10	占 後	-	(288)	430	8~15	-	N-13°-E	-	土柱4	南側調査区外 D39・D46・単P458・P459・ P390・H73・F27に切られる。
H78	I-エ-1	奈	方形	285	299	2~39	88,205	N-6°-W	北	土柱1、他1 床下1	D45・M9に切られる。I N P V II 5と同仕居。
H79	I-ウ-2	弥 中	-	-	-	4~8	-	N-13°-W	-	土柱2、他1	H80・H84・M9・D45に切ら れる。
H80	I-ウ-1	占 後	方形	640	640	6~38	409,600	N-0°	北	土柱4、他1 土坑1	南側カクランM9に切られる。 H79を切る。 I N P V II 7とI N P III・IV H7と同一仕居
H81	I-オ-2	弥 中	-	(314)	463	0~3	-	N-2°-E	-	土柱2	南側調査区外 D51・M9・単 P425・P426に切られる。
H82	E-ク-1	古 後	-	(175)	259	11~25	-	N-105°-E	東	土柱2、他1 床下1	北側調査区外 単P421に切られる。
H83	I-ウ-3	古 後	-	301	-	-	-	N-3°-W	北	他2	東側と西側と南側カクラン D50に切られる。I N P III・IV H29と同一仕居。
H84	I-ウ-2	古 後	-	(134)	(34)	23~28	-	N-4°-E	-	床下1	東側未調査 H79を切る。
H85	F-エ-8	古 後	-	(258)	(544)	0~47	-	N-7°-E	-	土柱2 床下1	未調査区あり H31・H35・I N P IX H12・I N P IX D3に切 られる。M6を切る。
H86	N-け-7	奈	長方形	285	378	19~40	107,730	N-0°	北	土柱2、他3 土坑1	H87・H91を切る。
H87	N-ク-7	古 後	方形	472	493	0~34	232,696	N-4°-E	北	土柱4 他3、土坑2	H86・F32・M11に切られる。H 91を切る。
H88	N-キ-7	弥 中	(隅丸長方形)	(632)	606	1~6	-	N-3°-W	伊	土柱5、棟持 ち柱1 他11、床下4	南側調査区外 H87・H89・F 32・単P491に切られる。
H89	N-カ-8	奈	-	(179)	324	27~38	-	N-4°-E	北	土柱2 他2	南側調査区外 H88を切る。
H90	N-コ-7	古 中	長方形	463	523	14~42	242,149	N-0°	伊	土柱4 他10 土坑1	M11・単P470・カクランに切ら れる。H91を切る。
H91	N-け-8	弥 後	(隅丸長方形)	(432)	469	0~33	-	N-10°-W	伊	土柱2 他4	南側調査区外 H86・H87・H 90・カクランに切られる。
H92	M-イ-7	古 後	-	(200)	404	0~22	-	N-11°-E	-	土柱1 他4、床下1	北側調査区外 M11・カクラン に切られる。単P472を切る。
H93	M-イ-8	弥 後	(方形)	(360)	504	48~69	-	N-6°-E	伊	土柱2 他1 土坑1	南側調査区外 カクランに切られる。H94を切 る。
H94	M-イ-8	弥 中	(隅丸長方形)	(556)	(312)	0~13	-	N-22°-W	-	土柱1 他1、床下4	南側調査区外 H93・カクランに切られる。

西一木佛遺跡 掘立柱建物址一覧表

〈残〉(推定)

遺構名	様式	検出位置	掘行×築間 (間)	掘行×掘間 (m)	掘行柱間 (m)	築間柱間 (m)	長軸方位	柱穴規模		備考
								縦径α	深さα	
F 1	竪柱	Aお7	5×2+0.5 北端に平高付	11.2×5.04	2.24	1.92(北1.2)	N-10°-W	28-48	30-64	西四は調査区外 北側にM1と並行のため不明 M1・M9を切る。
F 2	竪柱	Aう9	2×(1)	4.32×(1.96)	2.16	1.96	N 2°-W	24-36	20-64	南は調査区外。 H3を切る。
F 3	竪柱	Aう9	(2)×(1)	4.16×(2.0)	2.08	2	N-10°-W	32-56	28-44	北東側のみ検出。
F 4	竪柱	Dい9	1×1	2.88×3.2	2.88	2.32	N-0°	48-68	12-32	H42を切る。
F 5	竪柱	Bく6	2×(2)	4.24×(1.76)	2.12	1.76	N 15°-W	56-72	40-48	1 N P 取付了と同遺構。
F 6	竪柱	Bか7	2×1	4.08×3.84	2.04	1.92	N-38°-W	40-48	24-40	D20・D12に切られる。
F 7	竪柱?	Bか7	2×-	3.84×-	1.92	-	N-47°-W	48	40-56	北は調査区外 H8と並行。
F 8	竪柱	Fい9	3×2	4.80×(1.68)	1.6	1.68	N-14°-W	36-56	30-44	南は切られて遺構不明。 H14・H17に切られ、 H18・H19を切る。
F 9	竪柱	Hく8	2×2	4.00×3.2	2	1.6	N-0°	44-48	20-48	北端は調査区外。 M6を切る。
F 10	竪柱?	Aお8	3×(1)	4.56×(1.44)	1.52	1.44	N-0°	24-32	24-30	南は調査区外。
F 11	竪柱	Fく9	3×3	3.52×4.44	1.84	1.48	N 17°-W	28-40	10-24	H34に切られH40を切る。 H35と並行範囲不明。
F 12	竪柱	Dあ9	5×5	8.0×8.0	2	2	N-7°-W	52-76	16-60	H46を切る。 M7・H42・H44に切られる。
F 13	竪柱	Dか8	1×2	3.12×2.96	3.12	1.48	N-5°-W	46-54	44-56	
F 15	竪柱	Dえ9	3×2	4.56×3.52	1.52	1.76	N-0°	56-60	40-44	H50・H52を切り、H51に切られる。
F 16	竪柱	Bこ7	3×2	5.40×4.16	1.8	2.08	N-0°	28-36	14-24	H4と並行。断面不明。
F 17	竪柱	Hく10	2×2	4.08×3.60	2.08・2.40	1.8	N-7°-W	60-68	22-60	D9・H24に切られ、 H49を切る。
F 18	竪柱	Gこ2	1×1	2.64×2.4	2.64	2.4	N-7°-E	78-86	56-64	M9に切られる。H67・H6を切る。
F 19	竪柱	Hく10	2×2	3.60×3.04	1.8	1.52	N-5°-E	40-62	14-64	D9・H24に切られる。
F 20	竪柱	Dい2	2×1	2.88×2.00	1.44	2	N 0°	46-60	26-60	M9に切られ、H46・ H6を切る。
F 21	竪柱	Gき2	3×(2)	4.08×3.28	1.36	1.64	N-7°-W	34-56	16-28	西四は調査区外 M9に切られる。
F 22	竪柱	Gい2	4×(1)	9.04×(3.04)	2.26	3.04	N 9°-E	56-68	16-43	南は調査区外 H16・H64・M9に切られる。 H29を切る。
F 23	竪柱	Fう10	3×(1)	5.28×(1.44)	1.76	1.44	N 0°	30-60	12-68	H14・H16・H66に切られる。
F 24	竪柱	Dこ10	4×4	3.12×4.64	1.58	1.16	N-6°-W	36-32	16-48	M10を切る。
F 25	竪柱	Eお1	2×2	3.52×3.36	1.76	1.68	N-5°-W	46-58	16-30	H52と並行。断面不明
F 26	欠									
F 27	竪柱	Dえ9	3×3	4×4.08	1.4	1.36	N-20°-W	32-39	14-43	H73に切られ、H75を切る。
F 28	竪柱	Dき10	3×2	6.48×4.0	2.28	2	N-18°-E	36-54	16-34	南側の柱穴1本多い。 H54を切る。
F 29	竪柱	Bき7	3×2	4.20×3.28	1.4	1.64	N-3°-W	46-60	16-54	D20に切られる。
F 30	竪柱	Bい9	3×2	4.08×3.44	1.36	1.72	N-10°-W	40-56	12-44	M4を切る。
F 31	竪柱	*	4×3	5.88×4.80	1.96	1.2	N-10°-W	42-60	16-50	H11に切られM4を切る。
F 32	竪柱	Nき7	3×2	5.04×3.78	1.68	1.89	N-87°-E	56-82	21-54	H87・H88を切る。

西一本柳沼跡 単独ピット一覧表

(残) (推定)

NO.	位置	規模 (m) 2016年現在	平面形	覆土	遺物関係
P1	B口6	28×26×17	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P2	B口6	40×38×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P3	B口6	20×18×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P4	B口6	26×22×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P5	B口6	38×28×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P6	B口6	82×78×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P7	E口1	40×36×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P8	B口9	38×30×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	P236を切る
P9	B口8	78×60×25	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	P163を切る
P10	B口9	58×56×23	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	
P11	B口9	52×50×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	P166を切る
P12	B口9	50×44×49	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒色土層 (10YR1.7/1)	P162を切る
P13	F口1	28×26×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P14	E口1	44×34×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P15	B口9	44×34×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	
P16	E口1	52×48×19	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	
P17	E口1	50×18×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P19	A口7	76×68×19	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P20	A口6	68×64×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る
P21	A口6	36×34×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る
P22	A口6	36×24×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る
P23	A口7	34×26×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H2を切る
P24	A口8	98×60×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	
P25	B口9	24×24×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	
P26	B口9	32×24×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	
P27	A口7	28×24×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1・P2を切る
P28	A口7	24×22×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切り、P27に切られる
P29	A口7	28×26×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る
P30	A口7	100×82×28	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P31	A口7	40×42×29	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M2を切る
P32	A口7	28×26×29	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M2を切る
P33	A口8	62×44×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M2を切る
P34	A口8	30×30×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M2を切る
P35	A口8	24×18×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M2を切る
P36	A口8	38×30×41	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M2・P85を切る
P37	B口9	40×32×18	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P38	A口7	30×30×17	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P39	A口7	30×24×42	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P40	A口8	32×32×26	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P41	A口8	42×42×25	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P42を切る
P42	A口8	50×34×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P41に切られる
P43	B口9	32×28×28	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P44	A口8	24×24×19	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P45	E口1	34×33×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P46	A口9	28×26×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P47	E口2	48×46×27	円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	
P48	A口9	24×22×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P49	E口2	43×40×30	円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	
P50	A口8	30×22×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P51	A口9	32×23×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P52	A口8	46×38×29	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	

NO.	位置	規模 (m) 2016年現在	平面形	覆土	遺物関係
P53	A口8	26×26×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P54	A口8	38×30×45	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P55	A口8	32×26×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P56	B口9	44×36×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P57	A口8	40×38×40	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P58	A口8	34×34×21	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P59	A口8	38×38×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	南朝調査区外
P60	A口8	40×34×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P61	A口8	32×30×38	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る
P62	A口9	46×44×30	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P63	A口7	24×18×18	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る
P64	A口7	20×21×89	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る
P65	A口7	32×30×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P66	A口7	32×32×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P67	A口7	18×16×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M2を切る
P68	A口9	90×88×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	南朝調査区外
P69	A口8	102×92×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	F1を切られる
P70	A口8	78×66×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	
P71	B口9	22×22×30	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P72	B口10	26×24×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P73	B口6	32×50×35	円形		
P74	B口7	40×38×27	円形		
P75	A口8	26×18×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P76	A口8	44×22×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P77	A口8	60×40×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D11を切る
P78	A口8	48×42×55	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P79	A口8	42×36×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P80	A口8	42×38×32	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P81	欠番				
P82	A口7	22×18×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P83	A口7	36×34×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P84	A口8	20×18×29	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P85	A口8	30×28×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR3/3)	P36に切られる
P86	A口8	50×36×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	H3を切る
P87	A口9	34×30×36	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P88	A口8	30×30×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	南朝調査区外
P89	A口7	28×26×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	M1を切る
P90	A口7	26×22×07	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	M1を切る
P91	A口8	28×26×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/2)	
P92	A口9	34×32×34	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	南朝調査区外
P93	A口9	68×40×30	円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR3/3)	
P94	A口9	38×32×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P95	A口9	32×30×32	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	
P96	A口9	48×44×31	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	H5に切られる
P97	A口9	34×28×43	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	H5に切られる
P99	A口8	36×24×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P100	A口8	24×24×37	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P101	A口9	20×18×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P102	A口9	28×26×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P103	A口9	36×34×41	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	P129を切る
P104	A口9	36×28×22	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P105	A口9	32×24×34	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H5に切られる
P106	A口9	36×26×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	D26を切る

NO.	位置	規模 (cm) 柱上×柱間×高さ	平面形	覆土	基礎関係
P107	Aあ9	20×20×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	D26を切る
P108	Bこ9	22×18×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P109	Bこ9	38×28×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P110	Bこ9	30×24×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P111	Bこ9	24×24×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P112	Bこ9	24×16×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P113	Bこ10	38×20×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H12・D16を切る
P114	Bこ10	26×22×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H12を切る
P115	Bこ9	22×22×17	円形	黒褐色土層 (10YR1/1)	
P116	Bこ9	46×46×17	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P117	Aえ7	40×36×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	D12を切る
P118	Aえ7	34×26×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P119	Aえ7	30×24×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P120	Aえ7	48×44×43	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P121	Aえ7	42×31×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P122	Aう7	46×44×26	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P123	Aう7	36×30×27	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P124	Aう7	38×34×27	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P125	Aあ5	70×54×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	北側調査外
P126	Aえ1	74×62×34	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10Y2/2)	H25・H48を切り 6枚H59を切る
P127	Aう9	48×28×27	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	南側調査外
P128	Aう9	46×42×17	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P129	Aう9	20×18×23	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P103に切りあはれる
P130	B18	50×36×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	P137・P138を切る
P131	B18	48×32×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P137に切りあはれる
P132	Bこ7	32×28×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P133	欠番				
P134	Bこ7	64×58×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D14に切りあはれる
P135	B17	64×58×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	D14に切りあはれる
P136	B18	40×36×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	
P137	B18	60×50×40	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P137に切りあはれる
P138	B18	56×48×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P130に切りあはれる
P139	B18	40×38×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P140	Bこ9	64×62×38	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P141	Dえ8	52×48×32	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	
P142	Dお8	64××24	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	
P143	Bこ8	48×40×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P144	Dお8	64×58×48	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	
P147	Dこ8	62×44×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P148	Bこ8	80×68×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	P199に切りあはれる
P149	Bこ7	52×30×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P151	Bお8	24×24×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P152	Gう1	64××46	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H14に切りあはれる
P153	Dお7	68×60×37	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P154	Bお7	76××32	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	北側調査外
P155	Bお7	44×34×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P156	Dお7	66×60×48	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P157	Bお7	24×24×33	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P158	Bお8	28×36×19	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P159	Bお8	22×30×19	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P160	Bお7	28×28×34	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P161	Bお8	44×40×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H8を切る
P162	Dお9	32×32×17	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P12に切りあはれる
P163	Dお8	82×50×38	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	P9に切りあはれる
P164	Bう9	36×30×11	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	

NO.	位置	規模 (cm) 柱上×柱間×高さ	平面形	覆土	基礎関係
P165	Bこ9	52×50×23	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P166	Bこ9	60×48×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P11に切りあはれる
P167	Bこ9	18×16×13	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P168	Bこ9	28×24×23	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	P169を切る
P169	Bこ9	22×20×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P168に切りあはれる
P170	Bこ9	28×26×23	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P171	欠番				
P172	Bこ9	36×34×19	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P173	Bこ9	38×46×29	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P176	Bお9	42×38×35	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H11を切る
P177	Bお8	32×32×19	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P178	Bお8	38×34×43	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P179	Bお8	38×28×22	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P180	Bお8	28×24×31	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P181	Bお8	34×30×23	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H9を切る
P182	Bお8	38×34×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H9を切る
P183	Bお8	34×32×34	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P184	Bこ7	30×30×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H8を切る
P185	Bお8	54×38×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P186	Dお9	80×38×20.5	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P187	Bお9	52×44×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P188	Bお9	46×40×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P189	Bお9	36×34×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P190	Bお9	76×76×16.5	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR5/3)	
P191	Bこ10	24×24×18	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P192	B19	36×36×23	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P193	B19	30×24×27	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	D19を切る
P194	Bこ9	32×24×38	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P195	Bこ8	28×28×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	F29に切りあはれる
P196	Bこ7	30×26×13	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	F29に切りあはれる
P197	欠番				
P198	Bこ7	50×40×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P199	Bこ8	60×51×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR3/3)	P148を切る
P200	Bお8	48×46×20	円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	
P201	Dお8	28×22×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H8を切る
P202	Bお8	34×28×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H9を切りD27に切りあはれる
P203	Dこ9	36×26×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H12・P210を切る
P204	B19	30×26×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H18・H32を切りD17に切りあはれる
P205	D110	30×28×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H12を切りD17に切りあはれる
P206	Bお8	28×26×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P174に切りあはれる
P208	Dこ9	70×54×36	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7) 黒褐色土層 (10YR2/1)	H11を切りカクランに切りあはれる
P209	Dこ9	70×54×42	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7) 黒褐色土層 (10YR2/1)	
P210	Bこ9	60×20×27	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	P203に切りあはれる
P211	Bこ10	18×16×10	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	北側調査外 調査外に切りあはれる
P214	Bお7	26×26×25	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P215	Bお7	30×28×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P216	Bお8	24×22×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P217	Bお9	22×22×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H8を切る
P218	Bお8	48×46×33	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P219	Dお8	46×44×34	楕円形	黒褐色土層 (10YR1/7)	H9に切りあはれる
P220	Dお8	28×26×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	

NO.	位置	規模 (㎡) 柱間×奥行×高さ	平面形	覆土	重複関係
P221	B-37	50.44×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	北側溝倉区外に切られる
P222	B-37	38×36×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P223	B-39	30×28×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M4を切る
P224	B-39	36×32×24	円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	M4を切る
P227	B-38	34×32×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M4を切る
P228	B-38	42×42×31	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H9に切られる
P231	B-38	321×44×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H9を切る
P232	B-38	30×26×35	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H13を切る
P232	B-39	36×26×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M4を切る
P234	F-9	24×20×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H19を切る
P235	F-10	36×40×43	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR2/2)	H19を切る
P236	B-39	24×24×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H8に切られる
P237	F-9	24×18×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H37を切る
P238	F-10	22×18×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P239	F-10	24×24×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P240	F-8	24×24×10	円形	黒色土層 (10YR1.7/1)	H17を切る
P241	F-8	26×22×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H20を切る
P242	F-9	18×18×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H18を切る
P243	F-9	22×20×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H18を切る
P244	H-3	26×26×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H26を切る
P245	H-3	20×18×9	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P246	H-3	34×32×17	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P247	H-3	28×26×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P248	H-39	40×36×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P249	H-3	26×26×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P250	H-3	36×36×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P251	H-3	28×22×12	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P252	H-3	36×36×39	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P253	H-3	50×40×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P254	H-3	30×30×10	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P255	H-3	30×24×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	カララに切られる
P256	H-3	38×32×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P257	H-3	58×30×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P258	H-3	26×24×13	円形	赤褐色土層 (10YR3/4)	
P259	1-71	52×50×31	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P262	H-10	18×18×19	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P264	H-10	42×42×17	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P265	H-10	36×32×20	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P266	H-9	60×30×25	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	H23に切られる
P267	H-10	60×60×14	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P268	H-9	22×22×12	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P269	H-9	24×24×17	円形	暗褐色土層 (10YR3/4)	
P270	F-8	24×24×23	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P271	H-10	30×30×27	円形	赤褐色土層 (10YR3/3)	H27を切る
P272	D-10	38×32×43	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	H50・H52を切る
P274	D-10	60×44×41	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	H52を切る
P276	D-10	34×32×32	円形	黒褐色土層 (10YR3/3) 暗褐色土層 (10YR3/3)	F15の内を切る
P278	D-10	30×30×39	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	H32を切りカララに切られる
P279	D-10	56×42×46	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色土層 (10YR3/4)	H50・H52を切る
P280	D-10	36×34×45	円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色土層 (10YR3/3)	H50・H52を切る
P281	D-10	36×24×12	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H47・H52を切る

NO.	位置	規模 (㎡) 柱間×奥行×高さ	平面形	覆土	重複関係
P282	D-10	50×50×36	円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR2/2)	H52を切る
P283	E-1	46×40×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR2/3)	H52を切る
P284	E-1	62×56×43	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/2)	H52を切りカララに切られる
P285	D-10	42×42×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P286	D-10	52×52×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H43を切る
P287	F-9	28×28×30	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H40を切る
P288	F-9	30×28×25	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H40を切る
P289	F-8	30×30×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H40を切る
P290	F-18	20×16×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H40を切る
P291	G-17	56×48×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H36を切り北壁をカララに切られる
P292	F-19	34×32×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P293	D-10	52×48×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/2)	
P294	G-1	56×55×25	円形	褐色土層 (10YR4/3)	H15を切る
P295	G-1	51×48×42	円形	褐色土層 (10YR1.7/1)	H15を切る
P296	D-9	38×30×69	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P298・P300を切りM71に切られる
P297	D-8	70×60×49	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色土層 (10YR3/3)	M71に切られる
P298	D-9	36×24×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P296・M71に切られる
P299	D-10	32×32×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H51・H52を切る
P300	D-9	28×24×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P296・M71に切られる
P301	D-9	41×40×24	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	H54を切る
P302	F-8	76×50×34	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P303	F-8	22×22×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P304	F-8	36×36×33	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P305	F-10	30×26×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P306	G-1	40×32×11	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M8を切る
P307	G-1	36×32×34	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P308	F-10	38×34×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M6を切る
P309	F-10	28×22×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P310	F-9	32×28×36	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M6を切る
P311	F-10	20×18×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P312	F-9	42×38×26	円形	黒褐色土層 (10YR4/3)	
P313	F-10	58×52×46	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3) に赤い黄褐色土層 (10YR4/3)	
P314	G-1	40×30×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H45を切る
P315	G-1	22×22×10	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	H45を切る
P316	G-1	26×24×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H45を切る
P317	G-2	20×17×10	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H29を切る
P318	F-10	34×30×20	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P319	F-10	61×30×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P320	F-9	34×32×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P321	D-9	46×44×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P322	D-9	41×40×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H41に切られる
P323	G-2	42×36×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H29を切る
P324	D-9	56×50×44	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H52を切る
P325	D-9	40×38×23	円形	褐色土層 (10YR4/4)	H32を切る
P326	D-10	60×52×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P327	D-10	60×46×36	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P328	G-2	34×33×8	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H29を切る
P329	T-2	19×11×24	円形		H63に切られる

NO.	位置	規模 (cm) 縦×横×高さ	平面形	覆土	重板関係
P330	D-210	160×46×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H32を切り出しに切られる
P331	I-2	76×(46)×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H63に切られる 南は黄土状外
P332	D-210	36×30×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H32を切る
P333	F-8	30×24×18	楕円形		H20を切る
P334	F-9	22×20×8	円形		H20を切る
P335	F-28	36×24×20	楕円形		H31を切る
P336	D-9	68×30×63	楕円形		H位・M7に切られる
P337	D-9	62×46×28	楕円形		H42に切られる
P338	B-9	38×32×49	楕円形		H32を切る
P339	F-8	30×26×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H20を切る
P340	E-81	48×38×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P341	E-4	52×46×34	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P342	E-4	60×57×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P343	D-10	48×42×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P344	D-10	46×40×29	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P345	D-10	26×24×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P346	D-10	42×38×41	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P347	D-10	27×26×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P350	D-10	50×47×17	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P351	B-81	38×32×41	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H73を切る
P352	D-9	38×28×30	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P384を切る
P353	D-10	30×28×10	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P354	D-10	44×42×27	円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	
P355	B-81	41×28×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P356	B-81	35×30×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P357	B-81	46×42×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P358	B-81	54×46×14	楕円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	
P359	B-110	44×38×18	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P360	B-110	52×48×39	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P361	欠番				
P362	B-1-9	47×46×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P363	B-1-9	48×(43)×32	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	F301に切られる
P364	欠番				
P365	B-1-9	32×46×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P366	B-1-9	46×44×25	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P369	D-9	45×44×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P370	B-9	36×34×33	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P371	B-9	52×50×39	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P372	B-9	47×46×19	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P375	B-10	42×32×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P376	B-10	29×28×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P377	B-10	34×34×32	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P378	B-10	40×34×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P379	B-8	52×38×18	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P382	B-110	57×47×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P383	B-110	40×38×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P384	D-9	26×26×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P352に切られる
P385	B-110	26×24×48	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P386	B-2	30×28×30	円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	P387を切る
P387	B-2	38×30×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P388	B-10	48×46×19	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P390	B-10	36×28×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	D46・H76を切る
P391	B-110	40×40×30	円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	M4を切る

NO.	位置	規模 (cm) 縦×横×高さ	平面形	覆土	重板関係
P392	B-8	32×32×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P393	B-8	48×40×32	円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	
P394	B-2	30×28×23	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P395	B-8	31×24×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P396	B-8	25×16×14	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P397	B-2	31×21×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P398	B-9	37×30×38	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P399	B-9	25×24×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P400	B-9	34×26×31	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P401	B-9	22×22×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P402	B-10	27×26×33	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P403	B-10	20×19×19	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P404	B-10	34×34×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P405	B-10	22×22×19	円形	黒褐色土層 (10YR1.7/1)	
P406	B-3	49×36×37	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P408	G-3	54×44×48	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P409	G-3	66×52×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P410	G-3	74×50×28	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P411	G-3	41×40×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P412	B-10	36×36×36	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P413	B-10	32×32×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P414	B-8	26×24×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P415	B-9	32×29×41	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P416	B-9	24×22×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P417	B-9	28×26×37	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P418	B-9	25×24×-	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P419	B-9	22×14×23		黒褐色土層 (10YR2/2)	D40・D41に切られる
P420	C-11	50×46×37	円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 褐色土層 (10YR4/4)	
P421	E-1	49×44×29	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H82を切る
P422	D-9	65×60×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P423	D-10	32×28×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P424	D-10	49×41×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P425	I-2	36×28×30	円形	褐色土層 (10YR4/1)	H81を切る
P426	I-2	36×34×38	円形	褐色土層 (10YR3/3)	M8: 切り出しH81を切る
P427	D-10	32×26×20	不整形 円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P428	D-10	34×32×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H54を切る
P429	D-10	29×26×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	H54を切る
P430	D-9	39×34×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H54を切る
P431	G-81	36×36×23	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 褐色土層 (10YR4/3)	
P432	G-81	40×32×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/2) 褐色土層 (10YR4/3)	
P433	G-82	40×40×32	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 褐色土層 (10YR4/3)	H66を切る
P434	G-82	36×44×16	楕円形	褐色土層 (10YR4/3) 褐色土層 (10YR2/3)	H66を切る
P435	G-82	44×44×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M9: 切り出しH66を切る
P436	G-3	30×30×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P437	G-10	44×33×27	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 褐色土層 (10YR2/3)	
P438	D-8	40×38×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 褐色土層 (10YR4/4)	

NO.	位置	見積 (cm) 2位×2位×2位	平面図	覆 上	近接関係
P439	F31	56×46×32	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P440	F31	43×43×38	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P441	F31	80×81×9	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P442	E31	40×38×31	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P443	Eカ1	70×32×31	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/3)	
P444	D310	146(×25)×28	-	黒褐色土層 (10YR2/2) 褐色土層 (10YR4/4)	H54に切られる
P445	D310	39×38×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P446	Iカ2	40×20×22	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	M9に切られる
P447	Iカ2	20×20×66	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	M9に切られる
P448	F31	16×16×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H16を切る
P449	F31	16×16×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H18を切る
P450	E32	54×48×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H16を切る
P451	Eカ2	90×44×14	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 褐色土層 (10YR3/4)	H16を切る
P452	Gカ2	62(×36)×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H68の内側溝溝 蓋を外
P453	Fカ8	36×34×31	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H20を切る
P454	Dカ9	40(×28)×9	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H54を切る
P455	Dカ9	40×38×7	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H54を切る
P456	Dカ9	62×32×10	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H54を切る
P457	Dカ9	61×36×6	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H54を切る
P458	Fカ10	32×29×17	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H76を切る
P459	Bカ10	32×26×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H73に切られる H76を切る
P460	Bカ10	38(×26)×14	-	黒褐色土層 (10YR1.7/1) 黒褐色土層 (10YR2/2)	H75を切る
P461	Aカ3	26×24×16	円形	黒褐色土層 (10YR3/4)	H11を切る
P462	Bカ8	36×34×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P463	Bカ8	44×44×34	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P464	Bカ9	35×32×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P465	Bカ9	36×30×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P466	Bカ9	32×31×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P467	Bカ9	30×25×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P468	Bカ9	34×32×44	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P469	Bカ9	32×30×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P470	Mカ8	44×44×34	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	H90を切る
P471	Mカ8	38×32×23	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P472	Mカ7	130(×26)×9	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H92に切られる
P473	Mカ7	28×18×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P474	Mカ7	28×22×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P475	Mカ7	34×32×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P476	Mカ7	30×24×37	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	P477を切る
P477	Mカ7	36×36×25	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P478に切られる
P478	Mカ8	32×22×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P479	Mカ8	30×26×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P480	Mカ7	38×32×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P481	Mカ8	106×40×39	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P482	Mカ7	30×30×41	円形	褐色土層 (10YR2/2)	
P483	Mカ7	34×32×12	円形	黒褐色土層 (10YR3/3)	
P484	Mカ7	28×24×38	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P485を切る
P485	Mカ7	28×18×16	円形	褐色土層 (10YR3/3)	P484に切られる
P486	Mカ7	24×22×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P487	Mカ8	28×28×31	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M13を切る

NO.	位置	見積 (cm) 2位×2位×2位	平面図	覆 上	近接関係
P488	Mカ7	20×20×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P489	Mカ7	24×22×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M12を切る
P490	Nカ8	81×76×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土層 (10YR2/4)	
P491	Nカ9	46×42×23	円形	黒褐色土層 (10YR2/1)	H88を切る
P494	Nカ9	38×26×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P495	Nカ9	28×22×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P496	Nカ9	56×36×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P497	Bカ9	30×24×30	円形	黒褐色土層 (10YR2/3) 黒褐色土層 (10YR4/3)	

西一本橋遺跡遺 土坑一覧表

(残) (推定)

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
D 1	B 3 8	楕円形	152	104	40	N-70° W	土師器片 (古墳)
D 2	A 3 6	隅丸長方形 方形 (柱木)	252 84 (柱木内側)	204 84 (柱木内側)	256 108 (柱木)	N-20° W	テラス付。 丹波産 M1・D4 を切る。
D 3	*	隅丸長方形 形?	(152)	394	36	N-75° E	カクワンに切られる。
D 4	*	楕円形	220	152	68		D 2・M1 に切られる。 遺物なし
D 5	B 4 9	隅丸長方形	336 (テラス含) 236	192 (テラス) 240	40 (テラス) 64	N 40° E	D10 を切る。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D 6	B 4 9	隅丸長方形	228 (テラス含) 168	140	68	N-85° E	D22 を切り D7 に切られる。
D 7	B 4 10	不整形	216	200	72	N-60° W	D 6 を切る。
D 8	B 3 8	円形	100	92	20	N-55° E	遺物なし
D 9	I 1 1	円形 方形 (柱木)	298 76 (柱木内側)	268 72 (柱木内側)	280 85 (柱木)	N-14° W	H49・F17 を切る。井・埴
D10	B 4 9	-	(220)	(84)	32		D5 に切られる。D32 を切る。 知多器・片 (奈-平)
D11	A 3 8	-	(160)	(64)	20	-	D5 に切られる。D32 を切る。 知多器・片 (奈-平)
D12	B 4 7	隅丸長方形	168	124	56	N 0°	須恵器・土師器片 (古墳)
D13	A 3 10	*	184 (テラス含) 112	(50)	56 (テラス) 92	-	遺物なし
D14	B 4 7	*	172	124	36 (テラス) 48	N 43° E	カクワンに切られ、単 P133 を切る。
D15	B 3 9	*	(200)	132	30	N-30° E	底側面に雨漏り痕。土師器片 (古墳)
D16	B 3 10	*	236 (テラス含) 196	(100)	24 (テラス) 60	N-80° W	単 P113 に切られる。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D17	B 4 10	-	(364)	(60)	100		単 P204・P206・H12 を切る。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D18	B 4 10	-	(300)	(240)	8		H18・D5・D171 に切られる。 H7 を切る。遺物なし
D19	B 4 8	不整形	214	212	24	-	単 P193 に切られる
D20	B 3 8	隅丸長方形	188	134	40	N 86° W	土師器片 (古墳)
D21	B 4 9	*	192 (テラス含) 160	136	12 (テラス) 32	N-4° W	須恵器・土師器片 (奈-平)
D22	B 4 10	*	238	165	80	N-7° E	F24・M4 を切る
D23	B 4 8	*	176 (テラス含) 152	96	25 (テラス) 41	N-85° E	D24 を抜す。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D24	*	*	236 (テラス含) 144	144	66 (テラス) 80	N 84° E	D23 を抜す。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D25	A 3 7	長楕円形	(120)	68	16	N-90°	D161 に切られる。 遺物なし
D26	A 3 9	隅丸長方形	288	(88)	16	N-90°	単 P106・P107 に切られる。 須恵器・土師器片
D27	B 4 8	隅丸長方形	296	214	28	N-70° E	単 P185・P202 を切る。
D28	穴						
D29	II 4 10	隅丸長方形	108	68	24	N-22° W	H25 に切られる。
D30	F 3 8	楕円形	120	92	78	N 0°	H56 を切る。
D31	F 2 9	楕円形	88 (テラス含) 52	80	18 (テラス) 44	N 0°	北側は溝谷区外。 土師器片 (奈-平)
D32	B 4 9	方形	304	304	16	N-20° W	D5・7・D10・単 P204 に切られ H12 を切る。古墳跡
D33	B 4 10	隅丸長方形	232 (テラス含) 136	136 (テラス) 292	23 (テラス) 41	N-58° E	H75 を切る。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D34	C 3 1	* ?	154	(64)	57	N-73° W	M4 を切る。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D35	B 4 9	隅丸長方形	116	80	32	N-0°	H73 を切る。 土師器片 (古墳)
D36	B 3 10	(16)	(40)	13			H75 を切る。D161 に切られる。
D37	7 2 9	隅丸長方形	96	74	39	N-2° W	M10 を切る。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D38	D 2 9	*	90	64	25	N-0°	
D39	B 3 10	隅丸長方形	182	(74)	37	N 85° W	H76 を切る。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D40	B 4 9	*	182	126	25	N-90°	D41 に切られる。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D41	B 4 10	*	224 (テラス含) 168	116	20 (テラス) 40	N-86° W	D40 を切る。 土師器 (古墳)
D42	B 3 10	*	178	118	40	N-61° W	H75 を切る。 須恵器・土師器片 (奈-平)
D43	B 4 10	円形?	108	44	48 60 (ピット)		H75 を切る。 遺物なし
D44	I 3 1	隅丸長方形	266	146	18	N-80° E	跡あり

遺構名	積層位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
D45	Iえ1	円形	100	174	100	N-8°-W	H78を切る。井戸並み。 M9に切られる。腰あり 土師器片(茶-平)
D46	Cお1	楕円形	<92>	<60>	64	-	H76を切る。 遺物なし
D47	Eく1	隅丸方形	174	168	26	N-38°-W	遺物なし
D48	Dけ10	隅丸長方形	95	84	15 20(ヒット)	N、0°	H34を切る。 土師器高杯(古墳) 西をカタンされる。 H78に切られる。
D49	Iえ1	楕円形	90	<106>	17	-	-
D50	Iう3	円形	<152>	<56>	76	-	区域外で埋没。形迹不明
D51	Iか2	-	352	<120>	54	-	M9に切られる。 H81を切る。
D52	Mえ7	楕円形	104	92	19	N-87°-E	M12を切る。

西一本柳遺跡Ⅷ 溝址一覧表

(残) (推定)

遺構名	積層位置	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	備考
M1	Aい1-Aけ8	<3,168>	484	37	H2を切る。D2・D4・単P20・21・22・27・28・29・61・63・64・E1に切られる。
M2	Aお7-Hえ9	<984>	89	20	H2・H3・F1・単P31・32・33・34・35・36・67に切られる。 土師器残片2(古墳) 西に低い
M3	Bき6-Bき7	<368>	118	17	北のI N P IXに続く。F5に切られる。 土師器長柄杓・杯、灰土壺(古墳後期)、弥生土、高杯(弥生後期) 北に低い
M4	Dあ7-Cい1	<1,772>	90	30	H13・D22・D34・F30・F31・単P223・224・227・232・382・391に切られる。 西に低い。弥生土2、茶8、赤色塗彩1(弥生中・後期)
M5	欠				I N P IXでM6と連続したため欠番とした。
M6	Eい2-Hき10	<6,680>	182	76	H17・H23・H24・H26・H36・H46・H49・H55・H56・H83・F9・F18・F20・M9・単P126・P273・P275・P308・P310・I N P IX H3・H12・単P18・P30・P76に切られる。 M9と新旧不明
M7	Dう9-Eう1	<1,438>	214	41	H12・H46・H47・F12・単P296・P297・P298・P300を切る。 腰高かわりなし。 H33・H36・カタンに切られる。須恵土・杯2(古墳)、土師器杯1(古墳) 西に低い
M8	Gか1-Gき1	<457>	46	34	M7との新旧不明 西に低い
M9	Eえ2-Iう1	<8,316>	295	32	H15・16・29・46・60・61・62・66・67・68・71・72・78・79・80・81・F18・20・21・22・D45・51・M6・単P133・294・285・317・408・426・434・446・447・450・451を切る。
M10	Cあ1-Dこ9	<968>	61	42	D37・F24・単P350に切られる。 土師器杯1(古墳)、弥生土1(弥生中期) 西に低い
M11	Nけ7-Mえ9	<2,280>	72	25	I N P V M12と同一流址 西に低い。H87・H90・H92を切る。 弥生土10、茶5、赤色塗彩4、(弥生中期) 土師器高杯1(古墳中期)
M12	Mう7-Mお8	<680>	40	26	I N P V M13と同一流址 弥生土2、茶1(弥生中期) 西に低い。 D52に切られる。
M13	Mえ7-Mえ8	<320>	30	19	西にカタンに切られる。

西一本柳遺跡Ⅷにおける自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 蛍光X線分析 (1)

1. 試料

試料は、H44から採取された試料No15 (石の付着物、白色) およびH54から採取された試料No18 (ベンガラとされる赤色顔料) の計2点である。

2. 分析方法

エネルギー分散型蛍光X線分析システム (日本電子株式会社, JSX3201) を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法 (FP法) による定量分析を行った。以下に分析の手順を示す。

- 1) 試料を絶乾 (105°C・24時間)
- 2) メノウ製乳鉢を用いて試料を粉砕
- 3) 試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力15t/cm²でプレスして錠剤試料を作成
- 4) 測定時間300秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空の条件で測定

なお、X線発生部の管球はロジウム (Rh) ターゲット、ベリリウム (Be) 窓、X線検出器はSi (Li) 半導体検出器である。

3. 分析結果

各元素の定量分析結果 (wt%) を、表1および図1に示す。

4. 考察

1) 試料No15

白色付着物では、珪素 (Si) の明確なピークが認められ、珪酸 (SiO₂) の含量は85.7%にも達している。その他の元素含量は、アルミニウム (Al₂O₃) が7.8%、鉄 (Fe₂O₃) が4.9%であり、カルシウム (CaO) は1.0%と少量である。なお、同試料を顕微鏡観察したところ、火山ガラスとみられるガラス質粒子が多数認められた。以上の結果から、H44から採取された試料No15 (石の付着物) は、火山ガラスなどの珪酸を主体とした物質がおもな給源となっていると考えられる。

2) 試料No18

赤色顔料としては、一般的に水銀朱 (硫化水銀: HgS)、ベンガラ (酸化鉄: Fe₂O₃など)、鉛丹 (酸化鉛: Pb₂O₃) が知られている (市毛, 1998, 本田, 1995)。分析の結果、試料No18 (赤色顔料) ではFe (鉄) の明確なピークが認められ、Hg (水銀) やPb (鉛) は検出されなかった。Fe₂O₃の含量は55.0%と高い値を示している。以上の結果から、H54から採取された試料No18の赤色顔料は、ベンガラと考えられる。

文献

- 市毛 勲 (1998) 新版朱の考古学, 考古学選書, 雄山閣出版, p.42-48.
本田光子 (1995) 古墳時代の赤色顔料, 考古学と自然科学, 31・32, p.63-79.

表1 西一本柳遺跡における蛍光X線分析結果
(単位: wt(%))

原子% 元素・試料 化学式	No15 (H44)		No18 (H54)	
	石の付着物		ベンガラ	
13	Al ₂ O ₃	7.78	12.53	
14	SiO ₂	86.66	28.93	
16	SO ₃		0.36	
19	K ₂ O	0.48	0.40	
20	CaO	0.98	1.90	
22	TiO ₂	0.24	0.49	
25	MnO		0.41	
26	Fe ₂ O ₃	4.86	54.99	

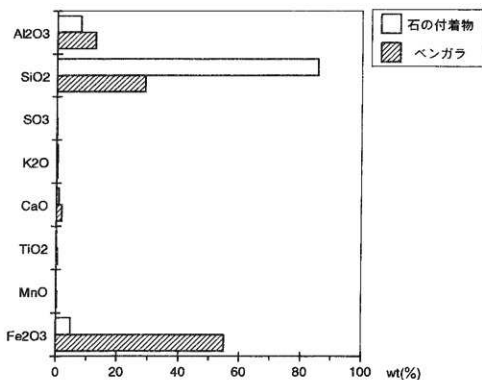


図1 西一本柳遺跡における蛍光X線分析結果

II. 蛍光X線分析(2)

1. 試料

分析試料は、西一木柳遺跡から出土した土器(1~4)および粘土(ⅧH90)の計5点である。

2. 分析方法

エネルギー分散型蛍光X線分析システム(日本電子株式会社, JSX3201)を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法(FP法)による定量分析を行った。以下に分析の手順を示す。

<粘土>

- 1) 試料を絶乾(105℃・24時間)
- 2) メノウ製乳鉢を用いて試料を粉砕
- 3) 試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力15t/cm²でプレスして鋭利試料を作成
- 4) 測定時間300秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空の条件で測定

<土器>

- 1) 土器片の一部をダイヤモンドカッターで切り取り、新鮮な断面を露出させる
- 2) 絶乾(105℃・24時間)後、分析装置の固定試料ステージに固定
- 3) 測定時間300秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空の条件で測定

3. 分析結果

各元素の定量分析結果(wt%)を表2と図2に示す。また、図3に4元素(Na₂O、K₂O、CaO、Fe₂O₃)の検出状況を示し、図4にCaO/K₂O分布図およびRb₂O/SrO分布図を示す。

4. 考察

土器の胎土に含まれる多数の元素のうち、主成分元素のKとCaおよび微量元素のRbとSrの4元素は、粘土の地域性を有効に示す因子とされている(三辻, 1999)。土器の産地同定を行う際の指標の一つとされているCaO-K₂O分布図(図4)によると、今回の試料は両者の元素含量の差異によって、大きく2つに分類される。すなわち、カルシウム(CaO)含量が2.0%以上と比較的高い土器4と粘土(ⅧH90)、およびカルシウム含量が1.0~1.3%と比較的低い土器1~土器3である。

その他の元素では、鉄(Fe₂O₃)の含量に比較的大きな特徴が認められ、土器4と粘土(ⅧH90)では6.9~8.8%と比較的低いに対して、土器1~土器3では14.4~16.9%と明らかに高くなっている。

以上のように、土器4の元素組成は粘土(ⅧH90)と類似しており、土器1~土器3とは粘土素材が異なっている可能性が考えられる。

文献

- 三辻利・(1998) 元素分析による古代土器の胎土研究。人類学研究第10号, 11-39。
三辻利・(1999) 元素分析による須恵器の産地推定。考古学と自然科学(4), 同成社, 294-313。

表2 佐久市、西一本柳遺跡における蛍光X線分析結果
(単位: wt(%))

原子%	化学式	8400				
		11190粘土	土器1	土器2	土器3	土器4
11	Na ₂ O	1.490	1.195	1.307	1.105	0.883
12	MgO	0.192		0.373	0.047	
13	Al ₂ O ₃	23.589	20.325	18.465	19.927	25.422
14	SiO ₂	62.654	57.528	59.897	60.686	57.569
15	P ₂ O ₅					1.843
16	SO ₃	0.096		0.061	0.036	0.037
19	K ₂ O	1.357	1.521	1.273	1.361	1.273
20	CaO	2.107	0.976	1.291	1.103	2.108
22	TiO ₂	1.372	1.253	1.084	1.067	1.793
23	V ₂ O ₅	30.057	0.033	0.049	0.027	0.055
25	MnO	0.120	0.159	0.146	0.142	0.121
26	Fe ₂ O ₃	8.905	16.925	15.984	14.431	8.793
37	Rb ₂ O	0.007	0.004	0.015	0.014	0.010
38	SrO	0.037	0.008	0.030	0.026	0.063
40	ZrO ₂	0.017	0.045	0.036	0.028	0.041

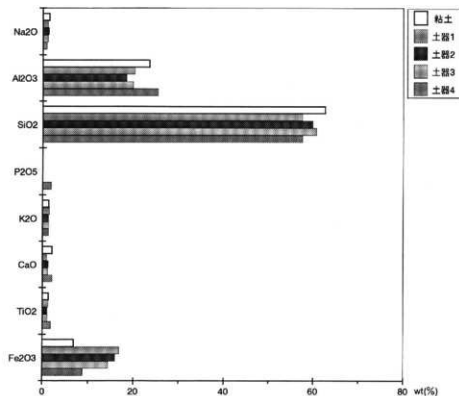


図2 西一本柳遺跡における蛍光X線分析結果

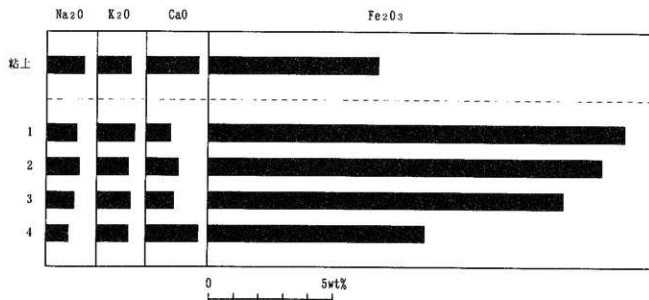


図3 西一本柳遺跡から出土した土器（胎土）における4元素の検出状況

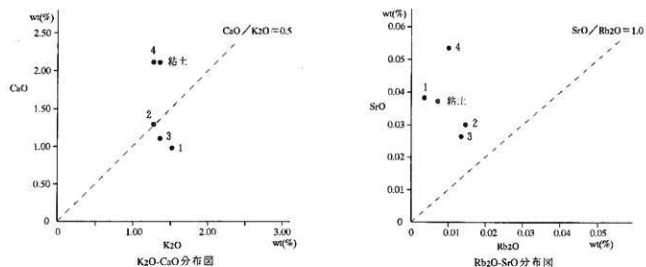


図4 西一本柳遺跡におけるK₂O-CaOの分布図およびRb₂O-SrO分布図

Ⅲ. 植物珪酸体分析 (灰像分析)

1. 試料

分析試料は、H10、H16、H80から採取された炭化物およびD20から採取された灰化物の計4点である。試料の詳細を表2に示す。

2. 分析法

試料を洗浄後、電気的灰化法(550℃・6時間)によって灰化し、オキセットで封入してプレパラートを作成した。検鏡は偏光顕微鏡を用いて、100~400倍の倍率で行った。なお、灰化物の内部を調べるために、植物組織の一部を破壊して観察を行った。

3. 分析結果

分析結果を表3に示し、各試料の灰像および植物珪酸体の顕微鏡写真を示す。

表3 西一本物遺跡から出した植物遺物の灰像分析結果

No	地点・試料	植物珪酸体・植物組織	給源植物の推定
3	H10, カヤ状の炭化物	ススキ属	ススキ属の茎葉
9	H16, カヤ状の炭化物	ススキ属	ススキ属の茎葉
38	H80, カヤ状の炭化物	ススキ属>ヨシ属	ススキ属の茎葉>ヨシ属の茎葉
42	D20, 灰化物	イネ>イネ籾殻(穎の表皮細胞)	イネ属(籾殻あり)

4. 考察

試料No3 (H10, カヤ状の炭化物)、試料No9 (H16, カヤ状の炭化物)では、ススキ属に由来する植物珪酸体や植物組織片が多量に検出された。このことから、これらの試料の給源植物はおもにススキ属の茎葉と推定される。

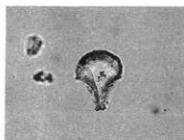
試料No38 (H80, カヤ状の炭化物)では、ススキ属およびヨシ属に由来する植物珪酸体や植物組織片が検出された。このことから、同試料の給源植物はおもにススキ属およびヨシ属の茎葉と推定される。

試料No42 (D20, 灰化物)では、イネに由来する植物珪酸体や植物組織片が多量に検出され、イネ籾殻(穎の表皮細胞)に由来する植物珪酸体も少量検出された。このことから、同試料の給源植物はおもにイネ属と考えられ、籾殻も含まれていると推定される。

文献

杉山真二・石井克己(1989)群馬県子持村、F P直下から検出された灰化物の植物珪酸体(プラント・オパール)分析。日本第四紀学会要旨集, 19, p.94-95.

杉山真二。(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)。考古学と植物学。同成社, p.189-213.



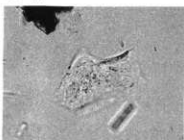
イネ
D20 灰



イネ
D20 灰



イネ (機動細胞組織)
D20 灰



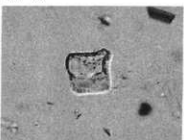
イネ籾殻 (穎の表皮細胞)
D20 灰



イネ
H80 No.6



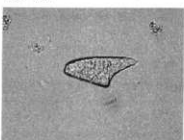
イネ
H10 No.1



イネ
H16 No.5



イネ
H10 No.1



イネ
D20 灰



イネ
D20 灰



イネ科の茎部起源
D20 灰



イネ科の植物組織
H10 No.1

植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

50 μm

IV. 樹種同定

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林産物を推定すること可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、木材10点と炭化材39点の計49点である。試料の詳細は、結果表(表4)に記す。

3. 方法

試料のうち、木材はカミソリを用いて新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、生物顕微鏡によって60~600倍で観察した。また、炭化材は割折して新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、落射顕微鏡によって75~750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

樹種の同定結果を表4に示す。また、主要な分類群については顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

カラマツ *Larix kaempferi* Carr. マツ科

図版1

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管および垂直、水平向樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、晩材部に垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はトウヒ型からややキノキ型を示し、1分野に3~5個存在する。放射仮道管の有縁壁孔対の断面は、孔口が大きく、壁孔縁の先端が丸みを帯びるものやややとがったものが多い。

接線断面：放射組織は単列で1~20細胞高であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりカラマツに同定される。カラマツは本州(宮城県、新潟県以南から中部山岳地帯)の日当たりのよい山地に自生する。落葉高木で、通常高さ20~30m、径60~80cmである。材は耐久性が強く、建築、造船、土木など広く用いられる。

アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科

図版2

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりアカマツに同定される。アカマツは、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は重硬な良材で水湿によく耐え、広く用いられる。

マツ属 *Pinus* マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質より、マツ属に同定される。マツ属には、ヒメコマツなどの亜種常東亜属と、クロマツ、アカマツなどの複雑管束亜属があり、放射仮道管内年の歯状厚みの有無で同定できるが、本試料は保存状態が悪く、放射仮道管内年部分の十分な観察ができなかったためマツ属とした。

サワラ *Chamaecyparis pisifera* Endl. ヒノキ科

図版 3

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞がみられる。

放射断面：放射柔細胞の分野整孔は、ヒノキ型からややスギ型の傾向を示し、1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりサワラに同定される。サワラは若手塚以南の本州、四国、九州に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ30m、径1mに達する。材は木理通直、肌目緻密である。ヒノキより軽軟でもろいが、広く用いられる。

カバノキ属 *Betula* カバノキ科

図版 5

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して、ややまばらに散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は8~20本ぐらいである。放射組織は同性である。道管と放射組織の間の整孔は極めて小さく密である。

接線断面：放射組織は、同性放射組織型で、1~3細胞幅である。道管相互の整孔は極めて小さく密に配列する。

以上の形質よりカバノキ属に同定される。カバノキ属にはミズメ、ウダイカンバ、シラカンバ、オノオレカンバなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または低木である。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

図版 4

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火災状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性が強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材である。現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸はだ木など広く用いられる。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科

図版 6・7

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1~数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火災状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと同型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強硬で弾力に富み、建築材などに用いられる。

コナラ属クスギ節 *Quercus* sect. *Aquilops* ブナ科

図版 8

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1~数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独および放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同姓放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クスギ節に同定される。コナラ属クスギ節にはクスギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60cmに達する。材は強韌で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

ニレ属 *Ulmus* ニレ科

図版9

横断面：年輪のはじめに中環から大型の道管が1～3列配列する環孔材である。孔部外側の小道管は多数複合して花束状、接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同姓放射組織型で、1～5細胞幅ぐらいである。

以上の形質よりニレ属に同定される。ニレ属にはハルニレ、オヒヨウなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する落葉の高木である。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

バラ属 *Rosa* バラ科

横断面：やや小型で丸い道管が、ほぼ単独で年輪のはじめに1～2列並び、晩材部では小型の道管が単独でややまばらに存在する環孔材である。早材から晩材にかけて道管の径はやや急激に減少するが、晩材部では不規則に変化する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、幅0.3mm、高さ2mmを超えるものが見られる。

以上の形質よりバラ属に同定される。バラ属には、ノイバラ、ヤマイバラなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。既木で落葉するものが多い。

キハダ属 *Phellodendron* ミカン科

横断面：年輪のはじめに大型でやや厚壁の丸い道管が、単独あるいは2個複合して2～3列配列する環孔材である。晩材部では母壁で方形の小道管が、多数集合して斜め方向および接線方向に管状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は同性である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は多列の同姓放射組織型で、紡錘形を見る。幅は1～3細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりキハダ属に同定される。キハダ属には、キハダ、ヒロハノキハダなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1mに達する。

カエデ属 *Acer* カエデ科

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは2～4個放射方向に複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、内壁には微細な螺旋肥厚が存在する。放射組織は、平伏細胞からなる同性である。

接線断面：放射組織は、同性放射組織型で1～4細胞幅である。道管の内壁には微細な螺旋肥厚が存在する。

以上の形質よりカエデ属に同定される。カエデ属には、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ハウチワカエデ、テツカエデ、ウリカエデ、チドリノキなどがあるが、放射組織の形質からウリカエデ、チドリノキ以外のいずれかである。北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または小高木で、大きいものは高さ20m、径1mに達する。材は耐朽性および保存性は中虚で、建築、家具、器具、楽器、合板、彫刻、薪炭など広く用いられる。

アワブキ属 *Melasma* アワブキ科

図版10

横断面：小型の道管が、単独ないしその複合部に1～2個の柔細胞をはさんで、放射方向にむかって2～4個複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は少なく10本前後である。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で1~4細胞幅である。

以上の形質よりアワブキ属に同定される。アワブキ属は本州、四国、九州に分布する。落葉または常緑の小高木から高木である。

ウツギ属 *Deutzia* ユキノシタ科

横断面：小型で多角形の道管が、ほぼ単独で均一に散在する散孔材である。放射組織の細胞が大きく接線方向への幅が道管の直径より大きいことが認められる。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は30本前後である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、2~5細胞幅の細長い紡錘形であり階細胞のあるものが多い。

以上の形質よりウツギ属に同定される。ウツギ属は日本各地の日当たりのよい山野に自生する落葉低木である。株立ち状になり高さ1~3m、枝は分枝葉密、幹枝とも中空である。庭園樹、境界樹として栽培され、材は木釘などに用いられる。

ムラサキシキブ属 *Callicarpa* タマツヅラ科

横断面：小型で厚壁の丸い道管が、単独あるいは2~4個放射方向に複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管相互の穿孔はごく小型のものが、交互状で密に分布する。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、2~3細胞幅であり、直立細胞からなる排列部は長い。

以上の形質よりムラサキシキブ属に同定される。ムラサキシキブ属には、ムラサキシキブ、コムラサキシキブ、ヤブムラサキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の低木である。

広葉樹 broad-leaved tree

横断面：道管が存在する。

放射断面：道管と放射組織が存在する。

接線断面：多列幅の放射組織が存在する。

以上の形質より広葉樹に同定される。なお本試料は保存状態が悪い為、広葉樹の同定にとどまる。

タケ亜科 Bambusoideae イネ科

図版11

横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は本部と節部からなり、その節部に維管束鞘が存在する。

放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束、維管束鞘が軸方向に配列している。

以上の形質よりタケ亜科に同定される。

5. 所見

同定の結果、西一本御遺跡出土の木材はカラマツ1点、アカマツ1点、サワラ5点、クリ2点、ウツギ属1点であった。なお、ウツギ属は低木で用材としては用いられない。また、カラマツは葉陰種である。

炭化材は、カラマツ1点、マツ属1点、カバノキ属2点、クリ2点、コナラ属コナラ節15点、コナラ属クスギ節4点、ニレ属2点、バラ属2点、キハダ属1点、カエデ属1点、アリアキ属1点、ムラサキシキブ属1点、広葉樹1点、タケ亜科5点であった。コナラ属コナラ節が多い特徴をもつ。ほかにカバノキ属、クリ、コナラ属クスギ、ニレ、バラ属、キハダ属、カエデ属など落葉広葉樹が多いのが特徴であり、遺跡周辺に分布していた落葉広葉樹林を反映しているとみられる。タケ亜科はやや珍しいが人為地周辺に生育していたと推定される。

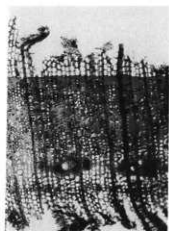
参考文献

佐伯浩・原田浩(1985) 針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48.

佐伯浩・原田浩(1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100.

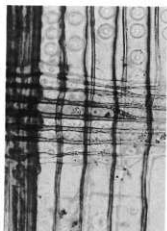
表4 西一本掃遺跡裡における樹種同定結果

No.	植物名	種	No.・階位		結果(科名/学名)
1	H4		Ⅱ区サブD	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
2	H5		No.4	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
3	H10	6年樹	No.1	タケ藪科	<i>Bambusoideae</i>
4	H10	枝	I区東方	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
5	H10		No.2	カラマツ	<i>Larix kaempferi Carr.</i>
6	H10	炭化材	No.1	キハダ属	<i>Phellodendron</i>
7	H15			コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
8	H16	炭化材	No.4	アワブキ属	<i>Meliosma</i>
9	H16	カヤ	No.5	サバノキ属	<i>Betula</i>
12	H30			コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
16	H52		No.4	サバノキ属	<i>Betula</i>
19	H54		No.118	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
20	H55	サマド線土		バラ科	<i>Rosa</i>
22	H67		No.18	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
24	H69		No.15	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
25	H69		No.16	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
26	H69		No.24	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
27	H73		No.1内	広葉樹	<i>broad-leaved tree</i>
28	H76		No.3	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
29	H76		No.1	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
30	H79			マツ属	<i>Pinus</i>
34	H80	炭化材	No.8	ニレ属	<i>Ulmus</i>
35	H80	炭化材	No.1	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
36	H80	炭化材		コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
38	H80	カヤ	No.6	タケ藪科	<i>Bambusoideae</i>
38	H80	炭化材	No.6	ムラサキシキブ属	<i>Callicarpus</i>
39	H82		I層	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
43	H13		No.2	タケ藪科	<i>Bambusoideae</i>
44	H13			タケ藪科	<i>Bambusoideae</i>
45	H13		No.1	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
46	M6		No.11	コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
47	M6			バラ科	<i>Rosa</i>
49	K H5		No.14	カニヤ属	<i>Acer</i>
50	K H5		No.16	タケ藪科	<i>Bambusoideae</i>
52	N H8	結構草?	II区	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>
53	K H13		カマド	ニレ属	<i>Ulmus</i>
57	Ⅷ H87	炭化材	No.5	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
58	Ⅷ H88	炭化材		コナラ属コナラ節	<i>Quercus sect. Prinus</i>
59	Ⅷ H93	炭化材	No.3	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>
	D2	井戸池 公		サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera Phell.</i>
	D2	井戸池 長		アカマツ	<i>Pinus densiflora Sieb. et Zucc.</i>
	D2	井戸池 塩木		サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera Endl.</i>
	D2	井戸池内		ウツギ属	<i>Deutzia</i>
	D2	井戸池内		グリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>
	D2	井戸池内 板材		サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera Endl.</i>
	D2	井戸池内 角材		カラマツ	<i>Larix kaempferi Carr.</i>
	D9	No.1		サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera Endl.</i>
	D9	No.2		サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera Endl.</i>
	D9	立板		クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>



横断面 : 0.5mm

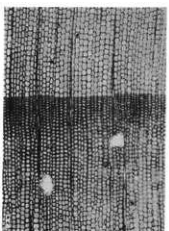
1. D2 杵内 角材 カラマツ



放射断面 : 0.1mm



接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.5mm

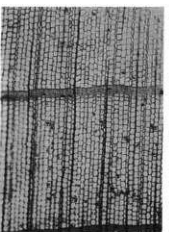
2. D2 井戸杵 枕 アカマツ



放射断面 : 0.1mm

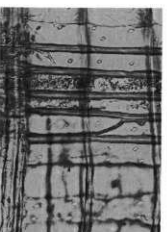


接線断面 : 0.2mm

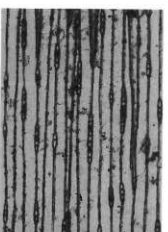


横断面 : 0.5mm

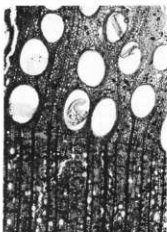
3. D2 井戸杵 横木 サワラ



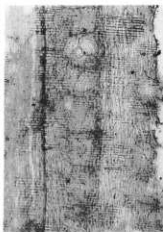
放射断面 : 0.05mm



接線断面 : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm



放射断面 ————— : 0.5mm



接線断面 ————— : 0.2mm

4. D9 立杭 クリ



横断面 ————— : 0.2mm

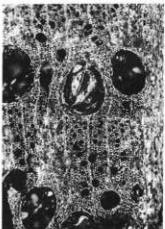


放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

5. No.9 カバノキ属



横断面 ————— : 0.4mm

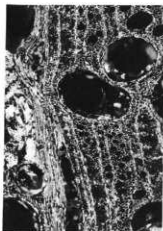


放射断面 ————— : 0.4mm



接線断面 ————— : 0.2mm

6. No.35 コナラ属コナラ節



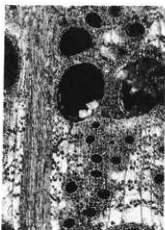
横断面 ————— : 0.4mm
7. No.36 コナラ属コナラ節



放射断面 ————— : 0.4mm



接線断面 ————— : 0.2mm



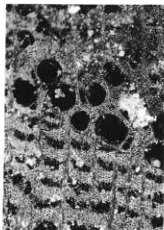
横断面 ————— : 0.4mm
8. No.12 コナラ属クスギ節



放射断面 ————— : 0.4mm



接線断面 ————— : 0.2mm



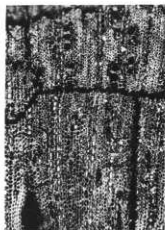
横断面 ————— : 0.4mm
9. No.53 ニレ属



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm

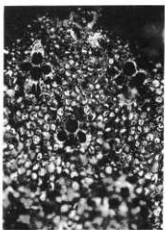
10, No.8 アワブキ属



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.4mm



横断面 ————— : 0.4mm

11, No.44 タケ亜科



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

V. 種実同定

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を檢出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

2. 試料

試料は、II21、II26、II32、II35、H53、H66、H67、H80、D2、KH1、KH15、KH16およびⅧH86より檢出された計17点である(表5)。

3. 方法

試料に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行った。

- 1) 水洗選別済みの試料を筆などを使い表面の汚れを落とす。
- 2) 洗いたらない試料に水を加え筆などを使い表面の汚れを落とす。
- 3) 肉眼及び双眼立体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数を行う。

同定は形態的特徴および現生標本の対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4. 結果

樹木6、草本5の計11が同定された。学名、和名および粒数を表5に示し、主要な分類群を写真に示す。なお、モモ核については大きさを計測し表6に示した。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記す。

[樹木]

ヤマモモ *Myrica nbra* Sieb. et Zucc. 核 ヤマモモ科

茶褐色で楕円形を呈し、両端がややとがる。一端にへそがあり、表面は粗い。断面は扁平である。

オニグルミ *Juglans ailanbifolia* Carr. 核 クルミ科

茶褐色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。断面は円形である。

コナラ属 *Quercus* 堅果・幼果 ブナ科

黒褐色で楕円形を呈し、一端につき部が残る。表面は平滑である。この分類群は殻斗欠落し、属レベルの同定までである。

モモ *Prunus persica* Batsch 核 バラ科

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

スモモ *Prunus salicina* Lindley 核 バラ科

淡褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が走る。表面には不明瞭で微細な凸凹がある。断面は扁平である。

[草本]

イネ *Oryza sativa* L. 果実(炭化) イネ科

穎は茶褐色で扁平楕円形を呈し、下端に枝梗が残る。表面には微細な顆粒状突起がある。完形のものは無かった。

カヤツリグサ科 Cyperaceae 果実

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。基部に針状の付属物を持つ。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、片側の中央から周縁まで浅い溝がはしる。

ナデシコ科 Caryophyllaceae 種子

黒色で円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。

ササゲ属 *Vigna* 種子(炭化) マメ科

黒色で楕円形を呈す。へそは縦に細長い。

ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれるが、現時点では識別は困難である。

5. 考察

出土した種実類11分類群のなかで、8種が食用または食用となる栽培植物である。食用となるものにはヤマモモ、オニグルミ、コナラ属があり、このうちコナラ属は渋抜きを行わなければ食せない。栽培植物としては、モモ、スモモ、イネ、ササゲ属がある。イネを除けば樹園地ないし畑で栽培される樹木ないし草本で、いずれも弥生時代の上出が報告されている。

カヤツリグサ科、アカザ属、ナデシコ科は、人里植物ないし耕地雑草であり人為地に分布する。

以上のことから、本遺跡の種実類は食用となるもの、栽培植物、雑草類からなり、人為性の高い遺体群で水田・畑作農耕を示唆する。

参考文献

- 笠原安夫 (1985) 日本雑草図説, 養賢堂, 49p.
笠原安夫 (1988) 作物および田畑雑草類, 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣 出版, p.131-139.
南木睦彦 (1991) 栽培植物, 古墳時代の研究第4巻生産と流通 1, 雄山閣出版株式会社, p.165-174.
南木睦彦 (1992) 低湿地遺跡の種実, 月刊考古学ジャーナルNo.355, ニューサイエンス社, p.18-22.
金原正明 (1996) 古代モモの形態と品種, 月刊考古学ジャーナルNo.409, ニューサイエンス社, p.15-19.

表5 西一本柳道跡塚における種実同定結果

No.	遺構名	分類群		部位	個数	備考
		学名	和名			
10	H21	<i>Myrica rubra</i> Sieb. et Zucc.	ヤマモモ	横片	5	
11	H26	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	オニグルミ	核 (炭)	1	
13	H32	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	横片	1	
14	H35	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核 (半)	1	
17	H53	<i>Quercus sect. Aegilops</i>	コナク属クヌギ節	子葉 (炭)	3	
21	H66	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	横片	1	
23	H67	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	横片	1	炭化材料10
31	H80	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核 (完) (半)	1 1	石片1
32	H80	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	横片	1	
33	H80	<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	稃実 (炭)	3	炭化物片5
		<i>Vigna</i>	ササゲ属	子葉 (半)	2	
37	H80	<i>Quercus</i>	コナク属	葉果片	61	炭化材料7
		<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	オニグルミ	横片	1	
		<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核 (完) (半) (横片)	3 6 26	
		<i>Prunus salicina</i> Lindley	スモモ	核	3	
40	D2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	稃実	8	炭化物片4
		Chenopodiaceae	アカザ属	種子	2	
		Caryophyllaceae	ナデシコ科	種子	6	
41	D2	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	オニグルミ	核 (半)	1	
48	DXH1	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核 (完) (破片)	2 1	
55	DXH16	<i>Prunus salicina</i> Lindley	スモモ	核 (半)	1	
56	DXH86	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	オニグルミ	横片	1	
56	DXH86	Cyperaceae	カヤツリグサ科	稃実	2	
		Chenopodiaceae	アカザ属	種子	286	

表6 西一本柳道跡塚出土モモの計測値

試料No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
14	24.60	—	13.67
31	17.12	14.51	11.70
	20.03	—	10.98
37	18.70	13.82	11.59
	18.94	—	10.95
	14.34	—	10.31
	19.21	15.08	—
	19.72	14.44	—
	19.63	14.74	—
	20.11	15.64	—
	19.51	14.46	—
	15.10	13.76	—
	18.14	14.62	10.59
48	21.20	13.96	12.32

西一本柳遺跡の種実



1 オニグルミ核

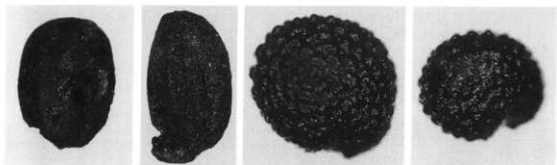
—5.0mm

2 モモ核

3 モモ核

4 モモ核

—5.0mm



5 イネ果実

6 イネ果実

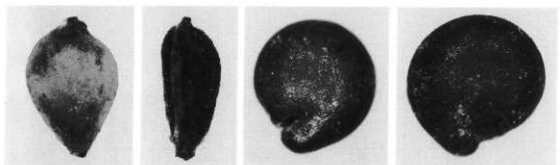
7 ナデシコ種子

8 ナデシコ種子

—1.0mm

—0.1mm

—0.1mm



9 カヤツリグサ科種子

10 カヤツリグサ科種子

11 アカザ属種子

12 アカザ属種子

—0.5mm

—0.5mm

西一本柳遺跡Ⅷから出土した動物遺体同定

黒澤 一男 (バレオ・ラボ)

1. 対象試料および方法

長野県佐久市にある一本柳遺跡群西一本柳遺跡から出土した動物遺体について同定をおこなった。同定は現生標本との比較によりおこなった。

2. 同定結果および考察

一本柳遺跡群西一本柳遺跡から出土した動物遺体について同定した。なお出土内容および骨の計測値については、表1に示す。以下にそれぞれの調査区ごとに出土した動物遺体について述べる。

【Ⅶ区】

Ⅶ区からはウマの遊離歯(左上顎第2後臼歯)が出土している。破損しているため正確ではないが、全歯高(歯根中心部と咬合面中心部の直接距離;久保和十・松井章, 1999)が68.3mmであることから、歯がはえそろったばかりの成獣の臼歯で3~4歳程度と推定される。シカの遊離歯(臼歯)は4本出土している。それらの一部は破片であるため、その歯の正確な位置は不明であるが、位置のわかる2本は共に左下顎骨で、第2後臼歯と第3後臼歯である。これらの口咬面の壁がやや磨耗していることからおそらく成獣の臼歯であると推定される。また、シカの四肢骨(脛骨、上腕骨など)も出土しているが、一部、現生標本より一回り大きいものが存在することから、おそらく2体分以上の骨が存在すると考えられる。

【Ⅷ区】

Ⅷ区からはウマの遊離歯(左上顎第1後臼歯)が出土している。破損しているため正確ではないが、全歯高が67mm+であることから、Ⅶ区において検出されたウマと同様に3~4歳程度の成獣と推定される。また、シカ類の歯片(位置不明)と中節骨破片も出土している。

Ⅶ区とⅧ区からウマの上顎遊離歯が出土している。それぞれ部位の重複もなく、いずれも成獣で年齢的に矛盾しないことから、同一個体の可能性も考えられる。今回同定を試みた試料の半分以上は破片化しており、種と部位が不明であるが、同定された試料から考えると、おそらくウマもしくはシカのもと考えられる。

3. まとめ

一本柳遺跡群西一本柳遺跡から出土した動物遺体を同定した結果、ウマとシカが含まれていることが明らかになった。そのウマの年齢は3~4歳程度の成獣の個体であった。

謝辞

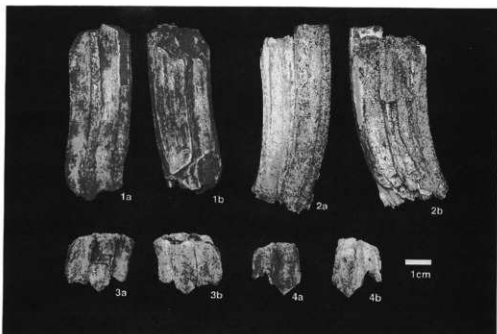
同定用の現生骨格標本は、国立歴史民族博物館西本研究室の所蔵標本を観察させていただいた。ここに感謝の意を表す。

引用文献

久保和十・松井章(1999)第9章家畜<その2>ウマ・ウシ。西本崇弘・松井章編「考古学と動物学」、169-208。

表1 西一本柳遺跡出土獣骨部位観察表

No.	調査区	遺物名	No.・層位	種名	部位	左右	残存度	年輪等	計測値 (mm)
1	Ⅱ区	H4	Ⅱ区2層	不明	骨片				
2	Ⅱ区	H10	カマド	シカ	基節骨		近位部破片		
3	Ⅱ区	H11		ウマ	左上顎第2後臼歯			成獣	全歯高 68.3mm
4	Ⅱ区	H34	I区2層	シカ	上顎歯				
5	Ⅱ区	H40	カマド	不明	骨片				
6-1	Ⅱ区	H44	No.8	シカ	左下顎第2後臼歯			成獣	
-2	Ⅱ区	H44	No.8	シカ	左下顎第3後臼歯			成獣	
7	Ⅱ区	H44	Ⅱ区1層	不明	骨片				
8	Ⅱ区	H51	No.1	シカ	上顎歯				
9	Ⅱ区	H54	Ⅱ区3層	不明	骨片				
10	Ⅱ区	H54	Ⅱ区掘方	不明	骨片				
11	Ⅱ区	H55		不明	骨片				
12	Ⅱ区	H67	カマド	不明	骨片		骨端部破片		
13	Ⅱ区	H67	No.14	シカ	基節骨		近位部		
14	Ⅱ区	D2	1層	シカ	脛骨	右	近位部	成獣	
15	Ⅱ区	D9		不明	骨片				
16	Ⅱ区	H12		不明	骨片				
17	Ⅱ区	H12		不明	骨片				
18	Ⅱ区	M5		ウマ	歯				
19	Ⅱ区	M9		ウマ	上顎歯				
20	Ⅱ区	F27	P5	シカ	上腕骨	右	近位部破片		
21	Ⅱ区	H4		シカ	歯				
22	Ⅱ区	H16	Ⅱ区サブトレ	シカ	中腕骨		近位部破片		
23	Ⅱ区	H17	カマド	不明	骨片				
24	Ⅱ区	M2	No.1	ウマ	左上顎第1後臼歯			成獣	全歯高 67mm+



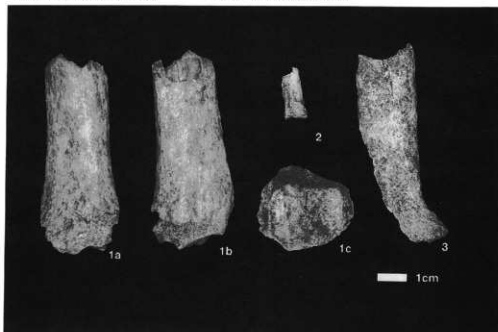
図版 1

1.ウマ 左上顎第 1 後臼歯

2.ウマ 左上顎第 2 後臼歯

3.シカ 左下顎第 3 後臼歯

4.シカ 左下顎第 2 後臼歯



図版 2

1.シカ 脛骨 右(遠位部)

2.シカ 基節骨(遠位部)

3.シカ 上腕骨 右(近位部)



H1号住居址 完掘(南より)



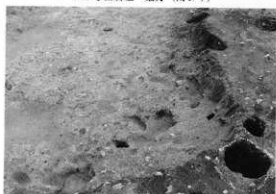
H1号住居址 カマド堀方(南より)



H1号住居址 堀方(南より)



H2号住居址 完掘(南より)



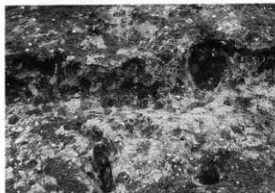
H2号住居址 堀方(南より)



H 3号住居址 遺物出土状況 (南より)



H 3号住居址 カマド (南より)



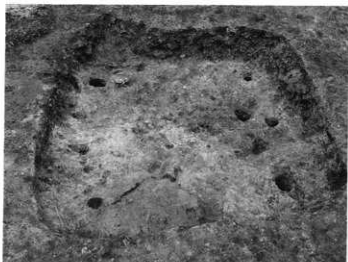
H 3号住居址 カマド周方 (南より)



H 3号住居址 塼方 (南より)



H 3号住居址 完掘 (南より)



H4号住居址 掘方(南より)



H4号住居址 カマド(南より)



H5号住居址 完掘(南より)



H5号住居址 掘方(東より)



H5号住居址 遺物出土状況(東より)



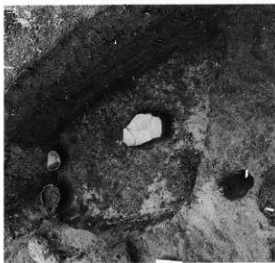
H5号住居址 遺物出土状況(南より)



H5号住居址 カマド敷方(北より)



H7号住居址 完掘(北より)



H7号住居址 完掘(西より)



H7号住居址 堀方(西より)



H 8号住居址 遺物出土状況 (南より)



H 8号住居址 カマド (南より)



H 8号住居址 完掘 (南より)



H 8号住居址 カマド掘方 (南より)



H 8号住居址 カマド (西より)



H 8号住居址 掘方 (南より)



H 8号住居址 掘方 (西より)



H 9号住居址 遺物出土状況 (南より)



H 9号住居址 完掘 (南より)



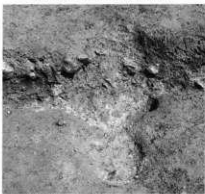
H 9号住居址 掘方 (南より)



H 9号住居址 カマド (南より)



H 9号住居址 白玉 (西より)



H 9号住居址 カマド堀方 (南より)



H 9号住居址 北側完掘 (北西より)



H10号住居址 遺物出土状況 (南より)



H10号住居址 石出土状況 (南より)



H10号住居址 完圖 (南より)



H10号住居址 カマド (南より)



H10号住居址 カマド (北より)



H10号住居址 掘方 (南より)



H10号住居址 カマド掘方 (南より)



H11号住居址 完掘(南より)



H11号住居址 カマド(南より)



H11号住居址 掘方(南より)



H11号住居址 カマド掘方(南より)



H12号住居址 完掘(北より)



H12号住居址 カマド(北より)



H12号住居址 掘方(南より)



H12号住居址 カマド掘方(南より)



H13号住居址 完掘(西より)



H13号住居址 遺物出土状況(西より)



H13号住居址 完掘(北より)



H13号住居址 高杯



H13号住居址 駆方(北より)



H13号住居址 遺物出土状況(北より)



H14号住居址 カマド(南より)



H14号住居址 カマド駆方(南より)



H14号住居址 完掘 (南より)



H14号住居址 完掘 (南より)



H14号住居址 掘方 (南より)



H14号住居址 掘方 (南より)



H15号住居址 完掘 (南より)



H15号住居址 カマド (南より)



H15号住居址 カマド (南より)



H15号住居址 完掘（西より）



H15号住居址 掘方（南より）



H15号住居址 南側完掘（東より）



H15号住居址 南側掘方（東より）



H16号住居址 完掘（南より）



H16号住居址 掘方(南より)



H16号住居址 遺物出土状況(南西より)



H16号住居址 カマド掘方(南より)



H17号住居址 遺物出土状況(西より)



H17号住居址 完掘(東より)



H17号住居址 北側完掘(西より)



H17号住居址 カマド(南より)



H17号住居址 カマド(東より)



H17号住居址 カマド(南より)



H17号住居址 カマド(西より)



H17号住居址 カマド袖芯材出土状況(南より)



H17号住居址 カマド袖芯材出土状況(東より)



H17号住居址 カマド脇方(南より)



H17号住居址 南側脇方(東より)



H17号住居址 廻方(東より)



H18号住居址 西側発掘 (南より)



H18号住居址 完掘 (南より)



H18号住居址 カマド (西より)



H18号住居址 堀方 (南より)



H18号住居址 堀方 (南西より)



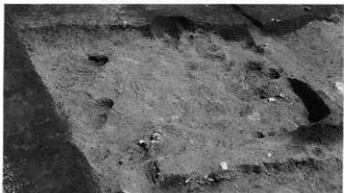
H18号住居址 カマド堀方 (南より)



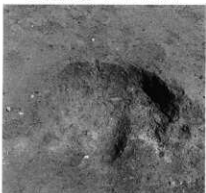
H20号住居址 完掘 (西より)



H20号住居址 カマド (西より)



H20号住居址 堀方 (西より)



H20号住居址 カマド堀方 (西より)



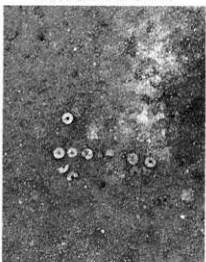
H19号住居址 遺物出土状況 (南より)



H19号住居址 白玉 (西より)



H19号住居址 完掘 (南より)



H19号住居址 白玉 (北より)



H19号住居址 堀方 (南より)



H19号住居址 カマド堀方 (南より)



H21号住居址 完掘 (東より)



H21号住居址 堀方 (南より)



H22号住居址 完掘 (南より)



H22号住居址 カマド (南より)



H22号住居址 堀方 (南より)



H22号住居址 カマド堀方 (南より)



H23号住居址 カマド (南より)



H23号住居址 カマド (南より)



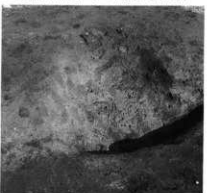
H23号住居址 堀方 (南より)



H23号住居址 カマド芯材 (西より)



H24号住居址 カマド (東より)



H23号住居址 カマド堀方 (西より)



H24号住居址 カマド (南より)



H24号住居址 完掘 (南より)



H24号住居址 カマド (西より)



H24号住居址 カマド脇方 (東より)



H24号住居址 カマド芯材 (南より)



H24号住居址 堀方 (西より)



H25号住居址 完割 (南より)



H25号住居址 カマド芯材 (南より)



H25号住居址 堀方 (北より)



H25号住居址 カマド堀方 (南より)



H26号住居址 完割 (南西より)



H25号住居址 遺物出土状況 (北より)



H26号住居址 カマド (南より)



H26号住居址南側 完掘 (南より)



H26号住居址 カマド (南より)



H27号住居址 完掘 (南より)



H26号住居址 カマド廻方 (南より)



H27号住居址 カマド (南より)



H27号住居址 廻方 (南より)



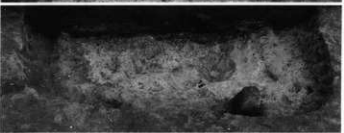
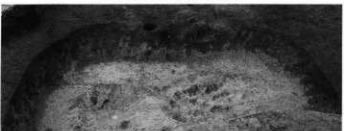
H27号住居址 カマド廻方 (南より)



H27号住居址 完掘 (南より)



H28号住居址 完掘 (南より)



H28号住居址 縦方 (南より)



H27号住居址 礫物石出土状況



H28号住居址 カマド (南より)



H28号住居址 カマド遺物出土状況(北より)



H28号住居址 カマド縦方 (南より)



H29号住居址 完掘（北より）



H29号住居址 渠方（北より）



H30号住居址 完掘（南より）



H30号住居址 カマド遺物出土状況 (南より)



H30号住居址 遺物出土状況 (東より)



H30号住居址 堀方 (南より)



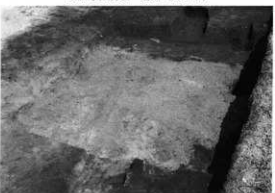
H30号住居址 カマド (南より)



H31号住居址 堀方 (南より)



H30号住居址 カマド堀方 (南より)



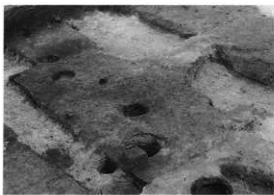
H31号住居址 堀方 (南より)



H31号住居址 カマド (南より)



H32号住居址 西側完掘 (南より)



H32号住居址 東側完掘 (西より)



H32号住居址 西側掘方 (南より)



H32号住居址 東側掘方 (西南より)



H32号住居址 炉 (西より)



H32号住居址 甕5



H33号住居址 完掘 (南より)



H33号住居址 掘方 (南より)



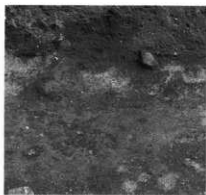
H34号住居址 完掘 (南より)



H34号住居址 掘方 (南より)



H34号住居址 煙道掘方 (東より)



H34号住居址 カマド (南より)



H34号住居址 カマド掘方 (南より)



H34号住居址 カマド煙道 (南より)



H34号住居址 煙道掘方 (南より)



H35号住居址 IV区完掘(南より)



H35号住居址 IV区遺物出土状況(東より)



H35号住居址 IV区廻方(南より)



H35号住居址 窠9(北より)



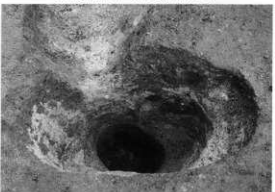
H35号住居址 II区完掘(南より)



H35号住居址 II区完掘(南より)



H35号住居址 II区廻方(南より)



H35号住居址 主柱穴P1(西より)



H36号住居址 完掘 (南より)



H36号住居址 カマド (南より)



H36号住居址 カマド堀方 (南より)



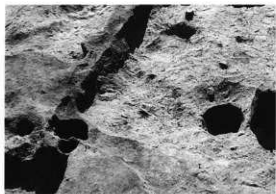
H36号住居址 カマド (北より)



H36号住居址 堀方 (南より)



H37号住居址 完掘(東より)



H38号住居址 完掘(東より)



H37号住居址 掘方(東より)



H39号住居址 カマド(南より)



H39号住居址 完掘(西より)



H39号住居址 カマド(北東より)



H39号住居址 カマド(東より)



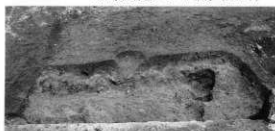
H39号住居址 竈方(西より)



H39号住居址 カマド廻方(西より)



H40号住居址 完掘(南より)



H40号住居址 竈方(南より)





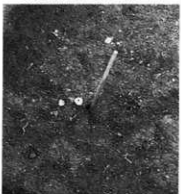
H40号住居址 完掘(東より)



H40号住居址 遺物出土状況(東より)



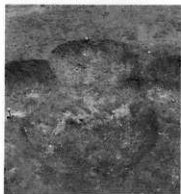
H40号住居址 カマド(南より)



H40号住居址 白玉(東より)



H40号住居址 遺物出土状況(東より)



H40号住居址 カマド掘方(南より)



H42号住居址 カマド(南より)



H42号住居址 カマド掘方(南より)



H42号住居址 カマド(東より)



H42号住居址 カマド(南より)



H42号住居址 完掘 (南より)



H43号住居址 住居址 (南より)



H42・H57・H58号住居址 堀方 (南より)



H43号住居址 堀方 (南より)



H45号住居址 完掘 (南より)



H45号住居址 堀方 (南より)



H44号住居址 突掘 (南より)



H44号住居址 遺物出土状況 (南西より)



H44号住居址 堀方 (南より)



H44号住居址 カマド (南より)



H44号住居址 カマド堀方 (南より)



H44号住居址 カマド堀方 (北より)



H46号住居址 北側完掘(南東より)



H46号住居址 北側掘方(東より)



H46号住居址 南側完掘(西より)



H46号住居址 南側掘方(西より)



H47号住居址 完掘(南より)



H47号住居址 カマド(南より)



H47号住居址 掘方(南より)



H47号住居址 カマド掘方(南より)



H48号住居址 完掘 (南より)



H48号住居址 カマド (南より)



H48号住居址 堀方 (南より)



H48号住居址 カマド堀方 (東より)



H49号住居址 完掘 (西より)



H49号住居址 堀方 (西より)



H50号住居址 完掘(南より)



H50号住居址 カマド(東より)



H50号住居址 堀方(南より)



H50号住居址 カマド堀方(南より)



H51号住居址 完掘(南より)



H51号住居址 カマド(南より)



H51号住居址 堀方(南より)



H51号住居址 カマド堀方(東より)



H52号住居址 完掘 (南より)



H52号住居址 掘方 (南より)



H52号住居址 完掘 (南東より)



H52号住居址 カマド (南より)



H52号住居址 石出土状況 (北西より)



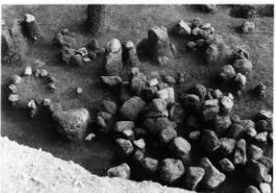
H52号住居址 カマド側方 (南より)



H54号住居址 杯4 (西より)



H54号住居址 糞14



H54号住居址 石出土状況 (北より)



H54号住居址 石出土状況 (南より)



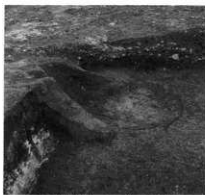
H54号住居址 石出土状況 (東より)



H54号住居址 完掘 (東より)



H54号住居址 堀方 (東より)



H54号住居址 カマド (西より)



H54号住居址 カマド (南より)



H54号住居址 カマド堀方 (南より)



H54号住居址 N区堀方 (南より)



H55号住居址 完掘 (南より)



H55号住居址 南側完掘 (南より)



H55号住居址 土器



H55号住居址南側 堀方 (南より)



H55号住居址北側 堀方 (東より)



H57号住居址 完掘 (南より)



H57号住居址 カマド (東より)



H57号住居址 カマド廻方 (東より)



H59号住居址 完掘 (南より)



H59号住居址 カマド (南より)



H59号住居址 廻方 (南より)



H59号住居址 カマド廻方 (南より)



H60号住居址 完掘(西より)



H60号住居址 カマド堀方(南より)



H60号住居址 堀方(西より)



H60号住居址 カマド堀方(南より)



H61号住居址 完掘(西より)



H61号住居址 カマド(北より)



H61号住居址 堀方(西より)



H61号住居址 カマド堀方(北より)



H62号住居址 完掘(東より)



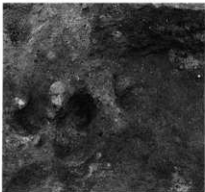
H62号住居址 竈方(西より)



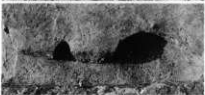
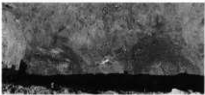
H64号住居址 完掘(南西より)



H62号住居址 カマド(南より)



H62号住居址 カマド廻方(南より)



H63号住居址 完掘・竈方(南東より)



H64号住居址 カマド(南東より)



H64号住居址 完掘(南西より)



H64号住居址 カマド堀方(南西より)



H64号住居址 甕



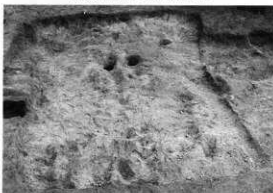
H65号住居址 完掘(北より)



H65号住居址 堀方(南より)



H66号住居址 完掘(北より)



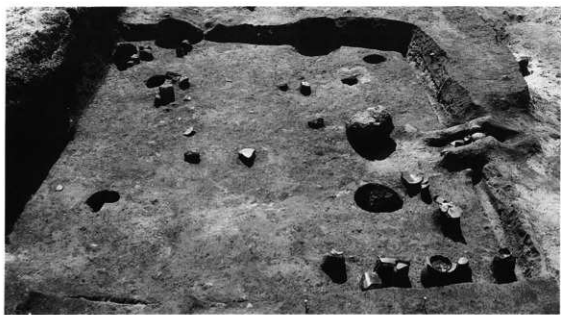
H66号住居址 堀方(北より)



H67号住居址 遺物出土状況(南より)



H67号住居址 カマド(南より)



H67号住居址 完掘(東より)



H67号住居址 遺物出土状況(東より)



H67号住居址 カマド堀方(南より)



H67号住居址 堀方(南より)



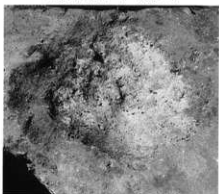
H68号住居址 完掘(北より)



H68号住居址 炉(北より)



H68号住居址 堀方(北より)



H68号住居址 炉堀方(北より)



H69号住居址 遺物出土状況(東より)



H69号住居址 遺物出土状況(南より)



H69号住居址 カマド(西より)



H69号住居址 遺物出土状況(南より)



H69号住居址 カマド(南より)



H69号住居址 完瀝(南より)



H69号住居址 カマド(南より)



H69号住居址 榎方(東より)



H69号住居址 カマド側方(南より)



H70号住居址 完掘 (南より)



H70号住居址 カマド (東より)



H70号住居址 側方 (南より)



H70号住居址 カマド側方 (南より)



H71号住居址 カマド (東南より)



H71号住居址 カマド (西より)



H71号住居址 側方 (東より)



H71号住居址 カマド側方 (西南より)



H72号住居址 完掘 (東より)



H72号住居址 掘方 (南より)



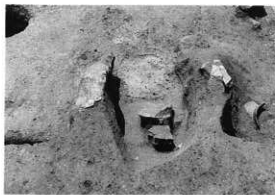
H73号住居址 完掘 (南より)



H73号住居址 遺物出土状況 (北より)



H73号住居址 壺 (南より)



H73号住居址 カマド (北より)



H73号住居址 カマド (南より)



H73号住居址 堀方 (南より)



H73号住居址 カマド堀方 (南より)



H75号住居址 完掘 (西より)



H75号住居址 堀方 (西より)



H76号住居址 完掘 (北より)



H76号住居址 堀方 (北より)



H74号住居址 完掘 (西より)



H74号住居址 掘方 (北より)



H74号住居址 炉 (南より)



H74号住居址 炉壁方



H78号住居址 カマド (南より)



H78号住居址 カマド (東より)



H78号住居址 完掘（南より）



H78号住居址 堀方（南より）



H78号住居址 カマド堀方（東より）



H79号住居址 完掘（北より）



H79号住居址 堀方（北より）



H80号住居址 炭出土状況（北より）



H80号住居址 完掘（北より）



H80号住居址 炭化物出土状況（北より）



H80号住居址 掘方（北より）



H81号住居址 完掘（東より）



H81号住居址 掘方（東より）



H83号住居址 完掘（南より）



H83号住居址 掘方（南より）



H82号住居址 遺物出土状況 (東より)



H82号住居址 遺物出土状況 (南より)



H82号住居址 完掘 (北より)



H82号住居址 遺物出土状況 (北より)



H82号住居址 扉方 (北より)



H82号住居址 カマド (西より)



H84号住居址 完掘 (東より)



H84号住居址 堀方 (東より)



H85号住居址 完掘 (北東より)



H85号住居址 堀方 (北より)



H86号住居址 完掘 (南より)



H86号住居址 カマド (東より)



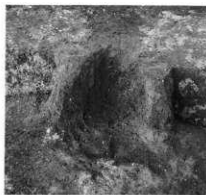
H86号住居址 堀方 (南より)



H86号住居址 カマド堀方 (東より)



H87号住居址 完掘（東より）



H87号住居址 カマド（南より）



H87号住居址 完掘（南より）



H87号住居址 旧カマド（南より）



H87号住居址 堀方（東より）



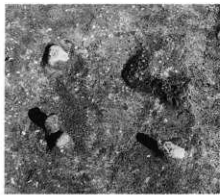
H87号住居址 新・旧カマド堀方（南より）



H87号住居址 堀方（南より）



H88号住居址 完掘(東より)



H88号住居址 炉(西より)



H88号住居址 堀方(東より)



H88号住居址 堀方(東より)



H89号住居址 完掘(北より)



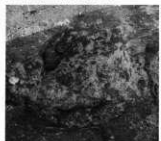
H89号住居址 完掘(西より)



H89号住居址 堀方(北より)



H89号住居址 カマド(東より)



H89号住居址 カマド堀方(西より)



H90号住居址 完掘（西より）



H90号住居址 遺物出土状況（東より）



H90号住居址 遺物出土状況（北より）



H90号住居址 遺物出土状況（西より）



H90号住居址 遺物出土状況（東より）



H90号住居址 炉 (南より)



H90号住居址 炉堀方 (東より)



H90号住居址 堀方 (西より)



H91号住居址 炉 (東より)



H91号住居址 完掘 (東より)



H91号住居址 炉堀方 (西より)



H91号住居址 遺物出土状況(北より)



H91号住居址 堀方(西より)



H92号住居址 完掘(北より)



H92号住居址 完掘(西より)



H92号住居址 堀方(西より)



H93号住居址 完掘(西より)



H92号住居址 遺物出土状況(東より)



H93号住居址 完掘(東より)



H93号住居址 堀方(東より)



H94号住居址 完掘 (東より)



H94号住居址 掘方 (東より)



H94号住居址 完掘 (北より)



H94号住居址 掘方 (北より)



西一本橋遺跡(3次) 全景 (東より)



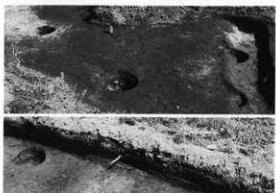
F1号掘立柱建物址 (東より)



F1号掘立柱建物址 (東より)



F2・F3号掘立柱建物址 (東より)



F5号掘立柱建物址 (南より)



F7号掘立柱建物址 (西より)



F8号掘立柱建物址 (南より)



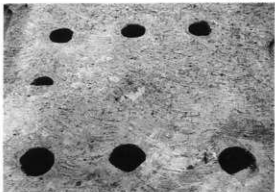
F9号掘立柱建物址 (南より)



F11号掘立柱建物址 (南より)



F 12号掘立柱建物址 (南西より)



F 13号掘立柱建物址 (北より)



F 16号掘立柱建物址 (南より)



F 17号掘立柱建物址 (南より)



F 18号掘立柱建物址 (南より)



F19号掘立柱建物址 (南より)



F20号掘立柱建物址 (北より)



F21号掘立柱建物址 (東より)



F22号掘立柱建物址 (北より)



F24号掘立柱建物址 (北より)



F28号掘立柱建物址 (南より)



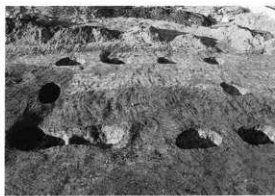
F25号掘立柱建物址 (南より)



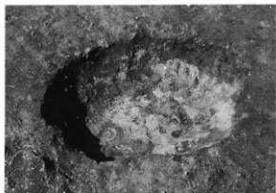
F29号掘立柱建物址 (北より)



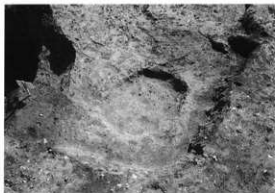
F31号掘立柱建物址 (南より)



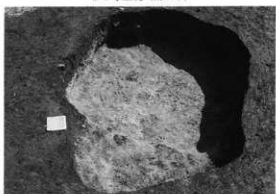
F32号掘立柱建物址 (南より)



D1号土坑 (南より)



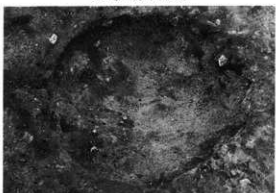
D3号土坑 (西より)



D5号土坑 (北より)



D6・D7号土坑 (西より)



D8号土坑 (北より)



D10号土坑 (北より)



D11号土坑 (東より)



D12号土坑 セクション (西より)



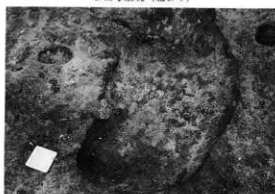
D12号土坑 (西より)



D13号土坑 (北より)



D14号土坑 (東より)



D15号土坑 (北より)



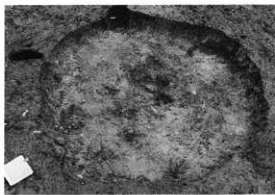
D16号土坑 (北より)



D17号土坑 (北西より)



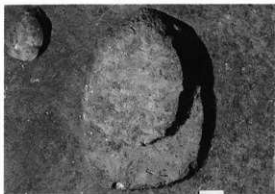
D18号土坑 (西より)



D19号土坑 (北より)



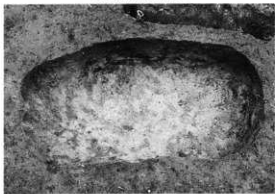
D20号土坑 (南より)



D21号土坑 (南より)



D22号土坑 (西より)



D23号土坑 (南より)



D24号土坑 (南より)



D25号土坑 (北より)



D26号土坑 (南より)



D27号土坑 (南より)



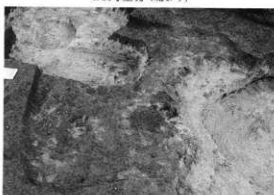
D29号土坑 (北より)



D30号土坑 (北より)



D31号土坑 (北より)



D32号土坑 (北より)



D33号土坑 (西より)



D34号土坑 (南より)



D35号土坑 (東より)



D36号土坑 (北より)



D37号土坑 (南より)



D38号土坑 (東より)



D39号土坑 (北より)



D40・D41号土坑 (北より)



D42号土坑 (北より)



D43号土坑 (西より)



D44号土坑 (南より)



D45号土坑 セクション (北より)



D45号土坑 (北より)



D47・D48号土坑 (北より)



D49号土坑 (北より)



D51号土坑 (北より)



D46号土坑 (北より)



D50号土坑 (東より)



D52号土坑 (西より)



D 2号土坑 (東より)



D 2号土坑 (東より)



D 2号土坑 (東より)



D 2号土坑 (西より)



D 2号土坑 (南より)



D 2号土坑 (南より)



D 2号土坑 井戸枠材



D 2号土坑 (西より)



D9号土坑 セクション（東より）



D9号土坑（北西より）



D9号土坑（西より）



D9号土坑（東より）



M1号溝（東より）



M1号溝（北より）



M1号溝（北より）



M2号溝（南より）



M3号溝 (南東より)



M4号溝 (北より)



M7号溝 (北より)



M8号溝 (南より)



M9号溝 (東より)



M9号溝 (西より)



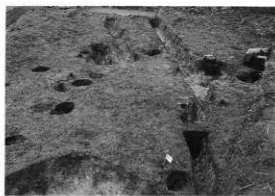
M9号溝 セクション (西より)



M10号溝 (北より)



M11号溝 (西より)



M12・13号溝 (東より)



M6号溝 遺物出土状況 (北より)



M6号溝 遺物出土状況 (北より)



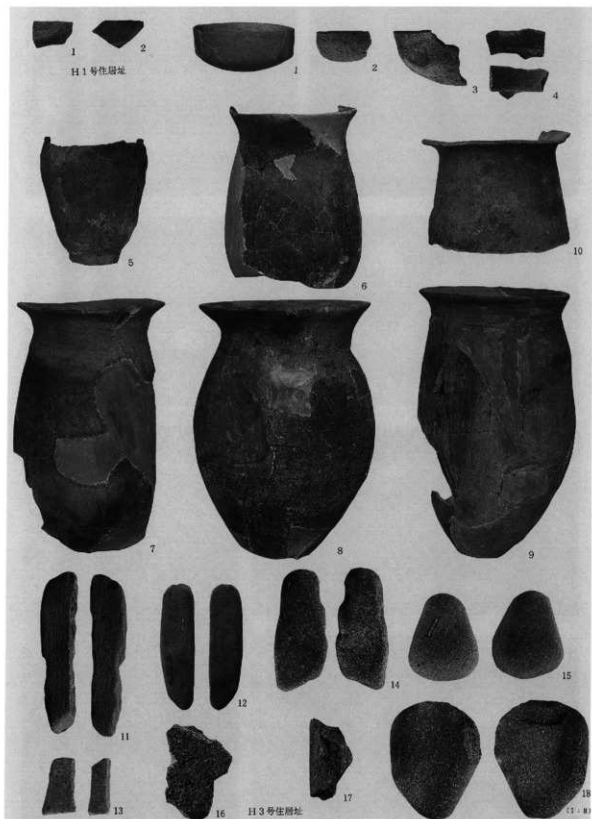
M6号溝 (南より)

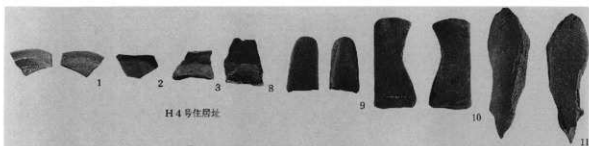


M6号溝 Dあ2附近 (北より)

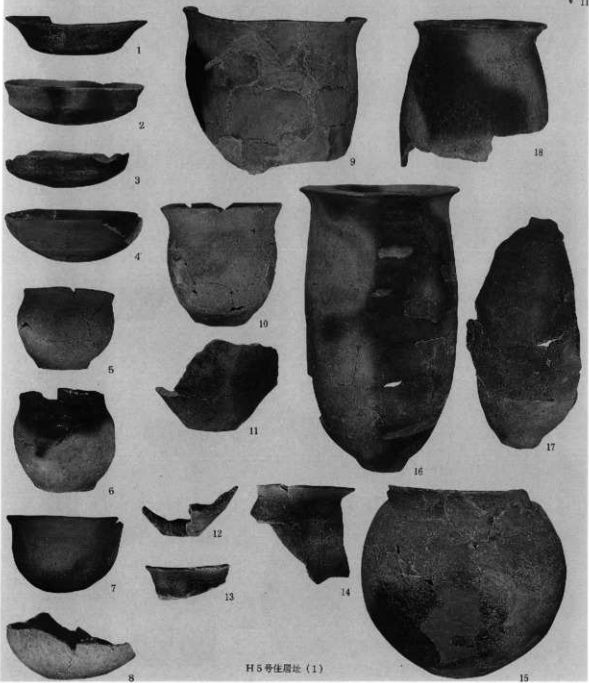


M6号溝 (東より)

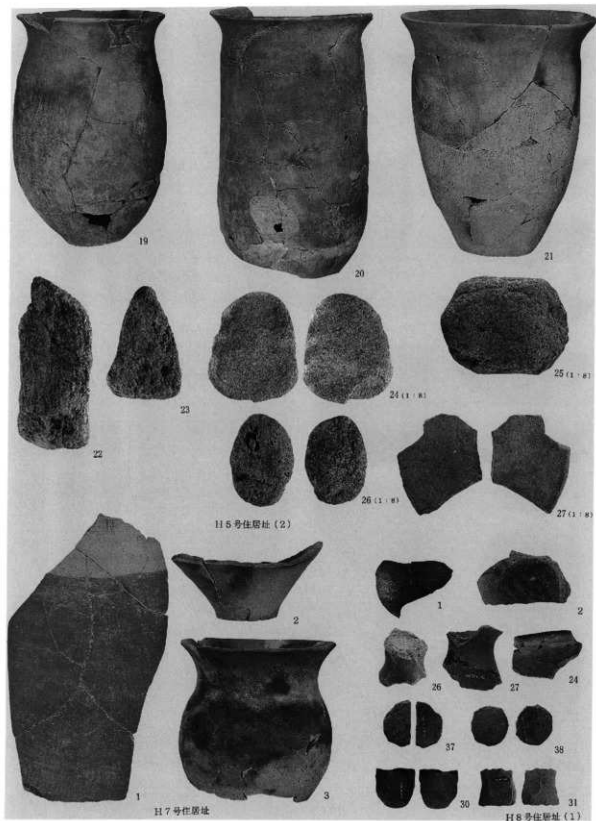


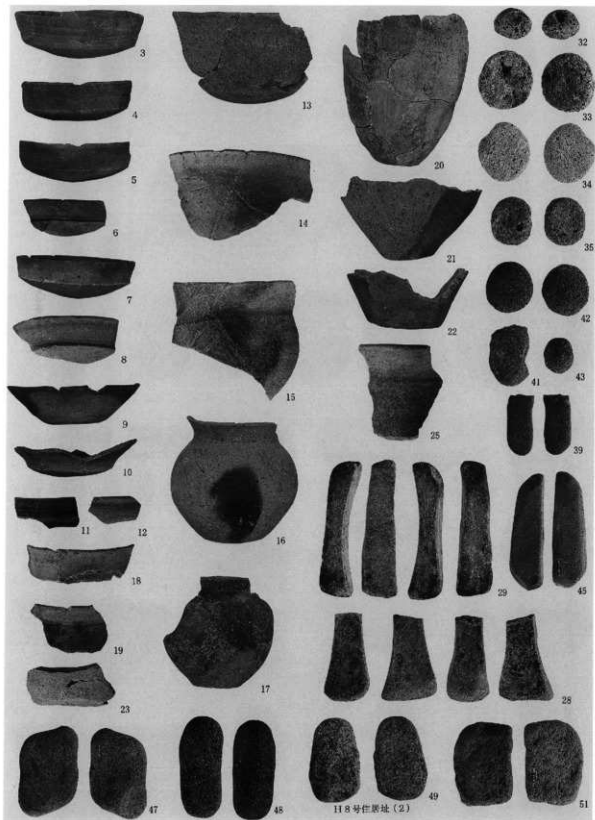


H 4号住居址

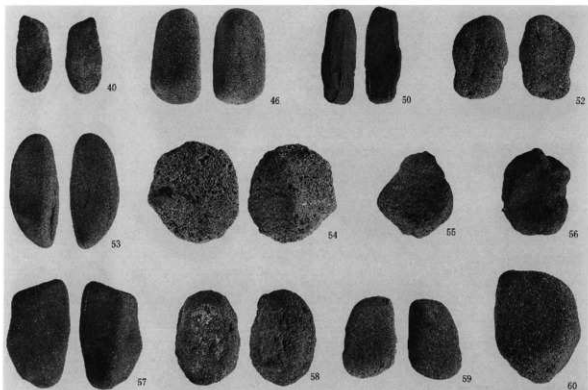


H 5号住居址 (1)

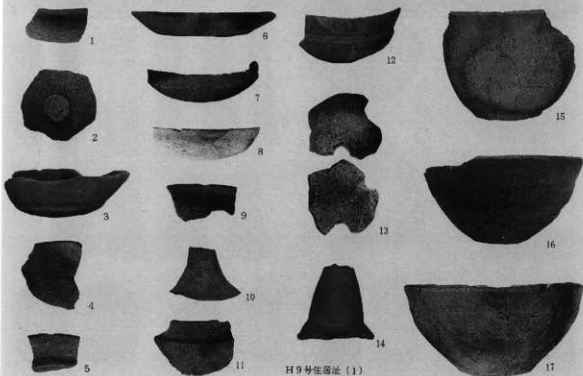




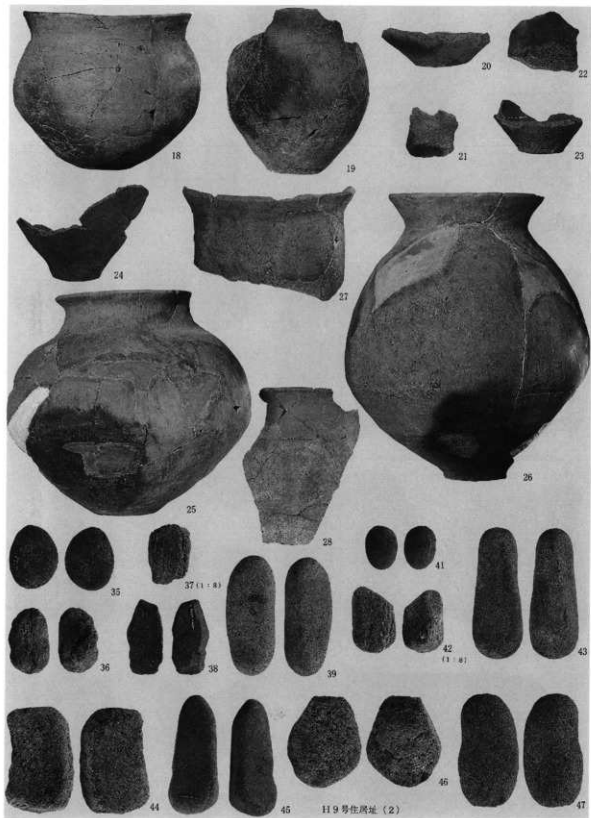
118号住居址(2)



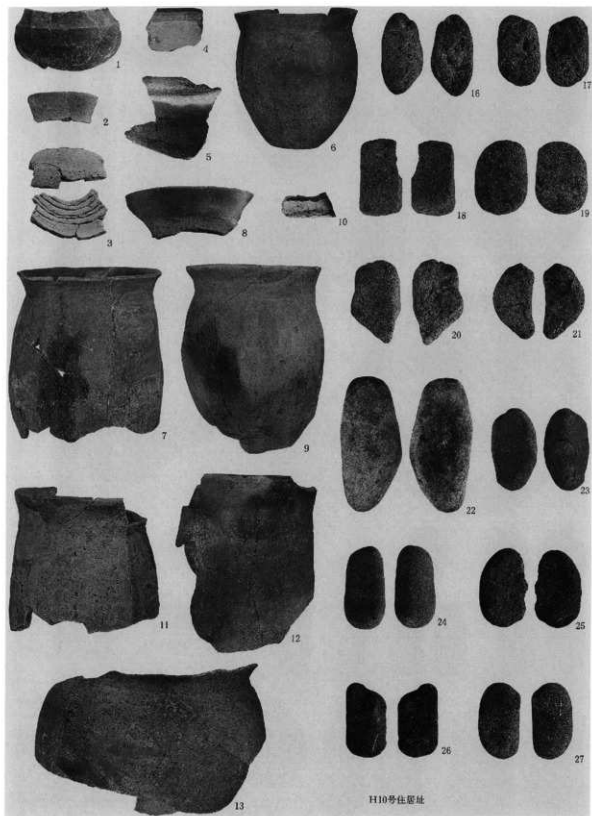
H 8号住居址 (3)



H 9号住居址 (1)



H 9号住居址(2)

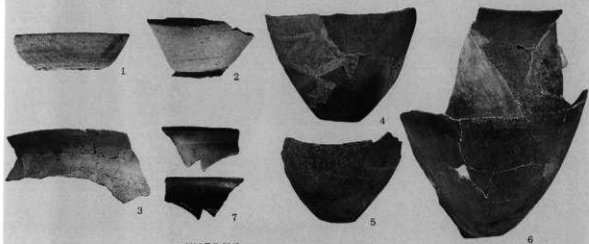


H10号住居址



H11号住居址

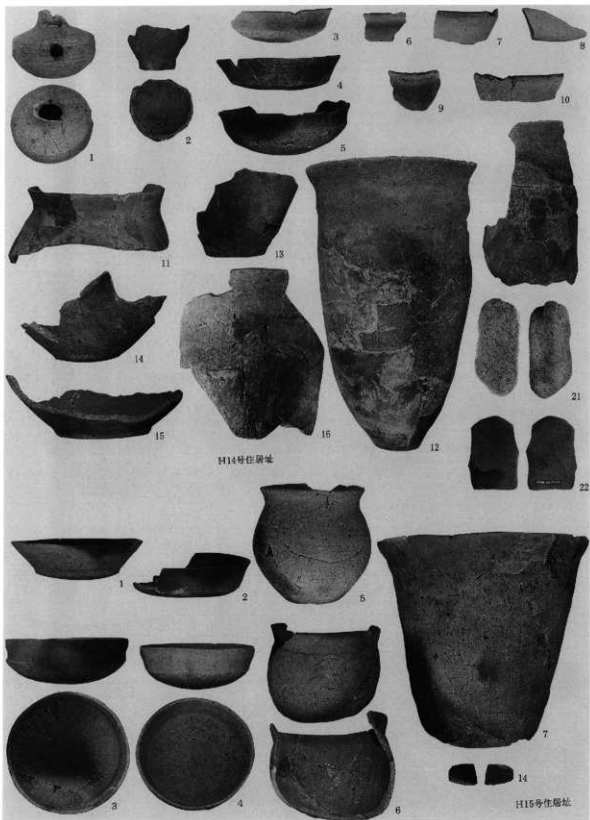
6 (1+8)

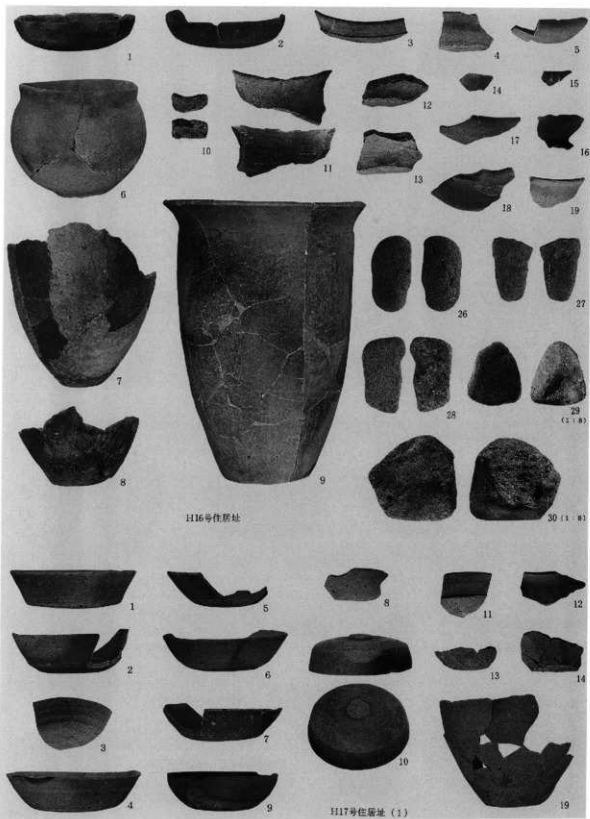


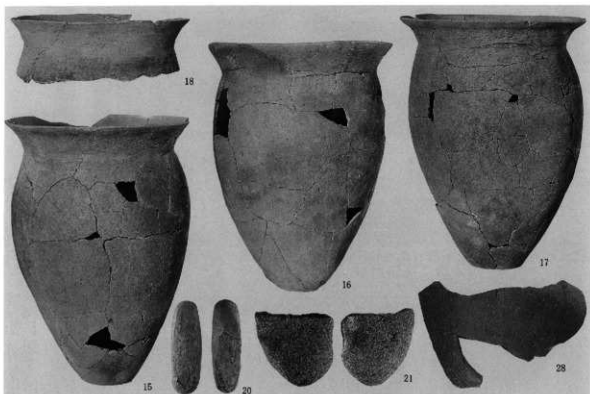
H12号住居址



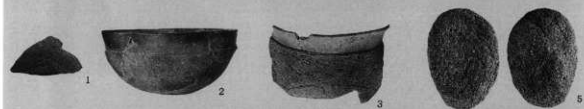
H13号住居址







H17号住居址 (2)



H18号住居址



H19号住居址



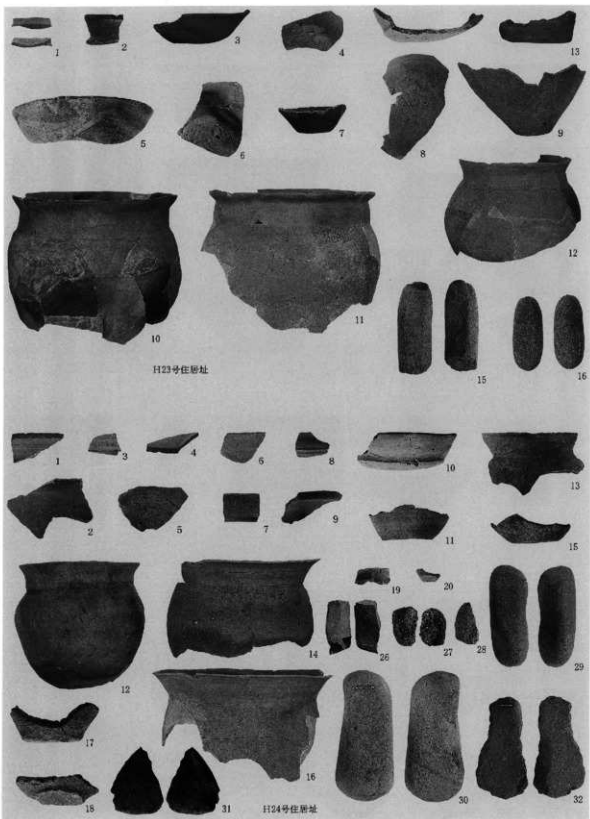
H20号住居址

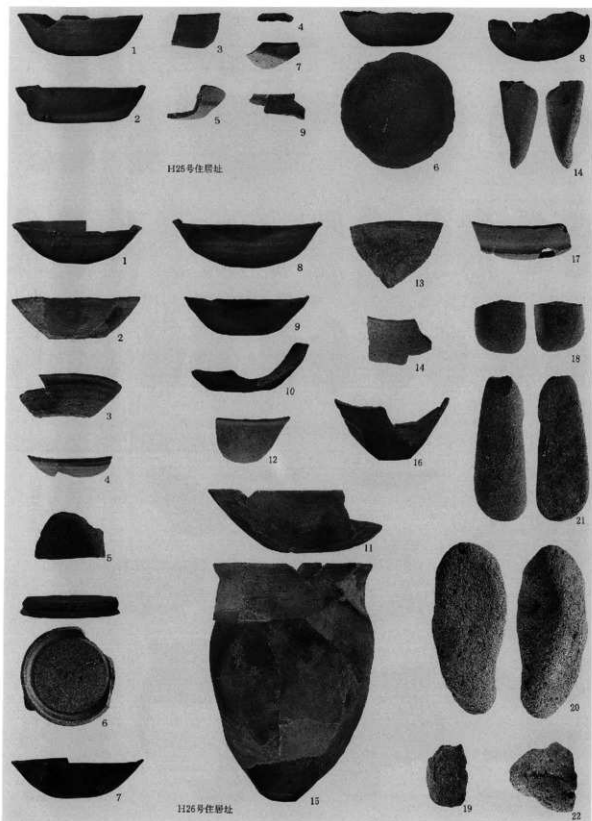


H21号住居址



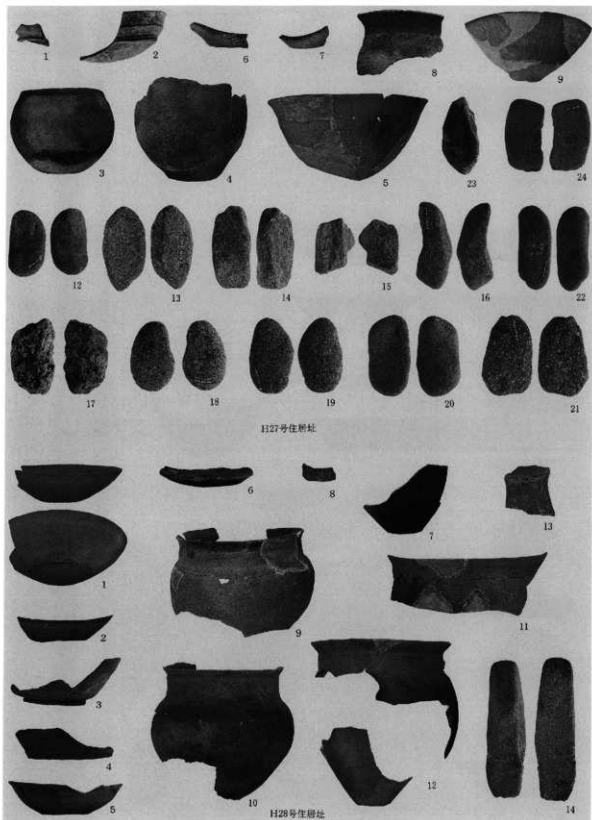
H22号住居址

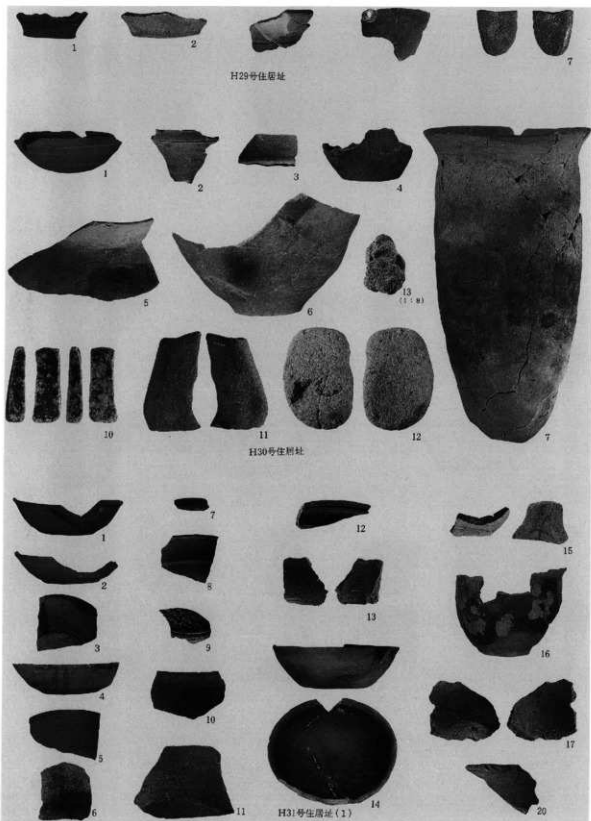


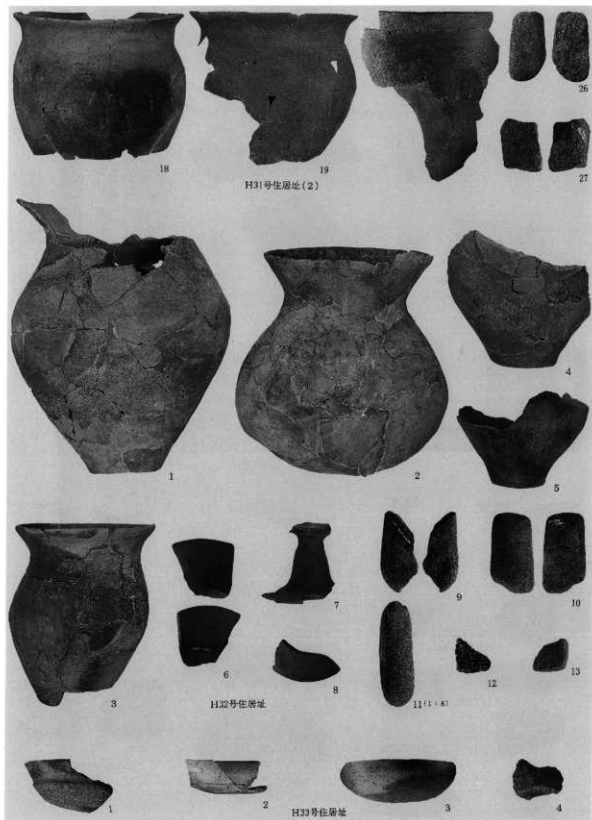


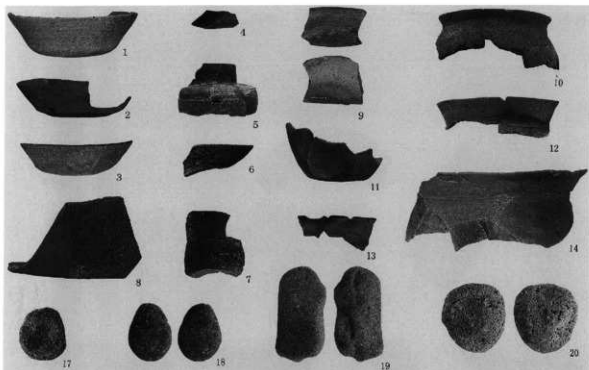
H25号住居址

H26号住居址





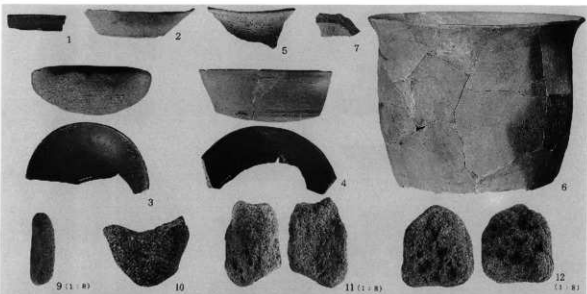




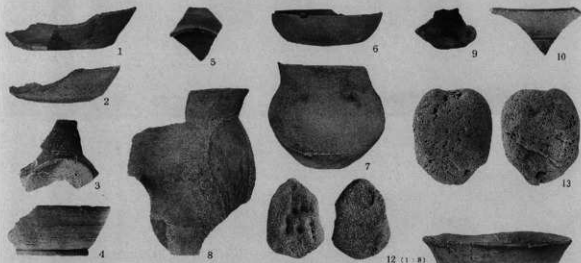
H34号住居址



H35号住居址



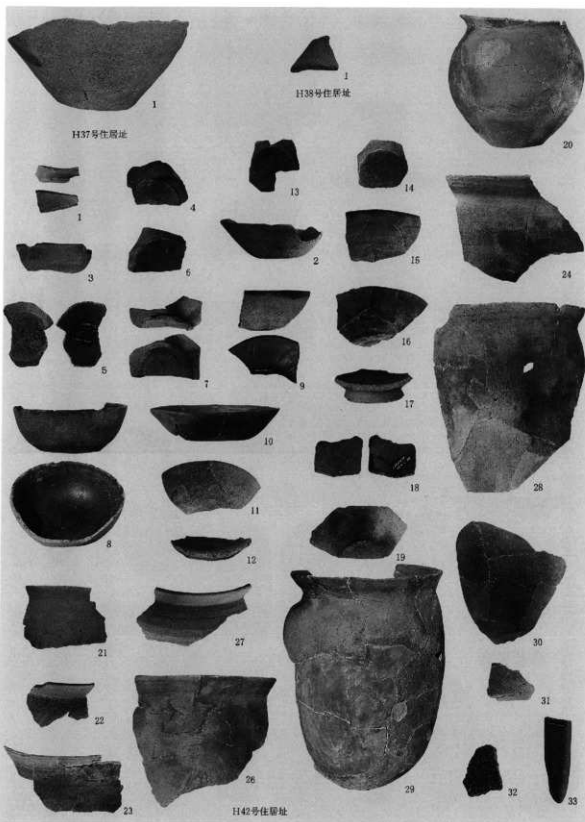
H36号住居址

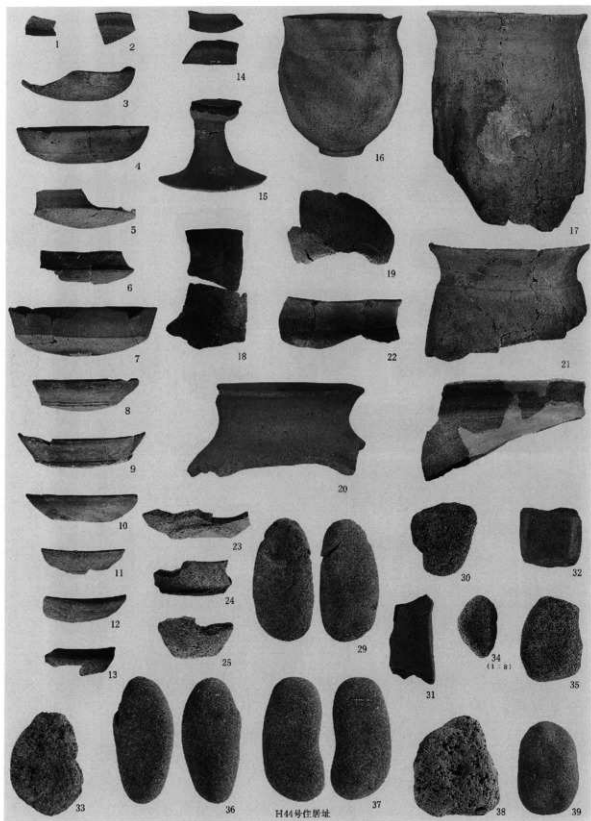


H39号住居址



H40号住居址





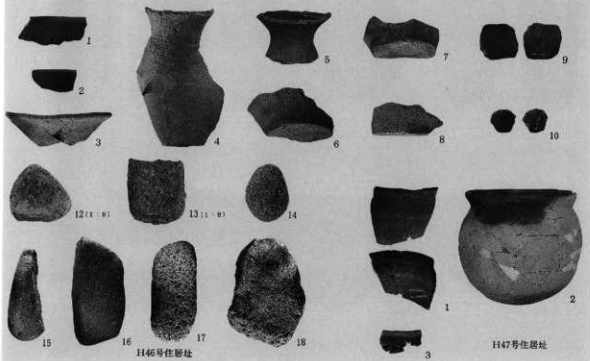
H44号住居址



H43号住居址

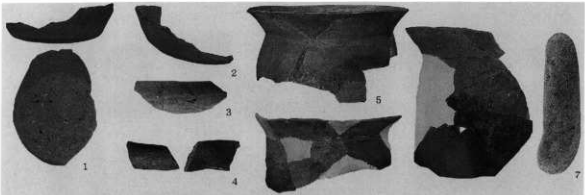


H45号住居址

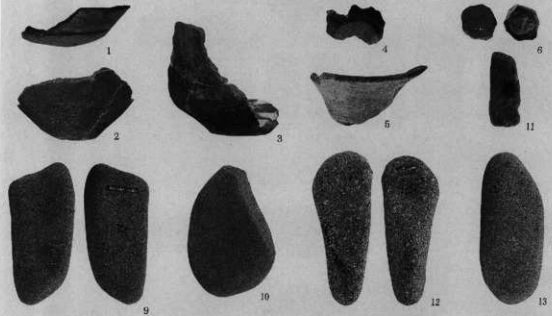


H46号住居址

H47号住居址



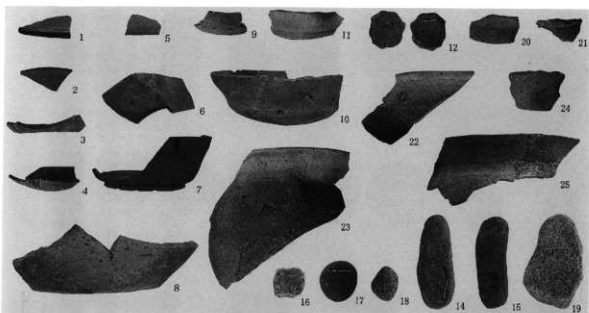
H48号住居址



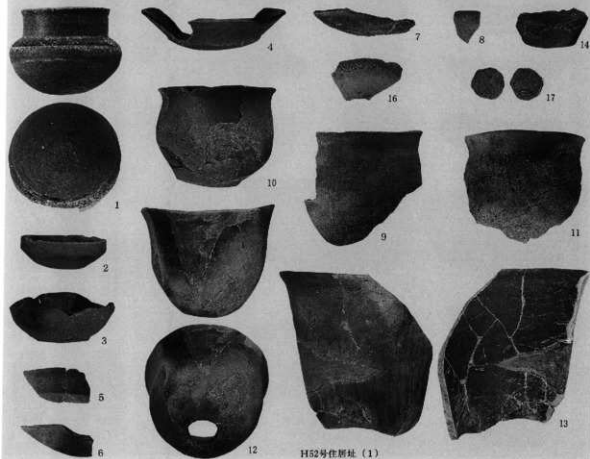
H49号住居址



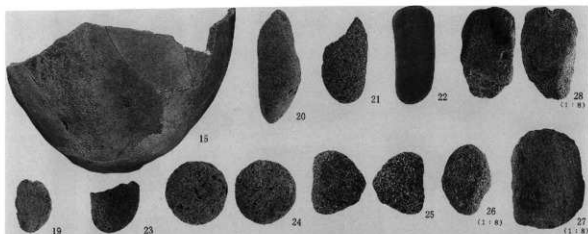
H50号住居址



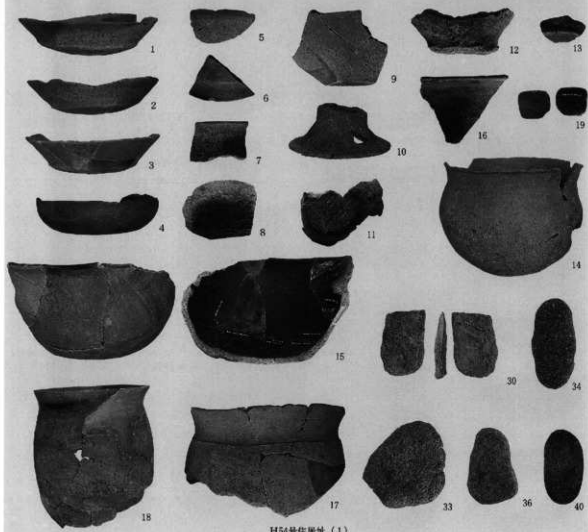
H51号住居址



H52号住居址 (1)



H52号住居址(2)

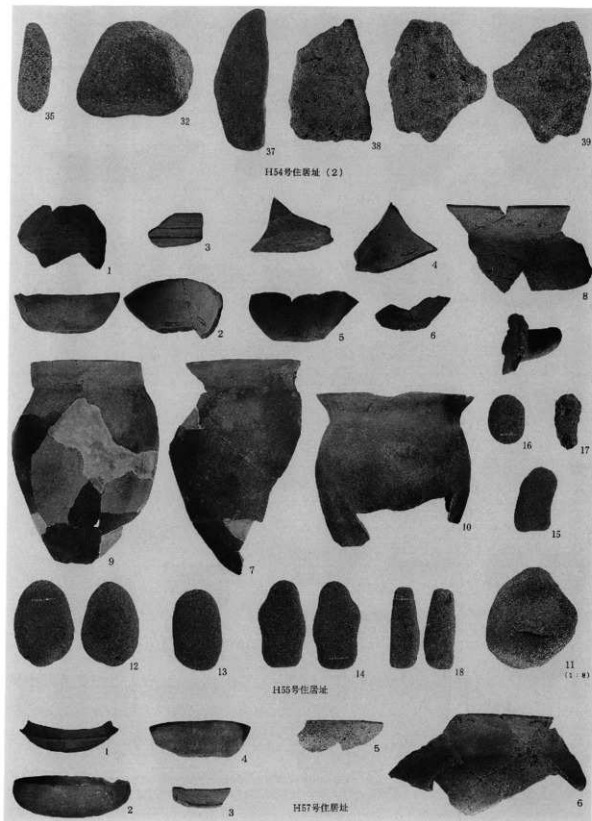


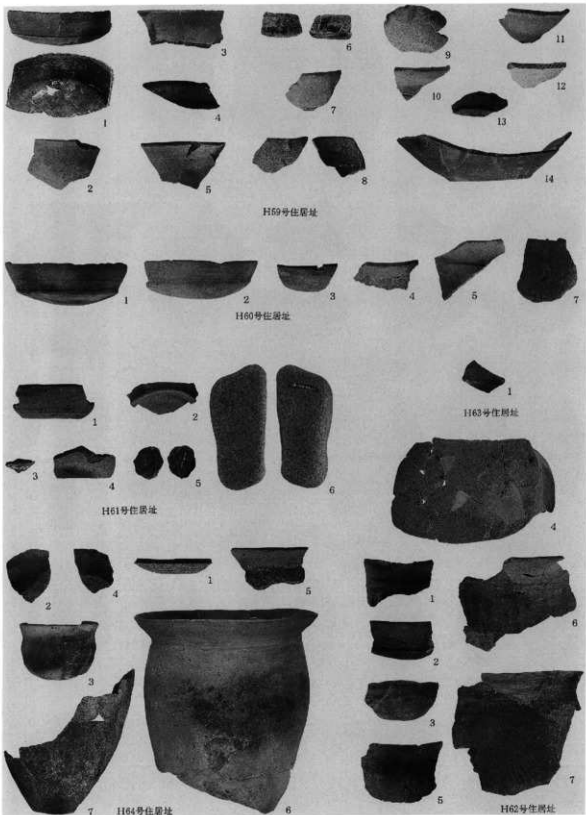
H54号住居址(1)

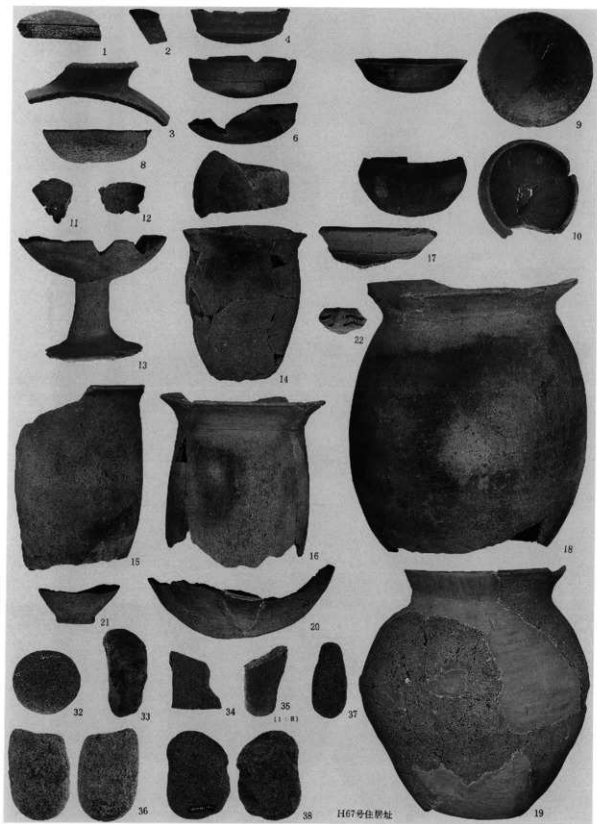
H54号住居址 (2)

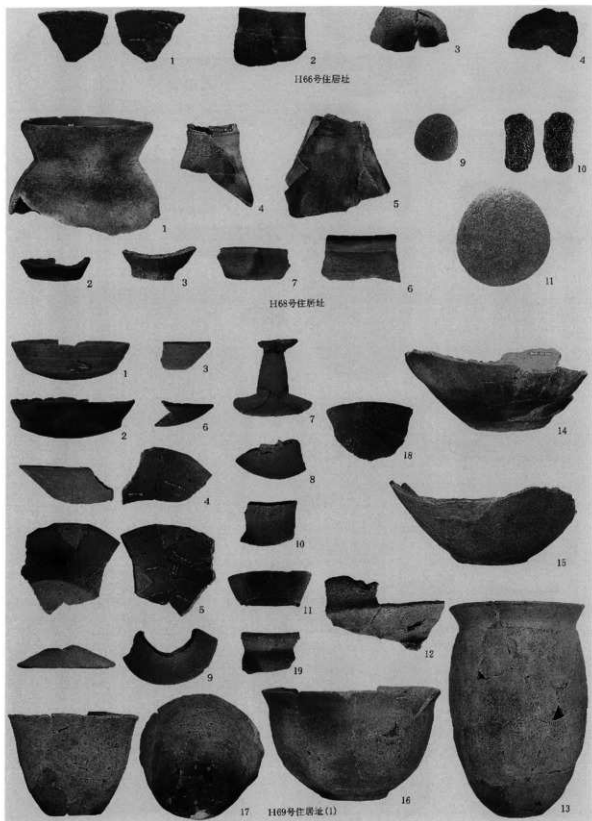
H55号住居址

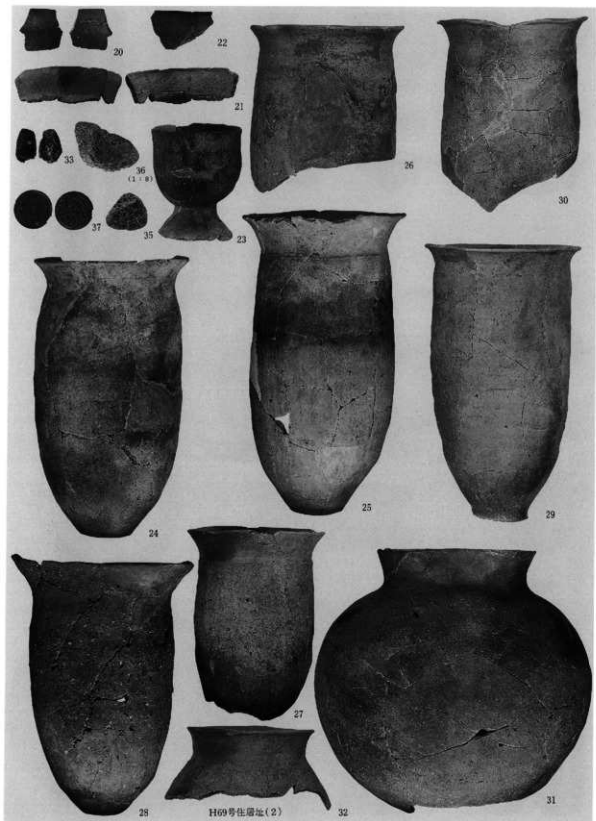
H57号住居址

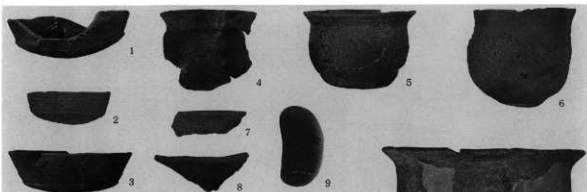








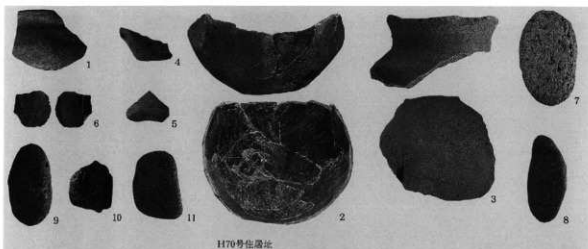




H71号住居址



H73号住居址



H70号住居址



H72号住居址



H74号住居址

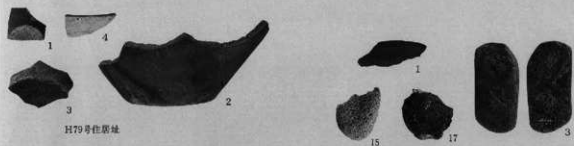


H75号住居址

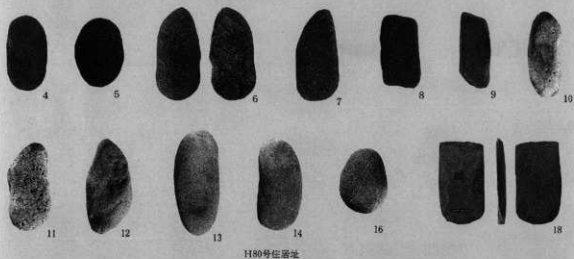
H76号住居址



H78号住居址



H79号住居址



H80号住居址



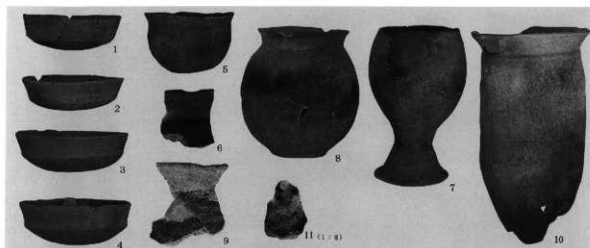
H83号住居址



H84号住居址



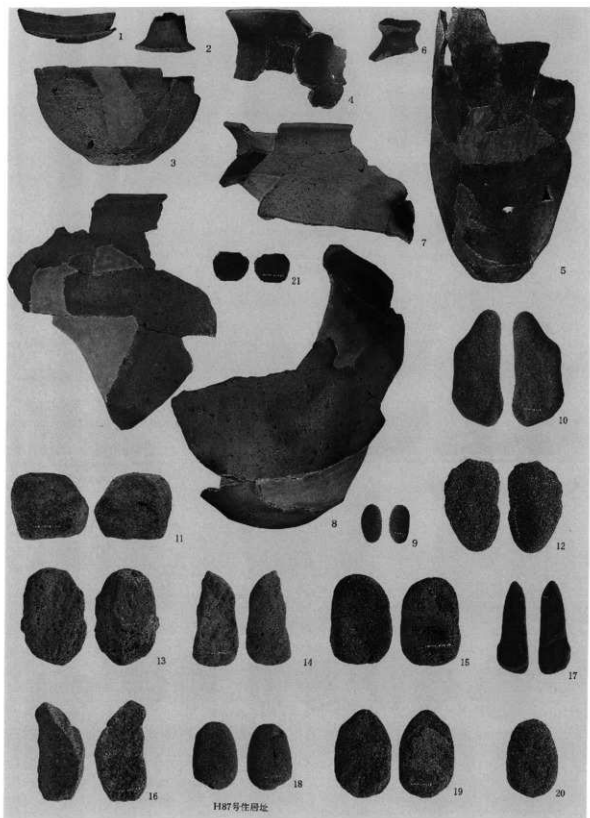
H85号住居址



H82号住居址



H86号住居址





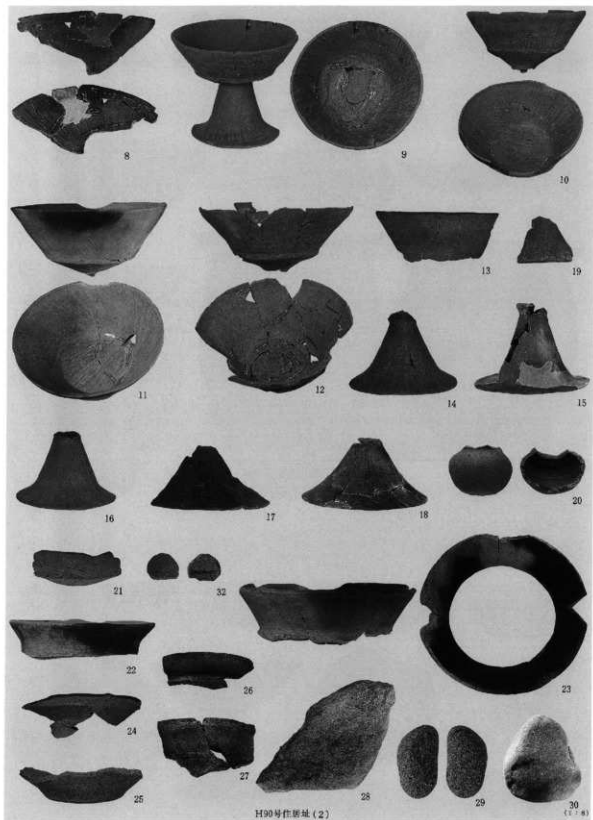
H88号住居址



H89号住居址



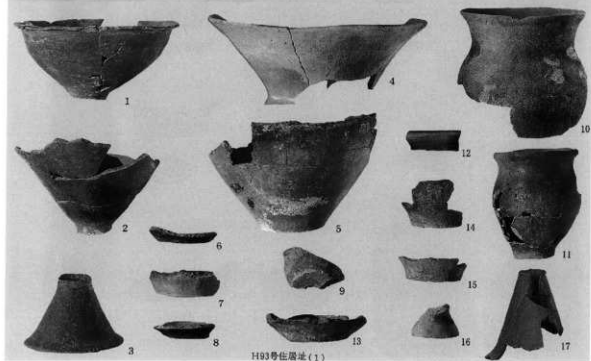
H90号住居址(1)



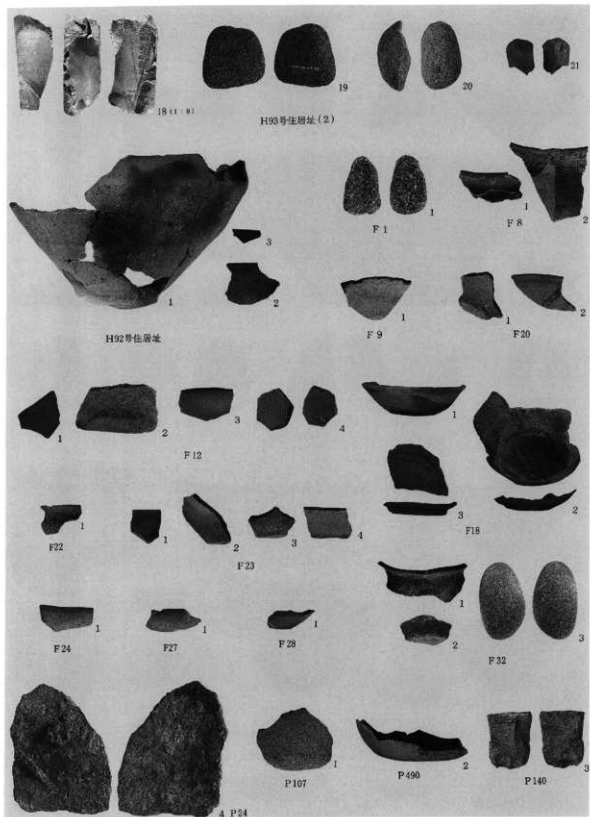
H90号住居址(2)

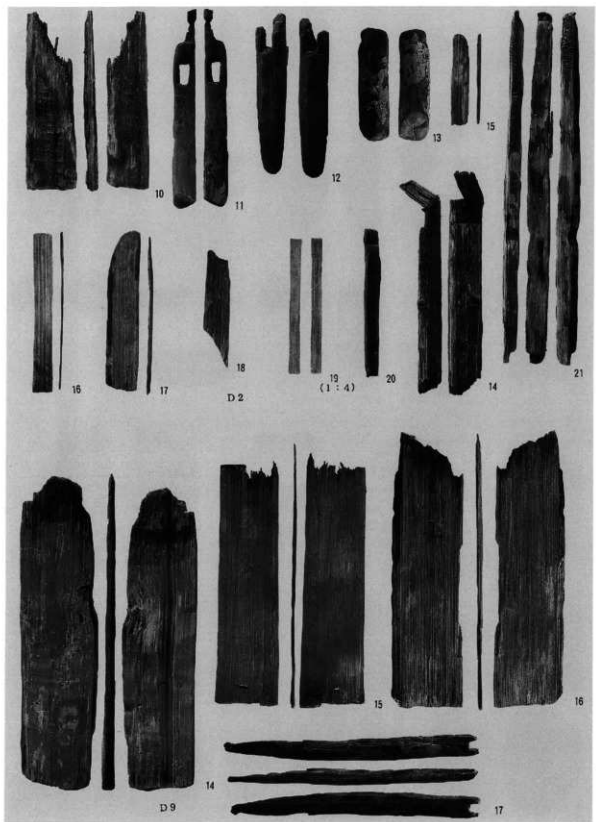


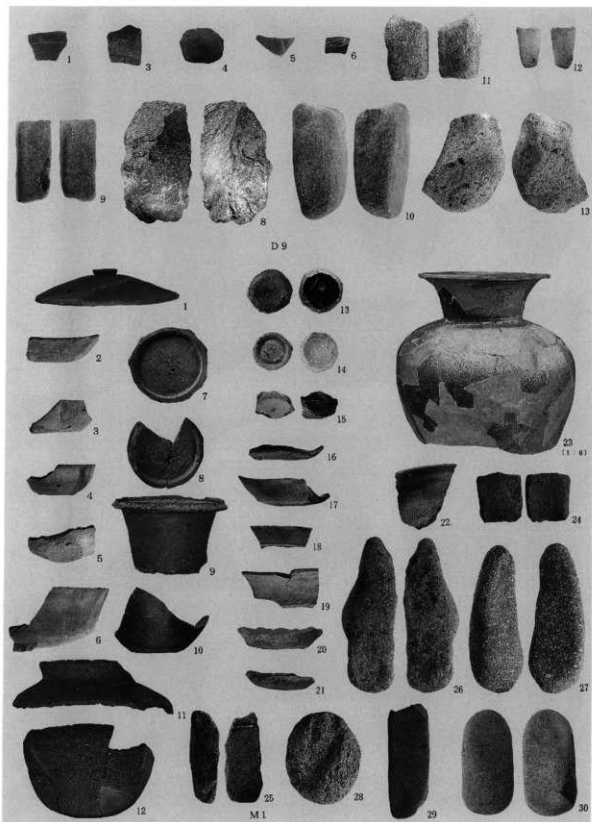
H91号生厝址

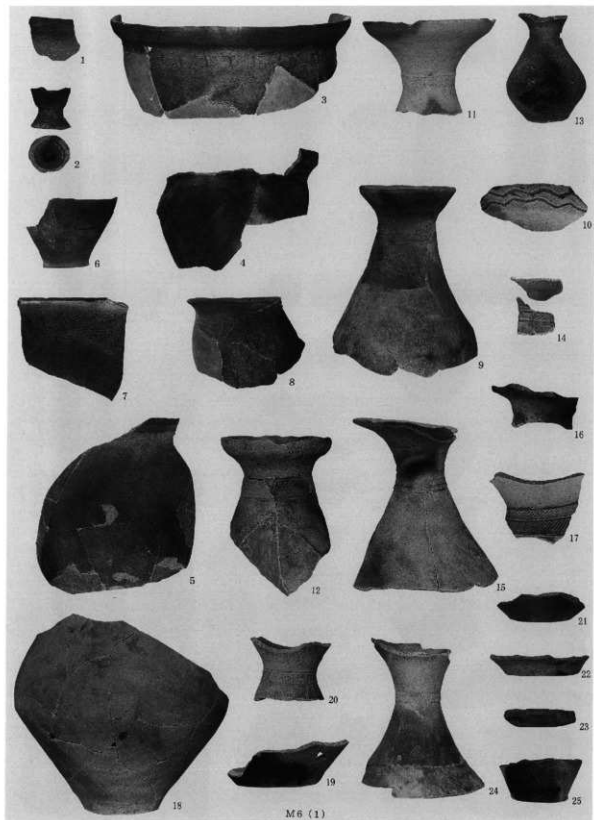


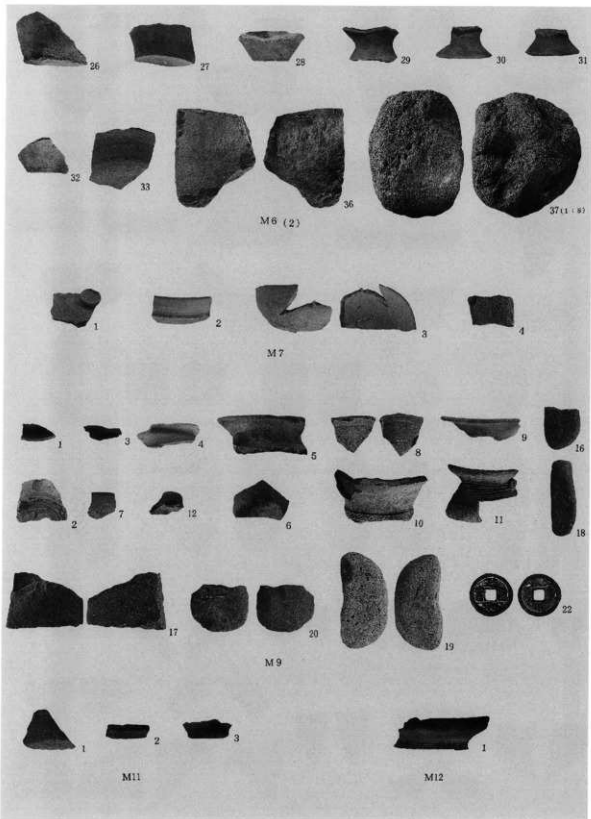
H93号生厝址(1)

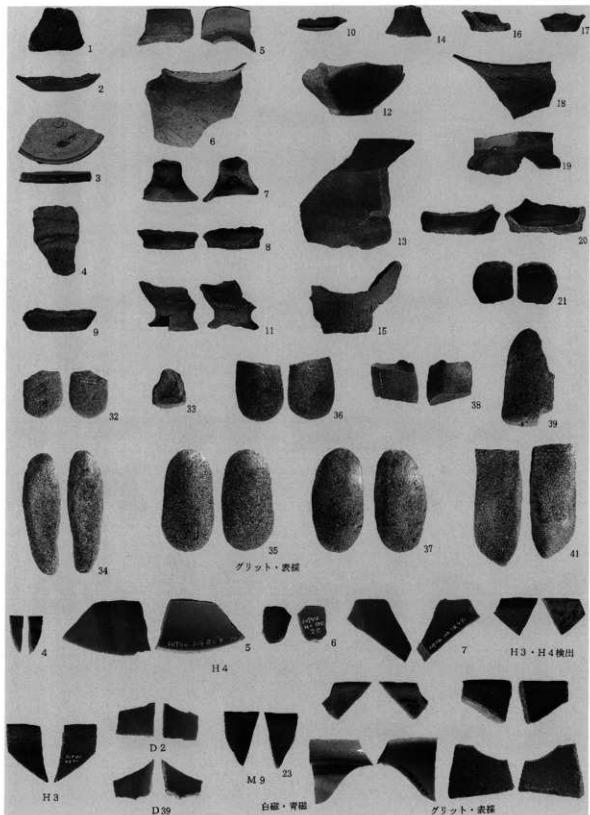


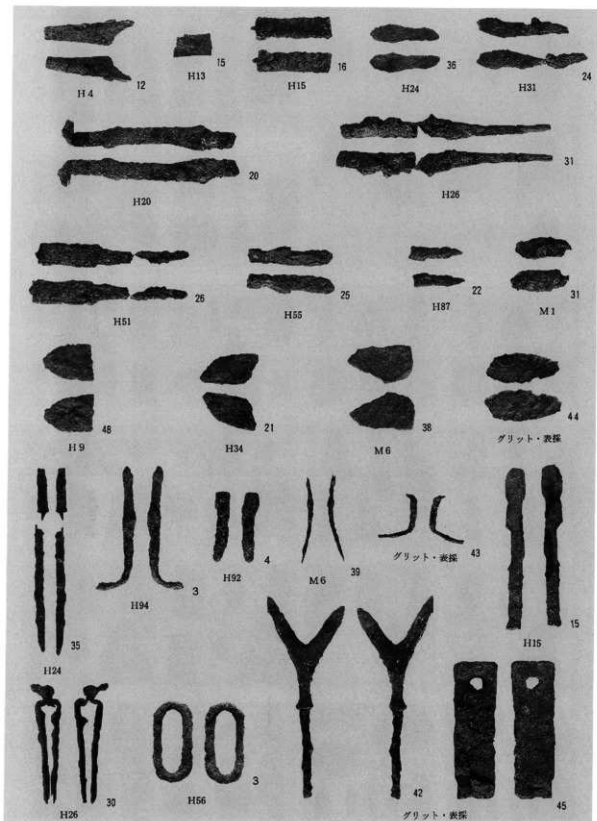


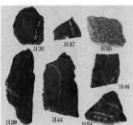
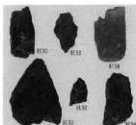
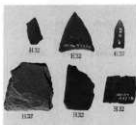
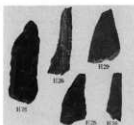
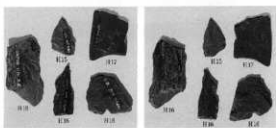
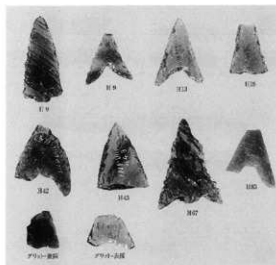


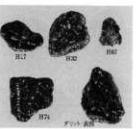
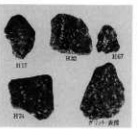
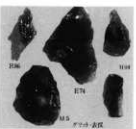
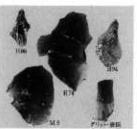
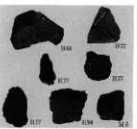
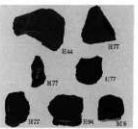
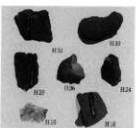
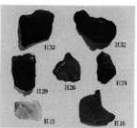
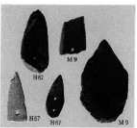
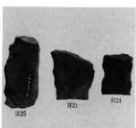
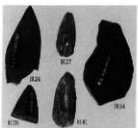
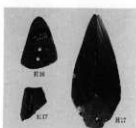
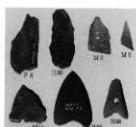
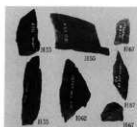
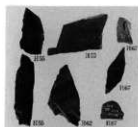






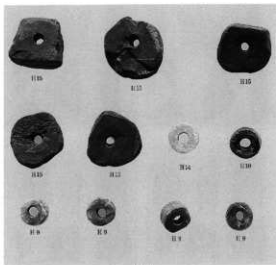




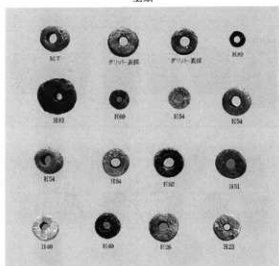




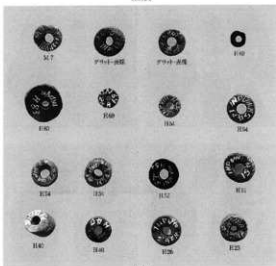
玉類



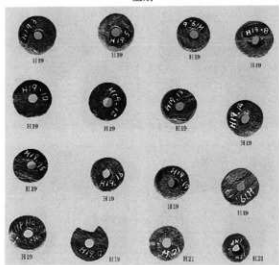
玉類



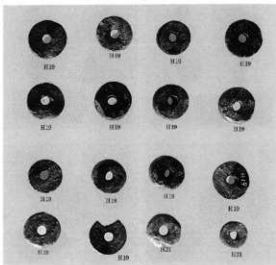
玉類



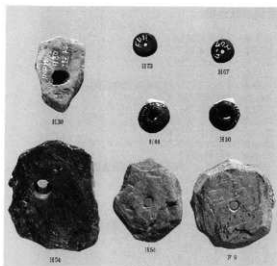
玉類



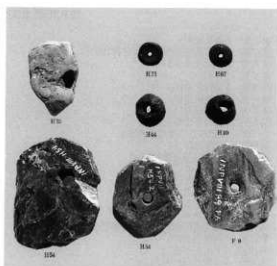
玉類



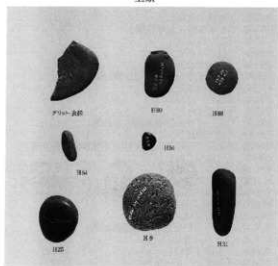
玉類



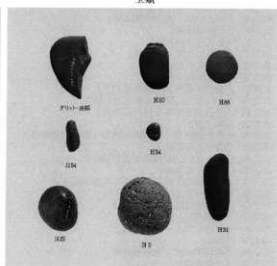
玉類



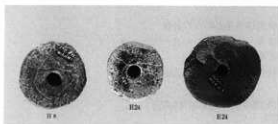
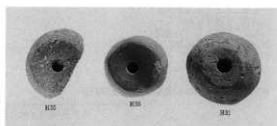
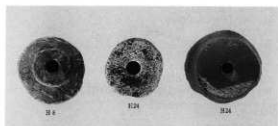
玉類



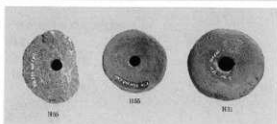
ミガキ石



ミガキ石



紡錘車 (1:2)



紡錘車 (1:2)

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | | | |
|------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 第1集 | 【金井城跡】 | 第55集 | 【番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ】 |
| 第2集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1990】 | 第56集 | 【聖原遺跡Ⅹ】 |
| 第3集 | 【石南空址Ⅲ】 | 第57集 | 【高脚町遺跡Ⅱ】 |
| 第4集 | 【大木付】 | 第58集 | 【卜穴遺跡Ⅰ】 |
| 第5集 | 【立科F遺跡】 | 第59集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1996】 |
| 第6集 | 【上曾根遺跡】 | 第60集 | 【曾根城遺跡Ⅱ】 |
| 第7集 | 【三貫畑遺跡】 | 第61集 | 【柳地遺跡】 |
| 第8集 | 【瀬の下遺跡】 | 第62集 | 【野馬久保遺跡Ⅱ】 |
| 第9集 | 【國道141号線関係遺跡】 | 第63集 | 【西人久保遺跡Ⅲ】 |
| 第10集 | 【聖原遺跡Ⅱ】 | 第64集 | 【梨の木遺跡Ⅳ】 |
| 第11集 | 【赤鹿垣外遺跡】 | 第65集 | 【中宿遺跡】 |
| 第12集 | 【若宮遺跡Ⅱ】 | 第66集 | 【中西ノ久保遺跡Ⅱ・仲田遺跡・寺畑遺跡Ⅱ】 |
| 第13集 | 【上高山遺跡Ⅱ】 | 第67集 | 【供養塚遺跡】 |
| 第14集 | 【栗毛坂遺跡】 | 第68集 | 【前藤部遺跡】 |
| 第15集 | 【野馬久保遺跡】 | 第69集 | 【高山遺跡Ⅰ・Ⅱ】 |
| 第16集 | 【石並城跡】 | 第70集 | 【観音堂遺跡】 |
| 第17集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1991】(1~3月) | 第71集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1997】 |
| 第18集 | 【西曾根遺跡】 | 第72集 | 【市道遺跡Ⅱ】 |
| 第19集 | 【上芝宮遺跡】 | 第73集 | 【西一本柳Ⅲ・Ⅳ】 |
| 第20集 | 【下聖端遺跡Ⅲ】 | 第74集 | 【五里田遺跡】 |
| 第21集 | 【金井城跡Ⅲ】 | 第75集 | 【八風山遺跡群】 |
| 第22集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1991】 | 第76集 | 【南近津遺跡】 |
| 第23集 | 【南上中原・南下中原遺跡】 | 第77集 | 【番屋前遺跡Ⅲ】 |
| 第24集 | 【上聖端遺跡】 | 第78集 | 【蛇塚遺跡・蛇塚古墳】 |
| 第25集 | 【上久保田Ⅳ】 | 第79集 | 【四ツ塚遺跡Ⅰ】 |
| 第26集 | 【藤塚内墳群・塚Ⅱ】 | 第80集 | 【四ツ塚遺跡Ⅱ】 |
| 第27集 | 【上久保田Ⅲ】 | 第81集 | 【薬師寺遺跡】 |
| 第28集 | 【曾根新城Ⅴ】 | 第82集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1998】 |
| 第29集 | 【山法師遺跡B・筒村遺跡B】 | 第83集 | 【下聖端遺跡Ⅳ】 |
| 第30集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1992】 | 第84集 | 【標名平遺跡】 |
| 第31集 | 【山法師遺跡A・筒村遺跡A】 | 第85集 | 【柳堂遺跡】 |
| 第32集 | 【東ノ宮】 | 第86集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1999】 |
| 第33集 | 【聖原遺跡Ⅶ・下曾根遺跡Ⅰ・前藤部遺跡Ⅱ】 | 第87集 | 【河添遺跡】 |
| 第34集 | 【西一本柳遺跡Ⅰ】 | 第88集 | 【上芝宮遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ・下曾根遺跡Ⅱ~Ⅶ】 |
| 第35集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1993】 | 第89集 | 【川原端遺跡】 |
| 第36集 | 【蛇塚B遺跡Ⅲ】 | 第90集 | 【梨の木遺跡Ⅲ】 |
| 第37集 | 【西一本柳遺跡Ⅱ・中西ノ久保遺跡Ⅰ】 | 第91集 | 【西一本柳Ⅵ・中長塚Ⅱ・松の木遺跡ⅡⅠ】 |
| 第38集 | 【南下中原遺跡Ⅱ】 | 第92集 | 【辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ】 |
| 第39集 | 【中屋敷遺跡】 | 第93集 | 【入高山遺跡】 |
| 第40集 | 【寺畑遺跡】 | 第94集 | 【黒石遺跡】 |
| 第41集 | 【曾根新城Ⅰ~Ⅳ・Ⅵ他】 | 第95集 | 【市内遺跡発掘調査報告書2000】 |
| 第42集 | 【寄川】 | 第96集 | 【上木戸遺跡】 |
| 第43集 | 【権現平遺跡・池端遺跡】 | 第97集 | 【久福添遺跡】 |
| 第44集 | 【寺添遺跡】 | 第98集 | 【深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ】 |
| 第45集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1994】 | 第99集 | 【中道遺跡】 |
| 第46集 | 【瀨り遺跡】 | 第100集 | 【野沢館跡Ⅲ】 |
| 第47集 | 【上芝宮遺跡Ⅴ】 | 第101集 | 【深堀遺跡Ⅳ】 |
| 第48集 | 【池端城跡】 | 第102集 | 【門正坊遺跡Ⅳ】 |
| 第49集 | 【根ヶ井芝宮遺跡】 | 第103集 | 【聖原 一第1分冊一】 |
| 第50集 | 【塚塚遺跡Ⅲ】 | 第104集 | 【黒石遺跡Ⅱ】 |
| 第51集 | 【寺中遺跡・中屋敷遺跡Ⅱ】 | 第105集 | 【曾根城遺跡Ⅲ】 |
| 第52集 | 【坪の内遺跡】 | 第106集 | 【樋村遺跡Ⅱ】 |
| 第53集 | 【内正坊遺跡Ⅱ】 | 第107集 | 【聖原 一第2分冊一】 |
| 第54集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1995】 | 第108集 | 【市内遺跡発掘調査報告書2001】 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第109集

一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅶ

一長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡Ⅶ発掘調査報告書一

2003年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

☎ 0267-68-7321

印刷所 株式会社 中 信 社